千葉県文化財センター調査報告第423集

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XV

— 印西市向新田遺跡 —

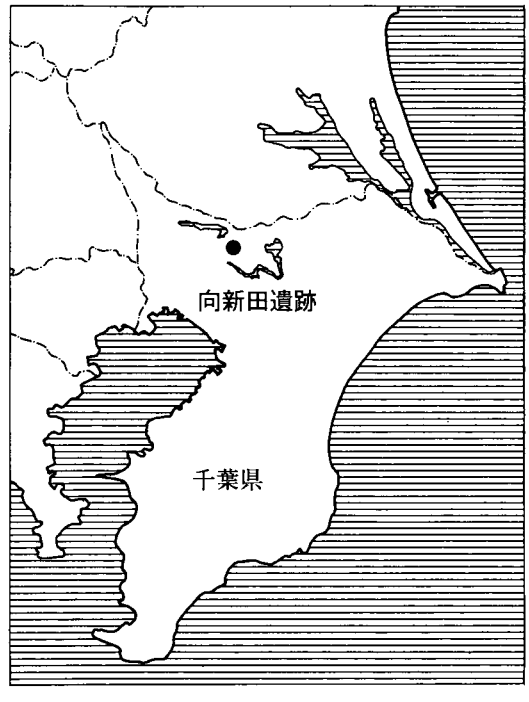
平成14年3月

都市基盤整備公団千葉地域支社
千葉ニュータウン事業本部

財団法人 千葉県文化財センター

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書　XV

— 印西市向新田遺跡 —



序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第423集として，都市基盤整備公団千葉地域支社の千葉北部地区新市街地造成整備事業関連に伴って実施した印西市向新田遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，古墳時代前期の遺構群や県内では例のない滑石製の垂飾品が検出され，この地域の古代史を知る上で貴重な成果が得られています。この報告書が，学術資料として，また埋蔵文化財保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係者の皆様や関係機関，また，発掘作業から整理作業まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年３月25日

財団法人千葉県文化財センター

理　事　長　　清　水　新　次

凡　　例

1　本書は，都市基盤整備公団による千葉北部地区新市街地造成整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書は，下記の遺跡を収録したものである。

向新田遺跡　　千葉県印西市向新田1,286-2ほか（遺跡コード　ＣＮ505）

向新田遺跡Ⅰ　　千葉県印西市武西1,264-2ほか　（遺跡コード　ＣＮ505Ⅰ）

向新田遺跡Ⅱ　　千葉県印西市武西1,227ほか　　（遺跡コード　ＣＮ505Ⅱ）

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は都市基盤整備公団（旧住宅・都市整備公団）千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は本文中に記載した。

5　本書の編集は副所長金丸誠が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，都市基盤整備公団千葉地域支社千葉ニュータウン事業本部及び印西市教育委員会のご指導，ご協力を得た。

7　本書で使用した地形図は以下のとおりである。

第３・４図　国土地理院発行　1/25,000地形図「白井」（NI-54-19-14-3）・「小林」（NI-54-19-14-1）
平成４年発行

第１・２図　千葉県企業庁千葉ニュータウン事業部（当時）昭和50年発行
千葉ニュータウン平面図45・46-1

8　周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による昭和58年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

10　竪穴住居跡計測表の床面積は壁溝の有無に関わらず，壁の下場で計測し，柱内面積は主柱穴の中心部４点で計測した。

11　挿図に使用したスクリーントーンは下記のとおりである。

遺構

火床部

山砂

焼土

遺物

赤彩

黒色処理

本文目次

序文
凡例
第1章　はじめに……1
　第1節　調査の概要……1
　　1　調査の経緯と経過……1
　　2　調査の方法と概要……2
　第2節　遺跡の位置と環境……5
　　1　遺跡の位置……5
　　2　遺跡の歴史的環境……5
第2章　検出した遺構と遺物……13
　第1節　旧石器時代……13
　　1　第1ブロック……13
　　2　遺構外出土の遺物……13
　　3　小結……13
　第2節　縄文時代……17
　　1　陥し穴……17
　　2　石鏃製作跡……17
　　3　遺構外出土の遺物……18
　　4　小結……25
　第3節　古墳時代前期……37
　　1　遺構……37
　　(1) 竪穴住居跡……37
　　(2) 建物跡……100
　　(3) 土坑……104
　　2　遺物……107
　　(1) 竪穴住居跡……107
　　(2) 建物跡……193
　　(3) 土坑……193
　　(4) グリッド等出土の遺物……195
　第4節　奈良時代……199
　　1　遺構……199
　　(1) 竪穴住居跡……199
　　2　遺物……201
　　(1) 竪穴住居跡……201

(2) グリッド等出土の遺物 ……203
第5節　その他 ……204
1　土坑 ……204
2　土坑列 ……206
3　溝 ……207
第3章　まとめ ……233
第1節　出土遺物について ……233
第2節　竪穴住居跡の形態について ……234
第3節　時期ごとの集落のあり方について ……235
第4節　周辺遺跡のあり方について ……236
報告書抄録

挿図目次

第1図　年度別調査区域（1：2,000） …… 3
第2図　上層確認トレンチ及び下層確認グリッド配置図 …… 4
第3図　旧石器時代・縄文時代周辺遺跡位置図 …… 6
第4図　遺跡の位置と周辺地形図 …… 7
第5図　遺構配置図 ……11・12
第6図　第1ブロック器種別遺物分布図 ……14
第7図　第1ブロック石材別遺物分布図 ……15
第8図　第1ブロック出土遺物実測図 ……16
第9図　117号陥し穴平面図・セクション図 ……19
第10図　石鏃製作跡器種別遺物分布図 ……20
第11図　石鏃製作跡石材別遺物分布図 ……21
第12図　石鏃製作跡出土遺物実測図(1) ……22
第13図　石鏃製作跡出土遺物実測図(2) ……23
第14図　石鏃製作跡出土遺物実測図(3) ……24
第15図　グリッド出土遺物実測図(1) ……26
第16図　グリッド出土遺物実測図(2) ……27
第17図　グリッド出土遺物実測図(3) ……28
第18図　グリッド出土遺物実測図(4) ……29
第19図　グリッド出土遺物実測図(5) ……30
第20図　002･004号竪穴住居跡 ……38
第21図　005・006号竪穴住居跡 ……39
第22図　007・008号竪穴住居跡 ……41
第23図　009・013号竪穴住居跡 ……43
第24図　014・016号竪穴住居跡 ……44
第25図　017・018号竪穴住居跡 ……45
第26図　019・020号竪穴住居跡 ……47
第27図　021・022・023号竪穴住居跡 ……49
第28図　024・025号竪穴住居跡 ……51
第29図　026号竪穴住居跡 ……52
第30図　027号竪穴住居跡 ……54
第31図　028・029号竪穴住居跡 ……55
第32図　030・031号竪穴住居跡 ……57
第33図　032・033号竪穴住居跡 ……59
第34図　034・035・036号竪穴住居跡 ……61
第35図　039・040号竪穴住居跡 ……63
第36図　042・043・044号竪穴住居跡 ……65
第37図　045・046号竪穴住居跡 ……67
第38図　047号竪穴住居跡 ……68
第39図　048・049号竪穴住居跡 ……69
第40図　050号竪穴住居跡 ……71
第41図　052・053・054・055号竪穴住居跡 ……73
第42図　056・057・058号竪穴住居跡 ……75

第43図　059・061・062号竪穴住居跡 ……77
第44図　064・065号竪穴住居跡 ……79
第45図　066・067・068・069号竪穴住居跡 ……81
第46図　070・071号竪穴住居跡 ……83
第47図　072・076号竪穴住居跡 ……85
第48図　077・086・087・088号竪穴住居跡 ……87
第49図　089・091号竪穴住居跡 ……89
第50図　092・093号竪穴住居跡 ……91
第51図　101A·B·103·104·105号竪穴住居跡 ……93
第52図　106・108・109号竪穴住居跡 ……95
第53図　110・112号竪穴住居跡 ……97
第54図　119・120・121号竪穴住居跡 ……98
第55図　123号竪穴住居跡 ……99
第56図　003·010·011·015・041号建物跡 ……101
第57図　051・075号建物跡 ……102
第58図　080号建物跡 ……103
第59図　113・122号土坑 ……105
第60図　073・074号竪穴住居跡 ……200
第61図　012・063・082・083・084・085号土坑 ……205
第62図　002·004·005号竪穴住居跡出土遺物 …108
第63図　005·006·007号竪穴住居跡出土遺物 …110
第64図　007・008号竪穴住居跡出土遺物 ……112
第65図　009·014·016号竪穴住居跡出土遺物 …114
第66図　016・017号竪穴住居跡出土遺物 ……116
第67図　018号竪穴住居跡出土遺物 ……118
第68図　018·019·020号竪穴住居跡出土遺物 …120
第69図　020·021·022号竪穴住居跡出土遺物 …122
第70図　023・024号竪穴住居跡出土遺物 ……124
第71図　024·025·026号竪穴住居跡出土遺物 …126
第72図　026号竪穴住居跡出土遺物 ……128
第73図　026号竪穴住居跡出土遺物 ……130
第74図　027号竪穴住居跡出土遺物 ……131
第75図　028·031·032号竪穴住居跡出土遺物 …134
第76図　032·034·035号竪穴住居跡出土遺物 …136
第77図　036・039号竪穴住居跡出土遺物 ……138
第78図　039号竪穴住居跡出土遺物 ……140
第79図　040号竪穴住居跡出土遺物 ……142
第80図　042·043·044号竪穴住居跡出土遺物 …144
第81図　045号竪穴住居跡出土遺物 ……146
第82図　046号竪穴住居跡出土遺物 ……148
第83図　046・047号竪穴住居跡出土遺物 ……150
第84図　047号竪穴住居跡出土遺物 ……152
第85図　048·049号竪穴住居跡出土遺物 ……156
第86図　050号竪穴住居跡出土遺物 ……158
第87図　050·052·053号竪穴住居跡出土遺物 …160
第88図　054・055号竪穴住居跡出土遺物 ……164
第89図　055・056・057・058号竪穴住居跡出土遺物 ……166
第90図　058・059・061・062号竪穴住居跡出土遺物 ……168
第91図　062・064・065・066号竪穴住居跡出土遺物 ……170
第92図　068・069・070・071号竪穴住居跡出土遺物 ……172
第93図　071·072·076号竪穴住居跡出土遺物 …174
第94図　076・077・086・087・088号竪穴住居跡出土遺物 ……176
第95図　089・091号竪穴住居跡出土遺物 ……180
第96図　092・093・101A・101B・103号竪穴住居跡出土遺物 ……182
第97図　104・105号竪穴住居跡出土遺物 ……184
第98図　105·106·108号竪穴住居跡出土遺物 …186
第99図　109·110·112号竪穴住居跡出土遺物 …188
第100図　119・120・121・123号竪穴住居跡出土遺物 ……192
第101図　123号竪穴住居跡出土遺物 ……194
第102図　041号建物跡，113・122号土坑出土遺物 ……196
第103図　グリッド等出土の遺物 ……198
第104図　073・074号竪穴住居跡出土遺物 ……202
第105図　グリッド等出土の遺物 ……203

図版目次

図版1　遺跡周辺航空写真
図版2　遺跡近景（西から），第1ブロック遺物出土状況，第1ブロック土層断面
図版3　石鏃製作跡，117号陥し穴
図版4　039竪穴住居跡・051建物跡全景，007・008・014・017号竪穴住居跡全景，019・020・025号竪穴住居跡全景
図版5　026・027号竪穴住居跡全景，050・053・054・076号竪穴住居跡全景，058・061・065・066・068号竪穴住居跡全景
図版6　002号竪穴住居跡全景，004号竪穴住居跡全景，004号竪穴住居跡遺物出土状況
図版7　005号竪穴住居跡全景，007号竪穴住居跡全景，007号竪穴住居跡遺物出土状況
図版8　008号竪穴住居跡全景,009号竪穴住居跡遺物出土状況,014号竪穴住居跡全景
図版9　016号竪穴住居跡全景，016号竪穴住居跡遺物出土状況,017号竪穴住居跡全景
図版10　018号竪穴住居跡全景,018号竪穴住居跡遺物出土状況,019号竪穴住居跡全景
図版11　020号竪穴住居跡全景,021号竪穴住居跡全景，021号竪穴住居跡遺物出土状況
図版12　022号竪穴住居跡全景,023号竪穴住居跡全景，023号竪穴住居跡遺物出土状況
図版13　024号竪穴住居跡全景，024号竪穴住居跡遺物出土状況，025号竪穴住居跡全景
図版14　026号竪穴住居跡全景，027号竪穴住居跡全景，028号竪穴住居跡遺物出土状況
図版15　028号竪穴住居跡遺物出土状況，028号竪穴住居跡全景，022・029・030・034号竪穴住居跡全景
図版16　031号竪穴住居跡全景，031号竪穴住居跡遺物出土状況，032号竪穴住居跡遺物出土状況，032号竪穴住居跡全景
図版17　033号竪穴住居跡全景，035号竪穴住居跡全景，036号竪穴住居跡全景
図版18　039号竪穴住居跡全景，039号竪穴住居跡遺物出土状況，039号竪穴住居跡遺物出土状況
図版19　040号竪穴住居跡全景，040号竪穴住居跡遺物出土状況，040号竪穴住居跡遺物出土状況
図版20　043号竪穴住居跡全景，043号竪穴住居跡遺物出土状況，044号竪穴住居跡遺物出土状況，044号竪穴住居跡全景
図版21　045号竪穴住居跡全景，045号竪穴住居跡遺物出土状況，045号竪穴住居跡遺物出土状況
図版22　046号竪穴住居跡全景，046号竪穴住居跡遺物出土状況，047号竪穴住居跡全景
図版23　048号竪穴住居跡全景，048号竪穴住居跡遺物出土状況，049号竪穴住居跡遺物出土状況，049号竪穴住居跡全景
図版24　050号竪穴住居跡全景，050号竪穴住居跡遺物出土状況，052号竪穴住居跡全景
図版25　053号竪穴住居跡全景，054号竪穴住居跡全景，054号竪穴住居跡遺物出土状況
図版26　055号竪穴住居跡全景，055号竪穴住居跡遺物出土状況，056号竪穴住居跡全景
図版27　057・058号竪穴住居跡全景，058号竪穴住居跡遺物出土状況，059号竪穴住居跡全景
図版28　061号竪穴住居跡全景，062号竪穴住居跡遺物出土状況，062号竪穴住居跡全景
図版29　064号竪穴住居跡全景，065号竪穴住居跡遺物出土状況，065号竪穴住居跡全景
図版30　066・068号竪穴住居跡全景，066号竪穴住居跡遺物出土状況，068号竪穴住居跡遺物出土状況，067号竪穴住居跡全景

図版31　069号竪穴住居跡全景，070号竪穴住居跡全景，071号竪穴住居跡遺物出土状況
図版32　071号竪穴住居跡遺物出土状況，072号竪穴住居跡遺物出土状況，071号竪穴住居跡全景，072号竪穴住居跡全景
図版33　076号竪穴住居跡全景，076号竪穴住居跡遺物出土状況，077号竪穴住居跡遺物出土状況，077号竪穴住居跡全景
図版34　087号竪穴住居跡全景，086号竪穴住居跡全景，088号竪穴住居跡全景，088号竪穴住居跡遺物出土状況
図版35　089号竪穴住居跡全景，091号竪穴住居跡全景，091号竪穴住居跡遺物出土状況
図版36　092号竪穴住居跡全景，093号竪穴住居跡全景，101A・101B号竪穴住居跡全景
図版37　103号竪穴住居跡全景，104号竪穴住居跡全景，104号竪穴住居跡遺物出土状況
図版38　105号竪穴住居跡全景，105号竪穴住居跡遺物出土状況，106号竪穴住居跡全景
図版39　108号竪穴住居跡全景，109号竪穴住居跡全景，109号竪穴住居跡遺物出土状況
図版40　110号竪穴住居跡全景，112号竪穴住居跡全景，112号竪穴住居跡遺物出土状況
図版41　119号竪穴住居跡全景，120号竪穴住居跡全景，121号竪穴住居跡全景
図版42　123号竪穴住居跡全景，041号建物跡全景，041号建物跡遺物出土状況
図版43　051号建物跡全景，075号建物跡全景，080号建物跡全景
図版44　122号土坑全景，122号土坑遺物出土状況，073号竪穴住居跡全景
図版45　074号竪穴住居跡全景，074号竪穴住居跡遺物出土状況，074号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況
図版46　003・010・011・015号建物跡・012号土坑全景，063号土坑全景，082号土坑全景
図版47　083号土坑全景，084号土坑全景，085号土坑全景
図版48　094・095・098・100号土坑列及び096・097・099号溝状遺構跡全景，098号土坑列及び099A・099B号溝状遺構全景，107号溝状遺構全景，111B号溝状遺構全景
図版49　旧石器時代出土遺物
図版50　石鏃製作跡出土遺物(1)
図版51　石鏃製作跡出土遺物(2)
図版52　グリッド出土遺物(1)
図版53　グリッド出土遺物(2)
図版54　グリッド出土遺物(3)
図版55　グリッド出土遺物(4)
図版56　002・004・005・007号竪穴住居跡出土遺物
図版57　007～009号竪穴住居跡出土遺物
図版58　009・016・018・019号竪穴住居跡出土遺物
図版59　019～021・023号竪穴住居跡出土遺物
図版60　023・024号竪穴住居跡出土遺物
図版61　026号竪穴住居跡出土遺物
図版62　026～028号竪穴住居跡出土遺物
図版63　028・031・032・034・035号竪穴住居跡出土遺物
図版64　036・039号竪穴住居跡出土遺物
図版65　039・040号竪穴住居跡出土遺物
図版66　040・042・043号竪穴住居跡出土遺物
図版67　044号竪穴住居跡出土遺物
図版68　045号竪穴住居跡出土遺物
図版69　045・046号竪穴住居跡出土遺物
図版70　046～048号竪穴住居跡出土遺物
図版71　049・050・053・054号竪穴住居跡出土遺物
図版72　055・056・058・062・065・066号竪穴住居跡出土遺物
図版73　066・068・071・076号竪穴住居跡出土遺物
図版74　076・077・088・089・091号竪穴住居跡出土遺物
図版75　091・093・101A・101B・104・105号竪穴住居跡出土遺物
図版76　105・108～110・112・119・123号竪穴

住居跡出土遺物
図版77　123号竪穴住居跡，041号建物跡，113号土坑，グリッド，073・074号竪穴住居跡出土遺物
図版78　土製品
図版79　石製品・鉄製品

表　目　次

第１表　第１ブロック遺物属性表 ……31
第２表　第１ブロック遺物観察表 ……31
第３表　石鏃製作跡遺物属性表 ……31
第４表　石鏃製作跡遺物観察表(1) ……32
第５表　石鏃製作跡遺物観察表(2) ……33
第６表　石鏃製作跡遺物観察表(3) ……34
第７表　石鏃製作跡遺物観察表(4) ……35
第８表　グリッド出土遺物観察表 ……36
第９表　古墳時代以降石製品観察表 ……198
第10表　竪穴住居跡計測表 ……209
第11表　古墳時代前期竪穴住居跡出土土器観察表 ……212
第12表　古墳時代前期建物跡及び土坑出土土器観察表 ……230
第13表　古墳時代前期グリッド等出土土器観察表 ……231
第14表　奈良時代竪穴住居跡出土土器観察表 …232

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　調査の経緯と経過

向新田遺跡，向新田遺跡Ⅰ及び向新田遺跡Ⅱ（以後、本書文中においては3地点をまとめて向新田遺跡と呼称する。）は都市基盤整備公団の委託により，財団法人千葉県文化財センターが昭和58年度と平成5年度の2か年間で，3次にわたって発掘調査を行った（第1図）。

遺跡名は昭和58年度の調査分については向新田遺跡（CN505），平成5年度の調査分については開始時期と調査の手順が若干異なることから，向新田遺跡Ⅰ（CN505Ⅰ）と向新田遺跡Ⅱ（CN505Ⅱ）にそれぞれ分けているが，隣接した同一遺跡である。

向新田遺跡Ⅰについては昭和58年度の調査結果から，上層に関しては全域を本調査対象とした。向新田遺跡Ⅱについては向新田遺跡Ⅰの遺構分布状況から，上層の確認調査を実施することとした。

全体の調査対象面積は24,310㎡である。そのうち上層の本調査面積は19,170㎡で，下層の本調査面積は116㎡である。

向新田遺跡の発掘調査開始から報告書刊行に至るまでの発掘調査・整理概要及び各年度の調査担当者等は表1・表2に記したとおりである。

表1　向新田遺跡発掘調査概要

調査年度	遺跡名	発掘調査内容	期間	所長 (＊班長)	調査担当者
昭和58年	向新田遺跡	確認調査　上層　720/10,100㎡	6/1～6/20	清藤一順＊	宮　重行
		下層　525/10,100㎡	11/1～3/31		及川淳一
		本調査　上層　10,100㎡			宮　重行
		下層　116㎡			糸川道行
平成5年	向新田遺跡Ⅰ	確認調査　下層　248/6,210㎡	9/1～1/17	田坂　浩	及川淳一
		本調査　上層　6,210㎡			岡田誠造
					井上哲朗
					小笠原永隆
平成5年	向新田遺跡Ⅱ	確認調査　上層　800/8,000㎡	9/20～1/20	田坂　浩	及川淳一
		下層　320/8,000㎡			岡田誠造
		本調査　上層　2,860㎡			井上哲朗
					小笠原永隆

表２　向新田遺跡整理作業概要

調査年度	遺　跡　名	整理作業内容	期　　間	所　　長 （＊班長）	調査担当者
平成３年	向新田遺跡	実測・トレース	6／1～3／31	上野純司＊	上野純司 大石理子
平成５年	向新田遺跡Ⅰ・Ⅱ	水洗・注記の一部まで	10/13～2／28	田坂　浩	
平成９年	向新田遺跡Ⅰ・Ⅱ	水洗・注記から復元まで	7／1～8／31	折原　繁	香取正彦
平成11年	向新田遺跡	挿図・図版作成から原稿執筆の一部まで	1／1～3／31	折原　繁	萩原恭一
平成12年	向新田遺跡 向新田遺跡Ⅰ・Ⅱ	原稿執筆まで	4／1～3／31	石田廣美	金丸　誠 榊原弘二 落合章雄
平成13年	向新田遺跡 向新田遺跡Ⅰ・Ⅱ	報告書刊行	4／1～3／31	石田廣美	

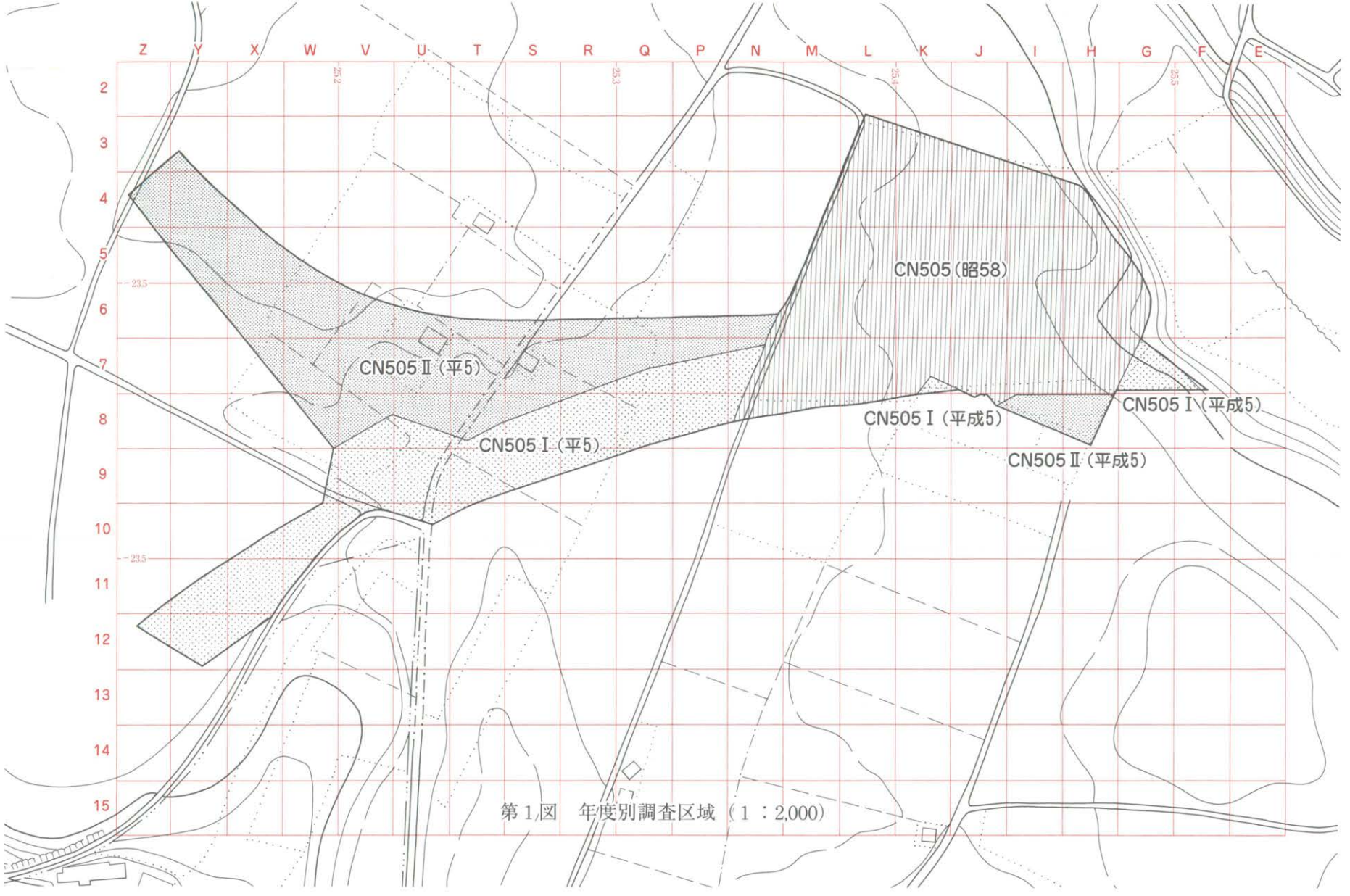
２　調査の方法と概要

発掘調査に先立って，調査対象地域全体を覆うように公共座標に合わせた20m×20mの大グリッドを設定した。大グリッドの中は100個の2m×2mの小グリッドに分割した。大グリッドは東西方向を東側から西側に向かってＡ，Ｂ，Ｃ，‥‥Ｙ，Ｚで，南北方向を北側から南側に向かって1，2，3，‥‥13までの順序で呼称した。ただし，「Ｏ」は「０」と混同するおそれがあるため，それを削除して，その分を詰めて設定している。東西方向の呼称は通常東側から西側に向って付けられるが，昭和58年度の調査開始時点で，今後西側での調査が予想されたので，東側から付けることにした。小グリッドは北西隅のグリッドを起点として，東側に向かって00，01，02，03，‥‥09とし，南側に向かって10，20，30，‥‥90という順序で呼称した（第１図）。

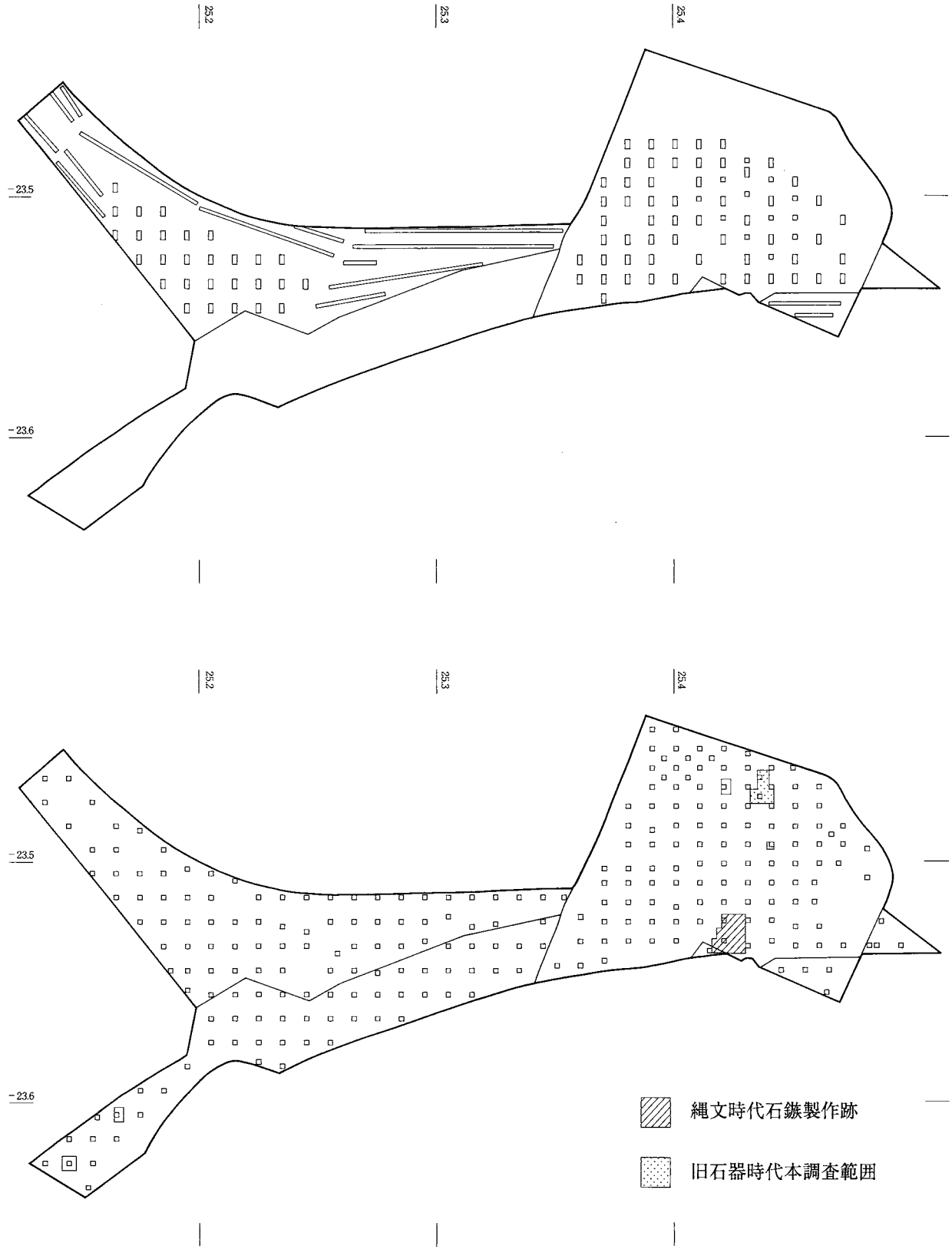
昭和58年度の調査は，当初対象面積7,200㎡について上層の確認調査を実施した。その結果，調査対象地域全域に遺構が存在し，更にその北側にも遺構が広がることが想定されたため，対象面積を10,100㎡に拡大し，拡大した範囲については上層の確認調査を省略し，全域を本調査の対象とした。下層の確認調査は上層の確認調査終了後と上層の本調査終了後の２回に分けて実施した。その結果，２か所で遺物を検出したが，１か所については遺物の広がりがみられなかったことから確認調査で終了し，残る１か所の106㎡について本調査を実施した。

平成５年度のⅠの調査は，昭和58年度の調査の成果から，当初から全域の6,210㎡について上層の本調査を実施することとした。その後下層の確認調査を実施し，２か所で遺物を検出したので，その周囲を拡張したが，遺物の広がりがみられなかったことから確認調査で終了した。

平成５年度のⅡの調査はⅠの調査の約１か月後に開始したが，Ⅰの表土除去作業による遺構の検出状況



第1図　年度別調査区域（1：2,000）



第２図　上層確認トレンチ及び下層確認グリッド配置図

の結果，予想していたほど遺構の密度が濃くなかったことから，対象面積の8,000㎡について上層の確認調査を実施した。その結果，2,860㎡について本調査を実施した。その後下層の確認調査を実施したが，遺構・遺物が検出できなかったことから確認調査で終了した（第２図）。

発掘調査の結果，旧石器時代の遺構としては遺物集中地点１か所，縄文時代の遺構としては陥し穴１基と石鏃製作跡１か所，古墳時代前期の遺構としては竪穴住居跡83軒，建物跡５棟と土坑２基，奈良時代の遺構としては竪穴住居跡２軒，その他の遺構としては土坑６基，土坑列５条，溝14条を検出し，調査することができた（第５図）。

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置

向新田遺跡は，北総開発鉄道「千葉ニュータウン中央駅」の南約１kmに位置し，印旛沼の西端に注込む神崎川の支流戸神川左岸の標高22～25mの南北に長い台地上に展開する遺跡である。

遺跡は南側で神崎川の開析する大きな谷に面し，東西はその谷に向かう小支谷に挟まれた，南北に長い遺跡である。今回の調査地点は台地の北端部に当たり，標高は約23mである。

２　遺跡の歴史的環境

印旛沼に流入する新川（旧花見川），神崎川流域の台地は，その支流により複雑に開析され大小さまざまな規模の舌状台地を形成する。向新田遺跡は安養寺および武西付近から北に向かって進入する小支谷に挟まれた舌状台地の付け根に位置する。

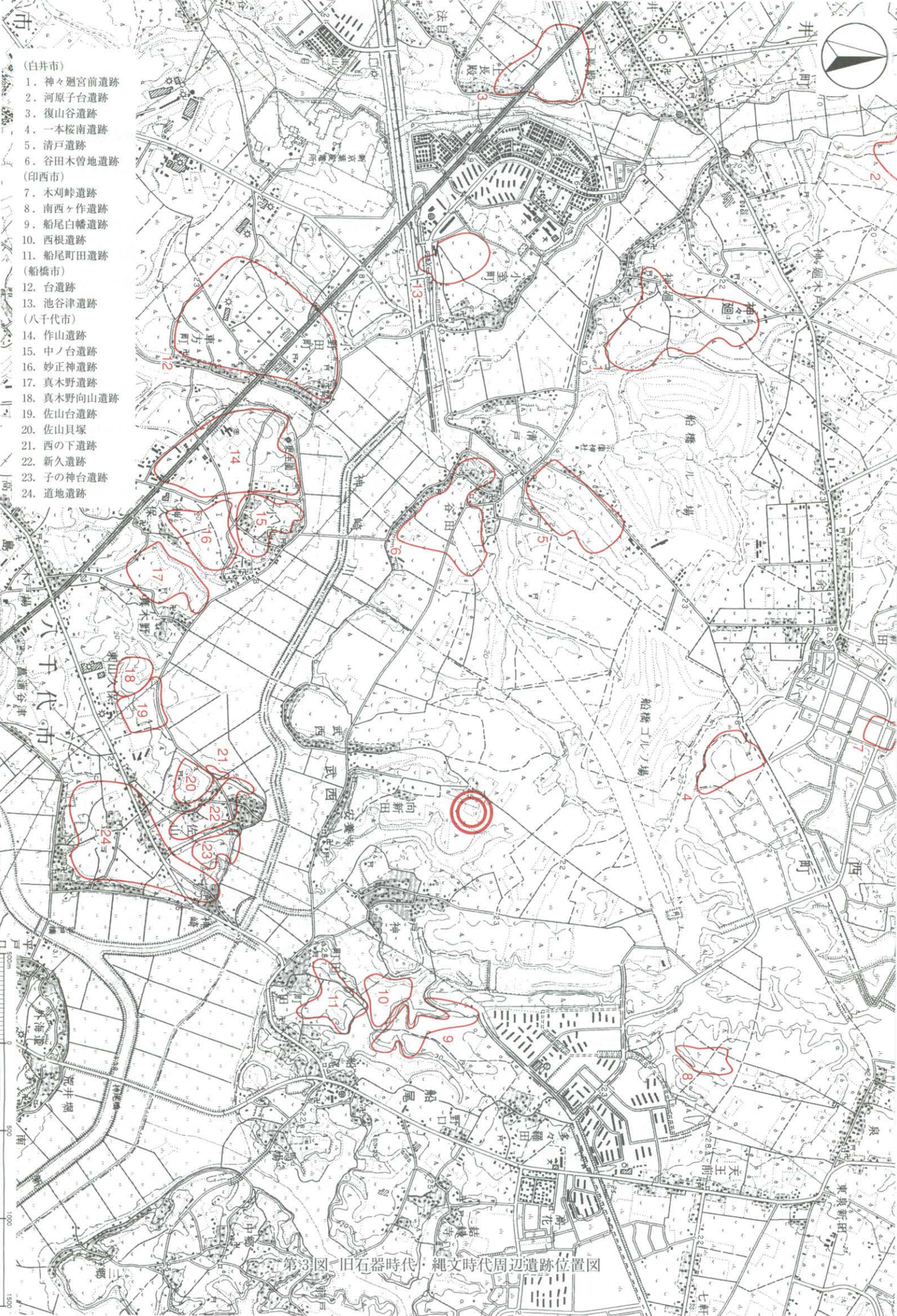
向新田遺跡の周辺には遺跡が数多く所在し，上記の新川，神崎川といった水系に根付いた立地環境が強く影響していることが窺える。

旧石器時代の遺跡では向新田遺跡の東側，神崎川に流入する戸神川流域の船尾白幡遺跡(9)，南西ヶ作遺跡(8)，一本桜南遺跡(4)が所在する。このうち一本桜南遺跡については小支谷に挟まれた舌状台地に所在し，Ⅸ層からⅢ層まで複数の文化層が確認されている。この近辺は手賀沼水系の小河川が北方より進入しており，手賀沼水系と印旛沼水系との分水嶺となる。小型尖頭器・細石器を検出した木刈峠遺跡(7)はこの手賀沼水系に属する。向新田遺跡の西側，白井市谷田，清戸付近の台地上には谷田木曽地遺跡(6)，清戸遺跡(5)が所在し，単独出土が多いがⅨ層からⅢ層にわたり遺物が確認されている。神崎川が急激に流路を変える白井市復山谷付近には，ナイフ形石器を伴う石器群，尖頭器石器群が検出した復山谷遺跡(3)が位置する。

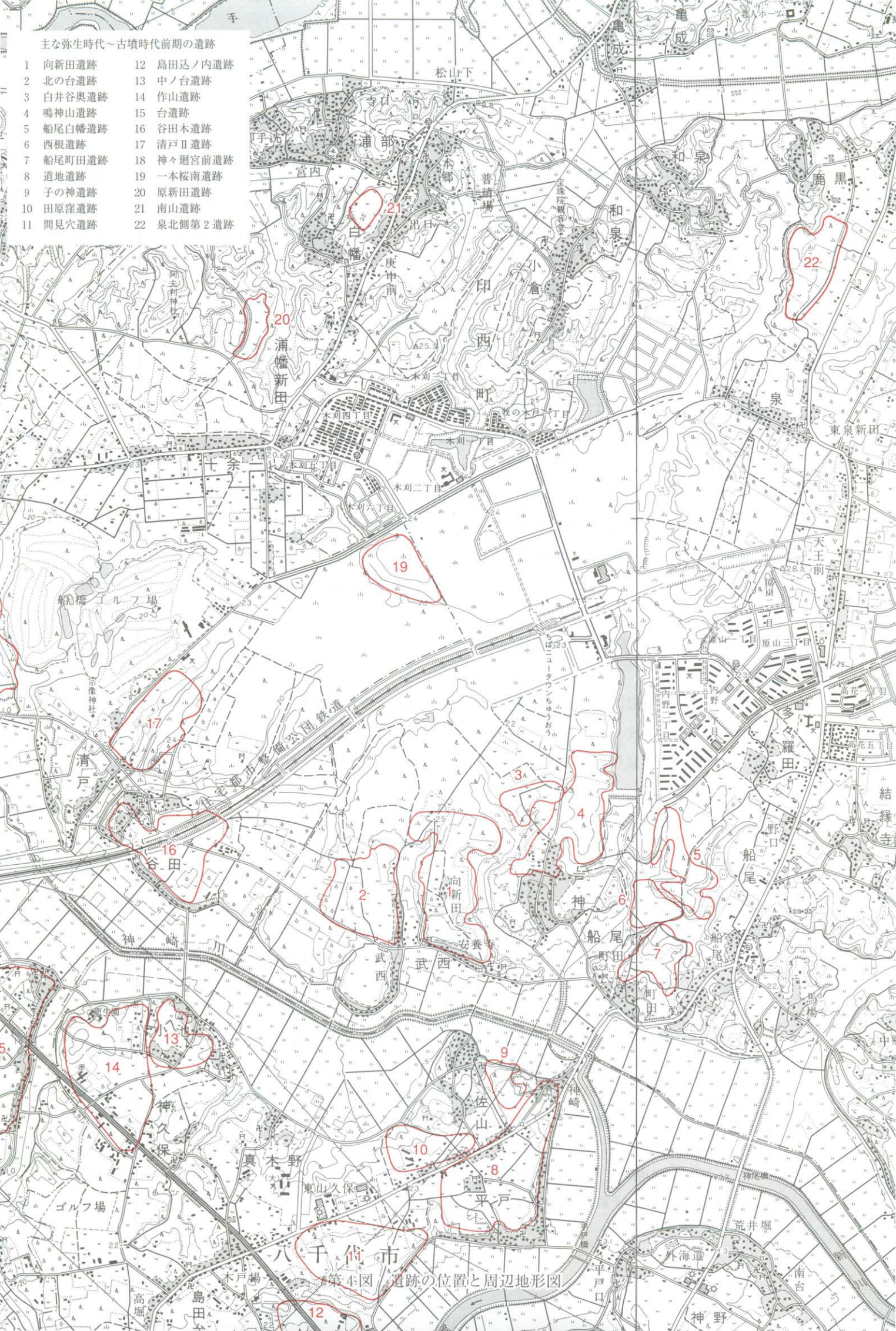
縄文時代の遺跡は神崎川流域に面した台地上に数多くみられ，向新田遺跡の南側，八千代市の台地には作山遺跡(14)を始め中期から晩期を中心とした遺跡が所在する。唯一，道地遺跡(24)では早期条痕文系土器の包含層及び貝塚が検出している。また東側に位置する戸神川流域の低地には西根遺跡(10)が所在し，平成11年・12年に行われた発掘調査により後期の遺物包含層が確認された。

神崎川流域に面した台地上には，縄文時代のなかでも後期を中心とした遺跡が多くみられるが，神崎川に流入する小河川を遡った台地内陸部では，早期・前期を中心とした遺跡が認められる。戸神川上流部の南西ヶ作遺跡，一本桜南遺跡では早期撚糸文系・条痕文系土器が出土している。なかでも一本桜南遺跡では，石器石材や器種の類似した石鏃製作跡が検出され，向新田遺跡との関連性が窺える。

向新田遺跡は古墳時代前期の集落を中心とする遺跡である。印旛沼西端に流入する神崎川及びその南側



第3図　旧石器時代・縄文時代周辺遺跡位置図



第４図　遺跡の位置と周辺地形図

を流れる新川流域には，第4図に示したように弥生時代後期から古墳時代前期にかけての多くの遺跡が分布している。このなかでも本遺跡との関係から目を惹くのは，東に1.2kmほど離れた地点に位置する船尾町田遺跡である。古墳時代前期の竪穴住居跡が21軒検出されている。量的には多くはないがS字状口縁や北陸系の土器とされている受口口縁の甕も検出されている。また，現在の地形図では造成による改変が著しいためにわからないが，船尾町田遺跡の面する西側の細い谷は北側に細長く延びており，その最奥部北岸の台地上に位置しているのが一本桜南遺跡である。古墳時代前期の竪穴住居跡が60軒検出され，そのなかの041住居で検出された赤彩を施した小型壺が注目される。この小型壷の中からはあたかも保管されていたかのような状況で砂鉄が検出されている。

本遺跡とは立地する水系を異にするが，利根川水系側に目を向けると泉北側第2遺跡が注目すべき遺跡として挙げられる。この遺跡は古墳時代前期の遺構として竪穴住居跡70軒，掘立柱建物1棟が確認されている。古墳時代前期の集落としてはきわめて大型の部類に入る遺跡である。

以上の大形集落遺跡のほかには，本遺跡の小支谷を挟んだ西側にある北ノ台遺跡では古墳時代前期の竪穴住居跡が2軒検出されている。同じく小支谷を挟んだ東側にある鳴神山遺跡では，台地東側の戸神川に面した位置に弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡が23軒検出されている。このなかで古墳時代前期の竪穴住居跡からは，本遺跡からも出土している異形器台が出土している。船尾白幡遺跡，船尾町田遺跡や鳴神山遺跡に囲まれた低地に位置する西根遺跡では，古墳時代前期の水路跡とその中から木製鋤が出土している。

対岸の台地上にも道地遺跡，子の神遺跡，間見穴遺跡，島田込ノ内遺跡，作山遺跡などの古墳時代前期の集落が知られている。

このように本遺跡の周辺には古墳時代前期の集落が多数確認されており、当該地域の古墳時代後期の集落量に比べてその量はあまりにも多い。古墳時代前期の集落遺跡と古墳時代後期以降の集落遺跡とでは、その分布において大きな偏りが見られることは従来から知られているが、当該地域はその偏りがきわめて大きい地域といえる。

〈参考文献〉

弥生時代～古墳時代前期

1　向新田遺跡　酒井弘志　千葉県印西市向新田遺跡－印西市道00-114号線埋蔵文化財調査委託－　財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第116集　印西市　財団法人印旛郡市文化財センター　2000

2　北の台遺跡　中山吉秀他　「8. 北の台遺跡（CN503）」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅲ』　財団法人千葉県都市公社　1975

3　白井谷奥遺跡　萩原恭一　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告ⅩⅣ－印西市鳴神山遺跡Ⅲ・白井谷奥遺跡－』　千葉県文化財センター調査報告第392集　財団法人千葉県文化財センター　2000

鳴田浩司他　『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡－』　千葉県文化財センター調査報告第358集　財団法人千葉県文化財センター　1999

石田清彦　『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－印西市白井谷奥遺跡－』　千葉県文化財センター調査報告第369集　財団法人千葉県文化財センター　1999

4　鳴神山遺跡　萩原恭一　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告ⅩⅣ－印西市鳴神山遺跡Ⅲ・白井谷奥遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第392集　財団法人千葉県文化財センター　2000
鳴田浩司他　『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡－』　千葉県文化財センター調査報告第358集　財団法人千葉県文化財センター　1999

5　船尾白幡遺跡　野村幸希他　「7 船尾白幡遺跡（CN705)」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅴ』　財団法人千葉県都市公社　1975
現在整理作業中

6　西根遺跡　現在整理作業中

7　船尾町田遺跡　清藤一順他　「船尾町田遺跡」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅷ』　財団法人千葉県文化財センター　1984

8　道地遺跡　林勝則　『千葉県八千代市平戸道地遺跡－農業道路敷設に伴う埋蔵文化財調査報告書』　八千代市教育委員会　1986
『八千代市埋蔵文化財調査年報－平成6年度版－』　八千代市教育委員会　1996

9　子の神台遺跡　渋谷貢　『東京電力送電線鉄塔建設工事に伴う発掘調査報告書』　八千代市遺跡調査会，船橋市遺跡調査会　1980
千葉県八千代市北部遺跡群緊急発掘調査報告書－昭和57年度の調査の概要－　八千代市教育委員会　1983

10　田原窪遺跡　『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告昭和62年度』　八千代市教育委員会　1998
『平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』　八千代市教育委員会　1995
『八千代市埋蔵文化財調査年報－平成6年度版－』　八千代市教育委員会　1996

11　間見穴遺跡　渋谷貢　『東京電力送電線鉄塔建設工事に伴う発掘調査報告書』　八千代市遺跡調査会，船橋市遺跡調査会　1980
『八千代市市内遺跡群発掘調査報告平成2年度』　八千代市教育委員会　1991
現在整理作業中

12　島田込ノ内遺跡　蔀淳一　「八千代市島田込ノ内遺跡」『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1』　千葉県文化財センター調査報告第328集　財団法人千葉県文化財センター　1999

13　中ノ台遺跡　『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他』　千葉県文化財センター調査報告第245集
財団法人千葉県文化財センター　1994

14　作山遺跡　『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)　－東葛飾・印旛地区（改訂版）－』　千葉県教育委員会　1997

15　台遺跡　『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)　－東葛飾・印旛地区（改訂版）－』　千葉県教育委員会　1997

16　谷田木曽地遺跡　清藤一順他　「谷田木曽地遺跡」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅷ』
財団法人千葉県文化財センター　1984

17　清戸Ⅱ遺跡　野村幸希他　「清戸遺跡（CN410)」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅴ』
財団法人千葉県都市公社　1975

18　神々廻宮前遺跡　末武直則　『神々廻遺跡群』　財団法人印旛郡市文化財センター　1988
『町内遺跡発掘調査報告書－駒形神社東遺跡－』　白井町教育委員会　1995

19　一本桜南遺跡　雨宮龍太郎他　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告ⅩⅡ－白井町一本桜南遺跡－』

千葉県文化財センター調査報告第318集　財団法人千葉県文化財センター　1999

20　原新田遺跡　『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)　－東葛飾・印旛地区（改訂版）－』　千葉県教育委員会　1997

21　南山遺跡　森耕一他　『千葉県印旛郡印西町南山遺跡調査報告』　印西町教育委員会　南山遺跡調査会　1982

22　泉北側第２遺跡　高橋博文　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ｘ　泉北側第２遺跡（ＣＮ613）』　千葉県文化財センター調査報告第190集　財団法人千葉県文化財センター　1991

Y X W V U T S R Q P N M L K J I H G F
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
049 077 088 087 055 057 067 086
084 083 082 076 048 080 054 058 050 056 066 068 071 079
053 059 061 047 052 062 065 085 064 046 027 069 032 070 072
036 033 063 035 034 026 028 031 051 024 029 030 041 073 078 074
025 022 021 023 039 045 037 019 020 038 016 018 075
014 009 013 010 012 008 011 017 015 006 044 002 003
101B 004 043 040 101A 007 005 089 042
090-1 090-3 090-2
112 099A 099B 111B 117 099 100 097 098 094 092
119 123 120 122 108 091 121 095 096 093
109 113 110 111A 107 103 105 104 106

第５図　遺構配置図

第２章　発見された遺構と遺物

第１節　旧石器時代

１．第１ブロック（第６～８図，第１・２表）

向新田遺跡では旧石器時代遺物集中地点が１か所検出した。遺物出土点数は総計17点を数え，分布範囲は径12mの範囲内に収束される。出土層位はⅥ層からⅨａ層にかけてである。

出土した石器のうち定型的な石器はナイフ形石器１点のみであり，他は剥片・砕片及び礫片で占められる。石材は頁岩，凝灰岩，メノウであり，礫片は凝灰岩，変成岩が使用される。第１ブロックで出土した石器石材の特徴は以下のとおりである。

頁岩：色調は淡い茶色を呈する。節理等はみられずきめは細かく均一である。

凝灰岩１：色調は淡い緑灰色を呈する。原石面，剥離面ともに色調に相違はない。きめは細かいが光沢はなく，ざらついた感がある。

凝灰岩２：色調は暗灰色を呈する。層状の節理がみられる。

メノウ：色調は乳白色。部分的に橙色が混入する。きめは細かい。

変成岩：色調は暗灰色。原石面には微細な凹凸がみられる。

遺物

１は頁岩製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし調整は二側縁に施される。腹面と背面の剥離方向は同方向であり，同一打面もしくは同方向に位置する打面から連続的に作出された剥片を素材としていることが窺える。調整は二側縁ともに腹背面両面から施される。

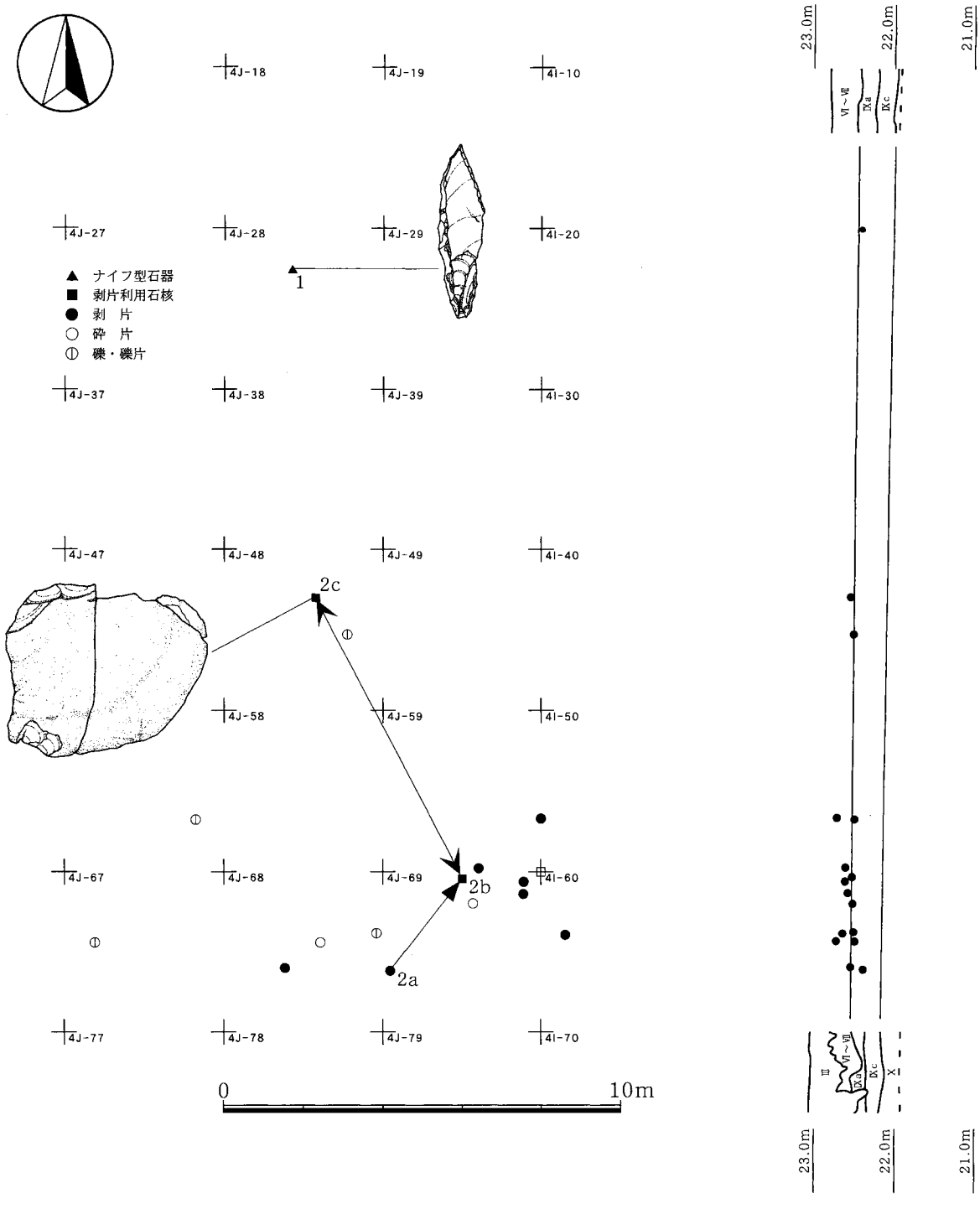
２は凝灰岩製の接合資料である。大型剥片の打面付近に対し背面側から剥片を作出しており，剥片剥離作業中途でｂ・ｃに分割している。分割後も両方に対し剥片剥離を継続していることが窺える。

２．遺構外出土の遺物（第８図３）

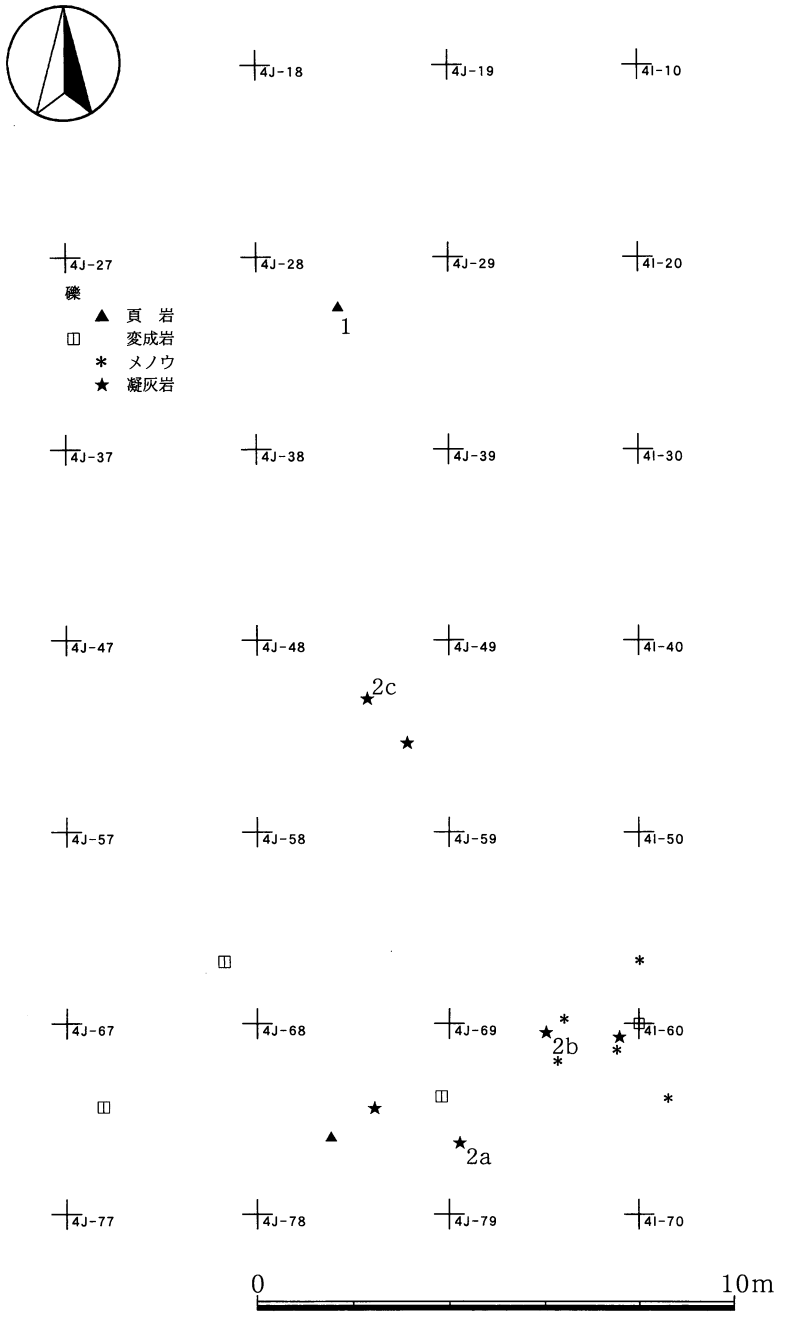
050号住居跡覆土からナイフ形石器が出土している。黒曜石製の横長剥片を素材とし，素材剥片の打面部に対し腹面から調整を施している。末端部にも腹面からの微細な調整痕が認められる。先端部が欠損しており，腹面にみられる先端部からの剥離痕は欠損時のものと考えられる。

３．小結

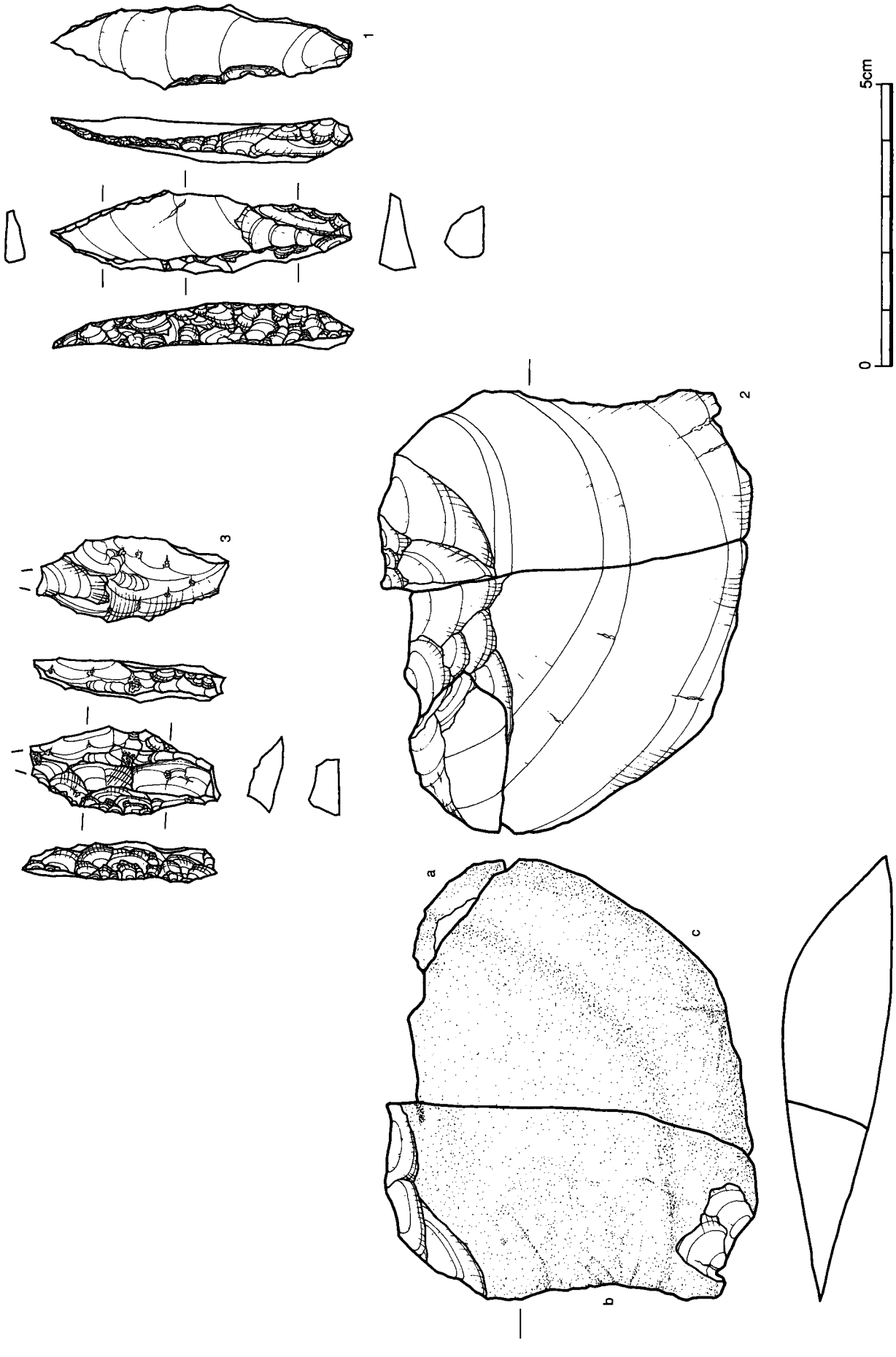
向新田遺跡における旧石器時代の様相については，第２黒色帯上部に所属する小規模なブロックが１か所検出したのみであるため，特徴づけて説明することは難しい。周辺遺跡と比較した立地的見解から，同水系に所属する遺跡のなかでも，一本桜南遺跡，復山谷遺跡のように，もしくは手賀沼水系と印旛沼水系の分水嶺上に位置する木刈峠遺跡のように，舌状台地上に所在する遺跡については複数の文化層が確認される例が多い。これに対し向新田遺跡のように小支谷の最深部に位置する，台地の付け根部分に所在する遺跡については，旧石器時代の遺構密度が低いであろうことが想定される。



第6図　第1ブロック器種別遺物分布図



第7図　第1ブロック石材別遺物分布図



第8図　第1ブロック出土遺物実測図

第２節　縄文時代

１．陥し穴（第９図）

６W-71グリッド付近から陥し穴１基が検出した。伴う遺物は皆無であり所属時期は不明である。平面形状は長楕円形を呈し，長軸2.3m，単軸１mを測る。遺構検出面から底面までの深度は1.2mである。単軸方向の断面形状はＶ字状を呈する。遺構覆土の堆積状態にはロームブロックの大量混入のような人為的埋め戻しの痕跡は認められず，自然埋没であると考えられる。

２．石鏃製作跡（第10～14図，第３～７表）

７Ｋ・７Ｊグリッドにかけて石鏃製作跡が検出した。遺物の分布は南北方向28m，東西方向24mに及ぶ。この分布範囲は南北２か所の遺物集中により形成され，北に位置する集中は径14m，南に位置する集中は長径24m，短径12mを測る。

遺物集中は石鏃，石鏃未製品を含む調整痕の認められる剥片，剥片等の石器により形成され，時期決定の示準となる土器等の出土は皆無である。また出土層位についても不明であり，このため遺物集中の形成された時期を窺い知ることはできない。

石器に使用される石材はチャートが多く，剥片石器のほとんどを占める。他に石鏃では玉髄，調整痕の認められる剥片，剥片類では黒曜石，凝灰岩，珪質頁岩が認められるが，いずれも点数的に客体的である。礫石器では磨製石斧にホルンフェルス，敲石に安山岩等が使用される。各石材の特徴は以下のとおりである。

チャート：色調は緑灰色を基調とし，青色の節理が複雑に混入する。他の色調のチャートは認められない。

玉髄：色調は乳白色を呈する。きめは細かいが光沢に欠ける。１点のみ出土した敲石の原石面は茶褐色を呈し凹凸が著しい。

黒曜石：透明度の高いガラス質中に黒色の縞模様が混入する。夾雑物はほとんど認められない。

凝灰岩：色調は緑灰色を呈し，基表面はざらついた感がある。

珪質頁岩：色調は明褐色を呈するが，砕片１点のみの出土のため特徴付けには難がある。

ホルンフェルス：暗灰色を呈する。器表面は堅緻であるがざらついた感がある。刃部は微少な凹凸がみられる。

安山岩：剥片石器はなく礫石器のみ出土している。色調は灰色もしくは青灰色，被熱するものは器表面がやや赤化する。緻密で重量感がある。

砂岩：粒子は均一で堅緻である。被熱し器表面は赤化する。

石英斑岩：被熱し器表面は赤化する。含有する石英粒は１～２mmを測る。

遺物

１～７・13・14は石鏃である。すべてチャート製である。１は明瞭なカエシが作出され表裏面の調整も丁寧に施される。２～７の平面形状は正三角形状もしくは二等辺三角形状を呈する。カエシはやや不明瞭ではあるが作出される。２～５は表裏面ともに密に調整される，これに対し６・７は表裏面両面に調整が施されるものの，調整はやや粗く形状もいびつな感がある。あるいは石鏃未製品の範疇に含まれる可能性も考えられる。13は小型尖頭器状であり，調整は表裏面全面に施される。14は作成途中で分割しており先端部が欠損している。

8～12，15～19は調整痕の認められる剥片であり，その形状・調整部位から石鏃未製品と考えられる。8・9については小型剥片の周縁部に対し調整を施すが，未調整部位が目立つ。10～12，15～18は大型剥片を素材とし，剥片作出後に折断により形状を整えられている。ほぼ全面に調整が施されるもの（10～12），一部のみにとどめられるもの（17・18）がみられる。これらはいずれも肥厚であり，1～7の石鏃と比較するとかなりの差が認められる。19には折断面がみられるが欠損品ではなく，調整途中で意図的に折断したものである。

20・21は大型剥片を転用した石核である。20は剥片の周縁から求芯的に剥片を作出している。21は大型剥片の腹面を打面として設定し，剥片剥離を行っている。

22は磨製石斧である。剥片素材であり片面は原石面である。素材の周縁部に調整を施し，形状を整えた後に刃部を作出している。刃部磨製石斧といえる。

23～26は敲石である。形状は様々であり，棒状礫（23・25），扁平礫（24・26）の両者がみられる。23は上下両端を使用しており，打撃による剥落痕が認められる。24～26は一部に微細な敲打痕が認められる。

3．遺構外出土の遺物（第15～19図，第8表）

縄文時代以外の遺構覆土から出土した遺物を一括して掲載した。すべて石器であり，石鏃製作跡の関連資料と考えられる。

1～9は石鏃である。素材剥片の剥離痕を明瞭に残すもの（5・7）も認められるが，表裏面ともに面的に調整が施される。明瞭なカエシをもつ個体や（1・2），わずかに窪むもの（3・4）基部が平坦となるもの（5～8）と形状は多様である。9は有茎鏃である。類似した個体は石鏃製作跡で出土するが，明確な有茎鏃はこの1点のみである。

10～17は調整痕の認められる剥片である。石鏃製作跡から出土した同種の石器と同様の性格をもつものと考えられる。11～13・17は肥厚な剥片を素材とし，折断により形状を整えた後に周縁部から調整を施す。調整は一様にステップ・フレーキングとなり素材の厚みを除去するように施される。10・14にみられる折断面は他の部位の調整より新しく，調整途中で欠損したものと考えられる。15・16は小型剥片を素材とし，15は剥片末端部の腹面側，16は腹面のほぼ全面に調整が施される。

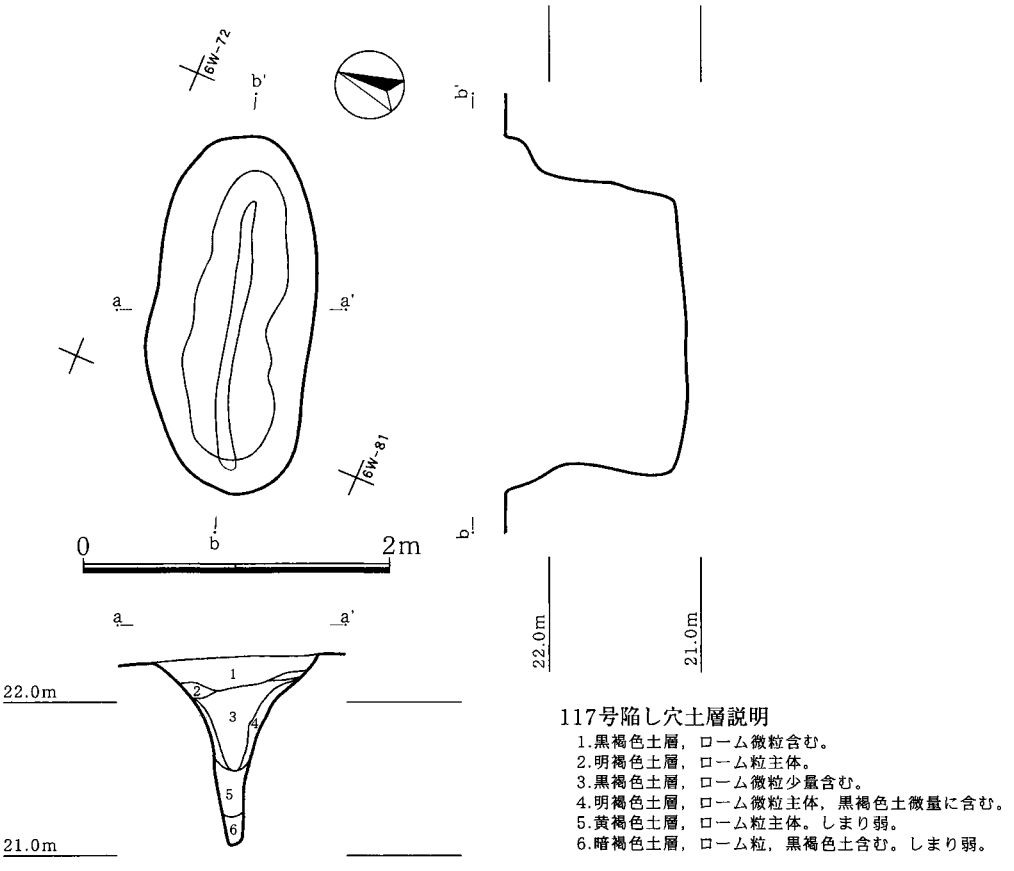
18～21は剥片利用石核である。18は剥片の腹面を打面として設定し，剥片剥離を行っている向新田遺跡では出土例の希少な黒曜石製である。19～21は大型剥片を折断し，直方体に形状を整えた後に剥片剥離を行っている。

22～24は石核である。いずれも打面転移を頻繁に行い剥片を作出していることが窺える。

25～28は磨製石斧である。全面研磨もしくは半両面研磨であり，石鏃製作跡で出土した刃部のみ研磨されるものは認められない。25は緻密な砂岩製であり，刃部には微細な剥落痕が認められる。26は緑色凝灰岩製であり研磨時の線条痕が明瞭に認められる。27は半両面研磨であり，片面には整形時の剥離痕が残る。28は刃部のみ残存するが欠損後の調整が認められ，再加工品もしくは欠損後別用途を考え施された調整と考えられる。

29～33は石皿破片である。安山岩製（29・30・33），砂岩製（31・32）であり，被熱により赤化する個体が認められる。

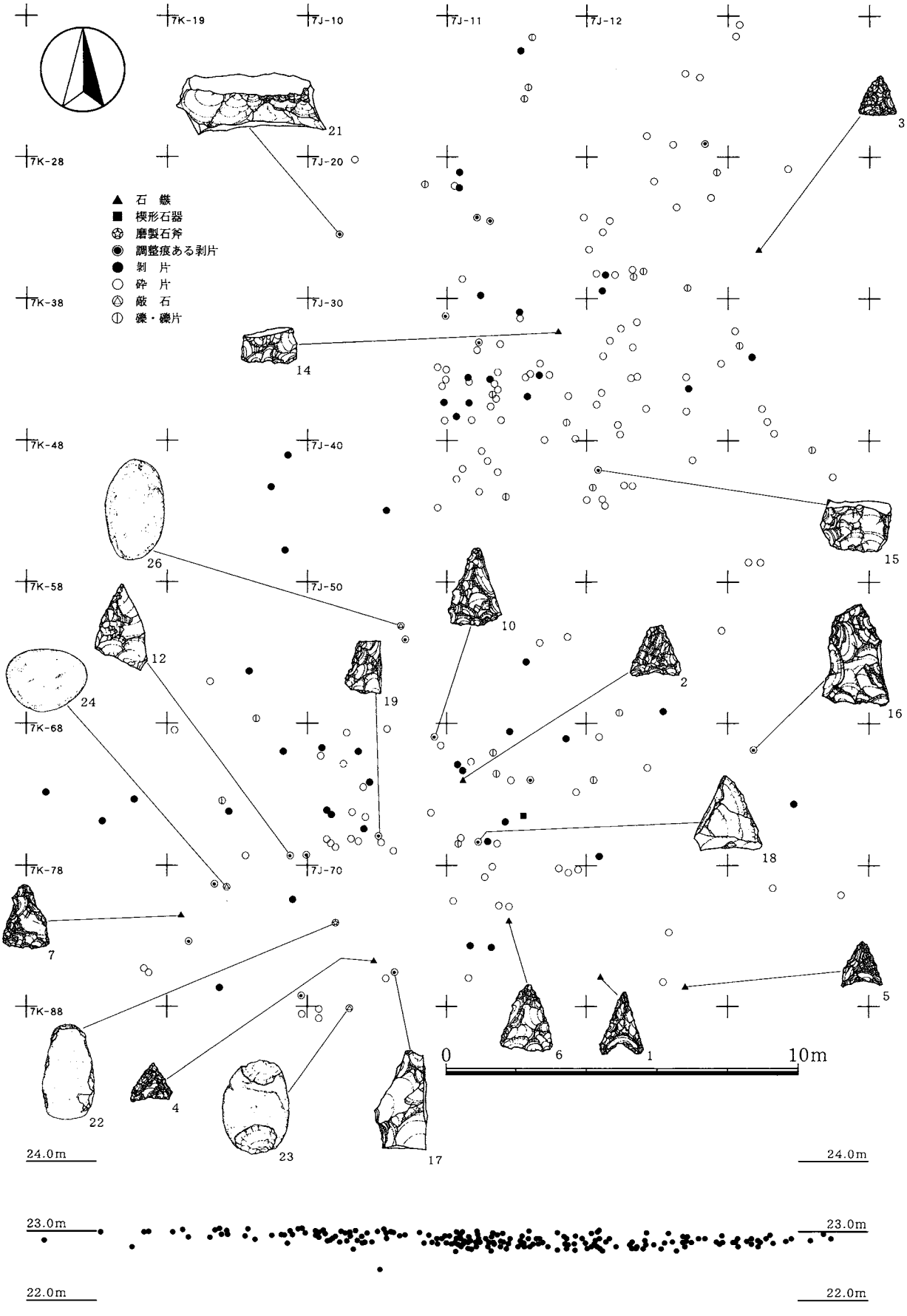
34～47は敲石である。形状は多様であり，棒状礫，扁平礫が混在する。敲打痕は上下両端に認められる



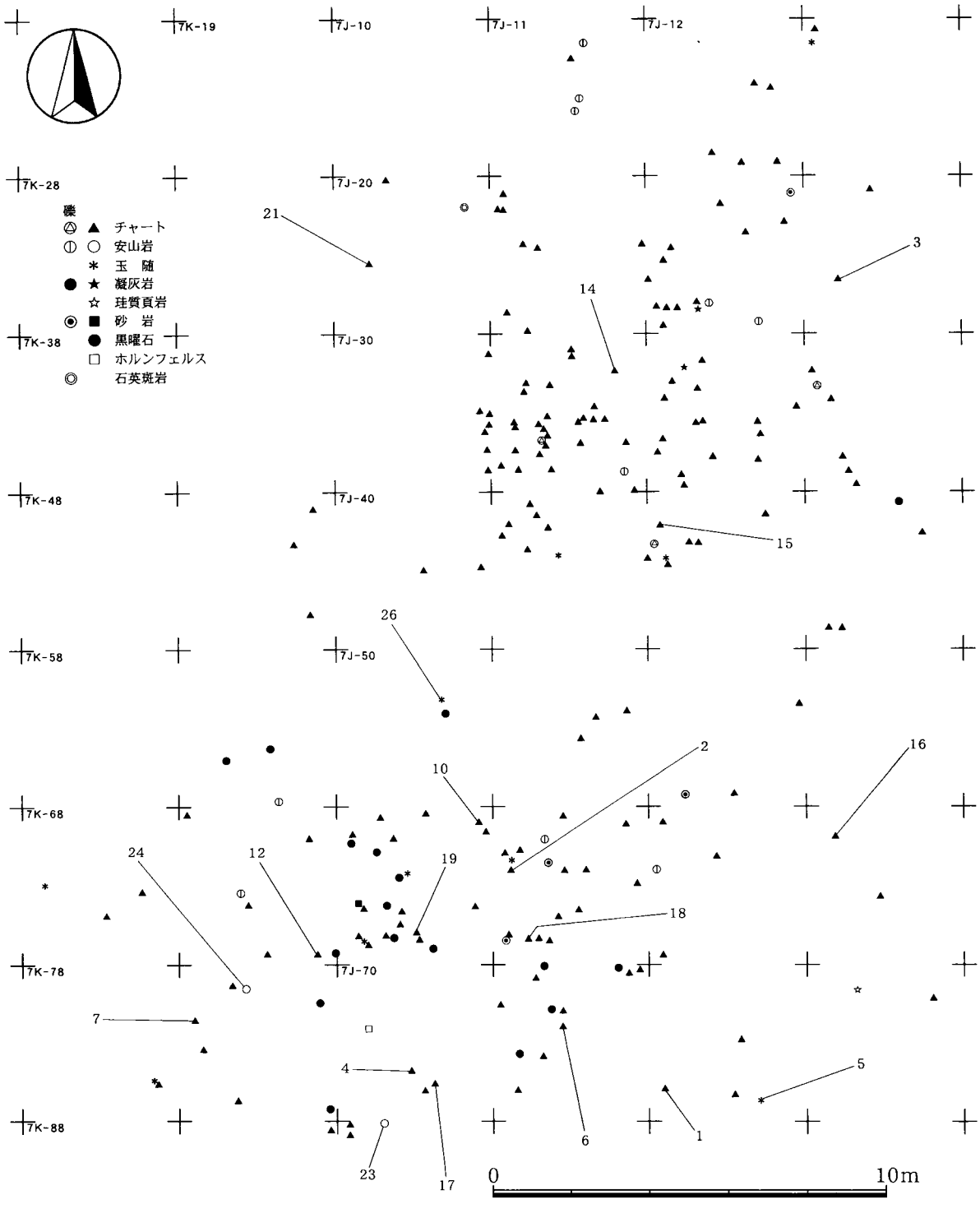
117号陥し穴土層説明

1.黒褐色土層，ローム微粒含む。
2.明褐色土層，ローム粒主体。
3.黒褐色土層，ローム微粒少量含む。
4.明褐色土層，ローム微粒主体，黒褐色土微量に含む。
5.黄褐色土層，ローム粒主体。しまり弱。
6.暗褐色土層，ローム粒，黒褐色土含む。しまり弱。

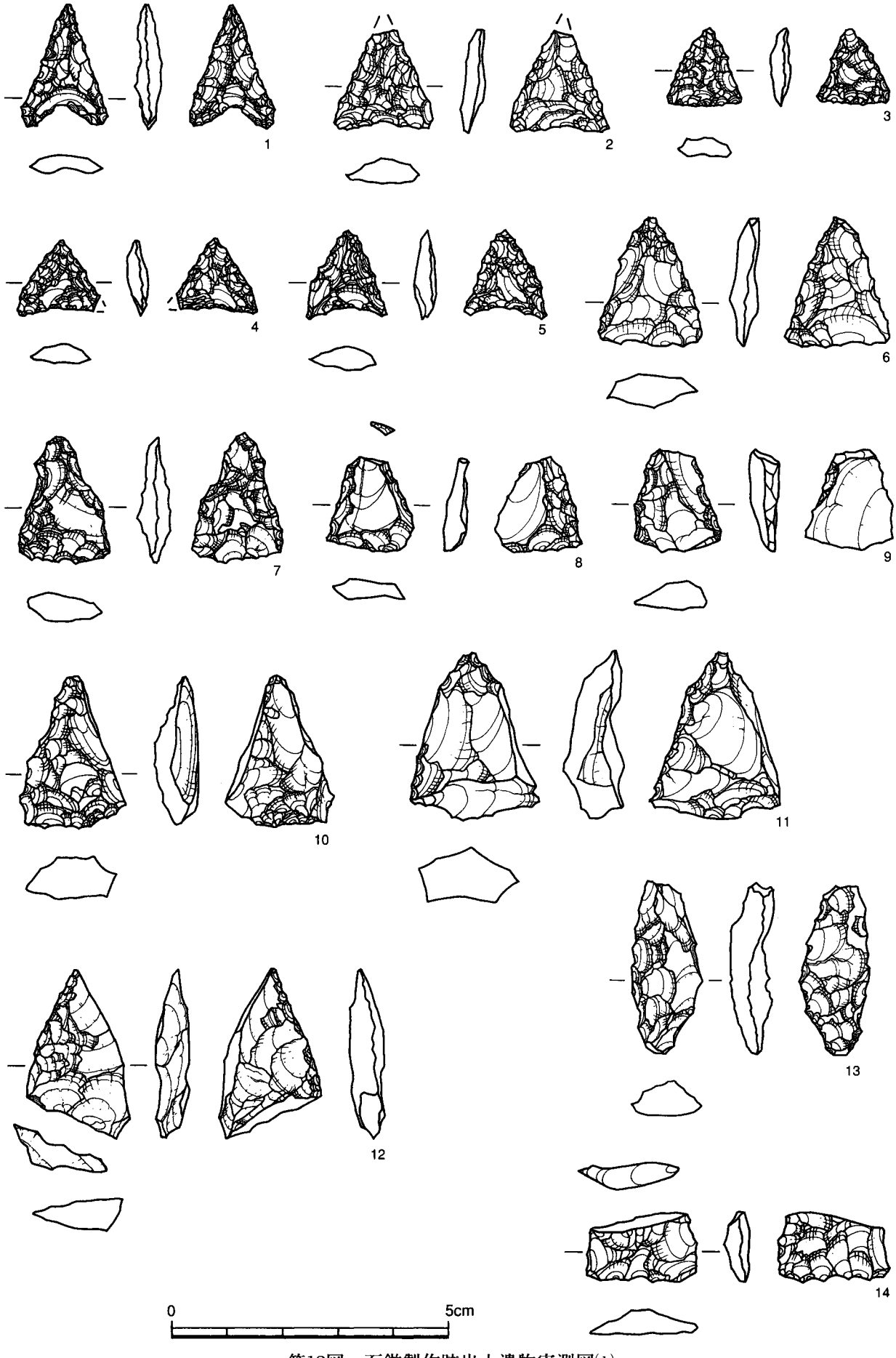
第9図　117号陥し穴平面図・セクション図



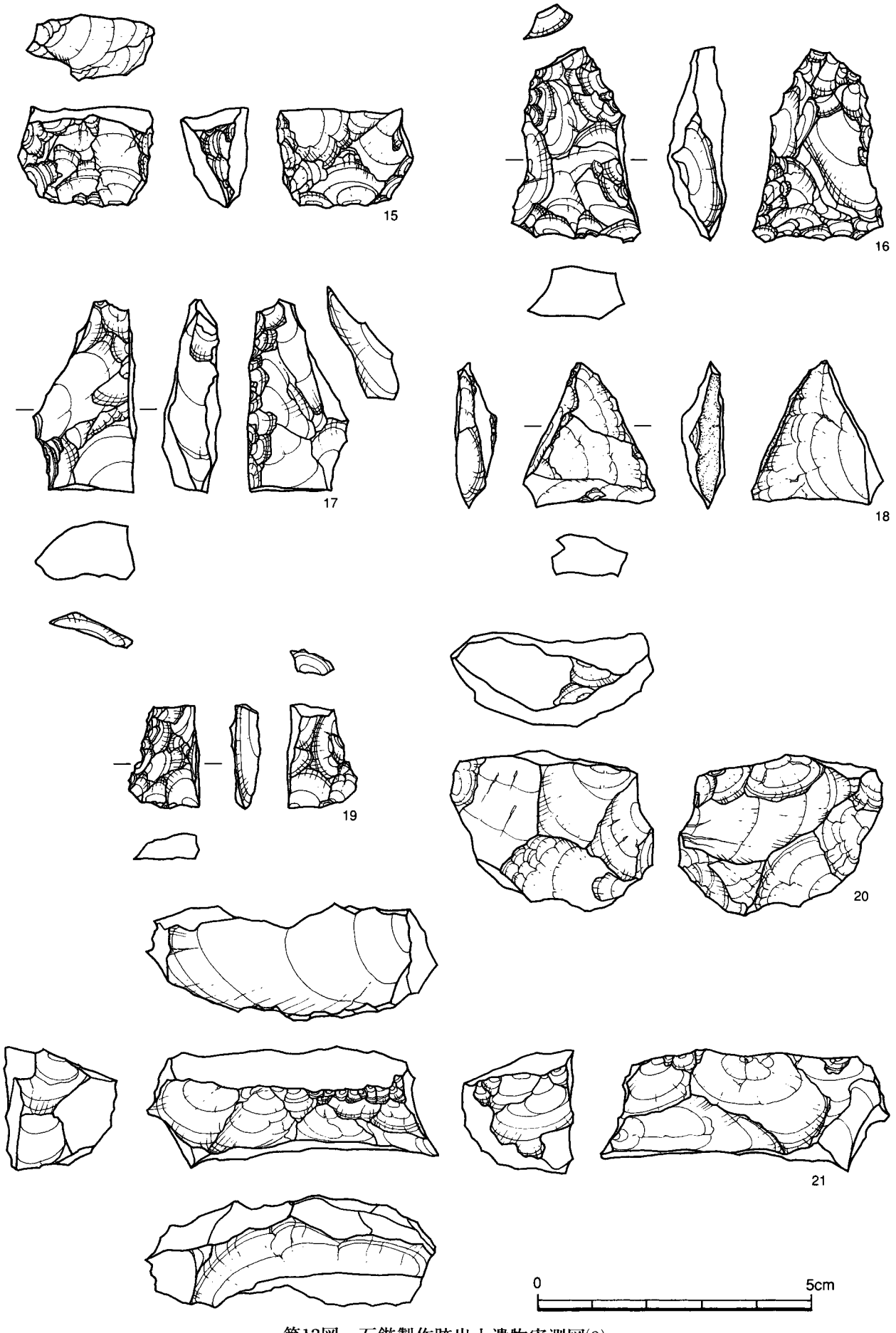
第10図　石鏃製作跡器種別遺物分布図



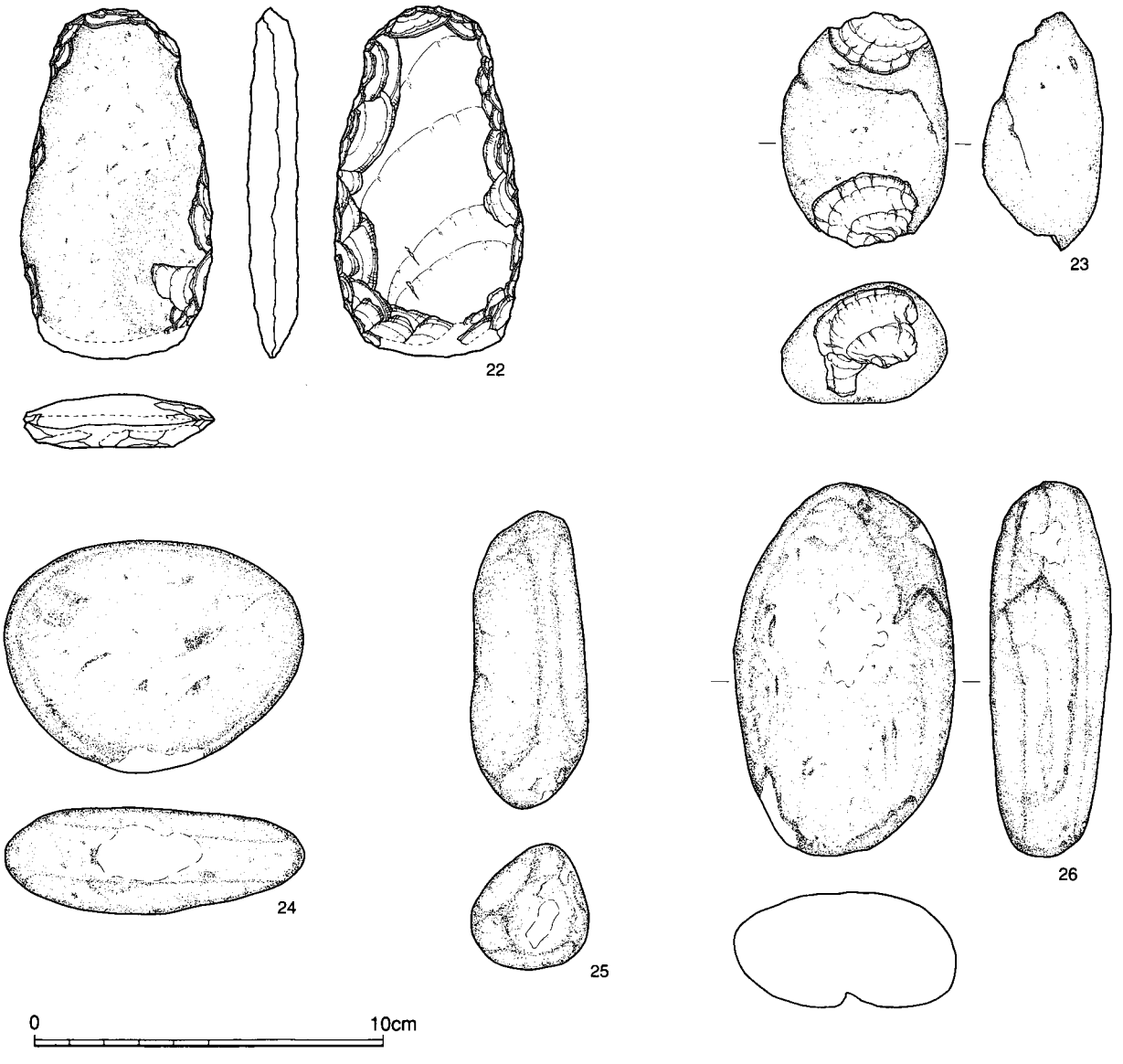
第11図　石鏃製作跡石材別遺物分布図



第12図　石鏃製作跡出土遺物実測図(1)



第13図　石鏃製作跡出土遺物実測図(2)

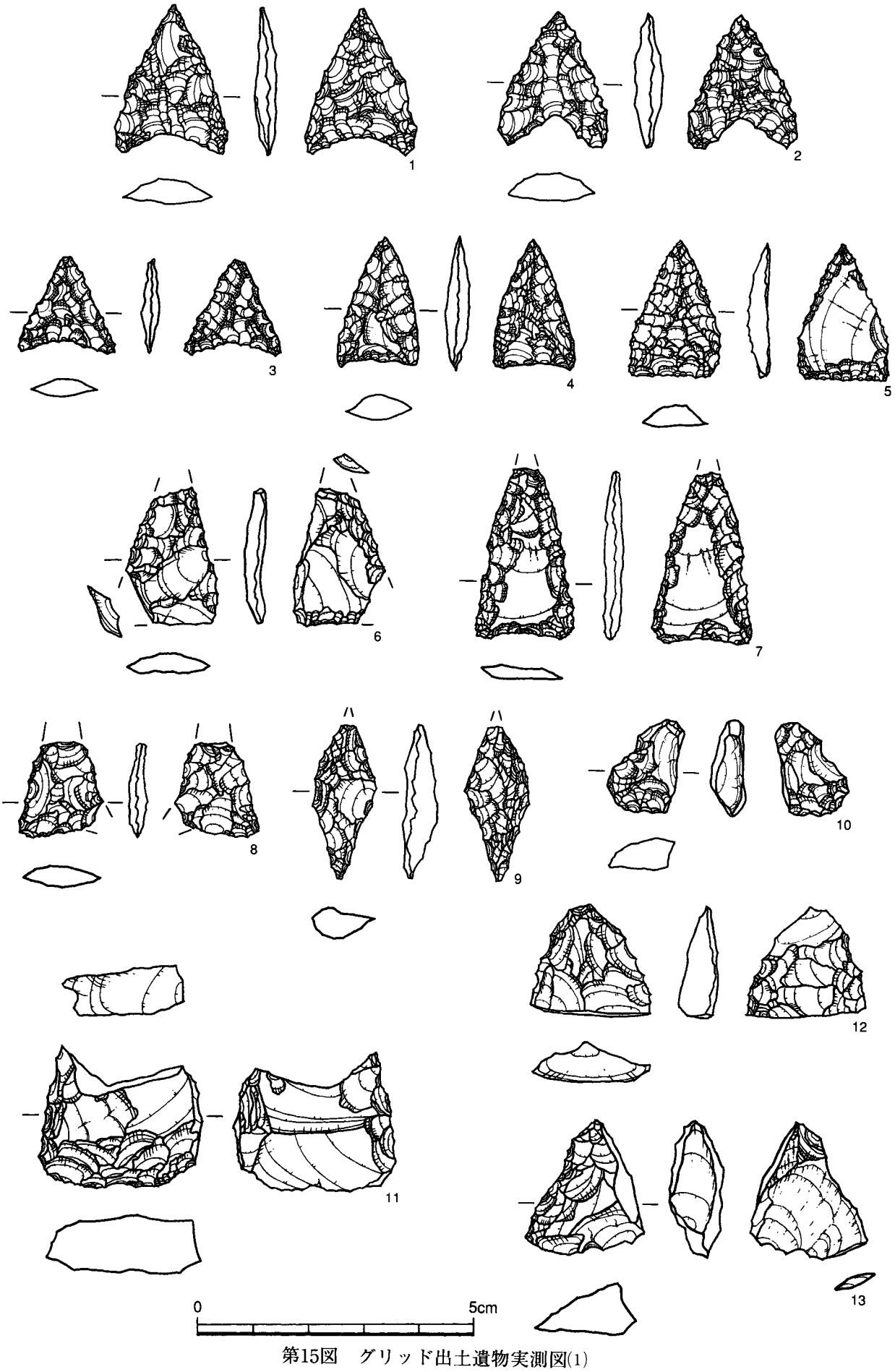


第14図　石鏃製作跡出土遺物実測図(3)

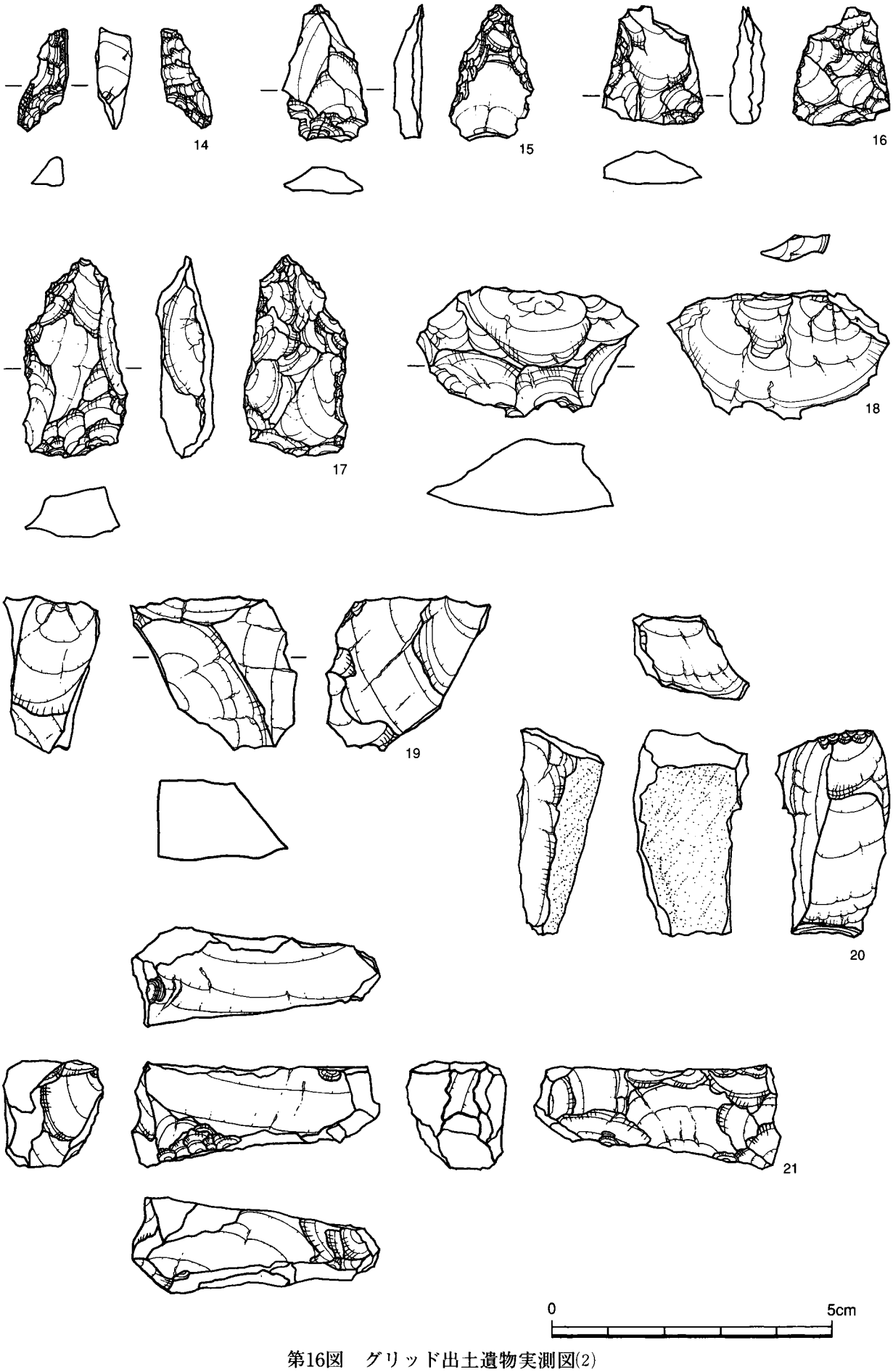
もの（34～36・42～44），片端に認められるもの（37・38・40・41・45～47）の他，扁平礫の周囲に認められるもの（39）がある。敲打痕の状態も多様であり，磨り敲いたように平滑な敲打痕となるもの（34），微細な敲打痕が認められるもの（35・37～41・44～47），敲打による剥落痕が著しいもの（36・43）があり，異なる使用目的，もしくは敲打する対象物の違いが礫の形状を問わず行われていたことが窺える。

4．小結

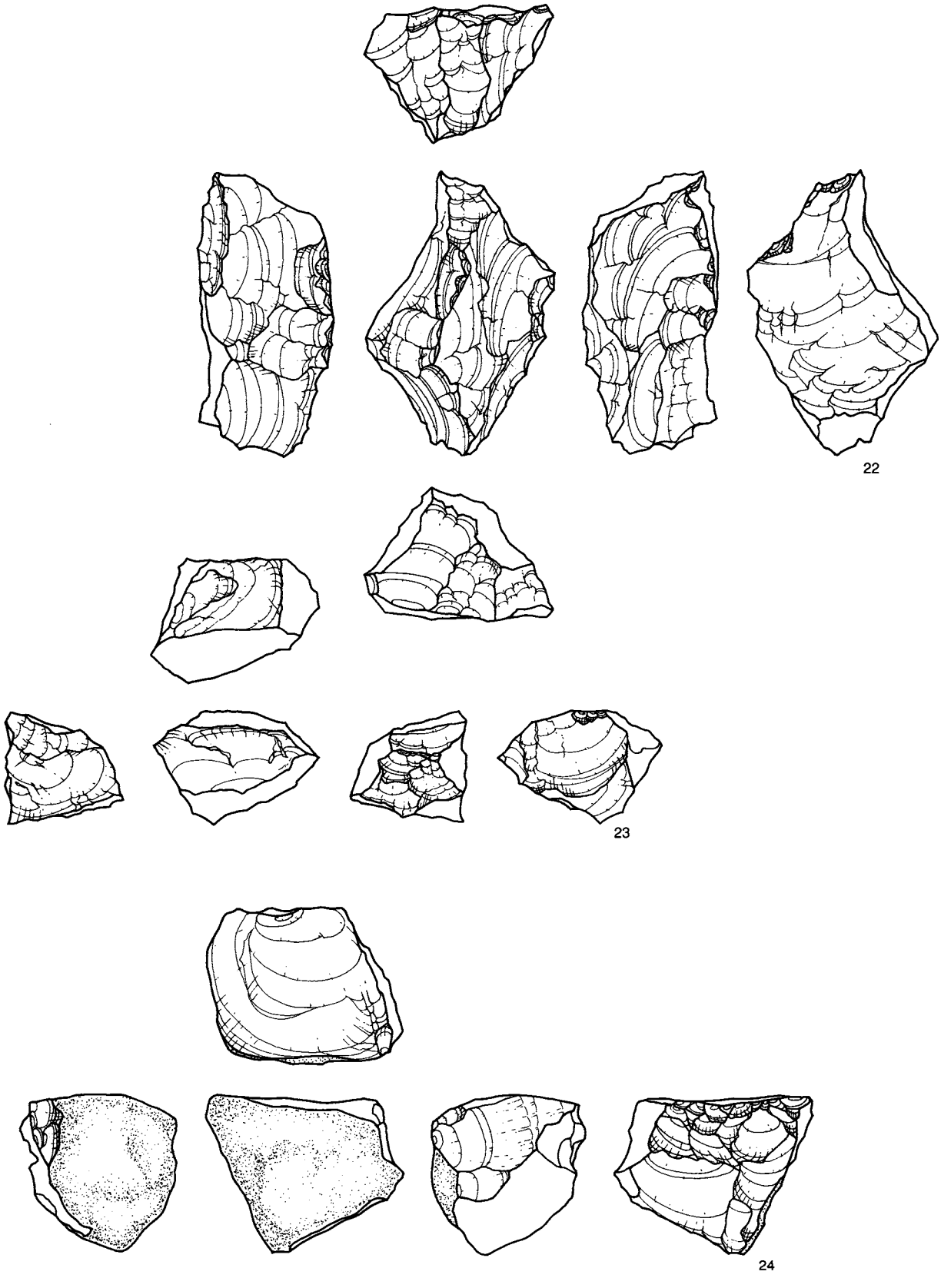
向新田遺跡では縄文時代に属する遺構は，陥し穴1基・石鏃製作跡1か所が検出したのみであり，共伴する土器が認められないことから，遺跡自体の時期的性格を考察することは非常に困難である。石鏃製作跡については一本桜南遺跡との関連性が強く窺え，明確な掘り込みを伴わない遺物包含層的な遺構の性格付けを再認識する必要がある。石鏃製作跡内では石鏃完成品のみならず，石鏃製作工程を追える資料が数多く出土しており，また石鏃未製品や形状的にはいびつであるが使用については完成品と遜色のない個体も認められる。あるいは旧石器時代にみられる製品の集積所的な意味を兼ねるものであろうか，今後の課題となろう。



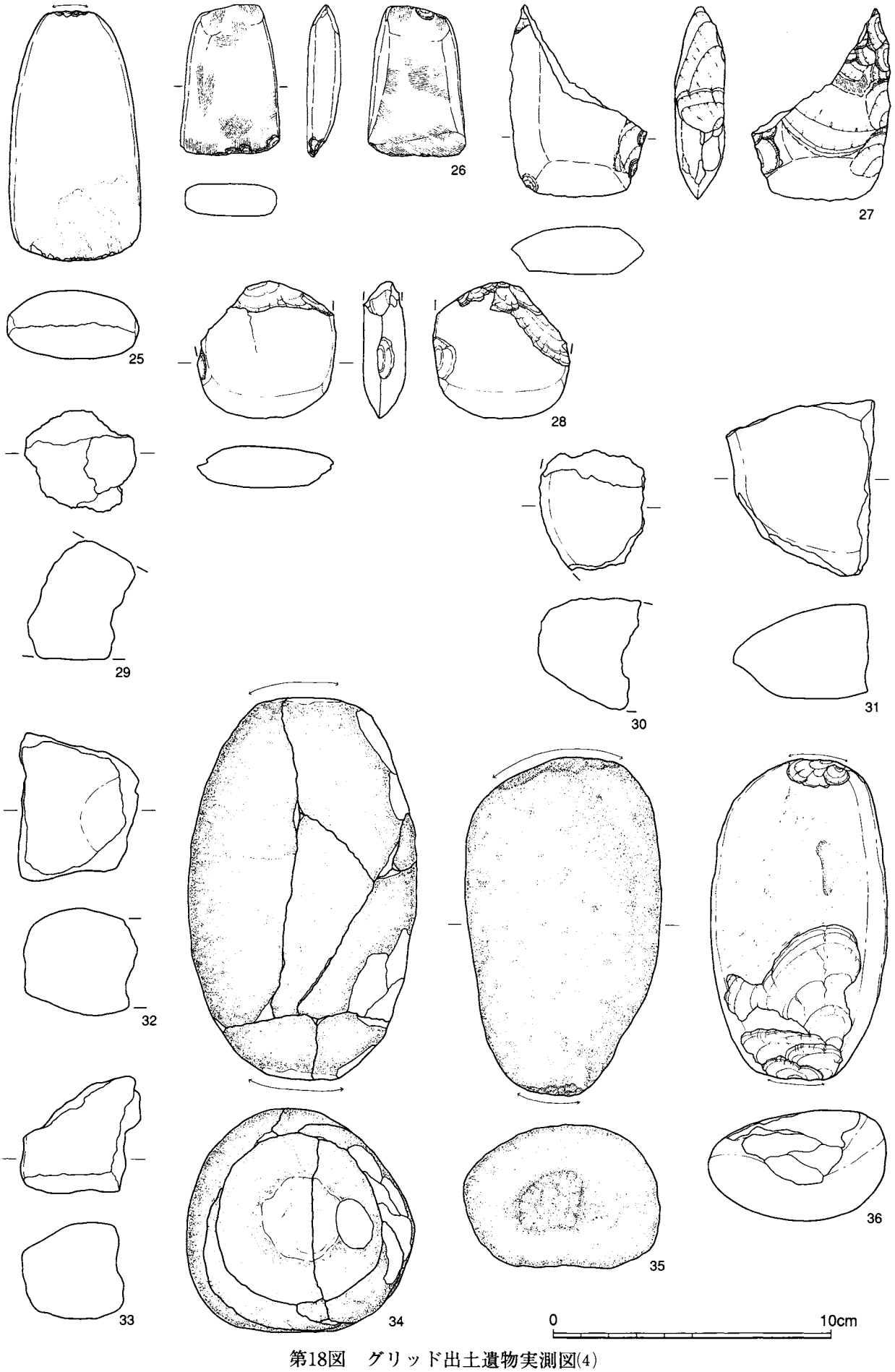
第15図　グリッド出土遺物実測図(1)



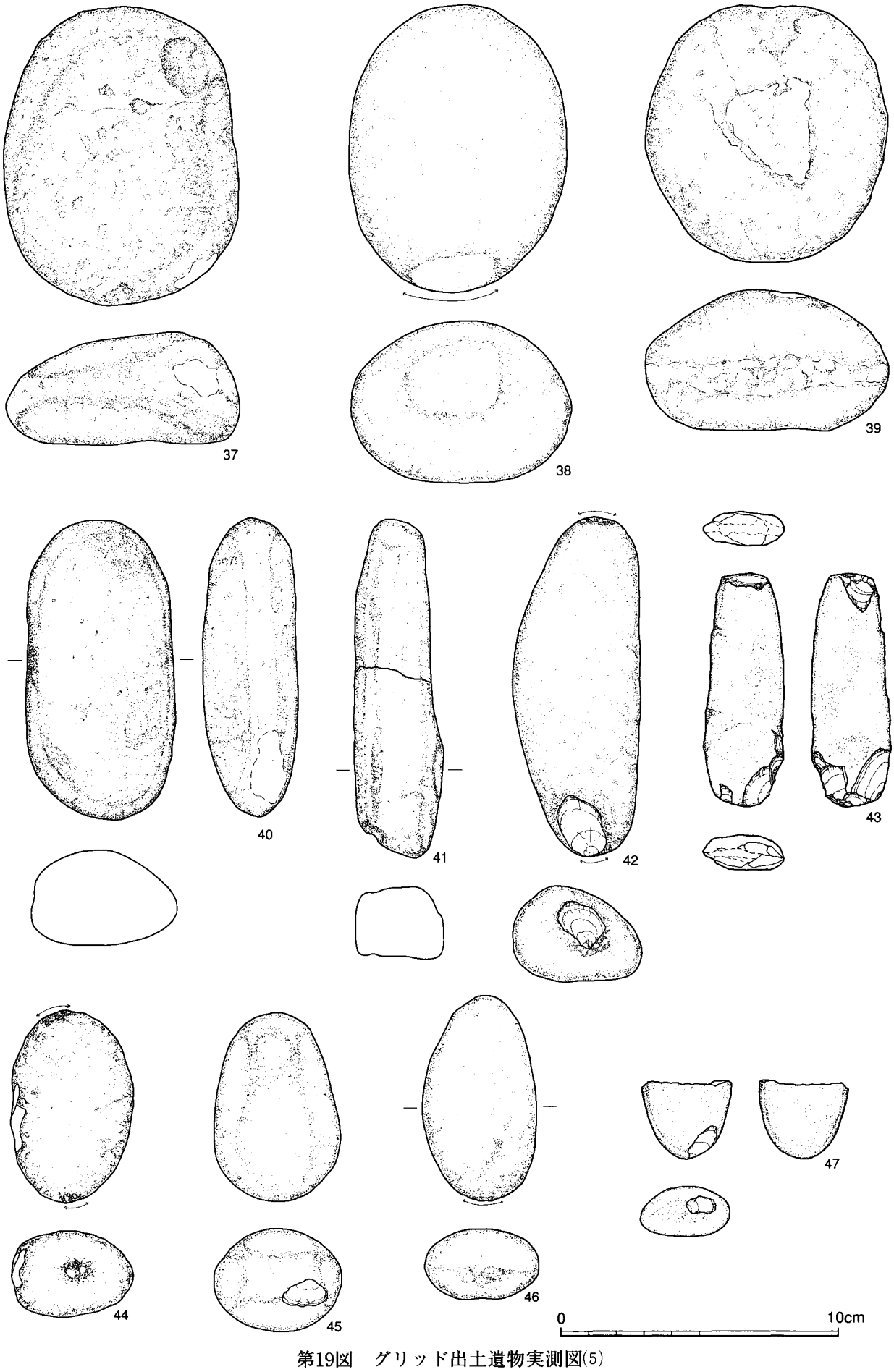
第16図　グリッド出土遺物実測図(2)



第17図　グリッド出土遺物実測図(3)



第18図　グリッド出土遺物実測図(4)



第19図　グリッド出土遺物実測図(5)

第1表　第1ブロック遺物属性表

器種 / 石材	ナイフ形石器	尖頭器	細石核	細石刃	台形石器	角錐状石器	掻器	削器	楔形石器	彫器	削片	石錐	R・フレイク	U・フレイク	石刃	剥片	砕片	調整剥片	剥片利用石核	石核	石斧	敲石類	礫・礫片	計
頁岩	1 5.63															1 38.17								2 43.80
凝灰岩1																2 4.57	1 1.29		2 95.22					5 101.08
凝灰岩2																							2 27.54	2 27.54
メノウ																4 14.43	1 0.34							5 14.77
変成岩																							3 193.88	3 193.88
計	1 5.63															7 57.17	2 1.63		2 95.22				5 221.42	17 381.07

第2表　第1ブロック遺物観察表

挿図番号	遺物番号	器種	石材	計測値				備考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
第8図1	4J-28,01	ナイフ形石器	頁岩	5.43	1.48	0.73	5.63	
第8図2	接合資料		凝灰岩				98.47	原石面残る
a	4J-69,03	剥片		2.23	2.67	0.83	3.25	
b	4J-69,01	剥片利用石核		6.78	3.53	1.79	38.07	
c	4J-48,01	剥片利用石核		6.52	4.63	1.93	57.15	
	4J-48,02	礫片	変成岩				35.98	被熱
	4J-57,01	礫片	変成岩				107.56	被熱
	4J-59,01	剥片	メノウ	1.58	2.02	0.43	1.40	
	4J-67,01	礫片	変成岩				50.34	被熱
	4J-68,01	剥片	頁岩	8.12	4.62	1.24	38.17	
	4J-68,02	砕片	凝灰岩	1.52	1.73	0.49	1.29	
	4J-68,03	礫片	凝灰岩				27.26	被熱
	4J-68,03	礫片	凝灰岩				0.28	被熱
	4J-69,02	砕片	凝灰岩	1.22	1.99	0.40	0.34	
	4J-69,04	剥片	メノウ	2.54	3.89	0.83	6.83	
	4J-69,05	剥片	凝灰岩	1.22	2.30	0.57	1.32	
	4I-50,01	剥片	メノウ	1.47	3.09	0.63	2.41	
	4I-60,01	剥片	メノウ	3.22	2.42	0.56	3.79	
第8図3	050,03	ナイフ形石器	黒曜石	3.41	1.53	0.79	3.54	先端部欠損

第3表　石鏃製作跡遺物属性表

器種 / 石材	石鏃	石鏃未製品	石槍	石匙	削器	楔形石器	石錐	R・フレイク	U・フレイク	剥片	砕片	調整剥片	剥片利用石核	石核	打製石斧	磨製石斧	敲石	磨石	石皿	砥石	軽石	装身具	礫・礫片	計
チャート	7 7.49					1 3.46		17 80.78		40 100.21	109 23.60		1 25.05										3 47.00	178 287.59
玉髄	1 0.70									3 4.55	3 1.18						1 321.67						1 3.38	9 331.48
黒曜石								3 8.33		3 3.12	10 2.41													16 13.86
凝灰岩										1 9.97	1 0.35												2 5.01	4 15.33
珪質頁岩											1 0.83													1 0.83
ホルンフェルス																1 109.22								1 109.22
安山岩																	2 353.95						10 207.65	12 561.60
砂岩																							3 33.22	3 33.22
石英斑岩																							1 81.02	1 81.02
計	8 8.19					1 3.46		20 89.11		47 117.85	124 28.37		1 25.05			1 109.22	3 675.62						20 377.28	215 1434.15

第4表　石鏃製作跡遺物観察表(1)

挿図番号	遺物番号	器種	石材	計測値				備考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
	7J-11,01	礫片	安山岩				1.38	被熱
	7J-11,02	剥片	チャート	1.74	1.73	0.39	1.20	
	7J-11,03	礫	安山岩				142.01	被熱
	7J-11,04	礫片	安山岩				3.53	被熱
	7J-12,01	砕片	チャート	0.57	0.43	0.09	0.03	
	7J-12,02	砕片	チャート	0.73	0.70	0.37	0.22	
	7J-12,03	砕片	チャート	1.17	2.13	0.29	0.69	
	7J-12,04	砕片	チャート	0.48	0.52	0.13	0.04	
	7J-12,05	調整痕ある剥片	チャート	1.43	2.49	0.88	3.11	
	7J-13,01	砕片	チャート	1.53	1.41	0.37	0.60	
	7J-13,02	砕片	玉髄	1.43	1.53	0.27	0.78	
	7J-20,01	礫片	石英斑岩				81.02	被熱
	7J-20,02	砕片	チャート	0.89	0.65	0.07	0.07	
第13図21	7J-20,03	剥片利用石核	チャート	2.17	5.73	2.33	25.05	
	7J-21,01	剥片	チャート	1.94	2.22	0.42	1.87	
	7J-21,02	剥片	チャート	2.23	3.07	0.86	6.99	
	7J-21,02	砕片	チャート	0.47	0.67	0.09	0.03	
	7J-21,03	調整痕ある剥片	チャート	1.81	2.26	1.14	4.10	
	7J-21,04	調整痕ある剥片	チャート	2.23	3.23	0.86	2.91	
	7J-21,05	砕片	チャート	0.67	1.21	0.11	0.14	
	7J-21,06	剥片	チャート	3.34	1.63	1.21	7.50	
	7J-22,01	砕片	チャート	1.22	0.56	0.29	0.21	
	7J-22,02	砕片	チャート	1.23	0.37	0.12	0.09	
	7J-22,03	砕片	チャート	0.89	1.19	0.19	0.26	
	7J-22,04	砕片	チャート	1.52	1.52	0.27	0.72	
	7J-22,07	砕片	チャート	1.46	0.75	0.07	0.10	
	7J-22,08	剥片	チャート	2.54	1.57	0.21	0.86	
	7J-22,09	砕片	チャート	0.60	0.89	0.12	0.06	
	7J-22,10	砕片	チャート	1.86	1.19	0.19	0.39	
	7J-22,11	礫片	凝灰岩				2.64	被熱
	7J-22,12	礫片	安山岩				0.82	被熱
	7J-22,13	剥片	チャート	1.56	1.63	0.25	0.63	
	7J-22,14	礫片	安山岩				0.88	被熱
	7J-22,17	砕片	チャート	1.19	0.63	0.11	0.12	
	7J-22,18	砕片	チャート	0.46	0.55	0.10	0.03	
	7J-23,03	砕片	チャート	1.35	1.29	0.27	0.37	
第12図3	7J-23,04	石鏃	チャート	1.26	1.39	0.32	0.53	
	7J-30,01	調整痕ある剥片	チャート	2.95	2.63	0.89	7.92	
	7J-30,01	調整痕ある剥片	チャート	2.91	2.78	1.12	7.49	
	7J-30,01	剥片	チャート	1.99	1.13	0.30	0.66	
	7J-31,01	調整痕ある剥片	チャート	2.31	2.92	1.17	5.92	
	7J-31,02	砕片	チャート	0.71	0.40	0.10	0.03	
	7J-31,03	砕片	チャート	0.71	0.83	0.11	0.07	
	7J-31,04	砕片	チャート	1.00	1.27	0.14	0.22	
	7J-31,05	砕片	チャート	1.05	1.19	0.16	0.25	
	7J-31,06	剥片	チャート	1.91	1.68	0.30	0.95	
	7J-31,07	砕片	チャート	1.03	0.41	0.09	0.05	
	7J-31,08	剥片	チャート	1.47	2.15	0.41	1.05	
	7J-31,09	砕片	チャート	0.54	0.59	0.03	0.03	
	7J-31,10	剥片	チャート	1.71	2.07	0.47	1.24	
	7J-31,11	剥片	チャート	1.00	2.08	0.43	0.76	
	7J-31,12	砕片	チャート	1.27	0.48	0.17	0.13	
	7J-31,13	調整痕ある剥片	チャート	4.37	2.31	0.70	9.68	
	7J-31,14	砕片	チャート	0.59	0.62	0.07	0.05	
	7J-31,15	砕片	チャート	0.44	0.59	0.05	0.03	
	7J-31,16	剥片	チャート	1.52	1.30	0.39	0.61	
	7J-31,17	砕片	チャート	0.78	0.78	0.07	0.11	
	7J-31,18	礫片	チャート				28.71	被熱

第5表　石鏃製作跡遺物観察表(2)

挿図番号	遺物番号	器種	石材	計測値				備考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
	7J-31,19	砕片	チャート	0.84	1.13	0.19	0.14	
	7J-31,20	砕片	チャート	0.94	0.95	0.28	0.20	
	7J-31,21	砕片	チャート	0.73	0.59	0.12	0.06	
	7J-31,22	剥片	チャート	2.13	1.71	0.63	1.83	
	7J-31,23	砕片	チャート	1.33	1.30	0.29	0.37	
	7J-31,24	砕片	チャート	0.83	0.54	0.13	0.05	
	7J-31,25	剥片	チャート	2.65	1.69	0.83	2.78	
	7J-31,26	砕片	チャート	0.93	0.67	0.16	0.12	
	7J-31,28	砕片	チャート	0.82	1.22	0.35	0.34	
	7J-31,29	剥片	チャート	1.53	3.32	0.53	2.73	
第12図14	7J-31,30	石鏃	チャート	1.26	1.98	0.41	1.25	
	7J-31,31	砕片	チャート	0.59	0.82	0.12	0.07	
	7J-31,32	砕片	チャート	0.73	0.73	0.12	0.08	
	7J-31,33	礫片	安山岩				2.89	被熱
	7J-32,02	砕片	チャート	1.01	0.60	0.24	0.14	
	7J-32,03	砕片	チャート	0.25	0.75	0.09	0.03	
	7J-32,04	砕片	チャート	0.38	0.56	0.06	0.02	
	7J-32,05	砕片	チャート	0.52	0.69	0.12	0.07	
	7J-32,06	砕片	チャート	0.12	0.76	0.16	0.21	
	7J-32,07	砕片	チャート	0.97	0.53	0.16	0.09	
	7J-32,08	砕片	チャート	0.38	0.64	0.09	0.02	
	7J-32,10	砕片	チャート	0.47	1.38	0.27	0.14	
	7J-32,12	砕片	凝灰岩	1.24	0.88	0.23	0.35	
	7J-32,13	砕片	チャート	0.47	0.55	0.14	0.06	
	7J-32,14	砕片	チャート	0.97	0.68	0.22	0.11	
	7J-32,15	剥片	チャート	1.32	1.96	0.53	1.54	
	7J-32,16	砕片	チャート	0.84	0.95	0.28	0.29	
	7J-32,19	砕片	チャート	0.93	1.27	0.18	0.33	
	7J-32,20	砕片	チャート	0.67	0.87	0.08	0.04	
	7J-32,21	砕片	チャート	0.63	0.76	0.13	0.07	
	7J-33,01	砕片	チャート	0.91	1.18	0.28	0.32	
	7J-32,02	礫片	チャート				17.48	被熱
	7J-33,03	砕片	チャート	1.19	0.99	0.36	0.46	
	7J-33,04	砕片	チャート	0.94	0.54	0.19	0.11	
	7J-33,05	砕片	チャート	0.83	0.81	0.12	0.09	
	7J-33,06	砕片	チャート	0.43	1.61	0.12	0.12	
	7J-33,08	剥片	チャート	1.82	1.89	0.56	1.36	
	7J-40,01	砕片	チャート	0.55	0.51	0.07	0.02	
	7J-40,02	剥片	チャート	1.42	3.22	0.89	3.79	
	7J-41,01	砕片	チャート	0.72	0.41	0.04	0.01	
	7J-41,02	砕片	チャート	0.78	1.16	0.21	0.27	
	7J-41,03	砕片	チャート	0.56	0.53	0.19	0.06	
	7J-41,04	砕片	チャート	1.42	1.03	0.21	0.26	
	7J-41,05	砕片	チャート	1.67	1.03	0.61	1.02	
	7J-41,06	砕片	チャート	0.63	0.70	0.10	0.06	
	7J-41,07	砕片	チャート	0.71	0.37	0.07	0.02	
	7J-41,08	砕片	チャート	0.39	0.46	0.07	0.02	
	7J-41,10	礫	玉髄				3.38	
	7J-42,02	砕片	メノウ	0.83	0.79	0.13	0.09	
	7J-42,03	礫片	チャート				0.81	
	7J-42,04	砕片	チャート	1.20	0.73	0.33	0.30	
	7J-42,05	砕片	チャート	0.69	0.34	0.13	0.06	
	7J-42,07	砕片	チャート	0.79	0.61	0.09	0.06	
	7J-42,08	砕片	チャート	0.96	0.87	0.12	0.14	
第13図15	7J-42,09	調整痕ある剥片	チャート	1.91	2.49	1.22	6.45	
	7J-42,10	砕片	チャート	1.28	1.54	0.27	0.39	
	7J-43,01	礫片	凝灰岩				2.37	被熱
	7J-43,02	砕片	チャート	0.27	0.38	0.08	0.01	

第6表　石鏃製作跡遺物観察表(3)

挿図番号	遺物番号	器種	石材	計測値				備考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
	7J-43,03	砕片	チャート	0.32	0.41	0.17	0.01	
	7J-43,04	砕片	チャート	0.68	0.43	0.36	0.12	
第14図26	7J-50,02	敲石	玉髄	10.67	6.27	3.42	321.67	
	7J-50,03	調整痕ある剝片	黒曜石	0.91	0.72	0.43	0.22	
	7J-51,01	砕片	チャート	0.65	0.70	0.23	0.09	
	7J-51,02	砕片	チャート	0.92	0.76	0.11	0.07	
	7J-51,03	剝片	チャート	2.05	2.97	1.47	9.60	
	7J-52,01	砕片	チャート	0.79	0.64	0.12	0.06	
	7J-52,02	礫片	砂岩				5.10	被熱
	7J-52,03	剝片	チャート	1.79	1.23	0.28	0.62	
	7J-60,03	剝片	チャート	2.49	2.17	0.77	3.24	
	7J-60,04	砕片	黒曜石	0.98	0.49	0.12	0.06	
	7J-60,05	剝片	凝灰岩	2.81	3.91	0.89	9.97	
	7J-60,06	砕片	チャート	1.00	0.89	0.17	0.18	
	7J-60,07	砕片	チャート	0.82	1.26	0.33	0.36	
	7J-60,08	砕片	黒曜石	0.99	1.41	0.52	0.66	
	7J-60,10	砕片	黒曜石	0.62	0.63	0.21	0.08	
第15図19	7J-60,11	調整痕ある剝片	チャート	1.87	1.31	0.54	1.69	
	7J-60,12	剝片	チャート	1.94	1.23	0.46	0.87	
	7J-60,13	砕片	チャート	0.86	0.82	0.20	0.10	
	7J-60,14	砕片	黒曜石	1.13	1.12	0.30	0.45	
	7J-60,15	砕片	黒曜石	1.17	0.73	0.19	0.10	
	7J-60,16	剝片	玉髄	1.99	1.50	0.63	1.51	
	7J-60,17	砕片	チャート	1.13	1.73	0.69	0.69	
第12図10	7J-60,18	調整痕ある剝片	チャート	2.68	1.92	0.81	3.65	
	7J-60,19	砕片	チャート	1.68	1.47	0.22	0.45	
	7J-60,20	砕片	チャート	1.63	1.40	0.23	0.46	
	7J-60,25	砕片	黒曜石	0.93	1.60	0.35	0.35	
	7J-60,26	剝片	チャート	2.64	1.69	1.29	3.46	
	7J-60,27	砕片	チャート	1.29	1.52	0.32	0.57	
	7J-60,28	砕片	チャート	1.37	1.09	0.28	0.40	
	7J-60,29	砕片	玉髄	0.92	1.23	0.23	0.35	
	7J-60,30	砕片	チャート	1.20	1.04	0.40	0.45	
	7J-60,31	剝片	チャート	2.17	2.78	1.18	6.32	
	7J-61,01	剝片	チャート	2.30	2.45	0.42	1.61	
	7J-61,02	砕片	チャート	1.20	1.27	0.22	0.43	
第12図2	7J-61,03	石鏃	チャート	1.73	1.73	0.36	0.89	先端部欠損
	7J-61,04	砕片	チャート	0.58	0.83	0.10	0.06	
	7J-61,05	礫片	安山岩				10.11	被熱
	7J-61,06	礫片	砂岩				12.67	被熱
	7J-61,07	剝片	チャート	1.41	2.37	0.49	1.36	
	7J-61,08	調整痕ある剝片	チャート	1.93	2.23	0.78	3.61	
	7J-61,09	剝片	チャート	1.91	1.72	0.29	1.09	
	7J-61,10	砕片	チャート	0.61	0.93	0.13	0.10	
	7J-61,11	楔形石器	チャート	2.07	2.65	0.56	3.46	
	7J-61,12	剝片	チャート	2.33	1.49	0.24	0.90	
	7J-61,13	砕片	チャート	0.60	0.38	0.09	0.03	
	7J-61,14	剝片	チャート	2.17	2.93	0.33	1.09	
第13図18	7J-61,15	調整痕ある剝片	チャート	2.54	2.39	0.67	3.97	
	7J-61,16	礫片	砂岩				15.45	被熱
	7J-61,18	砕片	チャート	1.35	1.93	0.22	0.71	
	7J-61,19	剝片	玉髄	1.56	1.68	0.38	1.03	
	7J-62,01	砕片	チャート	1.22	1.63	0.81	1.27	
	7J-62,02	礫片	安山岩				0.99	被熱
	7J-62,04	砕片	チャート	1.36	1.07	0.53	0.69	
	7J-62,05	剝片	チャート	1.42	1.56	0.39	0.77	
第13図16	7J-63,01	調整痕ある剝片	チャート	3.52	2.37	1.01	8.46	
	7J-63,02	剝片	チャート	2.77	1.85	1.06	4.37	

第7表　石鏃製作跡遺物観察表(4)

挿図番号	遺物番号	器　種	石　材	計測値				備　考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
第12図4	7J-70,03	石　鏃	チャート	1.29	1.47	0.30	0.57	カエシ片側欠損
第14図22	7J-70,04	磨製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	9.94	5.45	1.43	109.22	刃部のみ研磨
第13図17	7J-70,05	調整痕ある剥片	チャート	3.49	1.95	0.94	6.68	
	7J-70,06	砕　片	チャート	1.63	1.05	0.66	0.95	
	7J-71,01	砕　片	チャート	0.92	0.68	0.10	0.09	
	7J-71,02	砕　片	黒曜石	0.83	0.55	0.11	0.07	
	7J-71,03	砕　片	チャート	0.54	0.91	0.18	0.09	
	7J-71,04	砕　片	黒曜石	1.04	0.87	0.33	0.31	
	7J-71,05	砕　片	チャート	0.63	1.18	0.17	0.12	
	7J-71,06	砕　片	チャート	1.37	1.31	0.21	0.41	
	7J-71,07	砕　片	黒曜石	0.83	0.52	0.24	0.10	
	7J-71,08	砕　片	チャート	1.21	0.65	0.13	0.10	
第12図6	7J-71,09	石　鏃	チャート	2.28	1.93	0.53	1.77	
	7J-71,10	剥　片	チャート	1.74	1.26	0.28	0.68	
	7J-71,11	剥　片	黒曜石	2.02	1.08	0.45	0.96	
	7J-71,12	砕　片	チャート	0.91	1.23	0.28	0.34	
	7J-72,01	砕　片	チャート	0.89	0.61	0.14	0.11	
	7J-72,02	砕　片	チャート	0.98	1.07	0.21	0.22	
第12図5	7J-72,03	石　鏃	玉　髄	1.49	1.41	0.39	0.70	
第12図1	7J-72,04	石　鏃	チャート	2.26	1.48	0.47	0.96	
	7J-73,01	砕　片	珪質頁岩	1.23	1.84	0.47	0.83	
	7J-73,02	砕　片	チャート	0.87	0.13	0.10	0.12	
	7J-80,01	砕　片	チャート	1.13	0.79	0.16	0.15	
	7J-80,02	砕　片	チャート	1.85	1.03	0.36	0.51	
第14図23	7J-80,03	敲　石	安山岩	6.73	4.83	3.36	124.73	被熱，上下両端に剥落痕
	7K-49,01	剥　片	チャート	2.41	2.01	0.53	2.45	
	7K-49,02	剥　片	チャート	3.53	1.73	0.78	4.69	
	7K-49,03	剥　片	チャート	1.91	2.00	0.53	2.22	
	7K-59,01	砕　片	黒曜石	1.37	0.65	0.34	0.23	
	7K-59,02	剥　片	黒曜石	1.87	1.81	0.52	1.14	
	7K-59,03	礫　片	安山岩				22.72	
	7K-68,01	剥　片	チャート	2.48	2.21	0.75	4.74	
	7K-68,02	剥　片	玉　髄	3.17	2.26	0.37	2.01	
	7K-68,03	剥　片	チャート	3.53	1.77	0.83	4.11	
	7K-69,01	砕　片	チャート	1.22	1.18	0.33	0.45	
	7K-69,02	礫　片	安山岩				22.32	被熱
	7K-69,03	剥　片	チャート	2.19	3.50	0.87	5.55	
	7K-69,04	砕　片	チャート	1.02	0.84	0.26	0.22	
第12図12	7K-69,05	調整痕ある剥片	チャート	2.54	1.95	0.57	2.93	
	7K-69,06	調整痕ある剥片	黒曜石	1.69	2.02	1.08	2.62	
	7K-69,10	剥　片	チャート	1.92	1.89	0.50	1.72	
	7K-78,01	砕　片	チャート	0.69	0.67	0.19	0.11	
	7K-78,02	砕　片	玉　髄	0.79	0.61	0.05	0.05	
	7K-79,01	剥　片	黒曜石	1.44	1.41	0.59	1.02	
第14図24	7K-79,02	敲　石	安山岩	6.63	8.64	2.93	229.22	
	7K-79,03	調整痕ある剥片	チャート	1.75	1.13	0.83	1.50	
第12図7	7K-79,04	石　鏃	チャート	2.25	1.61	0.47	1.52	
	7K-79,05	調整痕ある剥片	チャート	1.11	1.68	0.52	0.71	
	7K-79,06	剥　片	チャート	1.15	2.31	0.12	0.40	
	7K-79,07	調整痕ある剥片	黒曜石	2.54	2.50	1.09	5.49	
	7K-89,01	砕　片	チャート	0.83	1.33	0.17	0.23	

第8表　グリッド出土遺物観察表

挿図番号	遺物番号	器種	石材	計測値				備考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
第15図1	5J-25,02	石鏃	黒曜石	2.63	2.00	0.38	1.40	
2	026-39	石鏃	黒曜石	2.38	1.94	0.48	1.53	
3	081-01	石鏃	チャート	1.66	1.66	0.27	0.54	先端部欠損
4	4J-27,01	石鏃	チャート	2.29	1.46	0.39	1.24	
5	005-05	石鏃	チャート	2.46	1.57	0.37	1.32	
6	028-19	石鏃	チャート	2.43	1.64	0.39	1.67	先端部，カエシ片側欠損
7	049-07	石鏃	チャート	3.07	1.71	0.31	1.87	先端部欠損
8	016-05	石鏃	チャート	1.52	1.43	0.33	0.87	先端部，カエシ片側欠損
9	009-08	石鏃	チャート	2.84	1.15	0.57	1.66	先端部欠損
10	074-18	調整痕ある剥片	チャート	1.77	1.12	0.58	1.51	石鏃未製品か
11	028-19	調整痕ある剥片	チャート	2.43	1.64	0.39	1.67	石鏃未製品か
12	014-04	調整痕ある剥片	チャート	2.03	2.21	0.64	3.00	石鏃未製品か
13	009-10	調整痕ある剥片	チャート	2.54	2.13	0.94	3.80	石鏃未製品か
第16図14	063-01	調整痕ある剥片	黒曜石	1.83	0.73	0.69	0.80	石鏃未製品か
15	6J-03,01	調整痕ある剥片	メノウ	2.47	1.48	0.52	1.75	石鏃未製品か
16	表採08	調整痕ある剥片	チャート	2.07	1.74	0.52	2.01	石鏃未製品か
17	7I-60,04	調整痕ある剥片	チャート	3.61	2.06	0.99	7.75	石鏃未製品か
18	065-01	剥片利用石核	黒曜石	3.21	3.28	1.43	10.56	
19	020-00	剥片利用石核	チャート	2.53	1.71	3.02	14.36	
20	030-02	剥片利用石核	チャート	3.37	2.17	3.32	11.51	節理面
21	005-01	剥片利用石核	チャート	1.83	4.32	1.60	17.47	
第17図22	047-07	石核	珪質頁岩	2.23	4.84	3.07	25.27	
23	表採03	石核	チャート	1.85	2.79	2.16	10.15	
24	7H-70,02	石核	珪質頁岩	6.91	5.38	5.40	27.48	
第18図25	6J-90,01	磨製石斧	砂岩	8.93	4.83	2.54	158.39	
26	020-04	磨製石斧	緑色凝灰岩	5.52	3.57	1.18	44.89	
27	008-02	磨製石斧	閃緑岩	6.92	4.93	1.71	62.04	装着部欠損
28	表採04	磨製石斧	変成岩	4.96	5.05	1.43	47.38	装着部欠損
29	7I-88,01	石皿	安山岩	3.43	4.52	4.56	56.81	
30	7H-70,04	石皿	安山岩	4.26	3.94	3.96	69.50	
31	4K-90,02	石皿	砂岩	6.38	4.93	3.46	150.04	被熱
32	049-02	石皿	砂岩	5.25	3.95	3.86	123.24	被熱
33	006-02	石皿	安山岩	4.22	4.13	3.51	79.64	被熱
34	058-21	敲石	砂岩	13.85	8.31	8.10	1336.80	被熱，上下両端に敲打痕
35	058-17	敲石	安山岩	12.31	7.03	5.17	653.52	被熱，上下両端に敲打痕
36	072-07	敲石	安山岩	11.59	6.49	4.03	424.35	被熱，上下両端に敲打痕
第19図37	表採03	敲石	石英斑岩	10.81	8.42	3.85	524.28	被熱
38	071-11	敲石	砂岩	10.47	7.94	5.74	678.65	
39	045-31	敲石	安山岩	9.42	8.71	5.06	580.37	
40	表採06	敲石	石英斑岩	10.78	5.23	3.43	294.83	
41	008-08	敲石	珪岩	12.19	2.47	3.15	74.84	
42	058-04	敲石	砂岩	12.23	4.72	3.37	266.36	
43	028-19	敲石	粘板岩	8.34	2.83	1.26	44.86	上下両端に剥落痕
44	表採03	敲石	砂岩	7.04	4.44	3.09	123.64	被熱
45	表採08	敲石	砂岩	6.87	4.62	3.81	143.28	被熱
46	008-08	敲石	石英斑岩	7.42	4.13	2.62	108.46	
47	006-11	敲石	砂岩	2.84	3.21	1.87	22.13	

第３節　古墳時代前期

１　遺　構

(1)竪穴住居跡

002号竪穴住居跡（第20図，図版６，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＬ7グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，全体的に攪乱が著しく，北側，東側と西側で壁及び床面の一部が検出できなかった。平面形は方形である。主柱穴は４本検出することができた。貯蔵穴は東側角と西側角のそれぞれの壁に寄った位置にある。大きさはいずれも径0.4～0.5mで，床面からの深さは0.25mである。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.8m，短径0.55mで，床面からの深さは0.1mほどである。火床部の焼土化が著しい。

遺物の出土量は少ない。１の蓋は西側の貯蔵穴内，４・５の甕は埋土中，２のミニチュア，３の小型坩，６の台付甕は床面付近から出土している。

004号竪穴住居跡（第20図，図版６，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＩ7グリッドの位置にある。重複する遺構はない。検出面から床面までの掘込みは浅く，壁の立ち上がりもわずかである。平面形は長方形である。床面は部分的に堅く踏み固められている部分がみられるが，全体的には軟弱である。貯蔵穴は南側角の壁に接した位置にある。大きさは径0.36m前後である。主柱穴は検出できなかった。北西側の壁に沿ってピットを２つ検出したが，いずれも径0.15m前後と0.25m前後で，床面からの深さは0.32～0.37mであり，底面の向かって円錐形に細くなることから，柱穴とは考え難いものである。

炉は検出できなかった。

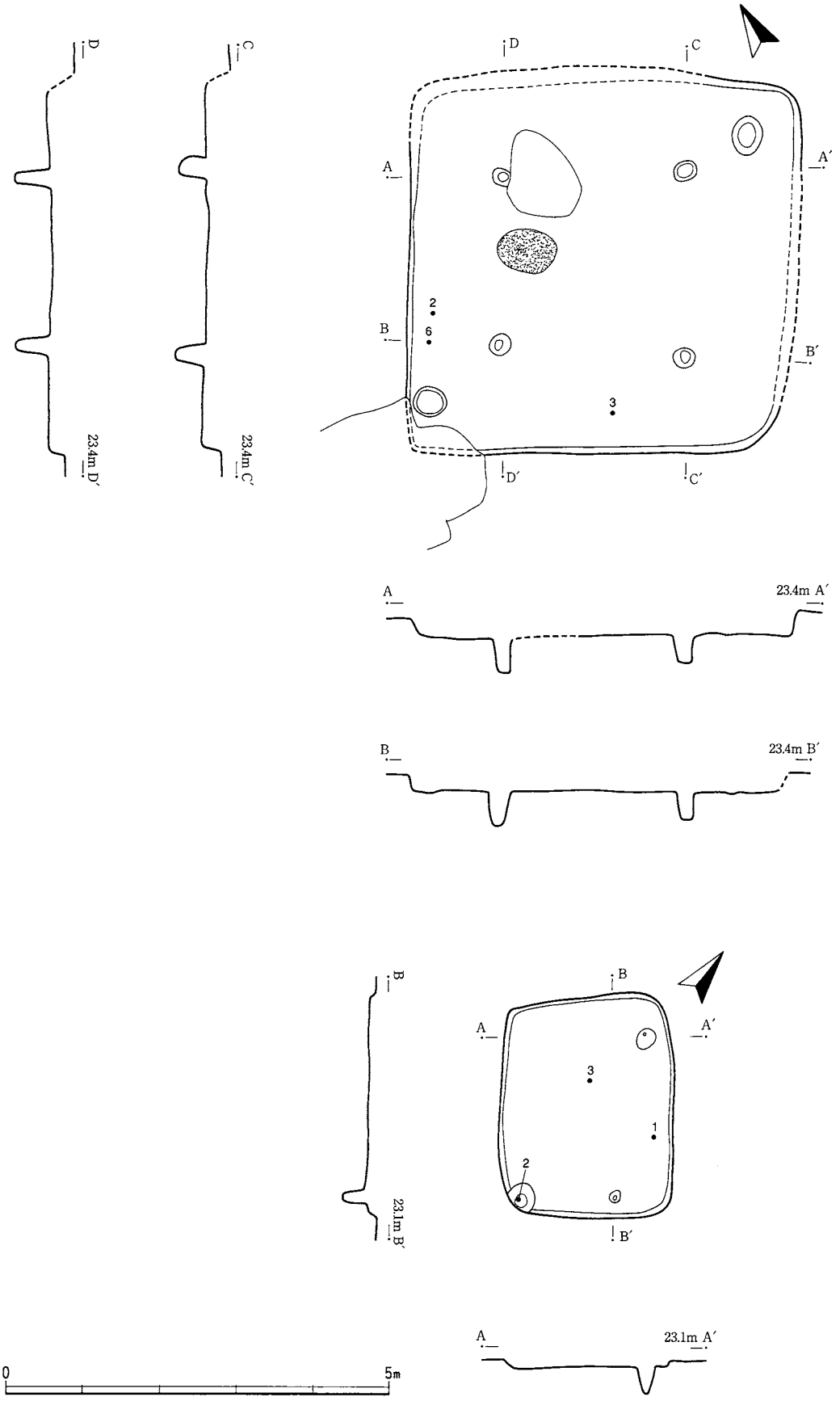
遺物の出土量は少ない。２の高杯は貯蔵穴内に落ち込むような状態で出土している。１の高杯と３の器台は床面から，４の甕は埋土中からの出土である。

005号竪穴住居跡（第21図，図版７，竪穴住居跡計測表209頁）

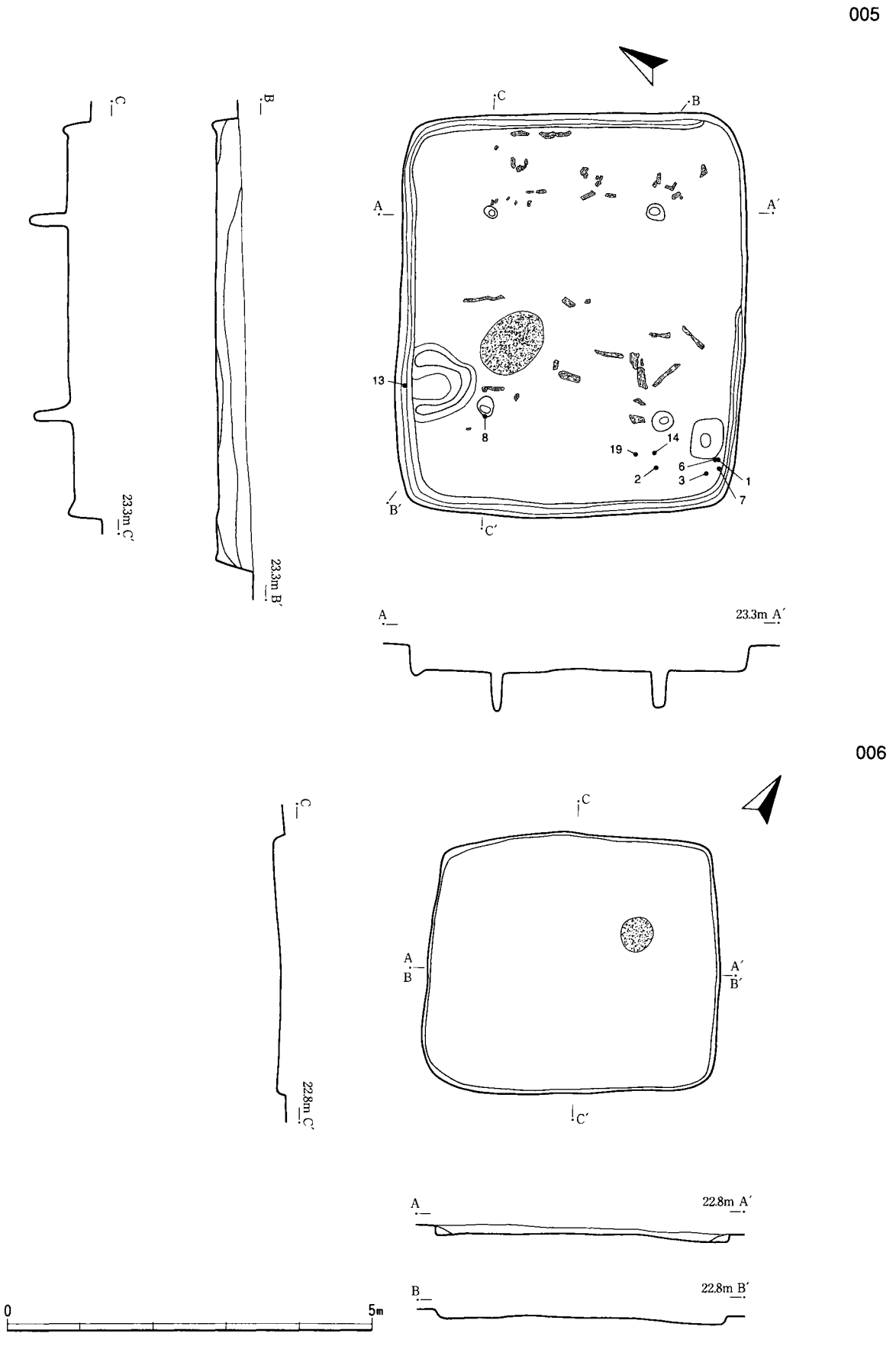
東側調査区のＪ7・8グリッドの位置にあり，調査範囲の最も南である。重複する遺構はない。平面形は長方形である。東側の一部を除いて，壁溝が巡っている。主柱穴は４本検出することができた。貯蔵穴は南側角の壁に寄った位置にある。大きさは長辺0.53m，短辺0.43mの長方形で，床面からの深さは0.45mである。貯蔵穴の反対の壁に寄った位置に，「Ｕ」字形の低い土手状の高まりが巡り，その中は周辺の床面よりわずか0.1mほど低くなっている。埋土はローム粒を多量に含む暗褐色土が主体で，壁際にはローム粒を主体とする暗黄褐色土が堆積している。床面付近から比較的大型の炭化材が出土している。

炉は北西の土手状の高まりに接した，主柱穴の内側にある。大きさは長径0.99m，短径0.7mの楕円形で，床面からの深さは0.05mである。

遺物の出土量は比較的多いが，完形品になるものは少ない。７は１・３・６に挟まれて，折り重なるような出土状態である。2・8・14・19は床面付近から出土しているが，そのほかは埋土中から出土している。



第20図　002·004号竪穴住居跡



第21図　005・006号竪穴住居跡

006号竪穴住居跡（第21図，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＩ7グリッドの位置にある。本遺構の東には当該時期の遺構はなく，集落の東のはずれに当たるものと思われる。重複する遺構はないが，検出面から床面までの掘込みは全体的に浅い。平面形は長方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土はローム粒を若干含む黒褐色土が主体で，壁際にローム粒を主体とする暗黄褐色土が堆積している。

炉は北側角に寄った位置にある。大きさは径0.45m前後のほぼ円形で，掘込みはほとんどないが，火床部の焼土化が著しい。

遺物の出土量は少なく，図示したものはすべて埋土内から出土している。

007号竪穴住居跡（第22図，図版７，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＪ7グリッドの位置にある。南側は調査区外に入るため，遺構全体の約半分だけを検出することとなった。検出面から床面までの掘込みは全体的に浅い。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁寄りにあり，大きさは長径0.51m，短径0.45mで，床面からの深さは0.34mである。埋土は焼土粒とローム粒をわずかに含む暗褐色土の単一層で，壁際にわずかに暗黄褐色土が堆積している。

炉は北側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.72m，短径0.51mの楕円形である。

遺物の出土量は多くないが，東側の壁に寄った位置から集中して出土している。特に，６の壷，９～12の甕は破砕されたような状態で，まとまって出土している。

008号竪穴住居跡（第22図，図版８，竪穴住居跡計測表209頁）

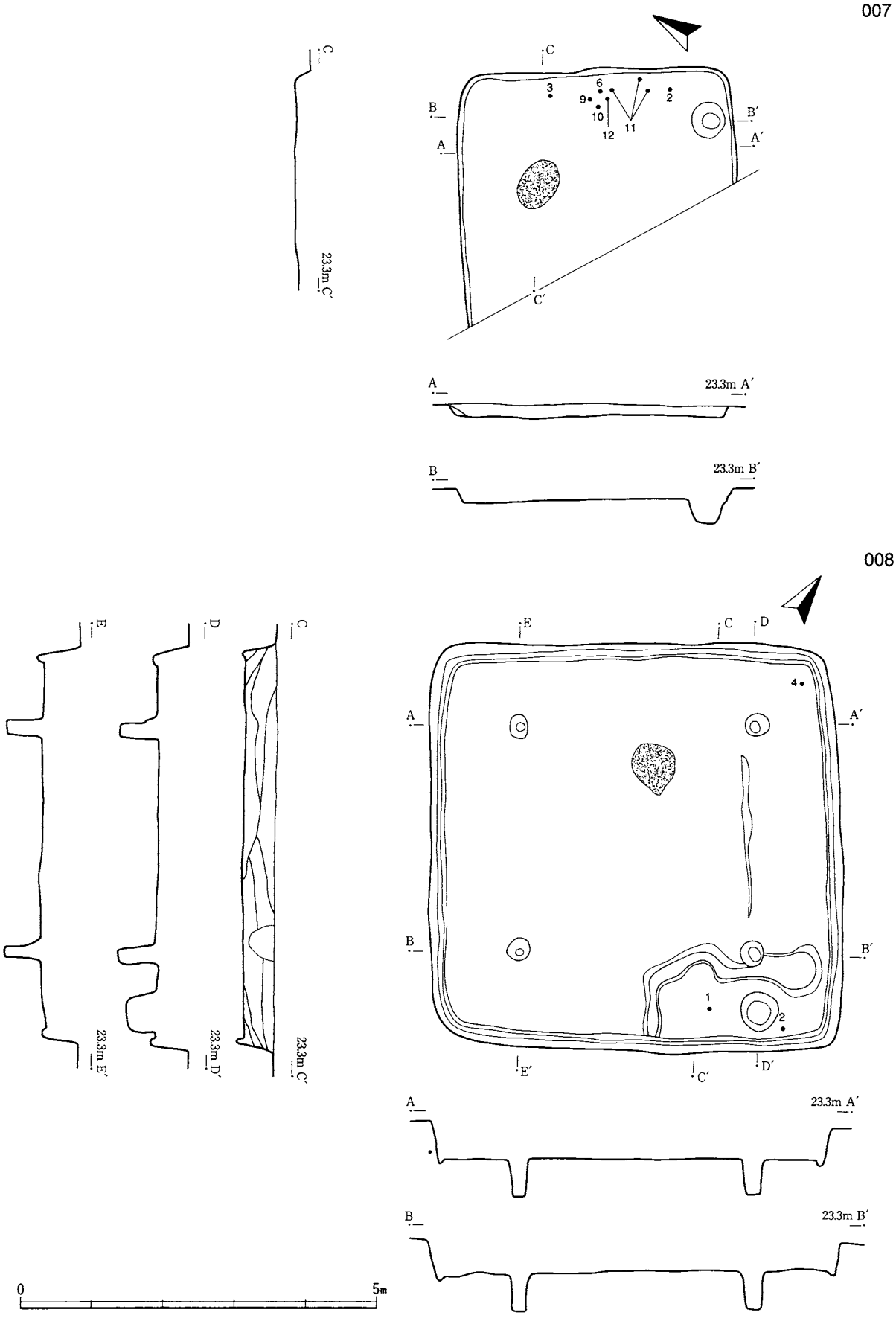
東側調査区のＪ7グリッドの位置にある。北西側のごく一部で，014号竪穴住居跡と重複している。平面形は方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は４本検出することができた。柱穴の外側は四方とも床面が堅く踏み固められており，北東側はわずかではあるが，一段高くなっている。東側角の柱穴の外側は土手状の高まりが巡り，その内側に貯蔵穴がある。貯蔵穴の大きさは長径0.53m，短径0.51mのほぼ円形で，床面からの深さは0.42mである。埋土はローム粒やロームブロックを多量に含んだ黒褐色土や暗黄褐色土とローム粒をあまり含まない黄褐色土や黒色土が交互に堆積していることから，人為的に埋め戻された可能性も考えられる。

炉は北西の壁に寄った柱穴の内側にある。大きさは長径0.62m，短径0.6mで，床面からの深さは0.1m前後である。火床部は住居跡の内側に寄った部分が比較的よく焼土化している。

遺物の出土量は少ない。１の壷と４の小型坩は床面から，３の小型坩は貯蔵穴に隣接した柱穴の中から，そのほかは埋土中からの出土である。

009号竪穴住居跡（第23図，図版８，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＪ7グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は検出できなかった。東側の壁寄りの位置に径0.2m前後で，床面からの深さが0.2mのピットが２つあるが，性格は不明である。貯蔵穴は東側角と南側角にある。東側角の貯蔵穴は長辺0.99m，短辺0.71mの長方形で，床面からの深さは0.26mである。南側角の貯蔵穴は長径0.6m，短径0.42mの円形で，床面からの深さは0.4mである。



第22図　007・008号竪穴住居跡

炉は北西の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.85m，短径0.76mの楕円形で，床面からの深さは0.1mである。

遺物の出土量はさほど多くないが，南側角に集中して出土している。床面より若干高い位置であることから，投棄されたものと思われる。

013号竪穴住居跡（第23図，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＩ7グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，検出面から床面までの掘込みが全体的に浅い。特に，東側は浅く，壁の立ち上がりの検出が困難な部分もあった。平面形は方形である。主柱穴は検出できなかった。床面は全体的に軟弱である。焼土の堆積はわずかであったが，床面の一部が焼けていた。貯蔵穴は西側角の壁際にある。大きさは長径0.67m，短径0.64mのほぼ円形で，床面からの深さは0.43mである。東側角の壁際に長径0.7m，短径0.65mで，床面からの深さが0.16mのほぼ円形のピットがあるが，性格は不明である。

炉は南側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.48m，短径0.4mで，床面からの深さは0.05mである。火床部は住居跡の内側に寄った部分が比較的よく焼土化している。

遺物の出土量は土器片が数点と極めて少なく，図示できるものはなかった。

014号竪穴住居跡（第24図，図版８，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＪ7グリッドの位置にある。東側角の一部が008号竪穴住居跡と重複している。平面形は長方形である。検出面から床面までの掘込みは全体的に浅く，床面には木の根による攪乱が数か所みられる。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

炉はやや南東側の壁に寄っているが，ほぼ中央にある。大きさは長径0.62m，短径0.55mで，床面からの深さは0.05mである。火床部は南東側の部分が比較的よく焼土化している。

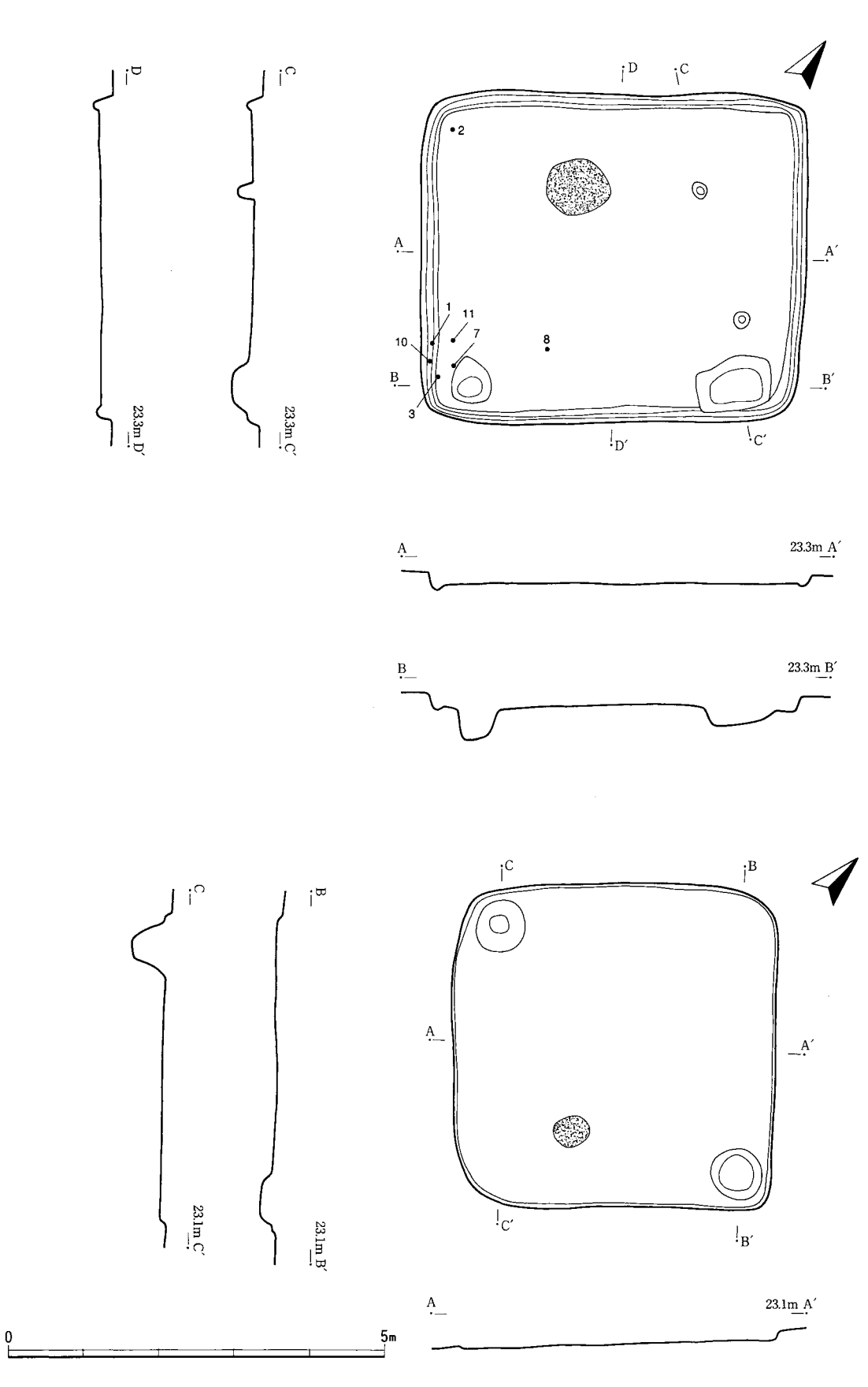
遺物の出土量は非常に少なく，図示できたものは１の軽石のみである。

016号竪穴住居跡（第24図，図版９，竪穴住居跡計測表209頁）

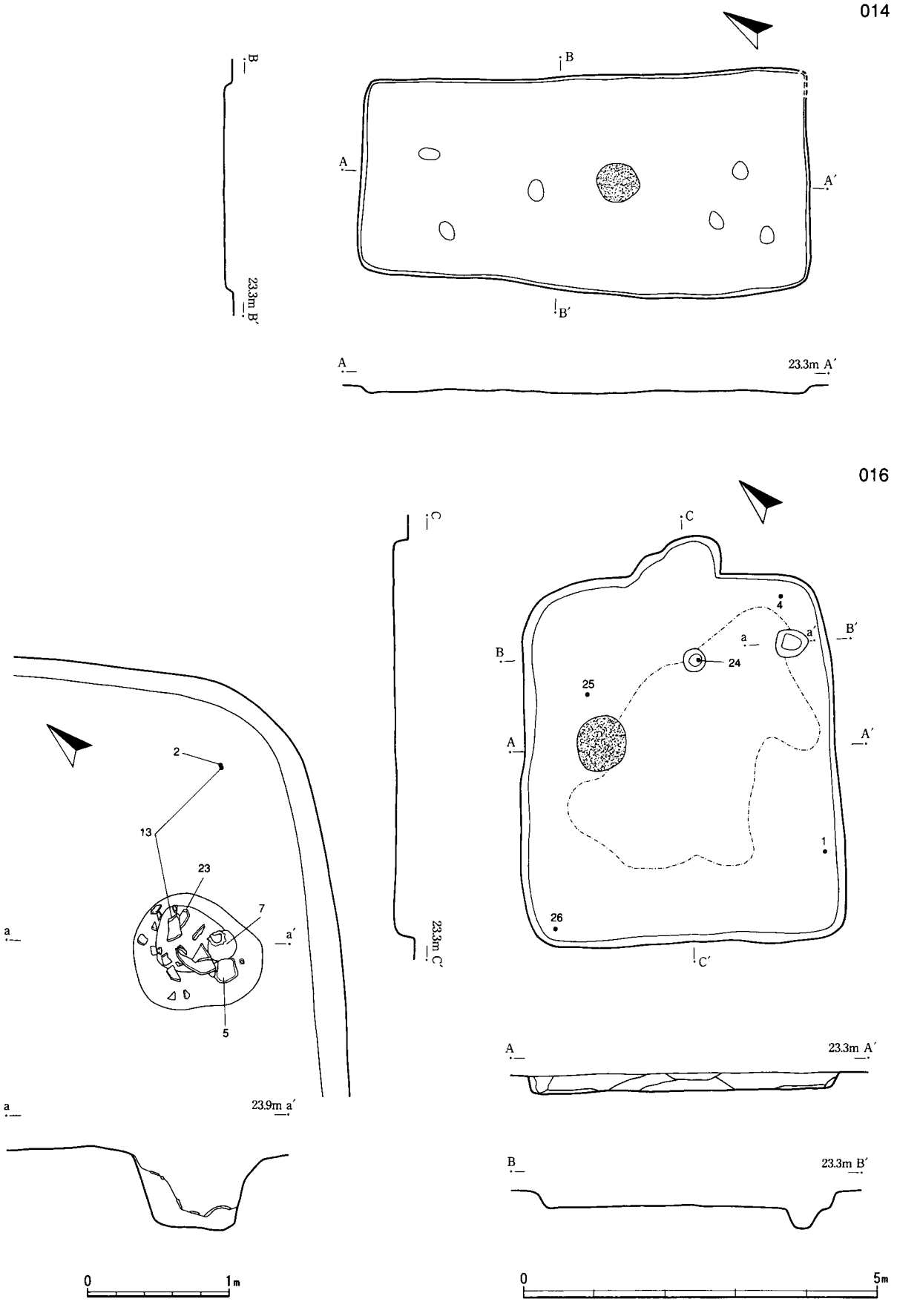
東側調査区のＪ6グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。北東側の壁のほぼ中央部に，幅1.3m，長さ0.5mのやや不整形の張出し部がある。床面は破線で示した範囲が特に堅く踏み固められている。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは長径0.42m，短径0.4mで，床面からの深さは0.26mである。北東側の壁に寄った位置に径0.3mほどのピットがあるが，性格は不明である。埋土はローム粒や焼土粒を含んだ黒褐色土が中央部分に堆積し，その周辺にはローム粒をわずかに含んだ暗褐色土が堆積している。このような堆積状態から人為的に埋め戻された可能性が考えられる。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.76m，短径0.68mの楕円形で，床面からの深さは0.1mほどである。埋土は焼土を多量に含んでいることから，長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

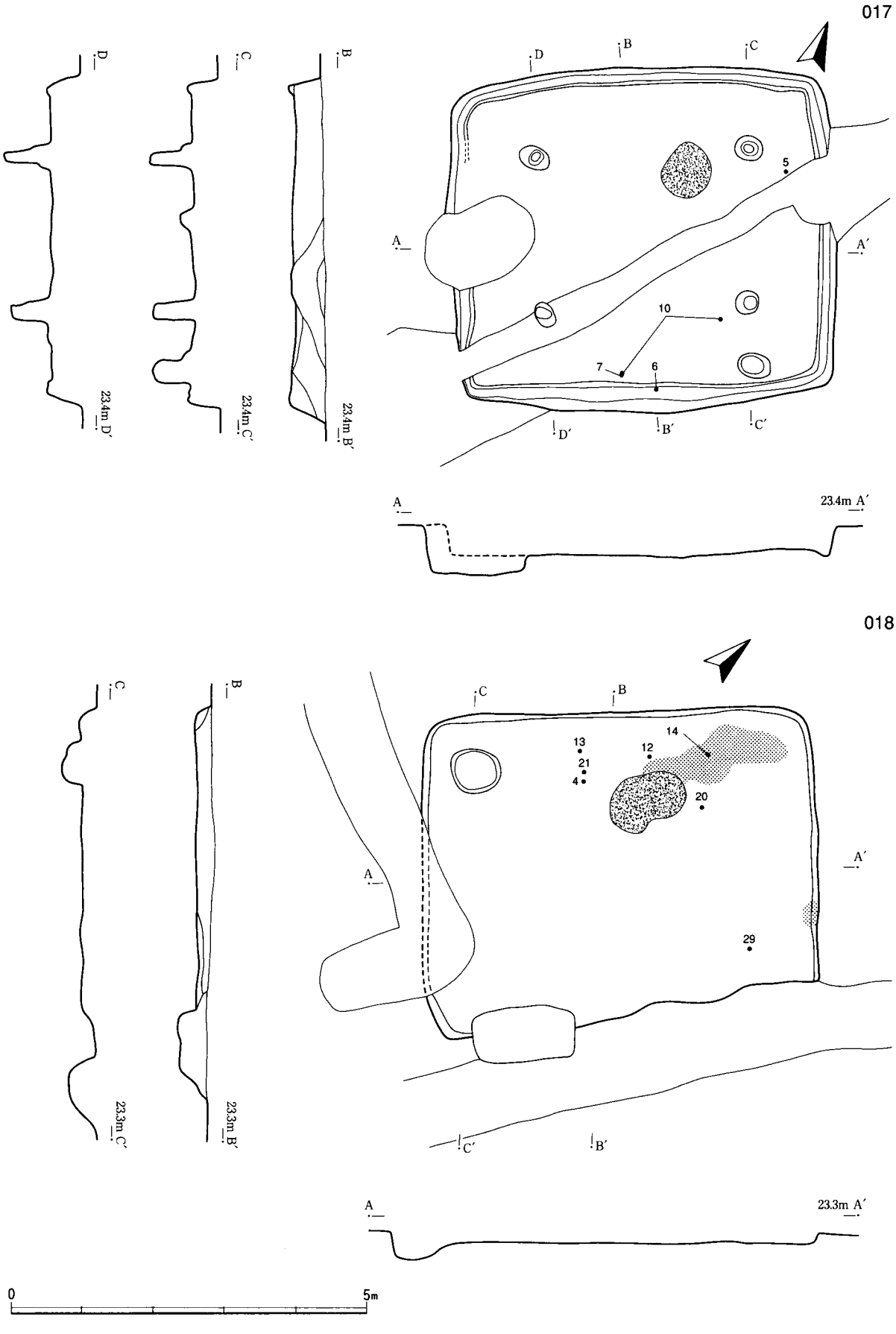
遺物の出土量はさほど多くないが，貯蔵穴の中及びその周辺にまとまって出土している。２の壷と４の小型坩は床面から出土しているが，13の甕は２の壷と同じ位置から出土した破片と貯蔵穴内から出土した



第23図　009・013号竪穴住居跡



第24図　014・016号竪穴住居跡



第25図　017・018号竪穴住居跡

破片が接合していることなどから，貯蔵穴の中及びその周辺の土器は投棄されたものと考えられる。1の壷は埋土の比較的浅い位置から出土している。24の土玉はピットの中から，25の土玉は床面から出土している。また，26の石製垂飾品は西側角の壁際の埋土中から出土している。

017号竪穴住居跡（第25図，図版9，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のK7グリッドの位置にある。遺構中央部は037号溝によって床面まで破壊されている。また，西側の壁部分は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。壁溝は西側の攪乱されている周辺が不明確であるが，全体に巡っていると考えられる。掘込みは深く，ハードローム面まで掘り込まれている。床面は中央部分が比較的堅く踏み固められている。主柱穴は4本検出できた。貯蔵穴は検出できなかった。南東角の壁際に長径0.45m，短径0.33mで，床面からの深さが0.56mの楕円形のピットがあるが，貯蔵穴としては小さく，性格は不明である。埋土はローム粒を含んだ比較的しまりのある黒褐色土が主体で，壁際にロームブロックを多く含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は北側の壁に寄った柱穴の内側にある。大きさは長径0.73m，短径0.65mの楕円形で，床面からの深さは0.05mである。

遺物の出土量は比較的少なく，破片資料のみである。6・7・9・10の甕と8の台付甕の破片が床面から出土しているが，そのほかはすべて埋土中から出土している。

018号竪穴住居跡（第25図，図版10，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のK6・K7・J6・J7グリッドにまたがった位置にある。東側の壁部分は037号溝に，南側の壁の一部は038号溝によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は西側角の壁際にある。大きさは長径0.68m，短径0.62mのほぼ円形で，床面からの深さは0.28mである。埋土はローム粒をわずかに含んだ黒褐色土が主体で，床面付近と壁際には暗黄褐色土が堆積している。壁に寄った2か所に焼土と炭化物が堆積している。床面が焼けているような状況はみられないことから，二次的な堆積と考えられる。

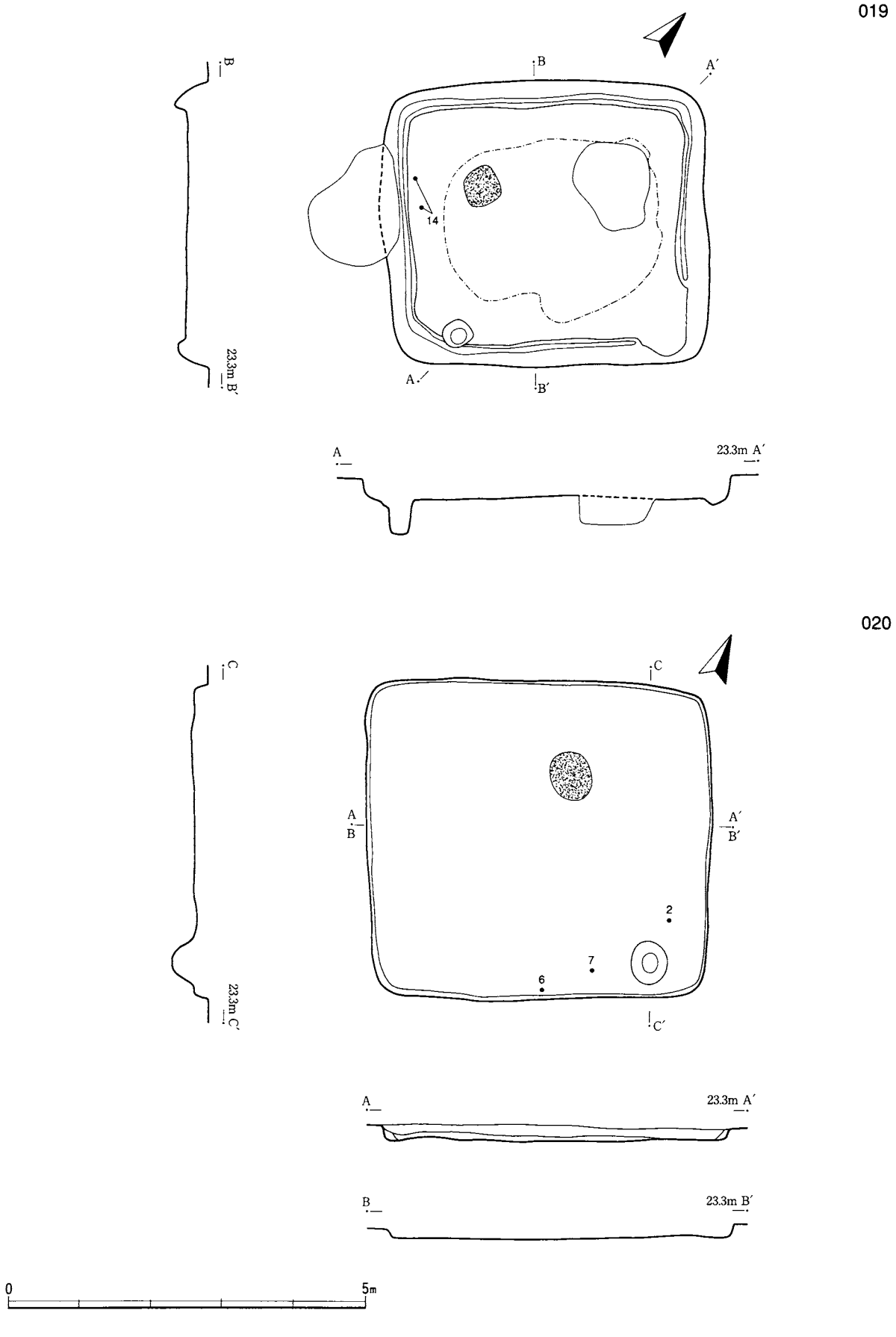
炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径1.11m，短径0.68mの楕円形で，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土粒や焼土ブロックを多く含み，長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は比較的多いが，いずれも破砕されているもので，器形の全体を復元できたものはない。4の壷，13の器台と29の勾玉は床面から出土しているが，そのほかはすべて埋土中から出土している。

019号竪穴住居跡（第26図，図版10，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のK6グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，南西側の壁の部分と北側の壁寄りの部分は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。壁溝は東側角付近を除いて巡っている。床面は破線の範囲が比較的堅く踏み固められている。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。南側角の壁際に長径0.4m，短径0.37mで，床面からの深さが0.46mのピットがあるが，性格は不明である。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土が主体で，その上に黒色土が堆積している。

炉は西側角の壁に寄った位置にある。大きさは一辺約0.5mのほぼ四角で，床面からの深さは0.1mであ



第26図　019・020号竪穴住居跡

る。埋土は焼土層が厚く堆積していることから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は比較的少なく，破片資料がほとんどである。すべて埋土中から出土している。

020号竪穴住居跡（第26図，図版11，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のK6グリッドの位置にある。重複する遺構はない。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。平面形はほぼ方形である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは長径0.6m，短径0.5mの楕円形で，床面からの深さは0.34mである。埋土は黄褐色土の上にローム粒をわずかに含んだ黒褐色土が堆積し，壁際には暗黄褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.71m，短径0.58mの楕円形で，床面からの深さは0.05mである。埋土は焼土粒が少なく，使用された期間が短かったものと考えられる。

遺物の出土量は少なく，破片資料のみである。図示したものはいずれも埋土中からの出土である。

021号竪穴住居跡（第27図，図版11，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のJ6・K6グリッドにまたがる位置にある。重複する遺構はないが，南側角の壁の部分は土坑状の攪乱によって破壊されている。平面形はほぼ方形である。検出面から床面までの掘込みは浅く，東側の壁の立ち上がりを平面的に確認することができず，セクションによって復元した。床面は破線の範囲が比較的堅く踏み固められている。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。西側角の壁よりの位置に径0.3mで，床面からの深さが0.49mのピットがあるが，性格は不明である。このピットの周辺の床面は木の根によると思われる攪乱が及んでいる。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土が主体で，壁際に暗褐色土が堆積している。北西の壁よりの部分に焼土の堆積がみられた。

炉は検出できなかった。

遺物の出土量はあまり多くなく，すべて埋土中の出土で，床面より高い位置である。3の甕のように破片が竪穴住居跡全体に散っていることなどから，すべて投棄されたものと考えられる。

022号竪穴住居跡（第27図，図版12，竪穴住居跡計測表209頁）

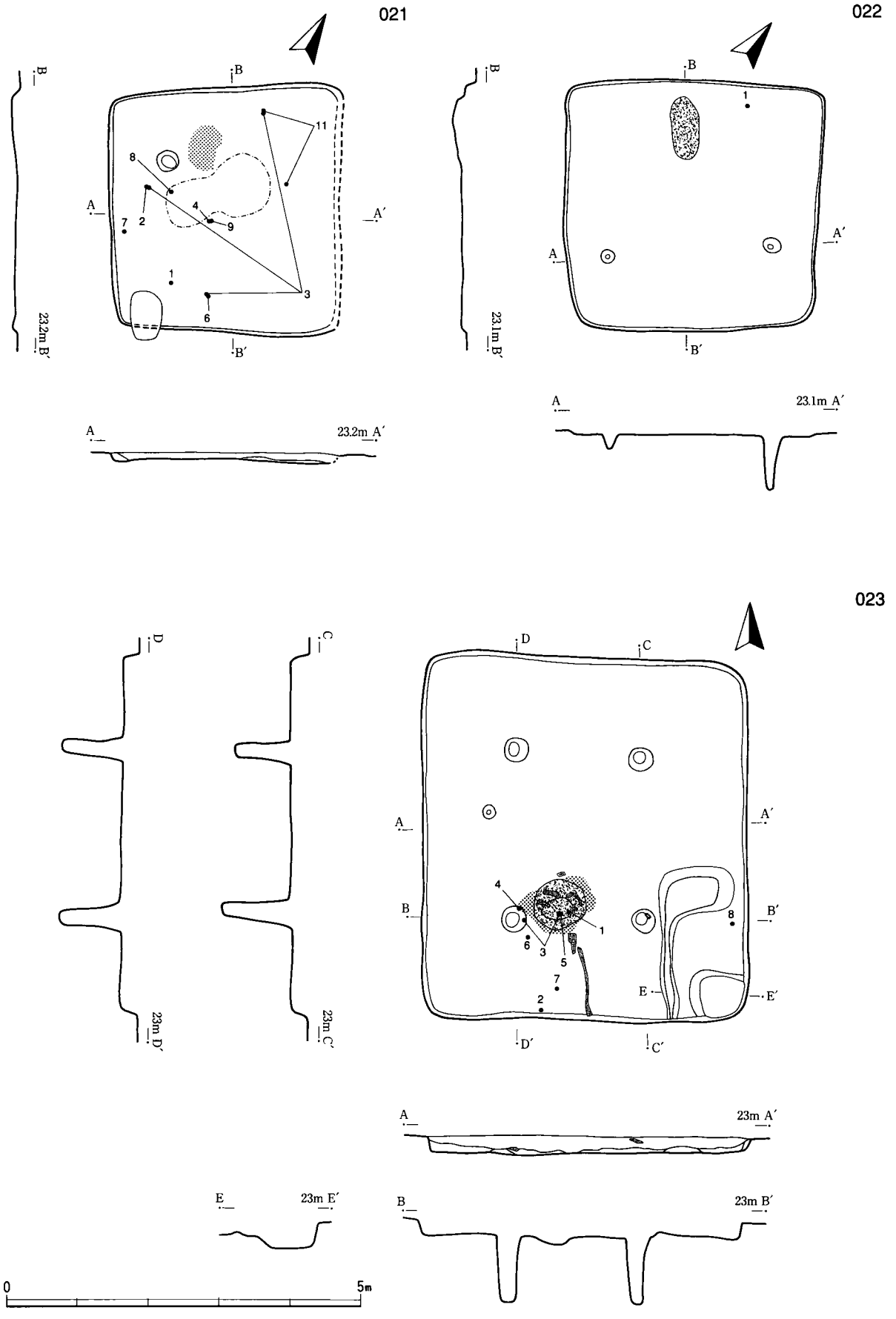
東側調査区のI6グリッドの北西の位置にある。重複する遺構はない。平面形はほぼ方形である。掘込みは浅いが，床面は全体的に比較的堅く踏み固められている。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。南東側の壁に寄った位置に，壁に平行してピットが2つある。西側のピットは径0.19mで，床面からの深さは0.22mである。東側のピットは径0.2～0.27mで，床面からの深さは0.75mである。深さに大きな差があり，柱穴とは考えられず，性格は不明である。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土である。

炉は北西側の壁際にある。大きさは長径0.88m，短径0.38mの楕円形で，長軸は竪穴住居跡の短軸方向と同一である。

遺物の出土量は非常に少なく，すべて破片資料で，埋土中から出土している。

023号竪穴住居跡（第27図，図版12，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のJ6グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。床面は壁の周



第27図　021・022・023号竪穴住居跡

辺は軟弱であるが，全体的に堅く踏み固められている。主柱穴は4本検出できた。南東側角を取り囲むように，土手状の高まりが巡っている。貯蔵穴は，その土手の内側の壁際にある。大きさは長辺0.75m，短辺0.65mの長方形に近い形で，床面からの深さは0.18mである。西側の壁に寄った位置に，径0.17～0.2mのピットがある。西側の主柱穴にほぼ並んでいることから，支柱穴の可能性が考えられる。埋土は黒褐色土が主体で，床面付近にはローム粒と炭化物を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は南側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径1.1m，短径0.78mの楕円形で，床面からの深さは0.1mである。長径の軸は竪穴住居跡の短軸方向と同じである。埋土は焼土層や焼土粒と炭化物を多量に含んだ暗褐色土が厚く堆積していることから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くないが，全体の器形を復元することができるものが多い。特に，図示した遺物のうち，多くが床面と同じ高さで，炉の上に集中していることから，竪穴住居跡を廃絶する時点で，意図的に炉の上に投棄した可能性が考えられる。

024号竪穴住居跡（第28図，図版13，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＪ5グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，北西側の壁の一部は，木の根の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形はほぼ方形である。主柱穴は4本検出できた。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは長径0.73m，短径0.65mの楕円形で，床面からの深さは0.38mである。埋土はローム粒を多量に含み，褐色土と黒色土が混合している黒褐色土を主体とし，床面付近にはローム粒を含んだ黒色土が，壁際にはローム粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径0.73m，短径0.58mの楕円形で，床面からの深さは0.1mである。埋土は焼土層や焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積していることから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くないが，北西側の壁に寄った位置に集中している。2の壷と，11の甕は床面より高い位置から出土している。1・3の壷，5の鉢，6の高杯，7の甕，12の台付甕は床面付近であるが，いずれも破砕されたような状況である。4の小型坩は貯蔵穴の中ほどの高さから出土している。これらのことから，竪穴住居跡を廃絶した時に，投棄したものと考えられる。

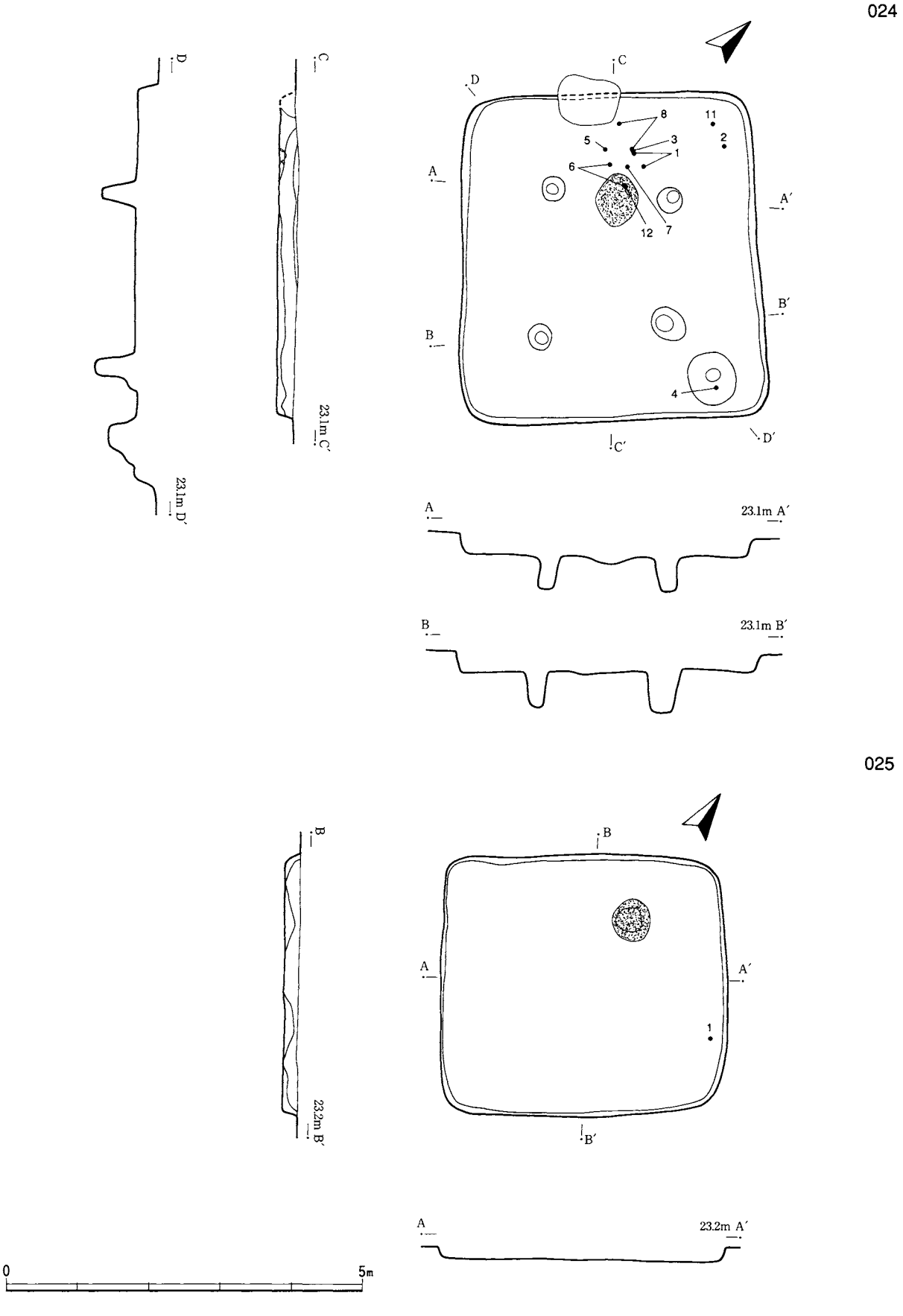
025号竪穴住居跡（第28図，図版13，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＫ6グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形はほぼ方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土は少量のローム粒とロームブロックを含んだ黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際に多量のローム粒を含んだ暗黄褐色土が堆積している。

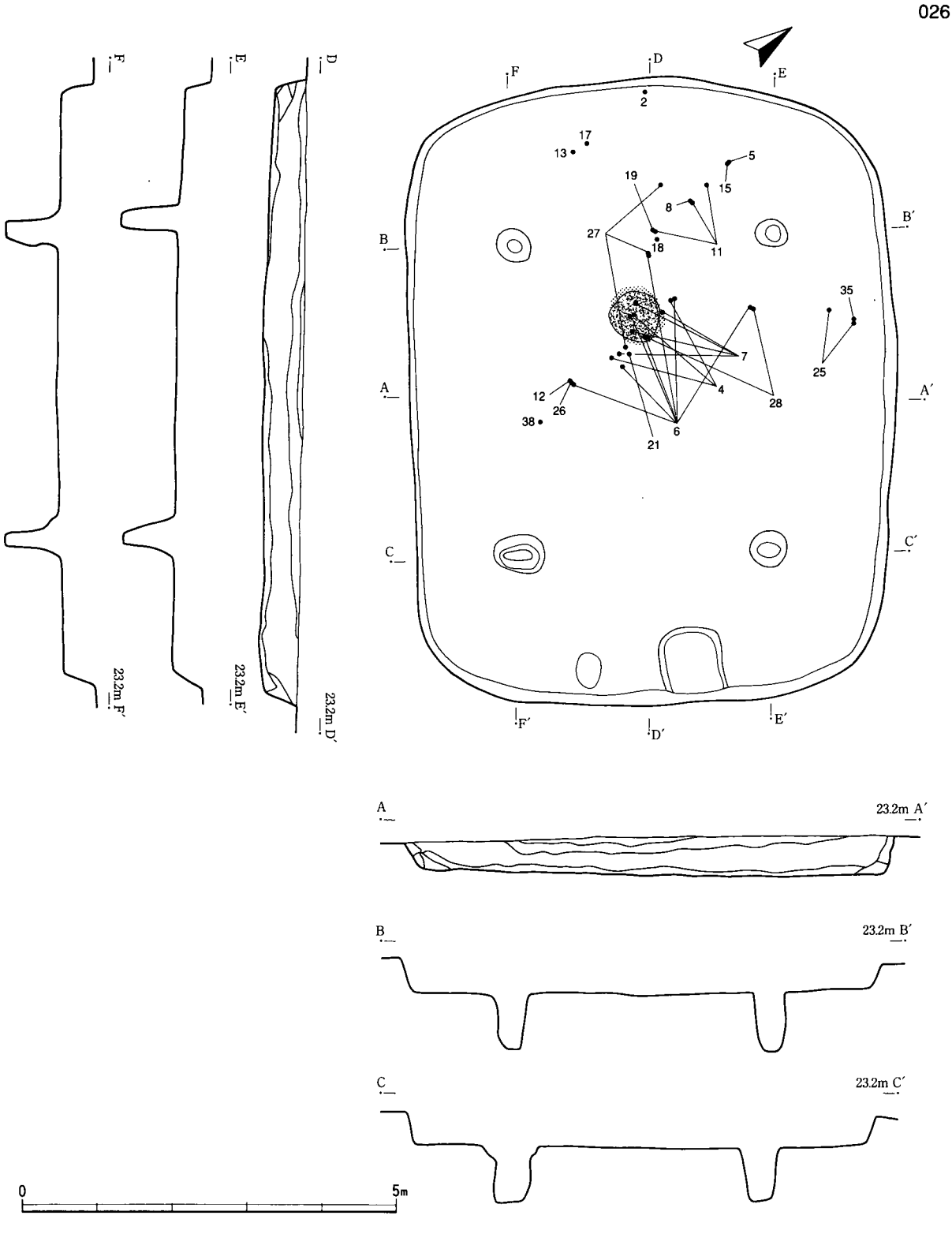
炉は北側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.59m，短径0.53mのほぼ円形で，床面からの深さは0.15mである。埋土は暗褐色土を主体とし，焼土粒が少量しか含まれていないことから，比較的短期間しか使用されていなかったものと考えられる。

遺物の出土量は極めて少なく，すべて埋土中から出土している。

026号竪穴住居跡（第29図，図版14，竪穴住居跡計測表209頁）



第28図　024・025号竪穴住居跡



第29図　026号竪穴住居跡

東側調査区のK5グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，一部木の根の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は隅丸の長方形である。検出面から床面までの掘込みは深く，床面は全体的に比較的堅く踏み固められている。主柱穴は4本検出できた。貯蔵穴は西側の壁際にある。大きさは長辺0.88m，短辺0.84mのほぼ方形で，床面からの深さは0.14mである。埋土はローム粒・ロームブロック・焼土粒をごくわずかに含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を多量に含んだ茶褐色土とローム粒・ロームブロックを少量含んだ暗褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒・ロームブロックを主体とする暗黄褐色土が堆積している。

炉は西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径0.66m，短径0.63mのほぼ円形で，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土層が厚く堆積していることから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は比較的多く，図示できたものも多いが，ごくわずかな破片を除いて，埋土の上の方から出土している。このことから，本竪穴住居跡の遺物は，竪穴住居跡がある程度埋まった時点で，投棄されたものと考えられる。

027号竪穴住居跡（第30図，図版14，竪穴住居跡計測表209頁）

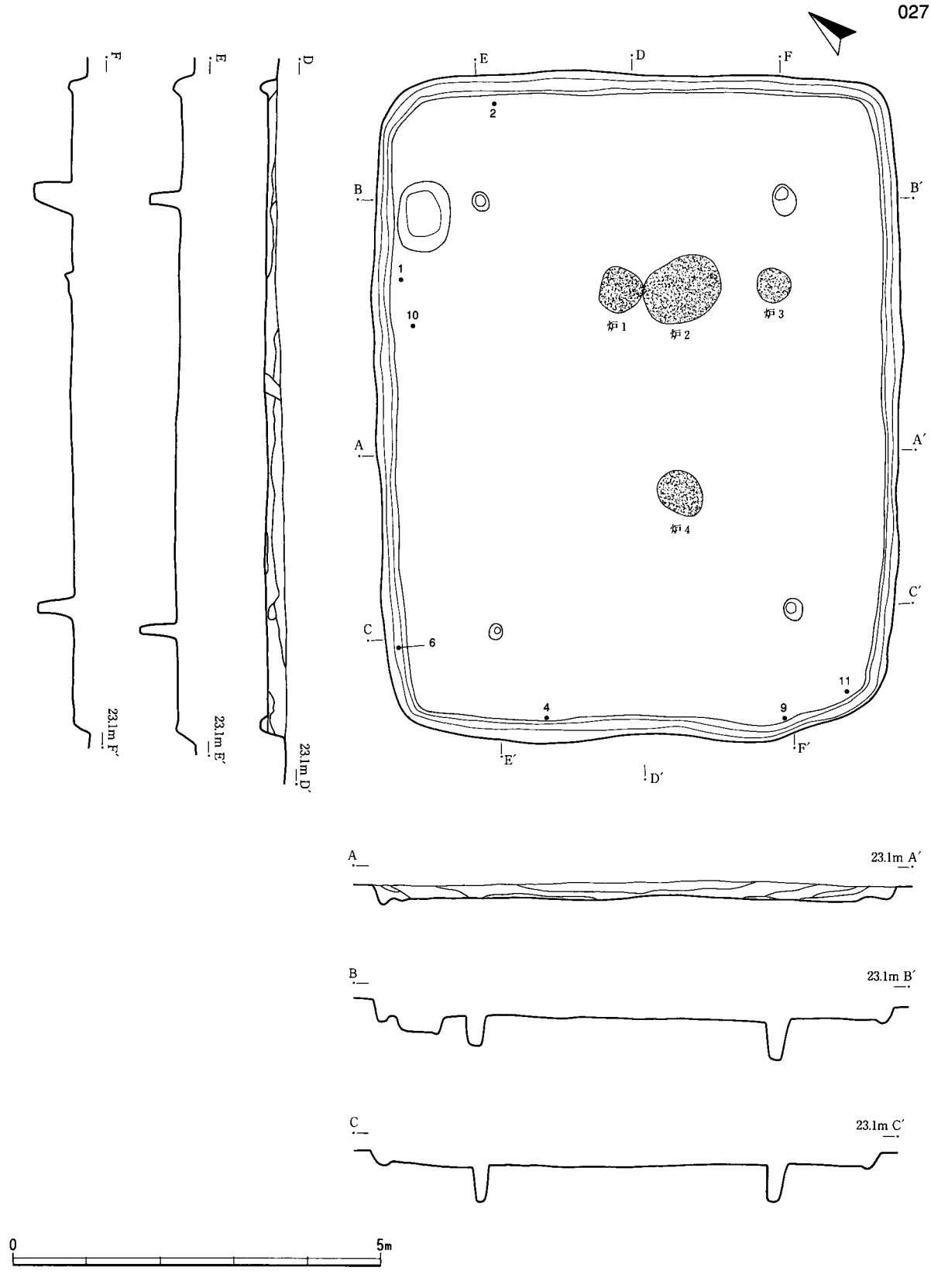
東側調査区のJ4・J5・K4・K5グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出できた。いずれも径は0.3m前後と小さい。貯蔵穴は北西側角の壁際にある。大きさは長辺1.03m，短辺0.71mの長方形で，床面からの深さは0.23mである。埋土は多量のローム粒を含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を多量に含んだ褐色土などが堆積している。

炉は北東側の壁に寄った主柱穴の内側に3か所，南西側の壁に寄った主柱穴の内側に1か所ある。大きさは炉1は長径0.59m，短径0.56mで，床面からの深さは0.1m，炉2は長径1.08m，短径0.84mで，床面からの深さは0.1m前後，炉3は長径0.47m，短径0.45mで，床面からの深さは0.06m，炉4は長径0.68m，短径0.56mで，床面からの深さは0.08mである。埋土はいずれも焼土層が厚く堆積していることから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。しかし，これらの炉が同時に使用されていたものか時間的差があるのかは不明である。

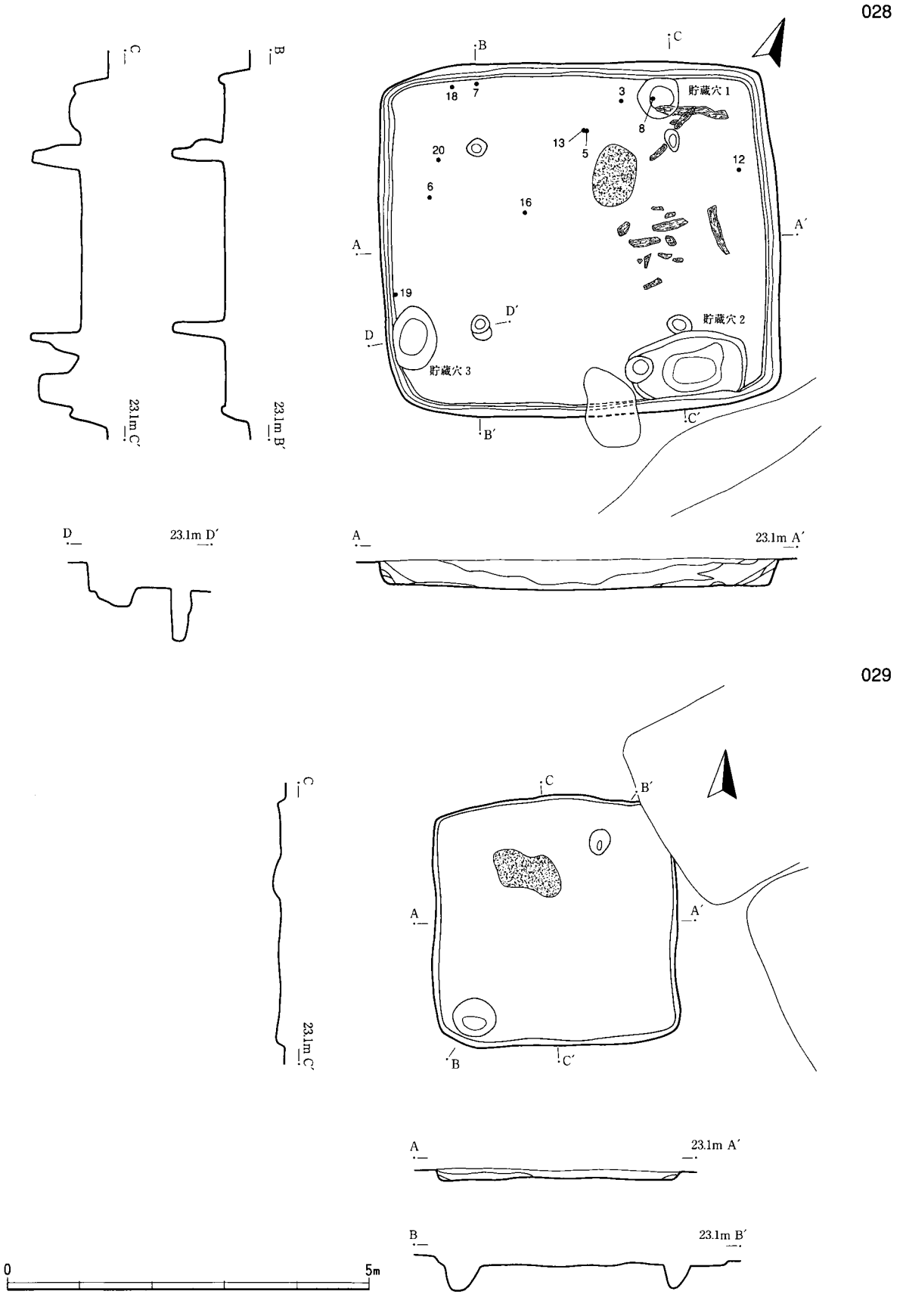
遺物の出土量はあまり多くない。壁際から出土しているものが多いが，いずれも床面より高い位置であり，投棄されたものと考えられる。

028号竪穴住居跡（第31図，図版14・15，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のJ5グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，南東側壁の一部は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出できた。いずれも径は0.3m前後と小さい。貯蔵穴は3か所ある。貯蔵穴1は長径0.57m，短径0.54mの円形で，床面からの深さは0.16mとやや浅い。貯蔵穴2は長辺1.6m，短辺0.87mの長方形で，床面からの深さは0.56mと深く，二段掘りとなっている。貯蔵穴3は長径0.83m，短径0.63mの楕円形で，床面からの深さは0.26mとやや浅い。貯蔵穴2には長径0.41m，短径0.33mのピットがあるが，性格は不明である。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土と暗褐色土を主体とし，壁際にローム粒を含んだ褐色土が堆積している。



第30図　027号竪穴住居跡



第31図　028・029号竪穴住居跡

また，床面付近には大型の炭化物がみられる。

炉は北側角の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径0.85m，短径0.58mの楕円形で，床面からの深さは0.07mと浅い。火床部は焼土化しているが，埋土は焼土粒が少ない暗赤褐色土層が堆積している。

遺物の出土量は比較的多いが，床面より高い位置から出土しているものが多く，竪穴住居跡がある程度埋まった時点で投棄されたものと考えられる。

029号竪穴住居跡（第31図，図版15，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＪ5グリッドの位置にある。北東側角で034号竪穴住居跡と重複し，新旧関係は本竪穴住居跡の方が古い。平面形は方形である。検出面から床面までの掘込みは浅い。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は南西側角の壁際にある。大きさは長径0.61m，短径0.52mの楕円形で，床面からの深さは0.34mである。北側の壁に寄った位置に長径0.34m，短径0.28mで，床面からの深さが0.32mのピットがあるが，性格は不明である。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土が主体で，西側の床面付近には暗褐色土が，壁際には褐色土が堆積している。

炉は北側の壁に寄った位置にある。大きさは長径1.05m，短径0.45mの双円形で，床面からの深さは0.05mと浅い。

遺物の出土量は極めて少なく，土器片が数点出土したのみで，図示できるものはない。

030号竪穴住居跡（第32図，図版15，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＩ5・Ｊ5グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はないが，北西側は034号竪穴住居跡に近接している。平面形は方形である。検出面から床面までの掘込みは浅い。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土は褐色土を混合する黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際はローム粒を多く含んだ暗褐色土が堆積している。

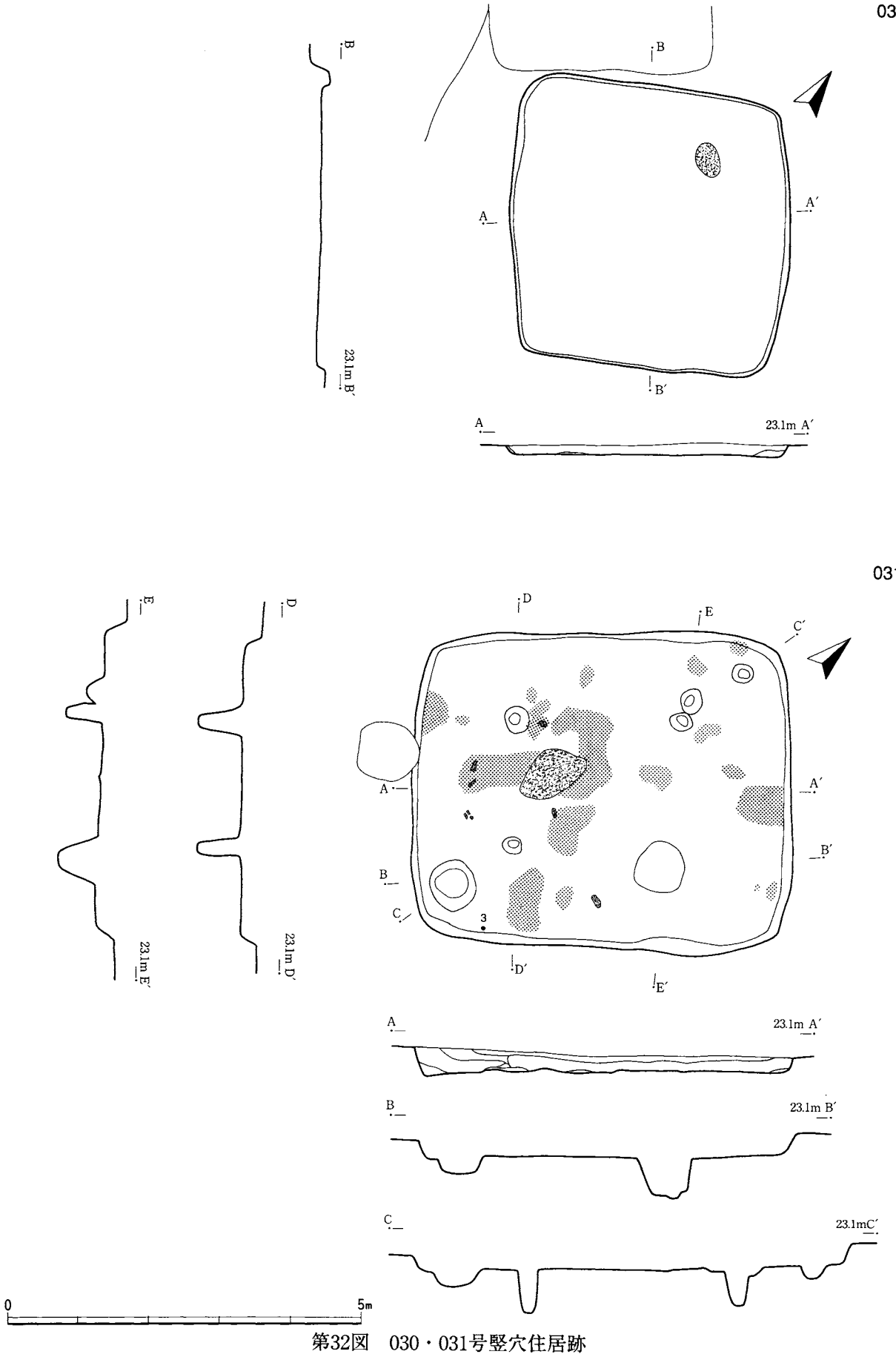
炉は北側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.5m，短径0.33mの楕円形で，床面からの深さは0.05m前後と浅い。

遺物の出土量は極めて少なく，土器片が数点出土したのみで，図示できるものはない。

031号竪穴住居跡（第32図，図版16，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＩ5グリッドの位置にある。南側で041号建物跡と重複している。新旧関係は明らかではない。平面形は長方形である。主柱穴は3本検出できた。おそらくもう1本は041号建物跡の柱穴と重複しているものと考えられる。径は0.3m前後とあまり大きくない。北側角の主柱穴に接して長径0.34m，短径0.3mで，床面からの深さが0.26mのピットがある。また，北側角の壁際に長径0.3m，短径0.26mで，床面からの深さが0.2mのピットがある。いずれも主柱穴と比べて深さが浅く，性格は不明である。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長径0.68m，短径0.63mのほぼ円形で，床面からの深さは0.25mである。埋土は多量のローム粒・ロームブロック，焼土粒と炭化物を含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を主体とした褐色土が堆積している。床面上の広い範囲に炭化物を含んだ焼土ブロックの堆積がみられる。

炉は南西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径0.79m，短径0.63mの不整形で，床面から



第32図　030・031号竪穴住居跡

の深さは0.1m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物の出土量は極めて少ない。3の器台がほぼ完形で，壁際の床面から出土したほかはすべて破片で，埋土中から出土している。

032号竪穴住居跡（第33図，図版16，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のJ5グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，南側角の壁際は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出できた。径は0.25～0.62mとバラツキがある。貯蔵穴は西側角の壁際にある。大きさは長辺0.67m，短辺0.51mの長方形で，床面からの深さは0.11mと浅い。埋土はローム粒とロームブロックを多量に含んだ暗褐色土を主体とし，その上に黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒と焼土粒を含んだ褐色土が堆積している。床面の壁際には焼土ブロックの堆積がみられる。

炉は南西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径1.1m，短径0.47mの楕円形で，長軸方向は竪穴住居跡の短軸方向と同じである。床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土層が厚く堆積していることから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くないが，床面付近から出土しているものが多い。

033号竪穴住居跡（第33図，図版17，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のI5グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は方形である。検出面から床面までの掘込みは非常に浅い。主柱穴は東西と北側角の壁際の3か所で検出できた。径は0.44～0.85mとバラツキがあり，床面からの深さは0.3m前後と比較的浅い。北西側の壁に寄った位置に長径0.36m，短径0.28mで，床面からの深さが0.11mのピットがあるが，性格は不明である。貯蔵穴は検出できなかった。床面付近に炭化物がみられる。

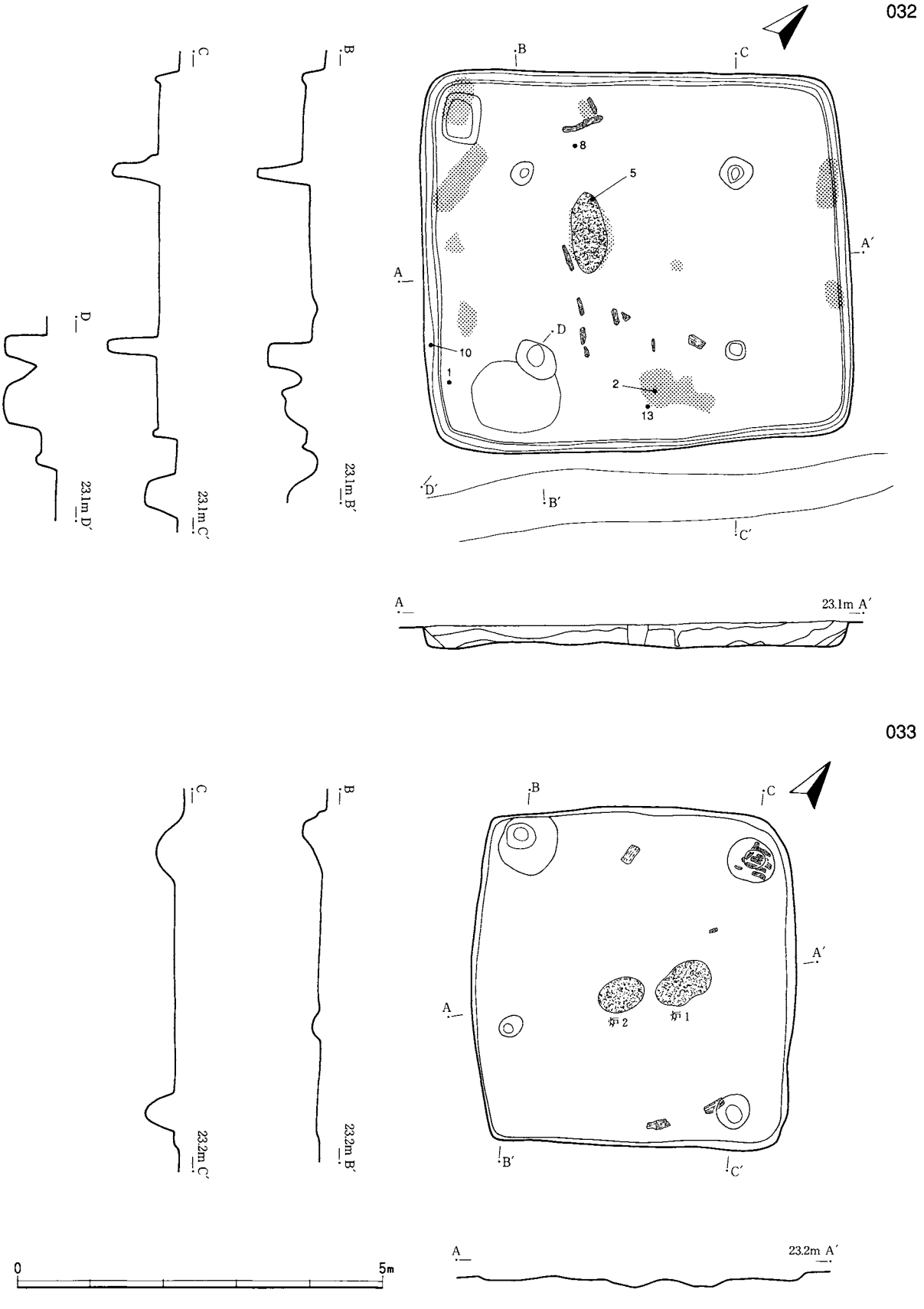
炉は竪穴住居跡のほぼ中央に2か所ある。炉1は北東側の壁に少し寄った位置にあり，大きさは長径0.8m，短径0.46mの楕円形で，床面からの深さは0.08mである。炉2は長径0.64m，短径0.46mの楕円形で，床面からの深さは0.08mである。いずれも焼土層が比較的厚く堆積している。2つの炉が同時に使用されていたのか，時間差があるのかは不明である。

遺物の出土量は土器片が2点のみで，図示できるものはない。

034号竪穴住居跡（第34図，図版15，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のI5・J5グリッドにまたがった位置にある。南西側の壁部分が029号竪穴住居跡と重複し，新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。平面形は長方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。東側角の壁際に長径0.37m，短径0.34mの円形で，床面からの深さが0.27mのピットがある。位置的には貯蔵穴とも考えられるが，小さすぎるように思われる。埋土はローム粒，ロームブロックを含んだ黒褐色土を主体とし，その上に混入物の少ない黒褐色土が堆積している。壁際にはローム粒や焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。床面付近には焼土ブロックの堆積がみられる。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.6m，短径0.45mの楕円形で，床面からの深さは0.08m前後である。埋土は焼土層とローム粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。



第33図　032・033号竪穴住居跡

遺物の出土量は少ない。いずれも床面よりやや高い位置から出土している。3の器台はピットの上面から出土しており，ピットが埋まった時点で投棄されたものと考えられる。

035号竪穴住居跡（第34図，図版17，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のJ5グリッドの位置にある。西側の壁の一部を037号溝によって破壊されている。また，竪穴住居跡内部の西寄りの部分を土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は隅丸の長方形である。床面はほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。主柱穴は4本検出できた。径は0.2m前後と小さい。南東側の壁に寄った位置に径0.22mで，床面からの深さが0.12mのピットがある。位置的に出入口に関係するものと考えられる。貯蔵穴は検出できなかった。埋土はローム粒を比較的多く含んだ黒色土を主体とし，その上と下にはローム粒を多量に含んだ黒褐色土が堆積している。壁際には褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。壁寄りの約半分は攪乱によって破壊されている。大きさは竪穴住居跡の長軸方向で0.52m，短軸方向で0.68mが遺存している。床面からの深さは0.08m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物の出土量はそれほど多くない。すべて破片資料で，埋土中から出土している。

036号竪穴住居跡（第34図，図版17，竪穴住居跡計測表209頁）

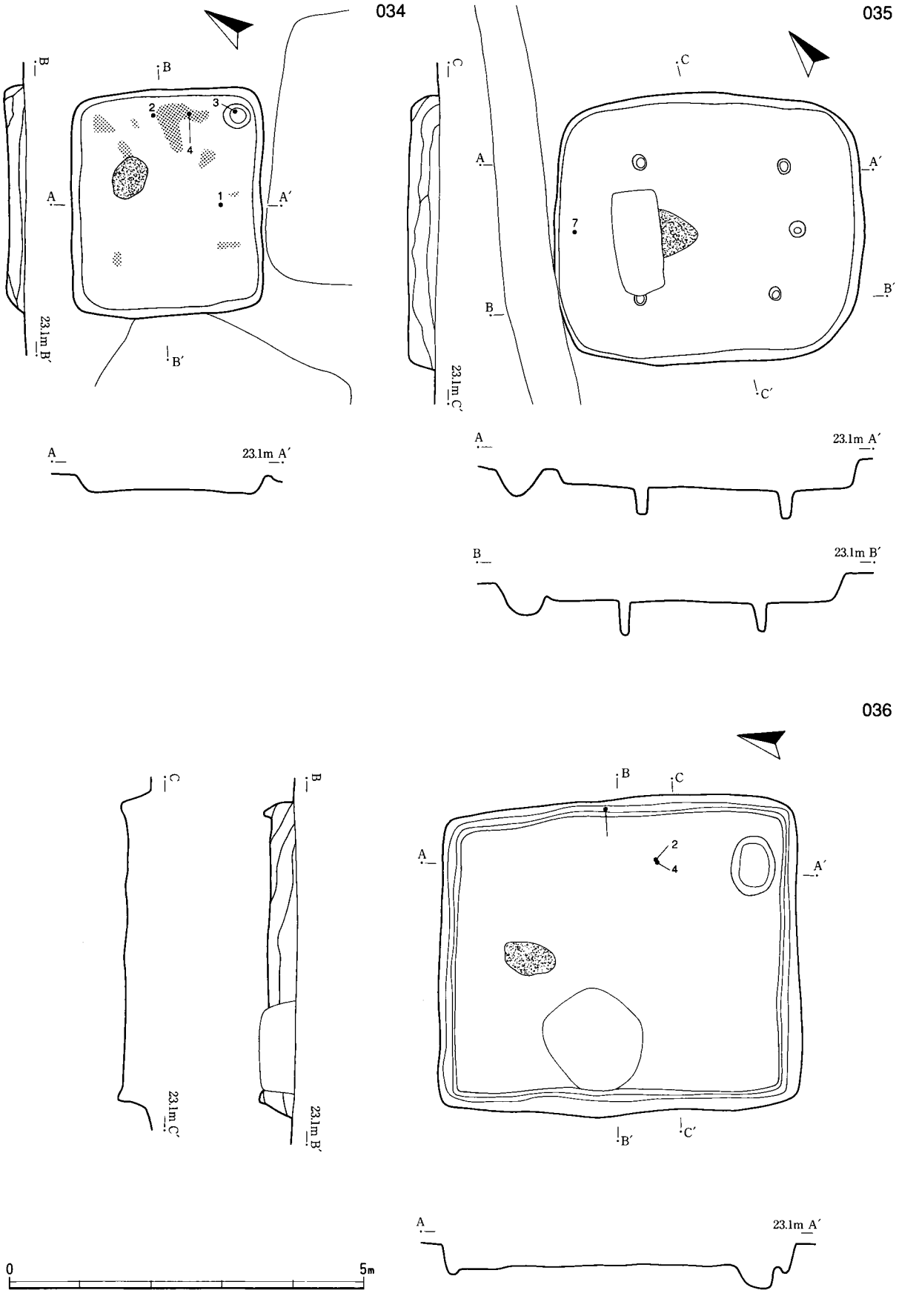
東側調査区のJ4・J5グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はないが，西側の壁際は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。床面は全体的によく踏み固められている。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は南東側角の壁際にある。大きさは長径0.82m，短径0.62mの楕円形で，床面からの深さは0.34mである。埋土はローム粒，ロームブロックを多量に含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒を多量に含んだ黒褐色土が堆積している。壁際には褐色土が堆積している。

炉は北側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.76m，短径0.47mの楕円形で，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積していることから，比較的長期間にわたって使用されていたと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くない。破片資料のみで，ほとんどが埋土中から出土している。

039号竪穴住居跡（第35図，図版18，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のL6グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は検出できなかった。南側角に床面より0.05m前後高い，三角形の範囲で高まりがみられる。また，南東側の壁際にも床面より0.1m前後高い，ブロック状の高まりがみられる。これらの高まりの性格は不明である。南側角の壁寄りの位置に長辺0.48m，短辺0.39mの長方形で，床面からの深さが0.57mのピットと，長径0.39m，短径0.34mの円形で，床面からの深さが0.58mのピットがある。これらのピットの西側には長径0.19m，短径0.13mで，床面からの深さが0.25mの小さなピットがある。これら3つのピットは性格は不明である。北東側の壁に寄った位置に長径0.27m，短径0.24mで，床面からの深さが0.33mのピットがある。位置的には出入口に関係するものと考えられる。貯蔵穴は北側の壁際にある。



第34図　034・035・036号竪穴住居跡

大きさは径1.1mの円形で，床面からの深さは0.34mである。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒とロームブロックを多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は北西側に壁に寄った位置にある。大きさは長径1.29m，短径１mで，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土粒を多量に含む暗褐色土や黒褐色土が堆積している。

遺物の出土量は比較的多く，完形や完形に近いものもみられる。壷や甕などは南側角の壁際に，土玉は北西側の壁際に集中している。しかし，これらはいずれも床面より高い位置から出土していることや８の器台はピットの埋土中から出土していることなどから，投棄されたものと考えられる。13の甕は炉の上面から出土しているが，甕自体に火熱を受けたような跡がないことから，炉で使用されていたものではないと考えられる。

040号竪穴住居跡（第35図，図版19，竪穴住居跡計測表209頁）

東側調査区のＬ7・Ｌ8グリッドにまたがった位置にある。調査範囲の南端に当たる。重複する遺構はない。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は４本検出できた。径は0.25m前後と小さい。南東側の壁際に径0.45mで，床面からの深さが0.28mのピットがある。位置的にやや角に寄っているが，出入口に関係するものと考えられる。貯蔵穴は東側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.63m，短径0.54mの楕円形で，床面からの深さは0.66mである。埋土はローム粒を多量に含む黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を少量含んだ黒色土が堆積している。最上層は耕作土である。床面付近と壁際にはローム粒を含む褐色土が堆積している。

炉は北側角の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径0.92m，短径0.79mの楕円形で，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積し，火床部の焼土化も著しいことから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

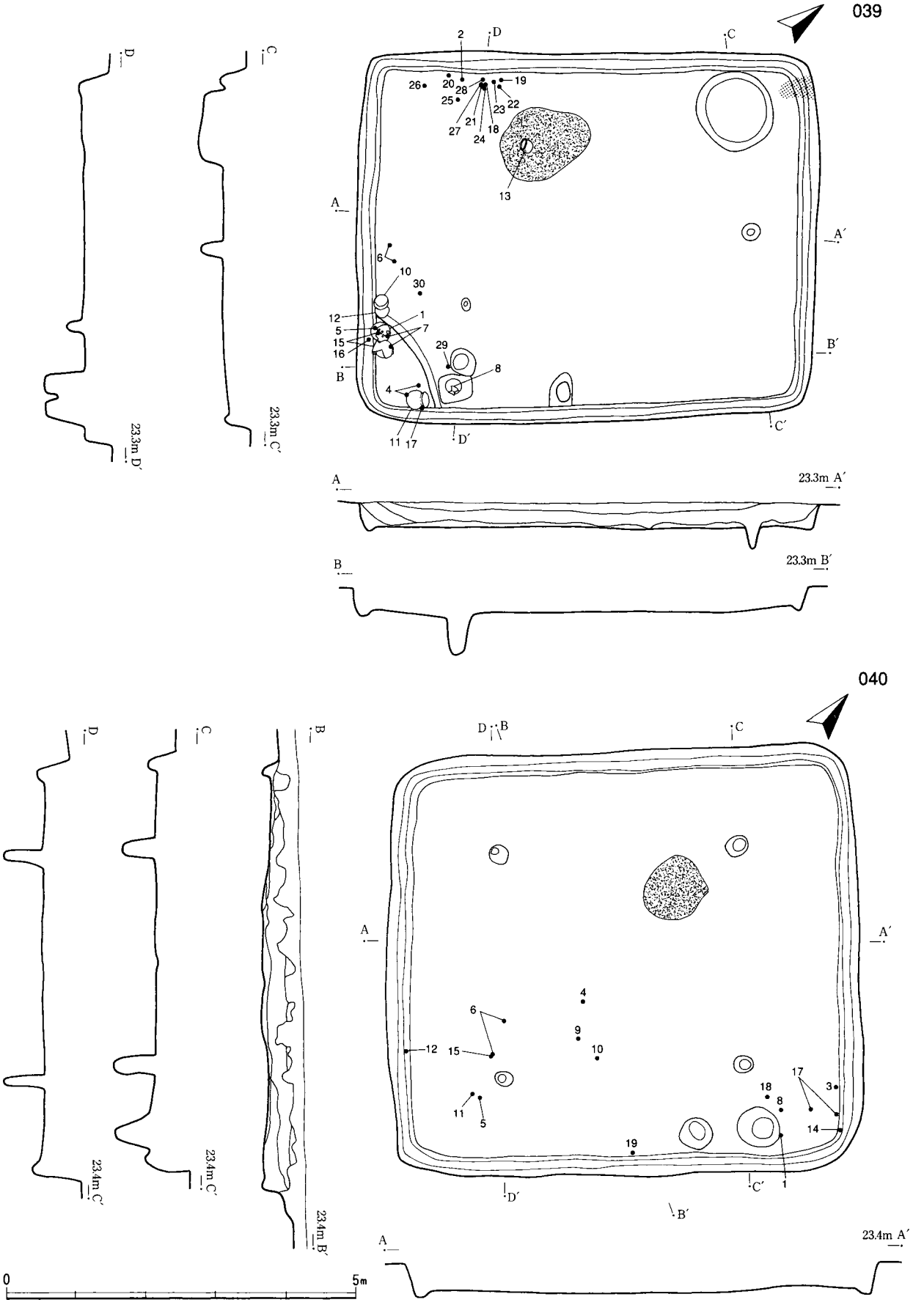
遺物の出土量はそれほど多くないが，比較的原形をとどめた状態で出土しているものが多い。遺物は南側角と東側角に集中している。南側角のものは床面付近から出土しているが，東側角のものは床面より少し高い位置から出土している。９・10の小型壷は完形で，床面から出土している。

042号竪穴住居跡（第36図，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＬ8グリッドの位置にある。調査範囲の南端に当たり，南側は調査区外に入るため，遺構の一部だけを検出することとなった。平面形は方形になるものと思われる。主柱穴・貯蔵穴は調査できた範囲の中では検出できなかった。埋土はローム粒を含んだ黒色土を主体とし，その上と下にはローム粒を含んだ黒褐色土が堆積している。最上層は耕作土である。床面付近と壁際にはローム粒と焼土粒を含んだ褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。半分ほどしか検出することができなかった。床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積しており，火床部の焼土化も著しいことから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は少なく，いずれも破片で，埋土中から出土している。



第35図　039・040号竪穴住居跡

043号竪穴住居跡（第36図，図版20，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のN8グリッドの位置にある。重複する遺構はない。床面は平坦であるが，全体的に軟質である。主柱穴は検出できなかった。北西側の壁に寄った位置に，壁に平行して2つのピットがある。南側のピットは長径0.63m，短径0.47mの楕円形で，床面からの深さは0.24mである。北側のピットは長径0.46m，短径0.42mのほぼ円形で，床面からの深さは0.24mである。いずれも深さは浅いが，壁寄りに平行してあることから，柱穴である可能性も考えられる。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは径0.48mのほぼ円形で，床面からの深さは0.33mである。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含む黒色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒とロームブロックを含む暗褐色土が堆積している。

炉は北側角の壁に寄ったピットの内側にある。大きさは径0.5mのほぼ円形で，床面からの深さは0.07mである。埋土は焼土層とローム粒を含む暗褐色土が堆積しており，火床部はあまり焼土化していないことから，比較的短期間のみ使用されていたと考えられる。

遺物の出土量は少ないが，1の甕は完形で，床面から出土している。そのほかの遺物は埋土中から出土している。

044号竪穴住居跡（第36図，図版20，竪穴住居跡計測表210頁）

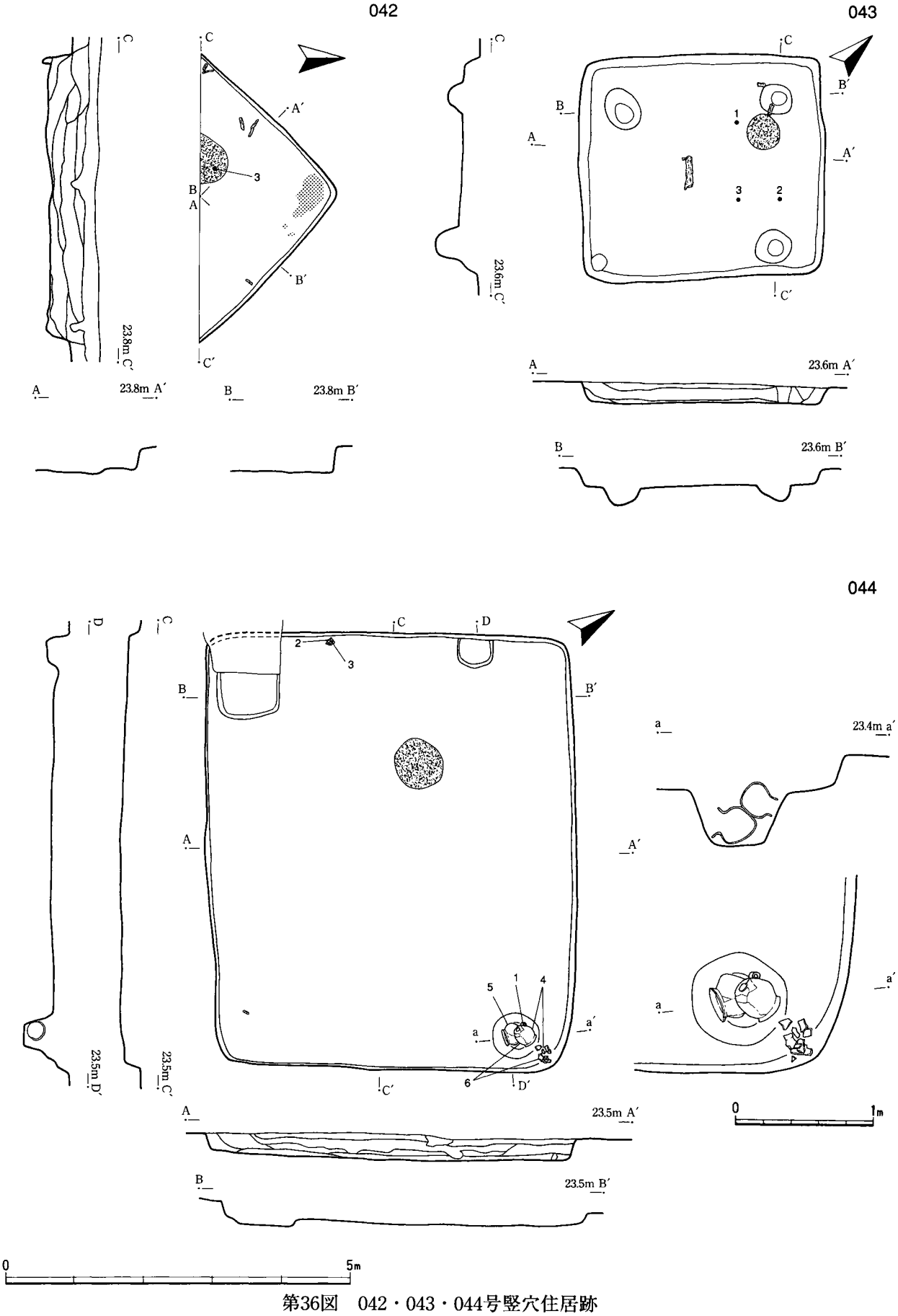
東側調査区のM7・N7グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はないが，西側角の壁の部分は攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。床面は平坦であるが，全体に軟弱である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは径0.67mの円形で，床面からの深さは0.46mである。北西側の壁際と西側角の壁際にピットがある。北西側のものは長辺0.52m，短辺0.42mの円形で，床面からの深さは0.18mである。西側のものは一部攪乱によって破壊されているが，一辺0.9m前後の方形と考えられる。床面からの深さは0.12mである。いずれのピットも深さが浅いものであるが，位置や形状から考えると，貯蔵穴に準じた機能をもっていたものではないかと考えられる。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を多量に含んだ暗褐色土や褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.74m，短径0.68mのほぼ円形で，床面からの深さは0.05m前後である。埋土は焼土層は少ないが，焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。また，火床部の焼土化が著しいことから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は少ないが，1の完形の小型壷と4・5の完形に近い形に復元できた甕が貯蔵穴の中から出土している。2の小型壷と3の小型坩は北西側の壁際の埋土中から出土している。

045号竪穴住居跡（第37図，図版21，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のM6グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，北東側の壁際は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。壁溝は南東側の壁を除いて巡っている。主柱穴は4本検出できた。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは長径0.62m，短径0.53mの楕円形で，床面からの深さは0.63mである。埋土はローム粒と小ロームブロックを多量に含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を含んだ褐色土や黄褐色土が堆積



第36図　042・043・044号竪穴住居跡

している。

炉は北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径0.78m，短径0.61mの楕円形で，床面からの深さは0.07mである。埋土は焼土層はあまり厚くないが，焼土粒と焼土ブロックを多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部の焼土化も著しいことから，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は多く，完形に近いものも半数近くある。また，床面付近から出土しているものが大部分である。出土位置は北西側の壁際と東側角の壁際に集中しており，両地点間で接合するものもみられることから，投棄されたものと考えられる。

046号竪穴住居跡（第37図，図版22，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＬ4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，北東側の壁は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は角の丸いところもあるが，基本的には方形と考えられる。主柱穴は3本検出できた。径は0.23m～0.63mと差があり，床面からの深さは0.2mと浅いので，主柱穴としては多少疑問があるが，位置関係から主柱穴と判断した。貯蔵穴は検出できなかった。埋土はローム粒を多量に含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒をわずかに含んだ黒褐色土が堆積している。両層の境付近には炭化物がみられる。壁際には多量のローム粒と少量の炭化粒を含んだ暗黄褐色土が堆積している。

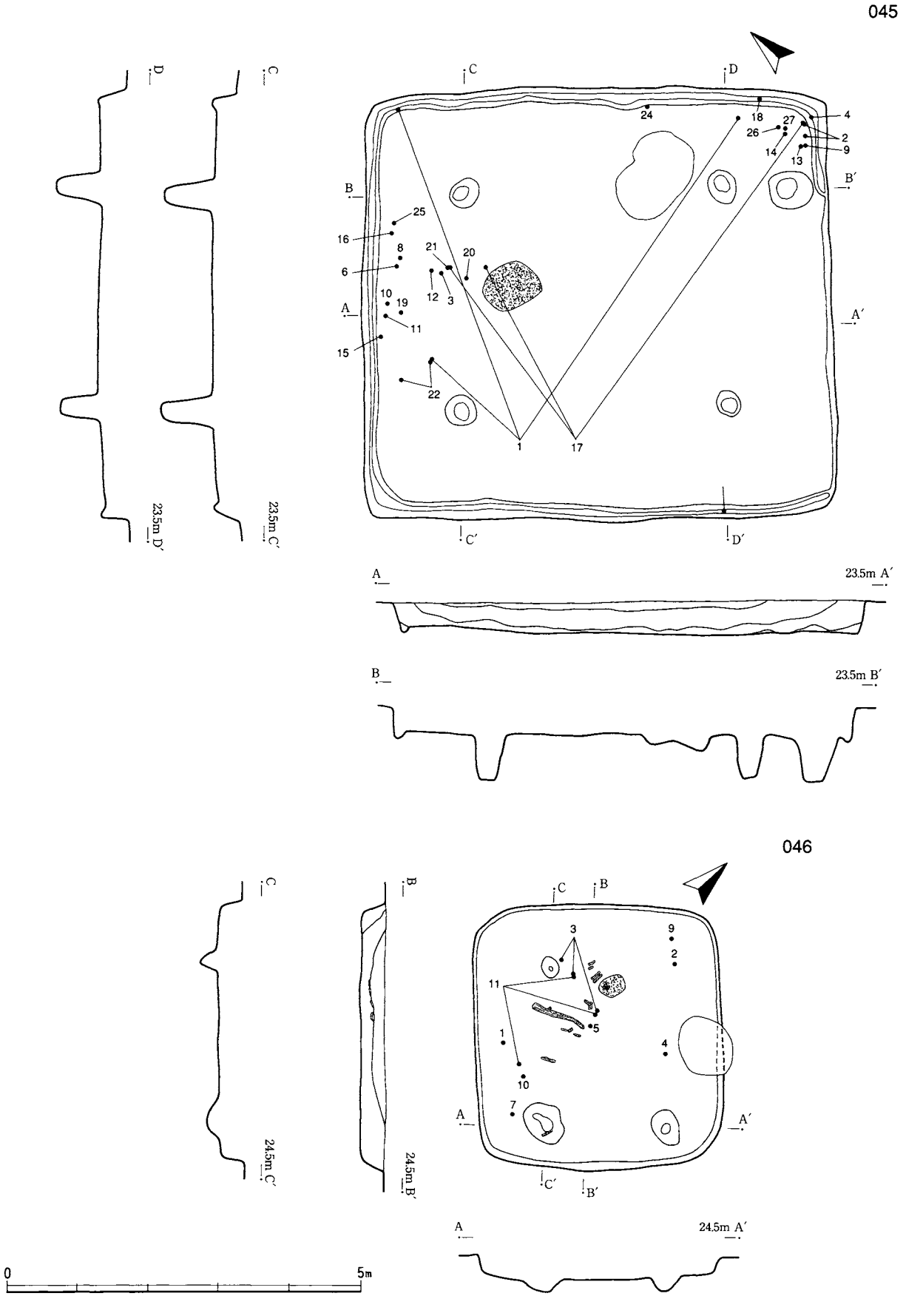
炉は北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは長径0.37m，短径0.28mの楕円形で，床面からの深さは0.05m前後である。埋土は明確な焼土層はなく，多量の焼土粒を含んだ暗褐色土が堆積している。火床部の焼土化もあまりみられず，比較的短期間のみ使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は比較的多く，完形に近く復元できたものも多いが，いずれも破砕されたような状況で出土している。2・4の壷と9の甕は床面付近から出土している。そのほかは埋土中で，1の壷，10の甕と11の台付甕は検出面に近い位置から出土し，それよりも床面に近い場所から出土した破片と接合している。これらのことなどから，遺物の大部分は，本竪穴住居跡が埋まり始めた時点で投棄されたものと考えられる。

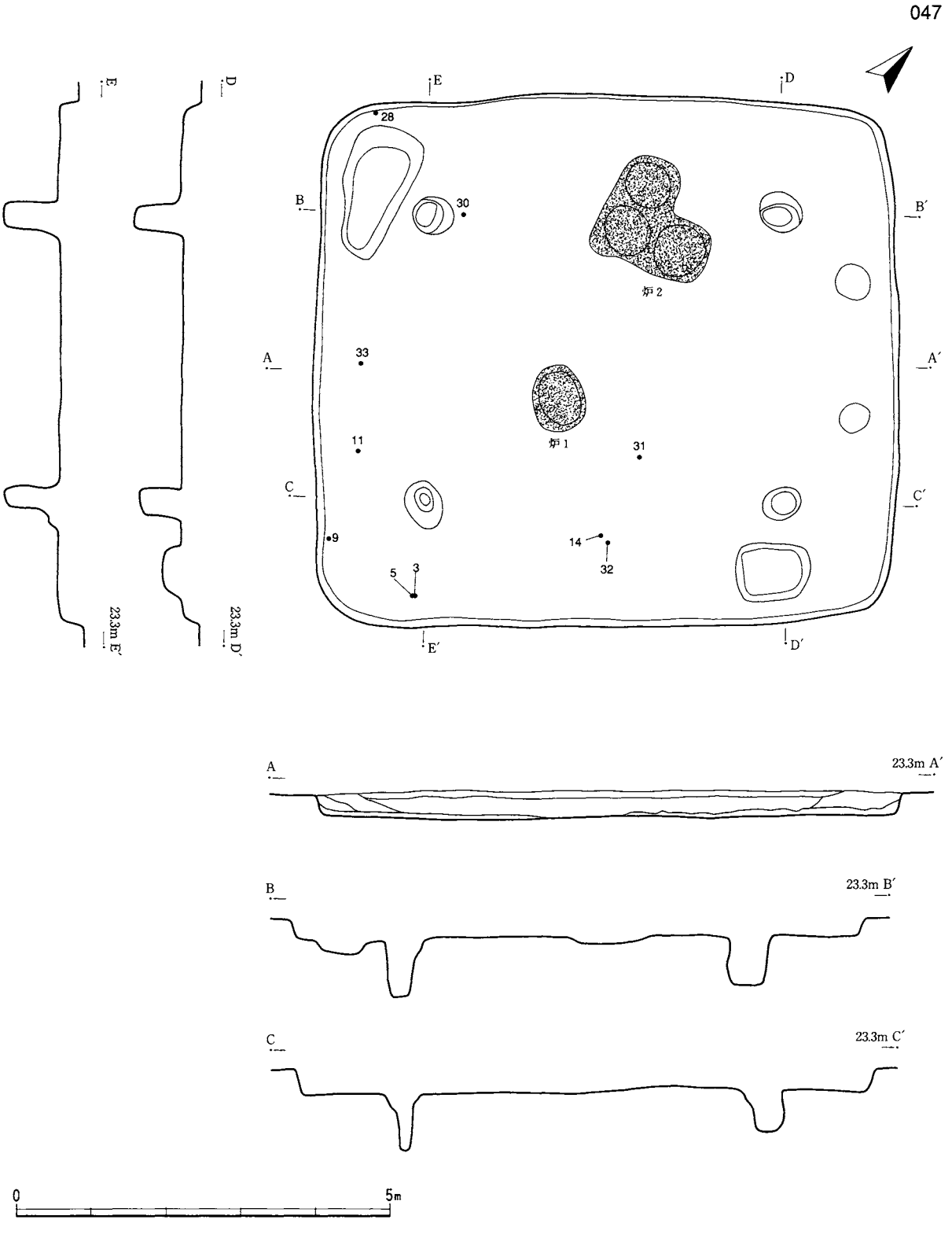
047号竪穴住居跡（第38図，図版22，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＬ4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，北東側の壁寄りの床面は土坑状の攪乱によって破壊されている。平面形は長方形である。主柱穴は4本検出できた。貯蔵穴は東側角の壁寄りの位置にある。大きさは長辺1m，短辺0.76mの長方形で，床面からの深さは0.25mである。西側角の壁に寄った位置に長辺1.74m，短辺0.88mで，床面からの深さが0.18mのピットがある。ピット内の埋土はロームブロックを多量に含んだ暗褐色土により人為的に埋め戻されている。性格は不明である。埋土はローム粒とロームブロックを多量に含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒色土が堆積している。床面付近と壁際には褐色土が堆積している。

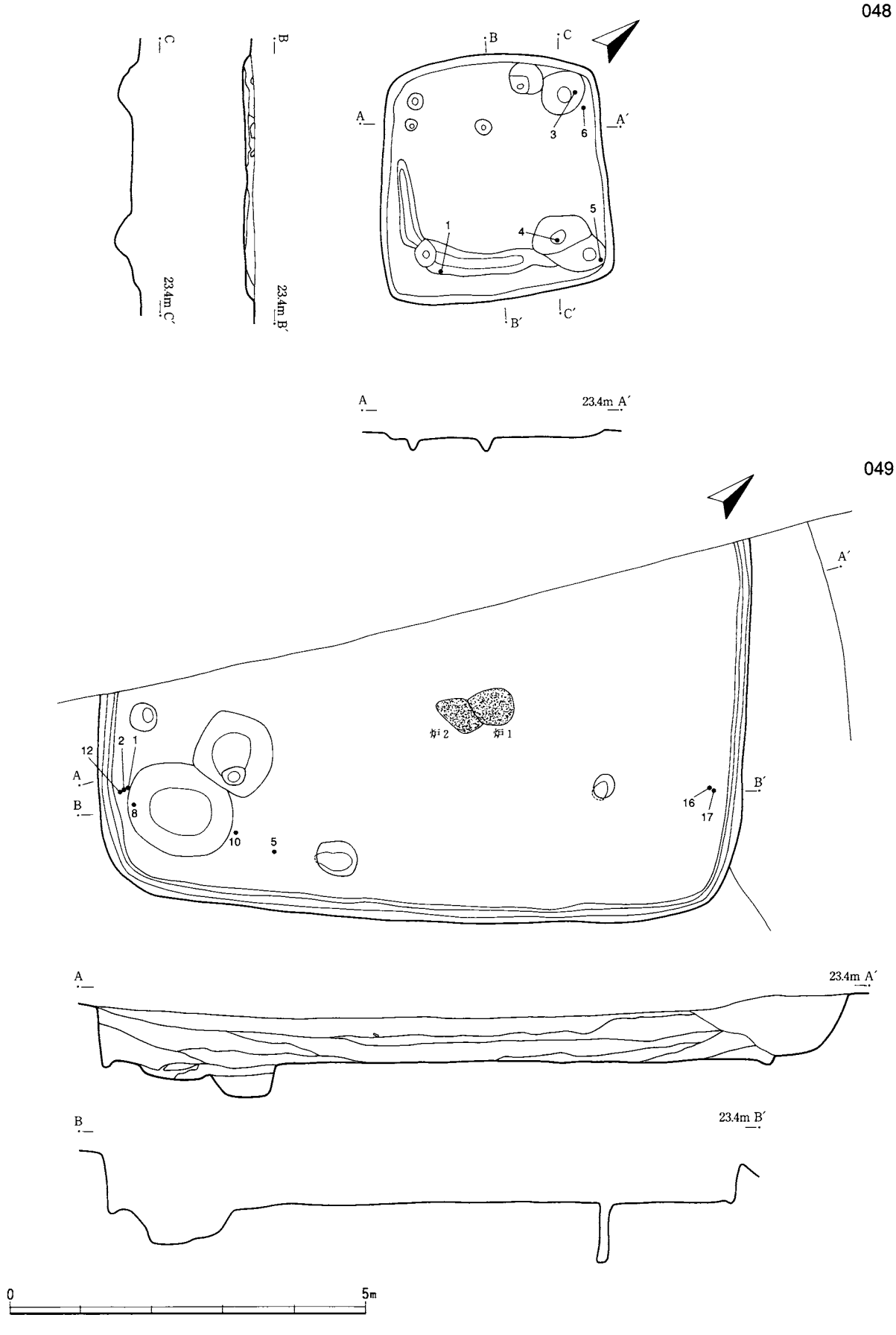
炉はほぼ中央と北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。炉1は長径0.88m，短径0.7mの楕円形で，床面からの深さは0.07m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。炉2は，3つの火床部が複合してハート形になっている。床面からの深さはいずれも0.1m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ褐色土が堆積している。



第37図　045・046号竪穴住居跡



第38図　047号竪穴住居跡



第39図　048・049号竪穴住居跡

遺物の出土量は比較的多いが，破片資料で，埋土中から出土しているものがほとんどである。

048号竪穴住居跡（第39図，図版23，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＬ3グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は方形である。検出面から床面までの掘込みは浅い。主柱穴は検出できなかった。南側角と西側角の壁寄りに小ピットが4つある。径は0.2～0.3mで，床面からの深さは0.2m前後と浅く，性格は不明である。また，北西側の壁際に径0.5m前後の円形で，床面からの深さが0.24mのピットがあるが，性格は不明である。南東側の壁から南西側の壁にかけて幅0.3m前後で，床面からの深さが0.1m前後の溝が壁から離れて巡っている。この溝は南側角がほかの角に比べて突き出していることから，竪穴住居跡の拡張前の壁溝である可能性も考えられる。貯蔵穴は北側角と東側角の壁際にある。北側のものは径0.6mの円形で，床面からの深さは0.18mである。東側のものは長径1.05m，短径0.7mの楕円形で，床面からの深さは0.24mである。底面は段があり，竪穴住居跡の内側の方が深くなっている。埋土はローム粒を含んだ暗褐色土を主体とし，床面付近と壁際には褐色土が堆積している。

炉は検出できなかった。

遺物の出土量は比較的少ない。１・２の器台が完形に近いほかは，すべて破片で，埋土中から出土している。

049号竪穴住居跡（第39図，図版23，竪穴住居跡計測表210頁）

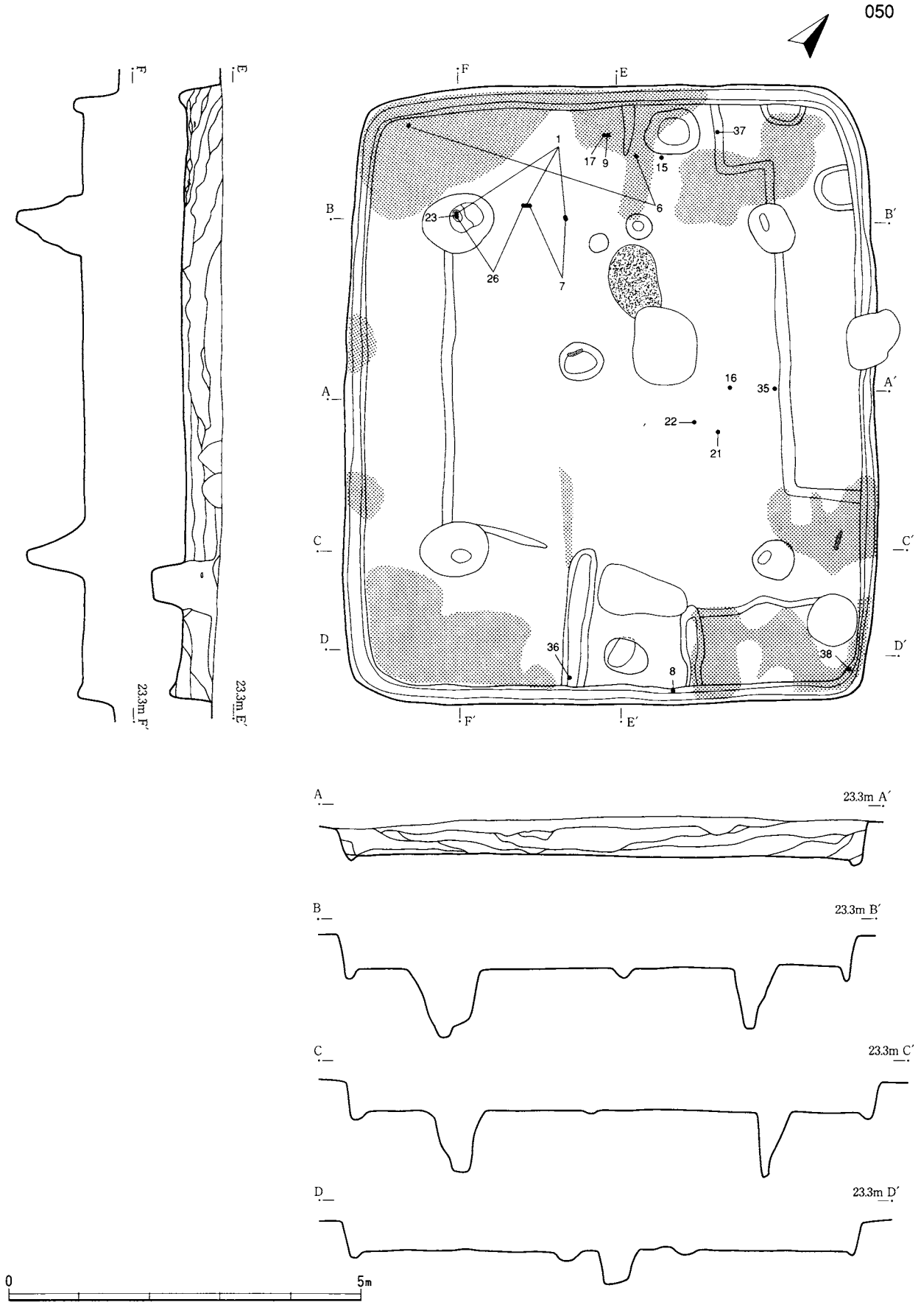
東側調査区の北端のＬ3グリッドの位置にある。北西側は調査区外となるため，全体の約半分を調査することとなった。平面形は長方形になるものと考えられる。北西側の壁は溝状の攪乱によって床面付近まで破壊されている。調査できた範囲の中では，壁溝が巡っている。主柱穴は2本検出できた。南側の柱穴の掘方は大きい。南西側の壁際と南東側の壁際にそれぞれピットがある。南西側のものは径0.38m前後で，床面からの深さは0.49mである。南東側のものは長径0.58m，短径0.48mの楕円形で，床面からの深さは0.38mである。いずれも性格は不明であるが，出入口に関係するピットの可能性もある。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長径1.5m，短径1.28mの楕円形で，床面からの深さは0.5mである。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を多量に含んだ黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積している。

炉はほぼ中央にあり，2つの炉が重なり合っている。炉1は長径0.58m，短径0.53mの楕円形で，床面からの深さは0.08mである。炉2は長径0.57m，短径0.4mの楕円形で，床面からの深さは0.03mである。いずれも埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積しているが，火床部の焼土化はあまり顕著ではない。両炉の時間的前後関係は不明である。

遺物の出土量は比較的多いが，破片のものが大部分である。8の小型坩も割れた状態で出土している。

050号竪穴住居跡（第40図，図版24，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＫ3・Ｋ4・Ｌ3・Ｌ4グリッドにまたがった位置にある。東側で080号建物跡と重複している。新旧関係は080号建物跡の柱穴が本竪穴住居跡の埋土を掘り込んでいることから，080号建物跡が新しいと考えられる。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出できた。主柱穴の掘り方は比較的大きい。炉の北西側と南側に小ピットがある。北西側のものは径0.36m前後で，床面から



第40図　050号竪穴住居跡

の深さは0.14mである。南側のものは径0.63m前後で，床面からの深さは0.09mと浅い。いずれも性格は不明である。貯蔵穴は北西側の壁際にある。大きさは長辺0.76m，短辺0.63mの長方形で，両側は0.05m前後高くなっている。北西側の壁際を除いて，主柱穴の外側が内側の床面に比べてわずかに高くなっている。南東側のほぼ中央に，壁溝から竪穴住居跡の内側に向かって延びる2条の溝がある。その内側の壁際には長径0.64m，短径0.46mで，床面からの深さが0.49mのピットがある。これらは出入口に関係するものと考えられる。埋土はローム粒を多量に含んだ黒色土と黒褐色土が交互に堆積し，壁際には焼土粒や焼土ブロックを多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。一部を080号建物跡の柱穴によって破壊されているが，推定の長径1.05m，短径0.68mの楕円形で，床面からの深さは0.1mである。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部は比較的よく焼土化しており，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は比較的多いが，全体的に破片の状態で，床面付近のものと埋土中のものとが接合してることから，投棄されたものと考えられる。

052号竪穴住居跡（第41図，図版24，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のK4グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は方形である。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。北東側と南西側の壁寄りと南東側の壁際にそれぞれ一つずつピットがある。径は0.2～0.25mで，床面からの深さは北東側と南西側のものが0.3m，南東側のものが0.58mである。性格は不明である。

炉は検出できなかった。

遺物の出土量は少ない。図示した遺物はいずれも埋土中から出土している。

053号竪穴住居跡（第41図，図版25，竪穴住居跡計測表210頁）

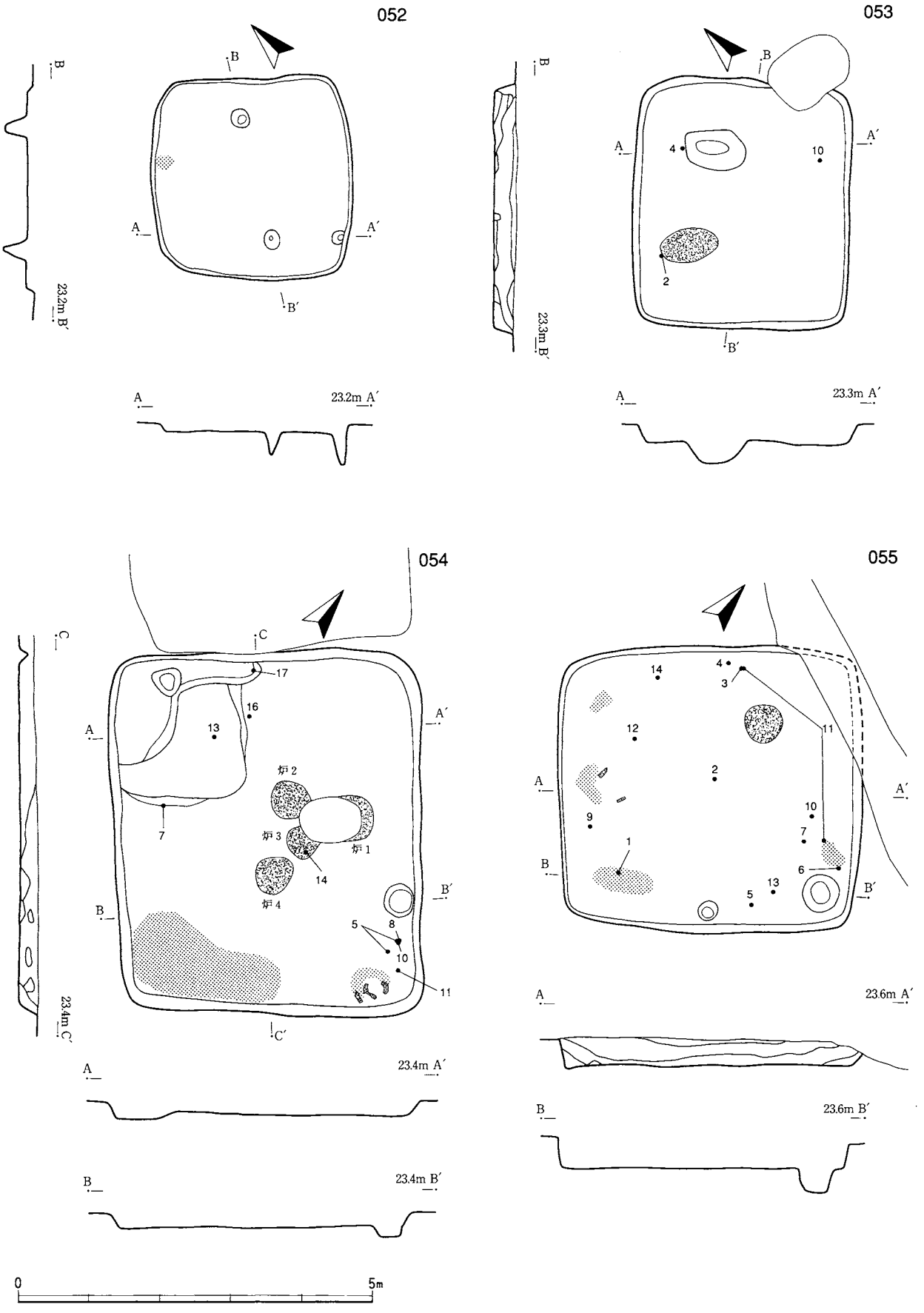
東側調査区のK4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，東側の壁は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は北側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.83m，短径0.55mの楕円形で，床面からの深さは0.33mである。埋土は多量のローム粒とロームブロックや炭化物を含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を含んだ褐色土が堆積している。

炉は西側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.82m，短径0.48mの楕円形で，床面からの深さは0.14mである。埋土は焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物の出土量はさほど多くない。図示したものはすべて埋土中から出土している。

054号竪穴住居跡（第41図，図版25，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のK3・K4グリッドにまたがった位置にある。北西側でわずかに076号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は，本竪穴住居跡が古い。また，北東側の壁に寄った所は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。床面は一部木の根による攪乱がみられる。西側角は壁に沿ってL字形の浅い窪みがみられる。また，それより竪穴住居跡の中央



第41図　052・053・054・055号竪穴住居跡

にかけて若干高くなっている部分がみられる。北東側の壁際と西側角の壁寄りにピットがある。北東側のものは長径0.47m，短径0.41mで，床面からの深さは0.17mである。西側のものは径0.4m前後で，床面からの深さは0.25mである。性格は不明である。埋土はローム粒とロームブロックを多量に含んだ黒褐色土と多量のローム粒とブロック状の褐色土を含んだ暗褐色土を主体とし，壁際には焼土粒を多量に含んだ黒褐色土が堆積している。南東側の壁際にみられる焼土及び炭化物は二次的な堆積である。

炉は中央から北東側の壁に寄った位置にかけて4つある。炉1・炉3は攪乱により一部破壊されている。炉2は径0.5mで，床面からの深さは0.1m前後である。炉4は長径0.58m，短径0.51mで，床面からの深さは0.12m前後である。埋土はいずれも焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部は比較的よく焼土化している。炉の新旧関係は不明である。

遺物の出土量は比較的多いが，すべて破片の状態で，埋土中から出土している。

055号竪穴住居跡（第41図，図版26，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のJ3グリッドの位置にある。北側は調査区域外に接し，079号溝によって床面まで破壊されている。平面形は方形である。床面は比較的よく踏み固められている。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁に寄った位置にある。大きさは径0.51mの円形で，床面からの深さは0.34mである。南東側の壁際に径0.28m前後で，床面からの深さが0.34mのピットがある。位置関係から出入口に関係するものと考えられる。埋土はローム粒とロームブロックを多量に含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際は多量のローム粒やロームブロックと焼土粒や炭化粒を含んだ黒褐色土が堆積している。壁寄りにみられる焼土や炭化物は二次的な堆積である。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは径0.54mの円形で，床面からの深さは0.06mである。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物の出土量はさほど多くないが，完形やそれに近い状態で出土しているものがある。2・7の壷，10の甕と13の台付甕は床面からで，そのほかは埋土中から出土している。

056号竪穴住居跡（第42図，図版26，竪穴住居跡計測表210頁）

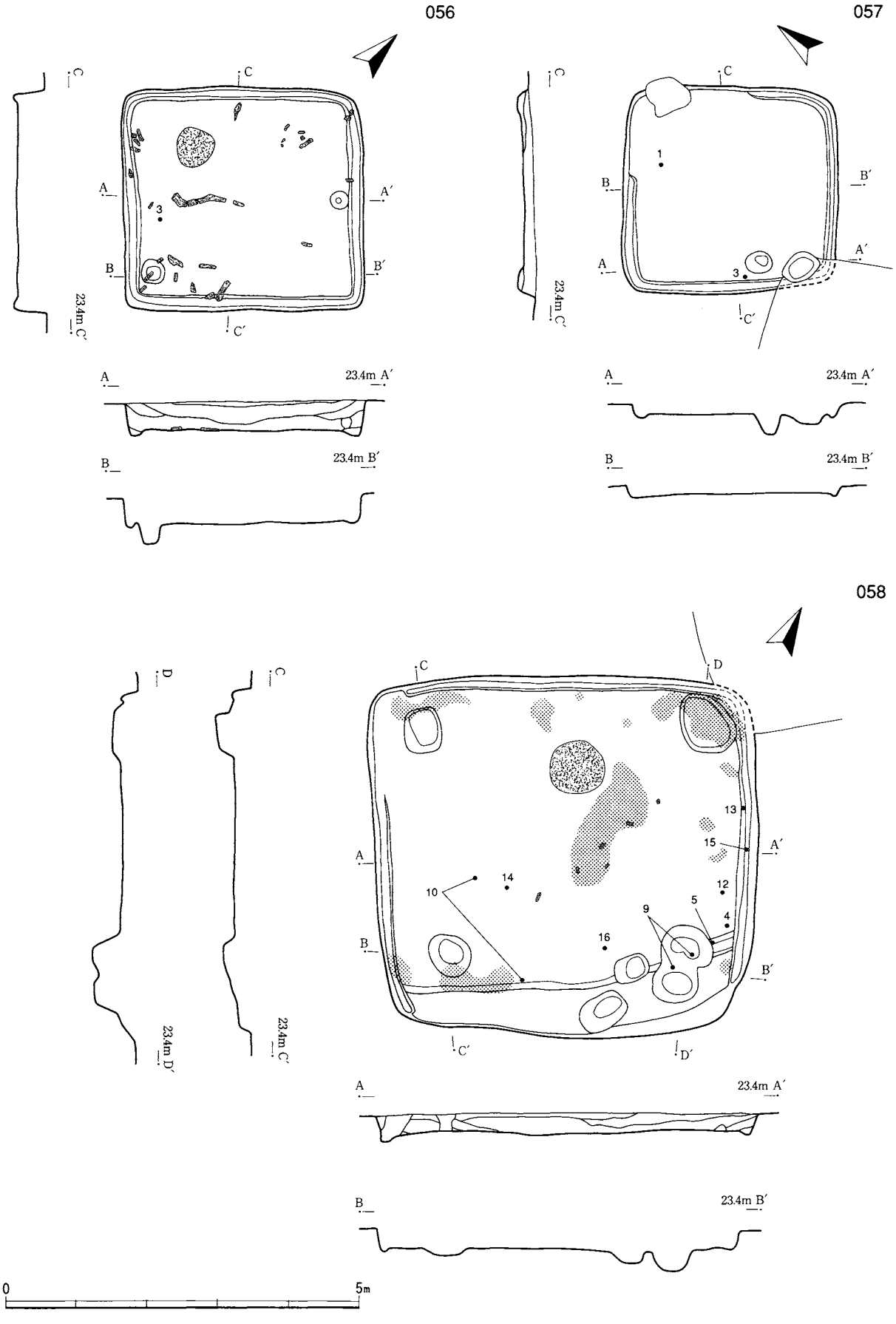
東側調査区のJ3・J4グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。壁溝が全体に巡っている。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長辺0.38m，短辺0.33mの方形で，床面からの深さは0.3mである。北西側の壁際に径0.25m前後で，床面からの深さが0.1mのピットがある。位置関係から出入口に関係するものと考えられる。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体としている。床面付近には多量のローム粒やロームブロックと焼土粒や炭化物を含んだ暗褐色土が堆積している。壁寄りにみられる炭化物は床面より高い位置から出土している。

炉は西側角の壁に寄った位置にある。大きさは径0.53mで，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部も比較的よく焼土化している。

遺物の出土量は非常に少なく，図示したもののほかにはない。いずれも埋土中から出土している。

057号竪穴住居跡（第42図，図版27，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のJ3グリッドの位置にある。南側角で058号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴



第42図　056・057・058号竪穴住居跡

住居跡が古い。また，北側角の壁は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は方形である。壁溝は北側角部分を除いて巡っている。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。南側角の壁際にピットが2つある。北側のものは長径0.39m，短径0.3mで，床面からの深さ0.3mである。南側のものは長径0.48m，短径0.37mで，床面からの深さ0.12mである。大きさや位置関係から北側のものは貯蔵穴の可能性も考えられる。南側のものは性格不明である。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体とし，壁際にローム粒とロームブロックを含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は検出できなかった。

遺物の出土量は非常に少ない。4の土玉が床面から出土したほかは，いずれも埋土中から出土している。

058号竪穴住居跡（第42図，図版27，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のJ3・J4グリッドにまたがった位置にある。北側角で057号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。平面形は台形である。壁溝は西側角と南東側壁を除いて巡っている。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。北側，西側と南側角の壁際に床面からの深さが0.12～0.26mのやや浅いピットがあり，位置関係からは主柱穴の可能性も考えられる。東側角の壁寄りにはピットが4つある。双円形のものは床面からの深さが0.4mと深く，貯蔵穴の可能性も考えられる。ほかの2つのピットはいずれも床面からの深さが0.12～0.15mと浅い。位置関係から出入口に関係するものと考えられる。南側の壁に沿って0.5～0.8mの幅で，床面が周囲より0.1m前後高くなっている。埋土は多量のローム粒と焼土粒や炭化粒を含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ暗褐色土や黒褐色土が堆積している。壁際にはローム粒や多量の焼土粒を含んだ黒色土や暗褐色土が堆積している。炉の周辺の床面は焼土化しており，火災を受けたことが考えられる。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは径0.75m前後の円形で，床面からの深さは0.04m前後である。埋土は焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部は焼土化が著しく，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くない。すべて破片の状態で，埋土中から出土している。

059号竪穴住居跡（第43図，図版27，竪穴住居跡計測表210頁）

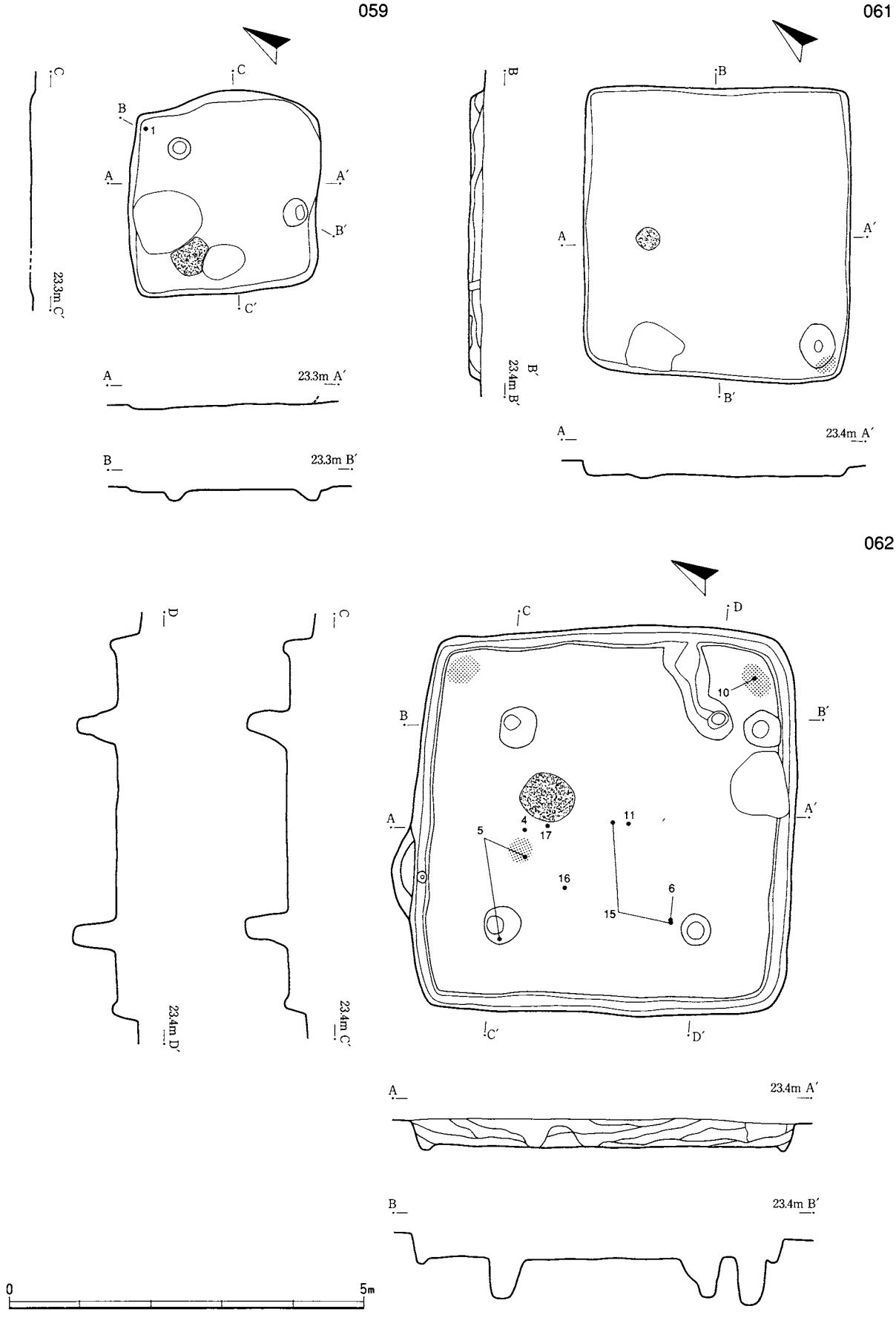
東側調査区のK4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，西側の壁に寄った所には土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は不整形な方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。北側角の壁に寄った位置と南東側の壁際に径0.35m前後で，床面からの深さが0.15m前後のピットがあるが，性格は不明である。

炉は西側角の壁に寄った位置にある。攪乱によって一部破壊されているため，全体の大きさは不明であるが，推定径0.5m前後の円形で，床面からの深さは0.08m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部も比較的よく焼土化している。

遺物の出土量は非常に少なく，図示できたものは1の砥石のみである。

061号竪穴住居跡（第43図，図版28，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のJ4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，西側角の壁際は土坑状の攪乱によっ



第43図　059・061・062号竪穴住居跡

て床面まで破壊されている。平面形は方形である。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長径0.62m，短径0.5mの楕円形で，床面からの深さは0.14mである。埋土はローム粒を多量に含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒を多量に含んだ黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を含んだ褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは径0.31m前後の円形で，深さはわずかに床面より窪んでいる程度である。火床部はほとんど焼土化していないことから，あまり使用されていなかったものと考えられる。

遺物の出土量は非常に少ない。図示したものは埋土中から出土している。

062号竪穴住居跡（第43図，図版28，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＪ4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，南東側の壁の一部は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出した。壁から東側の柱穴に向かって，床面からの深さが0.2～0.25mの溝が延びている。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは径0.53m前後の円形で，床面からの深さは0.69mである。北西側の壁には階段状の張出しがある。検出面から0.3mほど掘り込まれており，床面との差は0.05m前後である。壁溝の中には径0.15m前後の小ピットがある。埋土はローム粒とロームブロックを多量に含んだ黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積しており，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

炉は北西側の壁寄りの主柱穴の内側にある。大きさは長径0.73m，短径0.66mのほぼ円形で，床面からの深さは0.05m前後と浅い。埋土は焼土粒を含んだ黒褐色土が堆積している。火床部の焼土化は著しく，比較的長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量はそれほど多くない。16の台付甕がほぼ完形で，床面から出土した以外はすべて破片で，埋土中から出土している。

064号竪穴住居跡（第44図，図版29，竪穴住居跡計測表210頁）

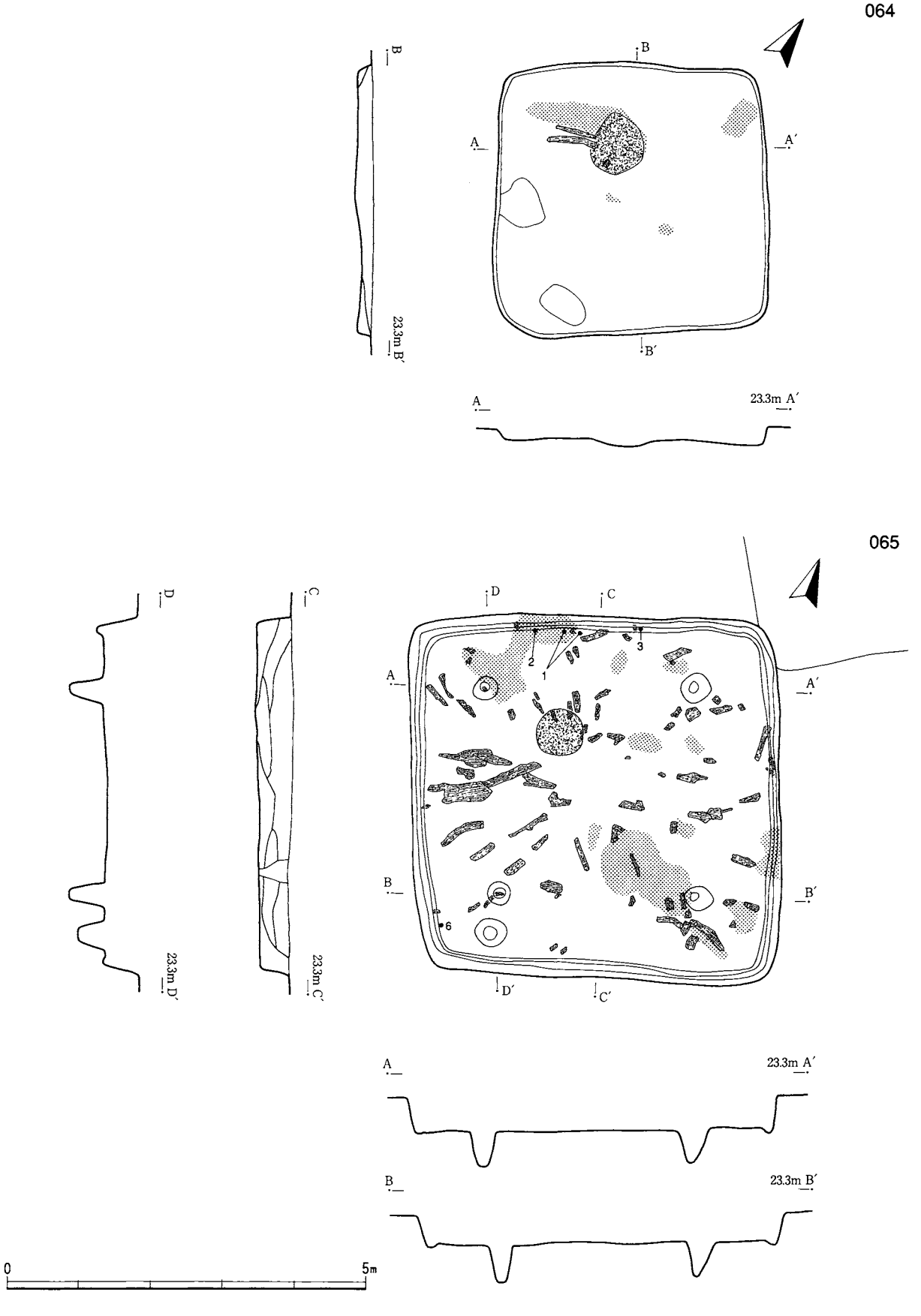
東側調査区のＪ4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，南側と南西側の床面の一部は土坑状の攪乱によって破壊されている。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。平面形は方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土はローム粒を多量に含んだ暗褐色土を主体とし，壁際にはローム粒と暗褐色土の混合土層が堆積している。炉の周辺の焼土及び炭化材は床面より高い位置にある。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは径0.75m前後のほぼ円形で，床面からの深さは0.04m前後と浅い。埋土は焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部は比較的深くまで焼土化している。

遺物の出土量は少なく，すべて埋土中から出土している。

065号竪穴住居跡（第44図，図版29，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＪ4グリッドの位置にある。北側角の一部が068号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。平面形はほぼ方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出できた。いずれもやや壁に寄った位置にある。貯蔵穴は南側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.45m，短



第44図　064・065号竪穴住居跡

径0.39mのほぼ円形で，床面からの深さは0.38mである。埋土は床面から半分ほどの深さまで，ローム粒やロームブロックを多量に含んだ暗褐色土と黒褐色土がブロック状に堆積し，その上にロームブロックをわずかに含んだ暗褐色土が堆積している。壁際にはローム粒と焼土粒や炭化物を含んだ暗褐色土が堆積している。床面には焼土がブロック状に堆積し，炭化材が放射状に出土しているが，柱材と思われるような太い炭化材はみられない。このことから，本竪穴住居跡は，廃絶されるに際して，柱材を持ち出した後に屋根材を焼却して，半分ほどの深さまで埋め戻されたのではないかと考えられる。

炉は北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは径0.65mの円形で，床面からの深さは0.08mである。埋土は焼土層と焼土粒と焼土ブロックを多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物の出土量は比較的少ない。3の鉢を除いてすべて破片である。出土状況は壁際で，床面より高い位置から出土している。本竪穴住居跡を埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

066号竪穴住居跡（第45図，図版30，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のJ4グリッドの位置にある。東側は068号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。平面形は長方形である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長径0.78m，短径0.6mで，床面からの深さは0.68mである。埋土は少量の焼土粒と多量のローム粒やロームブロックを含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒と焼土粒を含んだ黒褐色土と暗茶褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.7m，短径0.58mの楕円形で，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土粒を含んだ暗赤褐色土が堆積している。

遺物の出土量はさほど多くないが，完形かそれに近い状態のものも多い。8・9の異形器台は横転して，12の台付甕は押しつぶされたような状態で，床面から出土している。そのほかのものは床面より高い位置から出土している。

067号竪穴住居跡（第45図，図版30，竪穴住居跡計測表210頁）

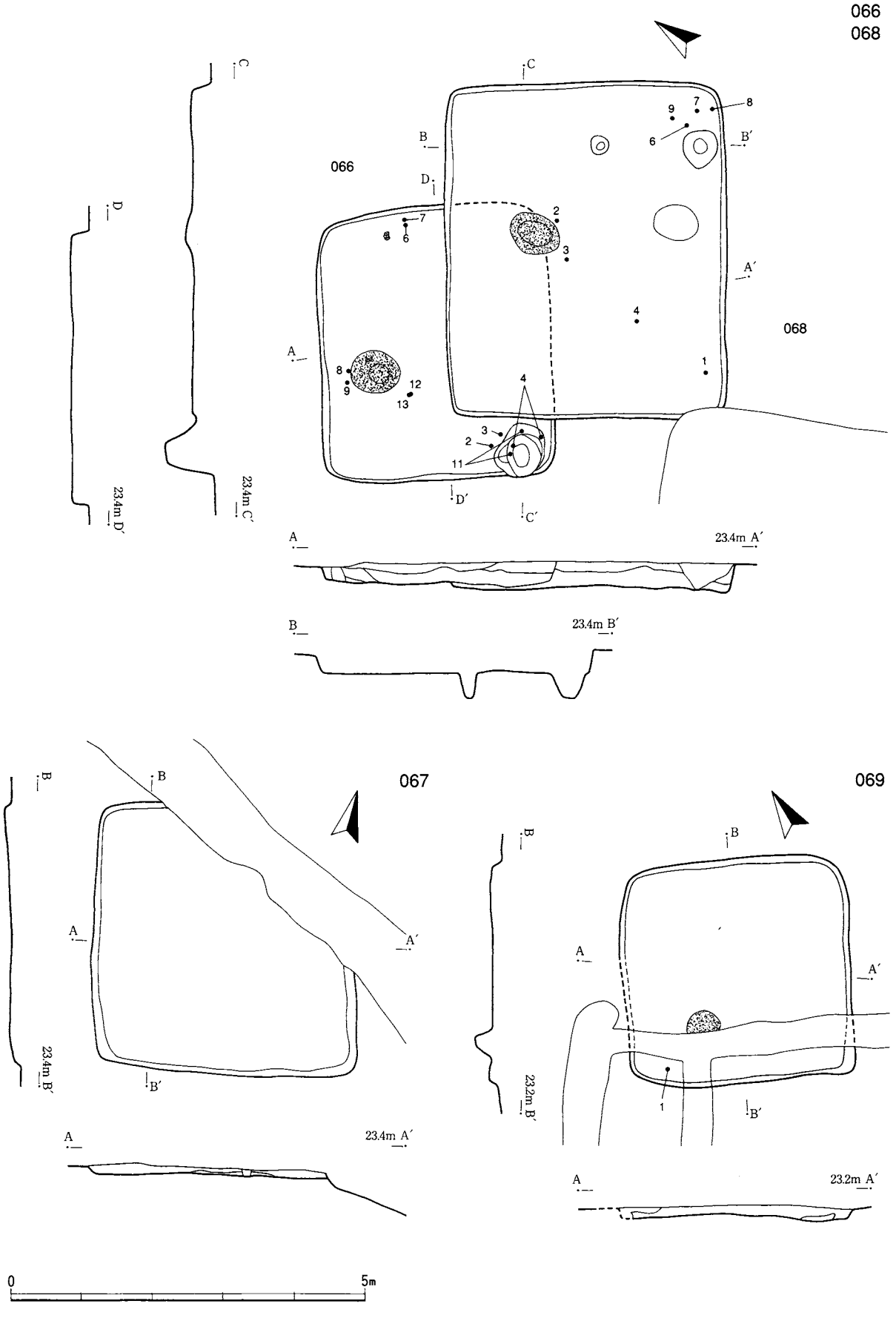
東側調査区のJ3グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，北東側は調査区外であり，調査区の境にある079号溝によって床面まで破壊されている。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は方形になるものと考えられる。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土は暗褐色土を主体とし，床面付近には褐色土が堆積している。

炉は検出できなかった。

遺物の出土量は非常に少なく，図示できるものはない。

068号竪穴住居跡（第45図，図版30，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のI4・J4グリッドにまたがった位置にある。西側で066号竪穴住居跡と南側で065号竪穴住居跡と重複している。新旧関係はいずれも本竪穴住居跡が古い。066号竪穴住居跡と重複している部分の壁はわずかに立ち上がりが残る程度である。また，南東側の壁に寄った所は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは径0.5m前後の円形で，床面からの深さは0.34mである。北西側の壁に寄った所に径0.27mで，床



第45図　066・067・068・069号竪穴住居跡

面からの深さが0.36mの小ピットがあるが，性格は不明である。埋土はローム粒，ロームブロックと暗褐色土の混合土である暗黄褐色土を主体とし，その上に多量のローム粒とロームブロックを含んだ黒褐色土が堆積している。ロームブロックを多量に含んでいることなどから，人為的に埋め戻されたと考えられる。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.74m，短径0.58mの楕円形で，床面からの深さは0.07m前後である。埋土は焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部は比較的深くまで焼土化していることから，長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は比較的少ない。2の壷と3の高杯は床面から出土している。土玉は埋土中であるが，貯蔵穴の周辺から集中して出土している。

069号竪穴住居跡（第45図，図版31，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のⅠ4・Ⅰ5グリッドにまたがった位置にある。南側は078号溝によって床面まで破壊されている。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体とし，床面付近に黒色土が堆積している。

炉は西側角の壁に寄った位置にある。溝状の攪乱によって半分近く壊されている。大きさは径0.5m前後の円形になるものと思われる。床面からの深さは0.06m前後で，埋土は焼土ブロックと焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物の出土量は非常に少なく，すべて埋土中から出土している。

070号竪穴住居跡（第46図，図版31，竪穴住居跡計測表210頁）

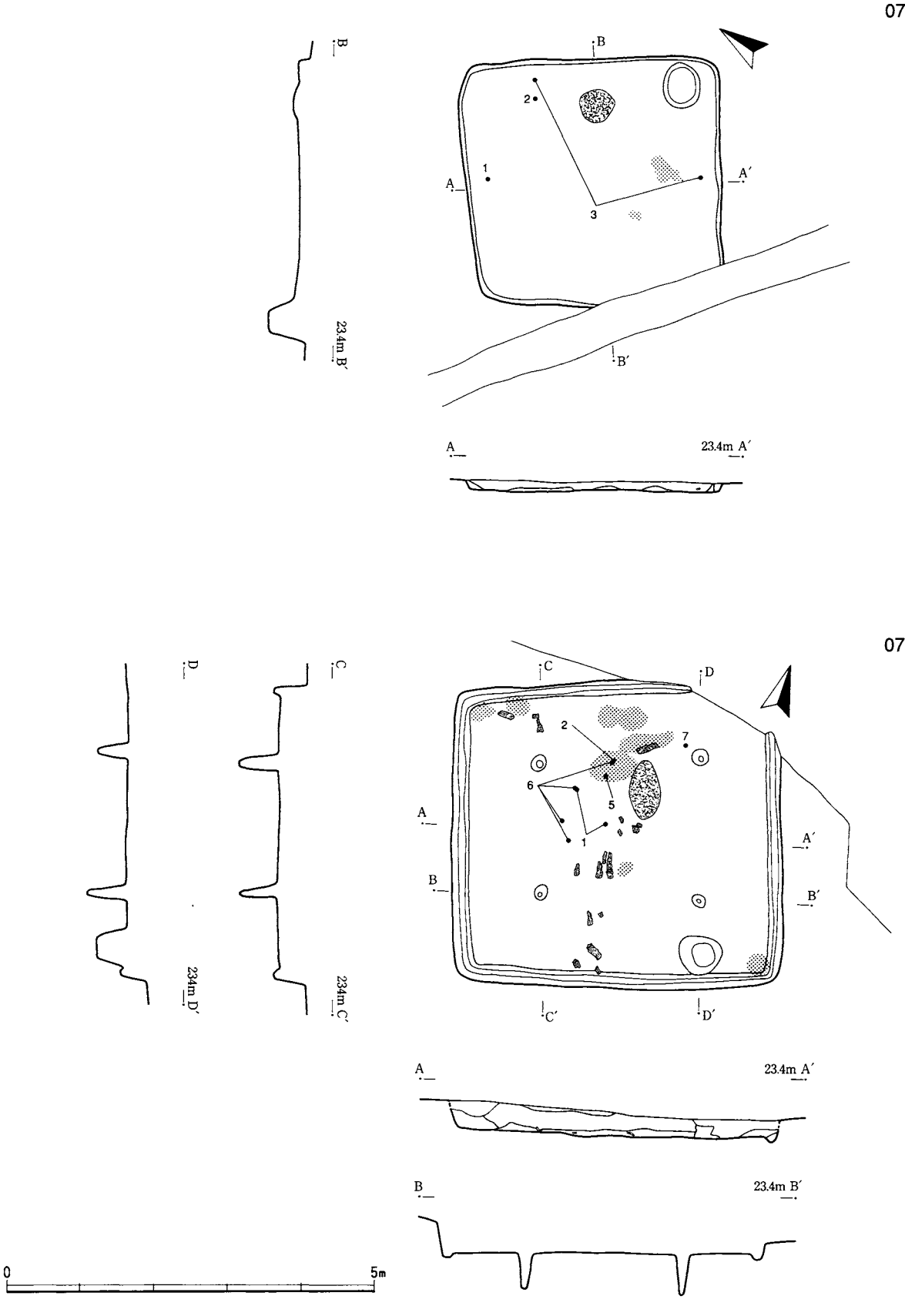
東側調査区のⅠ5グリッドの位置にある。南側角は079号溝によって床面まで破壊されている。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は方形である。床面は中央部分が比較的堅く踏み固められている。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは長径0.62m，短径0.5mの楕円形で，床面からの深さは0.12mと浅い。埋土はローム粒を含んだ暗褐色土が主体で，床面付近と壁際には褐色土が堆積している。

炉は北東側の壁に寄った位置にある。大きさは径0.45mの円形で，床面からの深さは0.07mである。埋土は焼土粒を含んだ暗赤褐色土と黄橙色土が堆積している。焼土が含まれる量は比較的少ないことから，あまり長期間使用されていなかったと考えられる。

遺物の出土量は少なく，すべて破片の状態で，埋土中から出土している。

071号竪穴住居跡（第46図，図版31・32，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のⅠ4グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，北東側角は調査区外であり，調査区の境にある079号溝によって床面まで破壊されている。平面形は方形である。壁溝は全体に巡っているものと考えられる。主柱穴は4本検出できた。径は0.2m前後と小さい。貯蔵穴は南側の壁際にある。大きさは径0.5m前後の円形で，床面からの深さは0.42mである。埋土はローム粒とロームブロックを多量に含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒，ロームブロックと炭化粒を多量に含んだ黒褐色土が堆積している。全体にロームブロックを多量に含んだ土層であることから，人為的に埋め戻されたものと考えられる。



第46図　070・071号竪穴住居跡

炉は北側の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.79m，短径0.42mの楕円形で，床面からの深さは0.05mと浅い。埋土はわずかに焼土粒を含んだ黒褐色土が堆積している。火床部は比較的深いところまで焼土化しており，長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くない。完形に近い形に復元できたものがあるが，いずれも破片の状態で出土していることから，投棄されたものと考えられる。

072号竪穴住居跡（第47図，図版32，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のH4・I4グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はない。本竪穴住居跡より東側には当該時期の竪穴住居跡はない。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は方形である。床面は破線で示した範囲は比較的堅く踏み固められている。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は北側角と南側角の壁際にある。北側のものは一辺約0.6mの方形で，床面からの深さは0.41mである。南側のものは長辺0.56m，短辺0.46mの長方形で，床面からの深さは0.42mである。北東側の壁に沿って3つの小ピットがある。いずれも径は0.2m前後で，床面からの深さは0.2～0.28mである。壁際にある2つのピットは位置関係から主柱穴の可能性も考えられる。埋土は少量のローム粒を含んだ黒褐色土を主体とし，壁際にはローム粒を含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは0.5m前後で，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土粒を多量に含んだ暗褐色土と褐色土が堆積している。

遺物の出土量はさほど多くない。3の壷は貯蔵穴の底面から出土し，そのほかはすべて床面付近から出土している。

076号竪穴住居跡（第47図，図版33，竪穴住居跡計測表210頁）

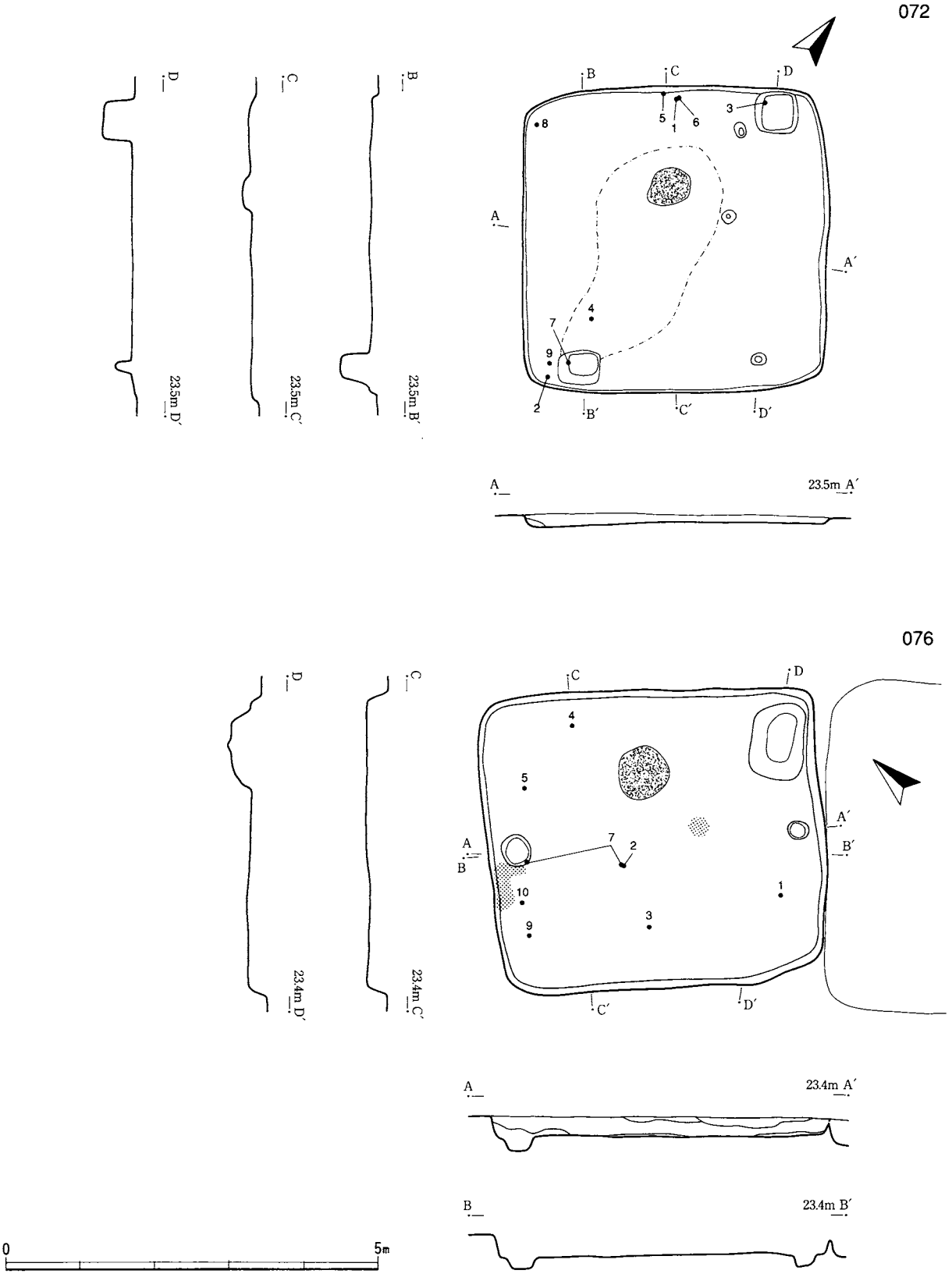
東側調査区のK3グリッドの位置にある。南東側は054号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは長辺1m，短辺0.7mの長方形で，床面からの深さは0.3mである。南東側と北西側の壁に寄った位置にピットがある。南東側のものは径0.25m前後で，床面からの深さは0.15mである。北西側のものは径0.4m前後で，床面からの深さは0.16mである。いずれも浅く，位置関係から出入口に関係するものと考えられる。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ暗褐色土が堆積している。床面付近と壁際には褐色土と黒色土が堆積している。床面よりやや高い位置と貯蔵穴の内部に焼土の堆積がみられる。

炉は北東側の壁に寄った位置にある。大きさは径約0.7mの円形で，床面からの深さは0.06mである。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。火床部は比較的深い所まで焼土化していることから，長期間にわたって使用されていたと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くない。3の小型坩と4の器台は完形で，ほぼ床面から，正立した状態で出土している。9・10の甕は完形に近く復元できたもので，床面よりやや高いものの，その場で押しつぶされたような状態で出土している。そのほかのものは埋土中から出土している。

077号竪穴住居跡（第48図，図版33，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のK3グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，北東側は調査区外で，調査区の境に



第47図　072・076号竪穴住居跡

ある079号溝などによって床面まで破壊されている。検出した範囲内で壁溝が巡っている。主柱穴は２本検出できた。径は0.25m前後と小さい。貯蔵穴は南東側の壁に寄った位置にある。大きさは長辺0.66m，短辺0.5mの長方形で，床面からの深さは0.5mである。西側角の壁際に径0.3m前後で，床面からの深さが0.15mのピットがあり，１の甕が埋め込まれていた。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際にはローム粒，炭化粒と焼土粒を含んだ褐色土や暗褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。北東側は溝状の攪乱によって上端部分が破壊されている。大きさは推定径0.7m前後の円形で，床面からの深さは0.1m前後である。埋土は焼土層と焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。焼土層は厚く，火床部の焼土化もみられることから，比較的長期間にわたって使用されていたと考えられる。

遺物の出土量は少ない。１の甕は西側にあるピットに胴部の中程まで埋め込まれている。出土の状況からピットの中に落ち込んだものではなく，固定して使用されていたものと考えられる。

086号竪穴住居跡（第48図，図版34，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＩ3グリッドの位置にある。北東側の大部分は調査区外で，調査区の境にある溝状の攪乱によって床面まで破壊されている。検出面から床面までの掘込みはほとんどなく，床面によってその範囲を検出することができた。平面形は不明である。主柱穴は調査できた範囲内では検出できなかった。貯蔵穴は南西側角の壁に寄った位置にある。大きさは径0.4m前後の円形で，床面からの深さは0.26mである。

炉は調査できた範囲内では検出できなかった。

遺物の出土量は少ない。１の壷は貯蔵穴の埋土中から出土している。

087号竪穴住居跡（第48図，図版34，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＪ3グリッドの位置にある。北東側の大部分は調査区外で，調査区との境は079号溝によって床面まで破壊されている。検出できた範囲内にも木の根による攪乱が部分的にみられる。検出面から床面までの掘込みは浅い。主柱穴・貯蔵穴は調査できた範囲内では検出できなかった。埋土はローム粒を含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ褐色土が堆積している。

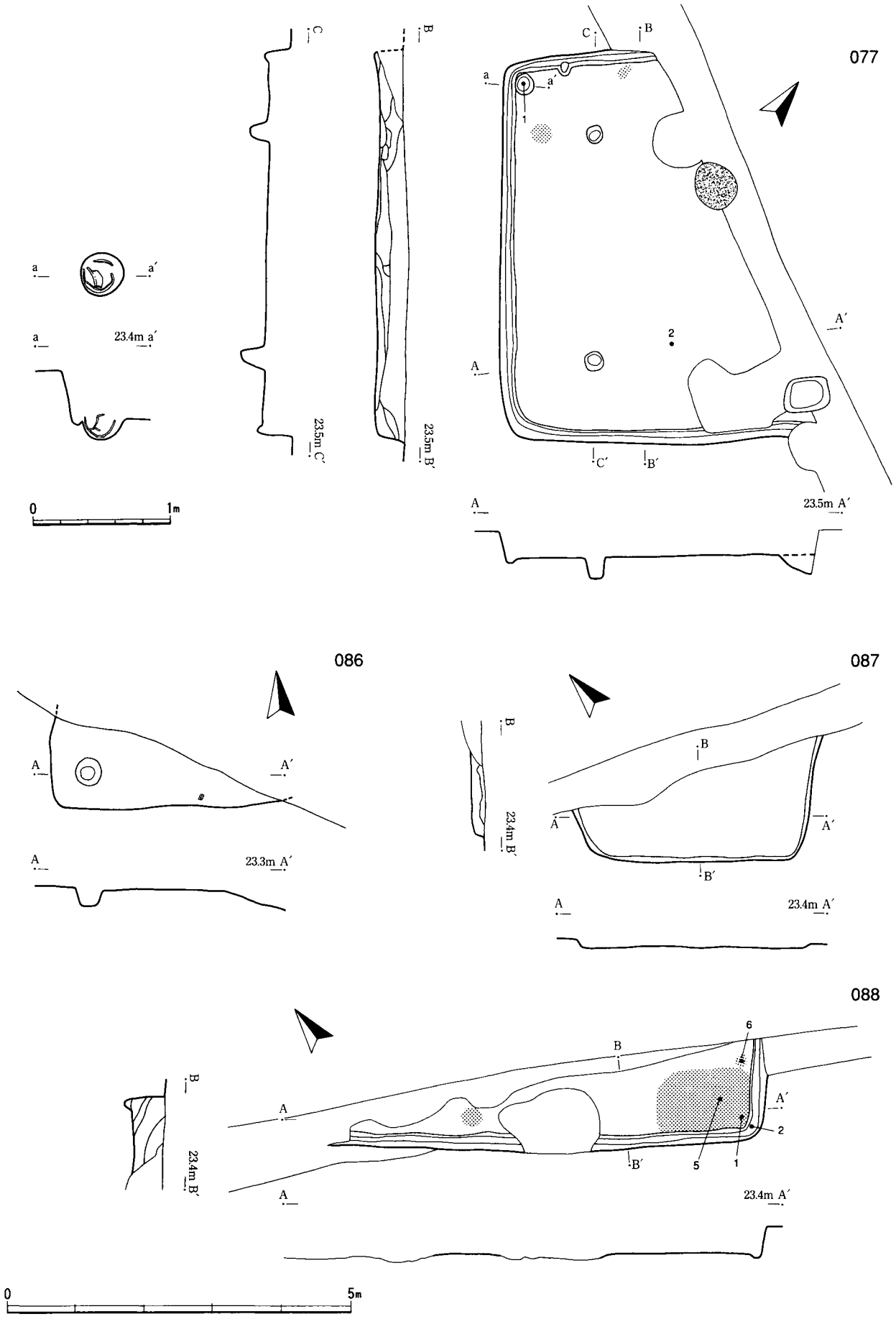
炉は調査できた範囲内では検出できなかった。

遺物の出土量は少ない。すべて埋土中から出土している。

088号竪穴住居跡（第48図，図版34，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＫ3グリッドの位置にある。北側の大部分は調査区外で，全体の一部分のみ調査することができた。調査区との境は079号溝によって床面まで破壊されている。また，南西側の壁は土坑状の攪乱によって床面まで破壊されている。壁溝は調査できた範囲内で巡っている。主柱穴・貯蔵穴は調査できた範囲内では検出できなかった。埋土は多量のローム粒とロームブロックや黒色土を混入した暗褐色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ暗褐色土が堆積している。床面付近と壁際には多量の焼土粒と炭化粒を含んだ黒褐色土とローム粒を多量に含んだ褐色土が堆積している。南側角の床面には焼土の堆積がみられる。

炉は調査できた範囲内では検出できなかった。



第48図　077・086・087・088号竪穴住居跡

遺物の出土量はさほど多くない。南東側の壁に寄った位置に集中している。3・4の器台は埋土中から，そのほかはすべて床面から出土している。

089号竪穴住居跡（第49図，図版35，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のＩ8グリッドの位置にある。重複する遺構はない。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。平面形は方形である。壁溝は角付近を除いて巡っている。床面は破線で図示した範囲が堅く踏み固められている。主柱穴は4本検出した。柱穴の径は0.5m～0.7mと比較的大きい。貯蔵穴は北西側の壁際にある。大きさは0.6～0.7mで，床面からの深さは0.32mである。東側角の壁に寄った位置にあるピットは瓢箪型をしており，いずれも床面からの深さが0.15m前後と浅い。貯蔵穴と考えることもできる。南東側の壁に寄った位置にあるピットは径0.3m前後で，床面からの深さは0.33mである。位置関係から出入口に関係するものと考えられる。西側の壁に寄った位置にピットが5つあるが，径は0.2m～0.4mで，床面からの深さは0.05～0.2mと浅く，性格は不明である。埋土は焼土粒を少量含んだ黒色土を主体とし，床面付近には焼土粒，炭化粒とローム粒を含んだ暗褐色土が堆積している。壁際は焼土粒やローム粒を多量に含んだ暗褐色土や褐色土が交互に堆積している。焼土や炭化物は床面より高い位置から出土している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは径0.65mの円形で，床面からの深さは0.04m前後である。

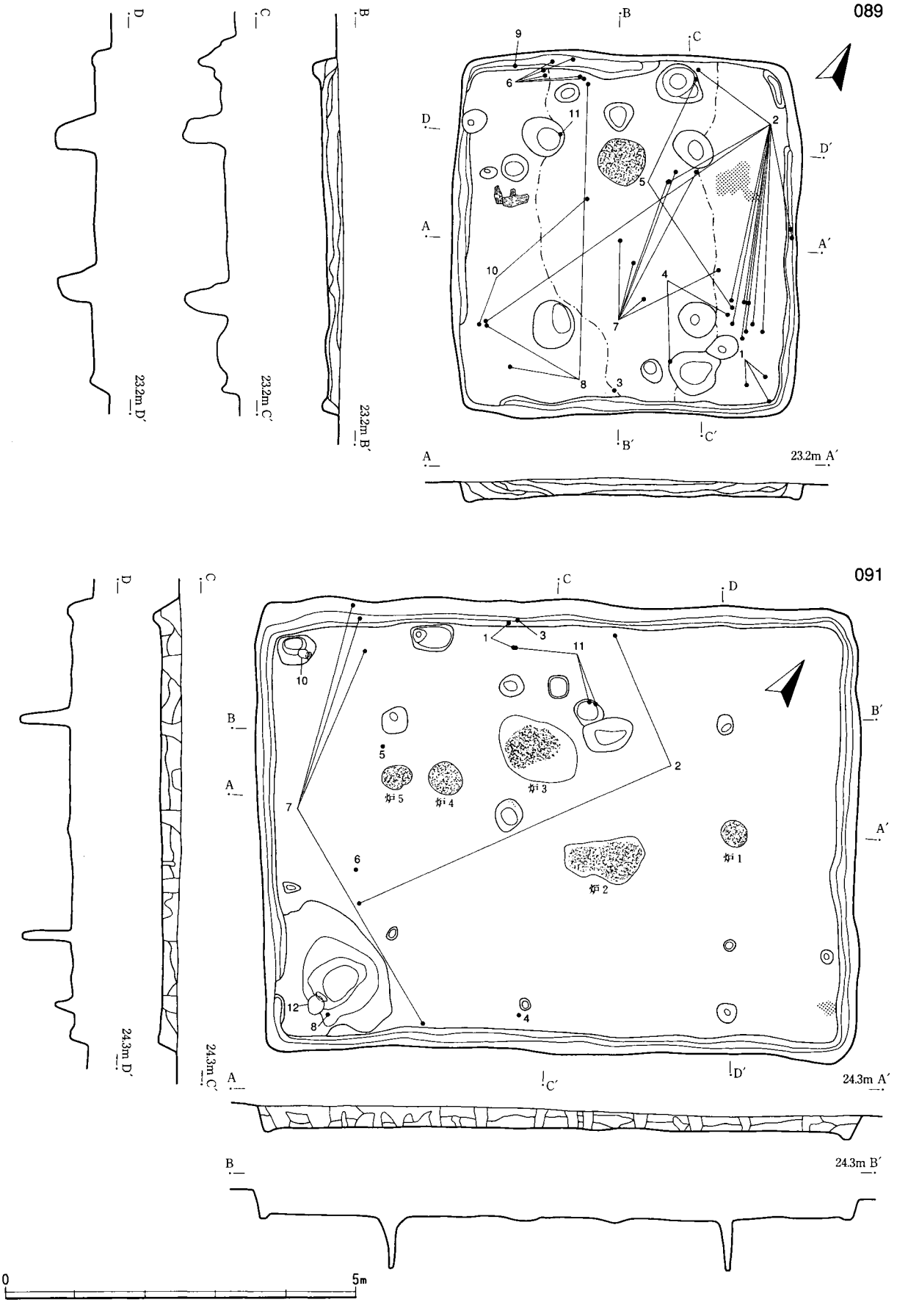
遺物の出土量はあまり多くない。出土状況は破片の状態で竪穴住居跡内全体に散っており，すべて埋土中から出土している。広い範囲での接合がみられることなどから，投棄されたものと考えられる。

091号竪穴住居跡（第49図，図版35，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のＳ8グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，耕作による幅の狭いトレンチ状の攪乱によって部分的に床面まで破壊されている。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。平面形は長方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出できた。柱穴の径はいずれも小さいが，床面からの深さは0.7m前後と深い。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長径2m，短径1.5mほどの不整形な楕円形で，床面からの深さは0.5mである。壁際と炉の付近に大きさの異なるピットがあるが，床面からの深さは深いものでも0.3mほどで，ほとんどは0.1m以下と浅く，性格は不明である。埋土はローム粒を含んだ黒色土を主体とし，その上にローム粒を含んだ黒褐色土が堆積している。壁際にはローム粒とロームブロックを含んだ暗茶褐色土が堆積している。

炉は主柱穴の内側に5つあり，竪穴住居跡の長軸方向に並ぶようにある。炉1は北東側の壁に寄った位置にあり，大きさは長径0.4m，短径0.35mのほぼ円形で，床面からの深さは0.02mである。炉2はほぼ中央にあり，大きさは長径1.14m，短径0.64mの不整形な楕円形で，床面からの深さは0.03mである。炉3は北西側の壁に寄った位置にあり，大きさは長径1.27m，短径0.87mの楕円形で，床面からの深さは0.04mである。炉4は南西側の壁に寄った位置にあり，大きさは長径0.5m，短径0.44mのほぼ円形で，床面からの深さは0.02mである。炉5は炉4より更に壁に寄った位置にあり，大きさは長径0.44m，短径0.34mの楕円形で，床面からの深さは0.02mである。いずれも床面からの深さは浅く，焼土粒の堆積も少ない。

遺物の出土量はさほど多くない。10・12の甕は完形，4の小型坩は完形に近い形で，そのほかはすべて破片である。10の甕はピットの上面で，8の高杯と12の甕は貯蔵穴の中から出土している。そのほかはすべて埋土中から出土している。



第49図　089・091号竪穴住居跡

092号竪穴住居跡（第50図，図版36，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のS7・S8・T7・T8グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はないが，北側角は道路があるために調査することができなかった。また，北側とほぼ中央部は攪乱によって床面まで破壊されている。平面形は長方形である。検出面から床面までの掘込みは浅く，特に，北側は壁の立ち上がりがほとんどみられない部分もある。壁溝は調査できた範囲内で巡っている。主柱穴は4本検出できた。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長辺1.19m，短辺0.95mの長方形で，床面からの深さは0.61mである。南東側と北側の壁に寄った位置に径0.4～1mのピットが4つある。床面からの深さは0.05～0.2mと浅く，性格は不明である。埋土はローム粒とロームブロックを含んだ暗茶褐色土と暗褐色土が堆積している。西側角にある炭化物は床面より高い位置にある。

炉はほぼ中央に6つある。炉1は長径0.8m，短径0.56mの楕円形で，床面からの深さは0.05mである。炉2は攪乱によって半分ほどが破壊されている。大きさは推定で，長径1.3m，短径0.7mの長楕円形で，床面からの深さは0.04mである。炉3は長径0.86m，短径0.78mのほぼ円形で，床面からの深さは0.05mである。炉4は長径1.64m，短径0.78～0.97mの双円形で，床面からの深さは0.1m前後である。炉5は長径0.87m，短径0.67mの楕円形で，床面からの深さは0.06mである。炉6は攪乱によって一部破壊されている。大きさは長径0.73m，短径は現存で0.61mで，ほぼ円形になるものと考えられる。床面からの深さは0.1m前後である。これらの炉の時間的前後関係は不明である。

遺物の出土量は比較的多いが，破片であり，全体を復元できたものはない。埋土中から出土したものがほとんどである。

093号竪穴住居跡（第50図，図版36，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のR9グリッドの位置にある。南側は調査区外であるため，北側角と周辺の一部のみ調査することができた。平面形は方形あるいは長方形になるものと考えられる。壁溝は調査できた範囲内で巡っている。主柱穴・貯蔵穴は調査できた範囲内では検出できなかった。北側角の壁際に長辺0.85m，短辺0.78mのほぼ方形のピットがある。床面からの深さは0.2mと浅く，底面は凹凸が激しく，貯蔵穴とは考えられない。北東側の壁に寄った位置に径0.3m前後で，床面からの深さが0.18mのピットがある。また，壁溝内に径0.12～0.28mで，壁溝底面からの深さが0.2～0.3mのピットがある。いずれも性格は不明である。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際にはローム粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。焼土層は床面より高い位置にある。

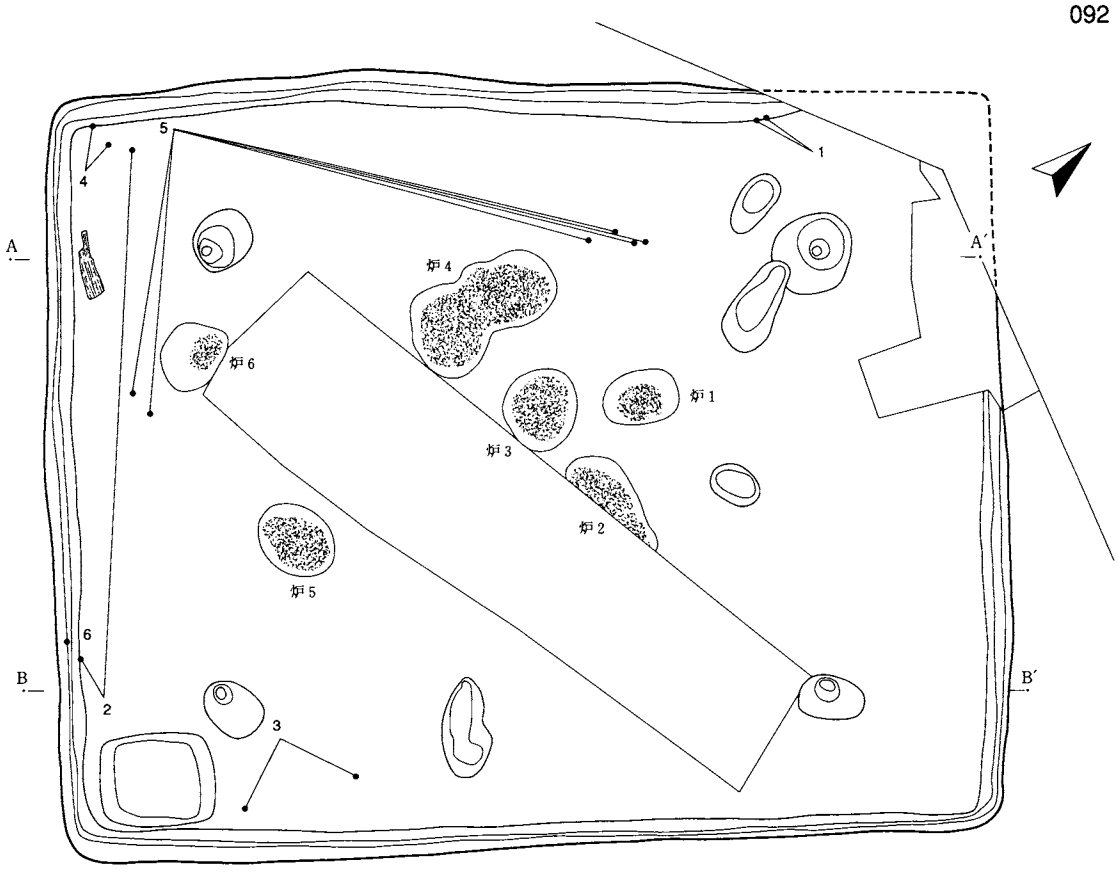
炉は調査できた範囲内では検出できなかった。

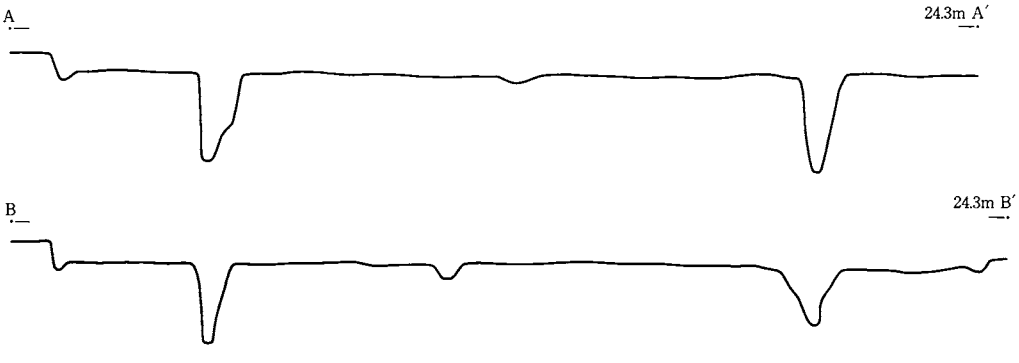
遺物の出土量は少ない。2の小型坩はピットの埋土中から出土している。そのほかは床面より高い位置から出土している。

101A号竪穴住居跡（第51図，図版36，竪穴住居跡計測表211頁）

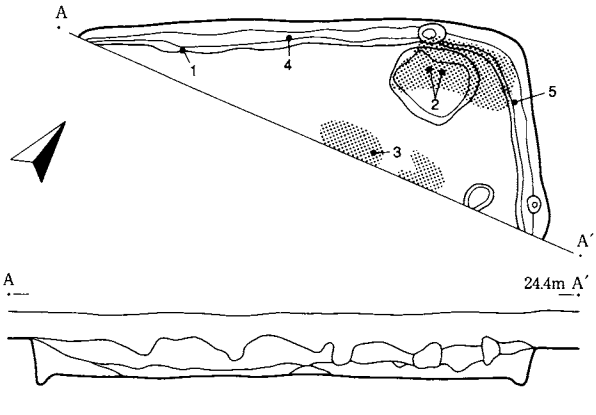
東側調査区のK7グリッドの位置にある。南側は調査区外である。101B号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は方形あるいは長方形になるものと考えられる。主柱穴・貯蔵穴は調査できた範囲内では検出できなかった。埋土はローム粒を少量含んだ暗褐色土が堆積している。

092





093



第50図　092・093竪穴住居跡

炉は北東側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.68m，短径0.3m前後の双円形で，床面からの深さは0.04mである。埋土は焼土粒とローム粒を多量に含んだ褐色土が堆積している。

遺物の出土量は少ない。5の勾玉の未製品は床面から出土しているが，そのほかのものは床面よりやや高い位置から出土している。

101B号竪穴住居跡（第51図，図版36，竪穴住居跡計測表211頁）

東側調査区のJ7・K7グリッドにまたがった位置にある。南側は調査区外である。101A号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。平面形は隅丸の方形になるものと考えられる。主柱穴・貯蔵穴は調査できた範囲では検出できなかった。埋土はローム粒を多量に含んだ黒色土と黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際にはローム粒を多量に含んだ黒褐色土と暗褐色土が堆積している。

炉はほぼ中央に位置すると考えられる。大きさは径0.5m前後で，床面からの深さは0.08mである。

遺物の出土量は非常に少なく，図示したものは埋土中から出土している。

103号竪穴住居跡（第51図，図版37，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のX11グリッドの位置にある。重複する遺構はない。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形はほぼ方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。ほぼ中央に長径1.3m，短径0.9mの楕円形で，床面からの深さが0.64mのピットがあるが，性格は不明である。

炉は西側角に寄った位置にある。大きさは長径0.81m，短径0.62mで，床面からの深さは0.02mと浅い。埋土は焼土粒と焼土ブロックを多量に含んだ暗赤褐色土が堆積している。

遺物の出土量は非常に少なく，すべて埋土中から出土している。

104号竪穴住居跡（第51図，図版37，竪穴住居跡計測表211頁）

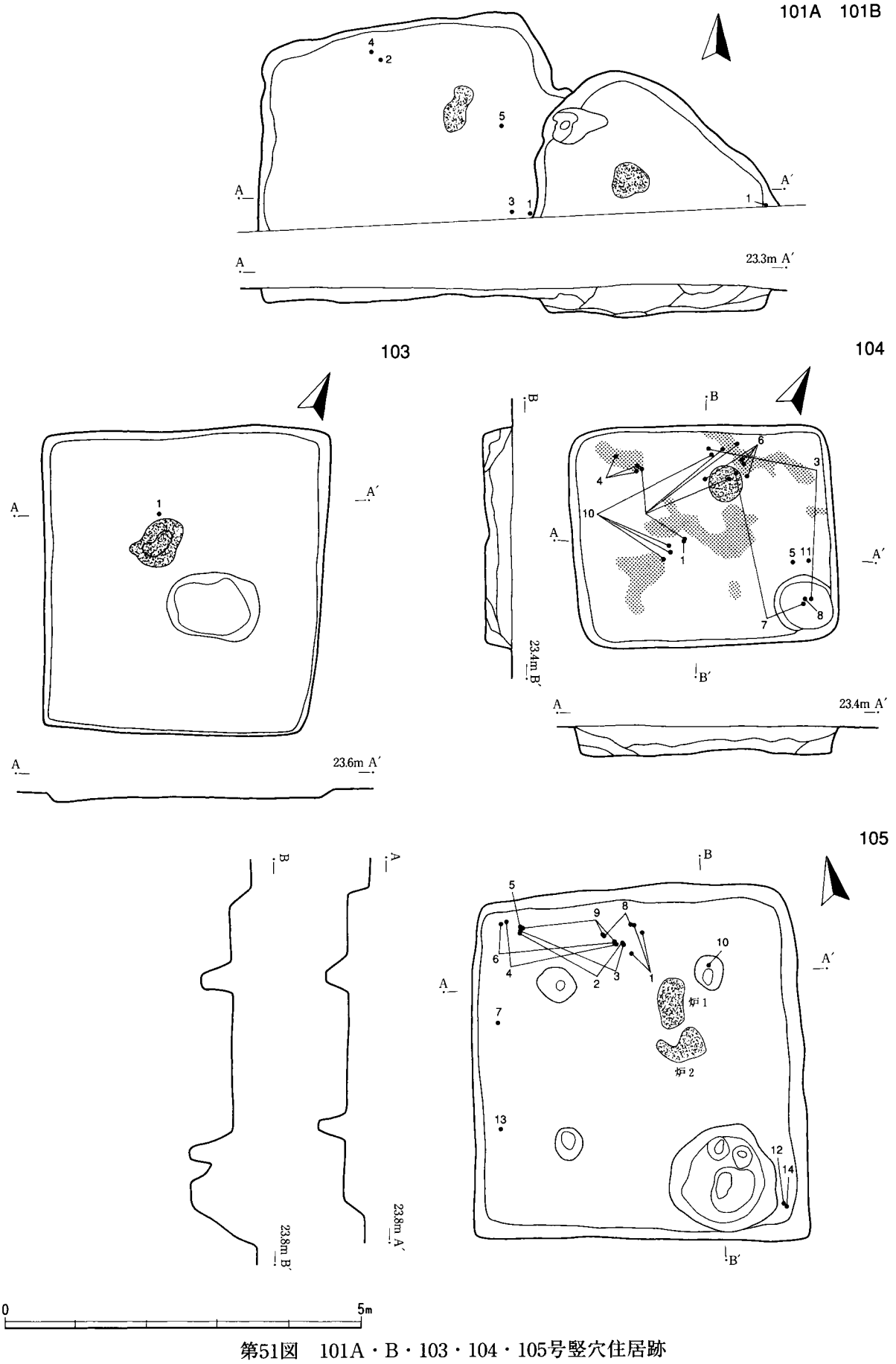
西側調査区のX11・12グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁際にある。大きさは径0.8m前後の円形で，床面からの深さは0.2m前後とやや浅い。埋土はローム粒と焼土粒を含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒とロームブロックを含んだ黒色土が堆積している。壁際にはローム粒，ロームブロックと焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

炉は北西側の壁に寄った位置にある。大きさは径0.4m前後の円形で，床面からの深さは0.05mである。火床部はあまり焼土化していないことから，比較的短期間のみ使用されたものと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くない。すべて埋土中から出土しており，比較的広範囲での接合がみられることなどから，投棄されたものと考えられる。

105号竪穴住居跡（第51図，図版38，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のY12グリッドの位置にある。重複する遺構はない。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。平面形は長方形である。主柱穴は4本検出できた。南東側の柱穴は貯蔵穴の中にある。南側の柱穴は床面からの深さが0.6m前後で，北側のものと比べて0.2m程度深くなっている。貯蔵穴は南東側角の壁際にある。大きさは径1.5m前後の円形で，底面は二段になっており，床面からの深さは0.6mである。貯



第51図　101A・B・103・104・105号竪穴住居跡

蔵穴の中にある主柱穴の隣にあるピットは，北側の主柱穴の深さとほぼ同じであることから，柱穴の可能性も考えられる。

炉は東側の壁に寄った位置の主柱穴の内側に２つある。炉１は大きさは長径0.71m，短径0.36mの楕円形である。炉２は長径0.7mほどの不整形である。いずれも床面からの深さは非常に浅く，火床部もあまり焼土化していないことから，比較的短期間のみ使用されたものと考えられる。

遺物の出土量はさほど多くない。壁際に集中しているが，床面より高い位置から出土しているものがほとんどであり，完形のものはなく，完形に近く復元できたものは１の壷と８・９の小型坩のみで，すべて投棄されたものと考えられる。

106号竪穴住居跡（第52図，図版38，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のＹ12・Ｚ12グリッドにまたがった位置にある。調査した遺構の中で，最も西にある。重複する遺構はないが，北西側の壁寄りの床面は，土坑状の攪乱によって一部破壊されている。検出面から床面までの掘込みは非常に浅い。平面形はほぼ方形である。北東側の壁には三角形状の張出し部分がみられる。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

炉はほぼ中央にある。大きさは長径0.45m，短径0.28mの楕円形で，床面からの深さは非常に浅い。火床部はほとんど焼土化していないことから，短期間のみ使用されたものと考えられる。

遺物の出土量は少なく，すべて埋土中から出土している。

108号竪穴住居跡（第52図，図版39，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のＲ8グリッドの位置にある。094・095号土坑列と重複し，新旧関係は本竪穴住居跡が古い。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土は重複が著しく，明確にできなかった。床面付近に焼土の堆積がみられる。

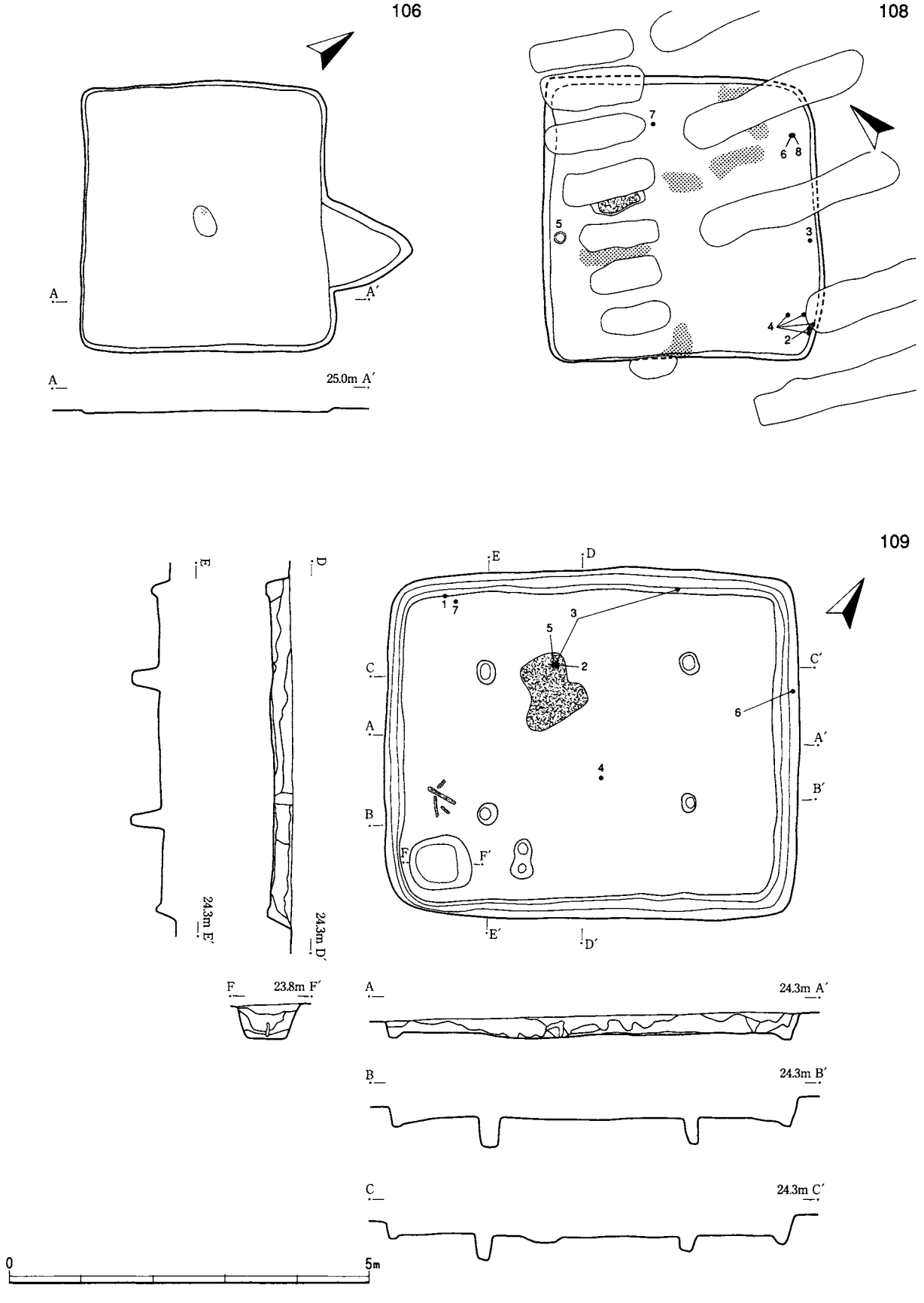
炉は北西の壁に寄った位置にある。094号土坑列に半分ほど破壊されている。大きさは長径0.74m，短径は現存で0.23mで，楕円形になるものと考えられる。床面からの深さはほとんどなく，焼土粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物の出土量は少ない。図示したものはすべて埋土中から出土している。

109号竪穴住居跡（第52図，図版39，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のＶ9グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。床面は全体に堅く踏み固められている。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は４本検出できた。径は0.25m前後で，比較的小さい。貯蔵穴は南側角の壁際にある。大きさは長辺0.83m，短辺0.75mの長方形で，床面からの深さは0.51mである。埋土はローム粒を多く含んだ黒褐色土を主体とし，底面付近にはローム粒を多く含み，粘性の比較的強い暗褐色土が堆積している。貯蔵穴に隣接して双円形のピットがある。大きさは長径0.55m，短径0.3m前後で，床面からの深さは0.26mである。床面を除去した後に検出したもので，性格は不明である。埋土はローム粒をやや多く含んだ暗褐色土と黒褐色土が交互に堆積している。炭化材は床面から出土している。

炉は北西側の壁に寄った主柱穴の内側にある。大きさは径１m前後の不整形で，床面からの深さは0.05



第52図　106・108・109号竪穴住居跡

m前後と浅い。埋土は焼土粒を多量に含んだ暗赤褐色土が堆積している。火床部は比較的深い所まで焼土化していることから，長期間にわたって使用されていたものと考えられる。

遺物の出土量は少ない。6の鉢は床面より高い位置で，ずり落ちたような状況で出土している。そのほかは床面から出土している。

110号竪穴住居跡（第53図，図版40，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のU10・V10グリッドにまたがった位置にある。111A号溝と重複し，新旧関係は本竪穴住居跡が古い。平面形は長方形である。床面は中央部分を中心に堅く踏み固められている。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は検出できなかった。壁に沿って，径0.2m前後で，床面からの深さが0.12～0.33mの小ピットが6つあり，支柱穴である可能性も考えられる。貯蔵穴は西側角の壁際にある。大きさは径0.7mの円形で，床面からの深さは0.27mである。埋土はローム粒を含んだ暗褐色土を主体とし，その上は耕作土と考えられる黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を含んだ褐色土が堆積している。

炉は南側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.88m，短径0.64mの不整形の楕円形で，床面からの深さは0.05mである。埋土は焼土粒を多く含んだ暗褐色土が堆積している。火床部の焼土化はあまり著しくない。

遺物の出土量は少ない。すべて破片で，埋土中から出土している。

112号竪穴住居跡（第53図，図版40，竪穴住居跡計測表211頁）

東側調査区のN6グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。南西側の壁に寄った位置に長径1.05m，短径0.78mの楕円形で，床面からの深さが0.26mのピットがあるが，性格は不明である。埋土はローム粒を少量含んだ黒褐色土を主体とし，床面付近にはローム粒を含んだ暗褐色土やロームブロックを多量に含んだ黒褐色土が堆積している。

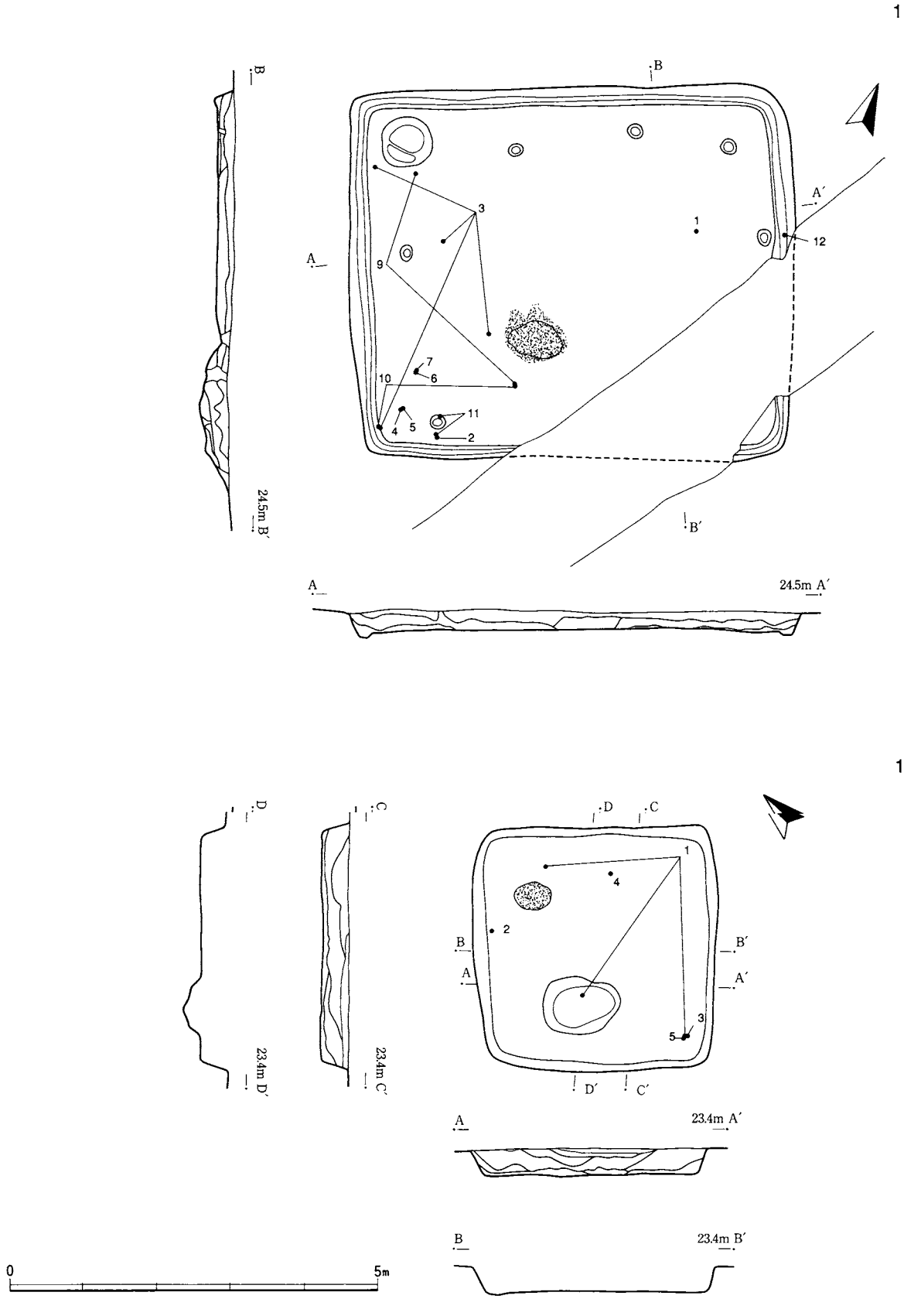
炉は北側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.5m，短径0.35mの楕円形で，床面からの深さは非常に浅い。焼土の堆積も少なく，火床部の焼土化もほとんどみられない。

遺物の出土量は少ない。南側角にみられる遺物はすべて床面から出土しているが，1の壷は広い範囲で接合がみられることから，投棄されたものと考えられる。

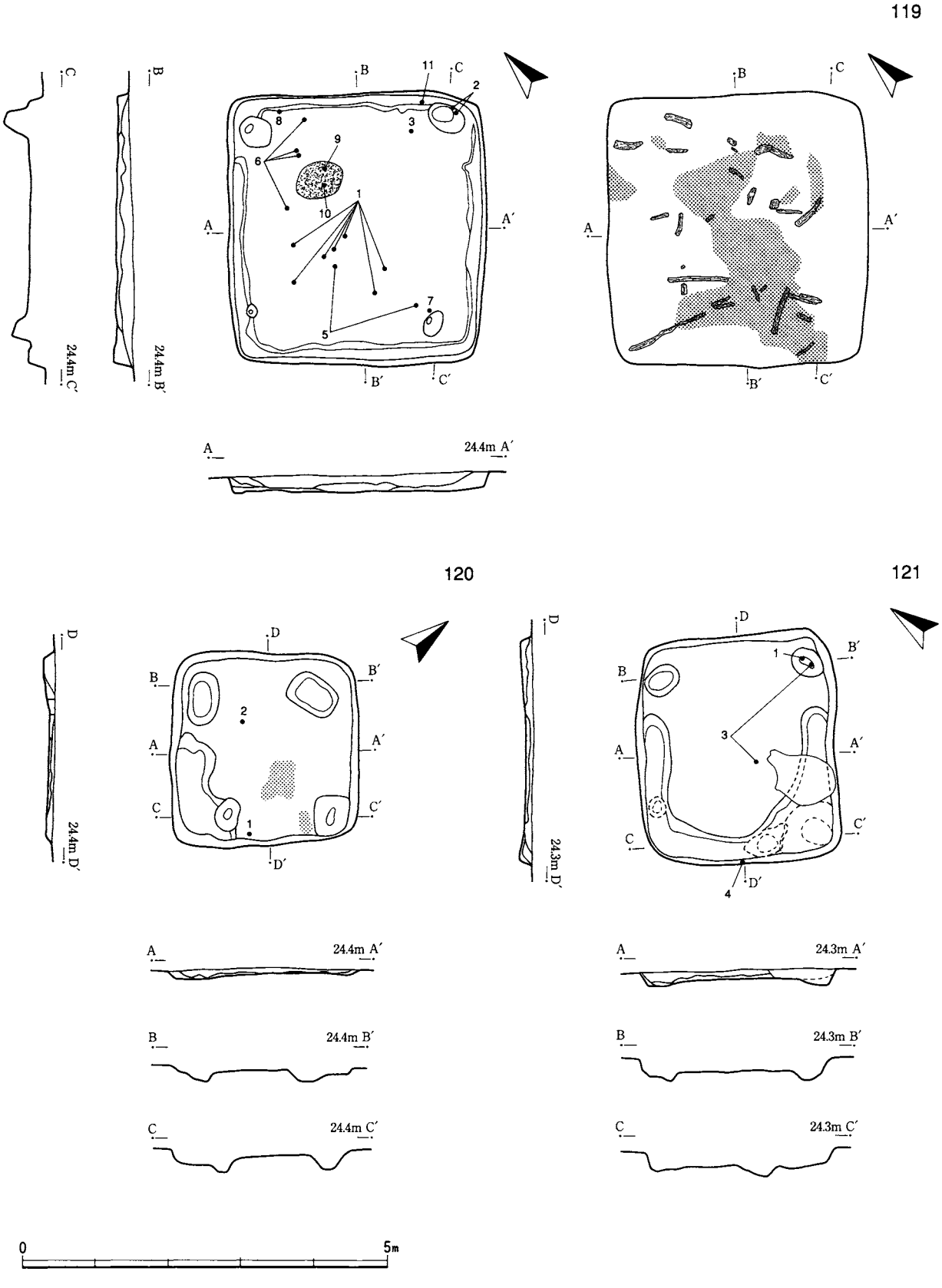
119号竪穴住居跡（第54図，図版41，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のU8グリッドの位置にある。重複する遺構はない。検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。平面形は方形である。床面は比較的堅く踏み固められている。壁溝は北側と東側角を除いて巡っている。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。西側角を除く角の壁際にピットがあるが，床面からの深さが0.2mと浅く，柱穴と考えるにはやや浅いと思われる。埋土はローム粒を少量含んだ黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際には焼土粒と炭化粒を多量に含んだ暗褐色土やローム粒を多量に含んだ明褐色土が堆積している。床面付近には多量に焼土層と炭化物がみられる。

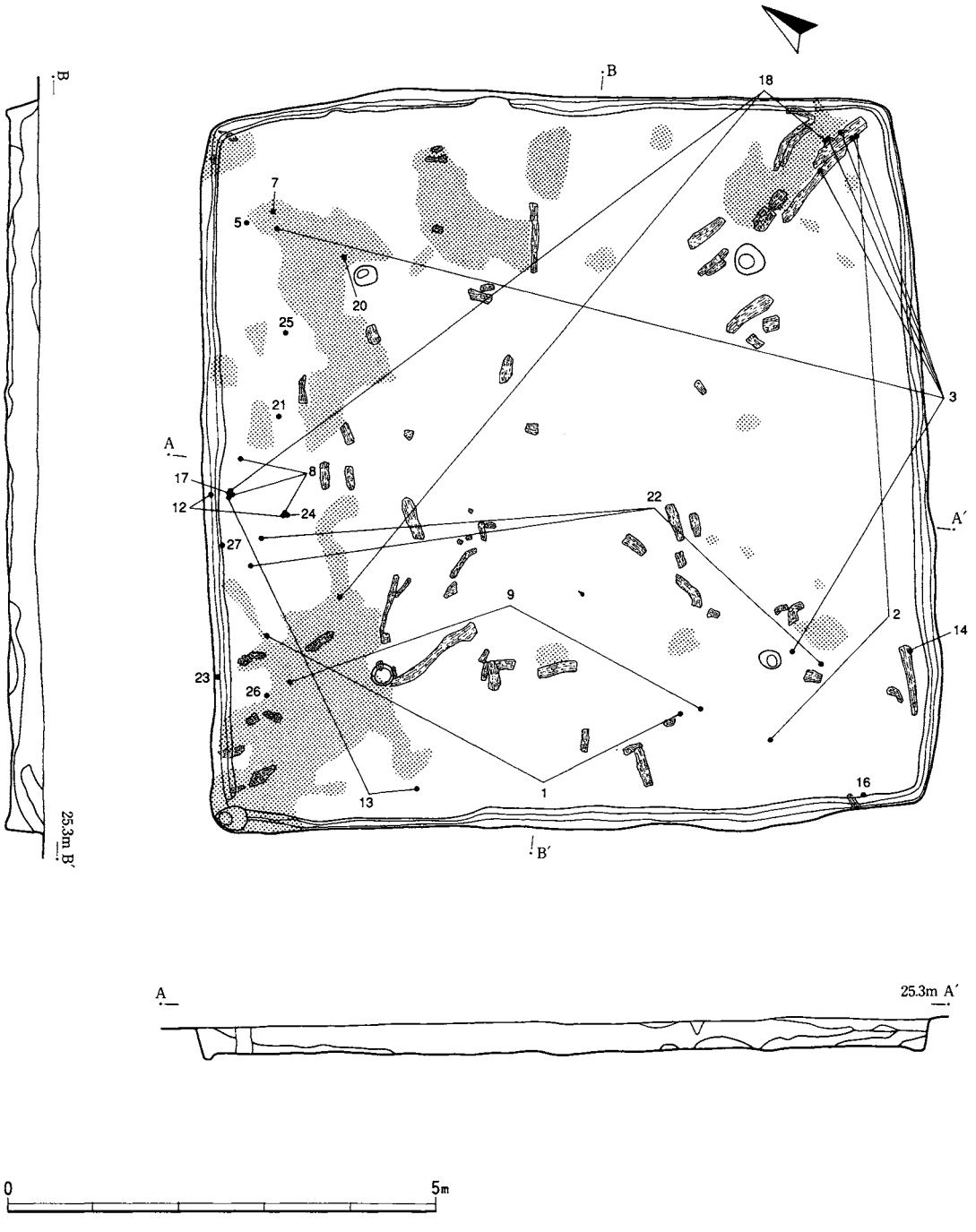
炉は北側角の壁に寄った位置にある。大きさは長径0.68m，短径0.5mの楕円形で，床面からの深さは0.05m前後である。埋土は焼土粒を含んだ黒褐色土が堆積している。火床部の焼土化はさほど著しくはない。



第53図　110・112号竪穴住居跡



第54図　119・120・121号竪穴住居跡



第55図　123号竪穴住居跡

遺物の出土量は比較的多い。7の高杯は床面近くから出土しているが，そのほかはすべて埋土中で，焼土や炭化物の上から出土している。

120号竪穴住居跡（第54図，図版41，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のU8グリッドの位置にある。重複する遺構はない。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形は方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。各角の壁際には床面からの深さが0.2m以下のピットがあるが，柱穴と考えるにはやや浅いと思われる。埋土は黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際には黄褐色土が堆積している。焼土は床面付近に堆積している。

炉は検出できなかった。

遺物の出土量は少なく，すべて破片である。

121号竪穴住居跡（第54図，図版41，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のV8グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，南側は土坑状の攪乱によって一部床面まで破壊されている。検出面から床面までの掘込みは浅い。平面形はほぼ方形である。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。北側と東側の角に径0.36～0.45mで，床面からの深さが0.13m前後のピットがあるが，性格は不明である。また，これらのピットと対する壁沿いには床面からの深さが0.1m程度の溝が巡っているが，性格は不明である。埋土はローム粒を少量含んだ暗褐色土を主体とし，床面付近と壁際にはローム粒を多量に含んだ明褐色土などが堆積している。

炉は検出できなかった。

遺物の出土量は比較的多いが，すべて破片である。

123号竪穴住居跡（第55図，図版42，竪穴住居跡計測表211頁）

西側調査区のU8・V8グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はない。平面形は方形である。壁溝は全体に巡っている。主柱穴は4本検出できた。柱穴は径が0.21～0.35mで，比較的小さい。貯蔵穴は検出できなかった。西側角の壁際の壁溝の中に径0.28～0.37mで，床面からの深さが0.38mのピットがあり，壁柱穴と考えられる。埋土はロームブロックと焼土粒を少量含んだ暗褐色土を主体とし，床面付近と壁際には焼土粒と炭化粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。壁際を中心に焼土が厚く堆積している。

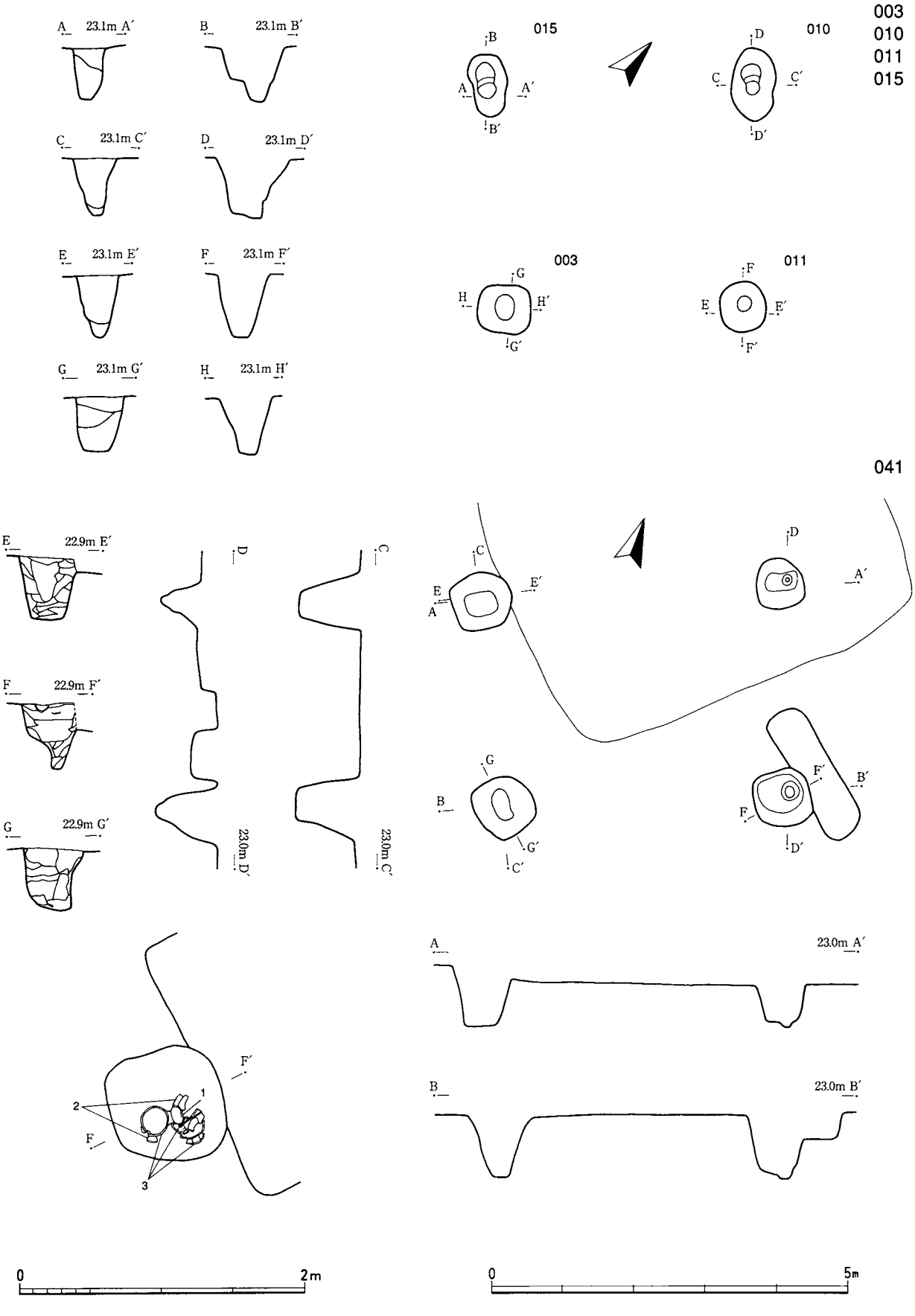
炉は検出できなかった。

遺物の出土量は比較的多いが，すべて破片である。広範囲で接合しているものが多いことから，投棄されたものと考えられる。

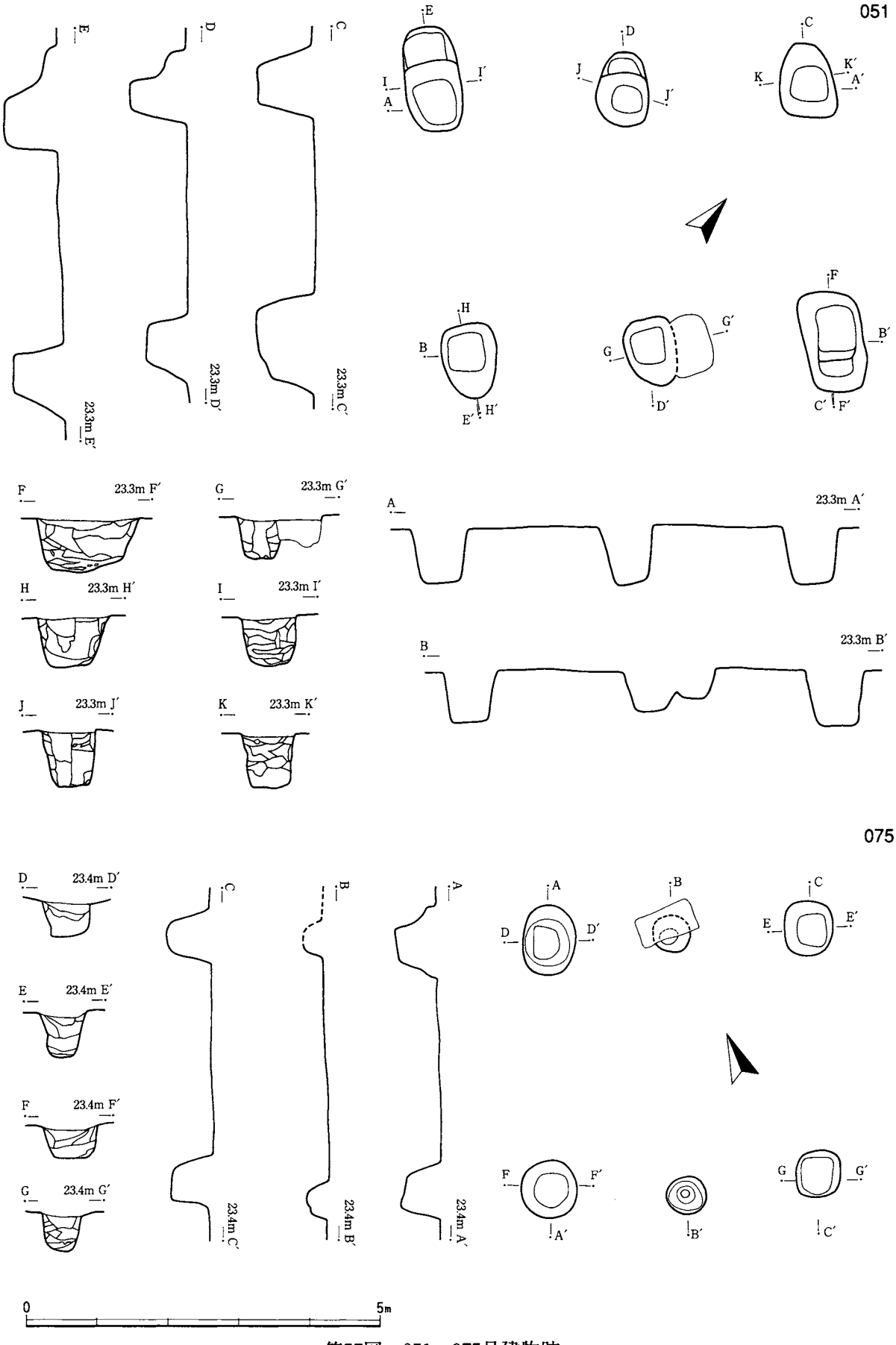
(2)建物跡

003・010・011・015号建物跡（第56図，図版46）

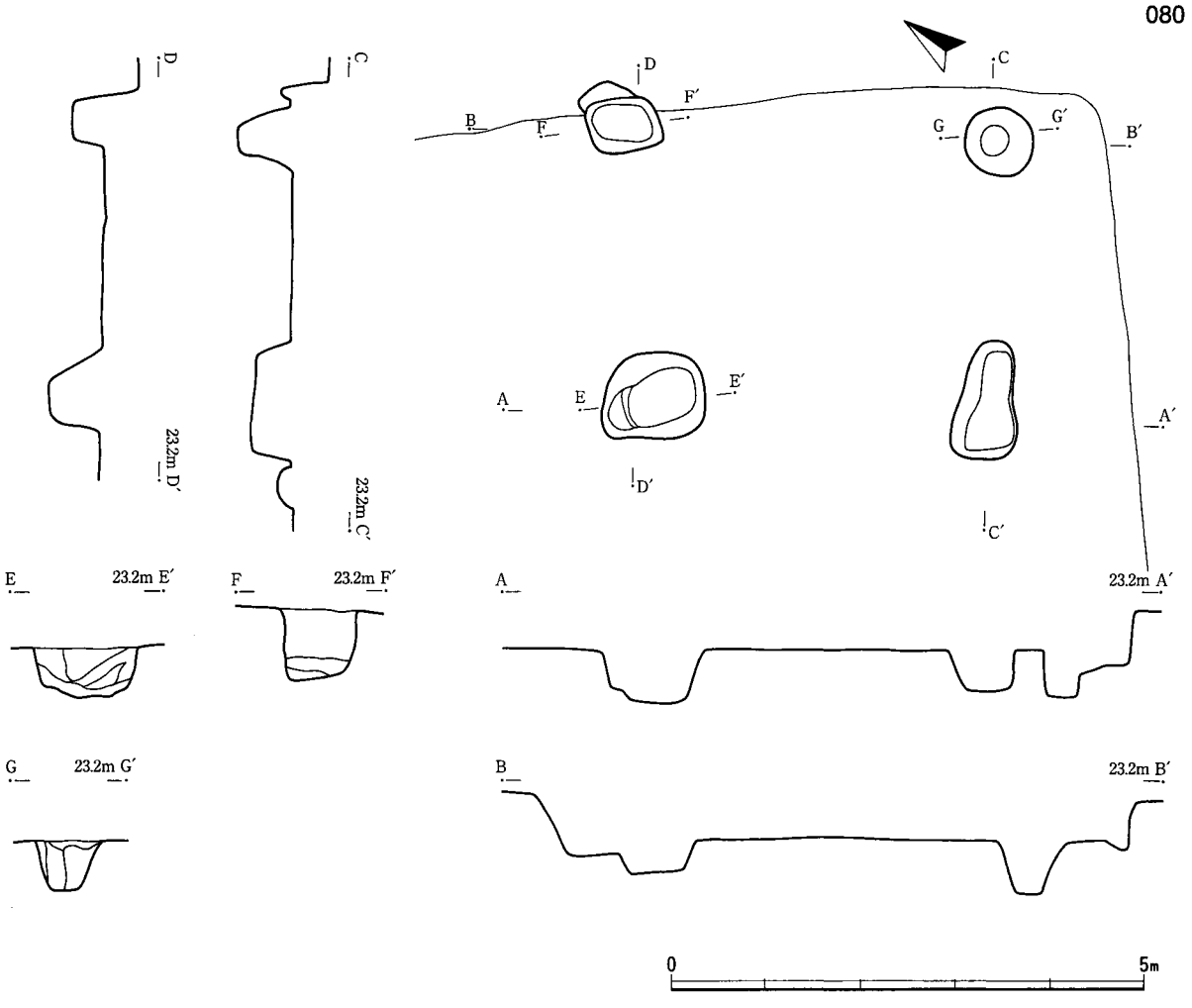
東側調査区のI7・J7グリッドにまたがった位置にある。調査時点では個々の土坑と考えていたので，それぞれに遺構番号が付けられている。西側梁行1間（3m）×北側桁行1間（3.7m）の建物である。北側の2本の柱穴は2段に掘り込まれている。いずれの柱穴もしっかり掘り込まれている。埋土はローム粒を含んだ暗褐色土と黒色土が堆積している。柱痕跡は確認できなかった。



第56図　003·010·011·015・041号建物跡



第57図　051・075号建物跡



第58図　080号建物跡

遺物は小破片が数点出土したが，図示できるものはない。

041号建物跡（第56図，図版42）

東側調査区のＩ5グリッドの位置にある。031号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は明らかではない。東側の柱穴は土坑状の攪乱によって一部破壊されている。東側梁行１間（3m）×北側桁行１間（4.2m）の建物である。東側の柱穴は２段に掘り込まれている。いずれの柱穴もしっかり掘り込まれている。柱痕跡は土層断面で一部確認することができた。

遺物は東側の柱穴の中から出土している。

051号建物跡（第57図，図版43）

東側調査区のＬ5グリッドの位置にある。重複する遺構はない。東側の柱穴は土坑状の攪乱によって一部破壊されている。南側梁行１間（3.4m）×東側桁行２間（5.3m）の建物である。柱穴の平面形は方形に近いものが多い。２段に掘り込まれているものもある。柱痕跡は土層断面で一部確認することができた。遺物は小破片がそれぞれの柱穴からわずかに出土しているが，図示できるものはない。

075号建物跡（第57図，図版43）

東側調査区のＬ6・Ｌ7・M6・M7グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はないが，北側の柱穴は土坑状の攪乱によって半分ほど底面まで破壊されている。西側梁行１間（3.5m）×南側桁行２間（3.8m）の建物である。桁行中央の柱穴はほかの４本の柱穴に比べて径も小さく，深さも浅い。柱穴の平面形は方形のものと円形のものとがある。柱痕跡は確認できなかった。

遺物は南側の柱穴から小破片が数点出土したが，図示できるものはない。

080号建物跡（第58図，図版43）

東側調査区のＫ3・Ｋ4グリッドにまたがった位置にある。050号竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本建物跡が新しい。南側梁行１間（3m）×東側桁行１間（3.8m）の建物である。南西側の柱穴は平面形は長方形である。柱穴の掘込みはしっかり掘り込んでいる。柱痕跡は土層断面で一部確認することができた。

遺物は小破片が数点出土しているが，図示できるものはない。

⑶土坑

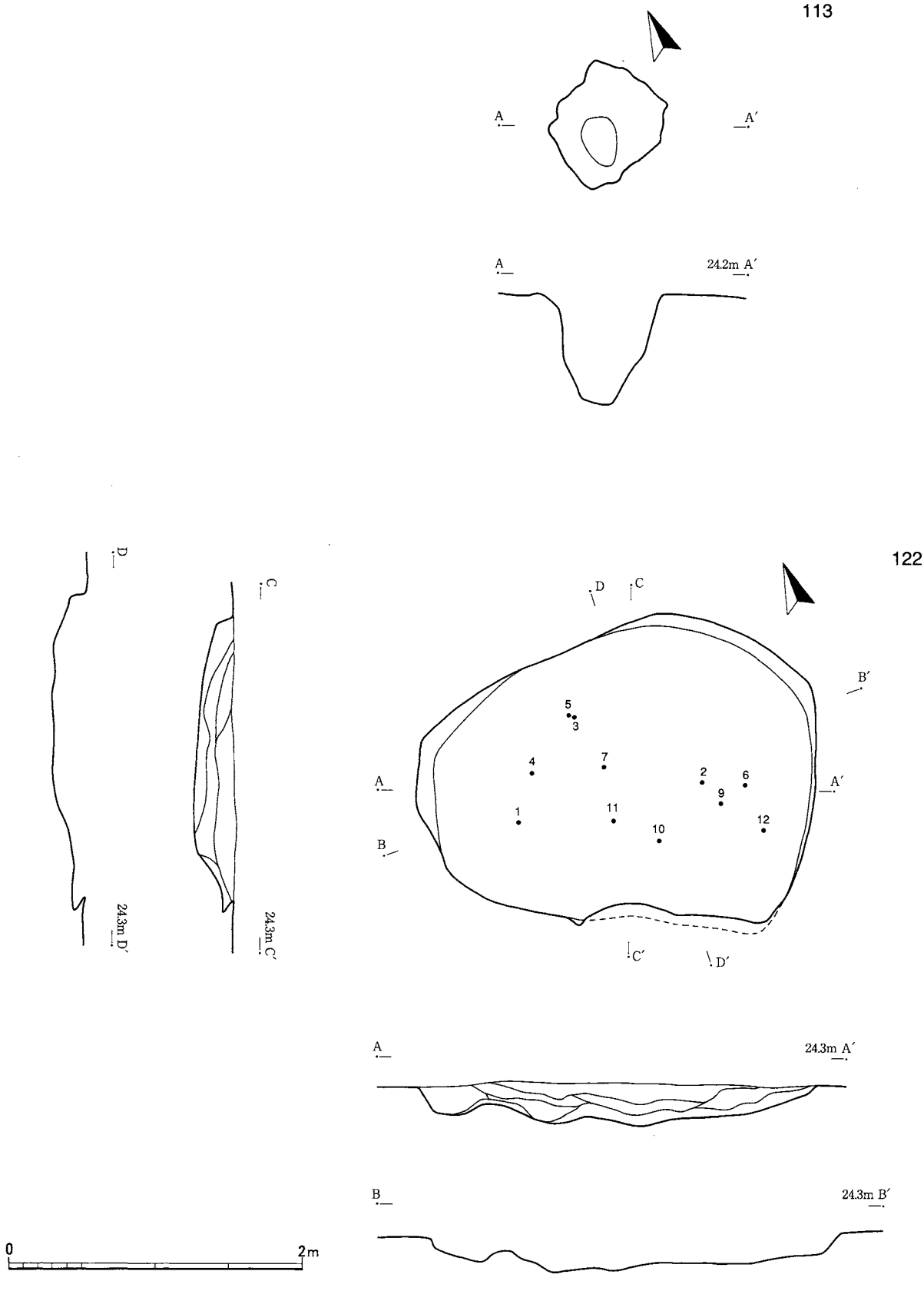
113号土坑（第59図）

西側調査区のＵ9グリッドの位置にある。重複する遺構はない。大きさは長径約0.8m，短径0.65mの不整形で，検出面からの深さは0.7mである。性格は不明である。

遺物は埋土中の上部から出土している。

122号土坑（第59図，図版44）

西側調査区のＶ8グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，121号竪穴住居跡に近接している。大



第59図　113・122号土坑

きさは長径2.7m，短径２m前後のやや不整形な楕円形で，検出面からの深さは0.3mほどである。底面は平坦ではなく，凹凸がみられる。埋土はローム粒を少量含んだ暗褐色土を主体とし，その上にローム粒と焼土粒を少量含んだ黒褐色土が堆積している。底面付近にはローム粒を多量に含んだ黄褐色土が堆積している。性格は不明である。

遺物の出土量は多いが，すべて破片で，埋土の上部から出土している。投棄されたものと考えられる。

2　遺　物

(1)竪穴住居跡

002号竪穴住居跡（第62図，図版56，土器観察表212頁）

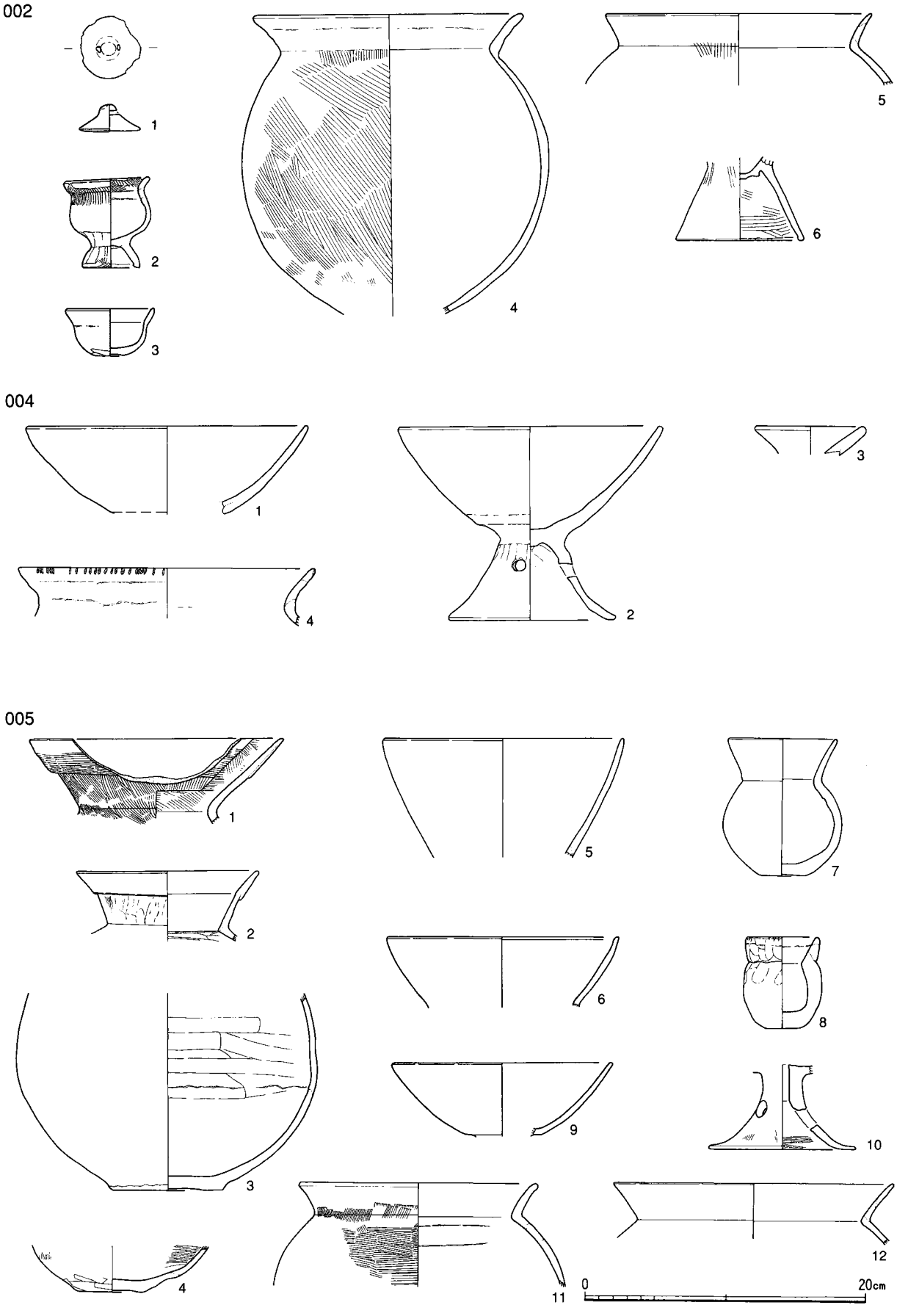
1は蓋で，天井部も含めてすべて赤彩されている。つまみの部分がナデられているほかはヘラミガキが行われている。胎土は，乳白色の微細粒と微細な長石粒や赤色スコリアが含まれている。つまみ部分に0.3～0.4cmの穴が開けられている。2の蓋になるものと思われる。2はミニチュアの台付甕で，台部の内側を除いて赤彩されている。口縁部内外面及び胴部外面の上半部はハケ調整のままで，それ以外はナデ調整を行っているが，輪積み痕が残るなどやや雑である。胎土は，細かい砂粒を多く含んでいる。3は小型坩で，底部外面も含めてすべて赤彩されている。内外面ともにナデ調整が行われており，比較的丁寧な仕上がりとなっている。胎土は，雲母粒あるいは石英粒を多く含んでいる。4・5は甕である。4は胴部外面はハケ調整のままで，それ以外はナデ調整が行われている。口縁部内外面には輪積み痕がみられる。胎土は，微細な長石粒と石英粒をわずかに含んでいる。5は頸部外面にハケ調整が残るほかはナデ調整が行われている。胎土は，微細な石英粒と長石粒を含んでいる。6は台付甕の台部である。胴部及び台部内面の天井部付近はナデ調整で，そのほかはハケ調整が行われている。胎土は，微細な石英粒と長石粒を多く含んでいる。

004号竪穴住居跡（第62図，図版56，土器観察表212頁）

1・2は高杯である。1は杯部のみで，脚部は接合部分から欠損している。内外面ともにヘラミガキ調整が行われている。胎土は，0.5～2㎜程度の砂粒と長石粒を含んでいる。器表面は一部に火熱を受け，もろくなっている。2は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。杯部内外面はヘラミガキ調整が行われているが，内面は器表面の剥離がみられる。脚部は外面はヘラケズリの後ヘラミガキ調整，内面はハケ調整が行われている。胎土は，0.5～3㎜程度の砂粒と長石粒を含んでいる。器表面は一部に火熱を受け，もろくなっている。3は器台で，器受部のみである。台部は接合部分から欠損している。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は0.5～2㎜の長石粒を含み，焼成は良好である。4は甕で，口唇部にハケ状工具による刻みがみられる。口縁部外面には輪積み痕がみられる。胎土は1㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。一部ススの付着がみられる。

005号竪穴住居跡（第62・63図，図版56，土器観察表212頁）

1～7は壷である。1・2は折り返し口縁の壷である。1の口縁部は意識的に半円状に割られている。内外面ともにハケ調整の後，部分的にナデられている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。部分的にススの付着がみられる。2は胴部内面はヘラナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は胴部で，内面はヘラナデ，外面はヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を多く含み，焼成は良好である。4は底部である。内外面ともにハケ調整の後，ナデ調整を行っている。胎土は0.5㎜前後の長石粒を含み，焼成は良好である。器表面には一部ススの付着がみられる。5・6は素口縁の壷である。5は内外面ともにヘラミガキ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。6は遺存しているすべての部分が赤彩されている。内外面ともにヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。7は小型の壷で，口縁部外面



第62図　002・004・005号竪穴住居跡出土遺物

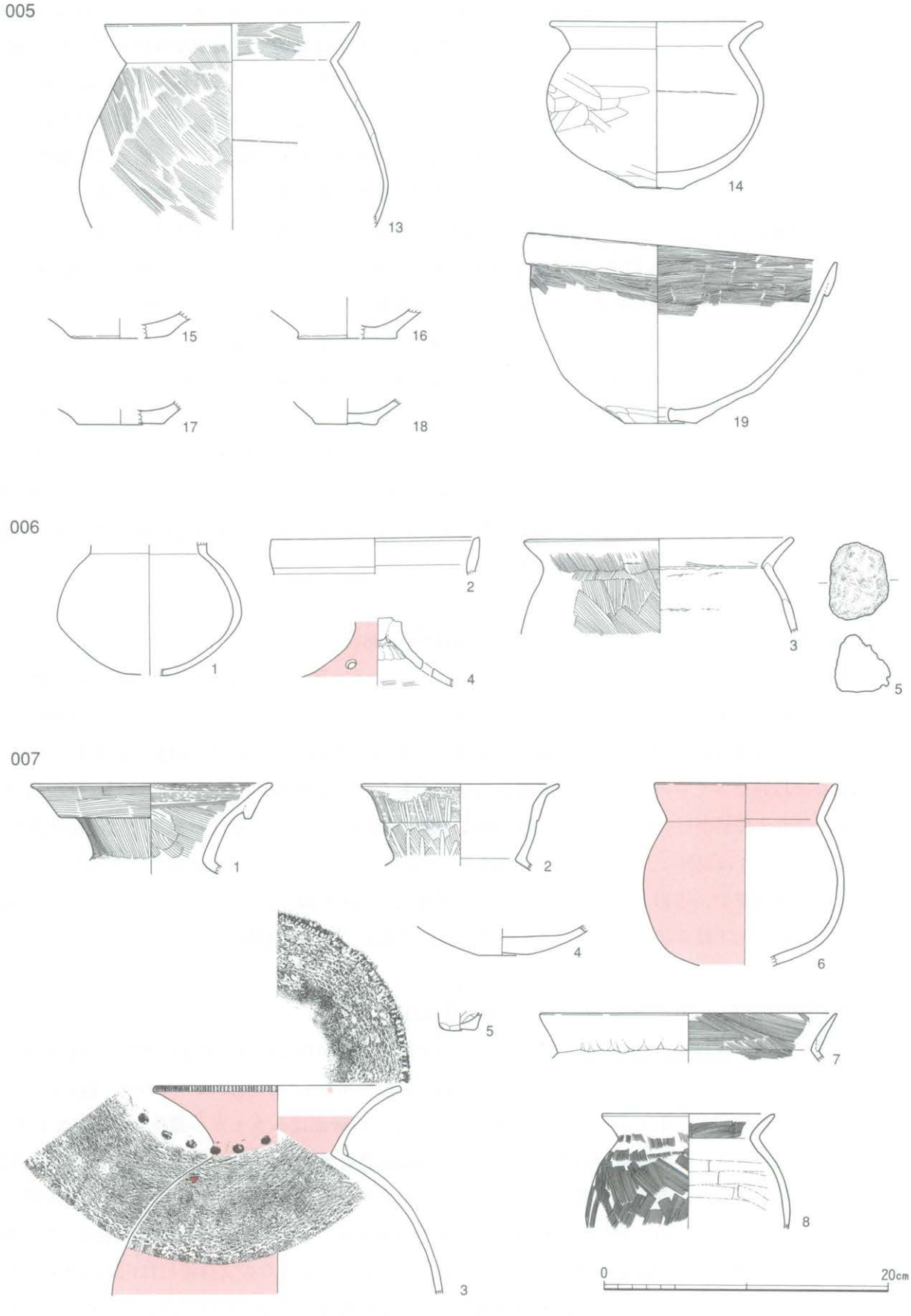
のみヘラミガキで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は1㎜前後の長石粒を含み，焼成は良好である。8はミニチュアの壷で，全体に指頭による圧痕が残る。胎土は緻密で，微細な砂粒をごくわずかに含み，焼成は良好である。9は高杯で，内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は微細な長石粒と白い砂粒を含み，焼成は良好である。10は器台で，台部に3つの透かし穴が開けられている。外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，裾部内面にはハケ目調整の跡が残る。胎土は微細な白い砂粒を含み，焼成は良好である。11～18は甕である。11は頸部から胴部外面はハケ調整のままで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は細かい砂粒を含み，焼成は良好である。胴部外面の一部にススの付着がみられる。12は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は微細な長石粒と0.5㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。13は胴部外面と口縁部内面はハケ調整のままで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。14は広口の甕で，胴部外面はヘラケズリの後，ヘラナデ調整が行われている。口縁部内外面はナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は1～4㎜前後の長石粒や石英粒を含み，焼成は良好である。15～18は底部で，16は火熱を受け器面が荒れている。18の外面の一部にはススの付着がみられる。胎土は，いずれも微細な砂粒を含み，焼成は良好である。19は甑で，1.4～1.6㎝の穴が1つ開けられている。口縁部は折り返し口縁で，口縁部内面と外面の口縁部直下はハケ調整が行われ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は1～2㎜前後の砂粒を含み，全体にややざらついた感じである。焼成は良好である。

006号竪穴住居跡（第63図，土器観察表212頁，石製品観察表198頁）

1は壷で，外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われている。器面は内外面ともに器表面が剥離し，荒れている。胎土は微細な砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。2・3は甕である。2はやや直立した口縁部で，口唇部端部はヘラ状工具で面取りが行われている。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は微細な雲母粒を多く含み，焼成はやや軟質な感じである。3は頸部から胴部外面はハケ調整のままで，そのほかはナデ調整が行われている。胴部内面には輪積み痕がみられる。胎土は微細な雲母粒を含み，焼成は良好である。4は高杯で，脚部の3か所に透かし穴が開けられる。杯部は接合部分で欠落している。外面はヘラミガキ調整で，赤彩されている。内面の上部は絞りの跡が残り，裾部はハケ調整の後，ナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。5は軽石製品である。

007号竪穴住居跡（第63・64図，図版56・57，土器観察表212・213頁）

1～4は壷である。1は二重口縁で，内外面ともにハケ調整が行われている。胎土は微細な長石粒を含み，焼成は良好である。2は有段口縁で，頸部がやや膨らんだ形状をもつ。外面はハケの後，縦方向のヘラミガキ調整がやや雑に行われている。内面は胴部はナデで，口縁部はヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，ややざらついた感じであり，焼成は良好である。3は素口縁で，口唇部端部にヘラ状工具による刻みがみられる。頸部にはボタン状の貼付文が14個残っており，推定で17個ほどが貼り付けられていたものと思われる。肩部の文様帯は網目状撚糸文を施し，下端を2条のS字状結節文で区画している。口縁部内面の文様帯は網目状撚糸文のみが施されている。これらの文様帯には円形の赤彩がなされ，肩部の文様帯には6か所，口縁部内面の文様帯には5か所残っている。口縁部内面から外面は文様帯を除いてすべて赤彩されている。胴部内面はナデで，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土



第63図　005・006・007号竪穴住居跡出土遺物

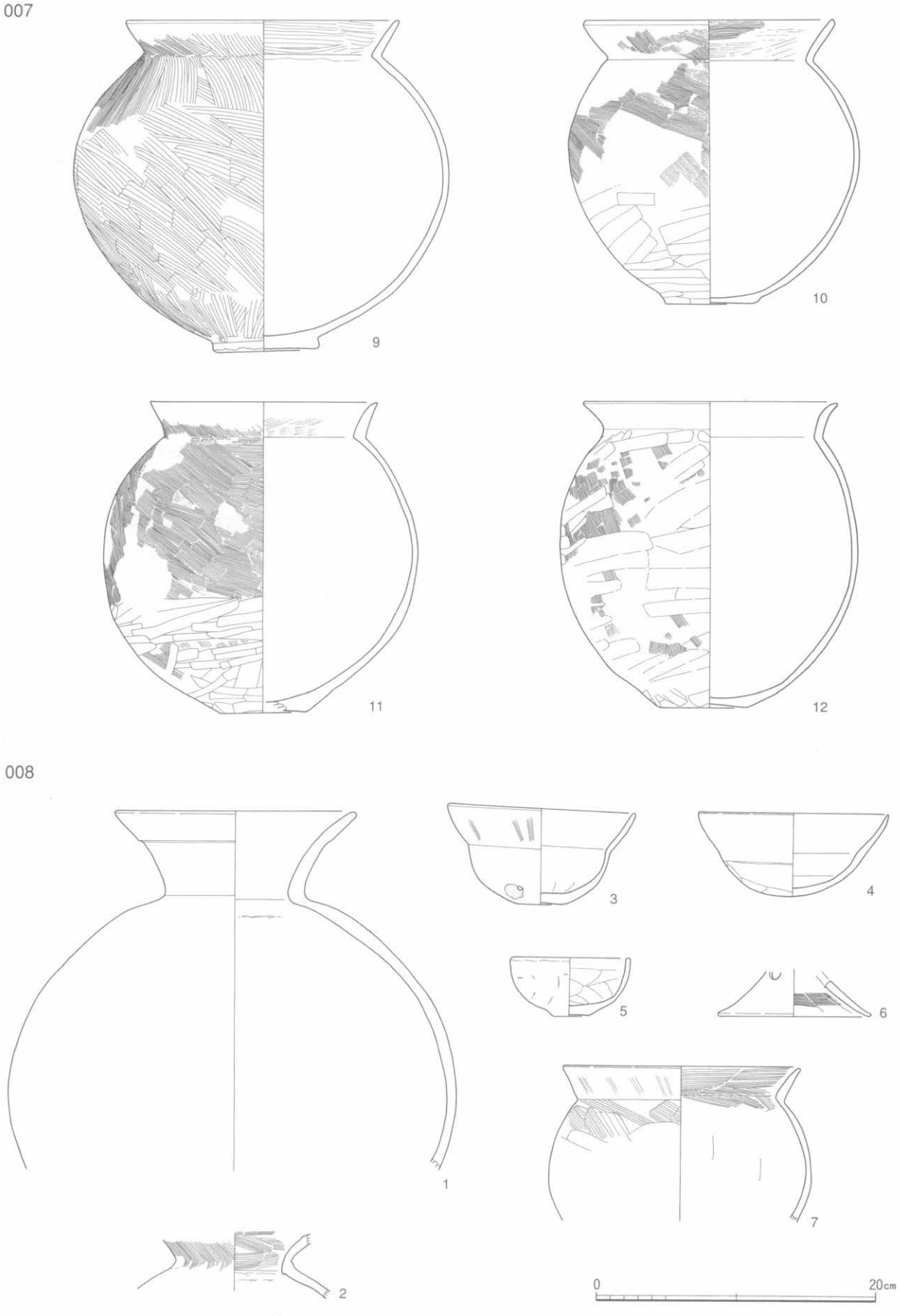
は砂粒を含み，焼成は良好である。4は底部で，外面はヘラミガキで，底部と内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は1～3㎜の長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。5はミニチュアで，外面はヘラナデで，内面と底部はヘラケズリが行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。6～12は甕である。6は口縁部内面から外面は縦あるいは横方向のヘラミガキで，内面はナデ調整が行われている。ヘラミガキ調整が行われている範囲は赤彩されている。胎土は砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。7は口縁部外面に指頭によるオサエの跡がみられる。内面はハケ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。8は口縁部内面から外面はハケで，口唇部内外面はナデ調整が行われている。胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。9は口縁部内面から外面はハケ調整で，口唇部内外面はナデ調整が行われている。胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面の下半部にはススの付着がみられ，底部内面には炭化物の付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。10・11は口縁部から胴部中位外面がハケ調整で，胴部下半から底部はヘラケズリが行われている。口縁部内面はハケの後，ナデ調整が，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。10の胎土は砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。11は口縁部から胴部中位までの外面にススの付着がみられ，内面の胴部下半から底部に炭化物の付着がみられる。胎土は微量の長石粒と砂粒を含み，焼成は良好である。12は胴部外面はハケ調整の後，全体的にヘラナデ調整が行われている。口縁部内外面と内面はナデ調整が行われている。胴部外面の肩部付近から底部付近にかけてススの付着がみられ，内面の胴部中位から底部には炭化物の付着がみられる。

008号竪穴住居跡（第64図，図版57，土器観察表213頁）

1・2は壷である。1は折り返し口縁で，胴部内面はナデで，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は口縁部内外面はハケ調整で，そのほかはナデ調整が行われている。頸部が全周すること，胴部の割れ口が擦ったように丸くなっていることと器表面が火熱を受けて荒れていることから，炉のなかで使用されたものと思われる。胎土は微細な砂粒を含む。3・4は小型坩である。3は平底で，体部下半に焼成後による穴が開けられている。内側から開けられたものと考えられ，外側は器表面がはじけ飛んだようになっているが，内側は整円形になっている。すべてナデ調整が行われているが，口縁部外面にハケ調整の跡が残る。胎土はやや大粒の砂粒を多く含み，焼成は良好である。4は丸底で，底部はヘラケズリで，そのほかはナデ調整が行われている。内面の器表面は荒れている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成はやや軟質である。5は平底の鉢である。体部外面はナデで，内面はやや粗いヘラナデ調整が行われ，全体的にやや雑な作りである。胎土はやや大粒の砂粒を含み，焼成はやや軟質である。6は器台で，台部の3か所に透かし穴が開けられていたものと思われる。外面はヘラミガキ調整で，内面にはハケ調整の跡が残る。胎土は微細な砂粒を多く含み，焼成は良好である。外面の器表面は火熱を受け，一部変色している部分がみられる。7は甕である。口縁部内面と肩部外面はハケ調整で，口縁部外面はハケの後ナデ調整が，胴部外面はハケの後ヘラナデ調整が，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

009号竪穴住居跡（第65図，図版57・58，土器観察表213頁，石製品観察表198頁）

1～3は壷である。1は素口縁で，肩部と胴部下半から底部にかけて焼成後による穴が開けられている。



第64図　007・008号竪穴住居跡出土遺物

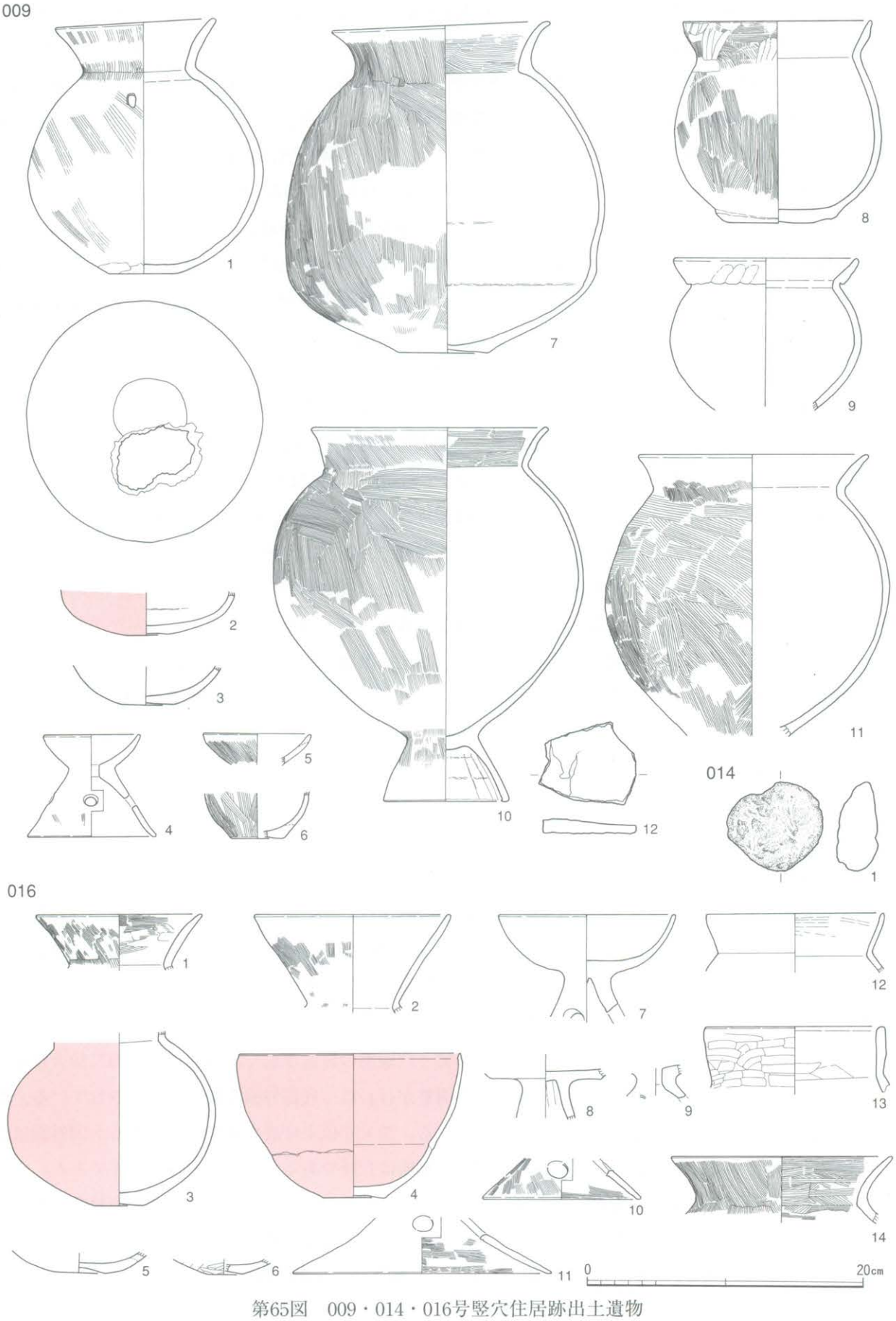
肩部の穴は長径10㎜，短径0.9㎜で，底部の穴は長径60㎜，短径45㎜の大きさである。外面はハケの後，ヘラミガキ調整が，内面はナデ調整が行われている。胎土はやや大粒の砂粒を含み，焼成は良好である。2・3は小型の壷と思われる。いずれもナデ調整が行われている。2は外面が赤彩されている。胎土はスコリアを含み，焼成は良好である。3は胎土は微細な砂粒と雲母粒を含み，焼成は良好である。4・5は器台である。4は器受部と台部の接合部に穴が開けられ，台部の4か所に透かし穴が開けられている。器受部と台部外面はヘラミガキ調整で，台部内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を多く含み，焼成はやや軟質である。5は器受部で，内面のみヘラミガキ調整が行われ，外面はハケの後，口唇部のみにナデ調整が行われる。火熱を受け器表面の一部が変色している。胎土はほとんど砂粒が含まれず，焼成は良好である。6は鉢で，外面はハケ調整で，内面と底部はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成はやや軟質である。7～9は甕である。7は胴部下半部に最大径をもつ。外面と口縁部内面はハケ調整で，口唇部内外面と胴部下端部はナデ調整が行われている。内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。8・9はやや小型の甕である。8は外面はハケ調整で，内面はナデ調整が行われている。内面の胴部下半部の器表面は荒れている。胎土は大粒のスコリアを多く含み，焼成は良くない。9は口縁部が折り返し状になっており，外面には指頭によるオサエの跡がみられる。胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細砂粒を多く含み，焼成はやや軟質である。10・11は台付甕である。10は口縁部内面から台部外面はハケ調整で，胴部下半と台部下半部はナデ調整が行われている。胴部内面と台部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面の一部にはススの付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11は胴部外面はハケ調整で，台部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。12は砂岩製の石皿の破片である。

014号竪穴住居跡（第65図，石製品観察表198頁）

1は軽石製品である。

016号竪穴住居跡（第65・66図，図版58・78・79，土器観察表213・214頁，石製品観察表198頁）

1～3は壷である。1・2は素口縁で，1は口縁部内外面はハケの後，粗いヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。2は口縁部内外面はハケの後，丁寧なヘラミガキ調整が行われているが，器面は荒れている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。3は胴部のみで，外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われ，外面は底部も含め赤彩されている。胎土は砂粒とわずかに長石粒を含み，焼成は良好である。4～6は小型坩である。4は体部と口縁部の屈曲が弱く，外面は意識的に接合痕を残しているように思われる。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，底部外面を除いて赤彩されている。胎土は砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。5・6は上げ底の底部で，いずれも内外面はナデ調整が行われている。胎土はいずれも砂粒を含み，焼成は良好である。7・8・11は高杯である。7は椀形の杯部で，脚部の3か所に透かし穴が開けられている。杯部内面と外面はヘラミガキ調整で，脚部内面はナデ調整が行われている。脚部天井部には臍状の突起がみられる。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。8は接合部のみで，杯部内面と外面はヘラミガキ調整で，脚部内面はヘラケズリが行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。11は裾部で，2か所に透かし穴が残ることから，4か所に開けら



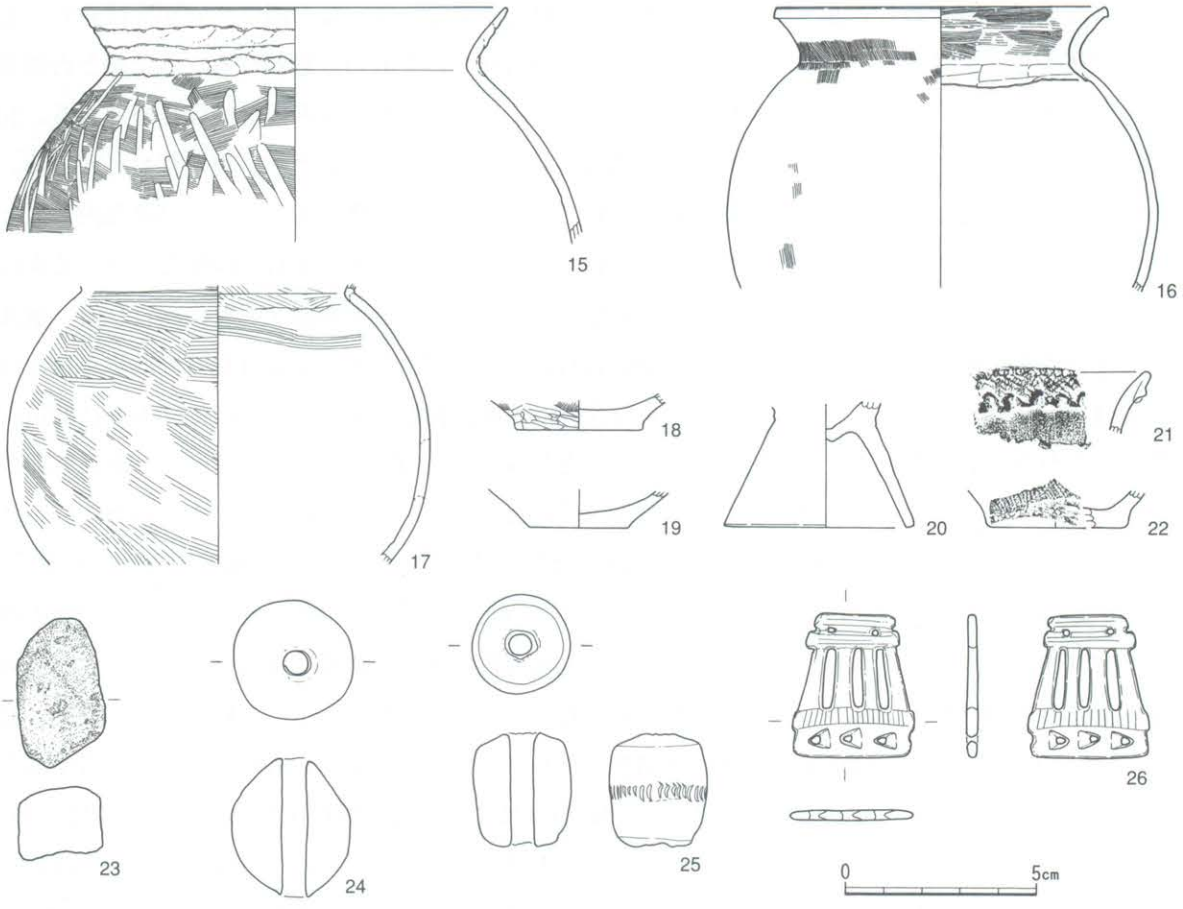
第65図　009・014・016号竪穴住居跡出土遺物

れていたものと思われる。外面はヘラミガキ調整で，内面はハケの後，ナデ調整を行っている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。9・10は器台である。9は器受部と台部の接合部で，穴が開けられ，台部の1か所に透かし穴が残っていることから，3か所に開けられていたものと思われる。器受部と台部外面はヘラミガキ調整で，台部内面はナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。10は台部で，4か所に透かし穴が開けられている。内外面ともにハケの後，粗いナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，ざらついた感じであり，焼成は良好である。12～19は甕である。12は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は少量の3～5㎜の小石と砂粒を含み，焼成は良好である。13は口縁部内外面にやや粗いヘラナデ調整が行われ，ヘラナデの跡が明瞭にみられる。胴部以下は接合部分から欠落している。胎土は1～3㎜の長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。14は口縁部内外面はハケ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。15は口縁部外面に輪積み痕が明瞭にみられる。頸部外面には頸部の補強のためと思われる粘土の貼り付けがみられる。胴部外面はハケの後，粗いヘラナデ調整が行われている。口縁部内外面はナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。16は口唇部が折り返されている。口縁部内面は火熱を受け，変色している部分がみられる。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われ，内面の頸部はヘラケズリで，胴部はナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。17は胴部外面と肩部内面はハケ調整が，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は長石粒と砂粒を含み，焼成は良好である。18・19は底部で，外面は粗いヘラナデ調整が行われている。いずれも外面にススの付着がみられる。18は胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。19は胎土は1～3㎜の砂粒を含み，焼成は良好である。20は台付甕で，すべてナデ調整が行われている。色調は火熱を受け，灰褐色になっている。胎土は砂粒を含み，ややざらついた感じで，焼成は良好である。21・22はいわゆる北関東系の土器である。21は折り返し口縁で，端部にヘラ状工具による押捺を行い，口唇部と口縁部外面に縄文を施す。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。22は底部で，胴部外面に縄文を施す。底部外面には木葉痕がみられる。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。23は軽石製品である。24・25は土玉である。24は幅3.2cm，高さ3.6cm，重さ30ｇの球形で，径0.7～0.75cmの穴が開けられる。色調は褐色で，胎土は乳白色の砂粒を含み，焼成は良好である。25は幅2.6cm，高さ2.95cm，重さ22ｇの円柱形で，径0.7～0.85cmの穴が開けられる。外面の中央部に，竹管による刺突文が全周する形で施されている。色調は褐色で，胎土は乳白色の砂粒を含み，焼成は良好である。26は滑石製の垂飾品で，完形である。縦4.3cm，上端幅2.1cm，下端幅3.05cm，厚さ0.25cmである。上部に径0.15cm前後の小さな穴が2か所開けられている。下部には3か所の透かし穴があり，表裏から三角形に削り込み，先端部のみ貫通させている。中央部は長さ1.5cm前後，幅0.25cm前後の縦長の透かし穴が3か所開けられている。上部には横方向，中央部と下部の透かし穴の間には縦方向の線刻が施されている。上部2か所の穴の間の表面には摩耗の痕跡がみられることから，この穴に紐を通して，使用していたものと思われる。

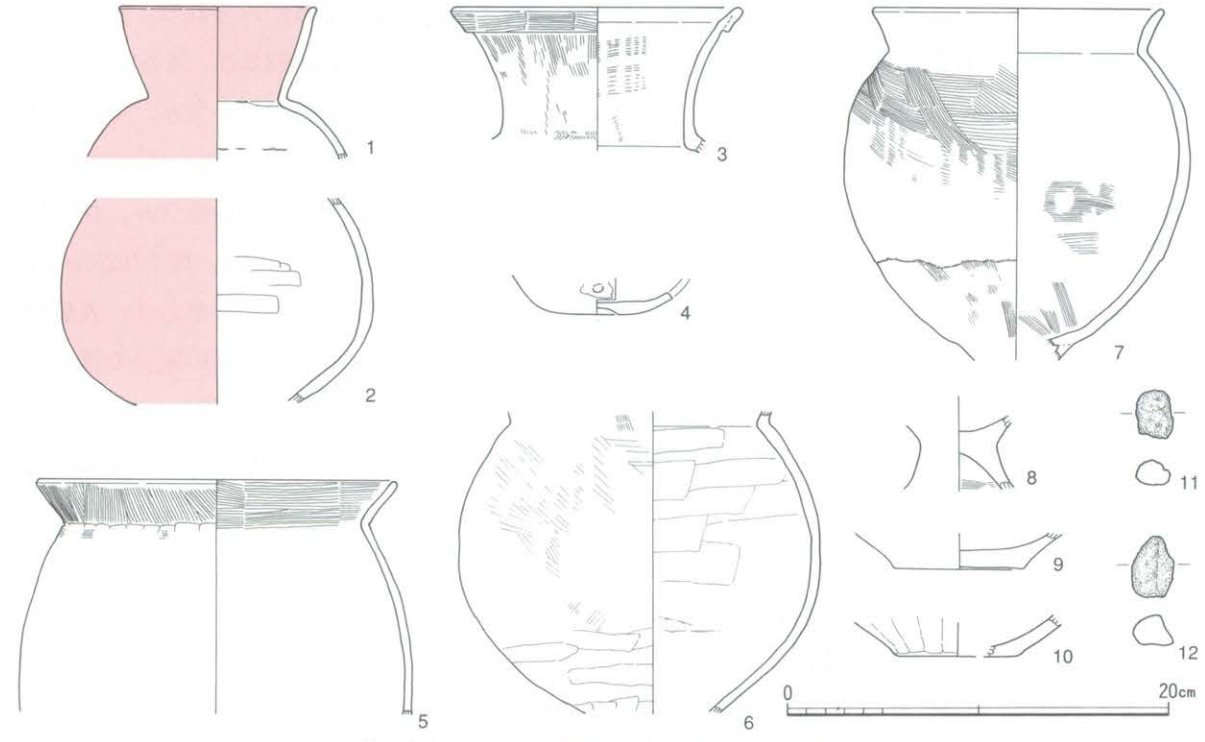
017号竪穴住居跡（第66図，土器観察表214頁，石製品観察表198頁）

1～3は壷である。1と2は接合しないが，同一個体と思われる。素口縁で，口縁部外面と胴部外面はヘラミガキ調整で，赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。3は折り返し口縁で，口縁部外面はハケ調整のままで，内面はナデ調整が行

016



017



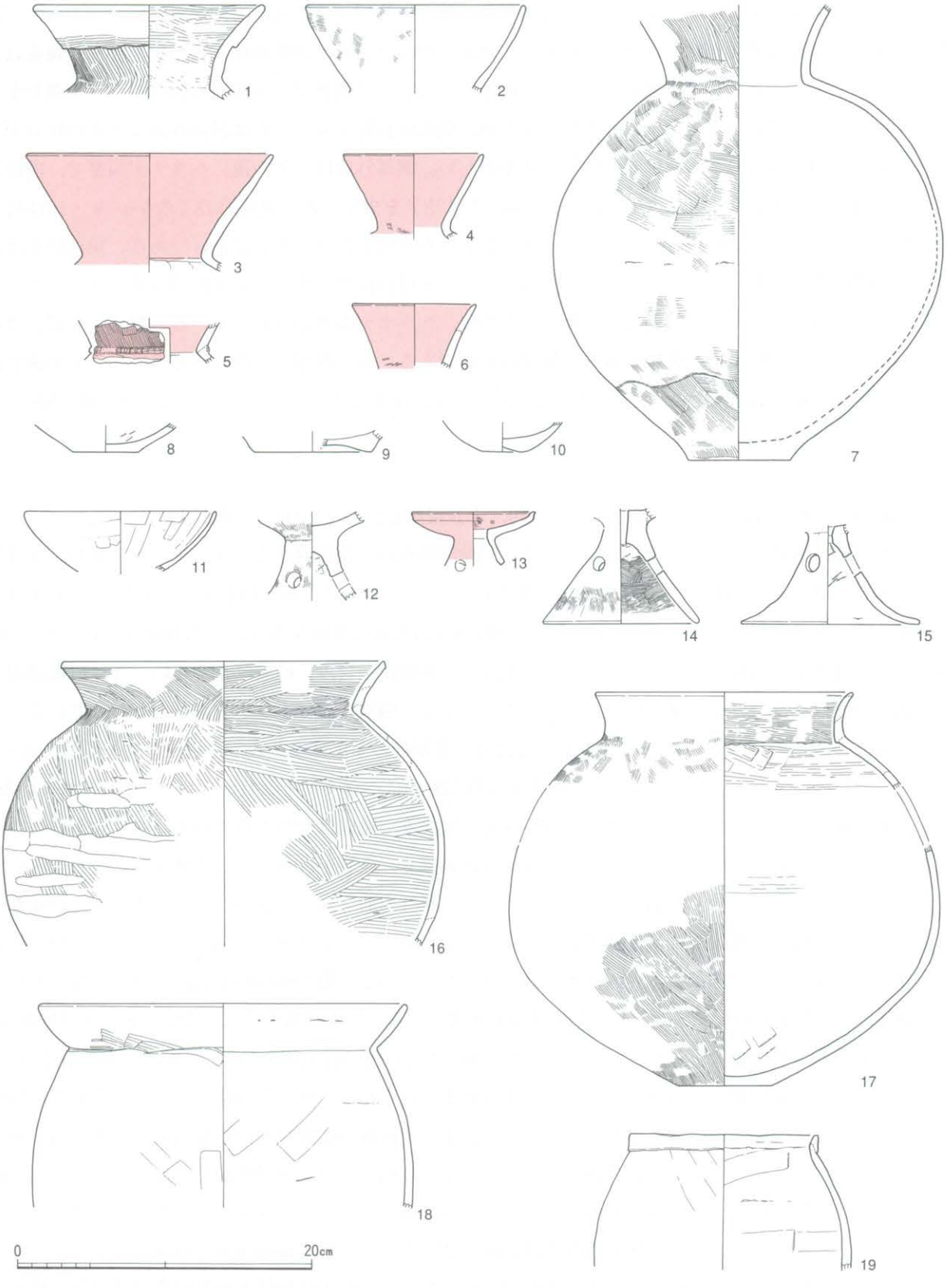
第66図　016・017号竪穴住居跡出土遺物

われている。頸部内外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の砂粒を含み，焼成は良好である。4は小型坩で，底部は上げ底である。体部下端部に焼成後に内側から外側に向かって穴が開けられ，外側に器表面がはじけ飛んだ跡がみられる。胎土は乳白色の微細粒と長石粒を含み，焼成は良好である。5・6・9・10は甕である。5は口縁部内外面はハケ調整で，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細粒と石英粒を含み，焼成は良好である。6は胴部外面にススの付着が多くみられる。胴部内面の下半部は器表面の摩滅が著しい。胴部外面はハケの後，ヘラナデ調整で，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は1.5～2㎜のスコリアを少量含み，焼成は良くない。9・10は底部で，いずれもヘラナデ調整が行われている。9は胎土は石英粒を含み，焼成は良好である。10は胎土は乳白色の微細粒をわずかに含み，焼成は良好である。7・8は台付甕である。7は台部は接合部で欠落している。口縁部内外面はナデで，胴部内外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胴部下半部には輪積み痕がみられる。胎土は石英粒を含み，焼成は良好である。8は台部で，内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色と黒色の微細な砂粒を含み，焼成はやや不良である。11・12は軽石製品で，11は火熱を受けている。

018号竪穴住居跡（第67・68図，図版58・78・79，土器観察表214・215頁，石製品観察表198頁）

1～9は壷である。1は折り返し口縁である。口縁部内外面と頸部内面はハケの後，ナデ調整，頸部外面から胴部外面はハケ調整が行われている。胎土は1.5～5㎜の小石と赤色砂粒を含み，焼成はあまり良くない。2～4・6は素口縁である。2は口縁部内面は器表面の摩滅が著しい。内外面ともにハケの後，ヘラミガキ調整が行われている。胎土は砂粒と乳白色の微細粒を含み，焼成は良くない。3は口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面はヘラナデ調整が行われている。内外面ともに器表面の摩滅がみられる。胎土は乳白色の微細粒と赤色砂粒を含み，焼成はやや不良である。4・6は小型の壷である。いずれも口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。また，器表面の摩滅がみられる。4は胎土は砂粒を少量含み，焼成はやや不良である。6は胎土は石英粒と赤色スコリアを含み，焼成はやや不良である。5は頸部で，隆帯を巡らせ，ヘラ状工具による刻みが施されている。外面はハケで，内面はナデ調整が行われ，胴部内面を除いて赤彩されている。7は口縁部を欠いているが，断面は摩耗した跡がみられることから，口縁部が欠けた後も使用されていたと思われる。外面はハケの後，ヘラナデ調整，内面はナデ調整が行われている。胴部外面の下部には輪積み痕がみられる。胴部内面は器表面の摩滅が著しい。胎土は砂粒を多く含み，焼成はあまり良くない。8・9は底部で，いずれも内面の器表面は剝落が著しい。8は胎土は砂粒と乳白色の微細粒を含み，焼成はあまり良くない。9は胎土は1～3㎜の赤色スコリアを含み，焼成はあまり良くない。10は小型坩で，上げ底である。外面はヘラミガキで，内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細粒と砂粒を含み，焼成はあまり良くない。11・12は高杯である。11は外面はヘラミガキで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒と赤色スコリアを含み，焼成はやや不良で，ざらついた感じである。12は杯部から脚部の一部で，3か所に透かし穴が開けられている。杯部内面は器表面の摩滅がみられる。杯部内面はヘラミガキで，外面はハケの後，ナデ調整，脚部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒と石英粒を少量含み，焼成はあまり良くない。13～15は器台である。13は器受部と台部の接合部に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内外面と台部外面はハケの後，ナデ調整が行われ，赤彩されている。胎土

018

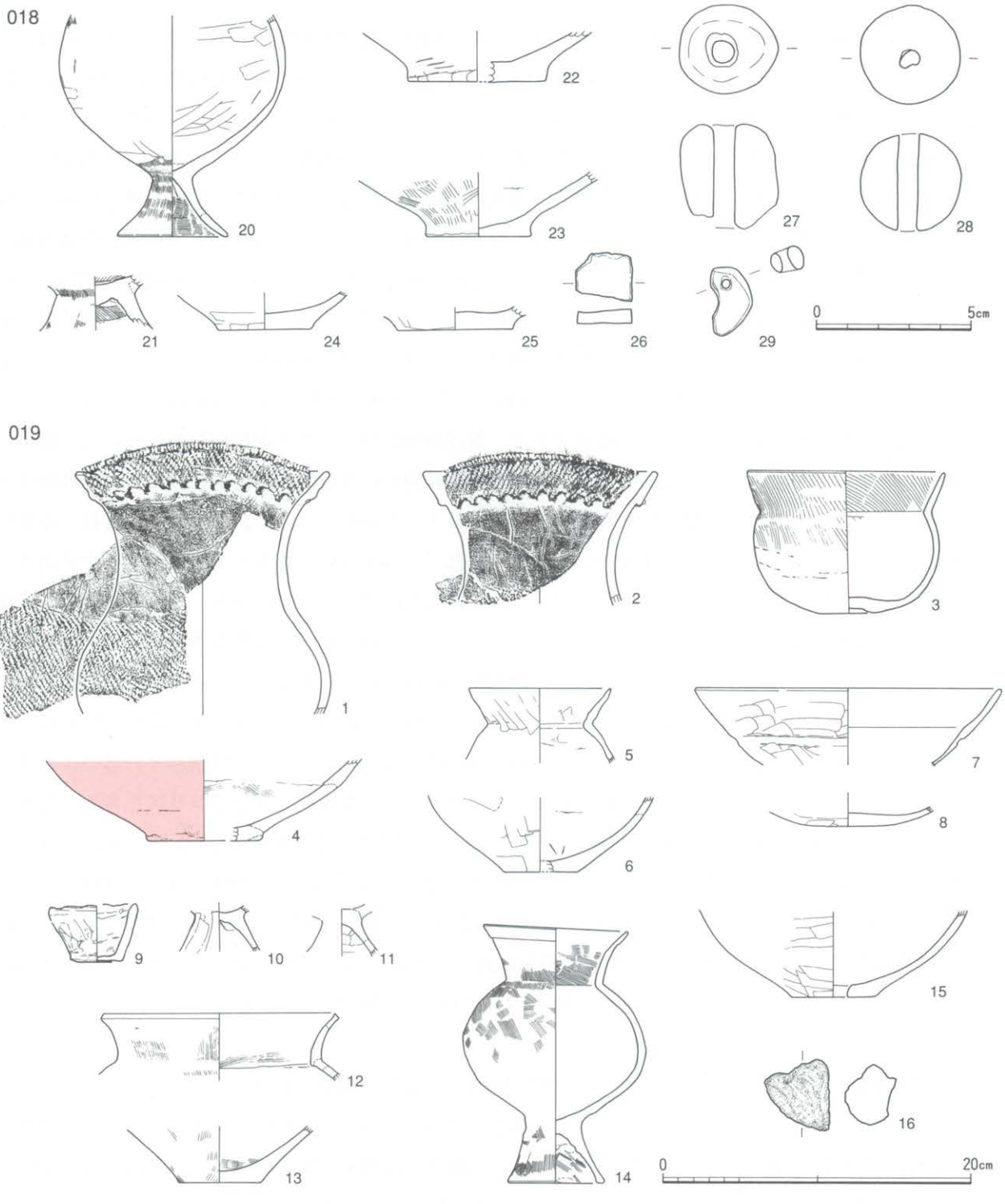


第67図　018号竪穴住居跡出土遺物

は砂粒と乳白色の微細粒を含み，焼成はあまり良くない。14は器受部と台部の接合部に穴が開けられ，台部に3か所の透かし穴が開けられている。台部外面はハケの後，ナデで，内面はハケ調整が行われている。胎土は乳白色の微細粒と少量の砂粒を含み，焼成はあまり良くない。15は器受部と台部の接合部に上下双方から穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。台部外面はヘラミガキ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を少量含み，焼成はあまり良くなく，ややざらついた感じである。16～19・22～25は甕である。16は口唇部はナデにより面が作られている。内外面ともにハケで，胴部外面は一部ヘラナデ調整が行われている。胴部外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細粒を少量含み，焼成はあまり良くない。17は口縁部と胴部下半部が接合しないが同一個体と思われる。口縁部内外面と胴部外面ハケの後，ナデ調整，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面の下半部にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細粒，1～3㎜の赤色スコリアと砂粒を少量含み，焼成はあまり良くない。18は口縁部がやや内湾する。口縁部内外面はナデで，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は1～3㎜のスコリアを含み，焼成はあまり良くない。19は無頸の折り返し口縁である。口縁部内外面はナデで，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は1～3㎜のスコリア，乳白色の微細粒，赤色粒と砂粒を少量含み，焼成はあまり良くない。22～25は底部で，外面はいずれもハケの後，ヘラナデ調整が行われている。22は胎土は1～2㎜の赤色スコリア，乳白色の微細粒と砂粒を含み，焼成はあまり良くない。23は胎土は砂粒をほとんど含まず，焼成はあまり良くない。24は胎土は砂粒を多く含み，焼成はあまり良くない。25は1～2㎜のスコリア，乳白色の微細粒と砂粒を含み，焼成はあまり良くない。20・21は台付甕である。20はやや小型で，胴部内外面はヘラナデで，台部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細粒，砂粒と赤色砂粒を含み，焼成はあまり良くない。21は胴部と台部の接合部分で，いずれもハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細粒と赤色スコリアを含み，焼成はあまり良くない。26は流紋岩製の砥石である。27・28は土玉である。27は幅2.9cm，高さ3.4cm，重さ31ｇの円柱形で，径約0.8cmの穴が開けられている。色調は暗褐色で，胎土は乳白色の微細砂粒と砂粒を含み，焼成はあまり良くない。28は幅3.2cm，高さ3.65cm，重さ32ｇの球形で，径約0.65cmの穴が開けられている。色調は暗茶褐色で，胎土は砂粒を少量含み，焼成は良好である。29は滑石製の勾玉である。長さ2.2cm，厚さ0.8cm，重さ3.09gで，径0.4～0.5cmの穴が開けられている。色調は灰緑色である。

019号竪穴住居跡（第68図，図版58・59，土器観察表215頁，石製品観察表198頁）

1・2はいわゆる北関東系の土器である。いずれも折り返し口縁で，同じ様な文様帯をもつ。口縁部下端は指頭による押捺が施されている。口唇部端部と口縁部外面は縄文が施されている。胴部文様帯は縄文が3帯あるいは4帯施されている。文様帯以外はナデあるいはヘラナデ調整が行われている。胎土は1～2㎜の赤色スコリアと乳白色の微細粒を含み，焼成は良好である。3～6は壷である。3は広口の壷で，口縁部内面はハケ，外面はハケの後ヘラミガキ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部内面の器表面は摩滅がみられる。胎土は1～3㎜の赤色スコリアを少量含み，焼成はあまり良くない。5は小型の壷で，素口縁である。外面はヘラケズリの後，ヘラミガキで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は2㎜前後の赤色スコリアを少量含み，焼成は良好である。4・6は底部で，いずれも内外面ともにヘラナデ調整が行われている。4は胴部外面が赤彩されている。胴部内面の器表面が摩滅している。胎土は1～3㎜の赤色スコリアと乳白色の微細砂粒を少量含み，焼成は良好である。6は胎土は1～4㎜の赤色ス



第68図　018・019・020号竪穴住居跡出土遺物

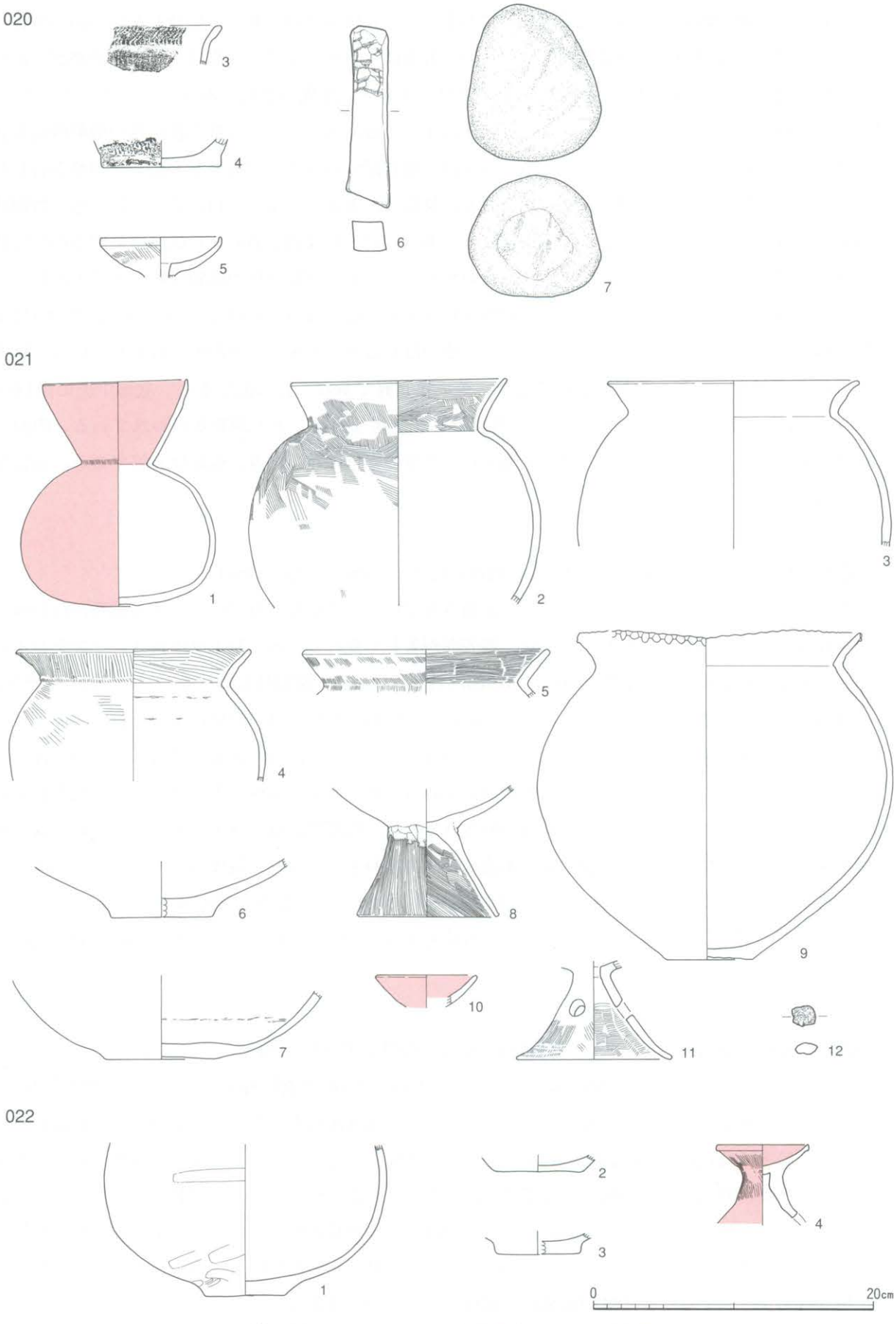
コリアと乳白色の微細砂粒を含み，焼成は良好である。7・8は小型坩である。接合しないが同一個体と思われる。体部と口縁部の境はあまり明瞭ではない。外面はヘラケズリで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細砂粒，砂粒と赤色スコリアを含み，焼成は良好である。9はミニチュアで，内外面ともに指頭によるナデの跡がみられる。胎土は1～3㎜のスコリアを少量と乳白色の微細砂粒を含み，焼成は良好である。10・11は高杯である。いずれも接合部分のみで，内外面ともにナデ調整が行われている。10は胎土は乳白色の微細砂粒と砂粒を含み，焼成はあまり良くない。11は胎土は乳白色の微細砂粒，砂粒と少量の赤色スコリアを含み，焼成は良好である。12・13は甕である。12は口唇部端が内側に摘み上がる。内外面ともにハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細砂粒と少量の砂粒を含み，焼成は良好である。13は胎土は乳白色の微細砂粒を含み，焼成はあまり良くない。14は小型の台付甕で，折り返し口縁である。胴部内面はヘラナデで，そのほかはハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は1～4㎜の赤色スコリアと少量の砂粒を含み，焼成は良好である。15は甑である。底部中央に径1.6～1.8㎝の穴が開けられている。内面はナデで，外面はヘラケズリの後，ナデ調整が行われている。内面の器表面は剝落がみられる。胎土は乳白色の微細砂粒と少量の赤色砂粒を含み，焼成は良好である。16は軽石製品である。

020号竪穴住居跡（第68・69図，図版59，土器観察表125頁，石製品観察表198頁）

1は壷である。肩部の文様帯に網目状撚糸文が施されている。文様帯以外はヘラミガキ調整が行われている。胴部内面はナデ調整が行われているが，器表面が著しく荒れている。胎土は赤色スコリアをわずかに含み，焼成は良好である。2は甕である。口縁部内外面はナデで，胴部外面はヘラケズリの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細砂粒を含み，焼成はやや不良である。3・4はいわゆる北関東系の土器である。3は折り返し口縁である。口縁部の文様帯は口唇部も含め，縄文が施されている。文様帯以外はヘラナデ調整が行われている。胎土は1㎜前後の赤色スコリアと長石粒を含み，焼成は良好である。4は底部付近に縄文が施されている。底部外面はヘラナデで，胴部内面は器表面の剝落が著しい。胎土は乳白色の微細砂粒と赤色スコリアをわずかに含み，焼成は良好である。5は器台で，器受部と台部の間に穴が開けられている。口縁部内外面はナデで，器受部外面はハケの後，ヘラナデ，内面はヘラミガキ調整が行われている。胎土は長石粒を含み，焼成は良好である。6は流紋岩製の砥石である。7は砂岩製の磨石である。

021号竪穴住居跡（第69図，図版59，土器観察表125頁，石製品観察表198頁）

1は壷である。頸部外面にハケ調整の跡が残るが，口縁部内外面と胴部外面はヘラナデ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われている。口縁部外面は火熱を受け，変色し，器表面がやや荒れている。胎土は乳白色の微細砂粒と石英粒を含み，焼成は良好である。2～7・9は甕である。2は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，口縁部外面はナデで，胴部外面はヘラナデ調整が行われている。胴部内面はヘラナデ調整が行われている。外面のほぼ全体にススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒と砂粒を含み，焼成は良好である。3は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は1㎜前後の小石を含み，焼成はあまり良くない。4は口縁部内外面はハケで，胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細砂粒をわずかに含み，焼成はあまり良くない。5は口縁部内



第69図　020・021・022号竪穴住居跡出土遺物

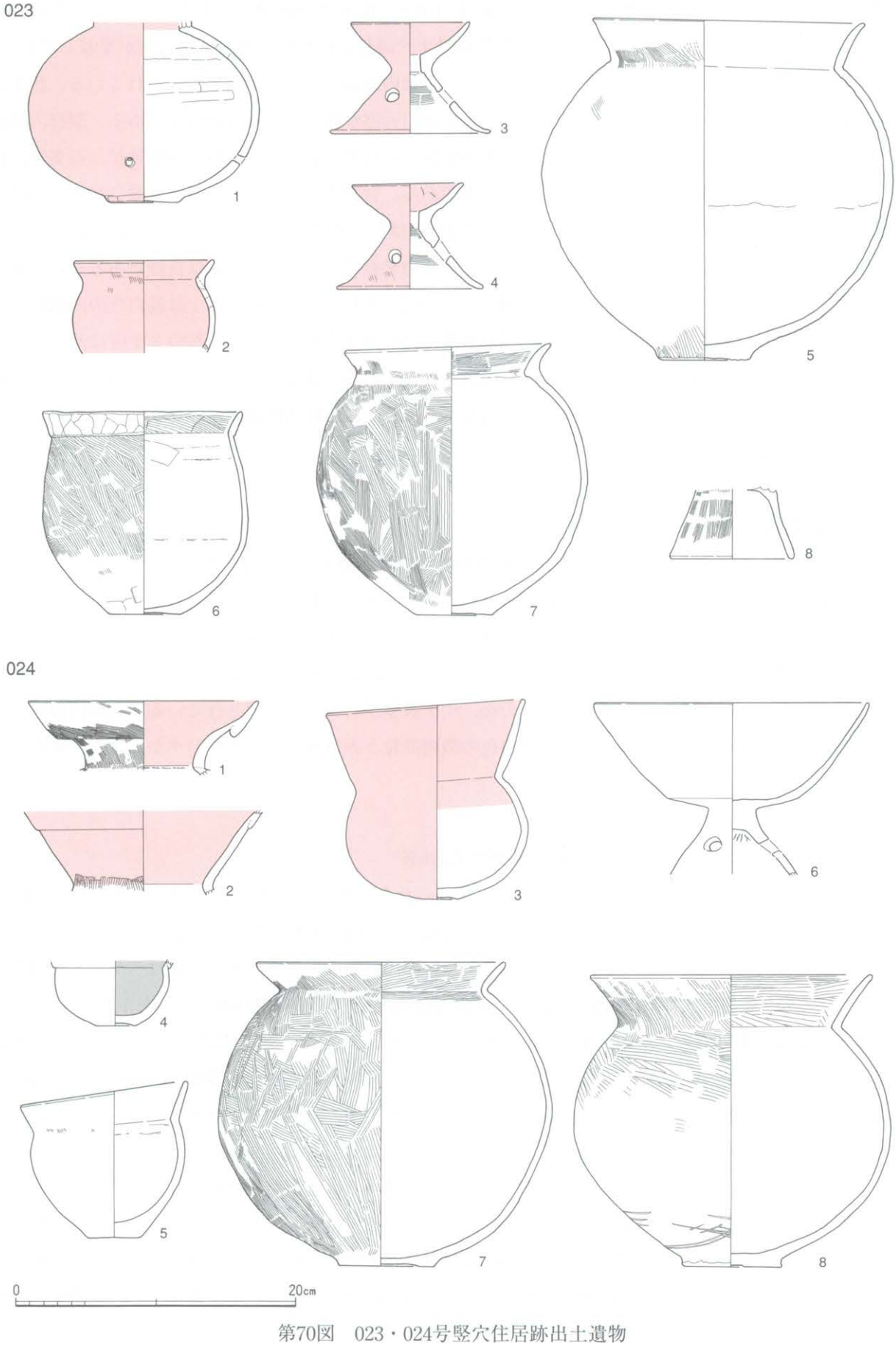
外面はハケで，外面のみナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細砂粒と少量の赤色スコリアを含み，焼成は良好である。6・7は底部である。6は外面はナデ調整が行われ，内面は器表面が摩滅している。胎土は赤色スコリアを含み，焼成はあまり良くない。7は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は1～2㎜の小石をわずかに含み，焼成は良くない。9は口唇部が押圧による波状口縁である。胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。底部外面には木葉痕がみられる。胎土は乳白色の微細砂粒，石英粒，長石粒と砂粒を含み，焼成は良好である。8は台付甕である。台部と胴部の接合部分の外面に粘土紐を貼り付け補強している。胴部内外面はヘラナデで，台部内外面はハケ調整が行われている。外面は火熱を受け，変色している。胎土は長石粒，石英粒，砂粒と白色針状物をわずかに含み，焼成は良好である。10・11は器台である。10は器受部内外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は乳白色の微細砂粒を含み，焼成は良好である。11は台部で，器受部との間に穴が開けられている。台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内面はヘラミガキ，台部外面はハケの後，部分的にヘラミガキ，内面はハケ調整が行われている。胎土は乳白色の微細砂粒，長石粒，石英粒と白色針状物を含み，焼成は良好である。12は軽石製品である。

022号竪穴住居跡（第69図，土器観察表215頁）

1は壷である。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細砂粒をわずかに含み，焼成はあまり良くない。2・3は甕の底部である。いずれもナデ調整が行われている。2は胎土は1～2㎜の小石と石英粒を含み，焼成は良くない。3は胎土は石英粒を含み，焼成はやや不良である。4は器台である。器受部と台部との間に穴は開けられていない。台部には透かし穴が開けられているが数は不明である。器受部内面はヘラナデで，外面はハケの後，ナデ調整が行われ，赤彩されている。台部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，乳白色の微細砂粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。

023号竪穴住居跡（第70図，図版59・60，土器観察表216頁）

1・2は壷である。1は胴部下半部に焼成前に開けられた，径0.5～0.6㎜の穴がある。外面と頸部内面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は乳白色の微細砂粒，砂粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。2は広口の素口縁で，口縁部内外面はナデで，胴部外面はヘラミガキ調整が行われているが，胴部内面は器表面が荒れているため調整は不明である。内外面すべてが赤彩されている。胎土は1～4㎜の赤色のスコリアを少量含み，焼成はやや不良である。3・4は器台である。いずれも器受部と台部の間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内外面と台部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。台部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は2～5㎜のスコリアを少量含み，焼成はあまり良くない。5～7は甕である。5は外面はハケの後，丁寧なヘラナデ調整が行われている。内面は口縁部がナデで，胴部はヘラナデ調整が行われている。底部外面には木葉痕がみられる。外面の一側面にススの付着がみられる。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。6は無頸で折り返し状の口縁である。口縁部外面には指頭によるオサエの跡がみられる。口縁部内面はハケで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面はハケで，下半部はヘラナデ調整が行われている。胎土は1～9㎜の小石と赤色スコリアを含み，焼成はやや不良である。7は口縁部内外面はハ



第70図　023・024号竪穴住居跡出土遺物

ケの後，ナデで，胴部外面はハケ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。8は台付甕の台部で，外面はハケの後，ナデで，内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の砂粒と多量の砂粒を含み，焼成はあまり良くなく，ざらついた感じである。

024号竪穴住居跡（第70・71図，図版60，土器観察表216頁）

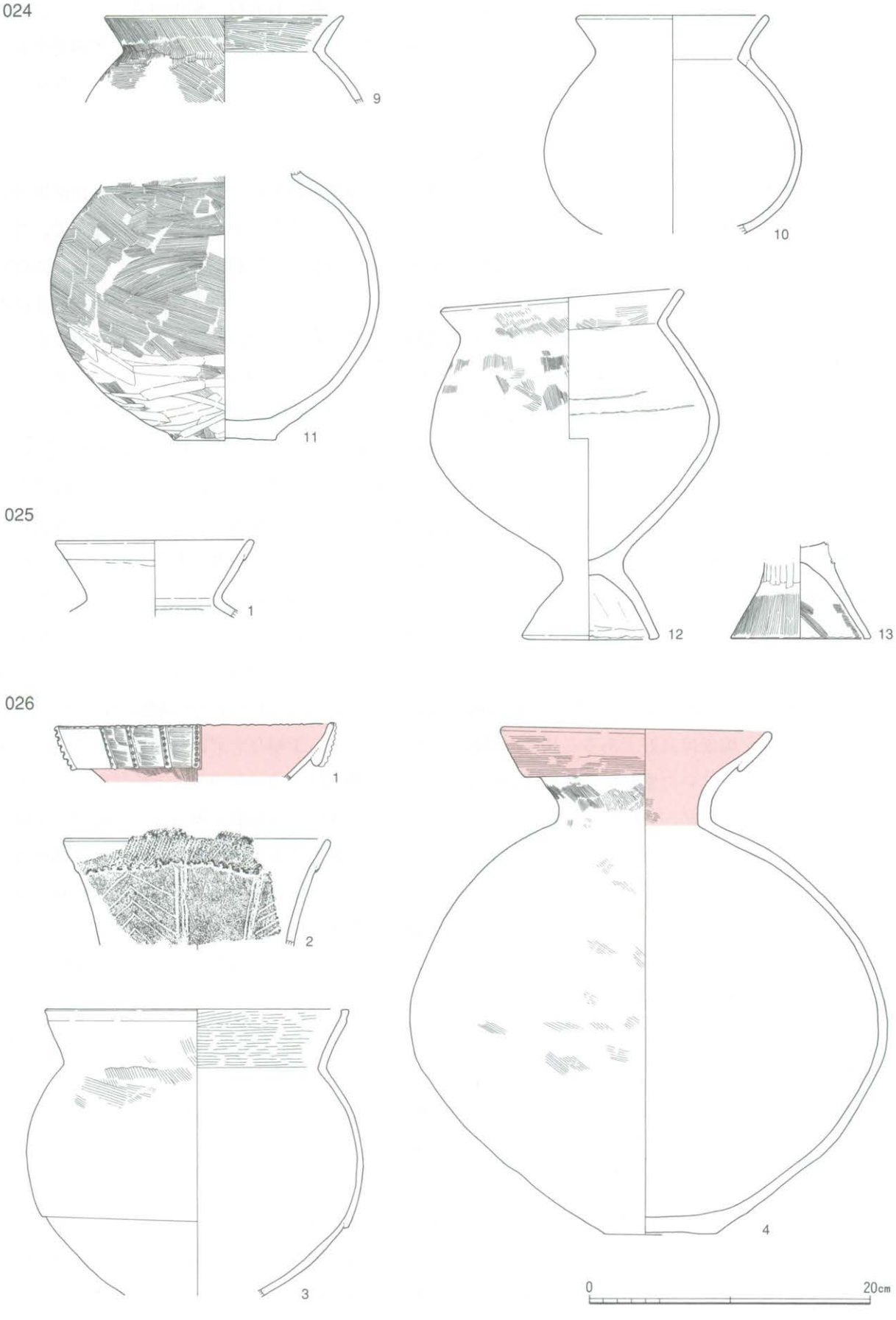
1～3は壷である。1は二重口縁で，外面はハケの後，ナデ調整が行われている。口縁部と頸部内面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は砂粒を含み，ややざらついた感じで，焼成は良好である。2は折り返し口縁で，口縁部と頸部内外面はナデ調整が行われ，赤彩されている。頸部のくびれ部はハケ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。3は内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，肩部内面から底部外面まで赤彩されている。内面の器表面は荒れている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。4は小型坩である。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，内面は黒色処理が施されている。胎土は砂粒と微量の長石粒を含み，焼成は良好である。5は鉢である。口縁部内面はヘラミガキ，外面と胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は2㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。6は高杯で，脚部がやや膨らむものと思われる。脚部の3か所に透かし穴が開けられている。脚部内面はナデで，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。全体的に火熱を受け，器表面は荒れている。胎土は砂粒と微量の長石粒を含み，焼成は良好である。7～11は甕である。7は口縁部内外面と胴部外面はハケで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。8は口縁部内外面はハケで，胴部内面はナデ，胴部外面はハケの後，下半部を中心にヘラナデ調整が行われている。胴部外面の下半部には，ヘラ状工具による綾杉状の沈線がみられる。胎土は砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。9は胴部内面はナデで，そのほかはハケ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。10は内外面ともにハケの後，丁寧なナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。11は胴部外面はハケの後，下半部のみヘラナデ調整が行われている。胴部内面はナデ調整が行われている。底部外面に木葉痕がみられる。胎土は砂粒と長石粒，石英粒をわずかに含み，焼成は良好である。12・13は台付甕である。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。胴部内面はナデ調整が行われているが，輪積み痕がみられる。台部にススの付着がみられる。胎土は長石粒を含み，焼成は良好である。13は台部で，胴部とは接合部分で欠落している。内外面ともにハケで，一部ナデ調整が行われている。胴部との接合部分にもハケ調整の跡がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

025号竪穴住居跡（第71図，土器観察表216頁）

1は壷で，折り返し口縁である。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は砂粒とスコリアを含み，焼成は良好である。

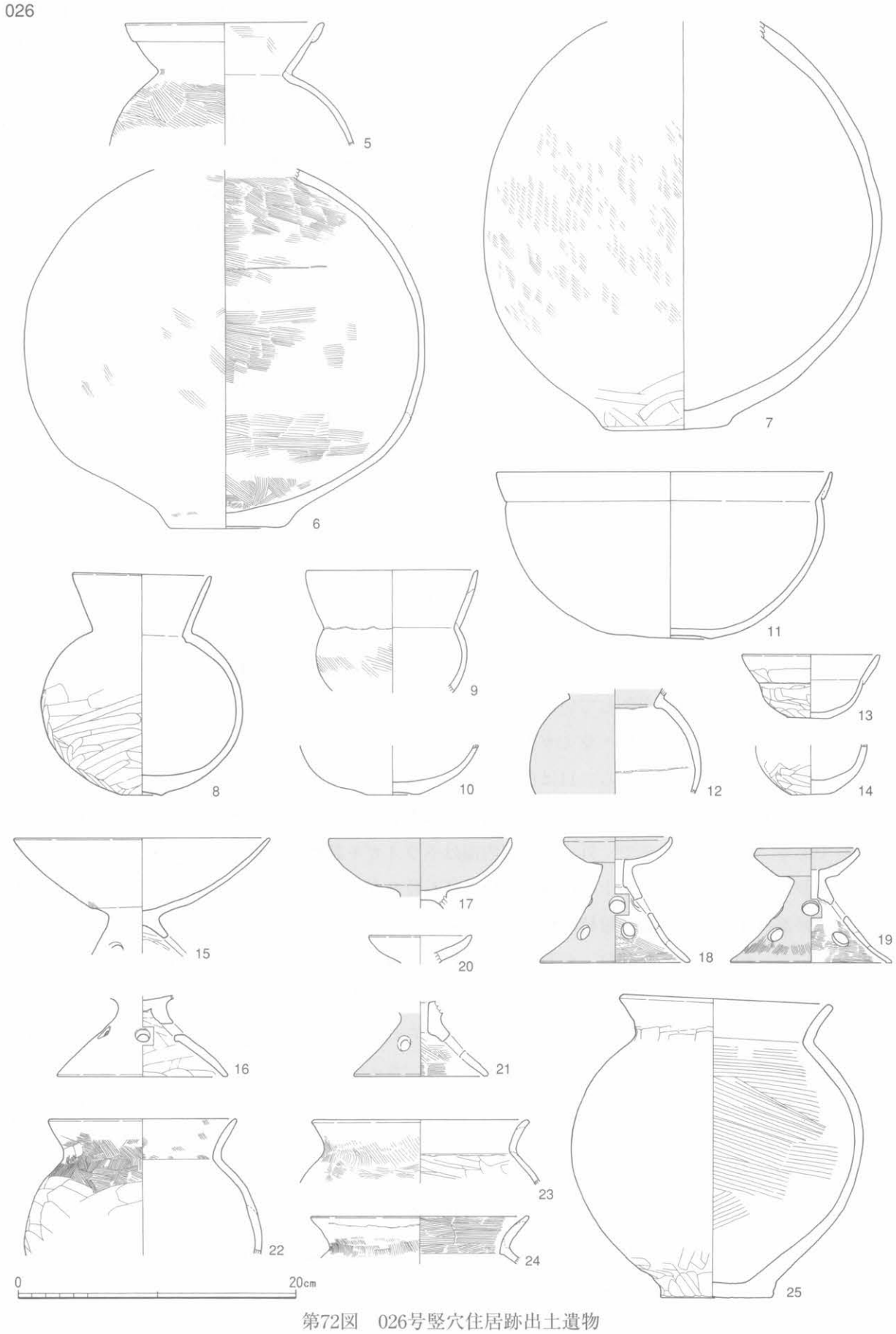
026号竪穴住居跡（第71～73図，図版61・62・78，土器観察表216・217頁）

1～12は壷である。1は二重口縁で，ハケ状工具で刻みを付けた棒状浮文を4本単位で，4か所に貼り付けている。口唇部端にもハケ状工具による刻みが施されている。外面はハケで，内面はヘラミガキ調整が行われている。口縁部外面を除いて，赤彩されている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。



第71図　024・025・026号竪穴住居跡出土遺物

2はいわゆる北関東系の土器で，折り返し口縁である。口唇部端部と口縁部に縄文を施し，口縁部下端部には竹管による刺突文が施されている。頸部文様帯は3本単位の懸垂文で区画した中に山形の沈線が施されている。内外面ともに器表面は荒れている。胎土は長石粒と粗い砂粒を含み，焼成は良好である。3は口縁部がわずかに内側に立ち上がる有段口縁である。胴部外面の下半部に輪積み痕をそのまま残し，端部にハケ調整を行い，意識的に段を作り出している。口縁部内面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ，外面はハケの後，やや雑なヘラミガキ調整が行われている。胎土は1.5㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。4は二重口縁である。頸部内面から外面はハケの後，ヘラミガキで，胴部内面はナデ調整が行われている。口縁部外面から頸部内面にかけて赤彩されている。胴部外面にススの付着がみられ，口縁部内外面は火熱を受け，器表面の荒れが著しい。胎土は5㎜前後の小石と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。5は折り返し口縁である。内面の口縁部から頸部はハケの後，ヘラミガキで，胴部内面はナデ，外面の口縁部から頸部はハケの後，ナデで，胴部はハケ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は胴部外面はハケの後，ヘラミガキで，内面はハケ調整が行われている。器表面は火熱を受け，変色している部分やススの付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。7は胴部外面はハケの後，ヘラミガキで，内面はナデ調整が行われている。胴部外面の下端部はヘラケズリが行われている。内外面ともに火熱を受け，変色している部分とススの付着がみられる。胎土はやや粗い砂粒を含み，焼成は良好である。8は小型の壷で，素口縁である。胴部外面はヘラケズリの後，上半部を中心にヘラミガキ調整が行われている。口縁部内面と胴部内面はナデ，口縁部外面はナデの後，部分的にヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒と石英粒を含み，焼成は良好である。9は外面の頸部から胴部はハケの後，ヘラミガキで，内面はナデ調整が行われている。頸部外面に輪積み痕がみられる。口縁部と胴部の一部は火熱を受け，変色している。胎土は微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は底部で，外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒と多量の長石粒を含み，焼成は良好である。11は広口の壷で，折り返し口縁である。内外面ともにやや粗いヘラミガキ調整が行われている。内外面ともに器表面の荒れが著しい。胎土は微細な砂粒と石英粒を含み，焼成は良好である。12は小型の壷で，外面と頸部内面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。13・14は小型坩である。13は頸部外面のくびれ部に輪積み痕がみられる。口縁部内外面はナデ，体部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒，長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。14は体部外面の下端部はヘラケズリで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。15～17は高杯である。15は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。脚部内面は粗いナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。16は脚部の4か所に透かし穴が開けられている。内外面ともにヘラナデ調整が行われているが，脚部内面はヘラナデの跡がみられる。胎土は微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。17は杯部内外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。脚部内面はナデ調整が行われている。胎土は長石粒と砂粒を含み，焼成は良好である。18～21は器台である。18・19・21は器受部と台部との間に穴が開けられている。18と19は台部の4か所ずつ2段に透かし穴が開けられている。いずれも器受部内外面はヘラミガキ，台部外面はハケの後，ヘラミガキで，台部内面はハケ調整が行われ，器受部内外面と台部外面が赤彩されている。18は胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。19は器受部の口唇部内外面と台部外面の一側面にススの



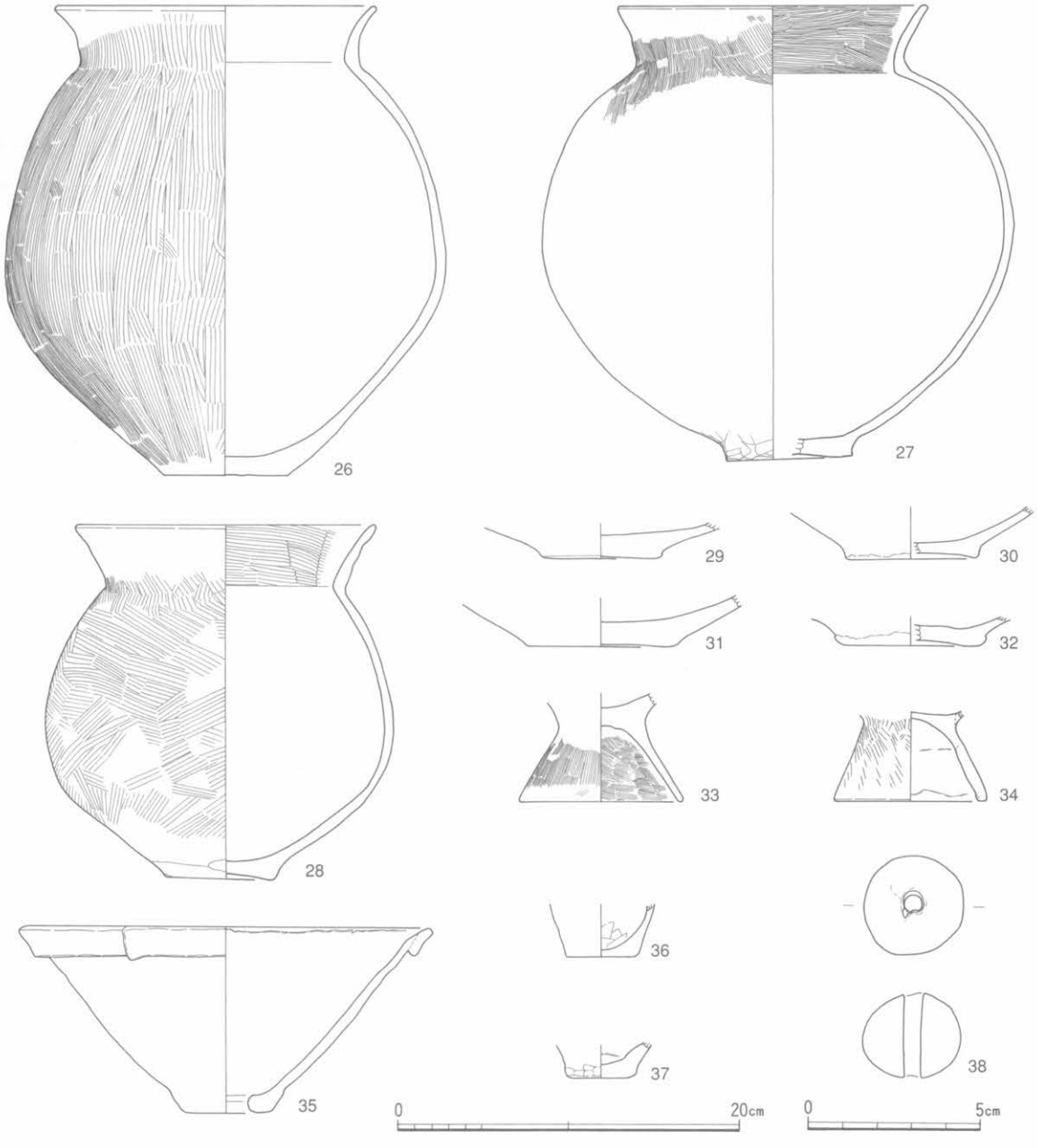
第72図　026号竪穴住居跡出土遺物

付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。20は器表面の荒れが著しいが，内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。21は台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内面と台部外面はヘラミガキ，台部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。器受部内面と台部外面が赤彩されている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。22～32は甕である。22は胴部外面はハケの後，ヘラナデで，口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面にススの付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。23は胴部外面はハケ，口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。外面にススの付着がみられる。胎土は1㎜前後の長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。24は頸部外面と口縁部内面はハケ，口縁部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。口縁部外面には輪積み痕がみられる。口縁部外面は火熱を受け，変色している。胎土は2㎜前後の砂と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。25は口縁部内外面はナデ，胴部外面はヘラナデ，胴部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。底部外面はナデ調整が行われているが，木葉痕がみられる。胎土は少量の2㎜前後の砂と砂粒を含み，焼成は良好である。26は外面はハケで，口唇部内面から外面にかけてナデ調整が行われている。胎土は3㎜前後の砂と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。27は口縁部内面が火熱を受け，赤く変色している。口唇部と胴部下半部にススの付着がみられる。外面はハケの後，ナデ調整が行われているが，頸部付近にはハケの跡が残る。また，底部付近にはヘラナデの跡が残る。口縁部内面はハケで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は1～3㎜の砂粒を含み，焼成は良好である。28は外面の口縁部から胴部が火熱を受け，変色し，ススの付着がみられる。胴部外面はハケの後，下半部はナデで，口縁部外面と胴部内面はナデ，口縁部内面はハケ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。29～32は底部で，いずれも内外面ともにナデ調整が行われている。31・32は底部外面に木葉痕がみられる。29・30は胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。31は内面の器表面が荒れている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。32は胎土は少量の3㎜前後の砂と長石粒や石英粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。33・34は台付甕の台部である。33は台部内面はハケの後，外面の一部はナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。接合部分の外面にススの付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。34は台部外面はハケの後，ナデで，台部内面と胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は2㎜前後の長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。35は甑である。底部は推定で2.8～3㎝の穴が1つ開けられている。口縁部は二重口縁で，4枚の板状の粘土を貼り付けているが，長さは均一ではない。口縁部外面は指頭によるオサエの後，ナデで，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。36・37はミニチュアである。いずれも内外面は粗いナデ調整が行われている。36は胎土は石英粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。37は胎土は3㎜前後の砂と長石粒や石英粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。38は土玉で，一部が欠損しているが，ほぼ完形である。幅2.9㎝，高さ2.45㎝，重さ17ｇで，径0.5㎝の穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は石英粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

027号竪穴住居跡（第74図，図版62，土器観察表217頁，石製品観察表198頁）

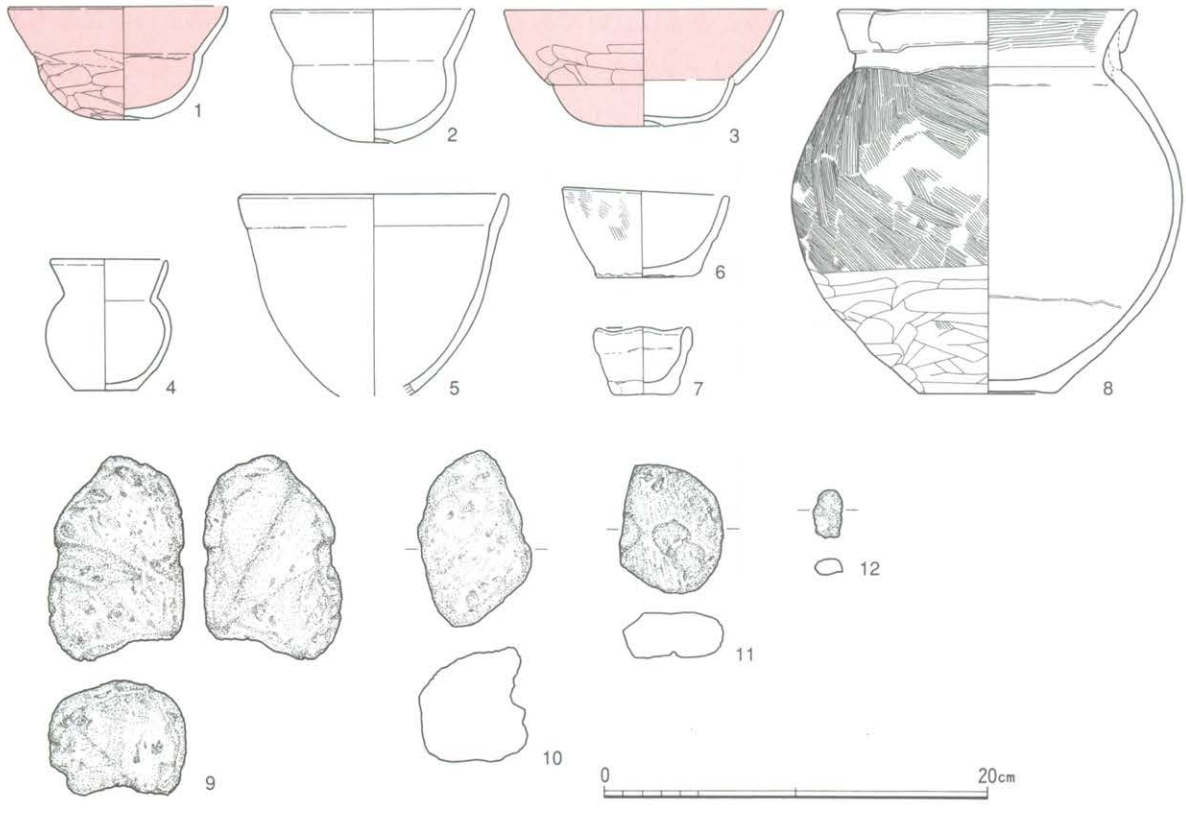
1～3は小型坩で，いずれも上げ底である。1は口縁部外面はヘラミガキ，体部外面はやや雑なヘラナデ，内面はナデ調整が行われ，すべて赤彩されている。胎土は2㎜前後の長石粒や石英粒と微細な砂粒を

026



第73図　026号竪穴住居跡出土遺物

027



第74図　027号竪穴住居跡出土遺物

含み，焼成は良好である。2は内面の器表面が著しく荒れている。外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は外面の口縁部と体部との境に稜をもつ。口縁部内外面はヘラミガキ，体部内外面はナデ調整が行われている。口縁部外面の下半部にはヘラケズリの跡が残る。口縁部内外面と体部外面が赤彩されている。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。4は小型壷である。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。5・6は鉢である。5は折り返し口縁である。口唇部端部はヘラケズリによる面取りがされている。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は赤色のスコリア，大粒の砂と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は体部外面はハケの後，ナデで，内面と底部外面はナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。7はミニチュアである。外面はナデ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は赤色のスコリア，長石粒と砂粒を含み，焼成は良好である。8は甕で，折り返し口縁である。頸部と口縁部外面には輪積み痕がみられる。胴部外面はハケの後，下半部はヘラナデで，口縁部外面と胴部内面はナデ，口縁部内面はハケ調整が行われている。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。9～12はいずれも軽石製品である。

028号竪穴住居跡（第75図，図版62・63・78，土器観察表217・218頁）

1～5は壷である。1・2は折り返し口縁である。1は口縁部下端部に刺突が施され，口縁部外面と口唇部端部に縄文が施されている。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は口縁部外面と口唇部及び頸部外面にそれぞれ施文方向を異にして，縄文が施されている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は素口縁で，頸部外面に断面三角形の隆帯を貼り付けている。内外面ともに器表面は非常に荒れている。口唇部端部から口縁部外面と胴部内面はナデ，口縁部内面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われている。口唇部端部から口縁部内面と胴部外面が赤彩されている。口縁部内面の一部は火熱を受け，変色している。胎土は石英粒，長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。4は肩部である。外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面はナデ調整が行われているが，輪積み痕がみられる。5は胴部外面はハケの後，粗いナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面は火熱を受け，変色しているが，上半部に赤彩されていた痕跡がみられる。胎土は1～2㎜の白色の砂と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は小型坩である。口縁部内外面はヘラミガキ，体部内面と底部外面はナデ，体部外面はヘラケズリ調整が行われているが，口縁部外面にはハケの跡が残る。胎土は赤色のスコリアと微細な砂粒を含み，焼成は良好である。7は鉢である。外面はハケ，内面と底部外面はナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。8・9は器台である。いずれも器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。8は器受部内面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。9は器受部内外面と台部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。台部内面はハケの後，一部ナデ調整が行われている。胎土は1～2㎜の砂粒を含み，焼成は良好である。10・11は高杯である。いずれも脚部の3か所に透かし穴が開けられている。10は内外面ともにハケで，外面はその後ナデ調整が行われている。内外面ともに火熱を受け，変色している。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11は杯部内面と脚部内面はナデ，脚部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。外面の器表面は非常に荒れている。胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じであるが，焼成は良好である。12は異形器台である。器受部の下半部は指頭によるオサエ，台

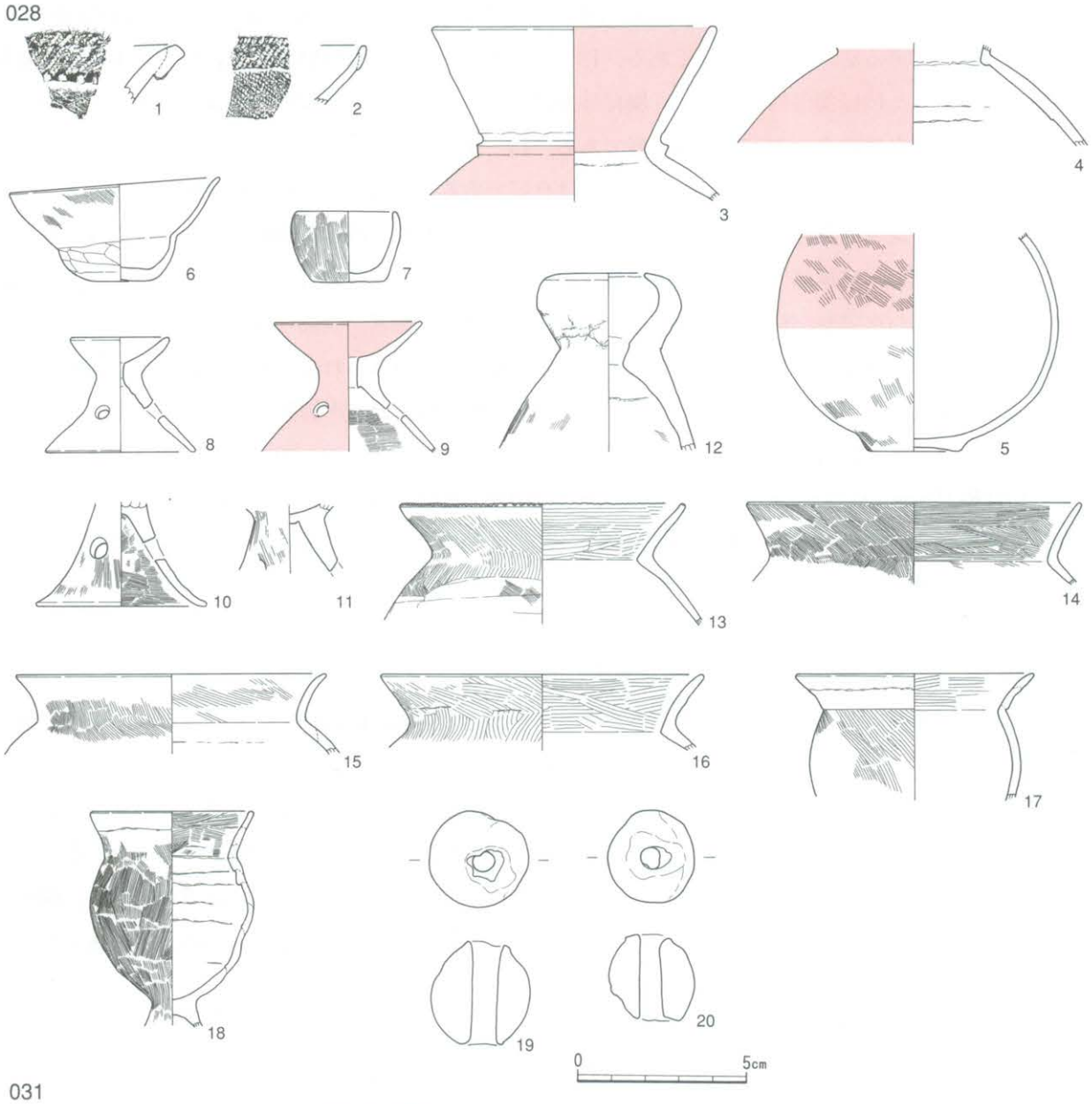
部内外面の下半部はハケの後，ナデで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じであるが，焼成は良好である。13～17は甕である。13は口唇部端部にハケ状工具による刻みが施されている。口縁部内外面はハケ，胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。14～16は口縁部内外面はハケの後，わずかにナデ調整が行われている。14は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。15は胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じであるが，焼成は良好である。16は胎土は2㎜前後の長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。17は小型の甕で，口縁部外面に2段の輪積み痕を残している。口縁部外面と胴部内面はナデ，口縁部内面と胴部外面はハケ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。18は小型の台付甕である。口縁部外面はナデ調整が行われているが，輪積み痕がみられる。胴部内面もナデ調整が行われているが，輪積み痕が明瞭に残っている。口縁部内面と胴部外面はハケ調整が行われている。胎土は微量の赤色のスコリアや長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。19・20は土玉で，いずれも完形である。19は幅2.95cm，高さ3.1cm，重さ23ｇで，径0.8cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。20は幅2.7cm，高さ2.7cm，重さ16ｇで，径0.5cmの穴が開けられている。色調は暗褐色で，胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

031号竪穴住居跡（第75図，図版63，土器観察表218頁）

1・2は壷の底部である。いずれも胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われ，底部も含めて外面が赤彩されている。1は胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内面の下半部はハケ，器受部内面はヘラナデ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は赤色と白色の砂を含み，焼成は良好である。4は甕の底部で，胴部外面はヘラナデ，胴部内面はナデ調整が行われているが，器表面が非常に荒れている。胎土は1㎜前後の赤色のスコリアと砂粒を含み，焼成は良好である。

032号竪穴住居跡（第75・76図，図版63，土器観察表218頁，石製品観察表198頁）

1・2は小型坩で，上げ底である。1は内外面ともにヘラミガキ調整が行われているが，内面の器面は荒れている。底部外面も含めすべて赤彩されている。胎土は砂粒を少量含み，焼成は良好である。2は内面はヘラミガキ，外面はヘラナデ調整が行われているが，頸部にはハケの跡が残る。内外面ともに器表面が荒れているが，特に内面の荒れは著しい。口縁部内面のみ赤彩されている。胎土は石英粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3・4は壷の底部である。3は小型の壷で，上げ底である。胴部外面はヘラミガキ，内面はヘラナデ調整が行われ，底部外面を除き赤彩されている。胎土は微細な砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。4は外面はヘラミガキ調整が行われているが，内面は器表面の剝落が著しく不明である。胴部外面が赤彩されている。胎土は赤色のスコリア，乳白色の砂粒と石英粒を含み，焼成は良好である。5・6は器台である。いずれも器受部と台部との間に穴は開けられず，台部の透かし穴も開けられていない。5は器受部下端部に輪積み痕による稜を残している。器受部内面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。器受部外面はナデ，台部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は台部で，外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。



第75図　028・031・032号竪穴住居跡出土遺物

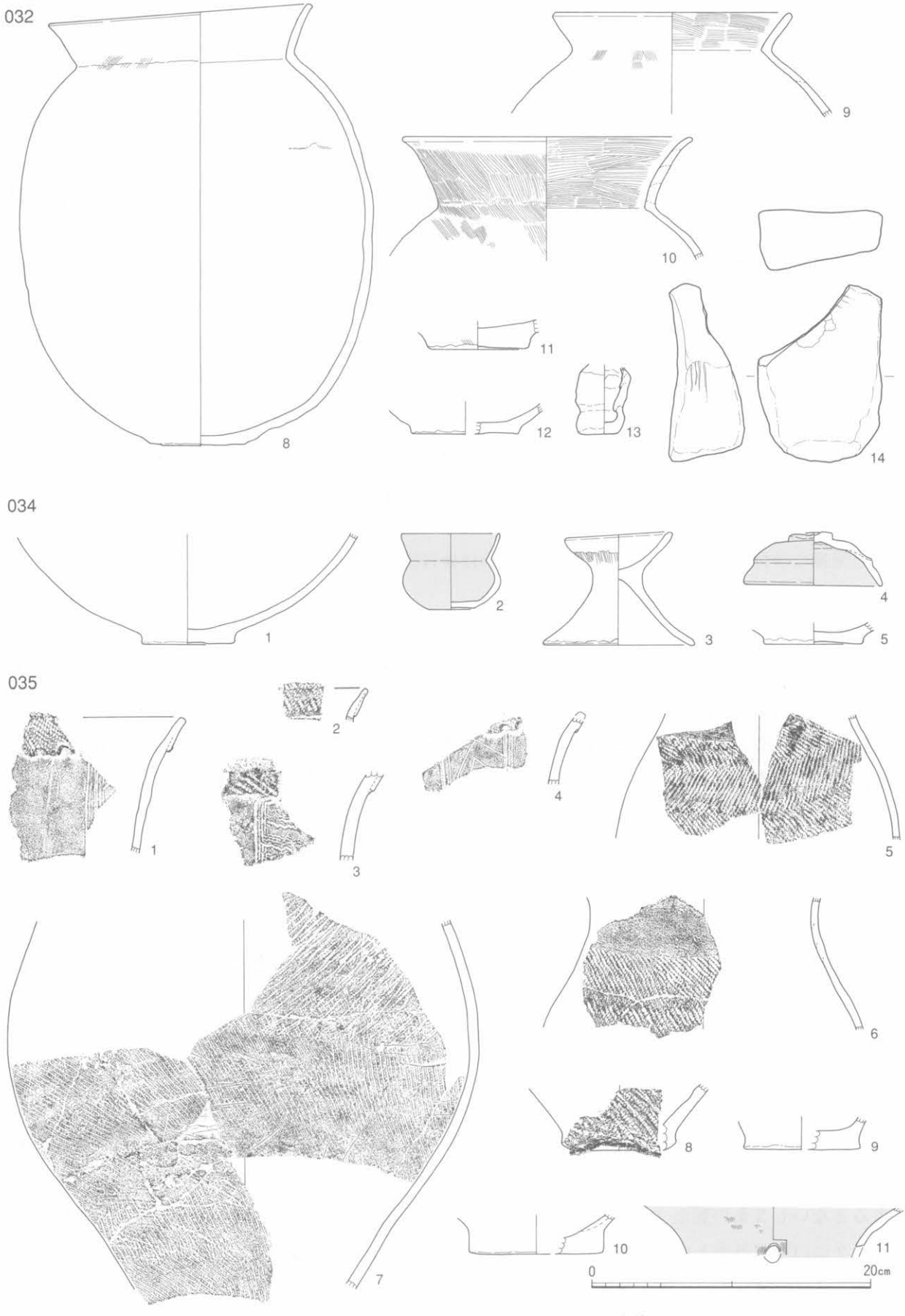
器受部内面はナデ，台部内面はハケの後，端部周辺にナデ調整が行われている。器受部との接合部分の破断面は摩滅していることから，蓋などとして再利用していた可能性がある。胎土はスコリアを少量含み，焼成は良好である。7は鉢で，折り返し口縁である。内外面ともにナデ調整が行われているが，口縁部外面にはハケの跡が残る。底部を除き赤彩されている。胎土は1～2㎜の砂と長石粒などの砂粒を含み，焼成は良好である。8～12は甕である。口縁部内外面はナデ，胴部内外面はヘラナデ調整が行われているが，頸部外面にはハケの跡が残る。胴部外面の器表面は火熱を受け，変色している。また，口縁部外面と胴部外面の中位にはススの付着がみられる。胎土は1.5㎜前後の長石粒を含み，焼成は良好である。9は口縁部内外面はハケの後，ナデ調整が行われているが，内面にはハケの跡が残る。胴部内外面はヘラナデ調整が行われているが，肩部外面にハケの跡が残る。内外面の器表面にススの付着がみられる。胎土は砂粒を少量含み，焼成は良好である。10は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，口唇部外面と胴部外面にナデ調整が行われている。胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。11・12は底部で，いずれもナデ調整が行われている。11は底部内面の器表面の剥落が著しい。胎土は砂粒を多く含み，焼成は良好である。12は底部内面にススの付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。13はミニチュアで，口縁部が欠損しているので全体の器形は不明である。内面に輪積み痕が明瞭に残る。底部外面と胴部外面の中位はヘラナデ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は赤色のスコリアと微細な砂粒を含み，焼成は良好である。14は砂岩製の砥石である。

034号竪穴住居跡（第76図，図版63，土器観察表218頁）

1は壷の底部である。胴部外面はヘラナデ，内面はナデ調整が行われているが，内面の器表面は剥落が著しい。胎土は長石粒，乳白色の微細な砂粒と多量の砂粒を含み，焼成は良好である。2は小型の壷である。口縁部内外面と胴部から底部外面はヘラミガキ調整が行われ，底部外面を除いて赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われているが，器表面の剥落が著しい。胎土は微細な砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。3は器台である。器受部と台部との間に穴は開けられず，透かし穴も開けられていない。口唇部外面はナデ，器受部内面と外面はヘラミガキ，台部内面はヘラナデ調整が行われている。器受部内面の器表面は剥落が著しい。胎土は2㎜前後の赤色のスコリア，長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。4は蓋である。つまみの中央部はヘラケズリにより窪ませている。内外面ともにナデ調整が行われ，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。5は甕の底部である。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は赤色のスコリアと乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

035号竪穴住居跡（第76図，図版63，土器観察表218頁）

1～10は壷で，いわゆる北関東系の土器である。1～4は折り返し口縁である。1は口縁部外面の下端部に指頭による押捺が施され，口縁部外面と口唇部端部に縄文が施されている。頸部文様帯はヘラ状工具による2ないし3条の懸垂文が施されている。胎土は1.5㎜前後の長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。2は口縁部外面と口唇部端部に縄文が施されている。胎土は1㎜前後の長石粒を含み，焼成は良好である。3は口縁部外面に縄文が施されている。頸部文様帯は5本単位のクシ状工具による懸垂文で区画し，その中に同じ工具による波状文が2条施されている。胎土は1～3㎜の砂粒を多く含み，焼成はあま



第76図　032・034・035号竪穴住居跡出土遺物

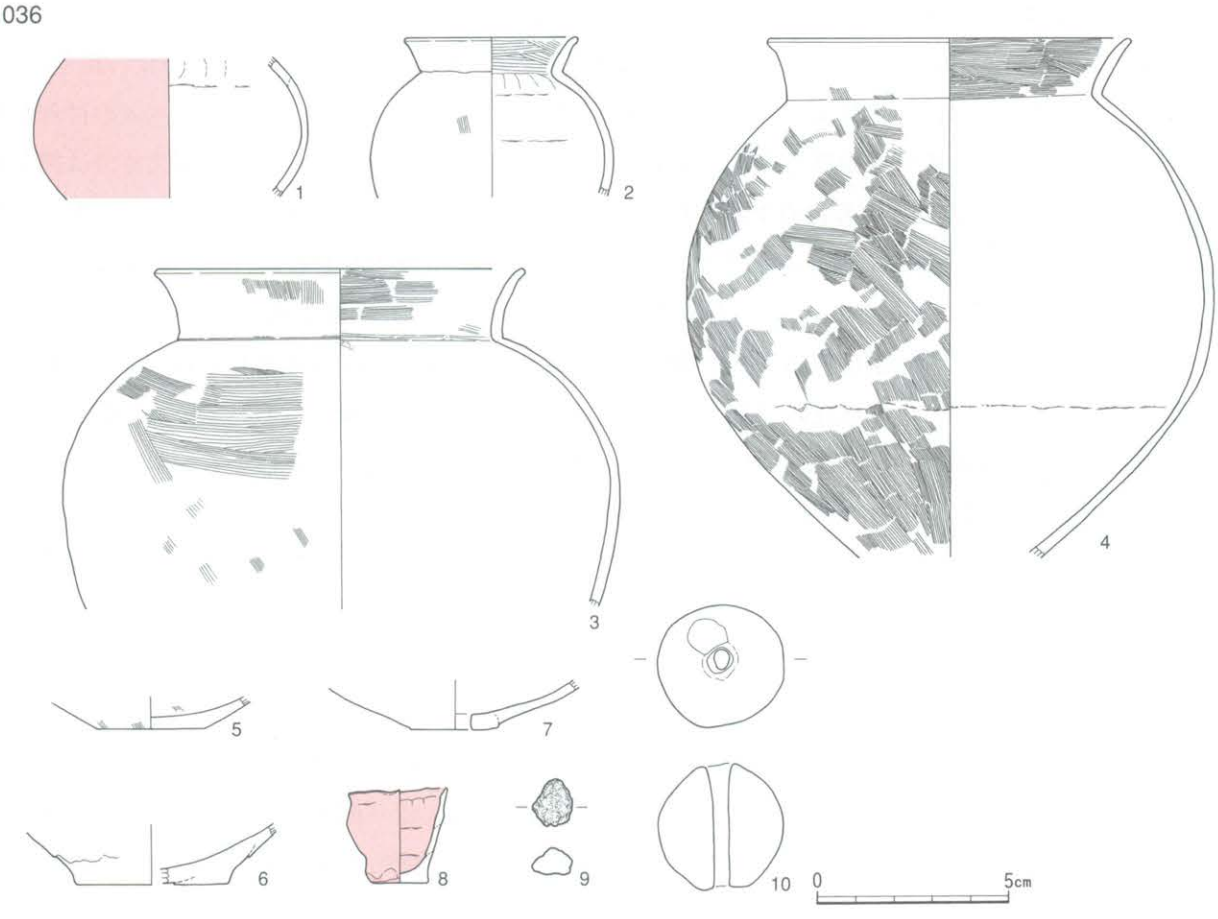
り良くない。4は口縁部端部に指頭による押捺が施されている。頸部文様帯は4本単位のクシ状工具による懸垂文で区画し，その中にヘラ状工具による山形文が施されている。胎土は2㎜前後の長石粒を含み，焼成は良好である。5は頸部は無文で，胴部文様帯は羽状縄文が施されている。内外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は頸部は無文で，胴部文様帯は縄文が3帯施されている。外面にススの付着がみられる。胎土は1.5㎜の長石粒を含み，焼成は良好である。7は胴部中位で施文方向を変えて縄文が施されている。胎土は0.5～3㎜の長石粒を含み，焼成は良好である。8は胴部外面に縄文が施されている。底部外面に木葉痕がみられる。胎土は0.5～1.5㎜の長石粒を含み，焼成は良好である。9は胴部外面はハケ調整が行われている。底部外面に木葉痕がみられる。胎土は2㎜前後の長石粒を含み，焼成は良好である。10は胴部外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11は器台で，器受部底部に段をもつ器形になると考えられる。器受部の口縁部の2か所に透かし穴が残っている。内外面ともにハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

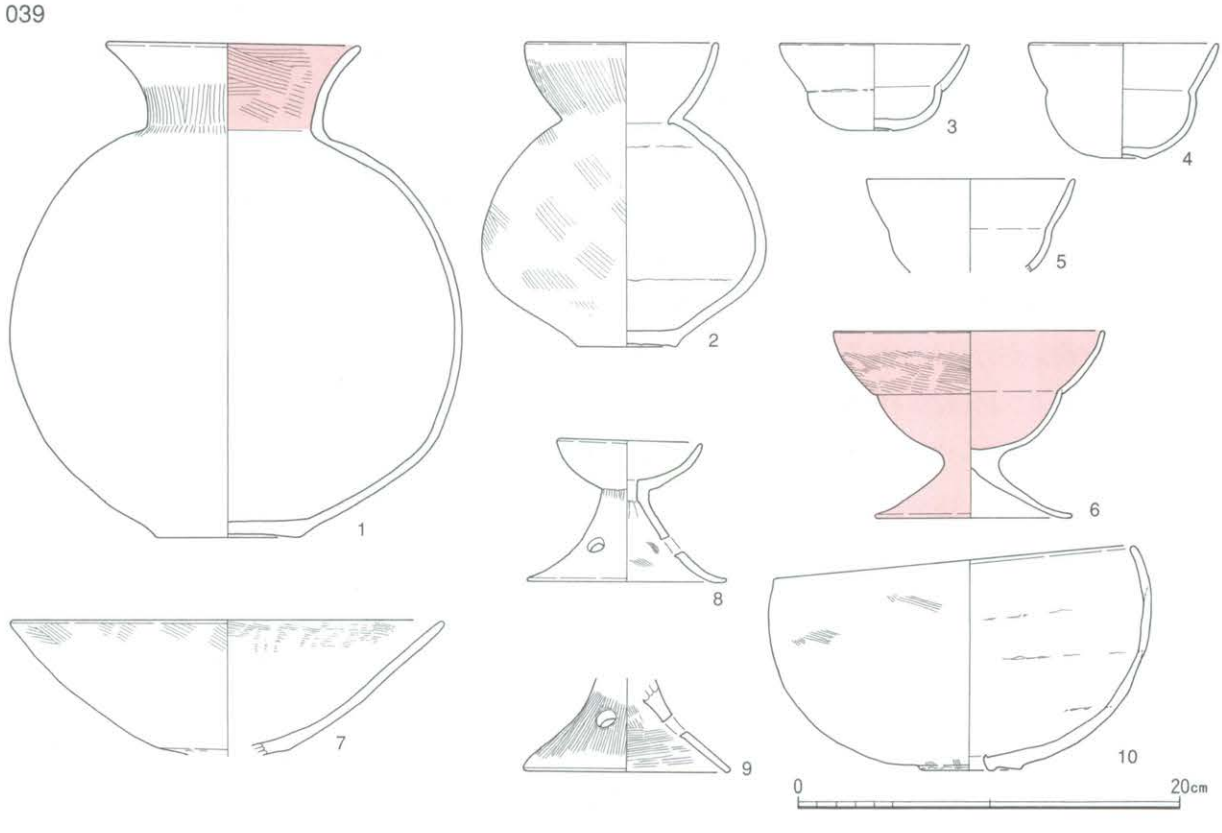
036号竪穴住居跡（第77図，図版64・78，土器観察表218・219頁，石製品観察表198頁）

1は壷である。胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は白色の砂粒とスコリアを少量含み，焼成は良好である。2～6は甕である。2は小型の甕で，外面はハケの後，ナデで，口縁部内面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は頸部外面に稜をもつ。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。口縁部内外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。4は胴部外面に広くススの付着がみられる。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部内外面に輪積み痕がみられる。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。5・6は底部で，いずれも胴部外面はヘラナデ，胴部内面はナデ調整が行われている。5は胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを少量含み，焼成は良好である。6は火熱を受け，内外面の器表面が荒れている。胎土は2㎜前後の長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は甑である。底部に径1.6cmの穴が1つ開けられている。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。8はミニチュアである。口縁部内外面はナデ，胴部内外面はヘラナデ調整が行われ，底部外面を除き赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。9は軽石製品である。10は土玉で，完形である。幅3.2cm，高さ3.8cm，重さ33ｇで，径0.6～0.8cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

039号竪穴住居跡（第77・78図，図版64・65・78・79，土器観察表219頁，石製品観察表198頁）

1・2は壷である。1は素口縁で，口縁部内外面はハケの後，ナデ調整が行われ，内面のみ赤彩されている。胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の砂粒や長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は口縁部が内湾する。口縁部外面はハケの後，口唇部のみナデで，口縁部内面はヘラミガキ，胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。

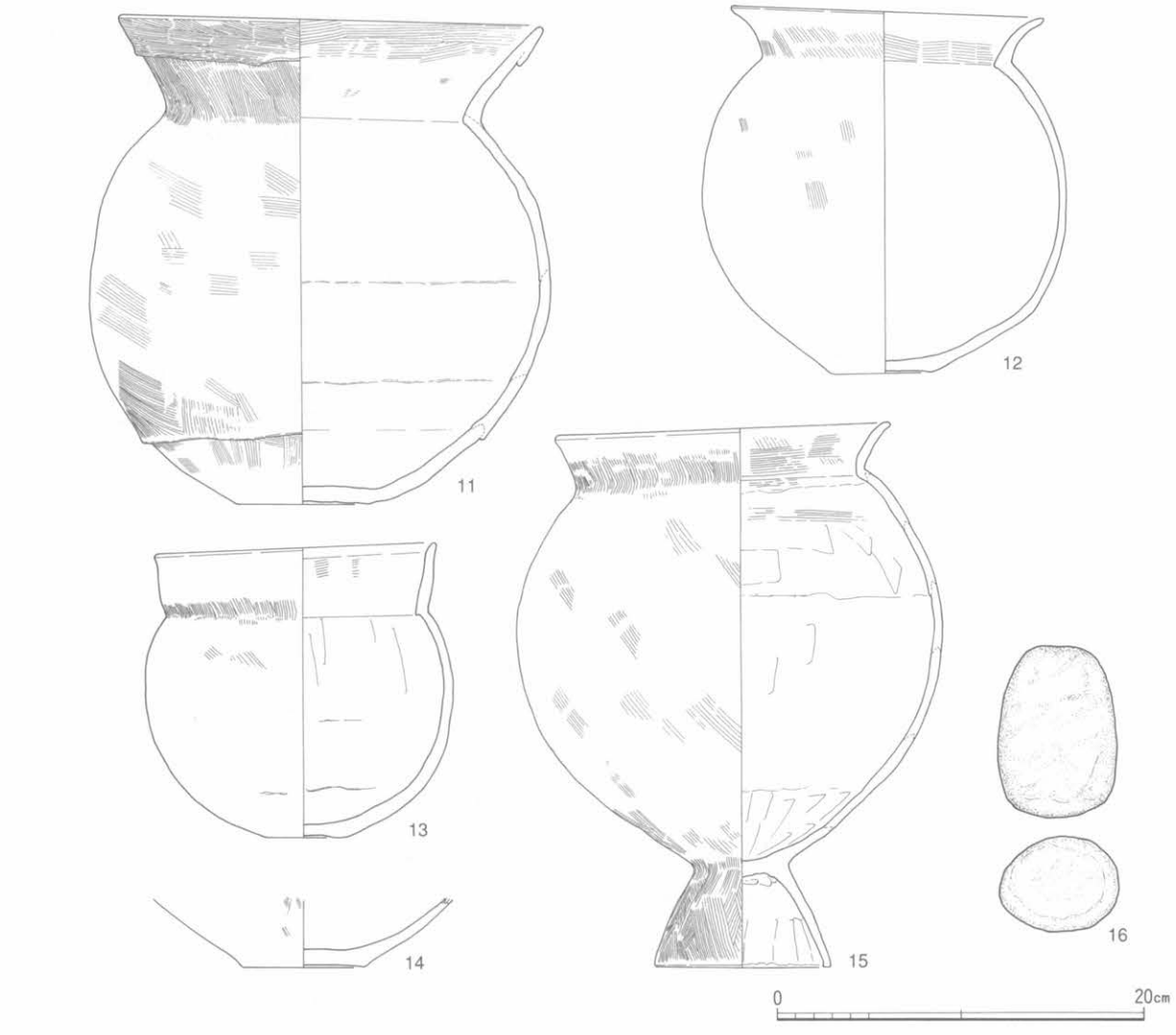


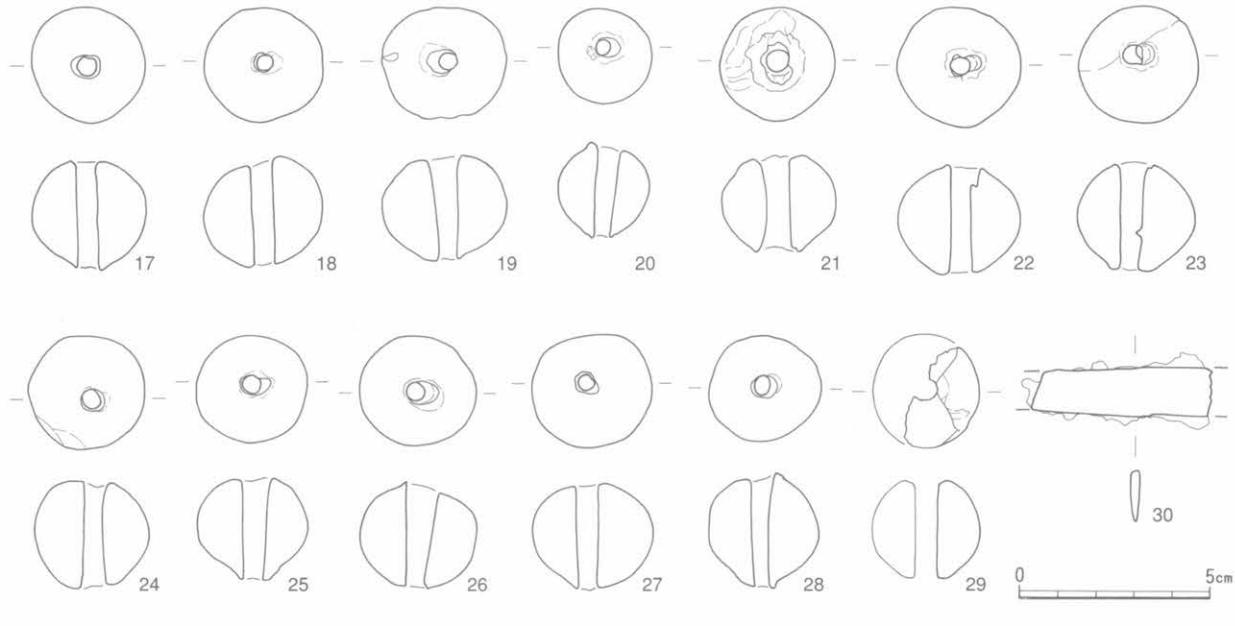


第77図　036・039号竪穴住居跡出土遺物

胴部内面には輪積み痕がみられる。火熱を受け，変色している部分がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3～5は小型坩である。3・4は上げ底である。3は頸部外面に輪積み痕がみられる。内外面ともにヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は石英粒とスコリアを含み，焼成は良好である。5は口縁部内外面と体部外面はナデ，体部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。6は台付の小型坩である。口縁部外面はハケの後，ナデで，内面はヘラミガキ，体部から台部外面はハケの後，ヘラミガキで，台部内面はナデ調整が行われ，台部内面を除き赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，石英粒と2㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。7は高杯である。内外面ともにハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面の器表面は荒れている。胎土は白色針状物と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。8・9は器台である。8は器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内面と台部外面はヘラミガキ，器受部外面はハケの後，ナデで，台部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。台部外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の砂粒や長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。9は台部の3か所に透かし穴が開けられている。内外面ともにハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は多量の乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。10は甑である。椀形の器形で，底部はわずかに突出し，径1.85cmの穴が1つ開けられている。外面はハケの後，ヘラナデで，内面はヘラナデ調整が行われている。内面に輪積み痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11～14は甕である。11は折り返し口縁で，胴部下半部の外面に輪積み痕による段がみられる。口縁部内外面と頸部外面はハケ，頸部内面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部内面に輪積み痕がみられる。口縁部外面と胴部外面の中位から下位にかけてススの付着がみられる。胎土は白色の砂粒を含み，焼成は良好である。12は外面の口縁部から胴部中位にかけてススの付着がみられる。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を多く含み，焼成は良好である。13は口縁部が直立し，口唇部内側が面取りされている。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。14は底部で，内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は石英粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。15は台付甕である。外面の口縁部から胴部中位にかけてススの付着がみられる。口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部外面はハケの後ヘラナデ，胴部内面はヘラナデ，台部外面はハケ，台部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。16は砂岩製の敲石である。17～29は土玉である。29を除きいずれもほぼ完形である。17は幅3.1cm，高さ2.8cm，重さ23ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。色調は灰褐色で，胎土は白色の砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。18は幅3.1cm，高さ2.8cm，重さ23ｇで，径0.5～0.6cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒を含み，焼成は良好である。19は一部欠損している。幅3.3cm，高さ2.8cm，重さ23ｇで，径0.6～0.8cmの穴が開けられている。色調は暗茶褐色で，胎土は白色の砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。20は幅2.9cm，高さ2.5cm，重さ12ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。色調は暗茶褐色で，胎土は白色の砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。21は幅3.0cm，高さ2.6cm，重さ19ｇで，径1.0～1.3cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土はスコリアと砂粒を含み，

039



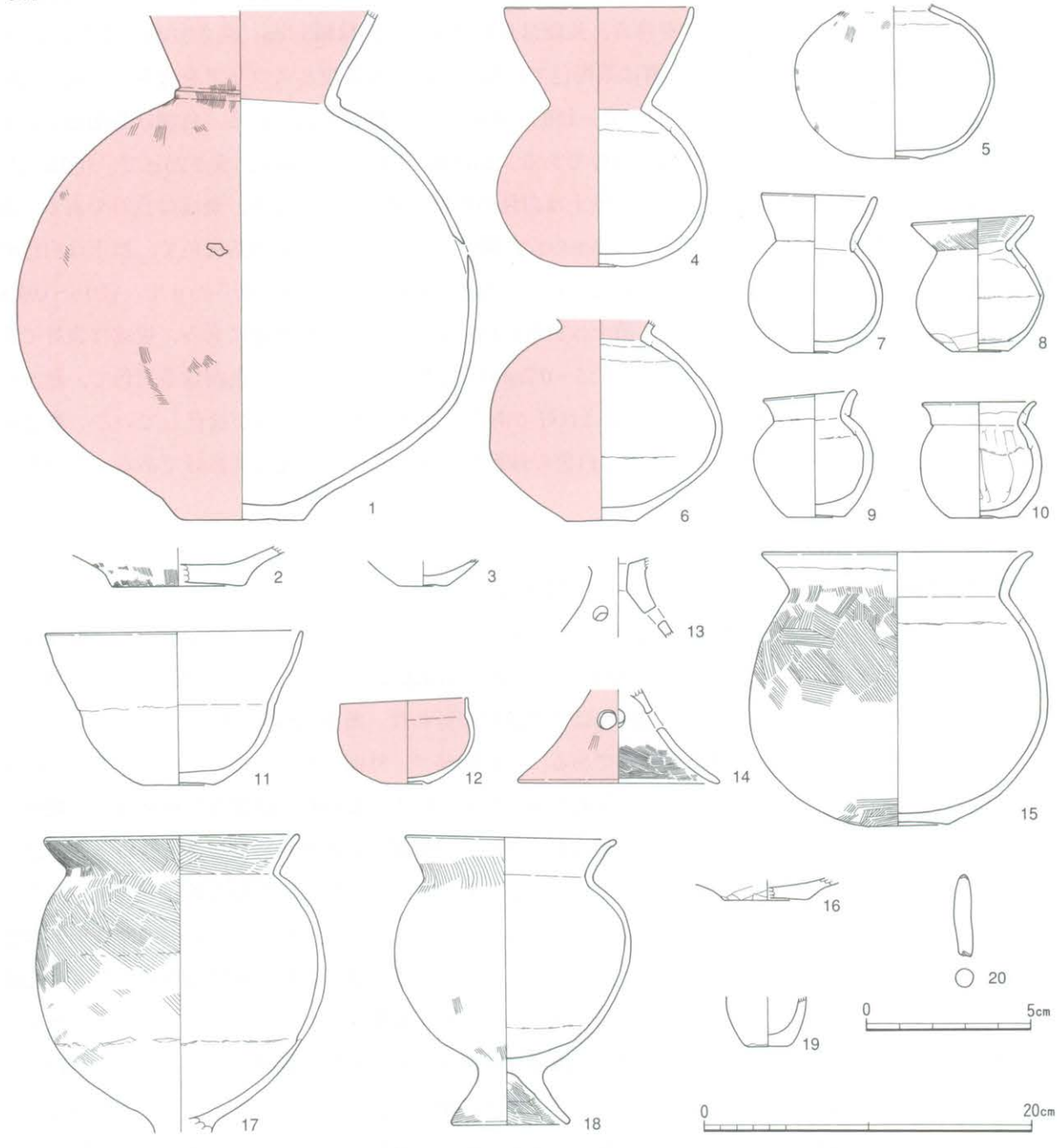


第78図　039号竪穴住居跡出土遺物

焼成は良好である。22は幅3.2cm，高さ2.8cm，重さ25ｇで，径0.7～0.8cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒とスコリアを含み，焼成は良好である。23は幅3.1cm，高さ2.8cm，重さ24ｇで，径0.5～0.8cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒とスコリアを含み，焼成は良好である。24は幅3.1cm，高さ2.9cm，重さ24ｇで，径0.7～0.8cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒とスコリアを含み，焼成は良好である。25は幅3.0cm，高さ2.6cm，重さ20ｇで，径0.5～0.8cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒とスコリアを含み，焼成は良好である。26は幅3.2cm，高さ2.9cm，重さ22ｇで，径0.7～0.8cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒とスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。27は幅3.2cm，高さ3.0cm，重さ25ｇで，径0.5～0.6cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒とスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。28は幅2.9cm，高さ3.1cm，重さ19ｇで，径0.5～0.7cmの穴が開けられている。色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒とスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。29は全体の約30%が遺存している。推定幅2.8cm，高さ2.7cmで，色調は茶褐色で，胎土は白色の砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。30は刀子で，遺存長4.6cm，幅1.3cm，厚さ0.2cmである。

040号竪穴住居跡（第79図，図版65・66・78，土器観察表219頁）

1～10は壷である。1は頸部に断面三角形の隆帯を貼り付けている。胴部外面の中位付近に，焼成後による穴が開けられている。穴は横1.3cm，縦0.8cmで，外面から内面に向かって開けられたものと思われる。頸部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われ，頸部内外面と胴部外面は赤彩されている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は底部で，外面はハケの後，ヘラナデで，内面はヘラナデ調整が行われている。外面にススの付着がみられる。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。4～6はやや小型の壷である。4は上げ底で，口縁部内外面と外面は底部も含めヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。5は上げ底で，胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。火熱を受け，胴部外面の一部が変色している。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は平底で，頸部内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面と底部外面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3・7～10は小型の壷である。7は口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面と底部外面はヘラナデ調整が行われている。頸部外面には輪積み痕がみられる。胎土は1～5㎜の長石粒やチャートを含み，焼成は良好である。8は口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。9・10は折り返し口縁である。9は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。10は胴部内面の下半部はヘラナデ，そのほかはナデ調整が行われている。口縁部内面に赤彩されたと思われる痕跡がみられる。胴部外面は火熱を受け，赤く変色している部分がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は底部で，内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒や石英粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11は小型坩である。頸部のくびれは弱い。口縁部内外面はナデ，体部内外面と底部以外の面はヘラナデ調整が行われている。内面の器表面は火熱を受け，荒れている。胎土は乳白色の微細な砂粒を多く含み，ざらついた感じで，焼成はあまり良くない。12は鉢である。口縁部外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調



第79図　040号竪穴住居跡出土遺物

整が行われ，底部外面も含めすべて赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。13・14は器台である。13は器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。14は台部の4か所に透かし穴が開けられている。外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。台部内面は裾部がハケ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。15・16は甕である。15は上げ底である。口縁部内外面はナデ調整が行われているが，外面に輪積み痕が残る。胴部外面はハケの後，ナデで，内面はナデ調整が行われている。胴部外面にはススの付着がみられる。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。16は底部で，内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒などの微細な砂粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。17・18は台付甕である。17は口縁部内外面はハケ，胴部外面はハケの後，下半部がナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胴部内外面に輪積み痕がみられる。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。18は口縁部内外面と胴部と台部の外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はナデ，台部内面はハケ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。19はミニチュアである。外面はヘラナデ，内面は指頭によるナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。20は性格不明の土製品で，長さ2.5cm，径0.55cmである。表面はナデられている。色調は暗褐色で，胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

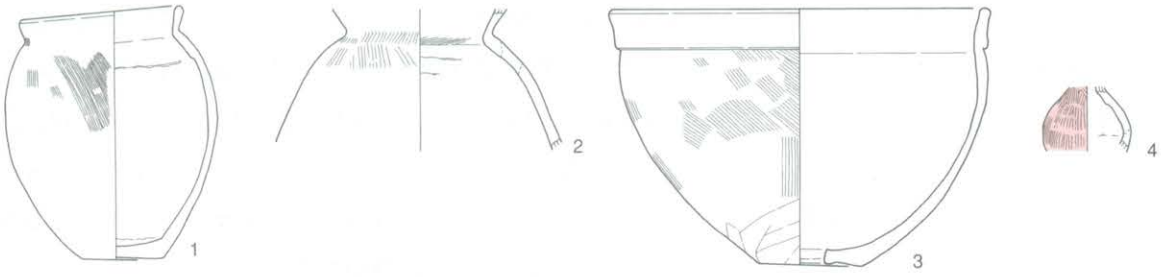
042号竪穴住居跡（第80図，図版66，土器観察表220頁）

1・2は甕である。1は外面はハケの後，ナデあるいはヘラナデ調整が行われているが，一部にハケの跡が残る。内面は口縁部から肩部はナデで，そのほかはヘラナデ調整が行われている。外面の器表面は火熱を受け，非常に荒れている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は頸部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成は良好である。3は甑で，折り返し口縁である。底部に径2.0cm前後の穴が1つ開けられている。口縁部内外面はナデ，胴部内面はヘラナデ，胴部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。底部外面の器表面は火熱を受け，変色している。胎土は微細な砂粒を含み，ざらついた感じであるが，焼成は良好である。4はミニチュアで，壷になるものと思われる。外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

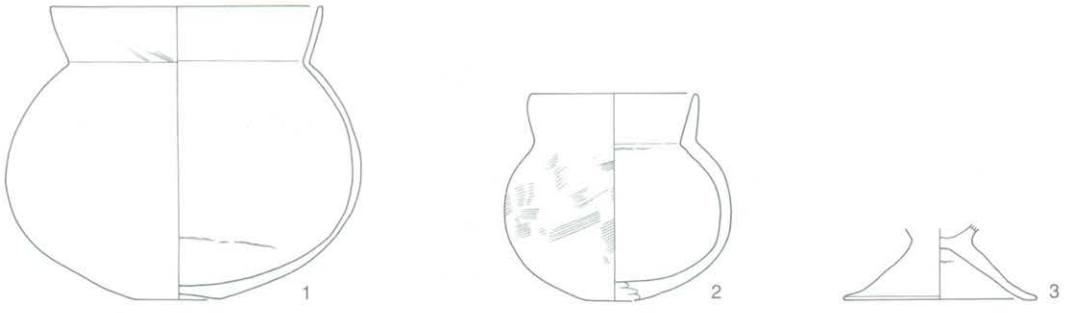
043号竪穴住居跡（第80図，図版66，土器観察表220頁）

1・2は甕である。1は上げ底で，すべてナデ調整が行われている。内面の胴部下半部から底部の器表面は火熱を受け，荒れている。口縁部内面にはススの付着がみられる。胎土は石英粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は外面の口縁部から胴部にかけて火熱を受け，変色し，ススの付着もみられる。口縁部内外面と胴部内面はナデ，胴部外面はハケの後，ナデ調整が行われているが，全体的に器表面が非常に荒れている。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は高杯である。杯部は脚部との接合部分で欠落している。内外面ともナデ調整が行われている。胎土は長石粒や赤色のスコリアなどの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

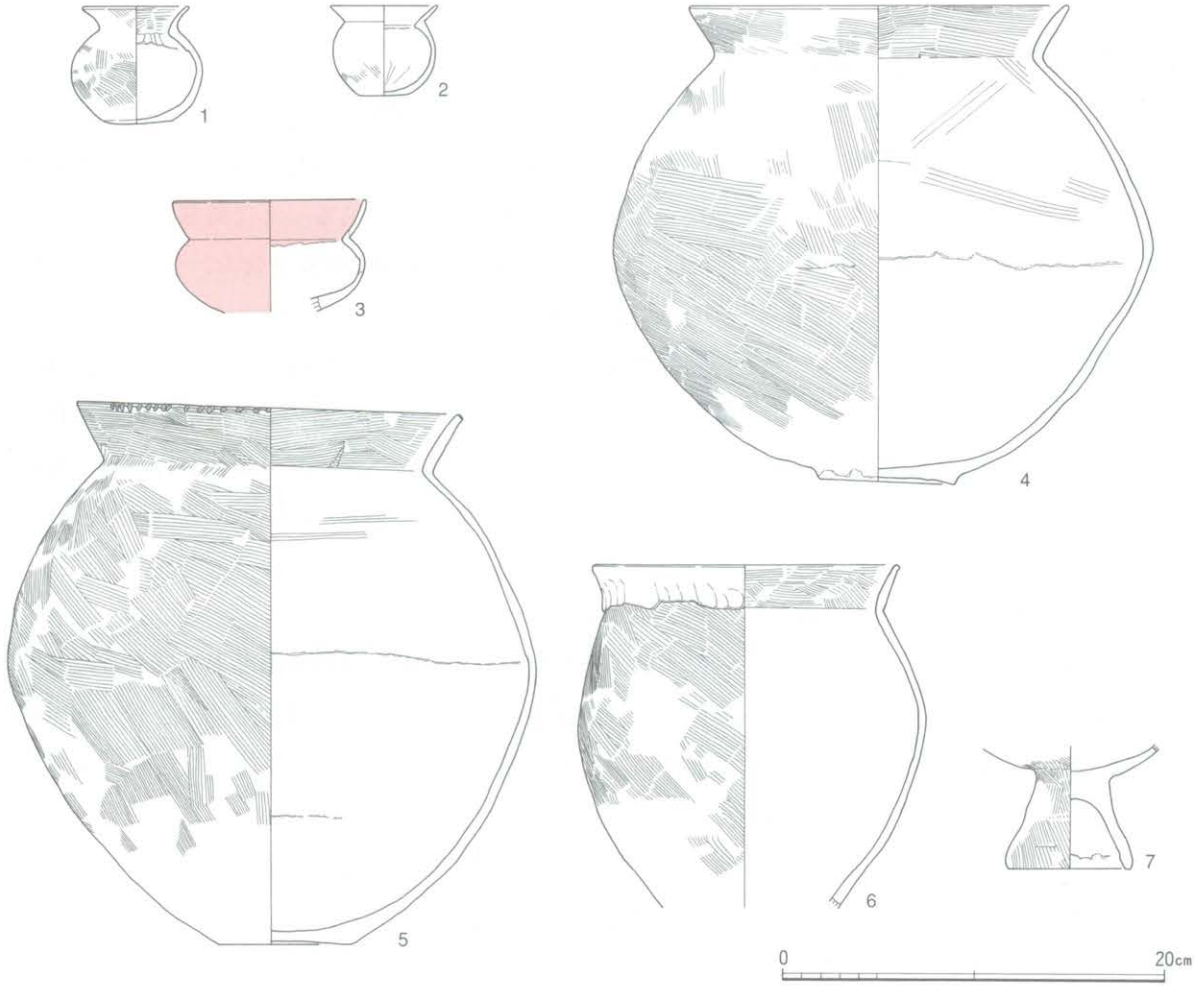
042



043



044



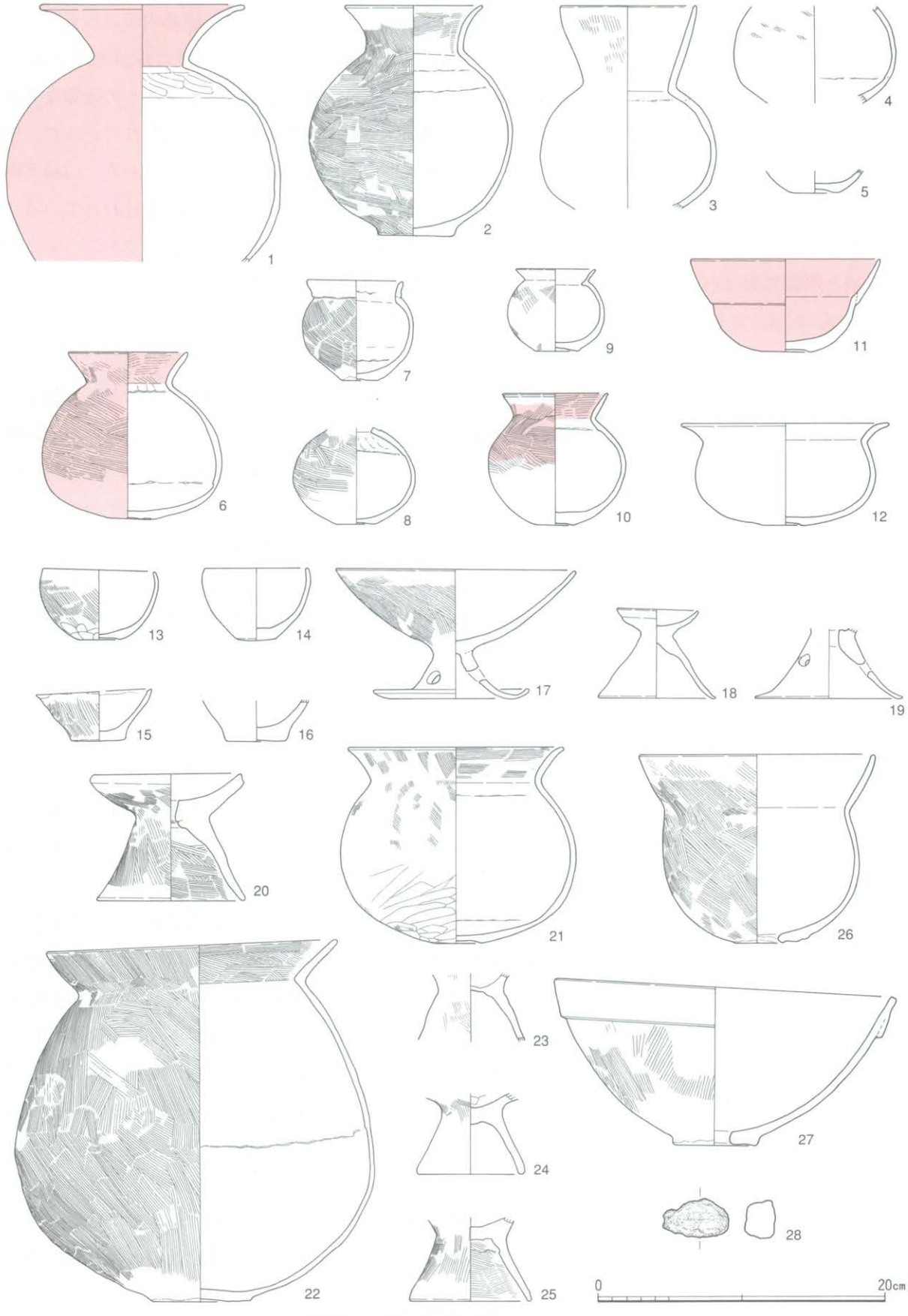
第80図　042・043・044号竪穴住居跡出土遺物

044号竪穴住居跡（第80図，図版67，土器観察表220頁）

1・2は小型の壷である。1は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。肩部内面には指頭によるオサエの跡がみられる。底部外面は調整の跡が明確ではなく，台部が付く可能性も考えられる。口縁部内面にススの付着がみられる。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は口縁部内外面はナデ，胴部内外面はヘラナデ調整が行われているが，胴部外面にはハケの跡が残る。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は小型坩である。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。体部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒や赤色のスコリアなどの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。4～6は甕である。4は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，部分的にヘラナデ調整が行われている。胴部内面はヘラナデ調整が行われているが，胴部上半部にハケの跡が一部残る。外面の口縁部から胴部上半は火熱を受け，変色している。胎土は長石粒や赤色のスコリアなどの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。5は口唇部端にハケ状の工具による刻みが全体の半周ほどの範囲に施されている。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，胴部下半部のみナデ調整が行われている。胴部外面の器表面は火熱を受け，変色している。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，ざらついた感じであるが，焼成は良好である。6は頸部外面は指頭によるオサエが行われ，折り返し口縁のようになっている。口縁部内面はハケ，口縁部外面はナデ，胴部外面はハケの後，下半部をヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面の器表面は火熱を受け，変色している。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。7は台付甕である。台部の端部は内側に折り返したようになっている。外面はハケ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

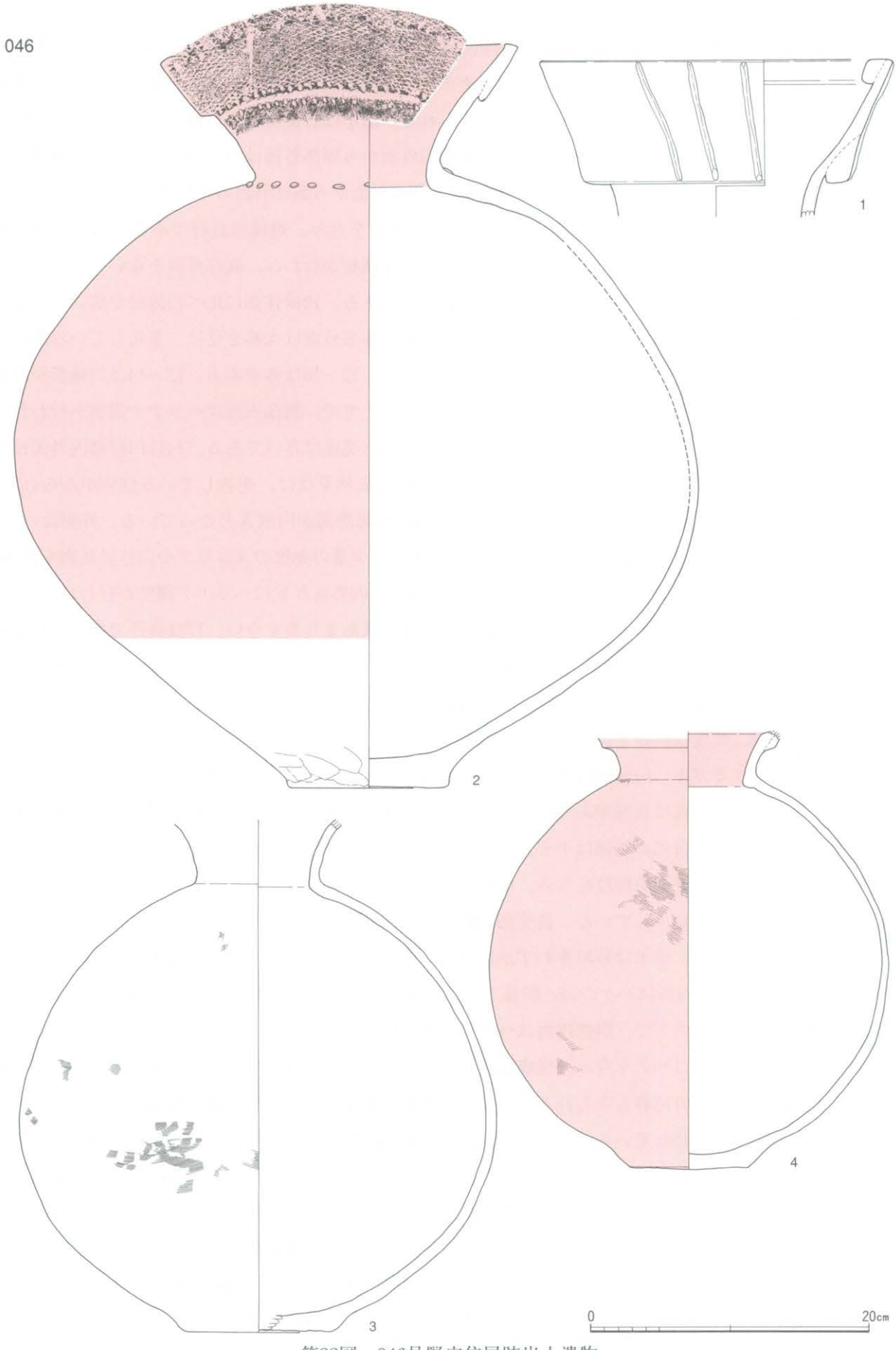
045号竪穴住居跡（第81図，図版68・69，土器観察表220・221頁，石製品観察表198頁）

1～10は壷である。口縁部の残っているものはすべて素口縁である。1は口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。肩部内面は粗いヘラナデで，その痕跡が残る。胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面は火熱を受け，変色している部分がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は口縁部内外面から胴部外面はハケの後，口縁部内外面のみナデで，胴部内面と底部外面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3は口縁部内外面はナデ，頸部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われている。頸部外面にはハケの跡が残る。胎土は赤色のスコリアと1～3㎜の長石粒や砂粒を含み，焼成は良好である。4は胴部で，外面はハケの後，ナデで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒と石英粒を含み，焼成は良好である。6は口縁部内外面から胴部中位まではハケの後，口唇部内外面のみナデで，胴部外面の下半部はナデ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。口縁部内外面から胴部下半にかけて赤彩されている。胎土は2㎜前後の白色の砂粒と赤色の微細なスコリアを含み，焼成は良好である5・7～10は小型の壷である。5は底部で，上げ底である。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。7は折り返し口縁である。胴部外面はハケで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は2㎜前後の砂粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。8は頸部より上が接合面で欠損している。胴部外面の中位までがハケ，胴部外面の下半部はヘラナデ，胴部内面はナデ調整が行われ，肩部内面は指頭によるオサエの跡が残



第81図　045号竪穴住居跡出土遺物

る。胎土は乳白色の微細な砂粒と2㎜前後の白色の砂粒を含み，焼成は良好である。9は上げ底である。口縁部内外面はナデ，胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面は火熱を受け，灰褐色に変色している部分がみられる。胎土は石英粒と長石粒を含み，焼成は良好である。10は口唇部外面に細い沈線がみられる。口縁部内外面から胴部外面はハケの後，口縁部外面はナデで，胴部下半部はヘラナデ調整が行われ，口縁部内面と頸部外面から胴部外面の中位まで赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は1～1.5㎜の砂粒を含み，焼成は良好である。11・12は小型坩で，いずれも上げ底である。11は内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，底部外面を除いて赤彩されている。胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12は体部に比べ口縁部が短い。口縁部内外面はナデ，体部内外面はヘラナデ調整が行われている。体部外面は火熱を受け，変色している部分がみられる。胎土は石英粒と長石粒を含み，焼成は良好である。13～16は鉢である。13・14は口縁部が内湾する。13は口縁部内外面はナデ，胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。14は口縁部内外面はナデ，そのほかはすべてヘラナデ調整が行われている。外面は火熱を受け，変色している部分がみられる。胎土は石英粒と長石粒を含み，焼成は良好である。15は口唇部端部が内削ぎとなっている。外面はハケ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアや白色針状物を含み，焼成は良好である。16は15と同様の鉢になるものと思われる。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，ざらついた感じで，焼成はあまり良くない。17は高杯である。脚部の3か所に透かし穴が開けられている。裾部端部は反り返っている。杯部外面はハケの後，口縁部のみナデで，杯部内面はナデ，脚部外面はヘラナデ，脚部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は2～3㎜の砂粒を含み，焼成は良好である。18・19は器台である。18は透かし穴などがみられない。器受部内面と台部外面はヘラミガキ，口縁部内外面から器受部外面と台部内面はナデ調整が行われている。胎土は砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。19は器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。台部の端部はナデ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。20は異形器台である。体部外面の半分ほどは火熱を受け，灰色に変色している。器受部内面と口唇部外面はナデ，そのほかはハケの後，やや粗いナデ調整が行われている。胎土は砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。21・22は甕である。21は小さく窪んだ上げ底である。外面はハケの後，胴部下半はヘラケズリで，そのほかはナデ調整が行われている。口縁部内面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，乳白色の微細な砂粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。22は胴部外面は火熱を受け，器表面が部分的に灰褐色に変色し，ススの付着もみられる。口縁部内外面と胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ，口唇部内外面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と3㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。23～25は台付甕の台部である。23は胴部と台部が接合部分で欠損している。外面はハケの後，ナデで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。24は胴部内面と台部内面はヘラナデ，台部外面はナデ，接合部分はハケ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。25は台部内外面はハケ，胴部内面はヘラナデ，台部端部はナデ調整が行われている。胎土は長石粒，赤色のスコリアと乳白色の微細な砂粒を含み，ざらついた感じであるが，焼成は良好である。26・27は甑である。26は広口の甕の形をしており，底部に径1.8～2.1

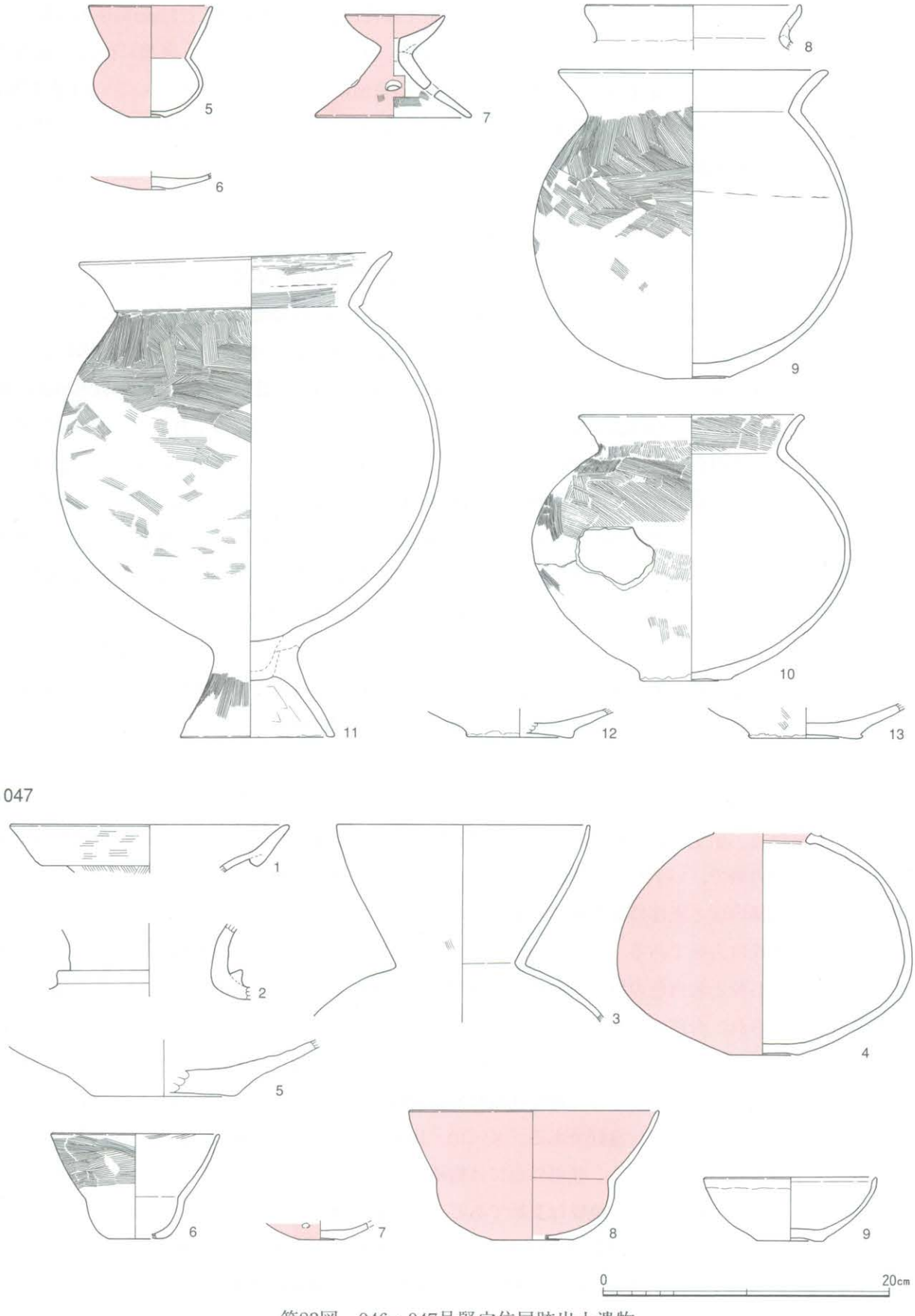


第82図　046号竪穴住居跡出土遺物

cmの穴が１つ開けられている。外面はハケ，口唇部内外面から胴部内面と底部外面はナデ調整が行われている。口縁部外面は火熱を受け，一部変色している。胎土は乳白色の微細な砂粒と1.5mm前後の砂粒を含み，焼成は良好である。27は折り返し口縁で，口唇部端部にわずかな窪みを作る。底部に径2.2cm前後の穴が１つ開けられている。内面はヘラナデ調整が行われ，器表面は平滑に仕上げられている。口縁部外面はヘラナデ，胴部外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は１～３mmの砂粒を含み，焼成は良好である。28は軽石製品である。

046号竪穴住居跡（第82・83図，図版69・70，土器観察表221頁）

１～６は壷である。１・２は折り返し口縁である。１は口縁部外面に１本で一つの単位となる棒状貼付文が，推定で４単位施されている。口唇部内面は隆帯を貼り付け，口唇部端部を幅広くしている。外面はヘラナデ，内面はナデ調整が行われている。外面は火熱を受け，灰褐色に変色している部分がみられる。胎土は２mm前後の赤色のスコリアと長石粒を含み，焼成は良好である。２は口唇部端部と口縁部外面に網目状撚糸文が施されている。口縁部下端部には刻みが施されているが，その際の工具痕が頸部外面に残っている。肩部外面には円形浮文が貼り付けられており，13個が遺存していることから，推定で24個ほど貼り付けられていたものと思われる。頸部内面から口縁部内面と頸部外面から胴部外面はヘラミガキ調整が行われている。胴部内面と胴部外面の下半部から底部外面を除いて赤彩されている。底部外面には木葉痕がみられる。胴部外面は火熱を受け，変色している部分がみられる。内面の頸部から胴部の器表面は摩滅が著しい。胎土は２mm前後の赤色のスコリア，長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。３は頸部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はヘラナデ調整が行われているが，胴部外面には一部ハケの跡が残る。底部外面には木葉痕がみられる。胎土は長石粒や石英粒などの砂粒を多く含み，焼成は良好である。４は二重口縁と思われる。頸部と口縁部の内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されているが，胴部外面には一部ハケの跡が残る。胴部内面はヘラナデで，下半部はヘラミガキ調整が行われている。底部外面はヘラケズリの後，ナデ調整が行われている。胴部外面は火熱を受け，変色している部分がみられる。胎土は長石粒や石英粒などの砂粒と多量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。５・６は小型の壷で，いずれも上げ底である。５は口唇部と胴部内面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われ，胴部内面と底部外面を除いて赤彩されている。胴部外面は器表面の剥離がみられる。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。６は内外面ともにナデ調整が行われ，胴部外面は赤彩されている。胎土は１mm前後の長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。７は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の４か所に透かし穴が開けられている。器受部内面と口唇部外面はナデ，台部外面はヘラミガキ，そのほかはヘラナデ調整が行われているが，台部内外面にはハケの跡が残る。器受部内外面と台部外面は赤彩されている。器受部内面の器表面は摩滅が著しい。胎土は長石粒，石英粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。８～10・12・13は甕である。８は口唇部が摘み上がる。内外面ともにナデ調整が行われている。頸部外面には輪積み痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを少量含み，焼成は良好である。９は胴部外面はハケの後，下半部にヘラナデ調整が行われている。そのほかはナデ調整が行われている。胴部内面の下半部と外面の底部付近を除いた部分にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と２mm前後の砂粒を含み，焼成は良好である。10は焼成後に，径4.4～6.2cmの穴が開けられている。口縁部内面と胴部外面はハケの後，ナデで，口

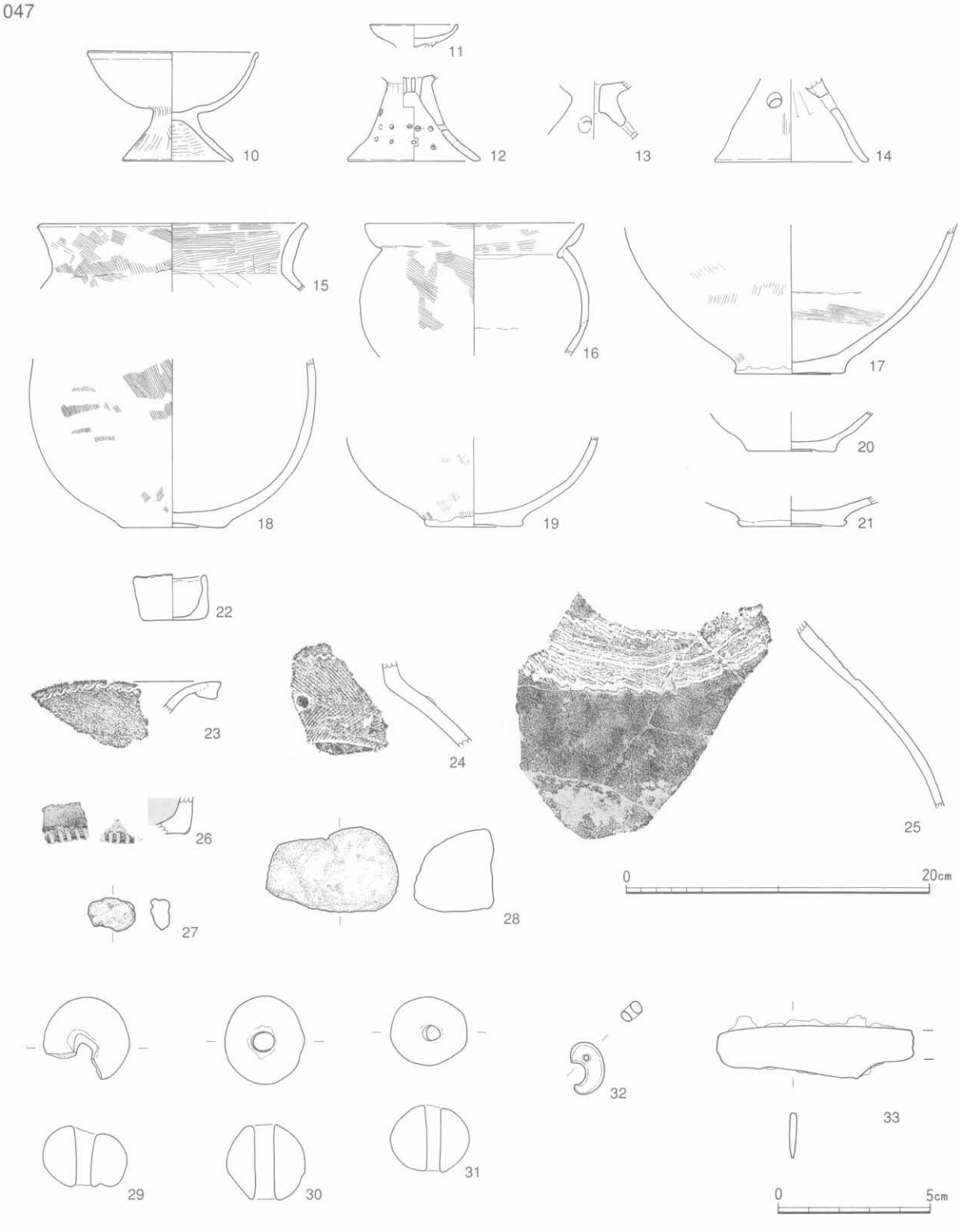


第83図　046・047号竪穴住居跡出土遺物

唇部内外面と胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面は火熱を受け，器表面が変色している部分がみられる。胴部内面と外面の器表面にはススの付着がみられる。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。12・13は底部で，いずれもナデ調整が行われているが，12の胴部外面にはハケの跡がみられる。13の底部外面には木葉痕がみられる。12は胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。13は胎土は長石粒，乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを多く含み，焼成は良好である。11は台付甕で，頸部外面に段をもつ。口縁部内面と胴部外面から台部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。口縁部外面，胴部内面と台部内面はナデ調整が行われている。胴部と台部との接合部分の器壁は厚く仕上げられている。口縁部外面と胴部外面の中位付近にススの付着がみられる。胎土は0.5㎜前後の長石粒，石英粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

047号竪穴住居跡（第83・84図，図版70・78・79，土器観察表221頁，石製品観察表198頁）

1～5は壷である。1は二重口縁である。外面はハケの後，ナデで，内面はナデ調整が行われている。内面は器表面の剥離が著しい。胎土は長石粒，乳白色の微細な砂粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は頸部で，断面三角形の隆帯を巡らせている。外面はナデ調整が行われているが，内面は器表面の剥離が著しく不明である。胎土は1.5㎜前後の長石粒，乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3は素口縁である。口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われているが，口縁部外面の一部にハケの跡が残る。胎土は乳白色の微細な砂粒，赤色のスコリア，長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。4は頸部より上は接合面で欠損している。頸部内面と胴部外面から底部外面はヘラミガキ調整が行われ，底部外面を除いて赤彩されている。胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。5は底部で，木葉痕がみられる。内外面ともにナデ調整が行われている。内面は器表面の剥離が著しい。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒や石英粒をわずかに含み，焼成は良好である。6～8は小型坩である。6は口縁部外面はハケ，口唇部内外面はナデ，そのほかはヘラナデ調整が行われているが，口唇部内面に一部ハケの跡が残る。胎土は1～3㎜の砂粒を多量に含むほか，乳白色の微細な砂粒，長石粒と石英粒をわずかに含み，焼成は良好である。7は焼成前に，推定径5㎜前後の穴が体部下端部に開けられている。内外面ともにナデ調整が行われ，外面は底部も含めて赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と若干の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われ，底部外面を除いてすべて赤彩されている。胎土は長石粒，赤色のスコリアと乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。9は鉢である。口唇部は内削ぎで，口縁部外面はナデにより緩やかな稜を作り出している。すべてナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と若干の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は高杯である。杯部内外面はナデ，脚部内面はハケ，脚部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。杯部内外面と脚部内面の一部は火熱を受け，ススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と多量の長石粒を含み，焼成は良好である。11～14は器台である。11は器受部で，器受部と台部との間に穴は開けられていない。口唇部内外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と多量の長石粒を含み，焼成は良好である。12は器受部と台部との間に径3～5㎜の穴が2か所開けられている。台部には3～4段の配列で，遺存しているもので，径4㎜前後の透かし穴が22か所開けられている。透かし穴の配列には特に規則性は認められない。器受部内面はヘラナデ，台部外面はヘラミガキ，台部内面はナデ調整が行われている。胎



第84図　047号竪穴住居跡出土遺物

土は長石粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。13は器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は1～3㎜の長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。14は台部の3か所に透かし穴が開けられている。外面はハケの後，ヘラミガキで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。15～21は甕である。15は口唇部端部は平坦になっている。口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。口縁部外面にはススの付着がみられる。胎土は3㎜前後の砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。16は口縁部の器壁が外側に膨れたように厚くなっている。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。17～19はいずれも外面はハケの後，ナデで，内面はナデ調整が行われているが，17の胴部内面にはハケの跡が残る。17は胎土は赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。18は胴部外面にススの付着がみられる。胎土は2㎜前後の砂粒，乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。19は胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。20・21はいずれもナデ調整が行われている。20は内外面ともに火熱を受け，器表面が変色している部分がみられる。胎土は微細な砂粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。21は胎土は長石粒，石英粒と乳白色の微細な砂粒をわずかに含み，焼成は良好である。22はミニチュアである。口唇部は内面に稜をもつ。口唇部内外面と底部外面はナデで，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。23～26は壷の破片である。23は折り返し口縁で，遺存しているすべての口縁部内面に縄文が施されている。頸部外面はハケ，そのほかの文様帯以外はナデ調整が行われている。内外面ともに器表面の摩滅が著しい。胎土は赤色のスコリア，長石粒と乳白色の微細な砂粒を多く含み，焼成はあまり良くない。24は肩部文様帯で，円形貼付文を境にして上下1段ずつの縄文が施されている。文様帯以外はナデ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を多く含み，焼成はあまり良くない。25は肩部文様帯で，上から順に2本単位の波状文，ヘラ状工具による沈線，5本単位の横線文，5本単位の波状文が施されている。外面の文様帯以外はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われ，外面は文様帯を除いて赤彩されている。胎土は石英粒と長石粒を多く含み，焼成は良好である。26は二重口縁の一部で，端部にヘラ状工具による刻みが施されている。内外面ともにナデ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。27・28は軽石製品である。29～31は土玉である。29は約25%欠損しており，幅2.9cm，高さ3.0cmで，径0.5～0.8cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は1～2㎜の白色の砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。30はほぼ完形で，幅3.9cm，高さ2.5cm，重さ16ｇで，径0.8cmの穴が開けられている。火熱を受け，表面に剥離がみられる。色調は黄褐色で，胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。31は完形で，幅2.6cm，高さ2.2cm，重さ12ｇで，径0.6cmの穴が開けられている。色調は黄褐色で，胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。32は滑石製の勾玉である。長さ1.7cm，最大の厚さ0.4cm，重さ1.02gで，径0.3～0.35cmの穴が開けられている。色調は灰緑色である。33は刀子で，先端部が欠けたものを再利用しているものと思われる。遺存長6.6cm，刃部の幅1.5cm，厚さ0.25cmである。

048号竪穴住居跡（第85図，図版70，土器観察表222頁，石製品観察表198頁）

1～3は器台である。いずれも器受部と台部との間に穴が開けられている。また，台部の3か所に透かし穴が開けられている。1は器受部内面と台部内外面の一部にススの付着がみられる。器受部口唇部はナデ，器受部内外面はヘラナデ，台部内外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は器受部口唇部がナデ，器受部内外面はヘラナデ，台部外面はハケの後，ヘラミガキで，台部内面はハケの後，上部のみヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。3は器受部内面と台部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。台部内面はヘラナデ調整が行われているが，ハケの跡が残る。内外面ともにススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。4～11は甕である。口縁部内外面はナデ，胴部内面はヘラナデ，胴部外面はハケ調整が行われている。胴部外面は火熱を受け，器表面が変色している部分がみられる。胎土は長石粒，石英粒と少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。5は折り返し口縁で，粘土板を接合した跡が残る。頸部外面にも粘土板を貼り付け，指頭によるオサエの跡が明瞭に残っている。口縁部内面はハケ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は一部折り返し口縁状で，頸部外面に稜を作る。口唇部内外面はナデ，口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部内外面はナデ調整が行われている。口唇部にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7～11は底部である。7は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は長石粒，乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は内外面ともにナデ調整が行われ，胴部外面の下端部のみヘラケズリ調整が行われている。胎土は少量の赤色のスコリアと多量の長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。9は胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10・11は胴部外面はヘラナデ，胴部内面はナデ調整が行われている。いずれも胴部内面にススの付着がみられる。10は胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11は胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。12は軽石製品である。

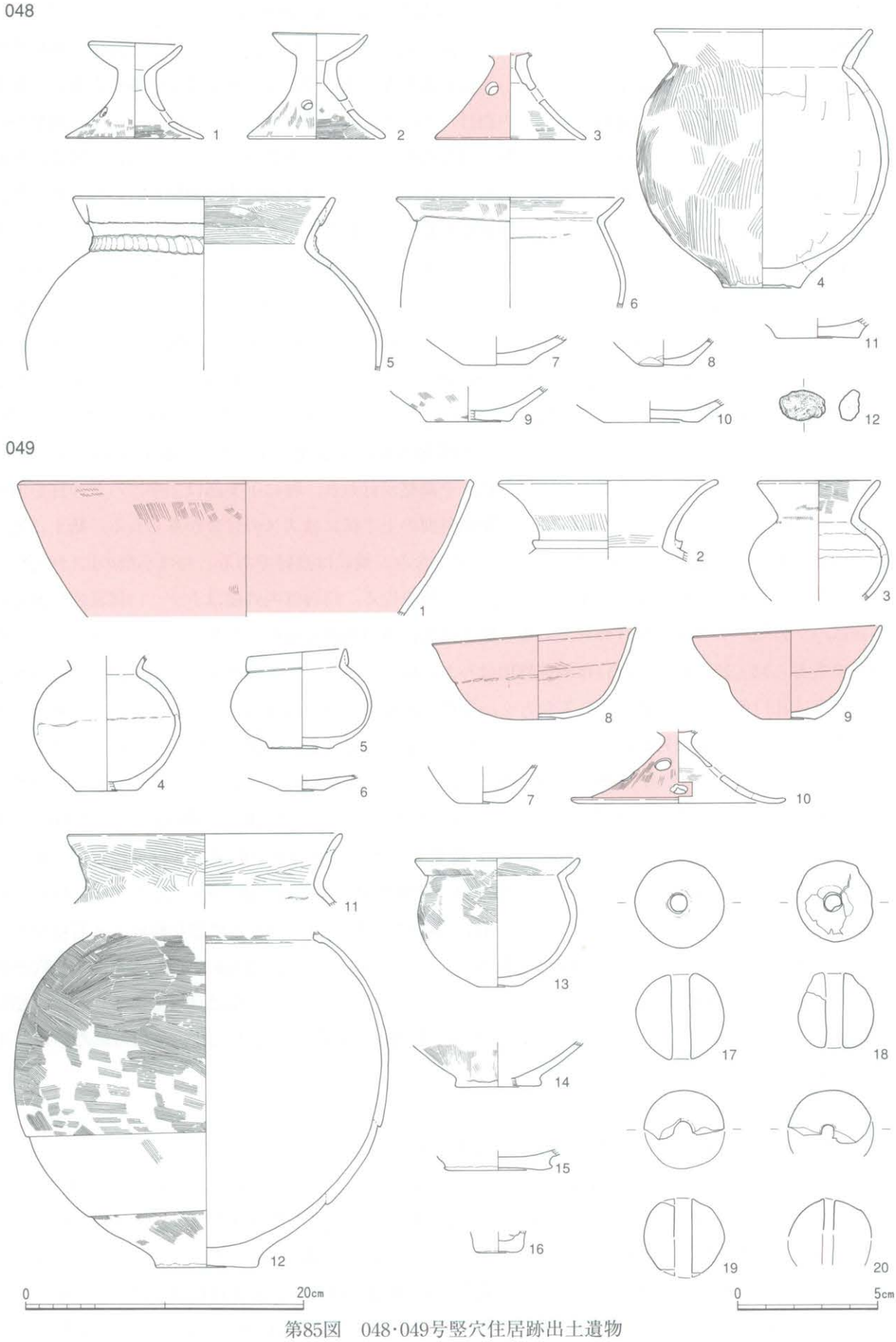
049号竪穴住居跡（第85図，図版71・78，土器観察表222頁）

1～7は壷である。1・2は素口縁である。1は口唇部端部に面を作り出している。口唇部内外面はナデ，口縁部内外面はヘラミガキ調整が行われているが，口縁部外面には一部ハケの跡が残る。遺存している部分はすべて赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は頸部に断面三角形の隆帯を貼り付けている。口唇部内外面はナデ，口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，乳白色の微細な砂粒と1～3㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3・4・6・7は小型の壷である。3は口唇部内外面はナデ，口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胴部内面には輪積み痕がみられる。胎土は長石粒や赤色のスコリアなどの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。6は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と若干の長石粒を含み，焼成は良好である。4は胴部内外面の中位に輪積み痕がみられる。頸部内外面はナデ，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～3㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良

好である。5は広口壷で，折り返し口縁である。口縁部内外面と胴部内面はナデ，胴部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。外面は火熱を受け，器表面が荒れている。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良くない。8・9は小型坩である。8は底部が丸く窪んでいる。頸部外面の輪積み痕の一部が稜として残っている。口唇部内外面はナデ，内面はハケの後，ヘラミガキで，外面はヘラミガキ調整が行われ，底部外面を除いて，赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。9はわずかに上げ底となっている。外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われ，底部外面を除いて，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～2㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は高杯である。脚部の下段に2か所，中段に2か所，上段に1か所の透かし穴が開けられている。杯部内外面はナデ，脚部外面はハケの後，ヘラミガキで，脚部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。杯部内外面と脚部外面は赤彩されている。胎土は長石粒，乳白色の微細な砂粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。11～15は甕である。11は口唇部内外面はナデ，口縁部内外面と胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。12は胴部外面の下半部に2か所輪積み痕による段がみられる。胴部外面はハケの後，中位付近はナデで，下半部はヘラナデ，下端部はナデ調整が行われ，特に下半部は丁寧にハケの跡を消している。胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面の上半部にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，1.5㎜前後の砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。13は小型の広口の甕で，口縁部に器壁が外側に膨れたように厚くなり，頸部に稜を作る。口唇部内外面はナデ，口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。14・15は底部で，14は胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。15は内外面ともにナデ調整が行われ，底部外面には木葉痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。16はミニチュアである。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。17～20は土玉である。17は完形で，幅3.2cm，高さ3.0cm，重さ26ｇで，径0.7cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。18は上端部の一部が欠損している。幅2.9cm，高さ2.6cm，現状の重さ17ｇで，径0.65cmの穴が開けられている。色調は黒褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。19は約半分が欠損している。幅2.9cm，高さ2.8cmで，推定径0.6cmの穴が開けられている。色調は暗褐色で，胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。20は約25%が遺存している。遺存している最大幅は3.0cmである。色調は黒褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

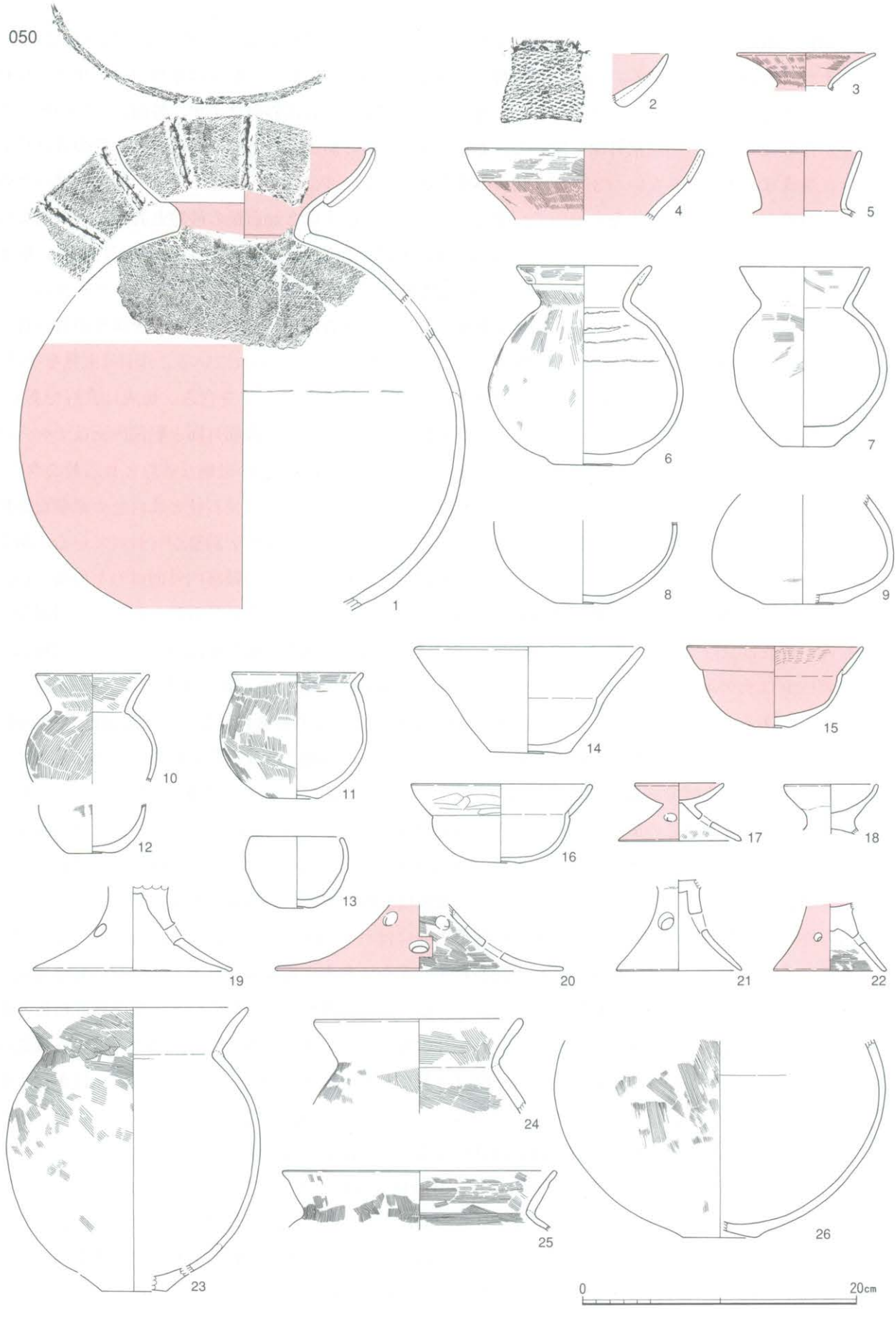
050号竪穴住居跡（第86・87図，図版71・78，土器観察表222・223頁）

1～11は壷である。1・2は二重口縁である。1は口唇部端部，口縁部外面と肩部外面に文様帯をもち，それぞれ網目状撚糸文が施されている。口縁部文様帯は網目状撚糸文が施された後に，棒状浮文が貼り付けられており，9本が遺存し，推定で12本あったものと思われる。胴部内面はナデ，そのほかは文様帯以外はすべてヘラミガキ調整が行われている。口縁部外面，胴部内面と外面の文様帯以外はすべて赤彩されている。胴部中位以下は接合しないが，同一個体と思われる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒，1～



第85図　048·049号竪穴住居跡出土遺物

3㎜の砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は口縁部外面に網目状撚糸文が施されている。内面はナデ調整が行われている。口縁部文様帯を除いて，赤彩されている。胎土は赤色のスコリアと長石粒を含み，焼成は良好である。4は折り返し口縁である。内面と口唇部外面はナデ，外面はハケの後，ナデ調整が行われている。口縁部外面を除いて，赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成はあまり良くない。3・5～10は小型の壷である。3は胴部内面はナデ，そのほかはハケの後，ナデ調整が行われ，胴部内面を除いて，赤彩されている。胎土は2㎜前後の砂粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。5は内面と口唇部外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われ，胴部内面を除いて，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6は折り返し口縁で，口縁部外面に粘土板の接合痕が残る。内面はナデ調整が行われているが，肩部には輪積み痕が残っている。外面はハケの後，ナデ調整が行われている。外面は火熱を受け，器表面が荒れている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は口唇部端部が欠損した後に，欠損部を擦って疑似口縁にしている。口縁部外面と胴部内面はナデ，口縁部内面と胴部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。8は内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を多く含み，焼成は良好である。9は胴部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は口縁部内外面はハケの後，口唇部のみナデで，胴部外面はハケ，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11は広口の壷で，上げ底である。口縁部内面と胴部外面はハケ，口縁部外面と胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12・13は鉢である。12は13と同じ器形になるものと思われる。12は外面はハケの後，ヘラミガキで，内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。13は口縁部外面はナデ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は1～3㎜の砂粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。14～16は小型坩である。14は底部が比較的広く，平底である。体部内面と底部以外の面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は1㎜前後の赤色のスコリアと長石粒を含み，焼成は良好である。15は底部が丸く窪んでいる。内外面ともにヘラミガキ調整が行われているが，口縁部内面にはハケの跡が残る。底部外面も含め，すべて赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。16は頸部外面に窪みを作り出している。口縁部内面はナデ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。17・18は器台で，いずれも器受部と台部との間に穴は開けられていない。17は台部の3か所に透かし穴が開けられている。台部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われているが，台部内面にはハケの跡が残っている。台部内面を除いて，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。18は器受部外面はナデ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。19～22は高杯である。19は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。脚部外面はヘラナデ，内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。20は脚部に2段にわたって透かし穴が開けられている。合計で3か所のみ遺存しているが，推定で各4か所，合計8か所に透かし穴が開けられていたものと思われる。外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面はハ

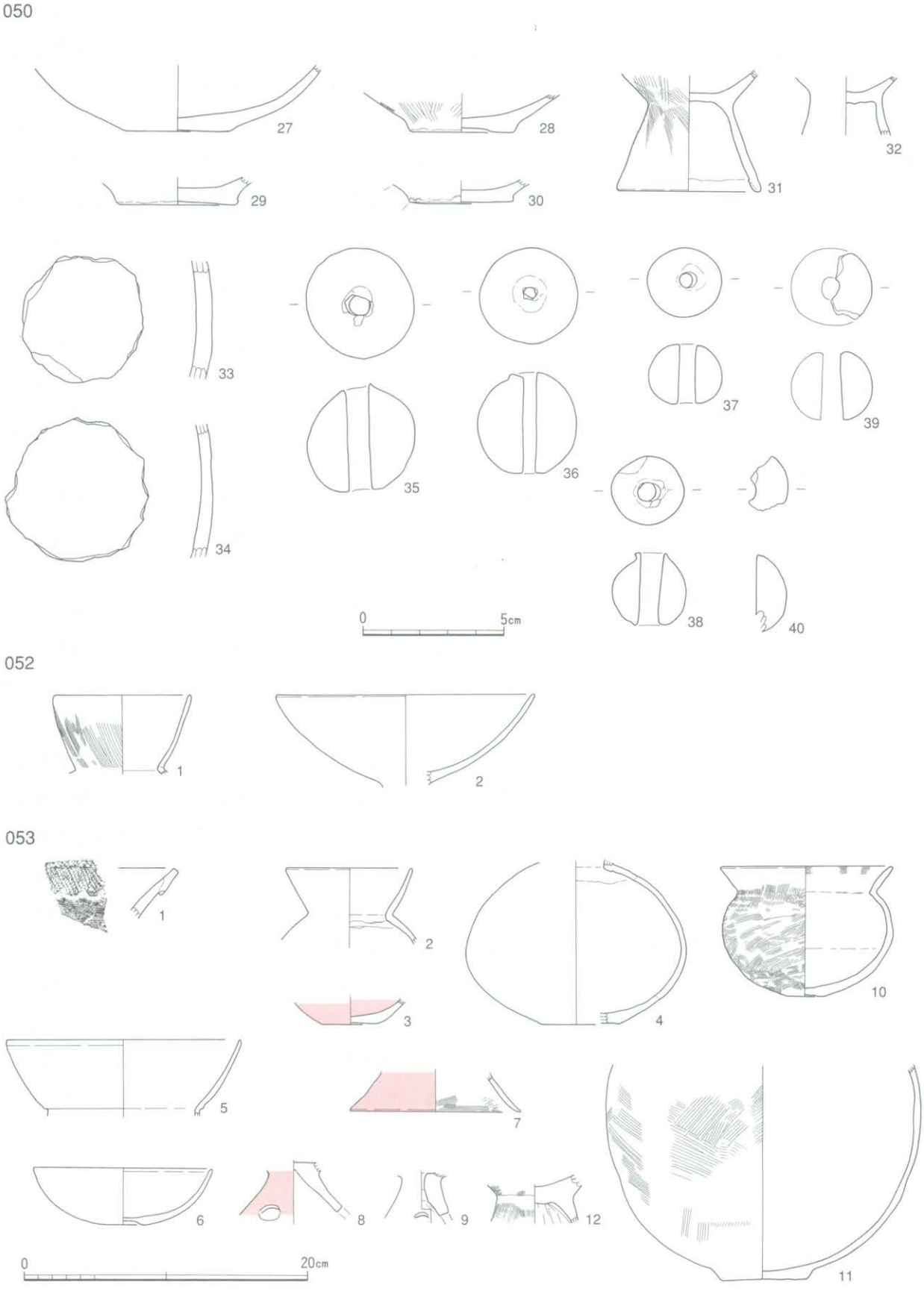


第86図　050号竪穴住居跡出土遺物

ケの後，裾部のみナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。21は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。脚部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われているが，杯部との境付近にはハケの跡が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。22は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。杯部内面と脚部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。脚部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。23～30は甕である。23の底部は接合しないが，同一個体と思われる。内面はナデ，口縁部外面はハケの後，ナデで，胴部外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。外面の胴部中位と頸部にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。24・25はいずれも内外面はハケの後，ナデ調整が行われている。24は口縁部外面にススの付着がみられる。胎土は1～3㎜の赤色スコリア，乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。25は胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。26は上げ底である。胴部外面はハケの後，ヘラナデで，内面はナデ調整が行われている。胴部外面にススの付着がみられる。胎土は2㎜前後の白色の砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。27は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。28は胴部外面はハケ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。29は胴部内外面ともにヘラナデ調整が行われている。底部外面には木葉痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。30は胴部外面はヘラナデ，内面はナデ調整が行われている。底部外面には木葉痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。31・32は台付甕である。31は台部の裾端部を内側に折り込んでいる。外面はハケの後，端部のみナデで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。32は胴部内面はヘラナデ，そのほかはナデ調整が行われている。胴部外面にススの付着がみられる。胎土は2.5㎜前後の白色の砂粒，乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。33・34は土器片錘である。いずれも甕の胴部破片を再利用している。いずれも色調は暗褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。35～40は土玉である。35～38は完形である。35は幅3.8cm，高さ3.7cm，重さ50ｇで，径0.9cmの穴が開けられている。色調は暗褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。36は幅3.45cm，高さ3.5cm，重さ43ｇで，径0.5cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。37は幅2.6cm，高さ2.1cm，重さ12ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。38は幅2.6cm，高さ2.6cm，重さ12ｇで，径0.8cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は長石粒と乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。39は約30%が遺存している。推定幅2.8cm，高さ2.3cmである。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。40は約20%が遺存している。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。

052号竪穴住居跡（第87図，土器観察表223頁）

1は素口縁の小型の壷である。内外面ともにハケの後，口唇部内外面にナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を多く含み，焼成は良好である。2は高杯である。口唇部内外面はナデ，



第87図　050・052・053号竪穴住居跡出土遺物

そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

053号竪穴住居跡（第87図，図版71，土器観察表223頁）

1～4は壷である。1は折り返し口縁で，口縁部下端部に指頭による押捺が行われた後に，口唇部端部と口縁部外面に縄文が施されている。文様帯以外はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は素口縁である。内面はヘラミガキ，外面はヘラナデ，口唇部内外面はナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。3は小型の壷の底部である。すべてヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面は器表面の摩耗が著しい。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。4は胴部外面はハケの後，ヘラミガキで，内面の肩部は指頭によるオサエ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒，長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は小型坩である。口縁部と体部との境に段を作り出している。口唇部内外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は砂粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6は鉢で，底部は円形に窪んでいる。すべてナデ調整が行われている。内外面の器表面は火熱を受け，変色している部分がみられる。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。7・8は高杯である。7は裾部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。8は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。脚部外面と杯部内面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。脚部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成はあまり良くない。9は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の4か所に透かし穴が開けられている。台部外面と器受部内面はヘラミガキ，脚部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。10・11は甕である。10は小型の甕で，最大径が口縁部にあり，底部がわずかに窪んでいる。口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒，石英粒，長石粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。11は胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。12は台付甕である。外面はハケの後，ナデで，台部内面はヘラナデ，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は1.5～2㎜の乳白色の砂粒を含み，焼成は良好である。

054号竪穴住居跡（第88図，図版71・78，土器観察表223・224頁）

1～5は壷である。1・2は折り返し口縁で，1は口縁部下端部に指頭による押捺が行われた後に，外面に縄文が施されている。文様帯以外はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。2は外面はハケの後，ナデで，口唇部内外面はナデ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3・4は素口縁である。3は口縁部外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われ，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は口縁部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかみ含み，焼成は良好である。5は底部で，上げ底である。外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面はナデ調整が行われている。内外面ともに器表面の剥離が著しい。胎土は乳白色の微細な砂

粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。6・7は小型坩で，いずれも底部が丸く窪んでいる。6は内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，底部外面も含めてすべて赤彩されている。口縁部内面と体部外面にはハケの跡が残っている。外面の器表面にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。7は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，1～2.5㎜の長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は鉢である。体部外面はハケの後，ナデで，口縁部内外面と底部外面はナデ，体部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。9は器台である。器受部内面と口縁部内外面はナデ，器受部外面はヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10・11は高杯である。脚部は杯部との接合面から欠損している。口縁部内外面はナデ，体部内外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。11は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。杯部内面と脚部外面はヘラミガキ，脚部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12～16は甕である。12は口唇部端部にハケ状の工具により窪みを作り出している。外面はハケの後，ヘラナデで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と0.5～2㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。13は口唇部内外面，胴部内面と底部外面はナデ，口縁部内外面，胴部外面と底部内面はハケ調整が行われている。外面の口縁部から胴部下半部にかけての器表面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。14は内外面ともにナデ調整が行われている。外面の口縁部から胴部中位にかけての器表面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。15は胴部内外面ともにハケの後，ヘラナデで，底部外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。16は内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。17・18は土玉である。17は完形で，幅3.1cm，高さ3.4cm，重さ31ｇで，径0.7cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。18は約50%が遺存している。幅3.25cm，遺存高3cmで，径0.8cmの穴が開けられている。色調は暗褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。

055号竪穴住居跡（第88・89図，図版72・78，土器観察表224頁，石製品観察表198頁）

1～7は壷である。1は折り返し口縁である。頸部内面と外面はハケで，口縁部内外面を中心にナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と1～3㎜の長石粒を含み，焼成は良好である。2は有段口縁である。内外面ともにヘラミガキ調整が行われている。頸部内面は器表面の剥離が著しい。胎土は0.5～3㎜の長石粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3～7は小型の壷である。3は口縁部内外面と胴部内面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われ，底部外面を除いてすべて赤彩されている。全体的に器表面の剥離がみられ，底部外面は使用によるものと思われる器表面の荒れがみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は内外面ともにすべてナデ調整が行われているが，器表面の摩滅が著しい。外面の器表面は火熱を受け，変色している部分がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は口縁部内外面と頸部内面はナデ，頸部外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂

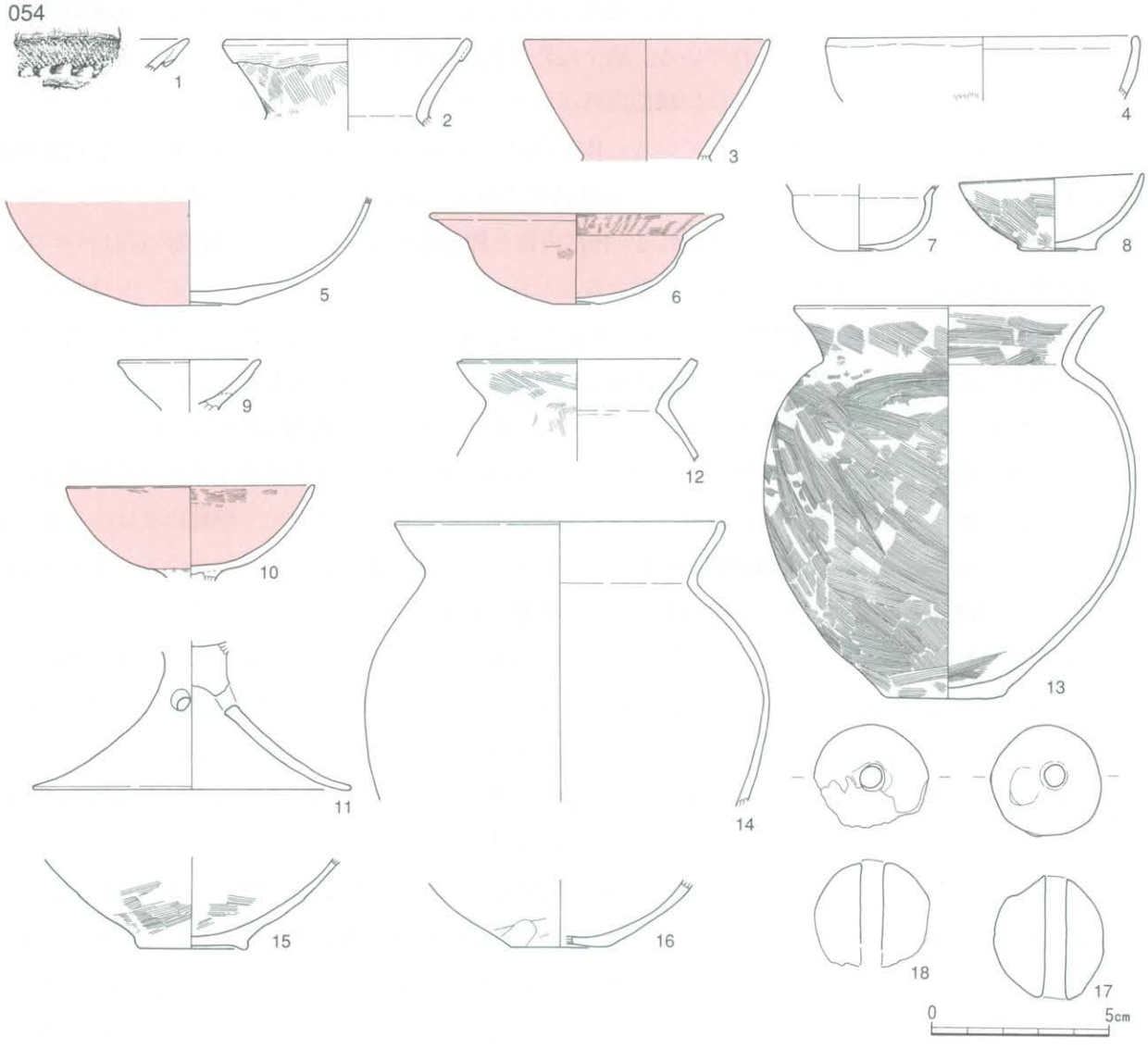
粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。6は体部内面の下半部と底部外面はナデ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は口縁部内外面はハケの後，ナデで，体部外面はハケの後，ヘラナデで，そのほかはヘラナデ調整が行われている。体部内面には輪積み痕が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。8は高杯である。脚部の2か所に透かし穴が残っており，推定で3か所に開けられていたものと思われる。杯部内面と脚部外面はヘラミガキ，脚部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。9は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部には2段にわたり，上段2か所，下段4か所の合計6か所に透かし穴が開けられている。器受部内面と外面はすべてヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。台部内面はハケの後，軽くナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。10～12は甕である。10は口縁部から胴部上位と下半部から底部は接合しないが，同一個体と考えられる。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～3㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。11は口縁部内外面はハケで，口唇部のみナデ調整が行われている。胴部外面はハケ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12は胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面は上位がヘラナデ，下半部はナデ調整が行われている。胴部外面の中位の器表面にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。13は台付甕である。胴部は接合部分から欠損している。外面はハケ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。14はミニチュアである。折り返し口縁で，外面に指頭によるオサエの跡が残っている。内面はヘラナデ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。15は軽石製品である。16は土玉である。完形で，幅3.4cm，高さ3cm，重さ33gで，径0.8～1.2cmの穴が開けられている。色調は暗褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

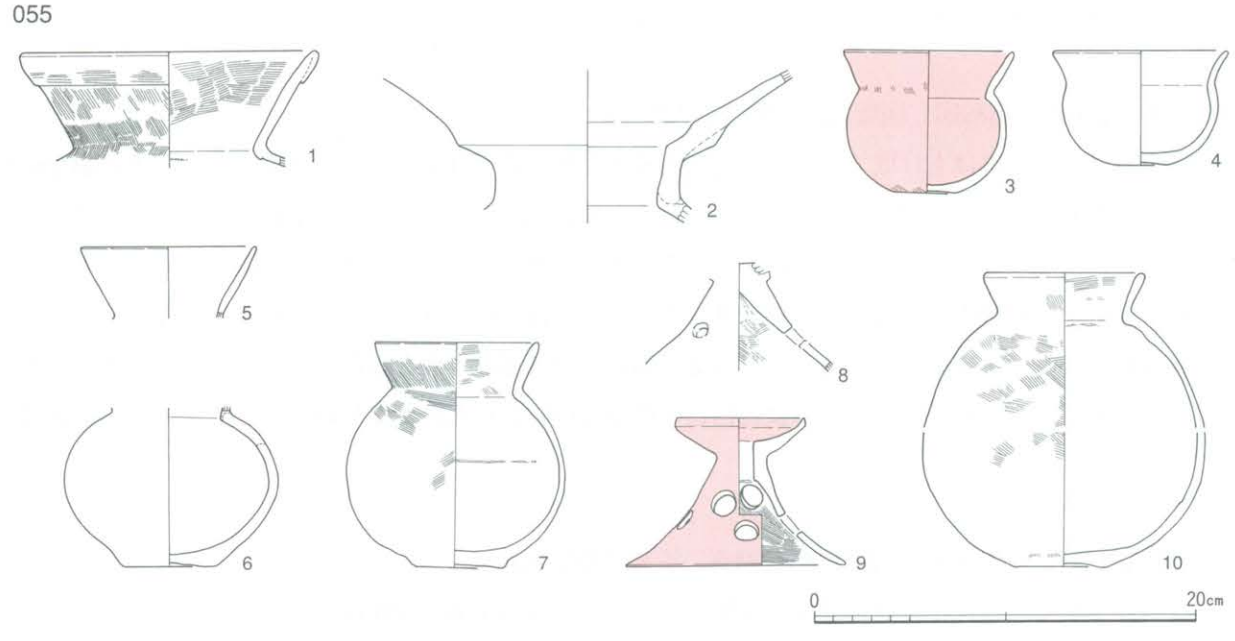
056号竪穴住居跡（第89図，図版72，土器観察表224頁）

1は小型坩で，底部は上げ底である。口縁部内外面と体部内面はナデ，体部外面はヘラミガキ調整が行われ，底部外面を除きすべて赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と1㎜前後の赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。2は壷である。外面と頸部内面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われているが，頸部内面にはハケの跡が残っている。外面は赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3は甕である。口縁部内外面と胴部外面はハケ，胴部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

057号竪穴住居跡（第89図，土器観察表224頁，石製品観察表198頁）

1は高杯である。脚部は接合部分から欠損している。口唇部端部と内面はナデ，そのほかはすべてヘラミガキ調整が行われ，すべて赤彩されている。杯部外面にはハケの跡がわずかに残っている。内面の器表



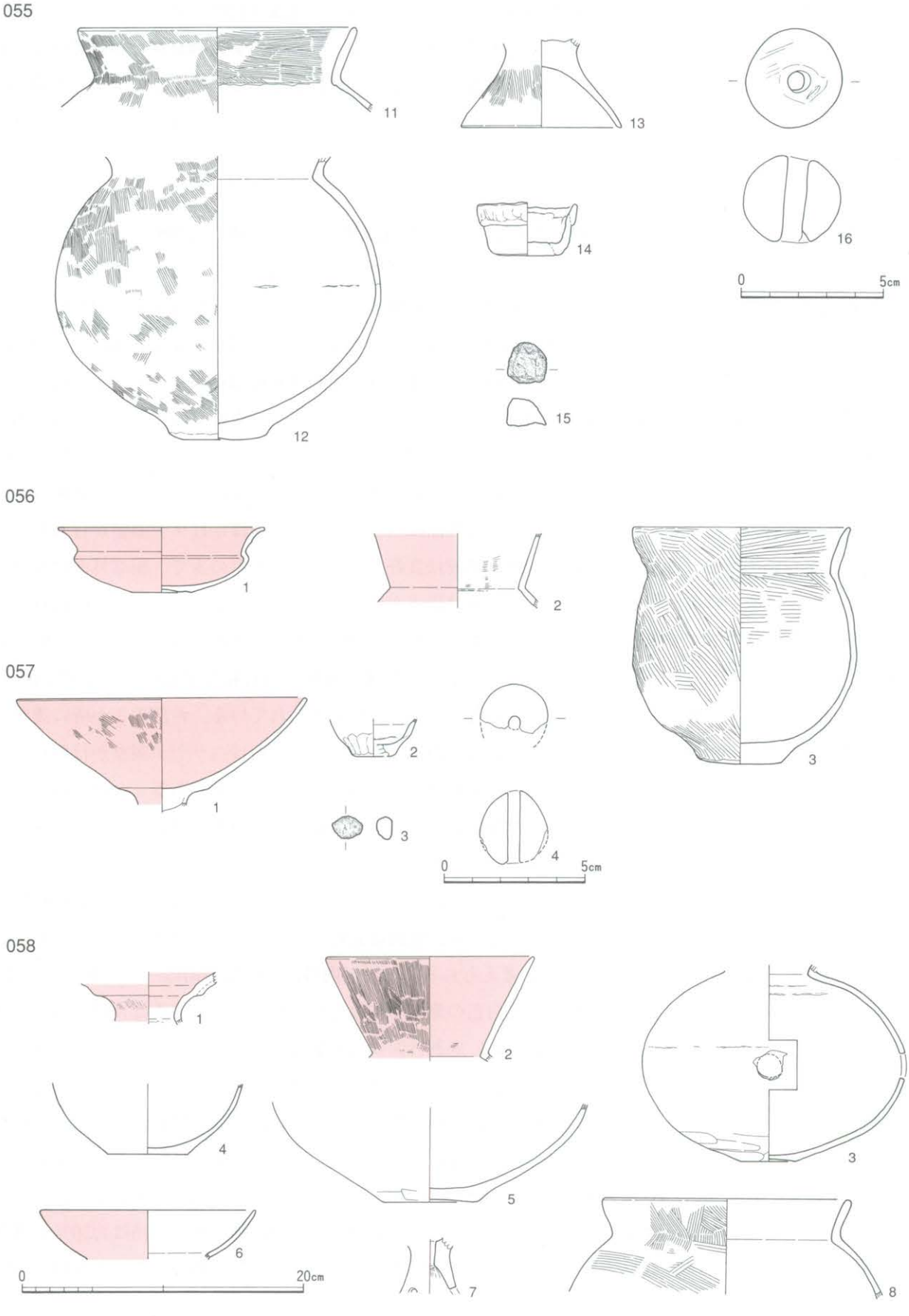


第88図　054・055号竪穴住居跡出土遺物

面は剝落が著しい。胎土は乳白色の微細な砂粒と白色の砂粒を含み，焼成は良好である。2はミニチュアである。体部下端部の外面は指頭によるオサエの跡がみられるが，全体的にナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3は軽石製品である。4は土玉で，約50%が遺存している。幅2.4cm，高さ2.6cmで，径0.4～0.6cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

058号竪穴住居跡（第89・90図，図版72・78・79，土器観察表224頁，石製品観察表198頁）

1～5は壷である。1は有段口縁で，内外面ともにヘラミガキ調整が行われているが，頸部外面にはハケの跡が残っている。外面と内面の頸部の中位付近まで赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。2は素口縁である。口縁部外面はハケの後，軽いナデで，そのほかはナデ調整が行われている。口縁部内外面と胴部外面は赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。3は胴部中位に径1.7cm前後の穴が焼成前に開けられている。胴部外面と頸部内面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胴部外面には輪積み痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。4は胴部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。5は大型の壷で，胴部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われているが，内面は器表面の剝離が著しい。胎土は1～3㎜の長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6は小型坩である。外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われ，外面は赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部の3か所に透かし穴が開けられている。台部外面はヘラミガキ，器受部内面はナデ，台部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。8～10は甕である。8は口唇部内外面と胴部内面はナデ，外面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。9は小型の甕で，口縁部は折り返し口縁状になっている。口縁部内面と胴部外面はハケの後，軽いナデで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は口縁部から胴部上半と胴部下半から底部は接合しないが，同一個体と考えられる。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。11は北関東系の甕である。胴部外面に縄文が施され，底部外面には木葉痕がみられる。胎土は1～2㎜の長石粒を多く含み，焼成は良好である。12は台付甕である。台部は接合面から欠損している。胴部外面はハケ，胴部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胴部内面の器表面にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。13は軽石製品である。14は土玉である。完形で，幅2.35cm，高さ3.6cm，重さ13ｇで，径0.5cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。15・16は碧玉製の管玉である。15は約30%が遺存している。長さ3.7cmである。16は完形で，厚さ0.5cm，長さ2.2cm，重さ0.79gで，径0.2cmの穴が両側から開けられている。



第89図　055・056・057・058号竪穴住居跡出土遺物

059号竪穴住居跡（第90図，石製品観察表198頁）

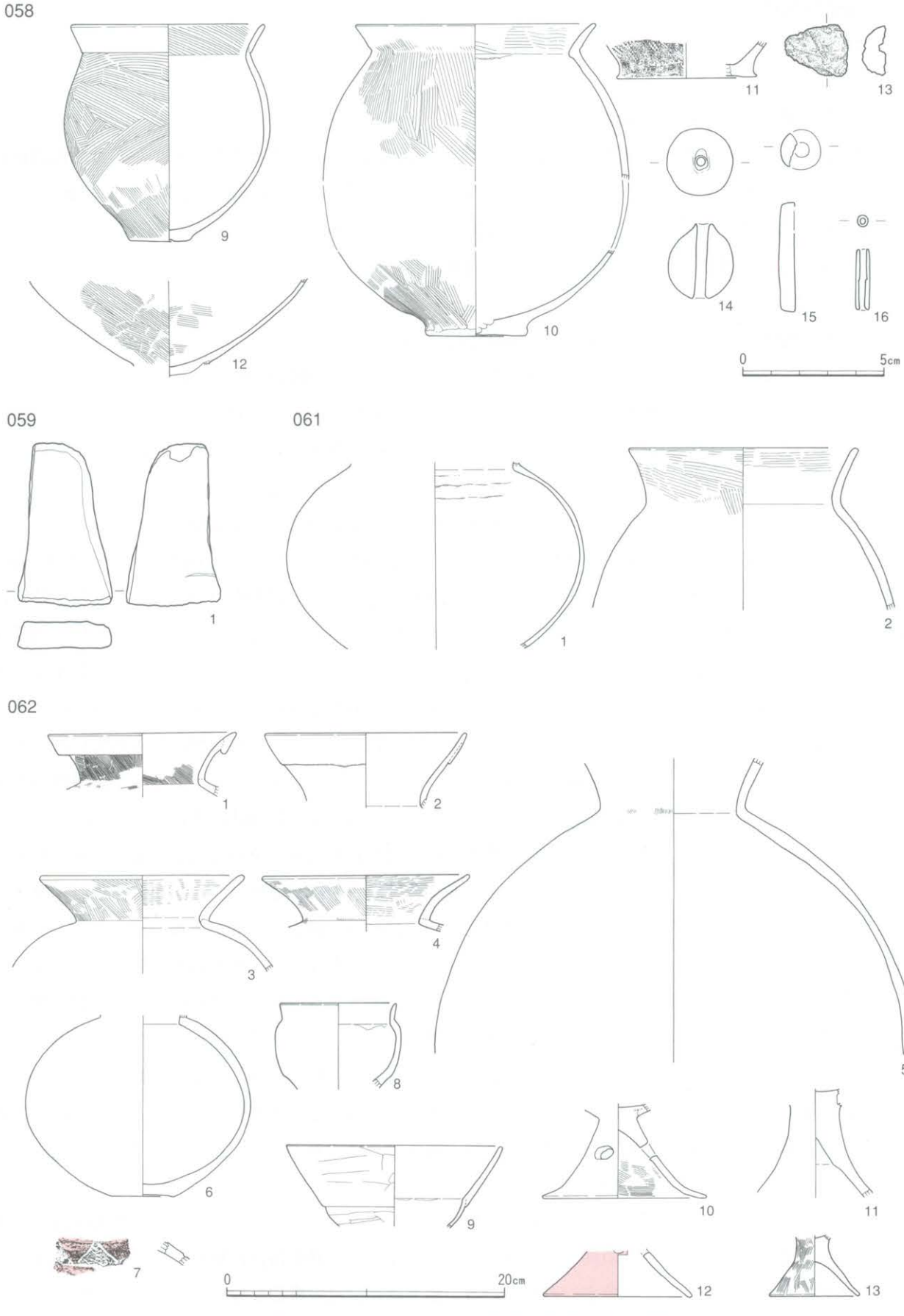
1は砂岩製の砥石である。

061号竪穴住居跡（第90図，土器観察表225頁）

1は壷である。頸部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われている。肩部内面には輪積み痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。2は甕である。口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部外面は粗いヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

062号竪穴住居跡（第90・91図，図版72，土器観察表225頁）

1～8は壷である。1・2は折り返し口縁である。口縁部内外面と胴部内面はナデ，頸部内外面はハケ，胴部外面はヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3・4は素口縁である。3は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われているが，口縁部外面にはハケの跡が残っている。胴部内面はナデ調整が行われてる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は口縁部内外面はハケの後，ナデ調整が行われているが，ハケの跡が残っている。胴部内外面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒とわずかに赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は大型の壷で，頸部内外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われているが，頸部外面にハケの跡が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒と1㎜前後の長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。6は胴部外面はヘラミガキ，そのほかはすべてナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は肩部の文様帯で，ヘラ状工具による平行沈線と山形文を描き，一つおきにその内部に網目状撚糸文が施されている。無文部分は赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。8は短頸の壷である。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。9は小型坩である。外面の口縁部と体部との境に段を作り，二重口縁のようになっている。口唇部内外面と体部内面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。10・11は高杯である。10は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。杯部内面と脚部外面はヘラミガキ，そのほかはハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～4㎜の砂礫を含み，焼成は良好である。11は杯部が接合面から欠損している。脚部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12・13は器台である。12は台部の1か所に透かし穴が開けられていた跡が残っている。外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われ，外面は赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。13は小型で，器受部と台部との間に穴が開けられていないが，異形器台に類似している。外面はハケの後，ナデで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。14・15は甕である。14は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴



第90図　058・059・061・062号竪穴住居跡出土遺物

部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。15は口唇部内外面はナデ，口縁部内外面はハケ，胴部外面はハケの後，ナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。16・17は台付甕である。16はすべてナデ調整が行われているが，肩部内外面と胴部下端部の外面には輪積み痕が残っている。胴部外面の中位付近にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。17は台部で，外面はハケの後，ナデで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。

064号竪穴住居跡（第91図，土器観察表225頁）

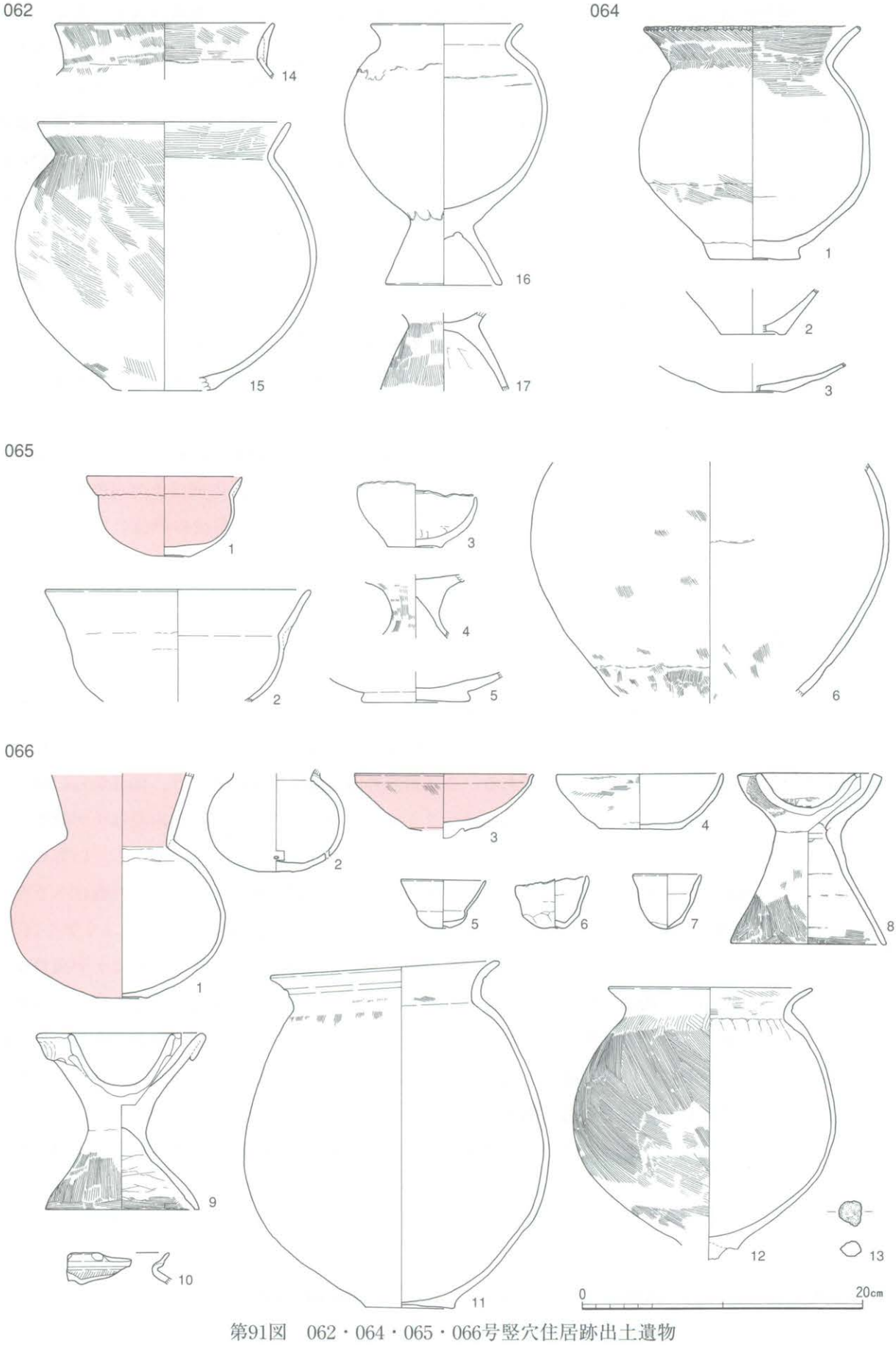
1・2は甕である。1は口唇部端部にハケ状工具による刻みが施されている。すべてハケの後，ナデ調整が行われているが，口縁部内外面と胴部外面中位にはハケの跡が残っている。胴部外面の下半部には輪積み痕がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は底部が上げ底である。すべてナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と多量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3は壷である。外面はヘラミガキ，内面はナデ調整が行われている。内面の器表面は摩滅が著しい。胎土は長石粒，2㎜前後の砂礫と1.5㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

065号竪穴住居跡（第91図，図版72，土器観察表225頁）

1・2は小型坩である。1は折り返し口縁状である。体部外面はヘラミガキ，そのほかはすべてナデ調整が行われている。口縁部内外面と体部外面は赤彩されている。内外面の器表面は火熱を受け，変色している部分がみられる。口縁部と体部外面の一部にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は頸部外面に粘土帯を貼り付け，体部から口縁部への屈曲を和らげている。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ，口唇部内外面と体部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3は鉢である。口唇部端部は水平ではなく，波打った状態である。口唇部端部と体部内面の下半部はヘラナデ，底部外面はヘラケズリ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は高杯である。脚部外面はハケの後，ナデで，脚部内面と杯部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は甕の底部である。胴部外面はヘラナデ，胴部内面はナデ，底部外面はヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを少量含み，焼成は良好である。6は台付甕である。胴部外面に輪積み痕を残している。胴部内外面ともにハケの後，ナデ調整が行われているが，下半部にはハケの跡が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

066号竪穴住居跡（第91図，図版72・73，土器観察表225頁，石製品観察表198頁）

1・2は壷である。頸部内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面と底

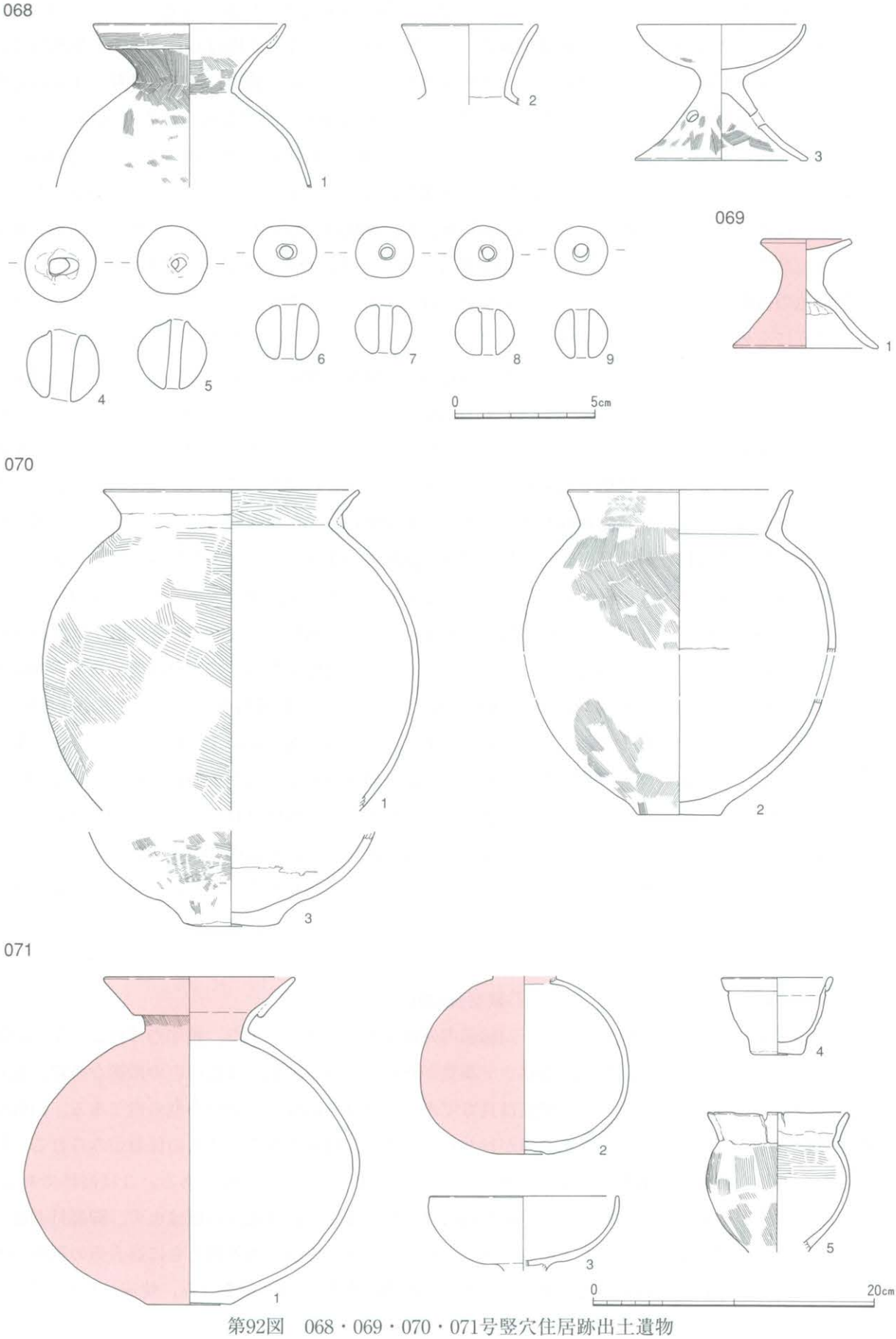


第91図　062・064・065・066号竪穴住居跡出土遺物

部外面はナデ調整が行われている。胎土は長石粒などの微細な砂粒と１～２㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。２は小型の壷で，胴部下端部には，焼成前に小さな穴が開けられている。胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はナデ，底部外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒，少量の赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。３は高杯である。脚部は接合面から欠損している。杯部内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。４は鉢である。口唇部内外面と底部外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と少量の長石粒を含み，焼成は良好である。５は小型坩である。底部は小さく丸く窪んでいる。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。６・７はミニチュアで，いずれも小型坩を模したようにも思われる。６は口唇部は水平ではなく波打っている。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。７は底部が尖っている。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。８・９は異形器台である。いずれも焼成前に，器受部の一側面が半円形に切り取られている。８は器受部と台部との間に穴が開けられている。内外面ともにハケの後，ヘラナデ調整が行われているが，部分的にハケの跡が残っている。外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と２㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。９は折り返し口縁である。口縁部外面は指頭によるオサエ，器受部内面はナデ，器受部外面はヘラナデ，台部外面はハケの後，ナデで，台部内面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と１～２㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10・11は甕である。10はＳ字状口縁で，胴部外面はハケ，そのほかはナデ調整が行われている。口唇部外面にススの付着がみられる。胎土は長石粒などの微細な砂粒を含み，焼成は良好である。11は口縁部外面に沈線状の窪みをもつ。胴部外面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われているが，頸部内外面にはハケの跡が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と１㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12は台付甕である。台部は接合部分から欠損している。口縁部外面と胴部内面はナデ，肩部内面は指頭によるオサエ，口縁部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。13は軽石製品である。

068号竪穴住居跡（第92図，図版73・78，土器観察表226頁）

１・２は壷である。１は二重口縁である。口縁部内外面はハケの後，ナデで，頸部内外面はハケ，胴部外面はハケの後，ヘラミガキで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と２㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。２は素口縁で，やや小型の壷である。口唇部内外面と内面はナデ，外面はヘラミガキ調整が行われている。口縁部内外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。３は高杯である。脚部の３か所に透かし穴が開けられている。杯部内面はヘラミガキ，口縁部内外面はナデ，脚部外面はハケの後，ヘラミガキで，脚部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。内外面ともに器表面の剥落が著しく，全体的にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。４～９は土玉で，４～８は完形である。４は幅2.55～2.7cm，高さ３cm，重さ15ｇで，径１cm前後の穴が開



第92図　068・069・070・071号竪穴住居跡出土遺物

けられている。色調は暗褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。５は幅2.5cm，高さ2.45cm，重さ12ｇで，径0.55cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。６は幅1.8～2.25cm，高さ1.9cm，重さ7ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。色調は暗褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。７は幅1.85cm，高さ1.7cm，重さ６ｇで，径0.5～0.6cmの穴が開けられている。色調は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。８は幅2.15cm，高さ1.65cm，重さ６ｇで，径0.6cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。９は一部欠損しているが，ほぼ完形である。幅1.8～1.9cm，高さ1.7cm，重さ５ｇで，径0.5～0.6cmの穴が開けられている。色調は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。

069号竪穴住居跡（第92図，土器観察表226頁）

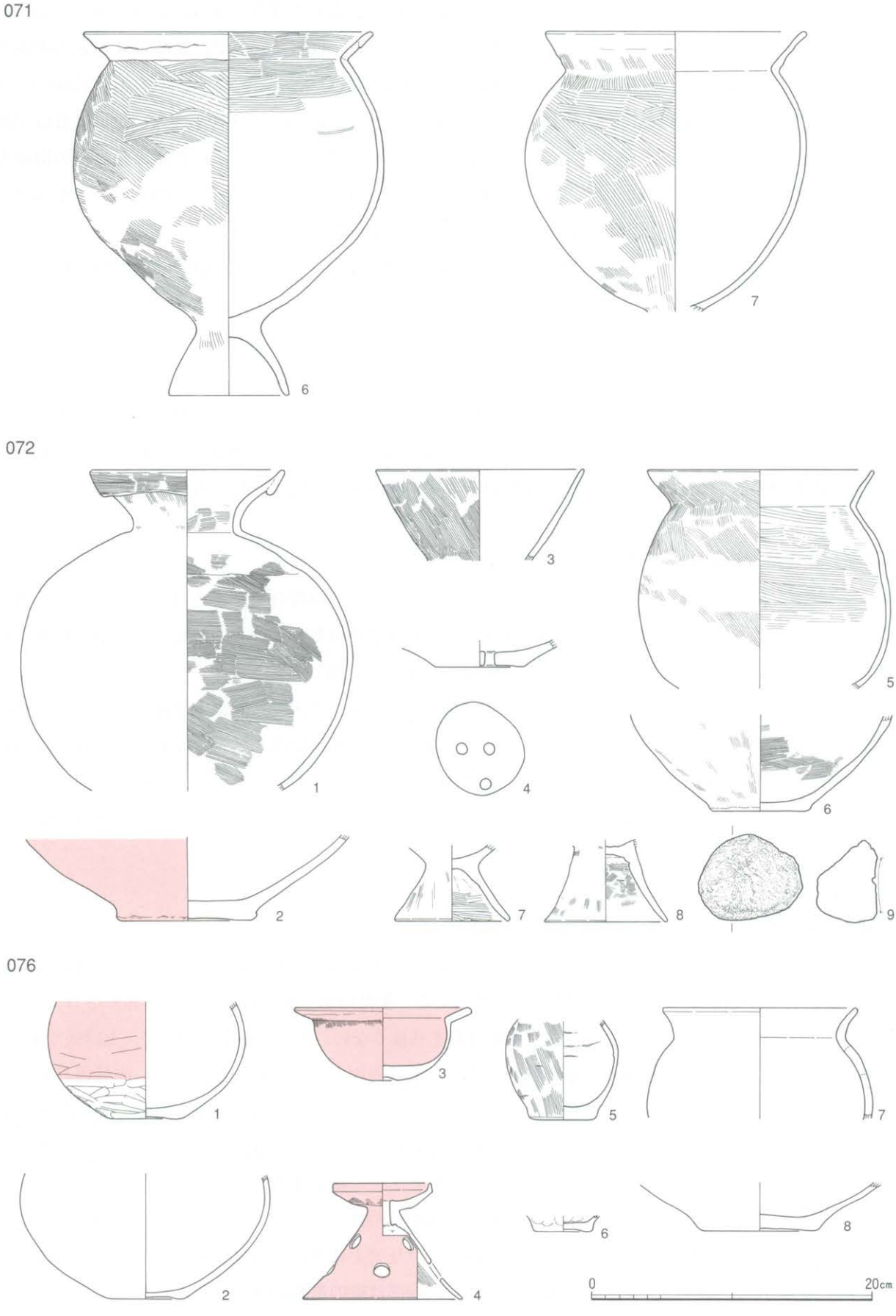
１は器台である。口唇部内外面はナデ，器受部内外面と台部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。台部内面は天井部は指頭によるオサエ，そのほかはハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と１㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

070号竪穴住居跡（第92図，土器観察表226頁）

１～３は甕である。１は頸部外面に粘土帯を貼り付けており，その接合痕がみられる。口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。２は口縁部から胴部上半部と胴部下半部から底部とは接合しないが，同一個体と考えられる。口縁部内外面と胴部外面はハケの後，ナデで，胴部上半部はヘラナデ調整が行われている。胴部下半部にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と３㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。３は胴部外面はハケの後，粗いヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と３㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

071号竪穴住居跡（第92・93図，図版73，土器観察表226頁）

１・２は壷である。１は二重口縁である。口唇部内外面，胴部内面と底部外面はナデ，頸部外面はハケの後，ナデで，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胴部内面と底部外面を除いて赤彩されている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成はあまり良くない。２はやや小型の壷で，上げ底である。内外面ともにヘラナデ調整が行われ，胴部内面を除き，底部外面も含め赤彩されている。内外面ともに器表面は著しく荒れている。胎土は石英粒，長石粒と白色針状物を含み，焼成は良好である。３は高杯である。脚部は接合面から欠損している。杯部内面と口縁部外面はナデ，体部外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と１～３㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。４は鉢で，口縁部は折り返し口縁状である。体部外面はヘラナデ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。５～７は台付甕である。５は小型で，ミニチュアとも考えられる。口縁部は縦の亀裂が数か所でみられる。口縁部内外面はナデ，胴部外面と胴部内面上半部はハケ，胴部内面下半部はハケの後，ナデ調整が行われている。胎



第93図　071・072・076号竪穴住居跡出土遺物

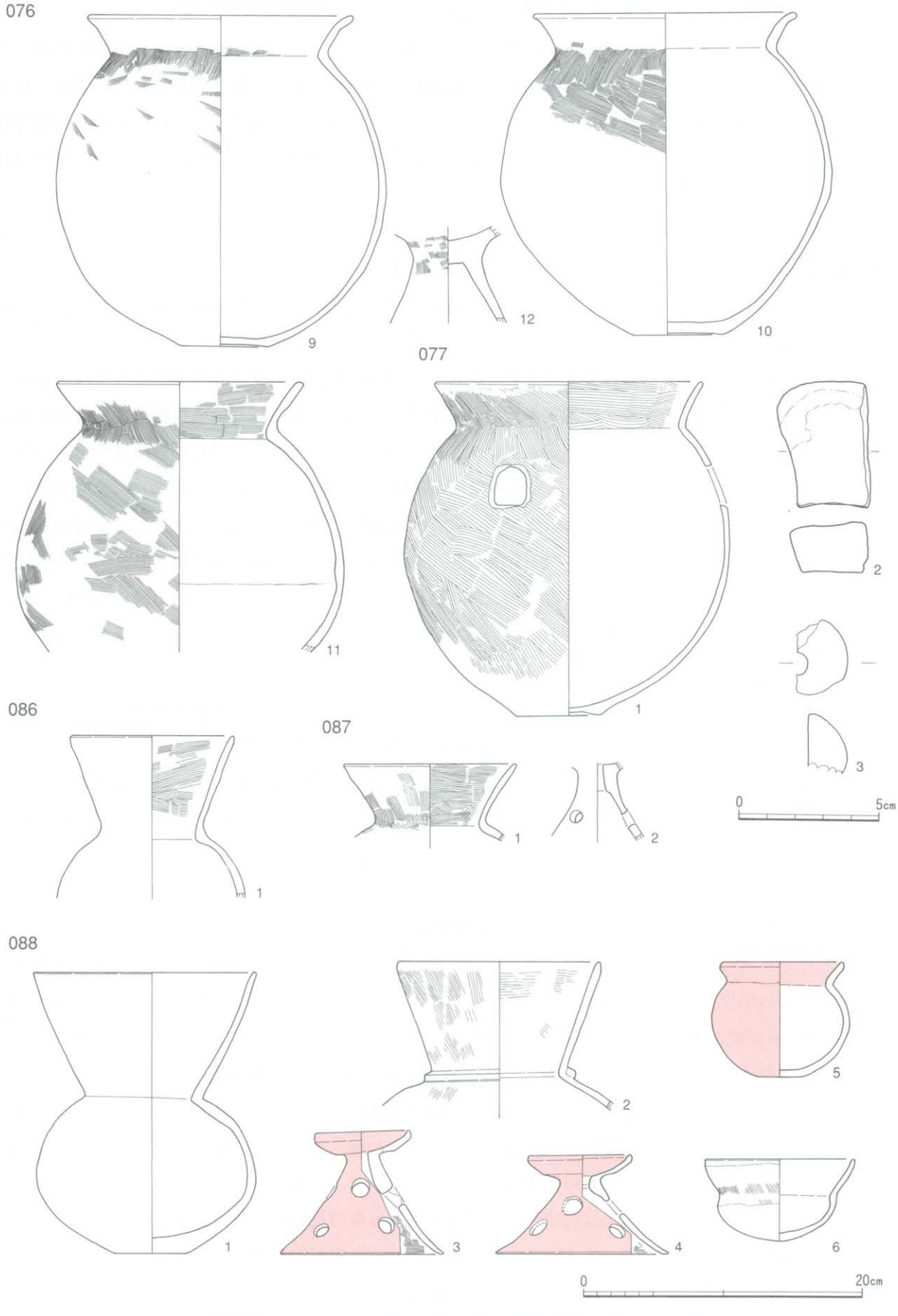
土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。6は口縁部外面に輪積み痕が残っている。口縁部外面はナデ，口縁部内面，胴部内面上半部と胴部外面はハケ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。口縁部内面にススの付着がみられる。胎土は長石粒，白色の微細な砂粒と白色針状物を含み，焼成は良好である。7は口縁部外面に輪積み痕が一部残っている。口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部外面はハケ，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。

072号竪穴住居跡（第93図，土器観察表226頁，石製品観察表198頁）

1～3は壷である。1は二重口縁である。口縁部外面と胴部内面はハケ，口縁部内面はヘラミガキ，胴部外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われている。胴部内面の肩部に輪積み痕が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。2は胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面と底部外面はナデ調整が行われているが，木葉痕が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3は素口縁である。口縁部内面と口唇部外面はナデ，口縁部外面はハケ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は甑である。本来は甕であったが，焼成後に外側から内側に向けて3か所の穴を開けている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5・6は甕である。5は口唇部内外面はナデ，口縁部外面と胴部外面はハケの後，ヘラナデで，口縁部内面はヘラナデ，胴部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胴部外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。6は胴部内外面はハケの後，ナデ調整が行われている。内外面の器表面は火熱を受け，変色している。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7・8は台付甕である。いずれも胴部内面はナデ，台部外面はハケの後，ナデで，台部内面はハケ調整が行われている。7は胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は外面の器表面は火熱を受け，変色している。胎土は乳白色の微細な砂粒と多量の長石粒を含み，焼成は良好である。9は軽石製品である。

076号竪穴住居跡（第93・94図，図版73・74，土器観察表226頁）

1・2・5・6は壷である。1は胴部内面はナデ，胴部外面はヘラケズリの後，やや粗いナデ調整が行われ，胴部外面の中位まで赤彩されている。胴部外面にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は胴部外面はヘラケズリの後，ヘラミガキで，胴部内面はナデ調整が行われている。胴部外面の器表面は火熱を受け，一部変色している。胴部内面にはススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5・6は小型の壷である。5は頸部から上は欠損しているが，断面が摩滅していることから，疑似口縁として再利用していたものと思われる。外面はハケ，内面はナデ調整が行われているが，内外面に輪積み痕が残っている。胎土は乳白色の微細な砂粒と多量の長石粒を含み，焼成は良好である。6はすべてナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3は小型坩である。底部は丸く小さく窪んでいる。体部内面はヘラミガキ，そのほかはナデ調整が行われているが，頸部外面にハケの跡が残っている。底部外面を除き，すべて赤彩されている。底部下半部から底部



第94図　076・077・086・087・088号竪穴住居跡出土遺物

を除き，ほぼ全体に火熱を受け，器表面が変色している。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。4は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部には上下二段のそれぞれ4か所の合計8か所に透かし穴が開けられ，交互に配置されている。器受部内外面と台部外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。台部内面はハケで，端部のみナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。7～11は甕である。7は口唇部内外面と胴部内面はナデ，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。8は胴部外面はヘラナデ，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1㎜前後の赤色のスコリアを少量含み，焼成は良好である。9は口縁部内外面はハケの後，ナデで，胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はナデ調整が行われているが，肩部外面にはハケの跡が残っている。胴部外面の中位付近にススに付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2～3㎜の砂礫を含み，焼成は良好である。10は口縁部内外面と胴部内面はナデ，胴部外面の上位はハケ，胴部外面の中位以下はヘラナデ調整が行われている。胴部外面の器表面は火熱を受け，一部変色している部分がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と3㎜前後の砂礫を含み，焼成は良好である。11は口唇部内外面はナデ，口縁部内外面と胴部外面はハケの後，粗いナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と3㎜前後の砂礫を含み，焼成は良好である。12は台付甕である。胴部内面はナデ，外面はハケの後，ヘラナデで，台部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

077号竪穴住居跡（第94図，図版74，土器観察表226頁）

1は甕である。胴部の上位に焼成後に穴が開けられている。口唇部内外面と胴部内面はナデ，口縁部内外面と胴部外面はハケ調整が行われている。外面と胴部内面の底部付近にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。2は流紋岩製の砥石である。3は土玉で，約25%が遺存している。推定で径0.8cmの穴が開けられていたものと思われる。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。

086号竪穴住居跡（第94図，土器観察表226頁）

1は素口縁の壷である。口唇部端部はヘラナデにより平坦面を作り出している。外面はヘラミガキ，口縁部内面はハケ，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は2～2.5㎜の砂礫を含み，焼成は良好である。

087号竪穴住居跡（第94図，土器観察表226頁）

1は素口縁の壷である。口縁部内外面はハケの後，外面のみやや粗いナデで，胴部内面はナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内面と台部外面はヘラミガキ，台部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

088号竪穴住居跡（第94図，土器観察表226・227頁）

1・2・5は壷である。いずれも素口縁である。1は口唇部内外面と内面はナデ，外面はヘラミガキ調整が行われている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。2は頸部外面に断面三角形の粘土帯を貼り付けている。口唇部内外面と胴部内面はナデ，そのほかはハケの後，ヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の砂礫を含み，焼成は良好である。5は広口の壷である。口縁部内外面と胴部内面はナデ，胴部外面はヘラミガキ調整が行われている。口縁部内外面から胴部外面は，底部外面も含め，赤彩されている。胴部内面の器表面は，円形の剥離がみられる。胎土は砂礫を含み，焼成は良好である。3・4は器台である。器形・調整等はいずれも同じである。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部には上下二段のそれぞれ4か所の合計8か所に透かし穴が開けられ，交互に配置されている。器受部内外面と台部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。器受部内面はハケ調整が行われている。胎土は砂礫を含み，焼成は良好である。6は小型坩で，底部はやや尖っている。内面はナデ，外面はハケの後，やや粗いヘラミガキ調整が行われている。胎土は砂礫と2～3㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

089号竪穴住居跡（第95図，図版74・78，土器観察表227頁）

1・2は壷で，いずれも素口縁である。1は口唇部端はナデ，口縁部内外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は小型の壷で，底部は上げ底である。内外面ともにヘラミガキ調整が行われているが，頸部外面にハケの跡が残っている。口縁部内外面と胴部外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3・4は小型坩である。3は口縁部内外面と胴部内外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と砂粒を含み，焼成は良好である。4は口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はハケ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と砂粒を含み，焼成は良好である。5は異形器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。外面はハケ，内面はヘラナデ調整が行われている。内外面ともに火熱を受け，器表面が灰褐色に変色している部分がみられる。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6～8は台付甕である。いずれも外面はハケ，内面はヘラナデ調整が行われ，内面の端部はヘラケズリによる面取りが行われている。7は外面の半分ほどは火熱を受け，器表面が変色している。胎土はいずれも長石粒，石英粒と砂粒を含み，焼成は良好である。9・10は土錘である。9は完形で，幅3.8cm，高さ3.95cm，重さ62.69ｇで，径0.9～1cmの穴が開けられている。色調は淡黄橙色で，胎土は石英粒，赤色のスコリアと砂粒を含み，焼成は良好である。10は約50%が遺存している。幅3.7cm，高さ4.3cmで，推定径1.2～1.5cmの穴が開けられている。色調は淡黄橙色で，胎土は長石粒，石英粒と砂粒を含み，焼成は良好である。11～14は粘土板である，丸めた粘土塊を平らに延ばしたような状態であり，表裏面に籾殻あるいは植物繊維の圧痕がみられる。図示したもののほかに，同様の破片が27点ある。いずれも色調は褐色で，胎土は長石粒と砂粒を含み，焼成は良好である。

091号竪穴住居跡（第95図，図版74・75，土器観察表227頁）

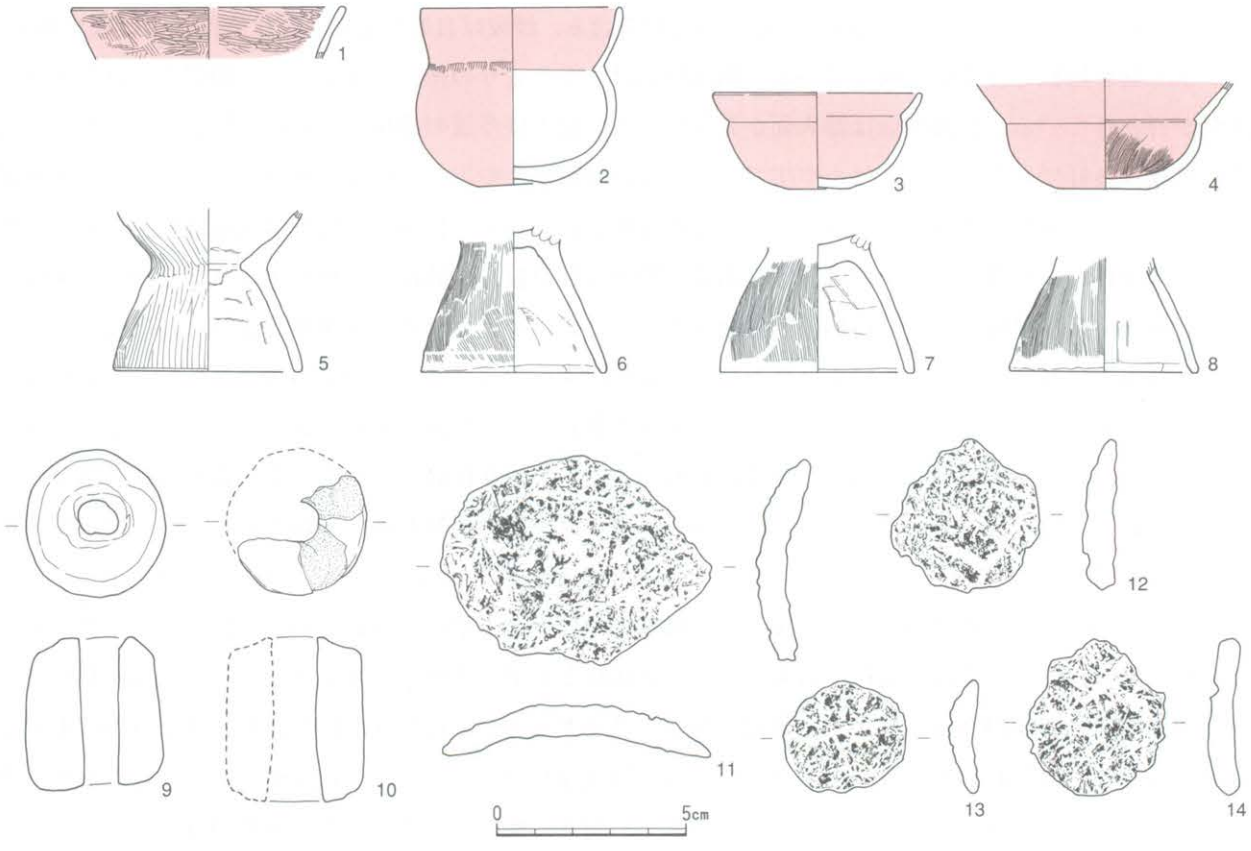
1～3は壷である。1は素口縁で，口唇部端部はナデ，口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はヘラナデ調整が行われているが，頸部外面にはハケの跡が残っている。胎土は長石粒，石英粒と赤色

のスコリアを含み，焼成は良好である。2は外面はハケ，内面はナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色スコリア，白色針状物と少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。3は底部は上げ底であり，ヘラ状工具を回転させて削り取っている。胴部外面はヘラケズリの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面は器表面が荒れている。胎土は多量の砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4～6は小型坩である。4は底部がやや尖っている。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，口縁部内外面と体部外面の上半部が赤彩されている。体部内外面の器表面は荒れており，体部外面は全体的に赤彩されていた可能性もある。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は平底である。口唇部内外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われ，口縁部内外面と体部外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。6は全体的に火熱を受け，器表面の剝離が著しく，内外面の調整等は不明である。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7～9は高杯である。7は脚部は接合部分から欠損している。口縁部内外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。口縁部内外面は火熱を受け，器表面が荒れている。胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は脚柱部で，杯部内面，脚部外面はヘラミガキ，脚部内面はナデ調整が行われている。杯部内面と脚部外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒，白色針状物と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。杯部内面と脚部内面はヘラナデ，脚部外面はヘラミガキ調整が行われ，杯部内面と脚部外面は赤彩されている。胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10～12は甕である。10は小型の甕である。口縁部内外面はナデ，胴部内面はヘラナデ，胴部外面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。11・12はいずれも口縁部外面に弱い稜をもっている。11は口縁部内外面ともにナデ調整が行われているが，内面にはハケの跡が残っている。胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12も口縁部内外面はナデ調整が行われているが，内面にハケの跡が残っている。胴部内面はヘラナデ，胴部外面はハケの後，下半部のみ粗いヘラナデ調整が行われている。胎土は石英粒，長石粒と多量の砂粒を含み，焼成は良好である。

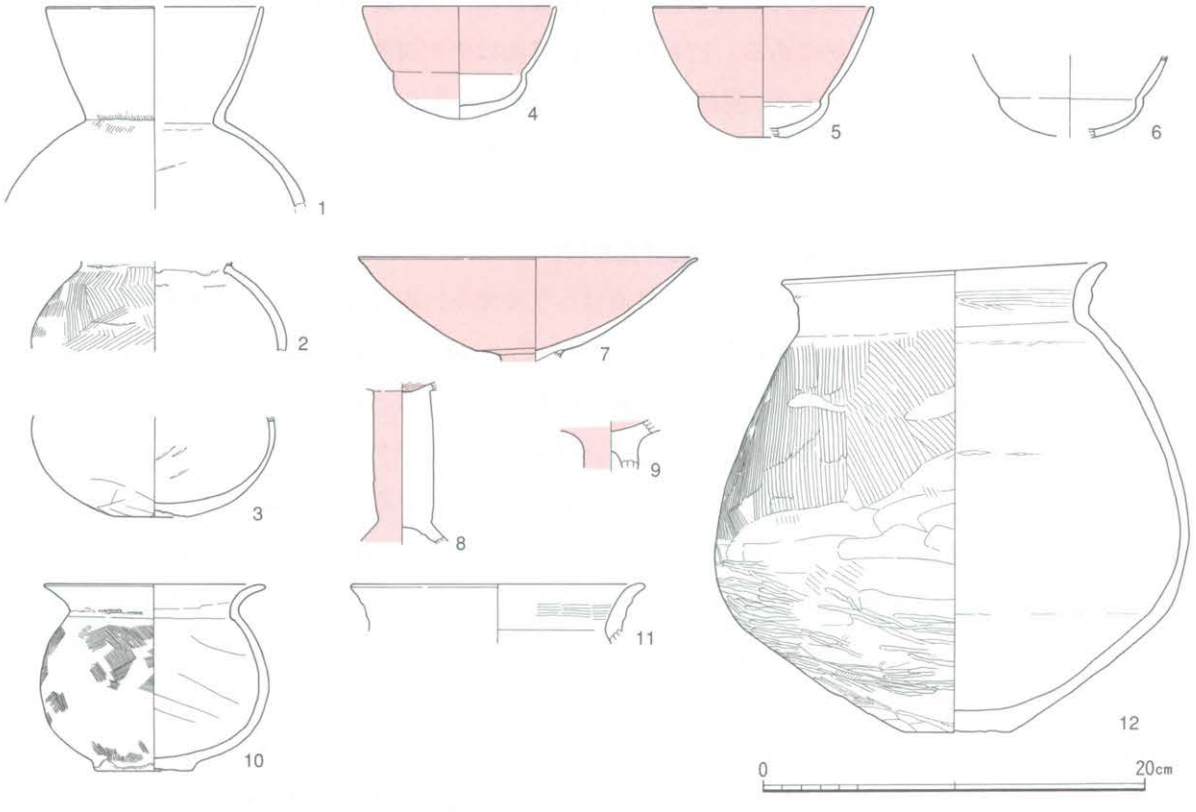
092号竪穴住居跡（第96図，図版78，土器観察表227頁）

1・3は壷である。1は小型の壷で，胴部外面はヘラミガキ，内面はヘラナデ調整が行われている。頸部内面と胴部外面は，底部外面も含め赤彩されている。胎土は石英粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3は大型の壷の底部で，内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色スコリアを含み，焼成は良好である。2は小型坩である。口縁部内面はハケの後，ヘラミガキで，体部内面はヘラナデ，外面はヘラケズリの後，粗いヘラミガキ調整が行われている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。4は器台である。台部の3か所に透かし穴が開けられている。裾部端部の内外面はナデ，台部内面はヘラナデ，台部外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。5は甕である。頸部外面にはヘラ状工具の当たった跡が稜のように残っている。内面はヘラナデ，外面はヘラナデの後，粗いヘラミガキ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6は土玉で，完形である。幅2.4cm，高さ2.25cm，重さ11.52gで，径0.5～0.6cmの穴が開けられている。色調は淡黄橙色で，胎土は石英粒などの砂粒を少量含み，焼成は良好である。

089



091



第95図　089・091号竪穴住居跡出土遺物

093号竪穴住居跡（第96図，図版75・79，土器観察表227頁）

1・2は小型坩である。底部はいずれも丸く窪んでいる。1は口唇部内外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われているが，器表面の剥離が著しい。胎土は径2㎜前後の砂礫，長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は口唇部内外面はナデ，口縁部内面と外面はヘラミガキ，体部内面はヘラナデ調整が行われているが，内外面ともに器表面は著しく荒れている。外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒，雲母粒と少量の赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。3・4は甕である。いずれも内外面ともにヘラナデ調整が行われているが，4の外面にはハケの跡が残っている。3は胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリア，白色針状物と雲母粒を含み，焼成は良好である。4は胎土は径2㎜前後の長石粒，赤色のスコリアと雲母粒を含み，焼成は良好である。5は碧玉製の管玉で，完形である。長さ1.35cm，幅0.55cm，重さ1.3ｇで，径0.25cmの穴が開けられている。

101A号竪穴住居跡（第96図，図版75・79，土器観察表227頁）

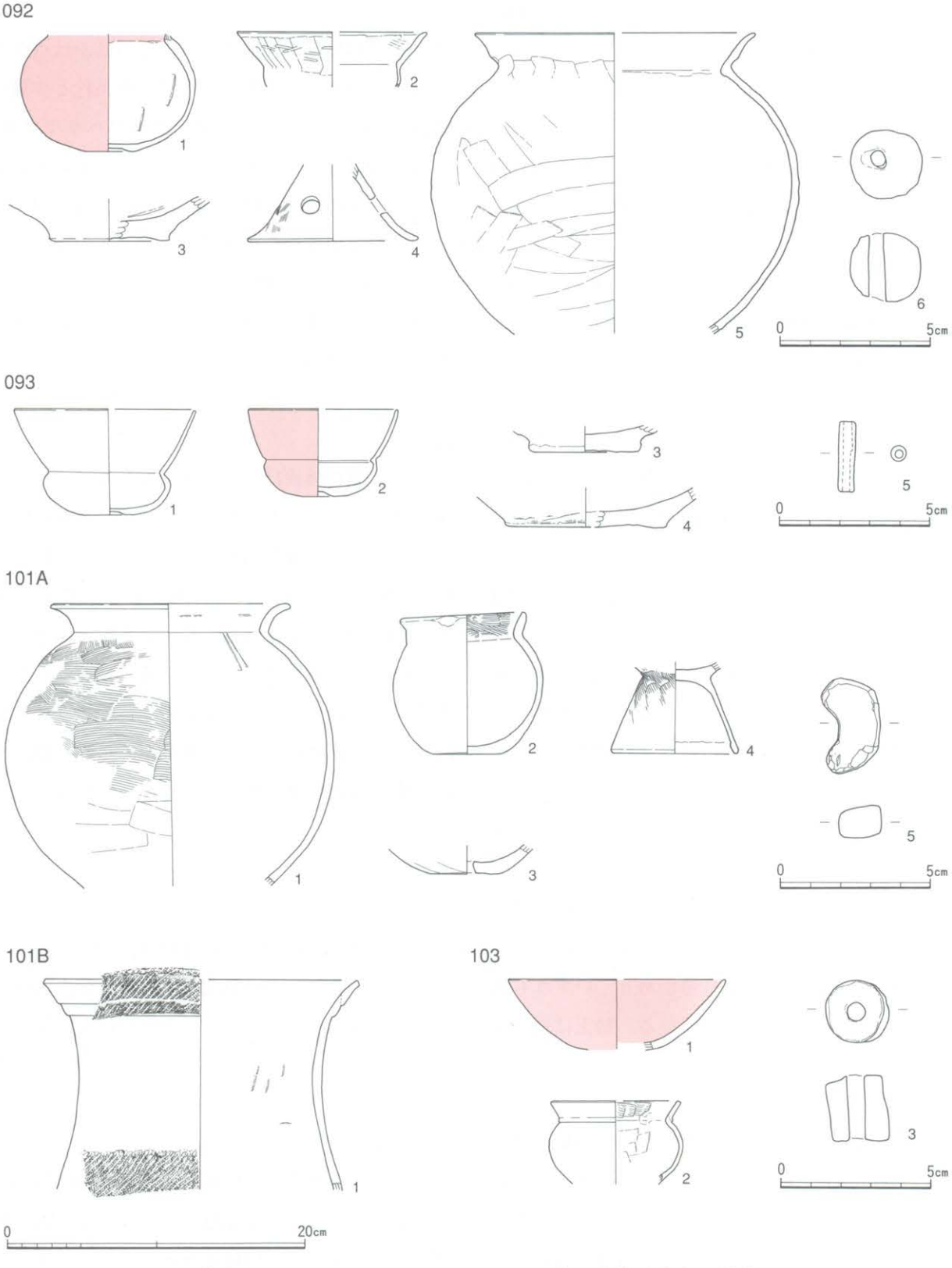
1・2は甕である。1は口縁部外面はナデ，内面はヘラナデ，胴部外面はハケ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は小型の甕である。口縁部外面はナデ，口縁部内面はハケ，胴部外面はヘラのでの後，粗いヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3は甑である。径1.6～1.9cmの穴が開けられている。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は台付甕である。台部端部は内側に折り返している。外面はハケの後，ヘラナデで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5はメノウ製の勾玉の未製品である。一部破損している部分がみられるが，ほぼ完形である。長さ3.15cm，厚さ1cm，重さ9.12ｇである。曲線部分を粗く磨いているが，稜が残っている。色調は赤褐色であるが，濁った白色の部分がみられる。

101B号竪穴住居跡（第96図，図版75，土器観察表227頁）

1は北関東系の土器である。口縁部は折り返し口縁で，外面は輪積み痕を残して，段を作り出している。口縁部外面と肩部外面に文様帯があり，いずれも縄文が施されている。外面の無文帯はヘラナデ，内面は粗いヘラミガキ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，少量の赤色のスコリアと雲母粒を含み，焼成は良好である。

103号竪穴住居跡（第96図，図版78，土器観察表227・228頁）

1は高杯である。内外面ともにヘラナデ調整が行われているが，火熱を受け，器表面が荒れている。内外面ともに赤彩されているが，遺存状態は良くない。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は小型の壷で，口縁部は折り返し口縁状になっている。口縁部外面はナデ，口縁部内面はハケ，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。3は管状土錘で，完形である。高さ2.2cm，幅1.95cm，重さ11.91ｇで，径0.5～0.6cmの穴が開けられている。色調は橙色で，胎土は石英粒と砂粒を少量含み，焼成は良好である。



第96図　092・093・101A・101B・103号竪穴住居跡出土遺物

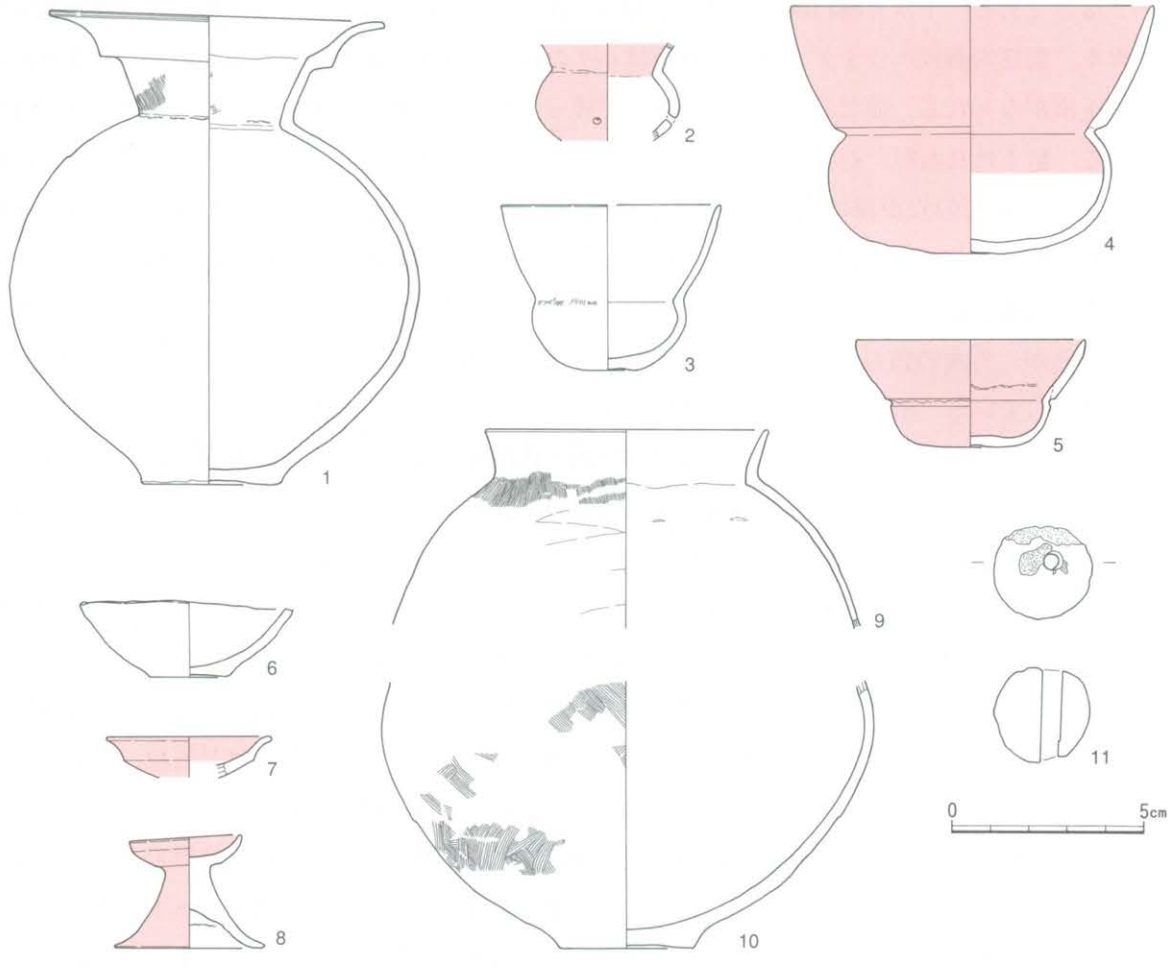
104号竪穴住居跡（第97図，図版75・78，土器観察表228頁）

1・2は壷である。1は有段口縁で，口唇部端部に浅い沈線が巡っている。口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はヘラナデ，頸部内外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。底部外面にはスサ等の圧痕がみられる。頸部内外面に輪積み痕が残っている。全体の約半分が火熱を受け，器表面が変色している。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は小型の壷で，胴部下半部に径0.4cm前後の穴が開けられているが，焼成前か後かは判然としない。頸部内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面は不明である。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3～5は小型坩である。3は外面はヘラミガキ，内面はヘラナデ調整が行われているが，外面の頸部にはハケの跡が残っている。口縁部から体部にかけて約30%が火熱を受け，器表面が変色している。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4はやや大型で，口縁部の器壁が厚くなっている。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ，体部内面はヘラナデ調整が行われている。口縁部内外面，体部外面と体部内面の半分位が赤彩されている。口縁部と体部の外面の一部にススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は頸部外面に沈線状の窪みがみられる。内外面ともにヘラミガキ調整が行われているが，火熱を受け，器表面が荒れている。底部内外面の遺存状態は良くないが，全面に赤彩されていたものと思われる。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。6は鉢である。口唇部端部は平坦になっている。内面はヘラミガキ，外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7・8は器台である。7は口縁部外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われ，すべて赤彩されている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。8は器受部と台部との間に穴が開けられず，台部に透かし穴も開けられていない。台部内面はヘラミガキ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。器受部内外面と台部外面は赤彩されている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。9・10は甕で，接合しないが，同一個体と考えられる。口縁部内外面はヘラナデ，胴部外面はハケの後，やや粗いヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。11は土玉で，一部欠損している。高さ2.45cm，幅2.5cm，現状での重さ13ｇで，径0.5cmの穴が開けられている。穴は上下双方から開けられている。色調は黒色で，胎土は石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

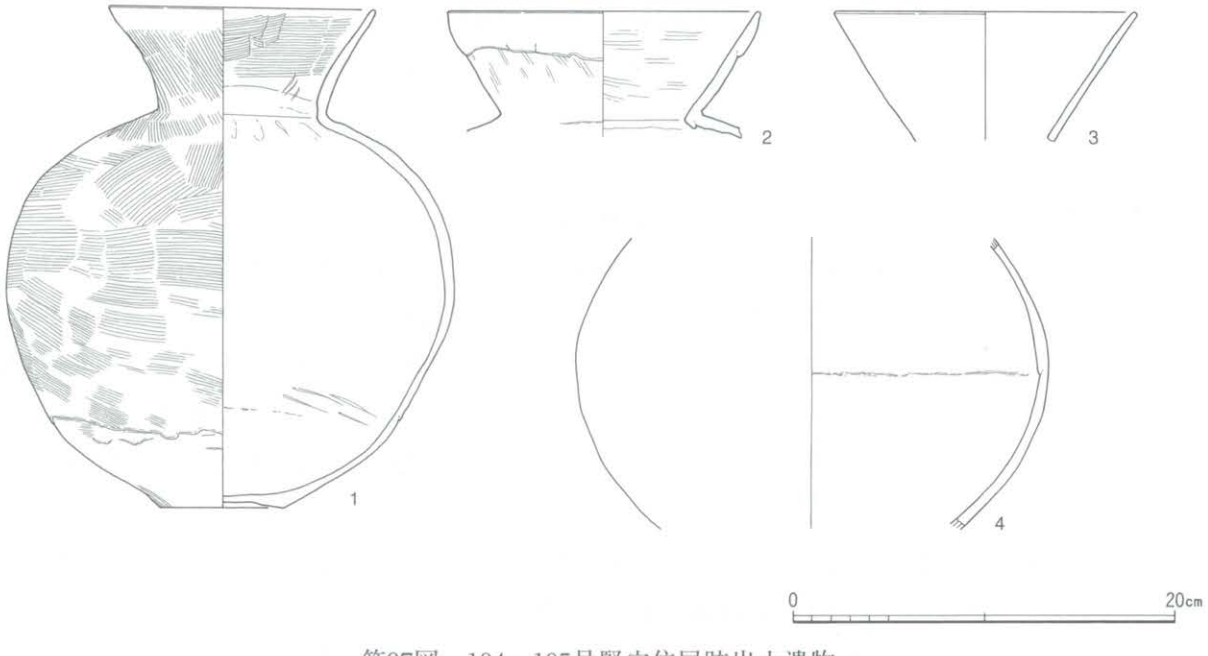
105号竪穴住居跡（第97・98図，図版75・76，土器観察表228頁）

1～7は壷である。1は素口縁である。口唇部内外面はナデ，口縁部内外面と胴部外面はハケの後，部分的にナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。2は折り返し口縁であるが，折り返しの端部は雑な仕上げになっている。口縁部内外面はナデ，頸部内外面はハケの後，粗いヘラミガキ調整が行われている。肩部内面は指頭によるオサエの跡が残っている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3は素口縁で，胴部以下は接合部分から欠損している。口唇部内外面はナデ，口縁部内外面はヘラミガキ調整が行われている。胎土は石英粒，長石粒と白色針状物を含み，焼成は良好である。4は内外面ともに火熱を受け，器表面が荒れている。外面はヘラミガキ，内面はヘラナデ調整が行われている。内面には輪積み痕が残っている。胎土は長石粒，石英粒と雲母粒を含み，焼成は良好である。5は外面はハケの後，ヘラミガキで，内

104



105



第97図　104・105号竪穴住居跡出土遺物

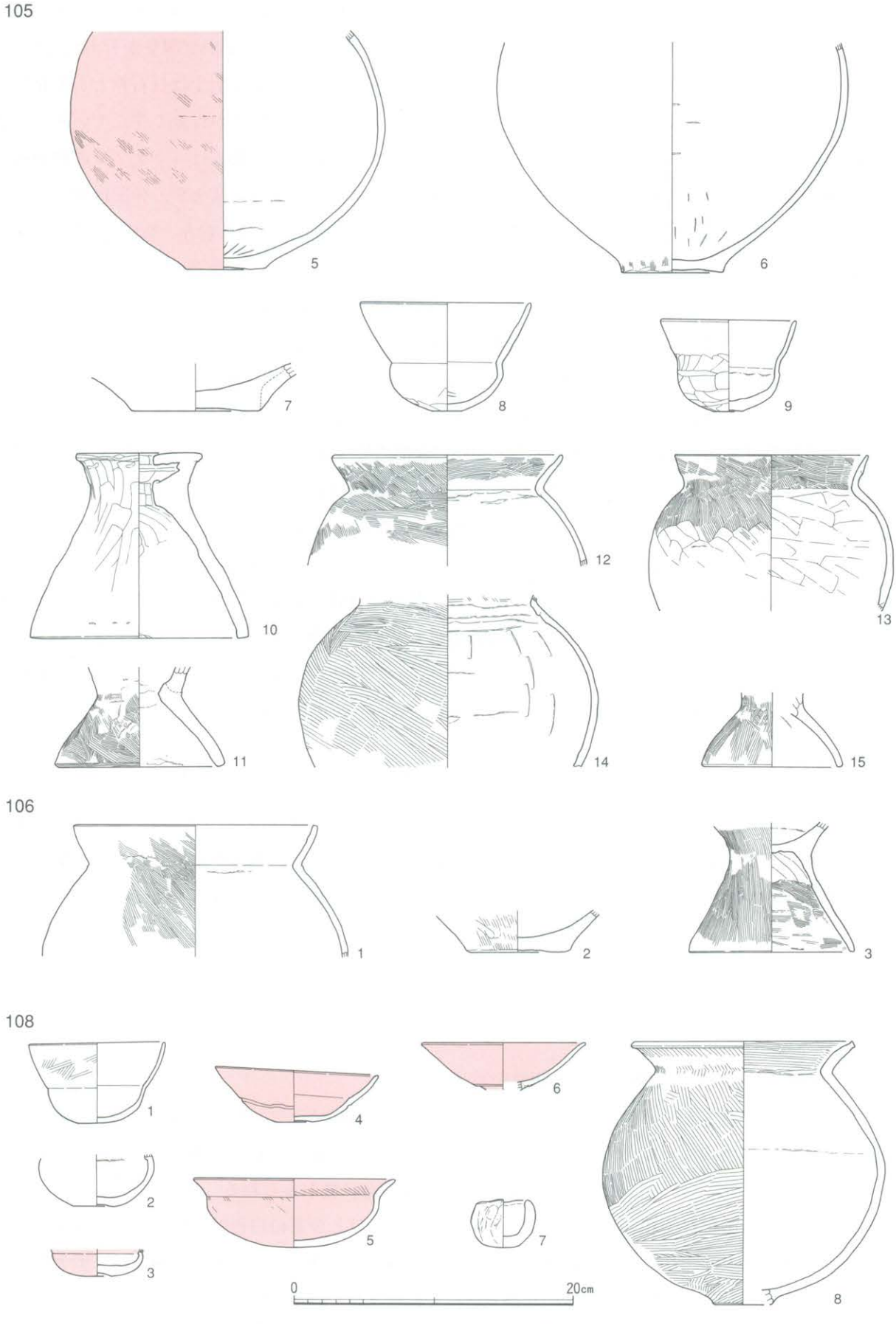
面はヘラナデ調整が行われ，外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。6・7はいずれも外面はハケの後，ヘラミガキで，内面はヘラナデ調整が行われている。6は胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は胎土は長石粒と石英粒を多量に含み，焼成は良好である。8・9は小型坩である。8は平底で，9はわずかに丸く窪んでいる。8は口縁部内外面はナデ，体部内外面はヘラナデ調整が行われ，体部外面の下半部にはヘラケズリの跡が残っている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。9は口縁部内外面はナデ，体部内面はヘラナデ調整が行われ，体部外面はヘラケズリのままである。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。10・11は異形器台である。10は器受部と台部との間に穴が開けられている。器受部の口縁部は内側に強く折れ曲がり，平坦面を作り出している。折れ曲がった端部はナデ，台部内面はヘラナデ調整が行われ，そのほかはヘラケズリのままである。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。11は器受部と台部との間に穴が開けられている。器受部外面はハケの後，ヘラミガキで，台部外面はハケ，器受部内面と台部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12～14は甕である。12は口縁部内外面はハケの後，口唇部内外面のにナデで，胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は石英粒，長石粒，赤色のスコリアと少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。13は胴部外面にススの付着がみられる。口縁部内外面はハケの後，口唇部内外面のみナデで，胴部外面はハケの後，中位以下をヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と白色針状物を含み，焼成は良好である。14は頸部内面はハケの後，ナデで，胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。15は台付甕である。外面はハケの後，一部ナデで，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

106号竪穴住居跡（第98図，土器観察表228頁）

1・2は甕である。1は口唇部内外面はナデ，口縁部外面と胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。2は胴部外面はハケの後，粗いナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。底部外面にはスサの痕跡がみられる。胎土は長石粒，石英粒と少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。3は台付甕である。胴部外面と台部内外面はハケの後，粗いヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。天井部は指頭によるナデツケの跡が残っている。胎土は長石粒，石英粒，多量の白色針状物と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

108号竪穴住居跡（第98図，図版76，土器観察表228頁）

1～5は小型坩である。1・2は平底である。1は口唇部内外面はナデ，口縁部外面はハケの後，ヘラミガキで，体部外面はヘラミガキ，体部内面はヘラナデ調整が行われている。色調は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は頸部内面に稜がみられる。体部外面はヘラミガキ，体部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。3は底部は丸く窪んでいる。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ，体部内面はヘラナデ調整が行われている口縁部内外面と体部外面は，底部も含めて赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4はわずかに上げ底となっている。口唇部内外面はナデ，退



第98図　105・106・108号竪穴住居跡出土遺物

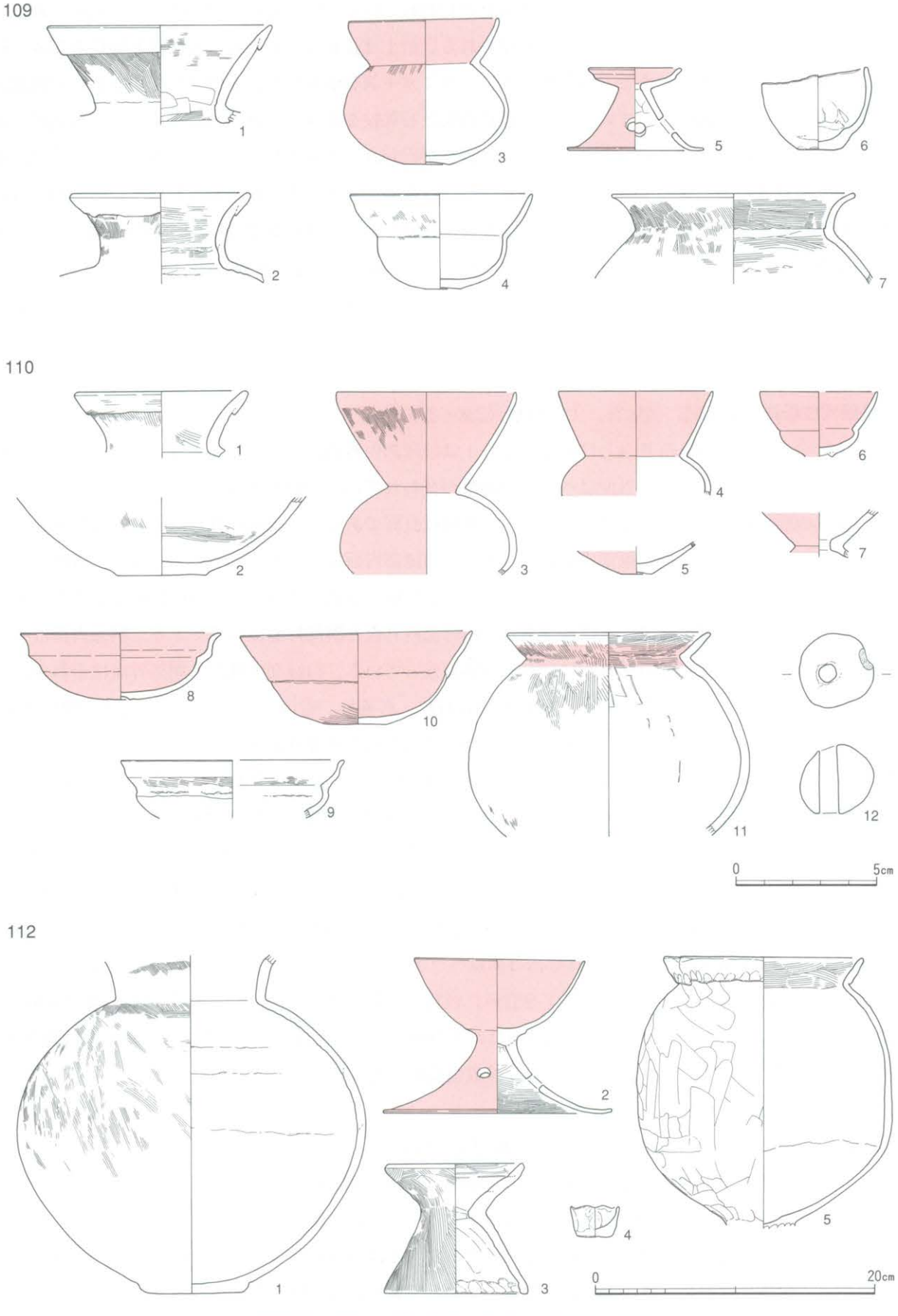
部内外面はヘラミガキ，底部外面はヘラナデ調整が行われている。底部外面も含めてすべて赤彩されている。器表面は火熱を受け，荒れている部分が見られる。胎土は長石粒，石英粒，雲母粒と砂粒を含み，焼成は良好である。5は丸底である。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されているが，口縁部内面と頸部外面にハケの跡が残っている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。6は高杯である。口縁部内外面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。全体に火熱を受け，器表面はやや荒れている。7はミニチュアである。器壁は厚く，すべてナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は甕である。球形の胴部で，口唇部端はつまみ上がっている。口縁部内外面はハケの後，口唇部端部と口縁部外面はナデで，胴部外面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と多量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

109号竪穴住居跡（第99図，図版76，土器観察表228・229頁）

1～3は壷で，いずれも折り返し口縁である。1は口縁部内外面はナデ，頸部内外面はハケの後，内面のみ粗いヘラミガキで，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリア，少量の雲母粒と微量の白色針状物を含み，焼成は良好である。2は折り返し口縁の端部は雑な仕上げになっている。口縁部外面と胴部内面はヘラナデ，口縁部内面はハケの後，ナデで，頸部内外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。3は小型の壷で，上げ底である。口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はヘラナデ調整が行われているが，肩部外面にはハケの跡が残っている。口縁部内外面と胴部外面は赤彩されている。胴部外面にススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。4は小型坩で，平底である。口縁部内外面と体部外面はヘラミガキ，体部内面はヘラナデ調整が行われているが，口縁部外面にハケの跡が残っている。胎土は長石粒，石英粒と多量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部の4か所に透かし穴が開けられている。口縁部外面はナデ，器受部内面と台部外面はヘラミガキ，台部内面はヘラナデ調整が行われている。器受部内外面と台部外面は赤彩されている。台部内面の裾部は器表面の剥離が著しい。胎土は長石粒，多量の石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。6は鉢である。口縁部内外面はナデ，体部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，多量の白色針状物と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は甕である。口縁部内外面はハケの後，口唇部内外面のみナデで，胴部内外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。

110号竪穴住居跡（第99図，図版76・78，土器観察表229頁）

1～5は壷である。1は折り返し口縁である。胴部は接合部分から欠損している。内外面ともにハケの後，ヘラミガキ調整が行われている。外面は火熱を受け，器表面が変色している。胎土は長石粒，多量の赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。2は内外面ともにハケの後，ヘラナデ調整が行われている。全体に火熱を受け，器表面が変色している。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。3～5は小型の壷である。3は素口縁で，口唇部はつまみ上がってい



第99図　109・110・112号竪穴住居跡出土遺物

る。胴部内面はヘラナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われているが，口縁部外面の一部にハケの跡が残っている。口縁部内外面と胴部外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と白色針状物を含み，焼成は良好である。4は素口縁で，5とは接合しないが，同一個体と考えられる。胴部内面はヘラナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。口縁部内外面，胴部外面と底部外面は赤彩されている。全体に火熱を受け，器表面は変色している。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6は台付小型坩である。台部は接合部分から欠損している。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面は器表面の剥離が著しい。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。7は器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。内外面ともにヘラナデ調整が行われ，外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。8～10は小型坩である。8・9は有段口縁である。8は底部は丸く窪んでいる。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，すべて赤彩されている。内外面は器表面の剥離が著しい。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。9は口縁部外面はハケの後，ナデで，口縁部外面はハケの後，ヘラミガキで，体部外面はヘラミガキ，体部内面はナデ調整が行われている。体部の内外面に輪積み痕が残っている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。10は口縁部と体部との境が明瞭ではなく，わずかに稜を作り出している。内面はヘラナデ，外面はヘラミガキ調整が行われているが，底部外面にはハケの跡が残っている。底部外面を除き，すべて赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。11は甕である。口縁部内外面はハケの後，口唇部を中心にナデで胴部外面はハケの後，粗いヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。頸部内外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。12は土玉で，わずかに欠損している。高さ2.45cm，幅2.25cm，現存での重さ12.34ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。色調は明赤褐色で，胎土は長石粒，石英粒，少量の赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。

112号竪穴住居跡（第99図，図版76，土器観察表229頁）

1は壷である。頸部内面はヘラミガキ，頸部外面と胴部外面はハケの後，ヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部内面には輪積み痕が残っている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は高杯である。脚部の3か所に透かし穴が開けられている。口唇部内外面はナデ，杯部内外面と脚部外面はヘラミガキ，脚部内面はハケ調整が行われている。杯部内外面と脚部外面は赤彩されている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。3は異形器台である。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部端部は内側に折り返され，指頭によるオサエの跡が残っている。器受部内面はハケの後，ヘラナデで，器受部外面と台部外面はハケ，台部内面はナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4はミニチュアである。口縁部はわずかに波打っている。すべてナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。5は台付甕である。口縁部が折り返し口縁で，端部は雑に仕上げられ，指頭によるオサエの跡が残っている。口縁部内面はハケ，胴部外面はヘラケズリの後，粗いヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面にはススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

119号竪穴住居跡（第100図，図版76・78，土器観察表229頁）

1～3は壷である。1は折り返し口縁で，折り返し端部にヘラ状工具により刻みが施されている。口唇部は内側に稜を作り出している。口縁部から頸部内面はハケの後，ナデで，口縁部外面と胴部内面はナデ，頸部外面と胴部外面はハケの後，粗いナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は有段口縁になるものと思われる。内外面ともにハケの後，ナデ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。3は小型の壷で，頸部内外面と胴部画面はハケの後，ヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。頸部内外面と胴部外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと多量の白色針状物を含み，焼成は良好である。4はS字状口縁の甕である。口縁部内外面はナデ，胴部内外面はヘラナデ調整が行われているが，頸部外面にハケの跡が残っている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。5は台付小型坩である。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内外面ともに器表面は著しく荒れている。胎土は長石粒，多量の赤色のスコリアと少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。6・7は高杯である。6は口唇部端が外側にわずかにつまみ上げられている。脚部は接合部分から欠損している。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。外面は器表面が著しく荒れている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリア，少量の雲母粒と少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。7は脚部の3か所に透かし穴が開けられている。口唇部内外面はナデ，杯部内外面と脚部外面はヘラミガキ，脚部内面はヘラナデ調整が行われている。杯部内外面と脚部外面は赤彩されている。胎土は多量の長石粒，少量の雲母粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は台付甕である。台部端部は内側に折り返されている。台部内外面はハケ，胴部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。9・10は土製品で，粘土を手で握って，紐状になったものが焼かれたものと思われる。いずれも全体に指紋状の跡がみられる。9は長さ5.7cm，幅1.1cmである。色調は褐色で，胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は長さ5.15cm，幅1.7cmである。色調は赤褐色で，胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。11は土玉で，完形である。高さ2.8cm，幅2.7cm，重さ19gで，径0.9cmの穴が開けられている。色調は黄褐色で，胎土は長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

120号竪穴住居跡（第100図，土器観察表229頁）

1は器台である。台部は接合部分から欠損している。口唇部内外面はナデ，器受部内外面はヘラミガキ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。2は台付甕である。胴部は接合部分から欠損している。胴部外面はハケ，胴部内面はナデ，台部内外面はヘラナデ調整が行われている。胎土は石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

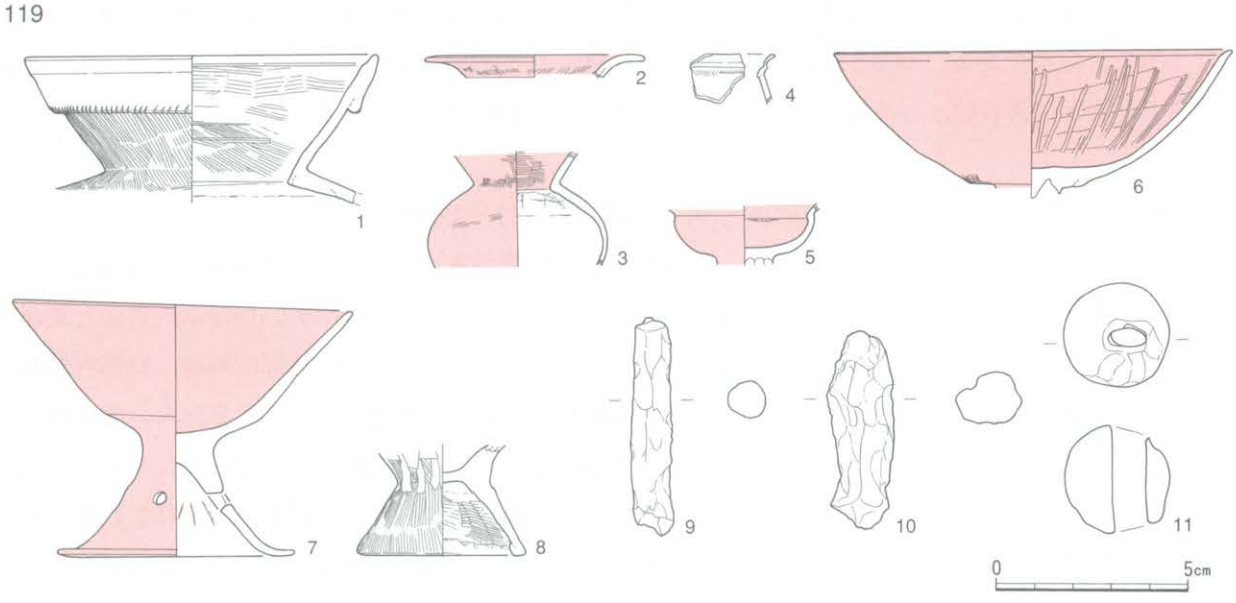
121号竪穴住居跡（第100図，図版78，土器観察表229頁）

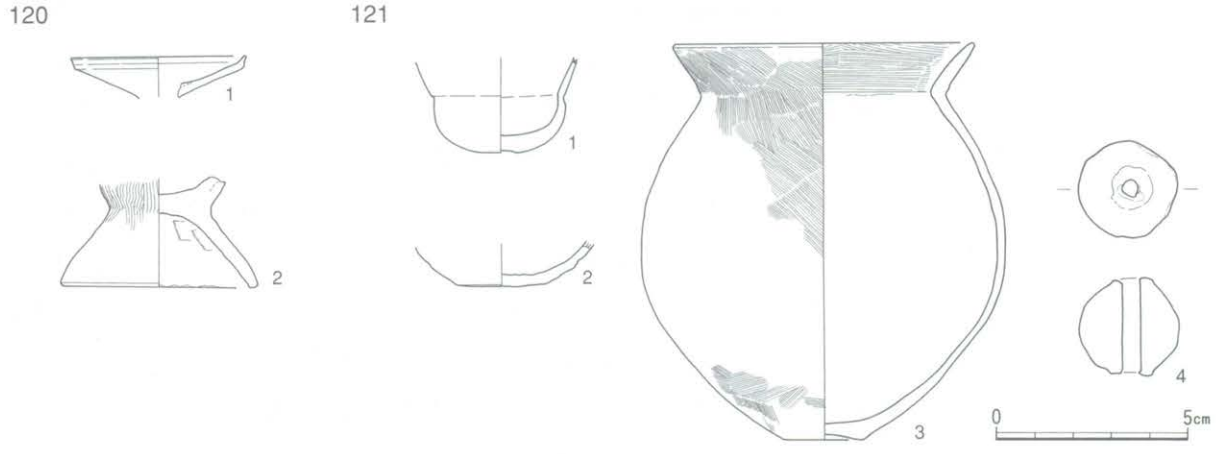
1は小型坩である。底部はわずかに窪んでいる。体部内面はヘラナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の白色針状を含み，焼成は良好である。2は小型の壷である。内外面ともにヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。3は甕である。口縁部内外面はハケの後，口唇部内外面のみナデで，胴部外

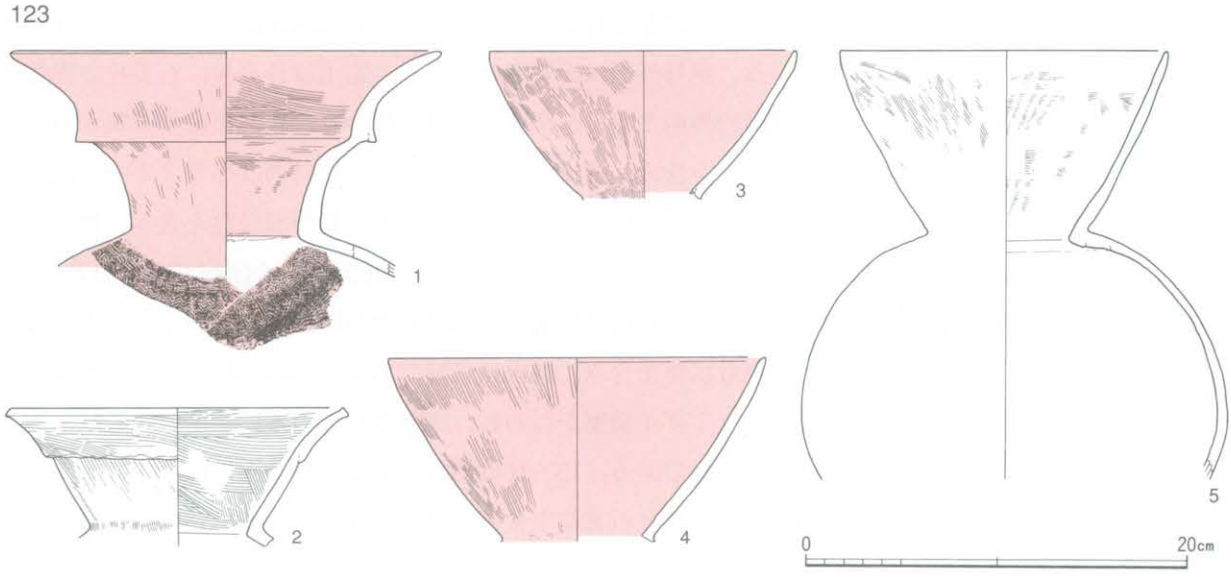
面はハケ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。4は土玉で，完形である。高さ2.5cm，幅2.6cm，重さ14ｇで，径0.4～0.45cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

123号竪穴住居跡（第100・101図，図版76～79，土器観察表229・230頁）

1～12は壷である。1は有段口縁である。肩部外面に文様帯があり，いずれも3本単位の櫛描文で，廉状文1段と波状文2段が描かれ，以下は無文となっている。口唇部内外面はナデ，口縁部内外面と頸部内外面はハケの後，ヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。口縁部内外面，頸部内外面と胴部外面は文様帯も含めて赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は折り返し口縁である。口唇部端部は平坦面になっている。口縁部と頸部内面はハケ，口縁部から胴部にかけての外面はハケの後，粗いヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。3～6は素口縁である。3・4はいずれも胴部は接合部分から欠損し，内外面ともに火熱を受け，変色している部分がみられる。いずれも口唇部内外面はナデ，口縁部内面はヘラミガキ，口縁部外面はハケの後，ヘラミガキ調整が行われ，内外面とも赤彩されている。いずれも胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，口唇部内外面はナデで，そのほかはヘラミガキ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6・7は小型の壷である。6は口縁部内外面はナデ，胴部内外面はヘアナデ調整が行われているが，頸部外面にハケの跡が残っている。胎土は長石粒，石英粒，少量の赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。7は胴部外面はヘラケズリの後，粗いヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，少量の赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。8・12は接合しないが，同一個体と考えられる。胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胴部内面には輪積み痕が残っている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。9は胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はハケの後，ヘラナデ調整が行われ，胴部外面は赤彩されている。胴部外面は赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は内外面ともにヘラナデ調整が行われ，底部には木葉痕がみられる。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。11は外面はヘラミガキ，内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。13は小型坩である。口縁部は折り返し口縁状になっている。底部は丸く窪むものと思われる。内外面ともにヘラミガキ調整が行われているが，口縁部外面の一部にハケの跡が残っている。胎土は長石粒，石英粒，少量の赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。14は高杯である。脚部は接合部分から欠損している。内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。15・16は器台である。15は内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。16は器受部と台部との間に穴が開けられている。台部の2か所に透かし穴が開けられている。器受部は接合部分から欠損している。外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。17～19は異形器台である。







第100図　119・120・121・123号竪穴住居跡出土遺物

17・18は器受部と台部との間に穴が開けられている。17は器受部の口縁部は内側に強く折れ曲がり，平坦面を作り出している。器受部の一部を削り取って窓のように穴を開けている。外面はハケの後，ナデ調整が行われている。内面は輪積み痕をそのまま残しており，凹凸が著しい。裾部は接合部分から欠損している。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。18は器受部の口縁部は「く」の字状に屈曲する。器受部外面はナデ，台部外面はハケ，台部内面はヘラナデ調整が行われている。器受部内面は輪積み痕をそのまま残しており，凹凸が著しい。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。19は小型の異形器台で，器受部は丸くなっている。外面はハケの後，ナデで，そのほかはナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。20～23は甕である。20は口縁部内外面と胴部外面はハケの後，粗いヘラミガキで，胴部内面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。底部は上げ底である。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。21は胴部外面はハケの後，ヘラナデで，そのほかはヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。22は胴部内面はハケの後，ヘラナデ調整が行われているが，胴部外面はヘラケズリのままである。内面にススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒と少量の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。23は胴部外面はハケの後，ヘラナデで，そのほかはヘラナデ調整が行われている。内面にススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。24は台付甕である。底部と台部は接合部分から欠損している。内外面ともにハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。25～27は土玉で，完形である。25は高さ2.4cm，幅2.4cm，重さ11.47ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。色調は橙色で，胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。26は高さ2.35cm，幅2.4cm，重さ13.89ｇで，径0.45～0.6cmの穴が開けられている。色調は淡黄橙色で，胎土は長石粒と石英粒を少量含み，焼成は良好である。27は高さ3.45cm，幅3.35cm，重さ33.57ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。色調は淡黄橙色で，胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。28は鉄製品で，鎌先と思われる。遺存長4.8cm，厚さ0.2cmである。

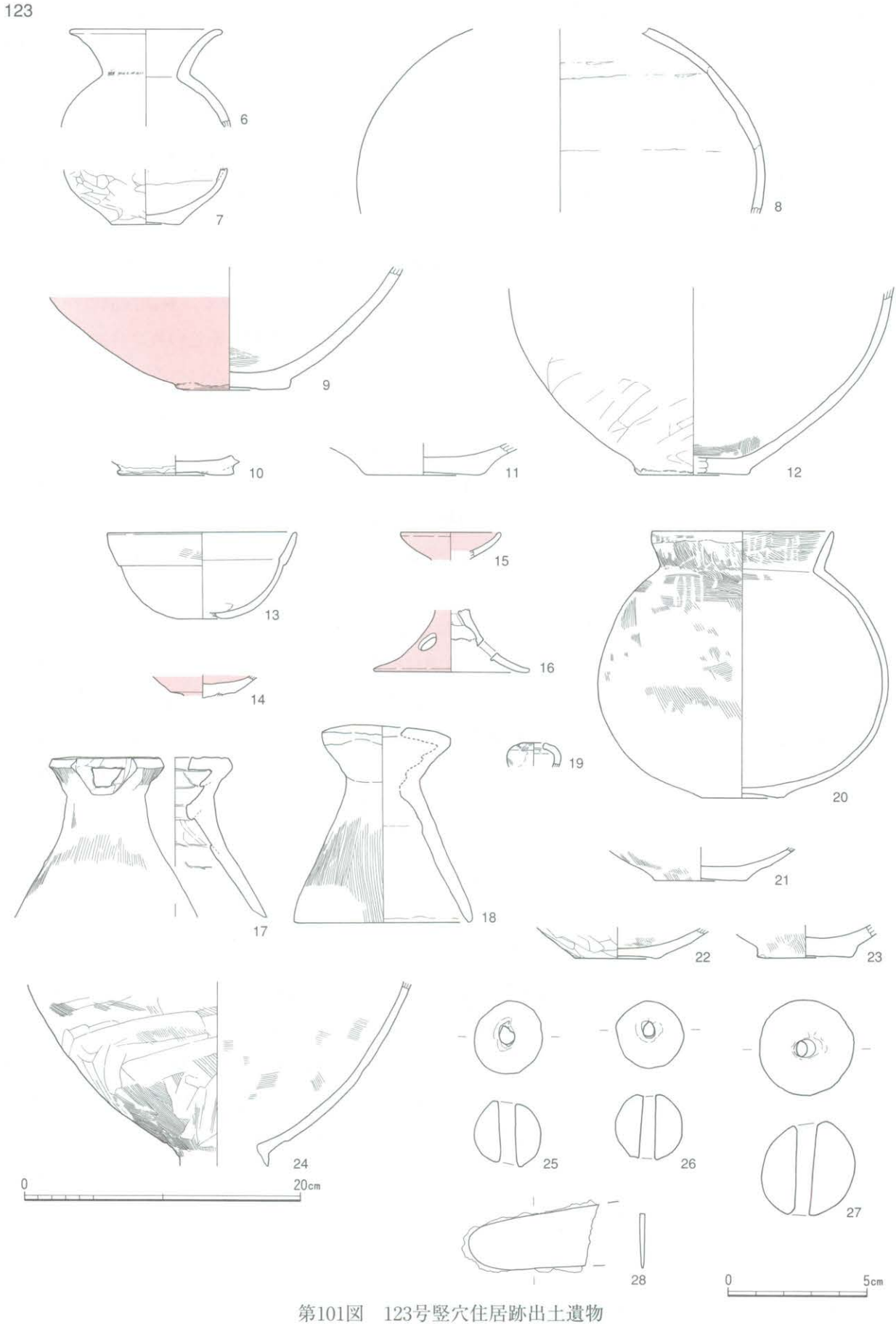
⑵建物跡

041号竪穴住居跡（第102図，図版77，土器観察表230頁）

１・２は壷である。１は口縁部内外面と胴部内面はヘラナデ，胴部外面はナデ調整が行われている。口縁部の一部は火熱を受け，変色している。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。２は口縁部内外面と胴部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胴部内面はヘラナデ調整が行われている。外面の器表面の一部は火熱を受け，荒れている。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。３は甕で，上げ底である。口縁部外面はハケの後，口唇部はナデで，口縁部内面はナデ，胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。口縁部内面の器表面は火熱を受け，変色している。胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。

⑶土坑

113号土坑（第102図，図版77，土器観察表230頁）



第101図　123号竪穴住居跡出土遺物

1は甕である。口唇部内外面はナデ，口縁部外面と胴部内面はヘラナデ，口縁部内面はハケ，胴部外面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。

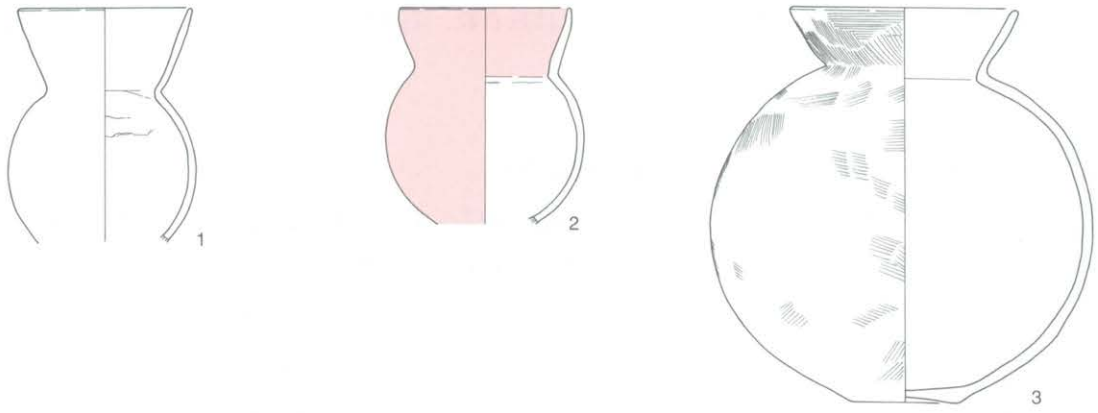
122号土坑（第102図，図版78・79，土器観察表230頁）

1は小型坩である。体部外面はヘラミガキ，体部内面はヘラナデ調整が行われ，外面は赤彩されている。火熱を受け，器表面の一部は変色している。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は壷で，肩部外面に櫛描波状文の下にわずかに無文帯を挟んで結節文が施されている。胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。4・5は高杯である。いずれも杯部は接合部分から欠損している。いずれも脚部に上下2段にわたり4か所づつの透かし穴が開けられている。いずれも脚部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。脚部内面はヘラケズリのままである。4は胎土は長石粒，石英粒，少量の赤色のスコリアと雲母粒を含み，焼成は良好である。5は胎土は長石粒，石英粒，少量の赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。3・6は器台である。いずれも器受部と台部との間に穴が開けられ，台部の3か所に透かし穴が開けられている。いずれも器受部内面と台部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。内面はいずれもハケの後，ナデ調整が行われているが，6にはヘラケズリの跡が残っている。3は胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリア，少量の雲母粒と少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。6は胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。7は異形器台である。器受部の口縁部は内側に強く屈曲し，平坦面を作り出している。外面はヘラナデ，内面はナデ調整が行われているが，内面は輪積み痕が明瞭に残っている。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は粘土板である，丸めた粘土塊を平らに延ばしたような状態であり，表裏面に籾殻あるいは植物繊維の圧痕がみられる。色調は黒褐色で，胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。9はガラス玉で，完形である。高さ0.5cm，幅0.5cm前後，重さ0.2ｇで，径0.2cmの穴が開けられている。色調は青である。10～12は土玉で，いずれも完形である。10は高さ2.3cm，幅2.3cm，重さ12.6ｇで，径0.6cmの穴が開けられている。色調は灰褐色で，胎土は長石粒，石英粒と少量の雲母粒を含み，焼成は良好である。11は高さ2.4cm，幅2.2～2.5cm，重さ12ｇで，径0.5cmの穴が開けられている。色調は灰褐色で，胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。12は高さ1.6cm，幅1.9cm，重さ5.4ｇで，径0.5cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は長石粒と石英粒を含み，焼成は良好である。

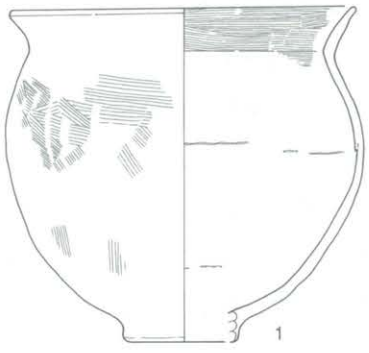
⑷グリッド等出土の遺物（第103図，図版77・78，土器観察表231頁，石製品観察表198頁）

1・11・13は壷である。1はN6-00グリッドから出土した。胴部外面はヘラナデの後，粗いヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面の一部にススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと白色針状物を含み，焼成は良好である。11は表面採集である。胴部外面はハケの後，粗いヘラミガキで，胴部内面はハケの後，ヘラナデ調整が行われている。胴部外面は赤彩されている。内面は器表面の剥離が著しい。胎土は乳白色の微細な砂粒と1～4㎜の長石粒を含み，焼成は良好である。13は111A号溝から出土した。胴部外面はヘラミガキ，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒と少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。2・3は鉢である。2はJ7-93グ

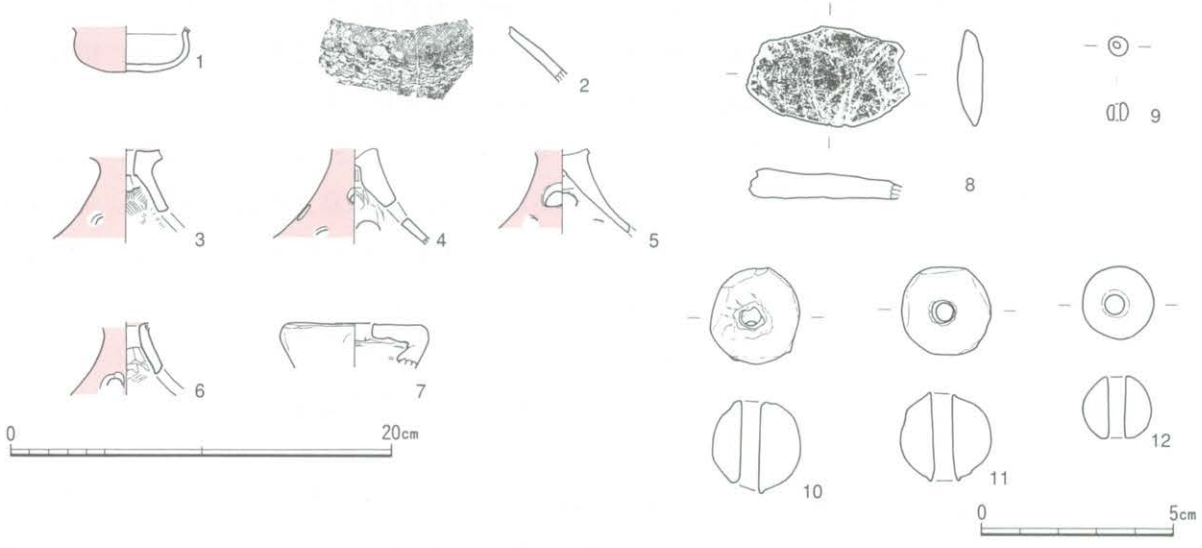
041



113

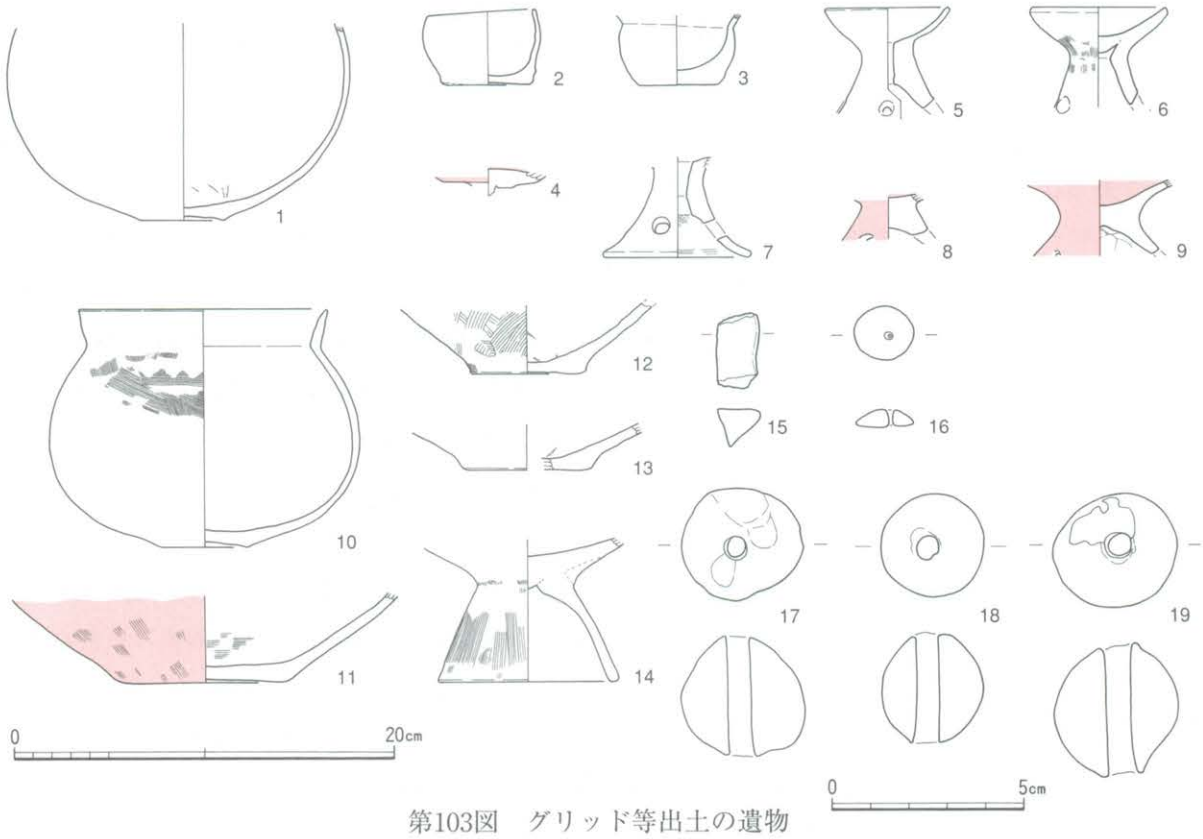


122



第102図　041号建物跡，113・122号土坑出土遺物

リッドから出土した。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3はH7-90グリッドから出土した。口縁部は外反するものと思われる。内外面ともにナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2～3㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4・8・9は高杯である。4は表面採集である。脚部は接合部分から欠損している。坏部内外面ともにヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。胎土は長石粒，石英粒と白色針状物を含み，焼成は良好である。8はV9-77グリッドから出土した。脚部の3か所に透かし穴が開けられている。杯部内外面と脚部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。脚部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。9は111A号溝から出土した。脚部の4か所に透かし穴が開けられている。杯部内外面と脚部外面はヘラミガキ調整が行われ，赤彩されている。脚部内面はヘラケズリのままである。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5～7は器台である。5はK5-25グリッドから出土した。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部の4か所に透かし穴が開けられている。口唇部内外面と台部内面はナデ，そのほかはヘラミガキ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6はK3グリッドから出土した。台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内外面はナデ，台部外面はハケの後，ヘラナデで，台部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は1～3㎜の長石粒を多量に含み，焼成は良好である。7はI7-82グリッドから出土した。器受部と台部との間に穴が開けられている。台部の3か所に透かし穴が開けられている。器受部内面と台部外面はヘラミガキ，台部内面はハケの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。10・12は甕である。10は表面採集である。口縁部内外面はナデ，胴部外面はハケの後，ヘラナデあるいは粗いヘラミガキで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胴部外面の一部にススの付着がみられる。胎土は長石粒，石英粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。12は099号溝から出土した。胴部外面はハケの後，ヘラナデで，胴部内面はヘラナデ調整が行われている。胎土は長石粒，石英粒，赤色のスコリアと少量の白色針状物を含み，焼成は良好である。14は台付甕で，表面採集である。胴部外面と台部外面はハケの後，ナデで，胴部内面と台部内面はナデ調整が行われている。内外面ともに器表面の摩滅が著しい。胎土は乳白色の微細な砂粒，径2㎜前後の長石粒と砂礫を含み，焼成は良好である。15は砂岩製の砥石で，I7-20グリッドから出土した。16は土製品で，H4グリッドから出土した。性格は不明である。高さ0.5cm，幅1.4～1.55cmで，径0.15～0.3cmの穴が開けられている。色調は明褐色で，胎土は微細な砂粒を含み，焼成は良好である。17～19は土玉で，17・18は完形で，19は一部欠損している。17はI5-80グリッドから出土した。高さ3.1cm，幅2.9～3.2cm，重さ25ｇで，径0.6cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。18はK5-25グリッドから出土した。高さ2.85cm，幅2.7cm，重さ18ｇで，径0.6～0.7cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。19は，037号溝から出土した。高さ3.6cm，幅3.2cm，重さ33gで，径0.8cmの穴が開けられている。色調は褐色で，胎土は1.5㎜前後の砂粒を含み，焼成は良好である。



第103図　グリッド等出土の遺物

第９表　古墳時代以降石製品観察表

挿図番号	遺物番号	器種	石材	計測値				備考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
第63図 5	006-6a	軽石製品	軽石	4.05	5.23	4.19	12.36	
第65図12	009-13a	砥石	砂岩	5.97	6.87	1.03	55.83	
1	014-2c	軽石製品	軽石	6.45	6.43	3.07	18.29	被熱
第66図23	016-25	軽石製品	軽石	7.80	4.63	4.43	24.45	
11	017-8d	軽石製品	軽石	2.44	1.93	1.29	1.81	被熱
12	017-9a	軽石製品	軽石	3.27	1.74	1.77	2.98	被熱
第68図26	018-2a	砥石	流紋岩	3.37	3.72	0.94	17.50	
16	019-4a	軽石製品	軽石	4.51	3.73	4.17	7.43	被熱
第69図 6	020-5	砥石	流紋岩	12.98	3.21	2.58	137.77	
7	020-6	磨石	砂岩	11.02	9.53	8.87	1336.72	
12	021-16a	軽石製品	軽石	1.52	1.73	0.86	0.55	被熱
第74図 9	027-11	軽石製品	軽石	10.83	7.23	6.19	57.07	被熱
10	027-16	軽石製品	軽石	9.46	6.72	5.42	54.01	被熱
11	027-12	軽石製品	軽石	7.12	5.87	2.62	14.35	被熱
12	027-7b	軽石製品	軽石	2.51	1.57	0.84	0.93	被熱
第76図14	032-9	砥石	砂岩	12.94	9.82	5.52	560.81	被熱
第77図 9	036-1b	軽石製品	軽石	2.48	2.10	1.43	1.66	被熱
第78図16	039-26	敲石	砂岩	9.29	6.52	5.17	308.89	被熱
第81図28	045-38	軽石製品	軽石	4.59	2.74	2.24	4.24	被熱
第84図27	047-4a	軽石製品	軽石	3.06	2.19	1.29	1.68	被熱
28	047-19	軽石製品	軽石	8.86	5.98	5.69	51.47	被熱
第85図12	048-7a	軽石製品	軽石	3.26	2.22	1.63	1.43	被熱
第89図15	055-1	軽石製品	軽石	2.67	3.12	2.74	3.75	被熱
3	057-6	軽石製品	軽石	2.19	1.23	1.62	1.32	被熱
第90図13	058-6	軽石製品	軽石	4.53	1.83	3.64	7.27	被熱
1	059-1	砥石	砂岩	11.51	6.74	2.07	225.69	被熱
第91図13	066-6b	軽石製品	軽石	1.59	1.77	1.28	0.67	被熱
第93図 9	072-8	軽石製品	軽石	6.94	6.43	4.29	21.87	被熱
第94図 2	077-5	砥石	流紋岩	8.97	6.39	4.63	360.61	被熱
第103図15	7I-20,2g	砥石	砂岩	3.89	2.37	2.13	18.76	被熱

第4節　奈良時代

1　遺　構

(1)竪穴住居跡

073号竪穴住居跡（第60図，図版44，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のH5グリッドの位置にある。重複する遺構はないが，ほぼ中央部は2条の溝によって床面まで破壊されている。平面形は方形である。南側は検出面から床面までの掘込みは比較的浅い。主柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。埋土はローム粒とロームブロックを多量に含んだ黒褐色土を主体とし，床面付近と壁際には多量のローム粒と粘土粒を含んだ暗褐色土や褐色土が堆積している。

カマドは北西側の壁のほぼ中央にある。溝によって半分ほどが破壊されており，全体的に遺存状態は悪い。袖部は白色粘土によって作られている。

遺物の出土量は少ない。ほとんどが埋土中から出土している。

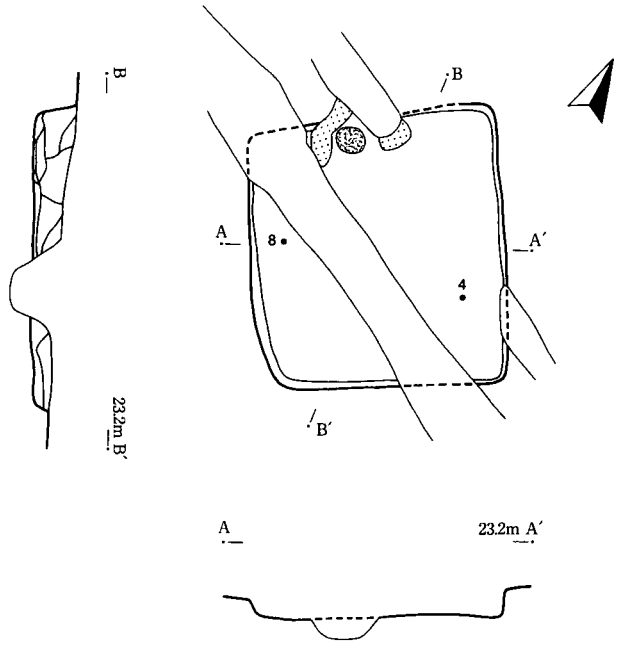
074号竪穴住居跡（第60図，図版45，竪穴住居跡計測表210頁）

東側調査区のH6グリッドの位置にある。最も東側に位置する遺構で，緩やかな斜面地にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は東側角の壁に寄った位置にある。大きさは径0.85mの円形で，深さは0.34mである。底面は平坦である。竪穴住居跡の大きさに比べ貯蔵穴が大きすぎるようにも思える。このほかに径0.22～0.3mのピットが3つあるが，床面からの深さは0.1～0.27mで，均一ではない。性格は不明である。埋土はローム粒を含んだ暗褐色土を主体とし，その上に黒褐色土が堆積している。床面付近と壁際にはローム粒を多量に含んだ褐色土や暗褐色土が堆積している。

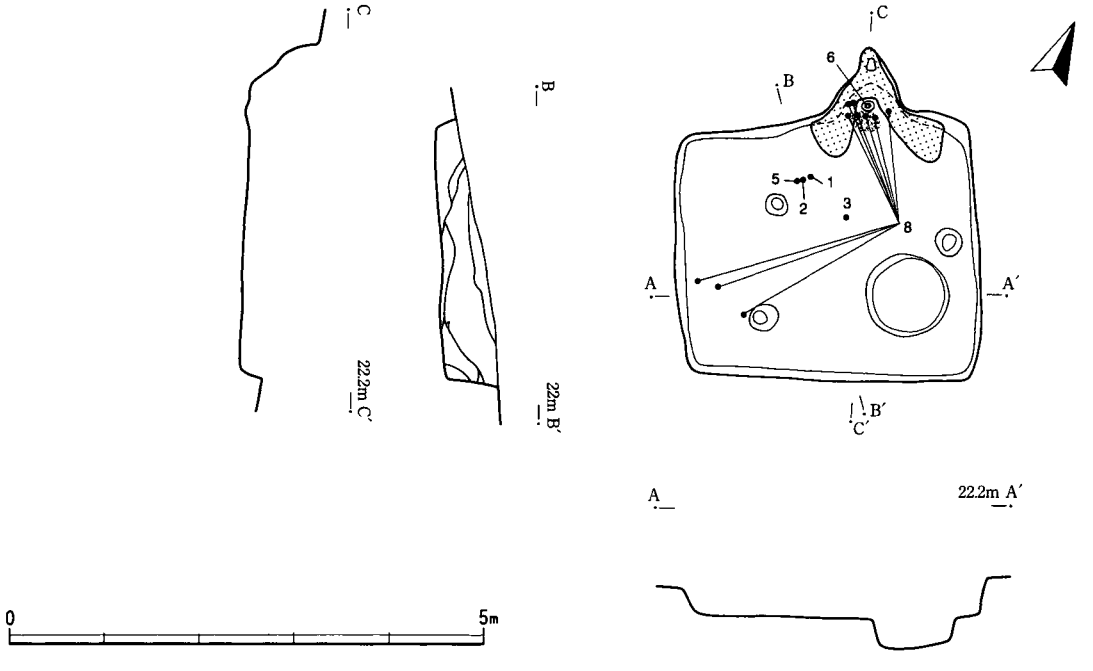
カマドは北西側の壁の東側に寄った位置にある。壁面を三角形に掘り込み，白色粘土によって袖部と天井部を作っている。火床部の範囲は比較的小さいが，深いところまで焼土化が進み，袖部内側にも焼土化した部分がみられる。

遺物の出土量はさほど多くない。6の土師器甕はカマド内の火床面に伏せた状態で出土している。この甕は火熱を受けており，カマドが壊されたような状態ではないことから支脚として使用されていたものと考えられる。1～3の土師器杯と5の土師器高台付杯は床面より高いところから出土している。8の須恵器甕はカマド内と床面付近から出土している。6の土師器甕以外は投棄されたものと考えられる。

073



074



第60図　073・074号竪穴住居跡

2　遺　物

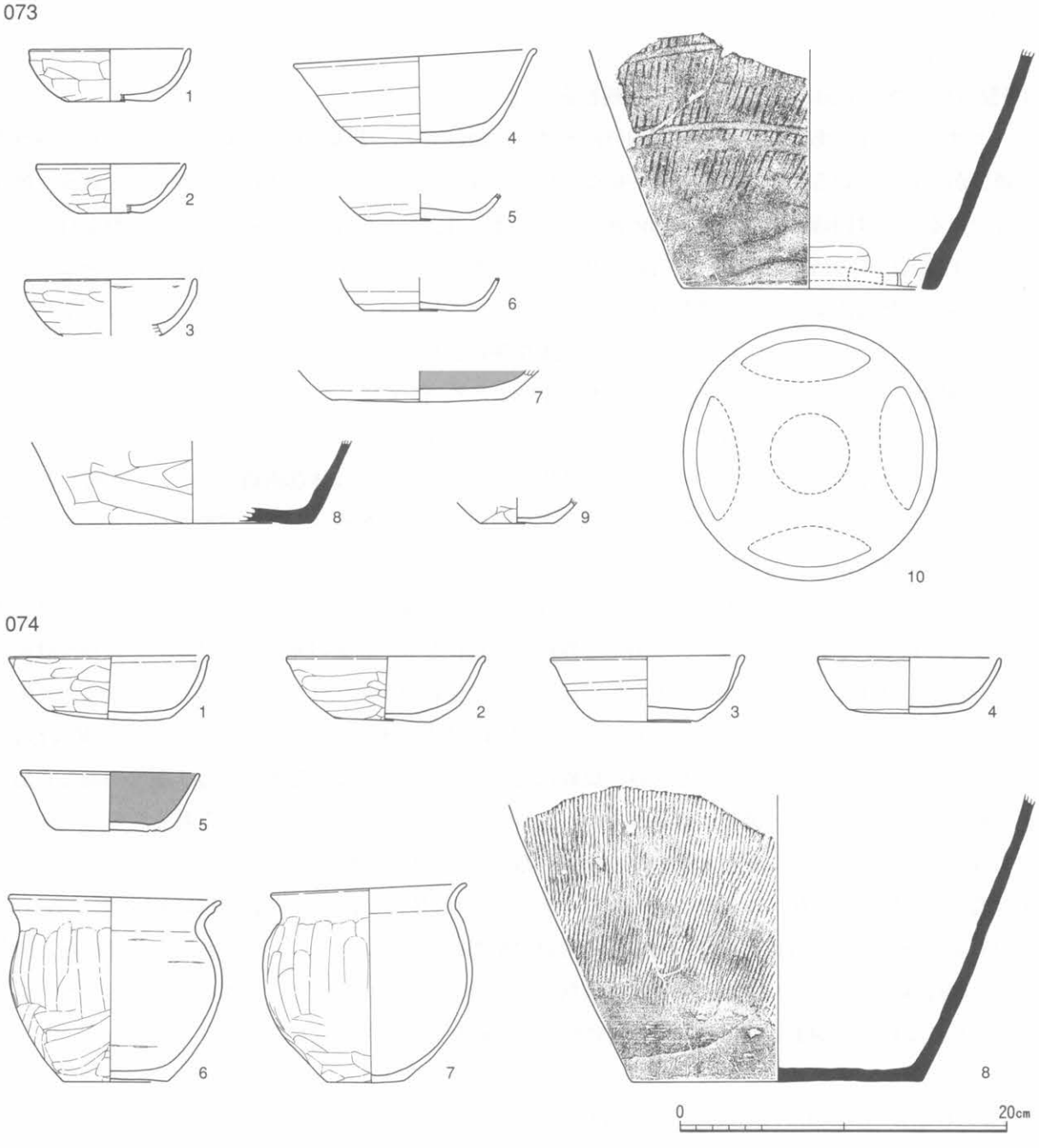
⑴竪穴住居跡

073号竪穴住居跡（第104図，図版77，土器観察表　頁）

1～3は土師器杯である。1は口縁部内外面と体部内面はナデ，体部外面から底部外面は手持ちヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～3㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。2は口縁部内外面と体部内面はナデ，体部外面から底部は手持ちヘケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と2㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。3は口縁部内外面と体部内面はナデ，体部外面は手持ちヘラケズリの後，粗いヘラミガキで，底部は手持ちヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。4～7はロクロ土師器杯である。4は口唇部内外面と体部外面はナデ，体部内面はヘラミガキ調整が行われている。底部は回転糸切り離しの後，周縁部から体部下半部にかけて回転ヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒をわずかに含み，焼成は良好である。5は体部内面はナデ調整が行われている。底部は回転糸切り離しの後，周縁部から体部下半部にかけて回転ヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～5㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6は体部内外面はナデ調整が行われている。底部は回転糸切り離しの後，周縁部から体部下端部にかけて回転ヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～5㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は体部内面はヘラミガキ調整が行われ，黒色処理が施されている。底部は回転糸切り離しの後，周縁部から体部下端部にかけて回転ヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。8は須恵器甕である。胴部内面と底部はナデ，胴部外面はヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。9は小型の土師器甕である。胴部内面と底部ナデ，胴部外面はヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。10は須恵器甑であるが，還元が不十分なものである。底部に楕円形と円形の穴が開けられていたものと思われる。胴部内面と底部はナデ，胴部外面はタタキの後，下半部にヘラ状工具による螺旋状のナデで，下端部は手持ちヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。

074号竪穴住居跡（第104図，図版77，土器観察表232頁）

1・2・4は土師器杯である。1は口縁部内外面と体部内面はナデ，体部外面から底部にかけて手持ちヘラケズリ調整が行われている。口唇部にススの付着がみられる。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。2は口縁部内外面と体部内面はナデ，体部外面から底部にかけて手持ちヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～2㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。4は口唇部内外面と体部内面はナデ，体部外面から底部はヘラケズリの後，ヘラナデ調整が行われ，器表面を平滑に仕上げている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。3はロクロ土師器杯である。口縁部内外面から体部内外面にかけてナデ調整が行われている。底部は回転糸切り離しの後，一方向への手持ちヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1～2㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。5はロクロ土師器高台付杯である。高台は貼り付けで，接合部分から欠損している。貼り付け部分の底部には同心円上の沈

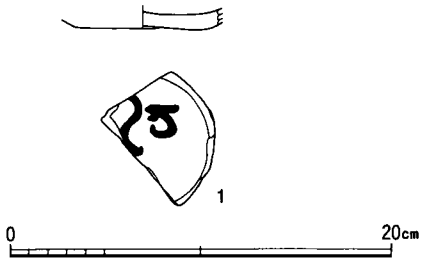


第104図　073・074号竪穴住居跡出土遺物

線が3～4条みられる。体部内面はヘラミガキ調整が行われ，黒色処理が施されている。体部外面はナデ調整が行われている。底部は回転糸切り離しの後，ナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と1～2㎜の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。6，7は小型の土師器甕である。6は口縁部外面に稜を作り出している。口縁部内外面はナデ，胴部内面はヘラナデ，胴部外面はヘラケズリ，底部はヘラケズリの後，ナデ調整が行われている。胴部内外面は火熱を受け，器表面が灰白色に変色している。胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と1㎜前後の赤色のスコリアを含み，焼成は良好である。7は口縁部内外面と胴部内面はナデ，胴部外面と底部はヘラケズリ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と長石粒を含み，焼成は良好である。8は須恵器甕であるが，還元が不十分なものである。胴部外面はタタキの後，下端部は手持ちヘラケズリで，胴部内面と底部はナデ調整が行われている。胎土は乳白色の微細な砂粒と1～5㎜の長石粒を含み，焼成は良好である。

(2)グリッド等出土の遺物（第105図）

1は071号竪穴住居跡から出土したロクロ土師器杯である。復元の底径は7㎝である。底部外面に墨書されている。遺存部分が少なく文字は不明であるが，二文字以上とすると一つは「万」，もう一つは「∽」の記号とも読める。内面はナデ調整が行われ，ススの付着がみられる。底部は回転糸切り離しの後，周縁部から体部下端部にかけて回転ヘラケズリ調整が行われている。色調は褐色で，胎土は乳白色の微細な砂粒，長石粒と赤色のスコリアをわずかに含み，焼成は良好である。



第105図　グリッド等出土の遺物

第５節　その他

１　土坑

出土遺物がなく，時期を特定できず，性格が不明なものをここで取り扱うことにした。

012号土坑（第61図，図版46）

東側調査区のＩ7グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。大きさは長辺約2m，短辺0.9mで，検出面から底面までの深さは0.25mである。底面は平坦である。埋土は暗褐色土を主体とし，底面付近にはローム粒を含んだ黒褐色土が堆積している。

063号土坑（第61図，図版46）

東側調査区のＪ5・K5グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はない。平面形は楕円形である。大きさは長径約１m，短径約0.5mで，検出面から底面までの深さは0.4m前後である。底面は平坦ではない。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土を主体とし，底面付近にはローム粒を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

082号土坑（第61図，図版46）

東側調査区のK3グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は円形に近い。大きさは径0.85m前後で，検出面から底面までの深さは0.3m前後である。底面は鍋底状である。埋土はローム粒と焼土粒を含んだ暗褐色土を主体とし，所々に焼土のブロックがみられる。

083号土坑（第61図，図版47）

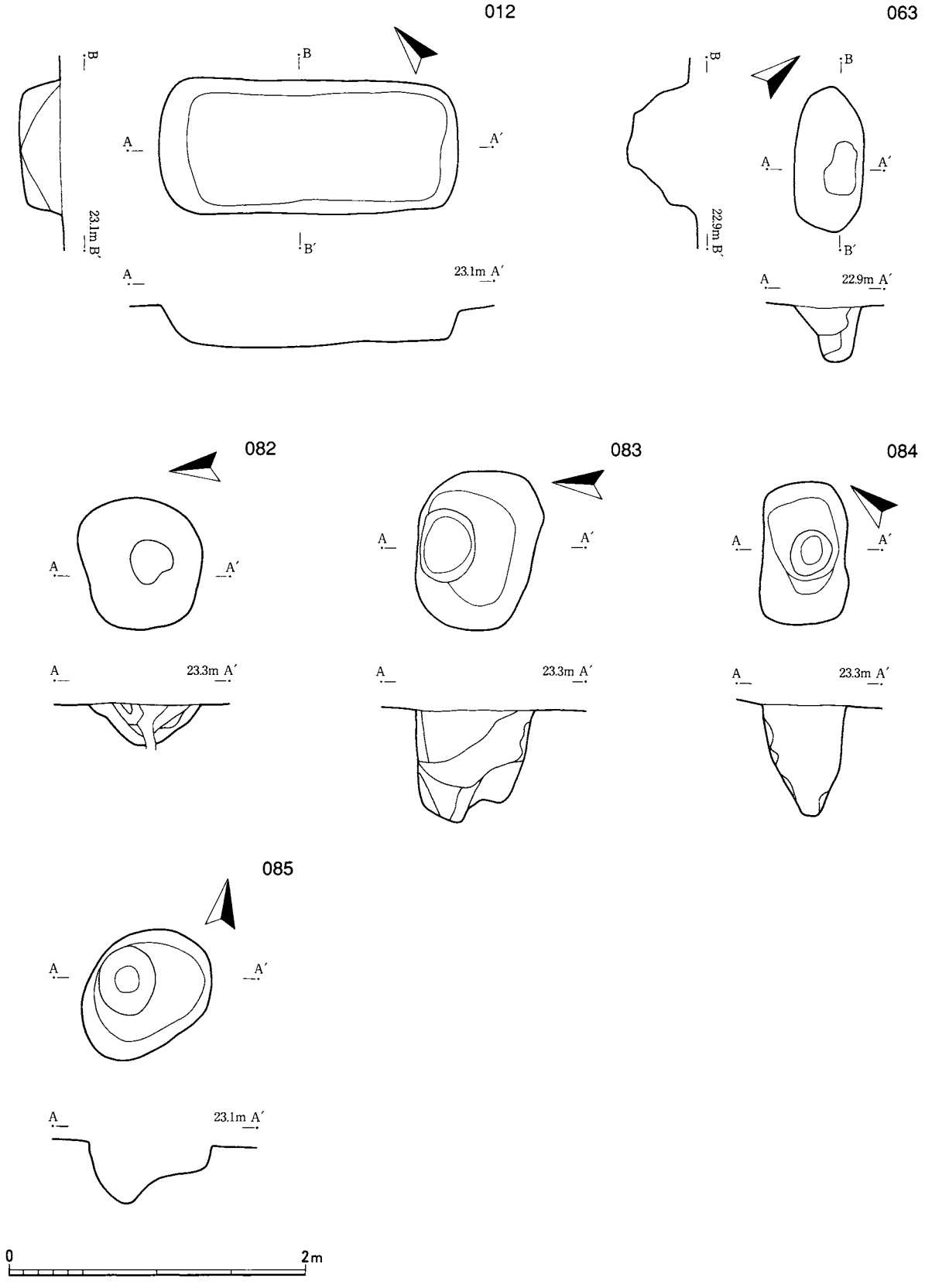
東側調査区のK3グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は楕円形である。大きさは長径1.1m，短径0.8mで，検出面から底面までの深さは0.75m前後である。底面は２段に掘り込まれており，平面形はほぼ円形であるが，平坦ではなく，南側が深くなっている。埋土はローム粒とロームブロックを含んだ黒色土を主体とし，その上に多量のローム粒とロームブロックを含んだ黒褐色土が堆積している。底面付近にはローム粒やロームブロックを多量に含んだ暗褐色土が堆積している。

084号土坑（第61図，図版47）

東側調査区のK3グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は長方形である。大きさは長辺0.95m，短辺0.6m前後で，検出面から底面までの深さは0.75mである。底面は小さく，断面形は円錐形である。埋土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土を主体とし，ローム粒を多量に含んだ暗褐色土が部分的に堆積している。

085号土坑（第61図，図版47）

東側調査区のＪ4グリッドの位置にある。重複する遺構はない。平面形は楕円形である。大きさは長径1m，短径0.75mで，検出面から底面までの深さは0.4mである。底面は２段に掘り込まれている。埋土は黒色土の単一な土層が堆積している。



第61図　012・063・082・083・084・085号土坑

2　土坑列

5条の土坑列が検出できた。いずれの土坑列からも遺物は出土していない。094・095号土坑列は，検出面から底面までの深さはさほど深くないが，配列の状況から唐沢シシアナ遺跡，石頭第2遺跡の土坑列と同様に，近世に作られた動物の進入を防ぐためのものと考えられる。098・100号土坑列も検出面から底面までの深さはさほど深くないが，割野遺跡の土坑列と同様に，近世に作られた動物の進入を防ぐために作られたものと考えられる。090-3号土坑列は他の4条の土坑列とは状態が異なり，性格は不明である。

090-3号土坑列（第5図）

東側調査区のH8・I8グリッドにまたがった位置にある。重複する遺構はない。径0.5m前後の円形で，検出面からの深さが0.2m前後の土坑3つがほぼ東西方向に並んでいる。土坑の間隔は検出面の上端部で0.9mである。埋土はローム粒を含んだ黒褐色土や暗褐色土が堆積している。

094号土坑列（第5図，図版48）

西側調査区のQ8・R8グリッドにまたがった位置にある。108号竪穴住居跡と重複し，新旧関係は本土坑列が新しい。長さ約13mにわたって検出することができた。土坑の平面形は長楕円形である。大きさは大小があるが，長径1.5～2m，短径0.5m前後の長楕円形で，検出面から底面までの深さは0.1～0.35mである。底面は平坦ではなく，凹凸がある。土坑の間隔は検出面の上端部で0.1～0.2mと近接している。埋土はいずれの土坑も黒褐色土が堆積しており，柔らかい感じである。

095号土坑列（第5図，図版48）

西側調査区のQ8・R8グリッドにまたがった位置にある。108号竪穴住居跡と重複し，新旧関係は本土坑列が新しい。084号土坑列と平行して延びている。長さ約10mにわたって検出することができた。土坑の平面形は長楕円形である。大きさは大小あるが，長径2.3～2.9m，短径0.5m前後で，検出面から底面までの深さは0.15～0.25mである。底面は平坦ではなく，中央部分が深くなっている。土坑の間隔は検出面の上端部で0.5～1mである。埋土はいずれもローム粒を少量含んだ黒褐色土が堆積しており，柔らかい感じである。

098号土坑列（第5図，図版48）

西側調査区のP6・Q7・Q8グリッドにまたがった位置にある。096号溝と平行して，南西から北東方向に向かって直線的に延びている。重複する遺構はないが，部分的に攪乱によって破壊されている。長さ約25mにわたって検出することができた。南北両方向とも調査区外に延びていると考えられる。大きさは径0.7m～1mの円形で，検出面からの深さは0.2～0.3mである。土坑の間隔は検出面の上端部で0.6m前後である。埋土はいずれも黒褐色土が堆積しており，柔らかい感じである。

100号土坑列（第5図，図版48）

西側調査区のP6・P7・Q7・Q8グリッドにまたがった位置にある。099号溝と平行して，南西から北東方向に向かって直線的に延びている。重複する遺構はないが，部分的に攪乱によって破壊されている。

長さ約23mにわたって検出することができた。北側は特に攪乱が著しく，土坑は１つしか検出できなかった。098号土坑列と同様に南北両方とも調査区外に延びていると考えられる。大きさは1.2～1.5mの円形で，検出面からの深さは0.3m前後である。土坑の間隔は検出面の上端部で0.2～0.5mである。埋土はいずれも黒褐色土が堆積しており，柔らかい感じである。

3　溝

14条の溝が検出できた。溝の方向は南西から北東に延びる037・090-1・090-2・096・097・099・099A・111A・111B号の９条と北西から南東に延びる038・078・079・099B・107号の５条に分けることができる。また，107・111A・111B号の３条は底面に土坑列が伴っている。これらの溝からは若干の遺物は出土しているが，竪穴住居跡と重複していることによるもので，これらの溝に伴う遺物はない。これらの溝は方向がほぼ一定していることなどから，耕作地の境を区画する溝と考えられる。

037号溝（第５図）

東側調査区のＩ４・Ｊ５・Ｊ６・Ｊ７・Ｋ７グリッドにかけて，南西から北東方向に向かって直線的に延びている。長さ約70mにわたって検出することができた。北側は途中で検出できなかったが，本来は更に北側に延びるものと考えられる。幅は0.2～2mで，検出面からの深さは深いところで0.5m前後である。

038号溝（第５図）

東側調査区のＫ６・Ｋ７・Ｌ６・Ｍ６グリッドにかけて北西から南東の方向に向かって直線的に延びている。東側は037号溝で止まっているが，西側は調査区外に続いているものと考えられる。長さ約60mほど検出することができた。幅は0.6～0.8mである。

078号溝（第５図）

東側調査区のＧ５・Ｇ６・Ｈ５・Ｈ６・Ｉ５グリッドにかけて北西から南東方向に向かって直線的に延びているが，東側端部で北東方向に向きを変えている。西側は037号溝とつながっている。長さ約50mにわたって検出することができた。東側は谷に続いているものと思われる。幅は0.7m前後で，検出面からの深さは0.55m前後である。

079号溝（第５図）

東側調査区のＩ３・Ｉ４・Ｊ３・Ｋ３・Ｌ３グリッドにかけて北西から南東方向に向かって直線的に延びている。調査区の境に沿って延びているために，北側の溝の上端部は検出できなかった。長さ約70mにわたって検出することができたが，半分ほどの調査であるため，幅や深さは不明である。

090-1・090-2号溝（第５図）

東側調査区のＨ８グリッドの位置にある。南西から北東方向に直線的に延びている。調査時点では別々の遺構番号を付けているが，同一の遺構で，途中が切れているものと考えられる。長さ約20mにわたって検出することができた。幅1m前後で，検出面からの深さは0.1～0.15mである。

096・097号溝（第５図，図版48）

西側調査区のQ7・Q8・R8グリッドにかけて南西から北東方向に直線的に延びている。調査時点では別々の遺構番号を付けているが，同一の遺構で，途中が切れているものと考えられる。南側は溝の上端部を検出することができたので，調査した範囲内で終わっている。北側は現道の下に延びていると考えられるが，099B号溝より北側では検出できなかったので，099B号溝につながるものと考えられる。長さ約34ｍにわたって検出することができた。幅は0.8～１ｍで，検出面からの深さは0.4～0.55ｍである。

099・099A号溝（第５図，図版48）

西側調査区のP6・P7・Q7・Q8グリッドにかけて南西から北東方向に直線的に延びている。調査時点では別々の遺構番号を付けたが，同一の遺構である。南北両方向とも調査区外に延びているものと考えられる。途中は現道の下にあるために調査できなかったが，長さ約53ｍにわたって検出することができた。幅１ｍ前後で，検出面からの深さは0.4～0.6ｍである。

099B号溝（第５図，図版48）

西側調査区のQ6・Q7グリッドにかけて北西から南東方向に直線的に延びている。西側は溝の上端部を検出できたので，調査した範囲内で終わっている。東側は現道の下に延びているが，P7グリッド付近では検出できなかったので，現道の下で097号溝とつながるものと考えられる。長さ約15ｍにわたって検出することができた。幅１ｍ前後で，検出面からの深さは0.2ｍ前後である。

107号溝（第５図，図版48）

西側調査区のW11・X10・X11グリッドにかけて北西から南東方向に直線的に延びている。東西両側は調査区外に延びているものと考えられる。長さ約13ｍにわたって検出することができた。幅1.8ｍで，検出面からの深さは0.3ｍ前後で，底面に土坑列がみられる。土坑は径0.4～1.2ｍの円形又は楕円形で，溝の底面からの深さ0.1～0.2ｍである。土坑の間隔は溝底面の上端部で，0.8ｍ前後である。

111A・111B号溝（第5図，図版48）

西側調査区のU9・U10・V10グリッドにかけてとS6・S7グリッドにかけての位置で検出できた。いずれも南西から北東方向に直線的に延びている。調査時点では別々に遺構番号を付けたが，同一の遺構である。南北両側は調査区外に延びているものと考えられる。111Aと111Bの間は現道の下にあり，つながっているものと考えられる。長さは111Aが約20ｍ，111Bが約14ｍにわたって検出することができたが，現道の下も含めると約50ｍほどになる。溝の幅は2ｍ前後で，検出面からの深さは0.4～0.6ｍ前後で，底面に土坑列がみられる。土坑は径0.7ｍ前後の円形で，溝の底面からの深さ0.15ｍ前後である。土坑の間隔は溝底面の上端部で，0.5ｍ前後である。

第10表　竪穴住居跡計測表

復元：（　）長さ・深さ：m　面積：㎡

遺構番号	長軸長×短軸長	炉位置	床面積	柱内面積	壁高	主柱穴			備　考
					最大～最小	本数	最大径～最小径	最深～最浅	
002	5.1 × 4.86	北西	22.26	5.43	0.34 ～ 0.2	4	0.3 ～ 0.21	0.46 ～ 0.36	貯蔵穴2
004	2.9 × 2.26			5.5	0.12 ～ 0.07		～	～	貯蔵穴1，ピット2
005	5.49 × 4.76	西	21.86	6.42	0.49 ～ 0.31	4	0.29 ～ 0.13	0.54 ～ 0.5	貯蔵穴1
006	4.04 × 3.56	北東	12.64		0.15 ～ 0.12		～	～	
007	3.93 ×	北			0.21 ～ 0.09		～	～	貯蔵穴1
008	5.8 × 5.72	北西	27.48	10.37	0.57 ～ 0.41	4	0.35 ～ 0.24	0.55 ～ 0.5	貯蔵穴1
009	5.13 × 4.4	西	18.33		0.2 ～ 0.09		～	～	貯蔵穴2，ピット2
013	4.3 × 4.29	南	16.95		0.12 ～ 0.05		～	～	貯蔵穴1，ピット1
014	6.43 × 3.19	南東	17.88		0.12 ～ 0.1		～	～	
016	5.18 × 4.59	北西	20.48		0.29 ～ 0.2		～	～	貯蔵穴1，ピット1
017	5.37 × 4.8	北	19.7	6.39	0.53 ～ 0.33	4	0.45 ～ 0.25	0.66 ～ 0.53	ピット1
018	5.51 × 4.5	北			0.23 ～ 0.16		～	～	貯蔵穴1
019	4.51 × 4	西	12.04		0.32 ～ 0.31		～	～	ピット1
020	4.86 × 4.48	北	19.83		0.22 ～ 0.16		～	～	貯蔵穴1
021	3.57 × 3.3	北西	10.28		0.11 ～ 0.08		～	～	ピット1
022	3.54 × 3.62	北西	11.56		0.16 ～ 0.06		～	～	ピット2
023	5.2 × 4.63	南西	22.06	4.18	0.27 ～ 0.17	4	0.37 ～ 0.33	0.94 ～ 0.77	貯蔵穴1，ピット1
024	4.59 × 4.3	北西	17.52	3.28	0.3 ～ 0.22	4	0.53 ～ 0.32	0.61 ～ 0.45	貯蔵穴1
025	4.03 × 3.6	北	13.23		0.22 ～ 0.14		～	～	
026	8.23 × 6.52	北西	46.15	13.96	0.51 ～ 0.32	4	0.69 ～ 0.35	0.77 ～ 0.7	貯蔵穴1
027	8.93 × 7.18	北東	54.14	22.85	0.24 ～ 0.15	4	0.41 ～ 0.19	0.54 ～ 0.4	貯蔵穴1，炉4（炉1･炉2:北東，炉3:東，炉4:南西）
028	5.54 × 4.84	北	22.15	6.77	0.35 ～ 0.31	4	0.35 ～ 0.19	0.7 ～ 0.66	貯蔵穴3，ピット1
029	3.44 × 3.38	北	10.22	0.15	～ 0.06		～	～	貯蔵穴1，ピット1
030	3.98 × 3.94	北	13.94		0.16 ～ 0.12		～	～	
031	5.38 × 4.56	西	21	4.38	0.41 ～ 0.21	4	0.67 ～ 0.24	0.6 ～ 0.51	貯蔵穴1，ピット2
032	5.84 × 5.22	西	25.48	6.83	0.34 ～ 0.15	4	0.62 ～ 0.25	0.72 ～ 0.58	貯蔵穴1
033	4.5 × 4.42	北東	17.93		0.15 ～ 0.04	3	0.85 ～ 0.44	0.38 ～ 0.26	ピット1，炉2（炉1:北東，炉2:中央）
034	3.17 × 2.7	北	7.09		0.28 ～ 0.24		～	～	ピット1
035	4.38 × 3.79	北西	13.63	3.62	0.4 ～ 0.2	4	0.22 ～ 0.17	0.48 ～ 0.38	ピット1
036	5.15 × 4.42	北	17.3		0.4 ～ 0.31		～	～	貯蔵穴1
039	6.58 × 5.29	西	28.04		0.4 ～ 0.27		～	～	貯蔵穴1，ピット4
040	6.75 × 6.06	北	32.67	10.95	0.58 ～ 0.28	4	0.33 ～ 0.21	0.6 ～ 0.46	貯蔵穴1，ピット1

042		×					0.38	～	0.3			～			～		炉あり
043	3.56	×	3.26	北	9.69		0.3	～	0.18			～			～		貯蔵穴1，ピット2
044	6.29	×	5.39	北東	31.73		0.3	～	0.16			～			～		貯蔵穴2，ピット2
045	6.7	×	6.11	北西	35.21	11.6	0.47	～	0.3	4	0.49	～	0.32	0.72	～	0.55	貯蔵穴1
046	3.74	×	3.46	南西	11.34		0.34	～	0.24	3	0.63	～	0.23	0.22	～	0.18	
047	7.81	×	7.05	中央	50.79	17.98	0.34	～	0.22	4	0.63	～	0.41	0.75	～	0.55	貯蔵穴1，ピット1，炉2（炉1:中央，炉2:北西）
048	3.44	×	3.27		9.02		0.14	～	0.1			～			～		貯蔵穴2，ピット5
049	9.04	×		東			0.81	～	0.5	2	0.34	～	0.26	0.86	～	0.79	貯蔵穴1，ピット2，炉2（炉1・2：東）
050	8.73	×	7.6	北西	56.29	20.6	0.56	～	0.4	4	1.03	～	0.56	0.97	～	0.83	貯蔵穴1，ピット3
052	2.85	×	2.84		6.8		0.14	～	0.09			～			～		ピット3
053	3.52	×	3.05	西	9.3		0.29	～	0.24			～			～		貯蔵穴1
054	5.18	×	4.39	北東	19.4		0.26	～	0.18			～			～		ピット2，炉4（炉1:北東，炉2･炉3:中央，炉4:南東）
055	4.28	×	4.05	北	15.1		0.43	～	0.34			～			～		貯蔵穴1，ピット1
056	3.38	×	3.16	西	8.14		0.44	～	0.36			～			～		貯蔵穴1，ピット1
057	3.04	×	2.94		6.9		0.17	～	0.11			～			～		ピット2
058	5.48	×	5.1	北	22.65		0.3	～	0.17			～			～		ピット6
059	2.84	×	2.68	西	6.2		0.07	～	0.04			～			～		ピット2
061	4.16	×	3.75	北西	14.02		0.2	～	0.12			～			～		貯蔵穴1
062	5.64	×	5.48	北	23.09	8.34	0.36	～	0.24	4	0.59	～	0.3	0.61	～	0.55	貯蔵穴1，ピット1
064	3.83	×	3.78	北西	12.78		0.24	～	0.16			～			～		
065	5.12	×	5.07	西	21.34	8.06	0.51	～	0.4	4	0.41	～	0.31	0.51	～	0.46	貯蔵穴1
066	3.82	×	3.31	北西	11.33		0.26	～	0.18			～			～		貯蔵穴1
067	3.72	×	3.7				0.1	～	0.09			～			～		
068	4.73	×	3.98	北	17.17		0.39	～	0.27			～			～		貯蔵穴1，ピット1
069	3.26	×	3.14	南西	8.84		0.14	～	0.12			～			～		
070	3.55	×	3.35	北東			0.16	～	0.11			～			～		貯蔵穴1
071	4.5	×	4.17	北	14.89	3.97	0.44	～	0.18	4	0.23	～	0.17	0.54	～	0.42	貯蔵穴1
072	4.1	×	4.08	北西	15.12		0.13	～	0.04			～			～		貯蔵穴2，ピット3
073	2.29	×	2.69		6.61		0.45	～	0.14			～			～		北西側壁の中央にカマド
074	3.2	×	2.81		7.31		0.54	～	0.21			～			～		北側壁の東寄りにカマド，貯蔵穴1，ピット3
076	4.54	×	4	北東	16.01		0.3	～	0.15			～			～		貯蔵穴1，ピット2
077	5.68	×		北			0.43	～	0.34	2	0.28	～	0.23	0.35	～	0.28	貯蔵穴1，ピット1
086		×						～				～			～		床面のみ残存，貯蔵穴1
087	3.45	×					0.22	～	0.05			～			～		
088		×					0.48	～	0.4			～			～		
089	5.18	×	4.96	北西	20.91	4.95	0.26	～	0.14	4	0.69	～	0.45	0.6	～	0.56	貯蔵穴1，ピット8

091	8.62	×	6.44	北東	46	14.71	0.37	～	0.2	4	0.38	～	0.14	0.73	～	0.67	貯蔵穴1,ピット11,炉5（炉1:北東,炉2:中央,炉3:北西,炉4･炉5:西）
092	10.06	×	8.19	北	69.93	29.09	0.24	～	0.06	4	0.9	～	0.46	1.04	～	0.6	ピット5,炉6（炉1:北,炉2:北東,炉3:中央,炉4:西,炉5･炉6:南西）
093		×					0.37	～	0.31			～			～		ピット4
101A	4.4	×					0.28	～	0.2			～			～		
101B		×					0.32	～	0.28			～			～		
103	4.35	×	4.06	北西	15.04		0.14	～	0.12			～			～		ピット1
104	3.69	×	3.08	北	9.76		0.42	～	0.36			～			～		貯蔵穴1
105	4.99	×	4.73	北東	19.4	4.77	0.31	～	0.27	4	0.56	～	0.3	0.64	～	0.32	貯蔵穴1，ピット1，炉2（炉1:北東，炉2:東）
106	3.75	×	3.54	中央	11.69		0.06	～	0.05			～			～		
108	3.91	×	3.86	北西	13.45		0.21	～	0.16			～			～		
109	5.78	×	4.87	北西	21.58	5.52	0.29	～	0.15	4	0.34	～	0.19	0.46	～	0.22	貯蔵穴1，ピット1
110	6.03	×	5.01	南	24.53		0.34	～	0.23			～			～		貯蔵穴1，ピット6
112	3.29	×	3.28	北	8.87		0.39	～	0.32			～			～		ピット1
119	3.67	×	3.56	北	9.5		0.27	～	0.16			～			～		ピット4
120	2.67	×	2.58		5.52		0.15	～	0.06			～			～		ピット4
121	3.12	×	2.73		7.09		0.24	～	0.16			～			～		ピット5（貼床の下に3）
123	8.58	×	8.5		66.55	21.05	0.38	～	0.3	4	0.35	～	0.21	0.65	～	0.53	ピット1

第11表　古墳時代前期竪穴住居跡出土土器観察表

復元：（　）　現存［　］　口径・底径・器高：cm　遺存度：%　器高は最大値

遺構番号	挿図番号	実測番号	器種名	遺存度	口径	底径	器高	色調	備考	遺物番号
002	1	6	蓋	90		(4.4)	1.95	赤褐色	外面赤彩	5
	2	5	ミニチュア	100	5.9	4	6.4	明黄褐色	赤彩（台部内面除く）	1
	3	4	小型坩	100	6.2	1.5	3.4	明黄褐色	赤彩	3
	4	1	甕	90	19.2		[21.2]	明褐色		4
	5	2	甕	25	(18.8)		[5]	暗褐色	被熱	4
	6	3	台付甕	10		9	[5.85]	暗黄褐色		2,4
004	1	1	高杯	50	20		[6.2]	黄褐色	被熱	3
	2	2	高杯	100	18.8	11.8	13.7	明褐色	被熱,3孔	2
	3	3	器台	50	7.6		[2]	明黄褐色		4
	4	4	甕	10	(21.2)		[4.05]	灰褐色		1
005	1	7	壺	30	17.95		[6.1]	黄褐色	被熱	10
	2	4	壺	30	13		[4.95]	明黄褐色		13
	3	9	壺	60		8	[14]	黄褐色		12
	4	2	壺	10		4.7	[3.3]	黄褐色	被熱,スス付着	7
	5	18	壺	20	(17.1)		[8.5]	明褐色		2,18,19
	6	15	壺	20	(16.6)		[5.05]	暗褐色	赤彩	10,18
	7	3	小型壺	100	7.6	3.1	9.7	黄褐色		11
	8	22	ミニチュア	80	(5)	2.4	6.5	灰褐色		6,16
	9	12	高杯	20	(15.5)		[5.1]	赤褐色	赤彩	3,18
	10	13	器台	30		(10.35)	[5.9]	黄褐色	3孔	7
	11	1	甕	20	(16.9)		[7.4]	黄褐色	スス付着	7
	12	5	甕	10	(19.9)		[4.4]	明褐色		3,19
	13	10	甕	40	(17.9)		[14.3]	黄褐色		2,7,17,19
	14	17	甕	100	14.8	3.4	11.7	暗褐色		14
	15	20	甕	10		(7)	[1.4]	黒褐色		2
	16	16	甕	10		(6.8)	[2.15]	暗褐色	被熱	6
	17	21	甕	10		(6)	[1.45]	赤褐色		1
	18	14	甕	10		4.25	[1.8]	黄褐色	スス付着	2
	19	19	甑	95	21.95	5.1	12.6	赤褐色	1孔	15,18
006	1	3	壺	40			[9.2]	黄白色		1
	2	1	甕	10	(14.8)		[2.7]	赤褐色		1,3,12
	3	2	甕	20	(18.6)		[6.6]	暗褐色		9
	4	4	高杯	20			[4.4]	黄褐色	外面赤彩,3孔	9
007	1	2	壺	30	16.75		[6.3]	赤褐色		1,8
	2	3	壺	20	14.1		[6]	黄褐色		7
	3	5	壺	40	17.45		[14.7]	灰褐色	口縁部内面と外面赤彩,口縁部内面網目状撚糸文様	3,8

	4	6	壺	10		3.5	[2.15]	赤褐色		1
	5	8	ミニチュア	30		2.2	[1.3]	黒褐色		8
	6	7	壺	60	12.6		[12.75]	茶褐色	口縁部内面と外面赤彩	4,8
	7	1	甕	10	(20.8)		[3.3]	暗褐色	被熱	1
	8	4	甕	30	(12)		[8.2]	赤褐色		1
	9	11	甕	95	19.5	7.6	23.5	赤褐色	外面スス付着	4,8
	10	9	甕	60	(17.6)	6.4	20.1	黒褐色		4,8
	11	10	甕	70	16.3	6.2	22.05	暗褐色	被熱	4,5,6,8
	12	12	甕	70	18	6.2	21.7	茶褐色	外面スス付着	4,8
008	1	7	壺	60	(16.9)		[25.5]	黄白色		1,6,7,11
	2	5	壺	20			[4.7]	暗褐色	被熱	5
	3	1	小型坩	90	(13.25)	3.3	7.15	暗灰色	体部下位に焼成後穿孔	9
	4	2	小型坩	90	(13.4)		6	黄褐色		1,3
	5	3	鉢	100	8.5	2.5	4.2	黄褐色		4
	6	4	器台	20		(10.7)	[3.2]	茶褐色	被熱,3孔?	7
	7	6	甕	20	(16.8)		[11.1]	黄褐色	被熱	1
009	1	1	壺	90	(11.4)	4.95	18.4	黄褐色	焼成後2孔	1
	2	2	壺	20		3	[3.25]	黄褐色	外面赤彩	11
	3	8	壺	20		3.9	[2.8]	赤褐色		3
	4	3	器台	70	(6.9)	(9.25)	7.4	黄褐色	脚部4孔	7,9
	5	4	器台	20	(7.8)		[2.25]	黄褐色	被熱	7,9
	6	5	鉢	30		(3.8)	[3.35]	暗赤褐色		9
	7	11	甕	95	16	6.6	23.6	赤褐色		3,6,14
	8	7	甕	70	13.5	6	14.5	暗赤褐色		4,5,6
	9	6	甕	40	(13.2)		10.8	赤褐色		6,7,9
	10	10	台付甕	70	17.1	9.1	26.7	黒褐色	スス付着	2,5,6,12,14,7J-25-1
	11	12	台付甕	60	16.5		[20.2]	灰褐色		3,6,14
016	1	1	壺	30	12.1		[4]	褐色		11
	2	4	壺	30	(14.2)		[7.05]	灰黄褐色		9
	3	3	壺	60		3.8	[12.6]	暗褐色	外面赤彩	4
	4	20	小型坩	90	16.2	4.6	10.4	黄褐色	赤彩	8
	5	12	小型坩	10		3.8	[1.65]	赤褐色		21
	6	10	小型坩	10		(2.7)	[1.1]	暗褐色		6
	7	15	高杯	60	12.8		[7.8]	黄褐色	3孔(残存2孔)	6,35
	8	16	高杯	20		[3.7]	暗褐色		杯部焼成後に割れ口?	2
	9	19	器台	15		[2.6]	赤褐色	3孔(残存1孔)		2
	10	18	器台	40		11.5	[3]	褐色	4孔(残存2孔)	2,5
	11	17	高杯	40		(18.9)	[4.1]	褐色	4孔(残存2孔)	4,5,6,7
	12	5	甕	10	(12.85)		[4.25]	褐色		5,6,7
	13	2	甕	10	12.8		[4.75]	黄褐色		9,24

	14	6	甕	10	(16)		[4.9]	赤暗褐色		2
	15	8	甕	20	(22.3)		[12.25]	黄褐色		5
	16	7	甕	30	17.2		[14.8]	褐色	被熱	2,4,5
	17	9	甕	30			[14.5]	褐色		2,5,6
	18	13	甕	5		6.8	[19.5]	赤褐色	被熱	4
	19	14	甕	5		(6.8)	[2.3]	褐色	内面スス付着	6,7
	20	11	台付甕	10		9.2	[6.5]	灰褐色	被熱	2
	21	21	甕					褐色	弥生式土器	2
	22	22	甕	5		(6.8)	[2]	暗褐色	弥生式土器,木葉痕	2
017	1	1	壺	20	(10.4)		[7.9]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	3,8
	2	4	壺	20			[10.7]	赤褐色	外面赤彩	3,8
	3	2	壺	15	(15.15)		[7.55]	赤褐色		3
	4	15	壺	20		2.2	[2]	赤褐色	焼成後穿孔	8
	5	7	甕	30	18.8		[12.4]	赤褐色		3,4,8
	6	6	甕	40			[15.9]	褐色	外面スス付着	5,6,8,9,11
	7	5	甕	70	(15.2)		[18.3]	褐色		3,7,9
	8	9	台付甕	5			[3.7]	褐色		9
	9	12	甕	5		6.8	[1.9]	暗赤褐色		11
	10	14	甕	5		5.2	[1.9]	赤褐色		5,7,8
018	1	2	壺	10	15.55		[6.3]	暗茶褐色		3,6,7
	2	1	壺	20	14.95		[5.9]	赤茶褐色		2,5
	3	4	壺	15	16.6		[7.8]	赤褐色	赤彩	2,5,6,7
	4	3	壺	20	9.5		[5.6]	赤褐色	赤彩	7,11
	5	14	壺	5			[3]	茶褐色	赤彩	2
	6	5	壺	10	(8.4)		[4.3]	赤褐色	赤彩	2,6
	7	6	壺	60		7	[30.4]	赤褐色		2,5
	8	20	壺	10		4.4	[2]	赤褐色		7
	9	25	壺	5		(8)	[1.4]	赤褐色		2
	10	19	小型坩	10		2.6	[2]	暗褐色		5
	11	12	高杯	20	(12.9)		[4.05]	赤褐色		5
	12	11	高杯	20			[5.9]	茶褐色	3孔	12
	13	7	器台	60	8.45		[3.6]	赤褐色	器受部内面と外面赤彩	8
	14	8	器台	60		10.45	[7.7]	赤褐色	3孔	13
	15	9	器台	60		12	[6.6]	赤褐色	3孔	6,7
	16	33	甕	30	(22)		[19.1]	暗褐色		1,5
	17	32	甕	40	(17.4)	6.2	[26.4]	黒褐色	スス付着	口縁部:1,2,5　胴部:1,5
	18	15	甕	20	24.6		[13.7]	暗褐色		2,5,6
	19	16	甕	20	(12.7)		[9.2]	赤褐色		2,3
	20	31	台付甕	30		7.2	[14.3]	赤褐色		2,5,14
	21	13	台付甕	5			[3.5]	暗褐色		10

	22	24	甕	5		(8.9)	[3.2]	暗褐色	2
	23	23	甕	5		6.8	[4.1]	赤褐色	7
	24	22	甕	5		6	[2.4]	赤褐色	2
	25	21	甕	5		7.6	[1.4]	暗茶褐色	2
019	1	7	壺	40	(16.5)		[15.75]	赤暗茶褐色	1,2,4,9,6K-80-1
	2	7'	壺	20	(15)		[8.6]	灰褐色	スス付着 2,4,5
	3	1	壺	70	12.65	2.9	9.4	暗茶褐色	2
	4	11	壺	10		(7.2)	[5.3]	赤褐色	外面赤彩 2
	5	2	壺	20	(9.2)		[4.8]	赤褐色	2
	6	12	壺	10		(4.8)	[4.9]	褐色	2
	7	8	小型坩	20	(19.9)		[4.9]	赤暗褐色	4
	8	13	小型坩	5			[1.3]	赤茶褐色	4
	9	14	ミニチュア	95	(5.5)	3.4	3.7	赤褐色	9
	10	15	高杯	10			[2.85]	褐色	4
	11	16	高杯	10			[3]	赤褐色	2
	12	4	甕	10	(15.2)		[4.3]	黒褐色	4
	13	10	甕	10		(5.4)	[3.65]	赤暗褐色	4,5
	14	3	小型台付甕	90	9.35	6.1	[16.7]	赤褐色	2,4,6,7
	15	9	甑	10		(5.4)	[5.6]	赤褐色	焼成前穿孔 2,4
020	1	2	壺	20			[10.75]	褐色	網目状撚糸文様 3
	2	1	甕	30	17.2		[11.5]	赤褐色	3,7
	3	3	壺	5			[2.8]	褐色	3
	4	4	壺	5		(8.4)	[1.9]	褐色	3,8
	5	5	器台	35	8.6		[2.9]	褐色	3
021	1	8	壺	95	10.3	2.5	16	赤褐色	被熱,口縁部内面と外面赤彩 4
	2	14	甕	60	15.4		[16]	黒褐色	被熱,スス付着 1,2,7
	3	3	甕	20	(17.75)		[11.7]	赤褐色	2,7,11,13
	4	2	甕	20	16.55		[9.3]	赤褐色	2,3,14,15
	5	1	甕	10	(17.6)		[3.4]	褐色	17,6J-50-0001
	6	6	甕	10		(7.2)	[4]	茶褐色	3,13
	7	15	甕	10		8.1	[5.55]	暗茶褐色	3,6,020-3
	8	11	台付甕	15		9.85	[9.4]	茶褐色	被熱 2,8
	9	5	甕	90	(20)	6.2	23.3	淡茶褐色	被熱,スス付着,木葉痕 2,14
	10	9	器台	20	(7.2)		[2.2]	赤褐色	赤彩 15
	11	12	器台	40		10.95	[6.9]	明茶褐色	3孔 1,11,12
022	1	4	壺	40		5.5	[10.9]	赤褐色	1,3
	2	1	甕	5		(6)	[1.3]	褐色	1
	3	2	甕	5		(5.6)	[1.5]	褐色	1
	4	3	器台	40	(6.4)		[5.8]	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,1孔残存 1
023	1	1	壺	60		5	[12.7]	黒赤褐色	頸部内面と外面赤彩,スス付着,焼成前穿孔(1孔) 6

	2	3	壺	50	(9.9)		[6.5]	黒赤褐色	赤彩	8
	3	6	器台	70	8.4	11.2	7.8	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,3孔	1,3,5
	4	5	器台	95	7.9	10.45	7.4	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,3孔	2
	5	9	甕	90	19.2	5.85	24	黒褐色	被熱,外面スス付着,木葉痕	1,5
	6	8	甕	95	14.25	5.1	14.3	赤褐色		1,4,11
	7	10	甕	95	14.8	5.3	19.2	茶褐色		1,7
	8	7	台付甕	10		8.65	[4.85]	赤褐色		9
024	1	1	壺	20	16.35		[5.25]	赤褐色	内面赤彩	5,6
	2	2	壺	10			[5.9]	黄褐色	口縁部赤彩	3
	3	13	壺	80	14.2	2.4	13.75	赤褐色	口縁部・頸部内面と外面赤彩	6,11
	4	14	小型坩	60		2.8	[4.7]	黄褐色	内面黒色処理	14
	5	11	鉢	95	11.7	3.75	10.6	褐色		12
	6	15	高杯	30	(19.5)		[12.25]	黄褐色	被熱,3孔	7,9,13
	7	5	甕	80	(17.85)	6.9	21.7	暗褐色	被熱	8,11
	8	6	甕	70	20	7	20.8	赤褐色		6,10,11,13,15
	9	3	甕	10	(17)		[6.2]	赤褐色		11,13
	10	16	甕	30	(13.2)		[15.4]	暗褐色		11,13
	11	7	甕	60		7.3	[19]	黒褐色	木葉痕	2
	12	8	台付甕	80	(17)	9.7	24.5	赤褐色	脚部スス付着	7,13
	13	9	台付甕	10		10	[6.8]	明褐色	被熱	13
025	1	1	壺	20	14		[5.45]	黄褐色		2
026	1	26	壺	10	(19.6)		[4]	暗褐色	赤彩	8
	2	45	壺	15	(18.8)		[7.5]	赤褐色	弥生式土器	32
	3	3	壺	70	21.7		[20.4]	赤褐色		3,4,8,12,38,39
	4	27	壺	80	18.9	7.9	[36.1]	灰褐色	被熱,スス付着,口縁部内面・二重口縁部赤彩,木葉痕	4,8,9,12,13,28,29,31,38,40
	5	25	壺	30	14.2		[8.8]	茶褐色		19
	6	10	壺	50		8.2	[25.6]	褐色	被熱,スス付着	8,12,20,22,25,28,29,30,31,38,40
	7	7	壺	60		9	[29.2]	灰褐色	被熱,スス付着	3,8,12,28,29,30,31,38,40,41
	8	30	壺	80	(9.85)	3	15.8	褐色		17
	9	32	壺	50	(12.25)		[8.6]	褐色		10,37
	10	31	壺	20		3.6	[3.5]	褐色		12
	11	29	壺	80	24	4.3	11.9	赤褐色		5,8,9,13,17,18,21,38,40
	12	35	壺	30			[7.5]	赤褐色	頸部内面と外面赤彩	8,12,25,38
	13	36	小型坩	100	9.8	3	4.6	褐色		14
	14	34	小型坩	40		2.7	[3.5]	褐色		12
	15	38	高杯	50	(18.3)		[8.5]	赤褐色	3孔	5,19
	16	39	高杯	50		12.2	[5.7]	黄褐色	4孔	5,9,13
	17	37	高杯	50	13.2		[5]	赤褐色	赤彩	15
	18	40	器台	60	7.6	10.7	9	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,2段8孔	4,5,6,8,36,38
	19	42	器台	70	7.2	11.5	8.2	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,器受部口唇部内外面と脚部半面スス付着,2段8孔	5,21

	20	43	器台	15	(7.4)		[2]	暗褐色	6
	21	41	器台	20		(9.6)	[5.3]	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,3孔	27
	22	11	甕	20	(13.4)		[9.8]	褐色	外面スス付着	7,11
	23	5	甕	10	(15.5)		[4.7]	黒褐色	外面スス付着	7
	24	4	甕	10	(15.7)		[3.4]	黄褐色	被熱	12
	25	2	甕	30	14.8	7.9	21.6	灰褐色	木葉痕	1,5,9,13,23,24,41
	26	6	甕	70	(18.65)	7.3	27.1	褐色		3,8,11,25,37,38
	27	8	甕	50	18	(7.3)	26.2	黄褐色	被熱,口唇部・胴部下半スス付着	3,5,8,12,16,20,28,38
	28	1	甕	90	17.3	6.4	20.5	暗褐色	被熱,スス付着	1,4,5,9,12,13,22,30,40
	29	17	甕	5		(6.75)	[2]	褐色		10
	30	18	甕	5		(7.4)	[3]	褐色		7
	31	16	甕	5		(8.6)	[2.9]	赤褐色	木葉痕	13
	32	19	甕	5		(7.9)	[1.65]	暗褐色	木葉痕	6
	33	15	台付甕	10		(9.5)	[6.4]	黒褐色	外面接合部スス付着	38
	34	14	台付甕	10		8.7	[5.2]	灰褐色		12
	35	28	甑	80	23.6	(5.2)	10.9	赤褐色		4,5,9,10,24
	36	22	ミニチュア	50		4	[3]	褐色		13
	37	21	ミニチュア	30		3.25	[2.1]	褐色		13
027	1	5	小型坩	100	11.4	2.8	5.9	黄褐色	赤彩	15
	2	6	小型坩	60	10.4	2	7	黄褐色		7,14
	3	7	小型坩	60	(14.6)	2.1	6.1	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	1,7
	4	3	小型壺	90	6	3.2	6.9	褐色		10
	5	2	鉢	30	(13.7)		[10.5]	褐色		5
	6	8	鉢	95	8.5	5	4.65	褐色		9
	7	11	ミニチュア	60	(4.7)	3	3.5	暗褐色		5
	8	1	甕	40	(15.4)	7.2	20	褐色		1,2,4,026-37
028	1	24	壺	5			[3.3]	暗褐色		17
	2	25	壺	5			[3.4]	暗褐色		17
	3	11	壺	30	16.5		[10.2]	灰褐色	被熱,口縁部内面と胴部外面赤彩	5
	4	13	壺	10			[5.85]	赤褐色	外面赤彩	17,5J-45-0001
	5	8	壺	30		5.4	[12.8]	灰褐色	被熱,赤彩(痕跡のみ)	6,17
	6	15	小型坩	95	12.4	1.6	5.85	褐色		12
	7	14	鉢	100	5.8	4.3	4.2	褐色		10
	8	20	器台	40	(5.8)	8.9	6.8	褐色	3孔	4
	9	19	器台	50	8.6		[7.7]	暗褐色	3孔,器受部内面と外面赤彩	17,18
	10	16	高杯	40		10	[6]	褐色	被熱,3孔	7
	11	17	高杯	20			[4.1]	暗褐色	3孔(2孔残存)	17
	12	18	異形器台	70	4.5		[10.3]	褐色		3
	13	1	甕	15	(16.6)		[7.1]	暗褐色		6,17
	14	2	甕	10	(19.6)		[4.75]	暗褐色		17,5J-55-0001

	15	3	甕	10	(18.4)		[4.75]	褐色		21
	16	4	甕	10	(19.1)		[4.45]	暗褐色		13
	17	6	甕	20	(14)		[7.35]	褐色		17,18
	18	10	台付甕	80	9.5		[12.6]	黒褐色		11
031	1	5	壺	10		4	[1.6]	黒褐色	外面赤彩	2
	2	4	壺	10		2.6	[1.5]	赤褐色	外面赤彩	2
	3	1	器台	95	8.1	8.9	7.1	暗褐色	3孔	1
	4	2	甕	5		(6.65)	[2.3]	暗褐色		2
032	1	10	小型坩	80	(10.15)	2.2	5.9	赤褐色	赤彩	4,8
	2	11	小型坩	90	10.3	1.7	5.6	茶褐色	口縁部内面赤彩	5
	3	8	壺	15		3.4	[2.4]	橙褐色	赤彩	7
	4	7	壺	5		7.6	[2.1]	橙褐色	外面赤彩	11
	5	12	器台	90	6.75	10.6	7.7	茶褐色	器受部内面赤彩	2
	6	9	器台	30		10.4	[4.85]	橙褐色	外面赤彩	11
	7	13	鉢	95	9.4	4.7	5.25	褐色		7,10,11
	8	14	甕	90	18.5	6.9	31.6	赤暗褐色	胴部中央から口縁部スス付着	1
	9	1	甕	20	(16.8)		[7.4]	茶褐色	内外面スス付着	7
	10	2	甕	20	(20.7)		[8.7]	褐色		3
	11	6	甕	5		6.6	[2.1]	茶褐色		8
	12	5	甕	5		(7.8)	[2.2]	橙褐色	内面スス付着	8
	13	15	ミニチュア	90		2.6	[4.9]	暗褐色		6
034	1	3	壺	20		6.5	[7.8]	赤褐色		3
	2	1	小型壺	70	(7)	3.2	5.4	橙褐色	赤彩	1
	3	5	器台	100	7.5	10.8	8	赤褐色		9
	4	4	蓋	95	9.55		3.8	褐色	赤彩	4,5,6
	5	2	甕	5		(6.8)	[1.5]	暗褐色		4
035	1	3	壺	5			[9.6]	淡橙褐色	弥生式土器	2
	2	6	壺	5			[2.5]	灰橙褐色	弥生式土器	2
	3	8	壺	5			[6.3]	褐色	弥生式土器	2
	4	7	壺	5			[4.7]	褐色	弥生式土器	2
	5	13	壺	15			[8.8]	暗褐色	弥生式土器,内外面スス付着	2
	6	12	壺	15			[9.3]	暗褐色	弥生式土器,外面スス付着	2
	7	14	壺	20			[26.4]	褐色	弥生式土器	1,2
	8	9	壺	5		(6.4)	[4.7]	暗灰褐色	弥生式土器,木葉痕	2
	9	4	壺	5		(8.2)	[2.4]	灰橙褐色	弥生式土器?,木葉痕	2
	10	5	壺	5		(9.7)	[2.8]	暗褐色		2
	11	1	器台	10			[3.6]	赤褐色	赤彩,2孔残存	2
036	1	11	壺	30			[7.3]	赤褐色	外面赤彩,被熱,内外面スス付着	2
	2	10	甕	40	9		[8.3]	褐色		1,6
	3	12	甕	30	(19.3)		[17.5]	赤褐色	被熱,口縁部内外面スス付着	1,2

	4	13	甕	50	18.8		[27]	明灰褐色	被熱,外面スス付着	1,2,6
	5	6	甕	5		(5.6)	[1.7]	灰褐色		1
	6	5	甕	5		(7.9)	[3.1]	淡黄褐色	被熱	1
	7	7	甑	10		4.6	[2.6]	赤褐色		1,2
	8	1	ミニチュア	90	5.1	2.85	4.9	赤褐色	赤彩	5
039	1	28	壺	95	13.25	7.7	25.8	褐色	口縁部内面赤彩	1,7,27,31
	2	1	壺	80	10.1	5.3	15.75	暗黄褐色	被熱	13
	3	7	小型坩	95	9.8	2.05	4.5	茶褐色		27
	4	8	小型坩	95	9.9	2.25	6	暗褐色		2,4,27
	5	13	小型坩	30	(10.8)		[4.85]	暗褐色		7,27
	6	9	台付小型坩	95	14.1	10.2	9.7	赤褐色	杯部内面と外面赤彩	10,11
	7	4	高杯	30	22.7		[7.1]	赤褐色		6,7,27,31
	8	6	器台	95	7.7	10.45	7.4	茶褐色	外面接合部から脚部下位スス付着,油煙か?	29
	9	27	器台	40		10.8	[4.9]	暗赤褐色	3孔	5
	10	5	甑	95	18.9	5.3	11.2	褐色		9
	11	3	甕	95	22.9	7.25	26.6	赤褐色	被熱,口縁部上位・胴部中位から下位スス付着	2,31
	12	29	甕	95	17	5.5	20	黄褐色	被熱,スス付着	8
	13	10	甕	95	15.3	4.2	16	褐色		12,27
	14	12	甕	10		6.7	[3.7]	赤褐色		27
	15	2	台付甕	95	18.1	9.6	29.4	黄褐色	被熱,外面胴部中位スス付着	1,6,7,27
040	1	1	壺	85		7.2	[31]	褐色	口縁部内面と外面赤彩,焼成後穿孔	5
	2	6	壺	5		(8.2)	[2.3]	褐色	外面スス付着	19
	3	18	壺	10		3.1	[1.5]	赤褐色		8
	4	9	壺	95	(11.55)	3.9	15.7	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	12
	5	10	壺	70		3.4	[9.3]	褐色	被熱	15
	6	8	壺	60		4.4	[17.2]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	13,14,18,19
	7	14	小型壺	80	(7)	2.8	9.6	灰褐色		1,19,21
	8	15	小型壺	100	7.3	3.5	8.1	褐色		6
	9	16	小型壺	100	5.5	3.5	7.6	褐色		11
	10	17	小型壺	100	6.75	4.2	7.05	赤褐色	被熱,口縁部内面赤彩?	10
	11	11	小型坩	70	15.7	4.4	9.3	褐色	被熱	17
	12	19	鉢	70	7.8	2.7	5.1	赤褐色	赤彩	16
	13	21	器台	20			[4.8]	褐色	3孔	18
	14	20	器台	30		12.25	[5.7]	赤褐色	外面赤彩,4孔	2
	15	2	甕	90	16.45	4.85	16.6	灰褐色	被熱,スス付着	14
	16	7	甕	5		(5)	[2.25]	褐色		1
	17	4	台付甕	60	15.5		[18]	赤褐色		3,4,22,23
	18	3	台付甕	80	12.8	7	17.55	赤暗褐色		1,7
	19	13	ミニチュア	60		2.6	[3]	赤褐色		9
042	1	3	甕	70	8.4	4.3	13	赤褐色	被熱	1,2,3

	2	2	甕	15			[7.3]	灰褐色	2,3
	3	5	甑	60	(19.7)	5.4	13.4	赤褐色	被熱 1,2,3,4
	4	4	ミニチュア	20			[3.35]	赤褐色	外面赤彩 2
043	1	1	甕	100	14.1	4.45	15.25	赤褐色	被熱,口縁部内面ス ス付着 1
	2	2	甕	70	8.7	(2.85)	10.8	灰褐色	被熱,ス ス付着 3,5
	3	3	高杯	40		10	[3.9]	暗褐色	2
044	1	6	小型壺	100	5.6	3.6	6.1	褐色	口縁部内面ス ス付着 3
	2	7	小型壺	100	5.6	2.6	4.7	褐色	5
	3	8	小型坩	40	(10)		[5.85]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩 6
	4	1	甕	95	19.8	7.1	24.9	赤褐色	被熱 1,2,7
	5	2	甕	95	20.2	7.05	28.2	赤褐色	被熱 4
	6	3	甕	60	16		[18]	赤褐色	被熱 1,2,7
	7	5	台付甕	15		6.45	[6.6]	褐色	8
045	1	19	壺	60	(13.9)		[17.8]	赤褐色	被熱,口縁部内面と外面赤彩 4,7,21,22
	2	4	壺	95	9.6	5.2	15.95	褐色	28,29
	3	22	壺	40	9.2		[14.1]	暗灰褐色	4,15,35
	4	27	壺	20			[6.7]	赤褐色	30,35
	5	3	壺	5		3.2	[1.55]	灰褐色	35
	6	5	壺	70	8.3	3.2	11.55	褐色	口縁部内面と外面胴部下位まで赤彩 12
	7	26	小型壺	100	6.75	2.65	7	褐色	5
	8	23	小型壺	70		2.8	[6.7]	暗褐色	13
	9	29	小型壺	95	5.5	3	5.75	赤茶褐色	27
	10	16	小型壺	100	7.3	2.7	9.1	黄褐色	口縁部内面と外面口縁部中位から胴部中位まで赤彩 10
	11	21	小型坩	80	13.2	3.4	6.5	赤褐色	赤彩,口縁の一部油煙付着 9
	12	18	小型坩	70	(14.4)	2.6	7.1	黄褐色	被熱 14
	13	30	鉢	95	7.8	2.95	4.9	赤褐色	26
	14	28	鉢	70	(7.2)	(2.8)	5	淡茶褐色	被熱 33
	15	31	鉢	40	(8.05)	3.8	3.65	淡褐色	8
	16	10	鉢	20		4.05	[2.9]	暗褐色	19
	17	15	高杯	80	17	(11.1)	9	赤褐色	3孔 4,16,18,29
	18	13	器台	90	5.6	8	6.2	褐色	34
	19	20	器台	20		(10.4)	[4.8]	暗褐色	3孔 11
	20	14	器台	90	10.4	10.35	8.7	褐色	被熱 17
	21	2	甕	80	(15)	3.3	13.6	赤褐色	16
	22	1	甕	95	20.35	6.9	25.05	明褐色	被熱,ス ス付着 3,7,36
	23	9	台付甕	10			[4.75]	暗褐色	1,35
	24	7	台付甕	10		7.4	[5.7]	赤褐色	6
	25	8	台付甕	10		8.5	[5.85]	赤褐色	20
	26	12	甑	90	16.3	4.8	13.1	赤褐色	被熱 24
	27	17	甑	80	23.9	5.4	11.1	褐色	25

046	1	5	壺	10	(25.2)		[11.2]	灰黄褐色	被熱	5
	2	4	壺	90	24.45	11.2	53.1	赤褐色	被熱,口縁部内面と外面中位まで赤彩,木葉痕,網目状撚糸文様	2,13
	3	1	壺	50		(10.8)	[36.95]	橙色	木葉痕	9,10,11,13,14
	4	2	壺	60		8.5	[31.4]	明赤褐色	被熱,口縁部内面と外面赤彩,内面スス付着	3,13
	5	18	壺	90	8.6	2.5	7.75	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩,油煙付着	4,13
	6	14	壺	5		2.4	[1.15]	赤褐色	外面赤彩	13
	7	17	器台	95	7	11	7.2	黄褐色	器受部内面と外面赤彩,4孔	8
	8	6	甕	5	(14.9)		[3.1]	暗褐色		13
	9	9	甕	95	18.65	4.5	21.4	褐色	被熱,内面胴部中位から底部と外面口縁部から胴部下位スス付着	1
	10	12	甕	95	15.3	6.3	18.5	黄褐色	内面頚部から底部と外面口縁部から胴部下位の器面半分スス付着	7
	11	3	台付甕	90	21.8	10.8	33.75	黒褐色	外面口縁部と胴部中位スス付着	6,9,10,13
	12	10	甕	5		8.1	[2.4]	暗褐色		13
	13	11	甕	5		(7.4)	[2]	赤褐色	木葉痕	13
047	1	3	壺	5	(19.7)		[3.35]	黄褐色		7
	2	2	壺	5			[5.2]	褐色		4,24
	3	1	壺	30	(17.9)		[13.6]	赤褐色		13,21
	4	20	壺	60		4.9	[15.4]	淡褐色	頸部内面と外面赤彩	3,4,9,23
	5	8	壺	5		(10)	[3.9]	赤暗褐色	木葉痕	7,13
	6	13	小型坩	30	(11.7)	(3.6)	7.45	褐色		1
	7	16	小型坩	10		3	[1.3]	赤褐色	外面赤彩,焼成前穿孔	8
	8	12	小型坩	80	17.6	5.65	9.1	赤褐色	赤彩	1,20
	9	14	鉢	90	12	4.6	4.45	暗褐色		14
	10	15	高杯	60	11.25	(7.3)	7.1	褐色	被熱,杯部内外面と裾部内面の一部スス付着	7,21
	11	25	器台	40	5.8		[1.45]	赤褐色		15
	12	23	器台	30		(8.85)	[5.6]	褐色	器受部穿孔2孔,脚部22孔残存	1,9
	13	24	器台	20			[3.75]	暗褐色	3孔	9
	14	18	器台	30		10.15	[5.4]	赤褐色	3孔	10
	15	4	甕	5	(17.55)		[4.5]	黒褐色	口縁部スス付着	21
	16	5	甕	20	(14.55)		[8.7]	黄褐色		1,2,5,20
	17	21	甕	30		6.95	[9.7]	橙褐色		5,20,23
	18	6	甕	30		(6.9)	[11.1]	黒褐色	被熱,スス付着	3,5,8,20
	19	9	甕	15		6.1	[5.9]	黄褐色		8,22
	20	11	甕	5		5.8	[2.6]	暗褐色	被熱	4,23
	21	7	甕	5		(6.6)	[2]	赤暗褐色		5
	22	26	ミニチュア	80	4.2	3.8	[3]	褐色		5
	23	31	壺	5			[2.1]	淡黄褐色		5
	24	32	壺	5			[5.7]	灰褐色		2,4
	25	33	壺	5			[14.15]	赤褐色	外面赤彩	5,20,23
	26	30	壺	5			[2.3]	赤褐色	赤彩	5
048	1	8	器台	90	6.5	9.9	6.85	赤褐色	3孔,油煙付着	3

	2	9	器台	95	6.7	9.6	7.55	赤褐色	3孔	7,8
	3	10	器台	40		10.9	[6.2]	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,3孔,油煙付着	1,7
	4	11	甕	60	(15.4)	5.55	18.25	暗赤褐色	被熱	4,7
	5	3	甕	30	(18.6)		[12.2]	赤褐色		5,7,8
	6	1	甕	30	16.1		[7.7]	黒褐色	被熱,口唇部スス付着	2,7
	7	5	甕	5		4.5	[2.1]	赤褐色		7
	8	7	甕	5		3.9	[1.9]	暗褐色		7
	9	2	甕	5		(6)	[2.45]	赤暗褐色		7,8
	10	4	甕	5		6.7	[1.6]	赤褐色	内面スス付着	8
	11	6	甕	5		(5.9)	[1.4]	赤暗褐色	内面スス付着	8
049	1	22	壺	20	(32.2)		[9.6]	赤褐色	赤彩	7,9,10
	2	6	壺	20	(15.5)		[5.7]	赤褐色		10
	3	12	壺	50	8.4		[8.6]	灰褐色		3
	4	11	壺	40		(4.3)	[9.55]	黒褐色		3,7,12
	5	10	壺	80	6.95	4.5	6.95	灰明褐色	被熱	1,3,14
	6	8	壺	5		3	[1.1]	赤褐色		1
	7	9	壺	10		3.6	[2.6]	褐色		1
	8	15	小型坩	100	14.7	3.3	6	赤褐色	赤彩	11
	9	16	小型坩	60	(13.6)	3.85	6.3	赤褐色	赤彩	7,8
	10	20	高杯	50		15.4	[5.2]	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,5孔	13
	11	4	甕	5	(19.65)		[5.15]	暗褐色		1
	12	1	甕	60		7.2	[24]	灰褐色	胴部中位までスス付着	10
	13	5	甕	40	(11.7)	(3)	[9.05]	灰褐色		7
	14	2	甕	5		(6.1)	[3.1]	褐色		1
	15	3	甕	5		6.8	[1.5]	褐色	木葉痕	1
	16	24	ミニチュア	20		3.3	[1.5]	褐色		15
050	1	14	壺	40	19		[11.3]	黄褐色	口縁部内面・頸部内外面と胴部外面赤彩,網目状撚糸文様	1,5,10,11,26
	2	51	壺	5			[3.5]	黄褐色	口縁部内面と外面の一部赤彩,網目状撚糸文様	5
	3	39	壺	20	10		[2.75]	暗褐色	赤彩	5,27
	4	15	壺	10	(17.3)		[5.2]	明黄褐色	口縁部内面と外面赤彩	5
	5	35	壺	10	8		[4.8]	褐色	赤彩	5,7
	6	16	壺	100	9.7	6	14.5	赤褐色	被熱	9,24
	7	20	壺	60	9.4	3.85	13.05	暗褐色		5,7,10,11,27
	8	27	壺	40		3.9	[6.1]	暗褐色		5,15
	9	18	壺	40		(5.6)	[8]	暗褐色		1,5,7,12
	10	22	壺	20	(8.3)		[7.8]	褐色	図上で復元実測	5,7(接合せず)
	11	28	壺	70	9.45	3.7	9.2	暗褐色		1,5,7,27
	12	21	鉢	20		3.7	[3.5]	暗褐色		1
	13	26	鉢	40	(6.6)	2.4	5.1	褐色		5
	14	25	小型坩	60	16.5	5.9	7.75	明褐色		5,7

	15	24	小型坩	70	12.8	2.5	5.9	赤褐色	赤彩	13
	16	23	小型坩	60	(13.3)	3.1	5.7	褐色		20
	17	37	器台	50	6.4	9	4.2	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,3孔	1,5,12
	18	38	器台	30	6.7		[3.6]	暗褐色		7
	19	33	高杯	30		14.6	[6.1]	赤褐色	3孔	5
	20	32	高杯	30		(21.2)	[4.8]	赤褐色	外面赤彩,油煙付着,3孔残存(推定4ヶ2段計8ヶ)	5
	21	36	高杯	20		(9.3)	[6.6]	明褐色	3孔	18
	22	40	高杯	20		(8.2)	[4.95]	赤褐色	杯部内面と外面赤彩,3孔,裾部油煙付着	17
	23	1	甕	60	(16.8)		[19.3]	暗褐色	外面胴部中位と頸部にスス付着	5,26
	24	4	甕	20	(15.2)		[6.8]	赤褐色	口縁部スス付着	1,5
	25	7	甕	5	(20)		[4.4]	黒褐色		5,27
	26	3	甕	20		(5.4)	[14.4]	暗褐色	外面スス付着	5,10,26
	27	11	甕	10		7.2	[4.7]	黒褐色		1,5,27
	28	13	甕	5		7.2	[2.7]	褐色		1
	29	9	甕	5		8.3	[1.9]	赤褐色	木葉痕	5
	30	12	甕	5		7.35	[1.6]	褐色	木葉痕	1
	31	30	台付甕	15		9.9	[8.5]	明褐色		5,27
	32	31	台付甕	5			[4.1]	赤褐色	スス付着	7
052	1	1	壺	30	9.5		[5.5]	灰褐色		1
	2	2	高杯	20	(18.15)		[6.4]	赤褐色		1
053	1	21	壺	5			[3.5]	黒褐色	弥生式土器	1
	2	7	壺	40	8.85		[5.35]	褐色		2
	3	19	壺	5		3.8	[1.7]	褐色	赤彩	1
	4	6	壺	40		(5.3)	[11.45]	明茶褐色		1,3,5
	5	9	小型坩	10	(16.55)		[5.3]	褐色		5
	6	8	鉢	60	(12.55)	2.6	4.05	灰褐色	被熱	1,5,6
	7	10	高杯	20		(12.2)	[2.75]	褐色	外面赤彩	1,5
	8	16	高杯	20			[4]	褐色	杯部内面と外面赤彩,3孔	5
	9	18	器台	20			[3.65]	褐色	4孔	1
	10	5	甕	80	(11.95)	2.65	9.1	暗茶褐色		4
	11	1	甕	50		6	[15.1]	褐色		5
	12	17	台付甕	5			[3.55]	淡褐色		5
054	1	20	壺	5			[1.8]	黒褐色	弥生式土器?	1
	2	7	壺	10	(13.7)		[4.9]	暗褐色		16
	3	8	壺	10	(14)		[6.8]	赤褐色	赤彩	1
	4	6	壺	10	(17.4)		[3.6]	褐色		1,15
	5	9	壺	10		5.6	[6]	赤褐色	被熱,外面赤彩	1,5,6
	6	11	小型坩	40	16.5	(2.6)	5.1	赤褐色	赤彩,外面全体油煙付着	1
	7	14	小型坩	30		2.2	[3.7]	褐色		1,8,欠番
	8	13	鉢	70	10.3	4.4	4.1	暗褐色		5

	9	15	器台	10	(7.9)		[2.8]	褐色		1
	10	16	高杯	20	(14.05)		[5.4]	赤褐色	杯部赤彩	1,5
	11	17	高杯	30		(18)	[8.25]	明褐色	3孔	1,4
	12	2	甕	10	(13.1)		[5.7]	暗褐色		1
	13	1	甕	95	17.45	6.6	22	褐色	被熱,外面胴部下位までスス付着	1,9
	14	4	甕	60	18.6		[15.9]	赤褐色	被熱,外面スス付着	7
	15	3	甕	10		(6.1)	[5.1]	赤褐色		1,16
	16	5	甕	10		5.65	[3.7]	暗褐色		1,10
055	1	9	壺	20	(15.4)		[6]	褐色		11
	2	8	壺	20			[7.9]	赤褐色		10
	3	11	壺	95	8.7	3.2	7.4	赤褐色	赤彩	16
	4	12	壺	60	(9)	2.5	5.95	暗褐色	被熱	15
	5	10	壺	10	(9.2)		[3.75]	暗褐色		9
	6	7	壺	70		4.8	[8.4]	暗褐色		7
	7	4	壺	95	8.5	4.8	11.9	褐色		5
	8	15	高杯	20			[5.6]	褐色	2孔残存(推定3孔),接合部近く油煙付着	1
	9	14	器台	100	6.7	11.6	7.9	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,6孔	12
	10	3	甕	70	8.2	4.8	15.5	黒褐色		4
	11	5	甕	10	(19.6)		[5.8]	褐色		1,16,17
	12	1	甕	70		6.9	[19.8]	暗褐色	被熱,スス付着	1,13
	13	2	台付甕	10		(11.25)	[6.2]	褐色		8
	14	13	ミニチュア	100	6.9	4.7	3.75	褐色		14
056	1	7	小型坩	40	(14.6)	(4.15)	4.6	黒褐色	赤彩	1
	2	6	壺	10			[5.3]	赤褐色	外面赤彩	1
	3	1	甕	95	15.25	5.8	16.55	褐色		1,3
057	1	1	高杯	50	20.35		[7.5]	赤褐色	赤彩	1,2
	2	2	ミニチュア	20		(3.2)	[2.6]	褐色		1
058	1	9	壺	10			[3.7]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	1
	2	8	壺	20	(14.75)		[7.4]	赤褐色	赤彩	1
	3	14	壺	70		3.8	[13.8]	黄褐色	焼成前穿孔	2
	4	5	壺	10		(5.8)	[4.9]	暗褐色		9
	5	7	壺	20		6.8	[7]	褐色		1,10
	6	11	小型坩	10	(15.3)		[3.5]	赤褐色	外面赤彩	28
	7	12	器台	20			[4]	赤褐色	3孔	1
	8	3	甕	10	(17.3)		[6.9]	褐色		1
	9	1	甕	95	13.55	4.35	15.3	赤褐色		12,13,28
	10	2	甕	30	(17.3)	7.2	[22]	赤褐色		1,18,20,27
	11	16	甕	5		(10)	[2.5]	褐色	弥生式土器,木葉痕	1
	12	13	台付甕	20			[6.05]	褐色	被熱,内面スス付着	8
061	1	2	壺	30			[13.2]	赤褐色		2

	2	1	甕	10	(16.1)		[11.5]	暗褐色	1
062	1	9	壺	20	(13.4)		[4.5]	赤褐色	1,2
	2	11	壺	10	(14.4)		[5.35]	褐色	1
	3	8	壺	20	14.2		[6.8]	赤褐色	1,2,16
	4	6	壺	20	14.8		[4]	暗褐色	2,12,15
	5	10	壺	30			[20.9]	黄褐色	1,3,4
	6	7	壺	40		4.3	[12.9]	黄褐色	1,2,6
	7	19	壺	5			[1.7]	褐色	外面赤彩,弥生式土器 13
	8	14	壺	20	(8.25)		[6]	褐色	1
	9	13	小型坩	20	(15.5)		[5.9]	黄褐色	16
	10	16	高杯	30		(11.65)	[6.8]	赤褐色	3孔 11
	11	17	高杯	20		3.5	[7.75]	褐色	9
	12	18	器台	20		(10.4)	[3.3]	黄褐色	外面赤彩,1孔残存 2
	13	15	器台	20		6.3	[4.3]	暗褐色	1,2
	14	3	甕	5	(15.5)		[4]	暗褐色	17
	15	1	甕	80	18	(7.4)	18.9	暗褐色	1,2,6,8,13
	16	2	台付甕	95	10.8	8.3	18.5	暗褐色	胴部スス付着 5
	17	5	台付甕	5			[5.5]	暗褐色	1,7
064	1	1	甕	70	15	6.4	16.5	灰褐色	1
	2	2	甕	5		4.6	[3.2]	暗褐色	1
	3	3	壺	5		(4.5)	[2]	黒褐色	1
065	1	7	小型坩	95	11.1	2.65	5.7	赤褐色	赤彩,油煙付着 3,6
	2	6	小型坩	20	(18.95)		[7.9]	赤褐色	7
	3	8	鉢	100	8.45	4	4.75	褐色	4
	4	4	高杯	20			[4.4]	暗褐色	1
	5	3	甕	5		(7.6)	[2.1]	褐色	1
	6	1	甕	40			[17]	褐色	2
066	1	5	壺	30		3.5	[15.9]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩 1,17
	2	6	壺	50		2.5	[7.2]	淡黒褐色	焼成前穿孔,油煙付着 7
	3	10	高杯	40	12.9		[4.5]	赤褐色	赤彩 8
	4	9	鉢	70	11.8	5.9	3.9	暗褐色	1,14,15
	5	12	小型坩	70	(6)	0.8	3.4	黒褐色	17
	6	14	ミニチュア	95	5.1	1.7	3.5	褐色	12
	7	13	ミニチュア	100	4.7		3.9	褐色	11
	8	7	異形器台	100	9.1	10.9	12.1	褐色	スス付着 3
	9	8	異形器台	80	(11.6)	11.1	12.6	褐色	4
	10	15	甕	5			[2.25]	灰褐色	胴部スス付着 1
	11	4	甕	95	16.35	6.4	24.45	黄褐色	1,9,10,17
	12	1	台付甕	90	14.4		[19.2]	黒褐色	2,6
068	1	1	壺	50	13.7		[11.5]	褐色	4

	2	2	壺	30	9.7		[5.7]	暗褐色	口縁部内外面に帯状に油煙付着	2
	3	3	高杯	95	11.9	12.3	9.6	褐色	被熱,スス付着,3孔	3
069	1	3	器台	70	(6.2)	10.3	7.7	赤褐色	器受部内面と外面赤彩	1,2
070	1	5	甕	40	(18.3)		22.6	褐色		1,3
	2	2	甕	30	15.9	5.8	22.9	暗褐色	スス付着	1,4
	3	3	甕	10		6.8	[6.7]	褐色		1,5,6
071	1	5	壺	80	(13.6)	6	23.4	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	2,9
	2	6	壺	60		3.4	[12.6]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	10
	3	8	高杯	30	13.5		[5.4]	褐色		1,2
	4	7	鉢	40	(7.6)	3.7	[5.5]	褐色		1,2
	5	2	台付甕	80	9.9		[10]	赤褐色		7
	6	1	台付甕	70	20.6	8.6	25.6	暗赤褐色	口縁部内面スス付着	1,2,4,8,9,10
	7	3	台付甕	60	18.4		[19.8]	暗褐色		1,2,5
072	1	8	壺	60	(13.7)		[22.6]	灰褐色		6,10
	2	6	壺	10		9.6	[6]	赤褐色	外面赤彩,木葉痕	1
	3	7	壺	10	(15)		[6.4]	褐色		9
	4	5	甑	5		6.4	[1.9]	褐色	3孔	3
	5	1	甕	70	16		[15.5]	赤褐色	被熱,外面スス付着	5
	6	2	甕	20		6.9	[6.8]	灰褐色	被熱	6
	7	4	台付甕	10		(8.2)	[5.4]	褐色		2
	8	3	台付甕	10		(8.7)	[5.8]	褐色	被熱	4
076	1	13	壺	50		5.1	[8.3]	赤褐色	外面胴部上位赤彩,油煙付着	3
	2	12	壺	40		5.6	[9.1]	褐色	被熱,内面油煙付着	8,12,13
	3	16	小型坩	100	12.5	1.3	5.2	暗褐色	被熱,赤彩	4
	4	17	器台	100	6.9	11.4	8.4	褐色	器受部内面と外面赤彩,8孔	10
	5	14	小型壺	60		4.5	[7.1]	黄褐色		9
	6	15	小型壺	10		4	[1.1]	暗褐色		1
	7	2	甕	20	(13.7)		[7.9]	赤褐色		7,8
	8	3	甕	10		(8.2)	[3.5]	暗褐色		12
	9	1	甕	95	18.7	6.3	23.4	褐色	被熱,スス付着	5
	10	4	甕	90	18.7	6.5	22.7	赤褐色	被熱	1,6
	11	7	甕	60	(17.8)		[19.2]	暗褐色		1,2,13,14,15
	12	10	台付甕	10			[6.7]	赤褐色		1
077	1	1	甕	95	19	6.1	23.6	黒褐色	焼成前穿孔,スス付着	4,8
086	1	1	壺	30	(11.5)		[11.5]	淡褐色		1
087	1	2	壺	20	(12.4)		[5.45]	褐色		1
	2	1	器台	20			[5.45]	褐色	3孔	1
088	1	1	壺	80	(15.8)	5.1	20.1	淡褐色	被熱,油煙付着	1,4
	2	2	壺	30	14.5		[10.5]	褐色		5
	3	5	器台	95	6.7	11.7	9	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,8孔	1

	4	6	器台	100	7.25	12.4	7.25	褐色	器受部内面と外面赤彩,8孔	1
	5	4	壺	100	8.5	3.1	8.15	褐色	内面頸部から底部赤彩	3
	6	3	小型坩	100	10.5		5.95	橙褐色		2
089	1	8	壺	10	(14.1)		[2.7]	淡赤褐色	赤彩	2,14,15,18
	2	7	壺	80	10.4	3.7	9.3	明赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	1,10,22,23,24,25,27,31,49,50,52,55,75,76
	3	5	小型坩	40	(10.75)	3	4.95	赤褐色	赤彩	2,4,41
	4	6	小型坩	60		4.5	[5.55]	赤褐色	赤彩	1,2,29,36,82,84
	5	4	異形器台	15		9.7	[8.45]	赤褐色	内外面被熱	30,79
	6	1	台付甕	10		9.65	[7.5]	褐色		3,4,65,66,67,68,69,80
	7	2	台付甕	10		10.1	[7.2]	赤褐色	被熱(外面の半周程度)	1,2,4,33,35,43,44,46,48,49
	8	3	台付甕	10		(9.8)	[5.95]	褐色		7,9,71
091	1	10	壺	20	(11.2)		[10.45]	橙褐色		27,28,51,53
	2	2	壺	20			[4.65]	褐色		17,40
	3	12	壺	20		3.4	[5.2]	褐色		26,51,53,54
	4	6	小型坩	95	10.2		5.9	暗赤褐色	口縁部内外と外面体部上位赤彩	3,52
	5	7	小型坩	40	(11.4)	2.6	6.8	暗赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	6,51,52,55
	6	1	小型坩	30			[4.3]	暗褐色	被熱	39,50
	7	8	高杯	20	17.9		[5.4]	赤褐色	被熱,赤彩	13,22,23,24,51
	8	3	高杯	20			[8.35]	赤褐色	坏部内面と外面赤彩	12
	9	4	高杯	5			[2.5]	赤褐色	坏部内面と外面赤彩	51
	10	9	甕	100	11.35	5.1	9.95	褐色		1
	11	5	甕	10	15		[3.2]	暗褐色		19,27,37,51,53
	12	11	甕	100	16.9	5.65	24.5	明赤褐色		2
092	1	4	壺	40		2.95	[7.9]	赤褐色	頸部内面と外面赤彩	87,88
	2	2	小型坩	20	(12.6)		[3.7]	淡赤褐色		13,56
	3	3	壺	5		8.05	[2.9]	淡黄褐色		2,7,103
	4	1	器台	30		11.4	[5.15]	淡黄褐色		53,54
	5	6	甕	60	(18.75)		[20.05]	赤褐色		39,40,72,74,95,100
093	1	1	小型坩	70	(12.1)	3.4	7.2	淡褐色		13
	2	2	小型坩	60	(10)	2	5.9	赤褐色	外面赤彩	16,20
	3	7	甕	5		(7.2)	[1.8]	灰褐色		6
	4	6	甕	5		(10.8)	[2.65]	赤褐色		11
101A	1	4	甕	60	16.1		[18.9]	明赤褐色		1,6
	2	2	甕	60	8.05	4.9	9.5	赤褐色		3
	3	3	甑	5		4.95	[1.95]	橙色		5
	4	1	台付甕	10		8.25	[6.05]	淡黄橙色		2
101B	1	1	壺	10	(21)		[13.95]	明褐色		1,3
103	1	1	高杯	20	(14.5)		[4.65]	赤褐色	被熱,赤彩	3,6
	2	2	壺	20	(8.4)		[5.6]	明赤褐色		6
104	1	11	壺	70	(17.45)	7.45	24.65	明黄褐色	被熱(全体の半分),油煙付着	12

	2	3	壺	20			[5.1]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	1
	3	1	小型坩	70	(11.5)	2.35	8.55	橙色	被熱	1,9,18
	4	8	小型坩	70	(19)	3.6	12.85	赤褐色	口縁部及び胴部上位内面と外面赤彩,油煙付着	2,3,5,6,7
	5	2	小型坩	40	(11.9)	(2.75)	5.6	明赤褐色	被熱,赤彩	1,15
	6	6	鉢	100	10.7	4	4	橙色		4,11,24,25,36
	7	5	器台	20	(8.4)		[2.15]	褐色	赤彩	4,19,26
	8	4	器台	95	5.8	7.8	5.85	明赤褐色	器受部内面と外面赤彩	17
	9	9	甕	20	(14.8)		[10.3]	黒褐色		1,2,3,4,7,12,21,22,38
	10	10	甕	30		7.1	[13.8]	暗褐色		2,8,10,33,34
105	1	1	壺	95	13.9	6.5	26.2	褐色		13,14,21,23,24,26
	2	5	壺	30	16.3		[6.55]	黒褐色		7,12,23,25,26
	3	6	壺	30	15.6		[6.7]	赤褐色		7,12
	4	3	壺	20			[15.25]	灰褐色	被熱	5,11,23
	5	2	壺	60		5.7	[16.75]	赤褐色	外面赤彩	8,23,26
	6	7	壺	40		7.2	[16.2]	褐色		6,11
	7	8	壺	10		9.2	[3.35]	褐色		2
	8	11	小型坩	90	(12.2)	2.1	7.65	暗褐色		9,13
	9	12	小型坩	95	9.5	1.9	6.45	暗褐色		8,9,10
	10	9	異形器台	40	(9.6)	(16.4)	[13.05]	褐色		16
	11	10	異形器台	20		(12.2)	[7]	暗褐色		25
	12	4	甕	20	16.3		[7.8]	暗褐色		20,23,26
	13	14	甕	30	(13.6)		[11]	褐色		1
	14	15	甕	20			[12]	暗褐色		20
	15	13	台付甕	5		(10)	[5.2]	褐色		23
106	1	1	甕	20	(16.8)		[9.25]	褐色		1
	2	3	甕	5		(7.5)	[2.9]	赤褐色		1
	3	2	台付甕	5		11.75	[9.1]	褐色		1
108	1	3	小型坩	60	9.6	2.5	5.7	黒褐色		1,2
	2	5	小型坩	50		3	[3.8]	暗褐色		7
	3	4	小型坩	50		1.8	[1.95]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	12
	4	8	小型坩	90	11.6	2.4	3.9	暗赤褐色	火熱,赤彩	6,8,9,11,104-10
	5	1	小型坩	100	14.2		4.9	赤褐色	赤彩	4
	6	2	高杯	25	(11.7)		[3.3]	暗黄褐色	被熱,赤彩	1,13
	7	6	ミニチュア	95	3.6	2.1	3.4	暗黄褐色		5
	8	7	甕	70	15.5	(4.3)	18.7	黒褐色		13,14,096-1
109	1	2	壺	20	15.8		[7]	褐色		3
	2	3	壺	20	12.5		[6.35]	暗褐色		5
	3	5	壺	60	10.7	3.2	10.4	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩,外面胴部油煙付着	1,5,6
	4	6	小型坩	70	13.1	2.5	6.7	灰褐色		8
	5	4	器台	40	(6.5)	(9.8)	5.9	赤褐色	器受部内面と外面赤彩,4孔	5

	6	7	鉢	100	7.4	3.1	5.9	褐色		7
	7	1	甕	20	17.2		[6.4]	暗褐色		4
110	1	7	壺	15	11.9		[4.6]	淡褐色	被熱	13
	2	12	壺	10		6.3	[5.55]	褐色	被熱	11
	3	4	壺	60	12.95		[12.9]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	1,2,5,6,7,10
	4	10	壺	50	(11)		[7.45]	橙色	被熱,口縁部内面と外面赤彩	9
	5	11	壺	10		2.2	[2.3]	赤褐色	被熱,外面赤彩	9
	6	5	台付小型坩	30	(8.3)		[4.6]	赤褐色	赤彩	8
	7	8	器台	10			[3.4]	橙色	被熱,外面赤彩	8,17
	8	2	小型坩	40	(14.3)	(1.2)	4.7	赤色	赤彩	17
	9	1	小型坩	20	(15.9)		[4.15]	赤橙色		1,3,12
	10	3	小型坩	70	16.7	4.25	6.6	赤褐色	赤彩	10,12
	11	6	甕	40	(14.2)		[14.4]	明赤褐色	頸部内外赤彩	11,14,18,111A-2
112	1	2	壺	60		7	[24]	褐色		1,2,5
	2	3	高杯	60	(12.2)	16.6	10.9	赤褐色	坏部内面と外面赤彩,3孔	8,9
	3	4	異形器台	100	9.6	10.3	9.4	暗褐色		1
	4	5	ミニチュア	50	(3.4)	2.5	2.25	褐色		4
	5	1	甕	60	(14)	[19.15]	暗赤褐色	外面スス付着		1
119	1	3	壺	20	18.3		[7.75]	黄褐色		16,18,26,28,39,54,60
	2	4	壺	10	11.7		[1.2]	赤褐色	赤彩	43,59
	3	5	壺	30			[5.9]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	2,9
	4	8	甕	5			[2.6]	暗褐色	S字状口縁	69
	5	6	台付小型坩	20			[3.1]	赤褐色	赤彩	27,49
	6	2	高杯	60	20.8		[7.4]	暗灰褐色	赤彩	4,44,45,53,58
	7	1	高杯	60	17.8	12.6	13.4	赤褐色	赤彩,3孔	56
	8	7	台付甕	10		8.9	[5.8]	赤褐色		52
120	1	2	器台	30	9.05		[2.15]	明赤褐色		2,8
	2	1	台付甕	10		10.4	[5.7]	淡褐色		6
121	1	3	小型坩	40		1.6	[4.9]	黄褐色		9
	2	2	壺	10		4.5	[2.3]	淡褐色		3
	3	1	甕	40	(15.6)	4.1	20.5	暗褐色		17,22
123	1	16	壺	20	22.2		[11.7]	黄褐色	口縁部内面と外面赤彩	3,4,29,42
	2	3	壺	20	17.5		[7.3]	暗褐色		1,3,4,5,45
	3	6	壺	30	16.3		[7.65]	暗灰褐色	被熱,赤彩	2,5,6,7,8,16,47
	4	8	壺	15	(19.9)		[9.6]	灰褐色	内面一部と外面被熱,赤彩	2,3,4
	5	12	壺	60	17.15		[22.3]	褐色		1,15
	6	13	壺	40	(10.2)		[6.95]	明赤褐色		1
	7	18	壺	20		5	[4]	褐色		14
	8	1	壺	30			[13.1]	褐色		4,21,23,53
	9	7	壺	20		8.1	[8.7]	黄褐色	外面赤彩	3,4,33,48

10	21	壺	5		(8.4)	[1.4]	灰褐色	木葉痕	4
11	22	壺	5		(8.2)	[2.3]	暗赤褐色		2
12	2	壺	20		8	[13.4]	暗褐色		21,23,24
13	14	小型坩	40	(13.6)	(3.1)	6.2	橙色		2,3,4,23,40
14	11	高杯	10		[1.5]	赤褐色	赤彩		52
15	10	器台	20	((7.2)		[1.95]	赤褐色	赤彩	1,4
16	9	器台	50		11.2	[4.45]	赤褐色	外面赤彩,2孔	49
17	4	異形器台	70	(7.8)		[11.6]	褐色		23
18	15	異形器台	80	9.4	(13.05)	14.2	赤褐色		1,6,23,39
19	24	異形器台	20	1.55		[1.75]	赤褐色		4
20	17	甕	100	12.85	5.95	19.15	明赤褐色		12
21	23	甕	5		(6.6)	[2.4]	赤褐色		4,18
22	19	甕	5		5.7	[2.2]	褐色	内面スス付着	26,28,50
23	20	甕	5		6.8	[2.3]	橙褐色	内面スス付着	31
24	5	台付甕	20			[13.25]	暗褐色		1,4,21

第12表　古墳時代前期建物跡及び土坑出土土器観察表

復元：（　）　現存［　］　口径・底径・器高：cm　遺存度：%　器高は最大値

遺構番号	挿図番号	実測番号	器種名	遺存度	口径	底径	器高	色調	備考	遺物番号
041	1	3	壺	80	9		[12.2]	赤褐色	被熱	3
	2	2	壺	60	9		[11.3]	赤褐色	口縁部内面と外面赤彩	1,5
	3	1	甕	80	11.75	5.7	20.5	褐色	被熱	2,3,4,6
113	1	1	甕	80	18.1	(5.8)	17.45	暗褐色		1
122	1	1	小型坩	50		1.9	[2.4]	灰褐色	外面赤彩	14
	2	7	壺	5			[2.9]	褐色		2,135
	3	4	器台	20			[4.8]	褐色	器受部内面と外面赤彩	107
	4	2	高杯	20			[4.9]	赤褐色	外面赤彩,8孔（1段4孔が2段）	167
	5	3	高杯	20			[4.4]	赤褐色	外面赤彩	34
	6	5	器台	20			[3.8]	赤褐色	器受部内面と外面,3孔	118
	7	6	異形器台	15	(6.9)		[2.3]	褐色		153

第13表　古墳時代前期グリッド等出土土器観察表

復元：（　）　現存［　］　口径・底径・器高：cm　遺存度：%　器高は最大値

遺構番号	挿図番号	実測番号	器種名	遺存度	口径	底径	器高	色調	備考	遺物番号
6N-00	1	1	壺	40		4.35	[10.2]	暗赤褐色		1
7J-93	2	9	鉢	80	5.7	4.4	3.85	赤褐色		7J-93-1
7H-90	3	11	鉢	60		4.2	[3.6]	黄褐色		7H-90-1
表採	4	1	高杯	10			[1.4]	赤色	赤彩	1
5K-25	5	6	器台	60	6.4		[5.5]	黄褐色	4孔	5K-25-1
3K	6	7	器台	60	(7)		[5.2]	赤褐色	3孔	3K-1
7I-82	7	8	器台	40		7.7	[5.2]	赤褐色	3孔,油煙付着	7I-82-1
9V-77	8	1	高坏	20			[2.35]	暗赤褐色	坏部内面と外面赤彩	1
111A	9	2	高坏	20			[3.95]	赤褐色	坏部内面と外面赤彩	1
表採	10	2	甕	60	(13)	4.4	12.4	暗赤褐色	油煙付着	1
表採	11	2	壺	10		8.3	[4.5]	赤褐色	外面赤彩	表採11
099	12	1	甕	10		6.1	[3.6]	暗赤褐色		1
111A	13	1	壺	5		(6.8)	[2.4]	橙褐色		2
表採	14	3	台付甕	15		9.4	[7.35]	褐色		表採2

第14表　奈良時代竪穴住居跡出土土器観察表

復元：（　）　現存［　］　口径・底径・器高：cm　遺存度：％　器高は最大値

遺構番号	挿図番号	実測番号	器種名	遺存度	口径	底径	器高	色調	備考	遺物番号
073	1	6	土師器杯	50	(9.8)	(5.4)	3.2	赤褐色		1,4
	2	7	土師器杯	30	(9.1)	(4)	3	褐色		1
	3	4	土師器杯	30	(10.5)	(6.4)	3.5	褐色		1
	4	3	土師器杯	60	14.9	7.2	5.4	暗褐色		3
	5	9	土師器杯	10		(6.7)	[1.6]	黄褐色		1
	6	8	土師器杯	15		7	[2.05]	灰褐色		5,9
	7	2	土師器杯	10		10.6	[1.9]	褐色	黒色処理	1
	8	11	須恵器甕	10		(14.6)	[5]	灰色		2
	9	10	土師器甕	10		4.5	[1.55]	褐色		1
	10	5	須恵器甑	30		15.6	[14.6]	暗褐色	5孔式	1,5
074	1	7	土師器杯	95	12.2	7.7	3.85	暗褐色	口唇部油煙付着	9,12
	2	6	土師器杯	100	12.3	5.9	4	褐色		11
	3	8	土師器杯	80	11.8	6.2	4	暗褐色		9,13
	4	9	土師器杯	60	(11.2)	(7.5)	3.4	暗褐色		9,19
	5	10	土師器高台付杯	70	10.8	6.5	[3.6]	黄褐色	内面黒色処理	10
	6	2	土師器甕	100	12.9	6.4	11.3	赤褐色		6
	7	3	土師器甕	80	12.1	4.8	11.85	暗褐色		9
	8	1	須恵器甕	30		17.8	[17.5]	暗褐色		1,2,3,4,5,7,9,14,15,16,17,20,21

第3章　まとめ

向新田遺跡からは旧石器時代の遺構として遺物集中地点1か所，縄文時代の遺構として陥し穴1基と石鏃製作跡1か所，古墳時代前期の遺構として竪穴住居跡83軒，建物跡5棟，土坑2基，奈良時代の遺構として竪穴住居跡2軒，その他の遺構として土坑6基，土坑列5条，溝14条を検出することができた。ここでは，本遺跡の主体となる古墳時代前期の遺構・遺物についてまとめることとする。

第1節　出土遺物について

弥生時代末から古墳時代前期にかけての土器編年に関しては，従来よりさまざまな研究者によって検討されてきているが，ここでは，千葉県文化財センター研究紀要21（以下「研究紀要21」という。）による土器編年試案に基づいて，当遺跡における土器編年をみていくこととしたい。「研究紀要21」では上総地方の土器編年案として，市原市草刈遺跡出土土器を基準とし，古墳時代前期を草刈Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の3時期に区分し，更に，草刈Ⅰ期と草刈Ⅱ期を前期と後期に細分している。下総地方に関しては，上総地方のような標準遺跡となり得る遺跡がなく，複数の遺跡を取りあげ，上総地方の土器編年案との併行関係を検討している。各時期の内容は「研究紀要21」に詳しく述べられているので，それを参照していただくこととしたいが，各時期の編年基準の主な要素を以下のようにまとめている。

草刈Ⅰ期(前)　東海西部系等の波及，小型品の出現
草刈Ⅰ期(後)　小形器台の出現，元屋敷系高杯の出現，有段口縁壷の搬入，有段口縁壷（無文）の定着
草刈Ⅱ期(前)　小形鉢（小形坩の祖元），多様化した小形器台，輪積痕残存（南部）
草刈Ⅱ期(後)　定型化した小形坩出現，杯状小形坩出現，元屋敷系高杯消滅
草刈Ⅲ期　　柱状高杯出現，小形器台・小形坩消滅

以上のような要素に基づいて，向新田遺跡の出土土器をみてみたい。壷については，有段口縁（104-1，123-1），二重口縁（007-1，026-4，050-1，046-2，071-2等），折り返し口縁（008-1，119-1，123-2等），素口縁（007-3，045-1等）と直口縁の坩型のものがみられる。二重口縁と素口縁のものには棒状や円形の浮文を貼り付けたり，縄文を施すなどの弥生時代からの系譜をうかがわせる土器がみられる。高杯については，草刈Ⅰ期の特徴として挙げられている元屋敷系高杯は，024-6の高杯のみが類似するものと考えられるが，全体的に杯部の径が小さい傾向がみられる。また，草刈Ⅲ期の特徴である柱状の脚部は091-8のみで057-1，091-7等の杯部は柱状の脚部が付くものと考えられる。甕については，草刈Ⅰ期に併行する下総地方の特徴である口唇部にヘラもしくはハケ状工具による刻みをもつ甕は極めて少なく（021-9，044-5），大部分が素口縁の甕である。台付甕は量的には少なく，平底甕が主体的である。胴部は球形のものとやや長胴化しているものがみられる。小型器台については，器受部と台部の径がほぼ等しいもの（023-3・4等）や器受部が小さいもの（045-18，046-7等），また，器受部が直線的なもの（028-8・9等）やつまみ上がるもの（076-4，088-3・4等）など，その様相が多岐にわたっている。異形器台は器受部が直線的なもの（045-20，066-8・9，112-3），口縁部端部が水平になるくらいに内側に折れ曲がるもの（105-10，123-17・18)と内湾するもの（028-12）がみられる。直線的なもののうち066-8・9は，口縁部の一部を焼成前に大きく切り取っている。また，口縁部端部が水平になるくらい内側に折れ曲がるもののうち123-17も口縁部の一部を焼

成前に窓のように切り取っている。小型坩は定型化したもの（008-3・4，027-1等）や器高が口縁径を上回るもの（032-1，091-4・5等）がみられる。

他地域の土器としては，北関東系の土器が多く（016-21・22，019-1・2，035-1～8，101B-1等），大郭式と考えられる046-1の壷や047-25と123-1の櫛描文をもつ壷などの東海系と思われる土器は少ない。

これらの諸特徴から，向新田遺跡の土器群は草刈Ⅱ期前半から草刈Ⅲ期まで時期に該当するものと考えられる。竪穴住居跡等の出土土器の特徴とその組み合わせなどから，向新田遺跡の竪穴住居跡の時期を以下のように考えることができる。

草刈Ⅱ期（前）　竪穴住居跡27軒
004，007，009，016，018，019，021，022，023，024，029，031，034，035，036，046，068，069，070，071，077，101A，101B，103，112，119，123号

草刈Ⅱ期（後）　竪穴住居跡39軒
002，005，006，008，020，026，027，028，039，040，043，044，045，047，048，049，050，052，053，054，055，056，058，062，064，065，072，076，086，087，088，089，092，106，108，109，110，120，121号
建物跡1棟　041号　　土坑2基　113，122号

草刈Ⅲ期　竪穴住居跡11軒
017，025，032，042，057，061，066，091，093，104，105号

時期不明（出土遺物無し）　竪穴住居跡6軒
013，014，030，033，059，067号
建物跡4棟　003・010・011・015，051，075，080号

なお，草刈Ⅱ期(前)とした029号竪穴住居跡は出土遺物がないが，031号との重複関係によりほぼ同時期と判断した。これら各時期の竪穴住居跡は，同時期の竪穴住居跡同士が極めて近接していたり，重複しているものなどがあることから，すべてが同時期の存在していたとは考えられず，各時期のなかにあっても，時間的差異があるものと考えている。

第2節　竪穴住居跡の形態について

検出することができた83軒の竪穴住居跡のうち，規模や主柱穴の有無などを明らかにすることができた73軒について対象とした。竪穴住居跡の規模は最小が004号竪穴住居跡の5.5㎡で，最大が092号竪穴住居跡の69.93㎡であり，実に13倍余りの差がある。竪穴住居跡の規模から大きく5つのグループに区分することができる。

一辺が7m以上の竪穴住居跡　　7軒　026，027，047，050，091，092，123号

これらは東側調査区に4軒と西側調査区に3軒あり，平均面積は55.7㎡である。これらの竪穴住居跡はいずれも主柱穴が4本あるが，123号竪穴住居跡のみ炉がない。調査区の関係で全体の規模を明らかにすることができなかったが，049号竪穴住居跡もこのグループに入るものと思われる。

一辺が5m～7mの竪穴住居跡　25軒　002，005，008，009，016，017，018，020，023，028，031，032，036，039，040，044，045，054，058，062，065，089，105，109，110号

これらは調査区全域でみられ，平均面積は23.3㎡である。これらのうち主柱穴が4本ある竪穴住居跡は002，005，008，017，023，028，031，032，040，045，062，065，089，105，109号竪穴住居跡の15軒で，約60%に当たる。炉はすべての竪穴住居跡にある。

一辺が3m～5mの竪穴住居跡　33軒　006，013，019，021，022，024，025，029，030，033，035，043，046，048，053，055，056，061，064，066～072，076，103，104，106，108，112，119号

これらも調査区全域でみられるが，中央部分には少ないようである。平均面積は12.6㎡である。これらのうち主柱穴が4本ある竪穴住居跡は024，035，071号竪穴住居跡のわずか3軒で，約10%である。その一方，炉がない竪穴住居跡は048，067の2軒のみで，約94%の割合で炉があることになる。

一辺が3m以下の竪穴住居跡　7軒　004，034，052，057，059，120，121号

これらは東側調査区に5軒，西側調査区に2軒あり，平均面積は6.4㎡である。主柱穴が4本ある竪穴住居跡はなく，炉がある竪穴住居跡も034と059号竪穴住居跡の2軒のみで，約28%である。

長辺と短辺の長さの比が2倍以上ある竪穴住居跡　1軒　014号

長方形の竪穴住居跡で，面積は17.88㎡である。主柱穴も炉もなく，他の竪穴住居跡と趣の異なるものである。

第3節　時期ごとの集落のあり方について

向新田遺跡における集落のあり方は，当遺跡の台地における立地が，東側と南西側のそれぞれ別の小支谷が入り込んでいることから，調査区の中央部分に竪穴住居跡が少なく，東側に偏った状況がみられる。

草刈Ⅱ（前）期に当たる時期には，西側調査区に一辺7m以上の規模をもつ123号竪穴住居跡がみられるが，中心は東側調査区の小支谷の縁辺に沿ったところにある。この時期の竪穴住居跡は先の123号竪穴住居跡を除いて，一辺3m～5mのグループに属していることから，集落内において，竪穴住居跡の規模による差異はみられない。土器については，009，024，046号竪穴住居跡などが代表例となるが，在地の弥生時代からの系譜をうかがわせる壷などとともに北関東系や東海系などの他地域の土器がみられる。遺物の中で注目されるのは，016号竪穴住居跡から出土した滑石製の垂飾品である。あまり例をみないものであるが，神奈川県小田原市永塚下り畑遺跡から古墳時代前期に属すると推定されている滑石製の垂飾品が当遺跡例に類似している。

草刈Ⅱ（後）期に当たる時期は，前時期と同様に東側調査区が中心となっているが，台地の中心部及び北側に拡大するものと思われる。東側調査区には新たに一辺7m以上の竪穴住居跡が4軒以上もみられるようになる（026，027，047，049，050）。そのほかの竪穴住居跡の規模は，一辺5m～7mのものが増加する反面，あいかわらず一辺3m～5m及び一辺3m以下のものもあることから，前時期に比べて，竪穴住居跡の規模における差異が新たに生じてきたものと思われる。土器については，026，039，050号竪穴住居跡出土のものが代表例となるが，前時期に比べ器種の構成や各器種ごとの変化が豊富になっている。また，前時期と同様に在地の弥生時代からの系譜を引くものや他地域の土器がみられるが，その数は少なくなっている。

草刈Ⅲ期に当たる時期は，東側調査区においては再び集落が収束するかのように，台地縁辺部に集中するように思われる。西側調査区においては草刈Ⅱ（前）期から変わらずに，一辺7m以上の竪穴住居跡を

中心に小形の竪穴住居跡が数件みられるといった状況が続いている。竪穴住居跡の規模においては，091号竪穴住居跡のみが一辺７ｍ以上のもので，一辺５ｍ～７ｍのものと一辺３ｍ～５ｍのものの２グループに分けられる。しかし，一辺５ｍ～７ｍのものは前時期に比べ，小型化しており，一辺が６ｍを超えるものはほとんどない。土器については，091，104，105号竪穴住居跡などが代表例となるが，甕については032-8，066-11などのように長胴化しているものがみられる。また，この時期には在地の弥生時代の系譜を引く土器や他地域の土器はみられなくなる。

この時期をもって向新田遺跡の竪穴住居跡は，以降みられなくなり，再び竪穴住居跡が現れるのは奈良時代になってからであり，それもわずか２軒のみであることから，古墳時代前期をもって集落としての（居住区としての）役割を終えたものと考えられる。

第４節　周辺遺跡のあり方について

向新田遺跡の周辺においては，千葉ニュータウン及びその関連事業によっていくつかの古墳時代前期の集落が調査され，すでに報告書が刊行されている。ここでは，そのなかから主な遺跡をとりあげ，当遺跡の時期的な位置付けを行ってみたい。

一本桜南遺跡

一本桜南遺跡からは古墳時代の竪穴住居跡が60軒検出されており，ほぼ同一時期のものであると考えられている。出土土器の様相は，壷，小型壷，甕，高杯，器台，異形器台などがみられる。041号及び057号住居跡などから出土した土器群が，代表例として取り上げることができる。

壷に関しては複合口縁の棒状浮文の貼付，口縁部及び胴部における縄文又は網目状撚糸文による施文がみられ，甕に関しては，平底と台付のものがみられるが，いずれも口唇部に刻みをもち，頸部外面に複数の段をもつものが多い。高杯は杯部底面に稜を作り出す元屋敷系の高杯は少なく，弥生時代からの椀形の杯部をもつ高杯が多い。器台は大小あり，器受部と台部が直線的なものや器受部が椀形のものなどがみられる。

これらのことから，古墳時代前期の古い段階に位置付けることができるが，他地域の要素がかなり少なく，在地的（南関東）な要素が強い遺跡であるといえる。

泉北側第２遺跡

泉北側第２遺跡からは古墳時代の竪穴住居跡70軒と掘立柱建物跡１棟が検出されており，ほぼ同一時期のものであると考えられている。出土土器の様相は，壷，小型壷，甕，高杯，器台，甑，鉢等がみられ，011号及び021号竪穴住居跡などから出土した土器群が代表例として取り上げることができる。

壷は全体的に出土点数は少なく，複合口縁外面に棒状浮文を貼付するものもみられるが，口縁部又は胴部外面に文様をもつものは少ない。小型壷は比較的小型のものである。甕は台付きのものもみられるが，平底で平縁のものが大多数を占め，口唇部に刻みをもつものはごくわずかである。高杯は大型のものと小型のものがあり，元屋敷系の高杯がみられる。器台も比較的大型のものと小型のものがあり，器受部と台部が直線的なものと器受部が椀形のものなどがみられる。この他に壷（坩）結合器台と呼ばれる器台が存在している。更に，当遺跡で注目されるのは，北陸系の壷などが出土している点である。

これらのことから，古墳時代前期の古い段階に位置付けられるが，先の一本桜南遺跡より新しい時期に当たるものと考えられる。また，北陸系の土器が多く，在地的な要素があまりみられない点が特徴といえる。

北の台遺跡

北の台遺跡からは古墳時代の竪穴住居跡2軒が検出されており，同一時期と考えられる。出土土器の様相は，小型壷，甕，高杯，器台，鉢，甑があり，大型の壷は存在していない。甕は平底で，口唇部は丸縁である。高杯は柱状の脚部をもち，杯部底部に稜をもつものである。器台は器受部と台部が直線的になるものである。小型坩がないことや柱状の脚部をもつ高杯の存在などから，古墳時代前期の新しい段階に位置付けられると考えられる。

復山谷遺跡

復山谷遺跡からは弥生時代終末期とされている竪穴住居跡が39軒検出されており，ほぼ同一時期と考えられる。出土土器の様相は壷，甕，高杯，器台，鉢などがある。017号竪穴住居跡などがその代表例として取り上げることができる。

壷は複合口縁のものは口縁部外面に複数段の縄文又は網目状撚糸文を施文し，棒状浮文を貼り付けているものもある。胴部外面には網目状撚糸文や沈線による区画内に縄文又は網目状撚糸文を施している。素口縁のものは口縁部外面に複数段の縄文を施文している。020号竪穴住居跡からは東海系のひさご壷に類似した土器が出土している。甕は台付きで，口唇部に刻みを施し，口縁部外面に複数段の輪積み痕を残すものが基本的なあり方といえる。077号竪穴住居跡からは北関東系の甕が出土している。高杯は比較的大型で，杯部が深い弥生系のものが主体となっている。器台は大小あり，いずれも器受部径と台部径がほぼ等しいものである。

これらの土器群の様相は壷や甕に弥生時代からの系譜を色濃く残していることなどから，古墳時代前期の中でも最も古い時期の一群と考えられる。また，北関東系の土器と東海系の土器が出土していることが特徴の一つといえる。

鳴神山遺跡

鳴神山遺跡からは古墳時代の竪穴住居跡が11軒検出されている。出土土器の様相は壷，小型壷，甕，高杯，器台，異形器台などがあり，出土点数があまり多くないが，Ⅰ017号とⅡ102号竪穴住居跡に代表されるものと206号竪穴住居跡との大きく二つの時期に区分されるものと考えられる。

Ⅰ017号とⅡ102号竪穴住居跡に代表される土器群は，壷は完形のものがないが，折り返し口縁をもつものと胴部外面に縄文を施すものがみられる。甕は平底と台付きがあり，口唇部に刻みをもつものが多い。高杯は弥生時代からの系譜と考えられる杯部が椀型で深いものと元屋敷系と考えられる杯部の底部に稜をもち，口縁部が直線的に開くものが存在している。器台は浅い皿状の器受部をもつものが出土しているが，全体の様子は不明である。

206号竪穴住居跡に代表される土器群は，小型壷が多いなどの器種の偏りがみられることから，代表例として良いか多少疑問が残る。甕は平底で，口唇部は丸縁である。高杯は柱状の脚部をもつものであり，器台は出土していないが，異形器台が2点出土している。

これらのことから，Ⅰ017号とⅡ102号竪穴住居跡に代表される土器群は，古墳時代前期でも古い時期に相当し，206号竪穴住居跡に代表される土器群はそれよりも新しい時期のものと考えられる。また，本遺跡では他地域の系統と考えられる土器は出土していない。

船尾町田遺跡

船尾町田遺跡からは弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡が26軒検出されている。報

告書では，出土土器の特徴によって弥生時代終末期，五領古期，五領新期及び古墳時代中期の四つの時期に区分している。

弥生時代終末期の代表例として33号竪穴住居跡が挙げられ，壷，甕，高杯，器台などがみられる。壷は胴部外面に縄文又は網目状撚糸文を施すなどの在地系の様相を色濃く残したものが多い。甕は口唇部に刻みをもつものはなく，頸部に段をもつものもない，北関東系の甕がみられる。高杯は杯部が直線的に大きく開き，杯部底面に稜をもつものもある。器台は大小あり，裾部が器受部に比べ大きく開くものもみられる。

五領古期及び新期とした土器群は，壷，甕，高杯，器台，鉢，小型坩などで構成され，報告書の中でも古期と新期で明確に分かれるものではなく，それらが共伴しあっている状況がみられる。壷は複合口縁が破片資料でみられるものの，基本的には素口縁のものが多い。甕は平底と台付きがあり，小型甕で口唇部に刻みをもつものが数点あるのみで，すべて丸縁である。また，北陸系と思われる受け口状の口縁部をもつ甕がみられる。高杯は杯部底部に稜をもち，直線的に開くものと椀形の杯部をもつものとがある。器台は器受部と台部が直線的に開くものと器受部が小さい椀型のものとがある。また，北陸系と考えられる壷結合器台がみられる。小型坩は25号・29号竪穴住居跡などでみられるが，極めて少ない存在である。

船尾町田遺跡では在地系の文様をもつ壷や高杯などもみられるが，それと同時に北関東系の甕や北陸系の甕や器台，東海系の高杯などの土器がみられるといった特徴がある。また，小型坩の存在がまだ明確ではないことも特徴の一つといえる。

島田込ノ内遺跡

島田込ノ内遺跡では弥生時代末から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡12軒が検出されている。出土土器は壷，甕，高杯，器台，鉢などで構成されている。出土土器の様相と当該時期の竪穴住居跡が重複していないことなどから，ほぼ同時期のものと考えられる。

壷は全体がわかる資料がなく，不明な点が多い。素口縁の小型の壷も存在している。甕は平底と台付きがあり，口唇部に器材をもつものがわずかにみられるが，基本的には丸縁である。高杯は杯部が直線的に大きく開くものが多い。器台は存在するが，全体がわかる資料が少なく，不明な点が多い。

小型坩が存在していないことなどから，古墳時代前期の古い時期にあたるものと考えられる。

これらのことから，一本桜南遺跡，復山谷遺跡，船尾町田遺跡，鳴神山遺跡，島田込ノ内遺跡は当遺跡に先行する時期に集落が営まれていることがわかる。泉北側第２遺跡は，当遺跡の草刈Ⅱ（前）期とほぼ同時期と考えられるが，それ以降集落はみられなくなる。現在までのところ，当遺跡の草刈Ⅱ（後）期に該当する定型的な小型坩をもつ集落はほかにはない。なお，現在整理作業を実施している船尾白幡遺跡においても定型的な小型坩はみあたらない。当遺跡の草刈Ⅲ期に該当する集落としては，北の台遺跡と鳴神山遺跡の206号竪穴住居跡が挙げられるに過ぎない。

このように，今までは古墳時代前期でも比較的古い時期の集落の存在は知られていたが，それ以降の時期の集落が明らかではなかったが，向新田遺跡において定型的な小形坩をもつ集落が明らかとなった。

しかし，古墳時代前期をもって向新田遺跡を含めた周辺遺跡では，これ以降集落はみられなくなり，再び竪穴住居跡が現れるのは奈良時代になってからであることから，古墳時代前期をもって集落としての（居住区としての）役割を終えたものと考えられる。

〈参考文献〉

中山吉秀ほか　1975　「8. 北の台遺跡(CN503)」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅲ』
財団法人千葉県都市公社

野村幸希ほか　1975　「7 船尾白幡遺跡(CN705)」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅴ』
財団法人千葉県都市公社
現在整理作業中

清藤一順ほか　1979　復山谷遺跡　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』
千葉県企業庁　財団法人千葉県文化財センター

古内　茂ほか　1982　復山谷遺跡　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』
千葉県企業庁　財団法人千葉県文化財センター

清藤一順ほか　1984　「船尾町田遺跡」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅷ』　財団法人千葉県文化財センター

古墳時代研究会　1984　『古墳時代土器の研究』

高橋博文　1991　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告Ⅹ　泉北側第2遺跡（CN613)』
千葉県文化財センター調査報告第190集　財団法人千葉県文化財センター

大村　直　1994　「戸張一番割遺跡の甕形」『史館』第25号　史館同人

古墳時代研究会　1997　『土器が語る－関東古墳時代の黎明－』

鳴田浩司ほか　1999　『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡－』　千葉県文化財センター調査報告第358集　財団法人千葉県文化財センター

石田清彦　1999　『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－印西市白井谷奥遺跡－』
千葉県文化財センター調査報告第369集　財団法人千葉県文化財センター

蔀淳一　1999　「八千代市島田込ノ内遺跡」『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1』
千葉県文化財センター調査報告第328集　財団法人千葉県文化財センター

雨宮龍太郎ほか　1999　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告ⅩⅡ－白井町一本桜南遺跡－』
千葉県文化財センター調査報告第318集　財団法人千葉県文化財センター

加藤修司ほか　2000　「房総地方における前期古墳の展開－重要遺跡確認調査の成果と課題4－」『千葉県文化財センター研究紀要21』　財団法人千葉県文化財センター

萩原恭一　2000　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告ⅩⅣ－印西市鳴神山遺跡Ⅲ・白井谷奥遺跡－』
千葉県文化財センター調査報告第392集　財団法人千葉県文化財センター

山口剛志編　2000　『最新出土品展2000弥生時代の小田原』　小田原市教育委員会

高花宏行　2001　「臼井南遺跡群出土弥生土器の再評価」『佐倉市史研究』第14号　佐倉市教育委員会

写　真　図　版

遺跡周辺航空写真

図版 2

遺跡近景（西から）

第 1 ブロック
遺物出土状況

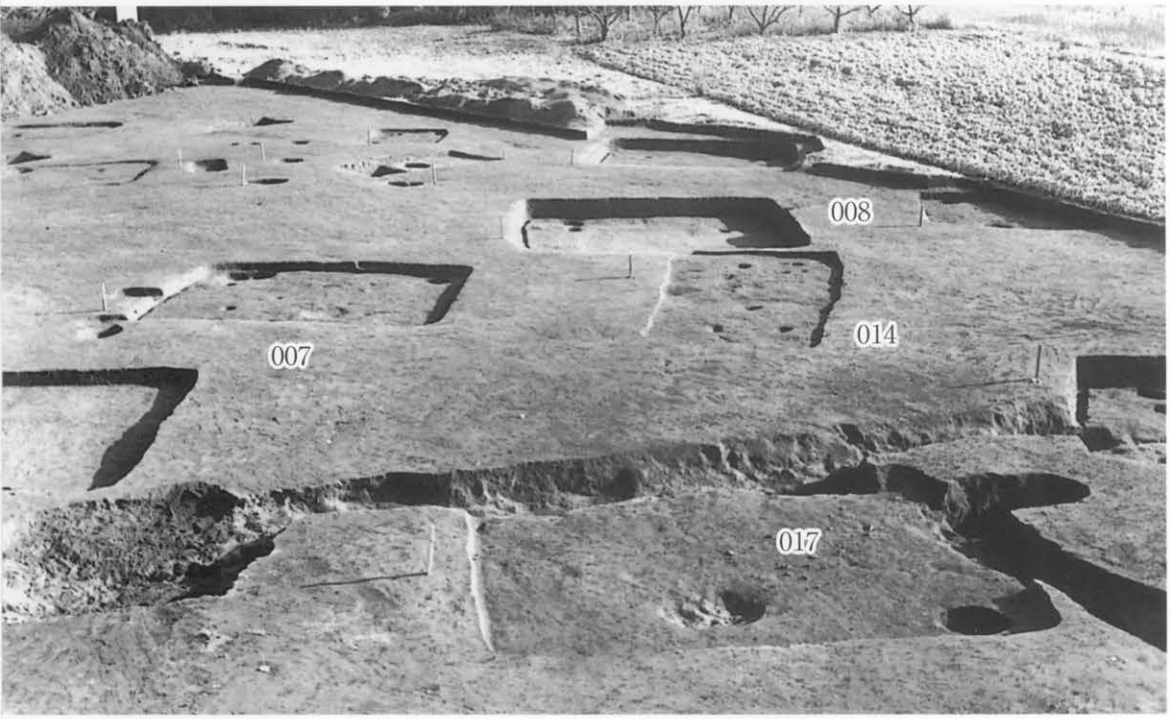
第 1 ブロック
土層断面

石鏃製作遺物出土状況

117号陥し穴

図版4

039竪穴住居跡・
051建物跡全景

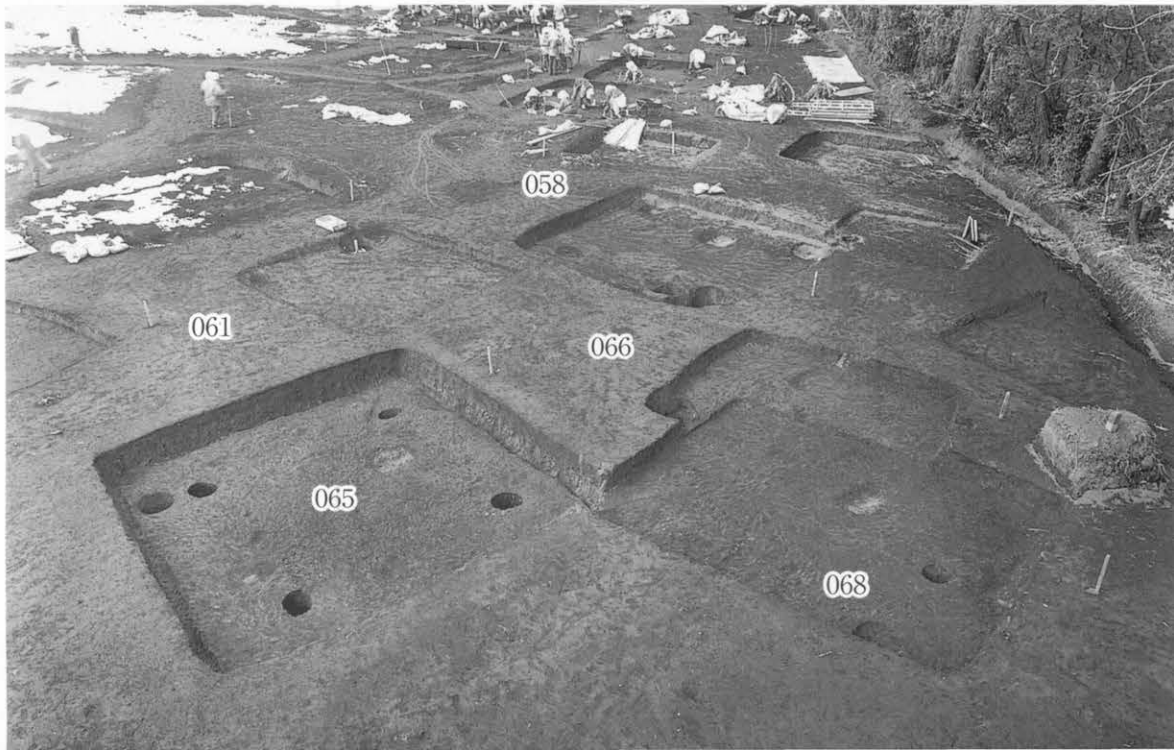


007・008・014・
017号竪穴住居跡
全景

019・020・025号
竪穴住居跡全景

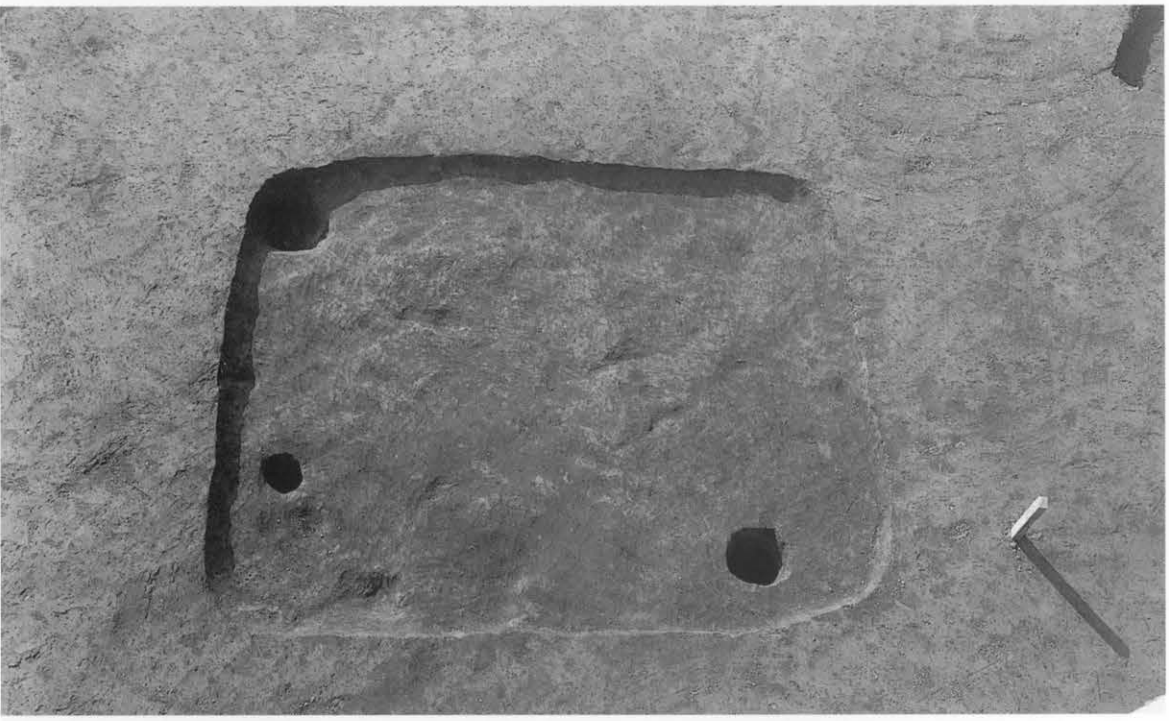
026・027号
竪穴住居跡全景

050・053・054・
076号竪穴住居跡
全景



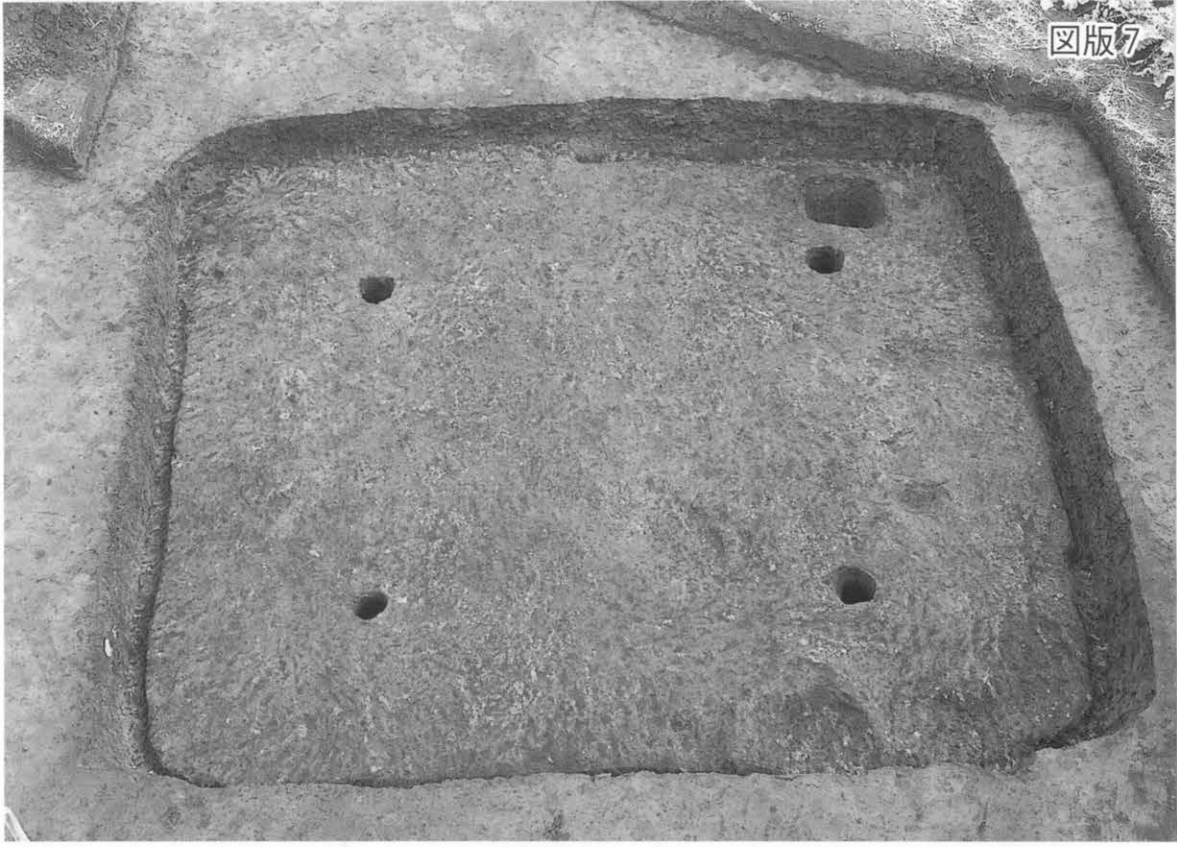
058・061・065・
066・068号竪穴
住居跡全景

002号竪穴住居跡
全景



004号竪穴住居跡
全景

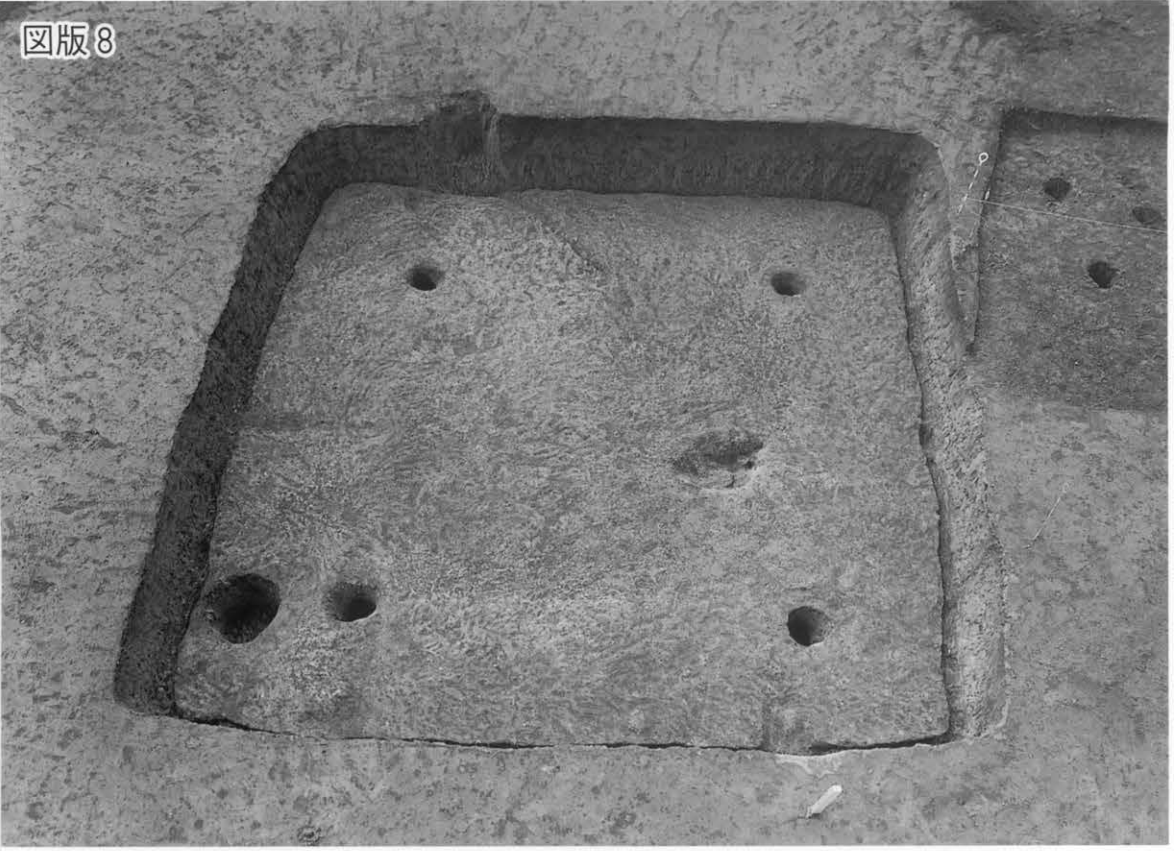
004号竪穴住居跡遺物出土状況



005号竪穴住居跡
全景

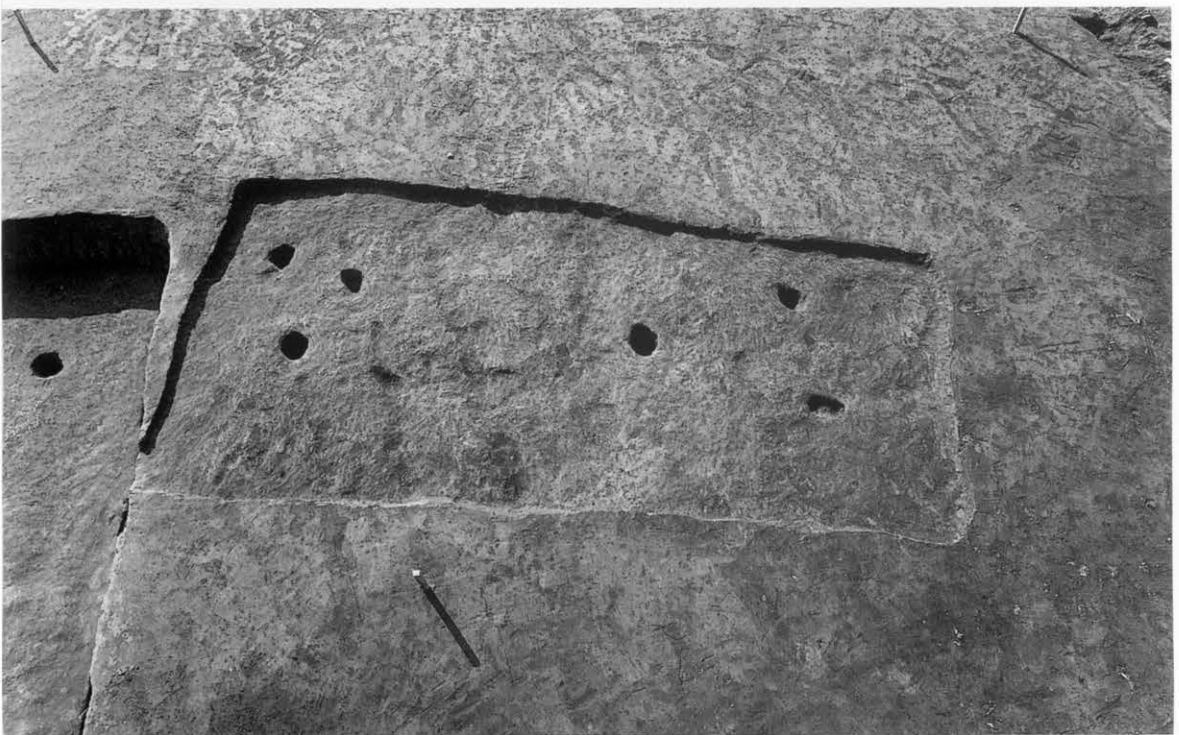
007号竪穴住居跡
全景

007号竪穴住居跡遺物出土状況

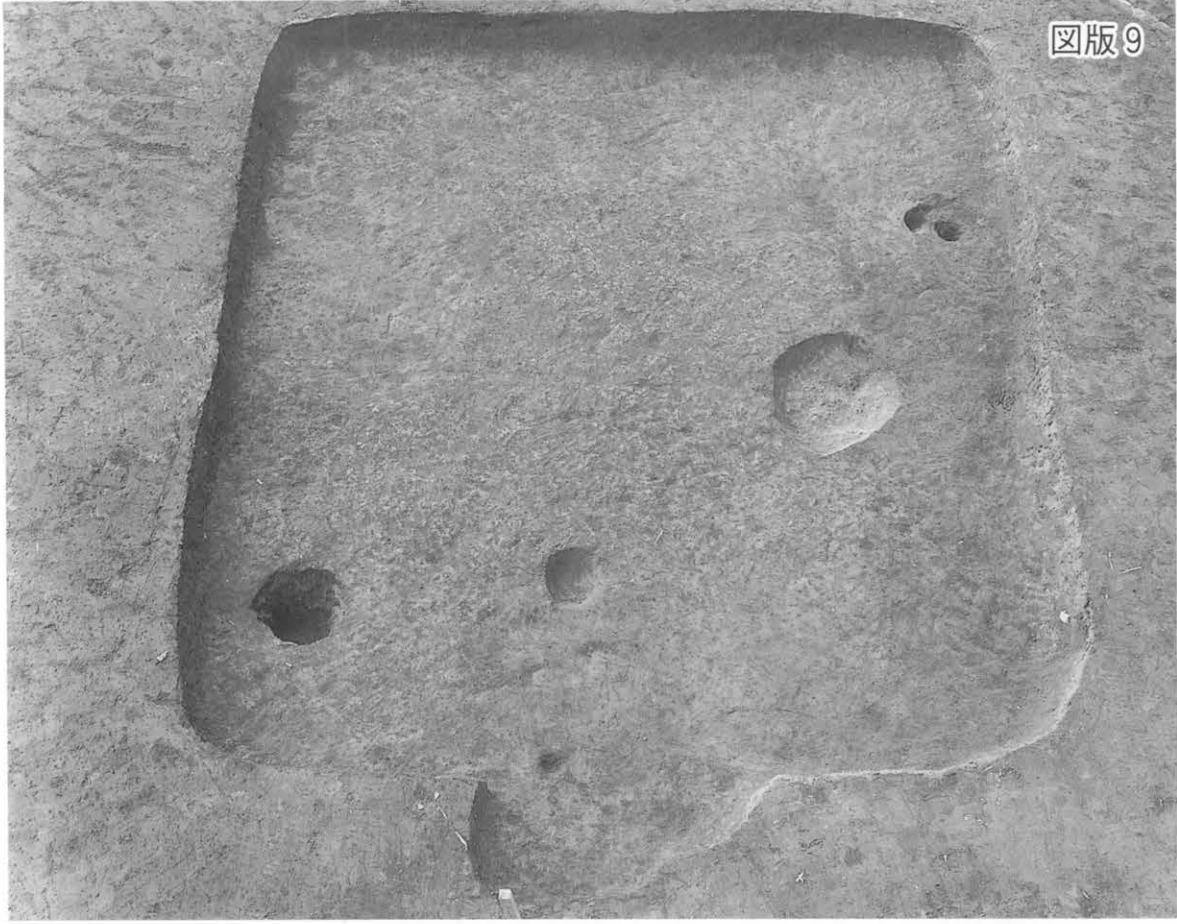


008号竪穴住居跡
全景

009号竪穴住居跡遺物出土状況

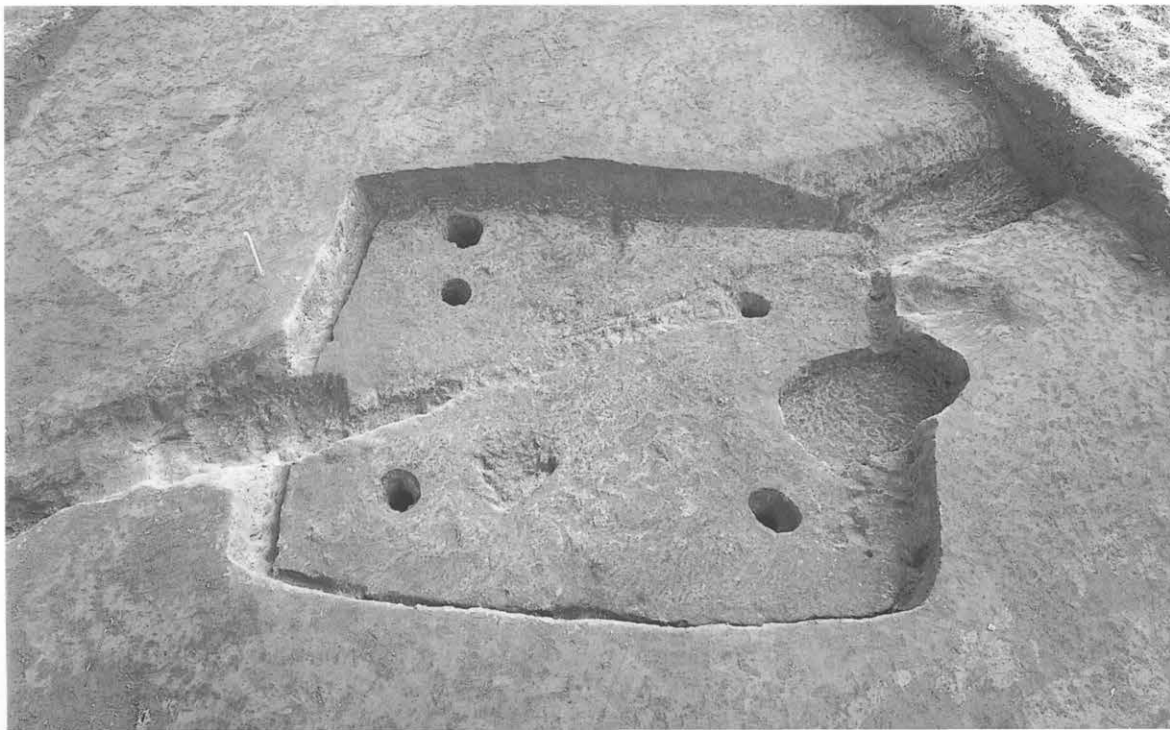


014号竪穴住居跡
全景



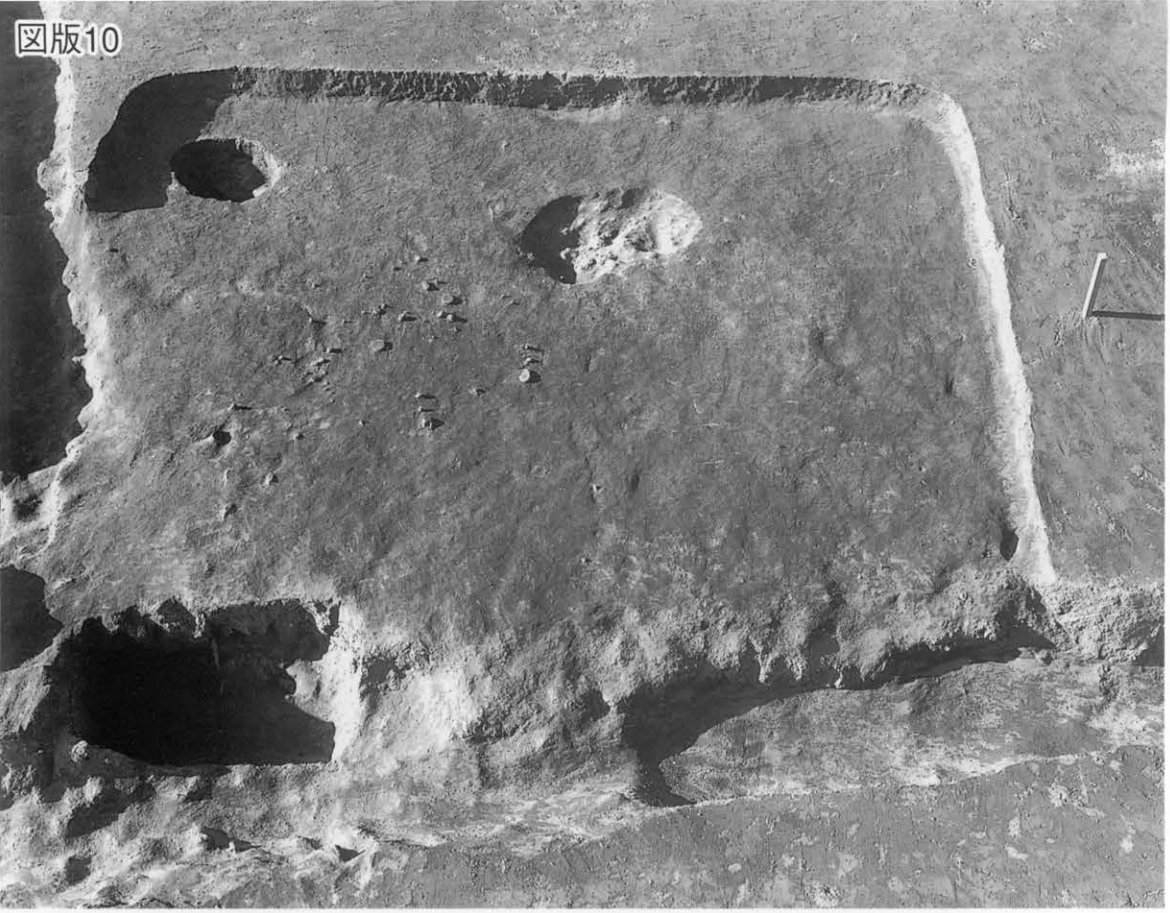
016号竪穴住居跡
全景

016号竪穴住居跡遺物出土状況



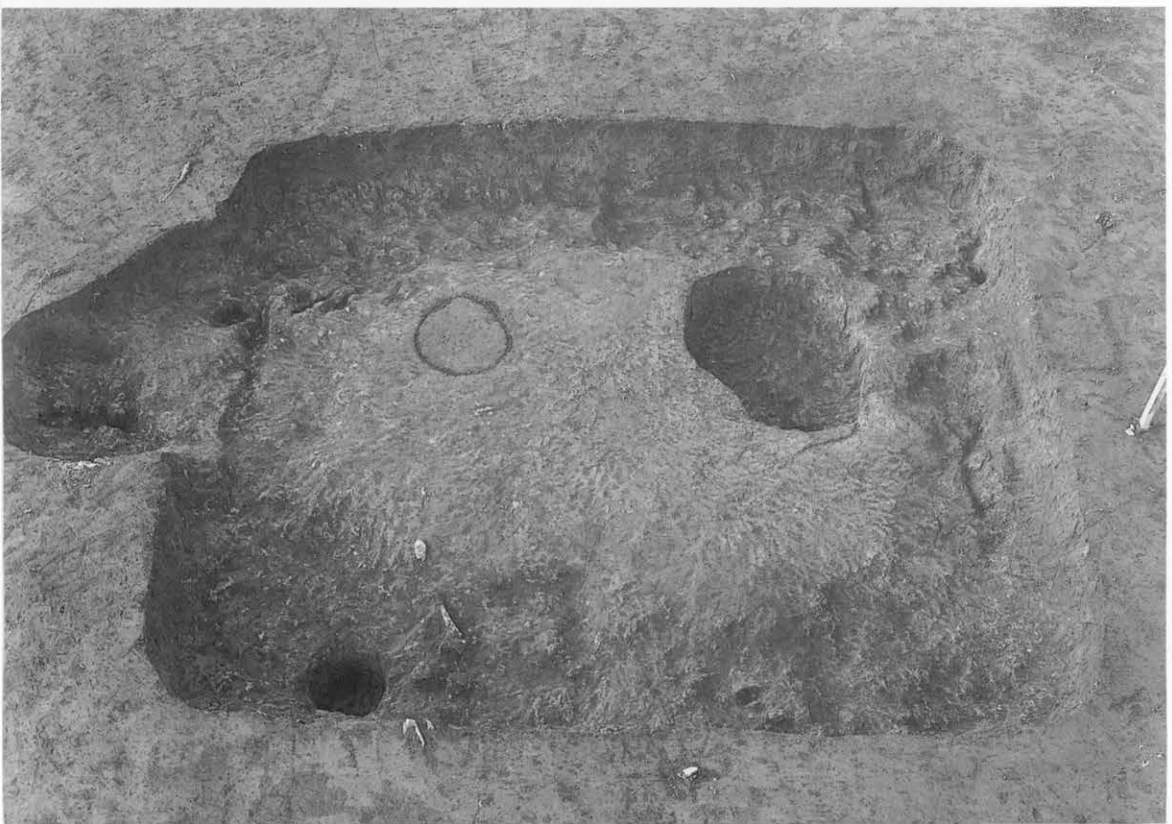
017号竪穴住居跡
全景

図版10

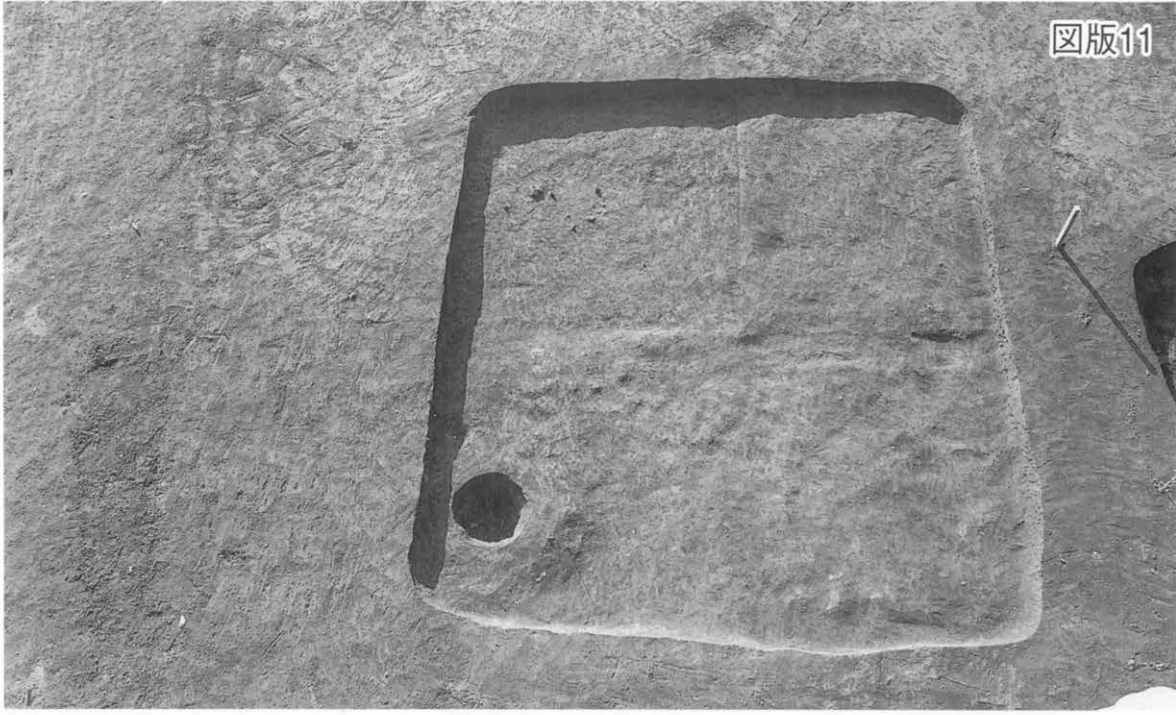


018号竪穴住居跡
全景

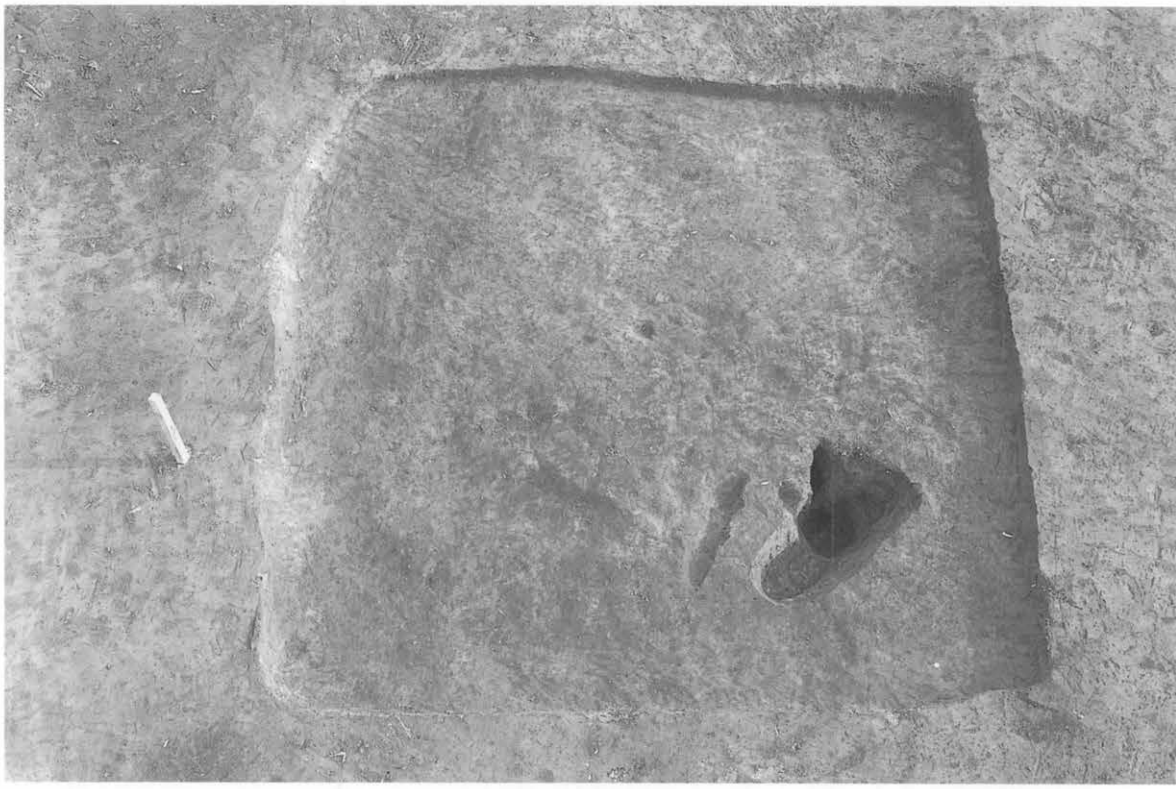
018号竪穴住居跡遺物出土状況



019号竪穴住居跡
全景



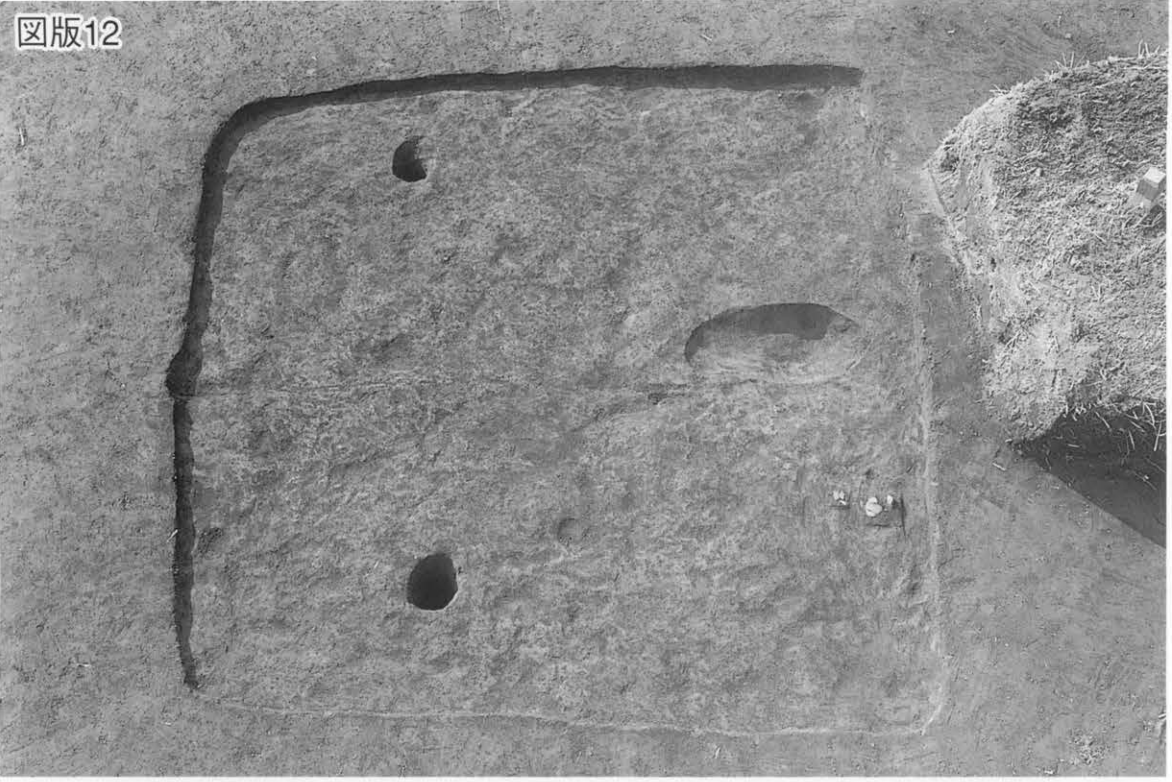
020号竪穴住居跡
全景



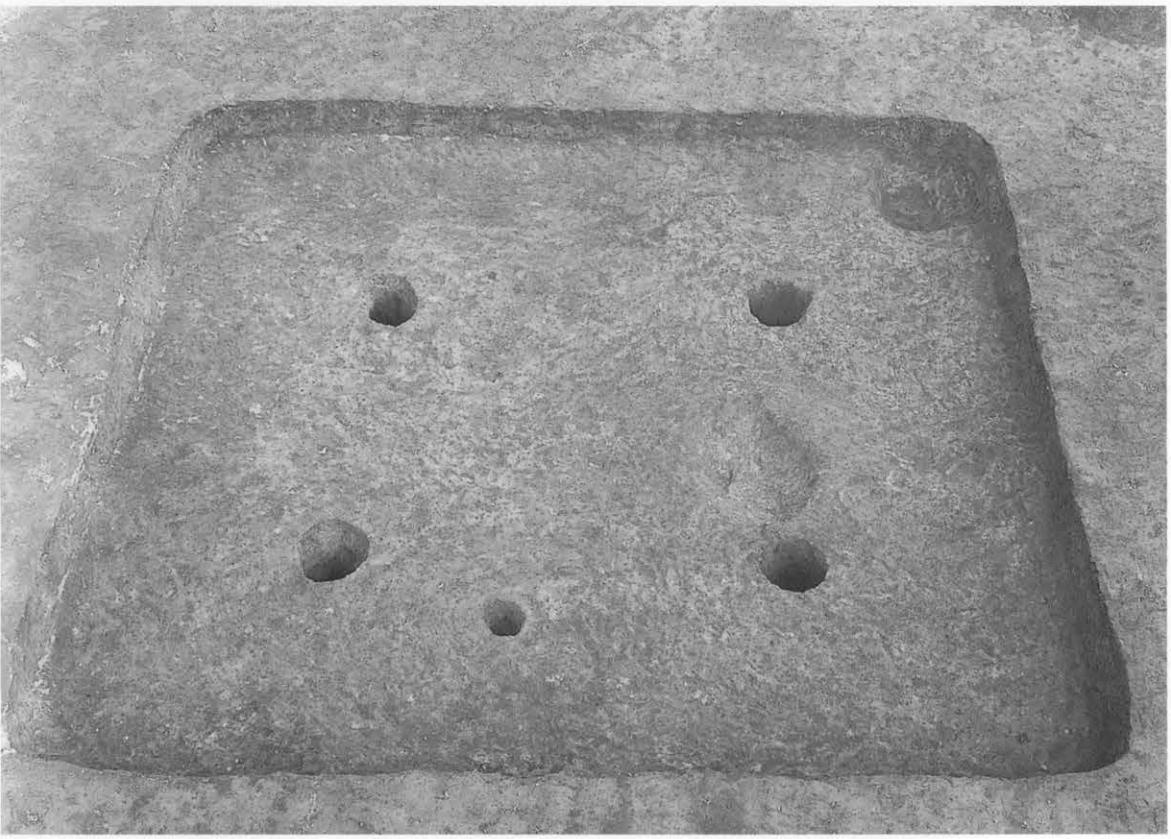
021号竪穴住居跡
全景

021号竪穴住居跡遺物出土状況

図版12



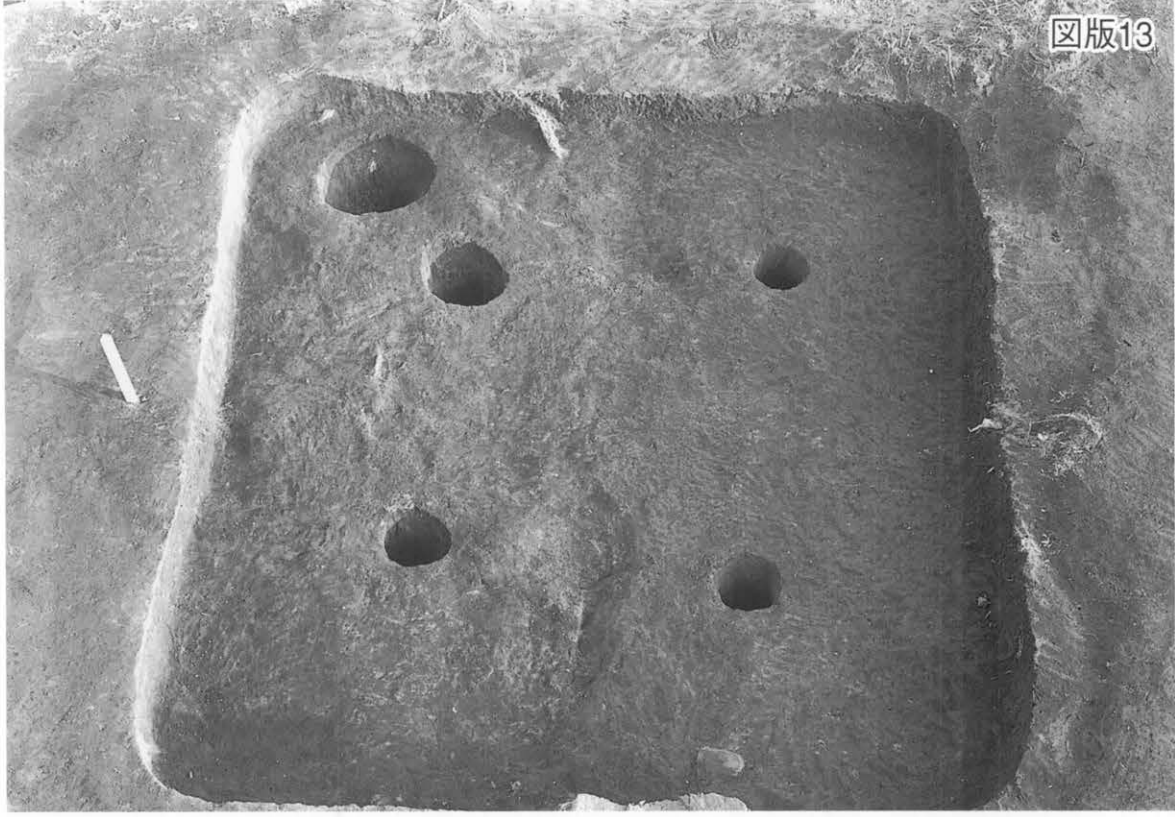
022号竪穴住居跡
全景

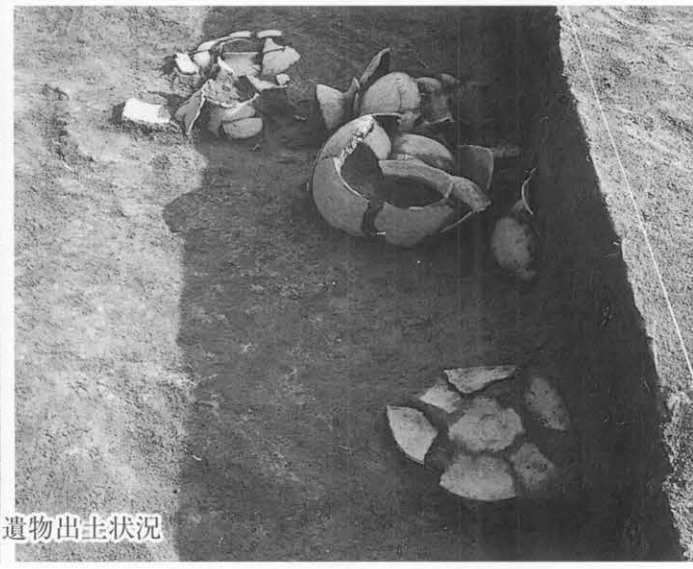


023号竪穴住居跡
全景

023号竪穴住居跡遺物出土状況

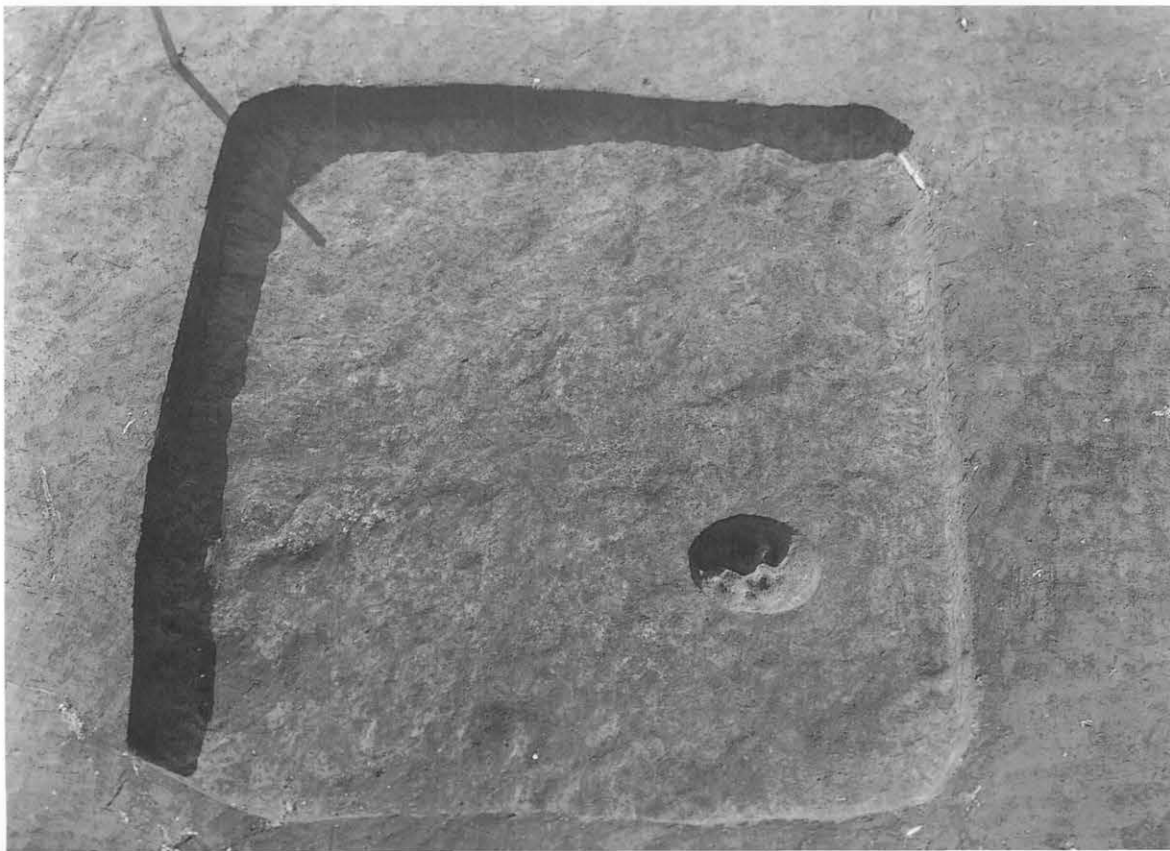
024号竪穴住居跡
全景

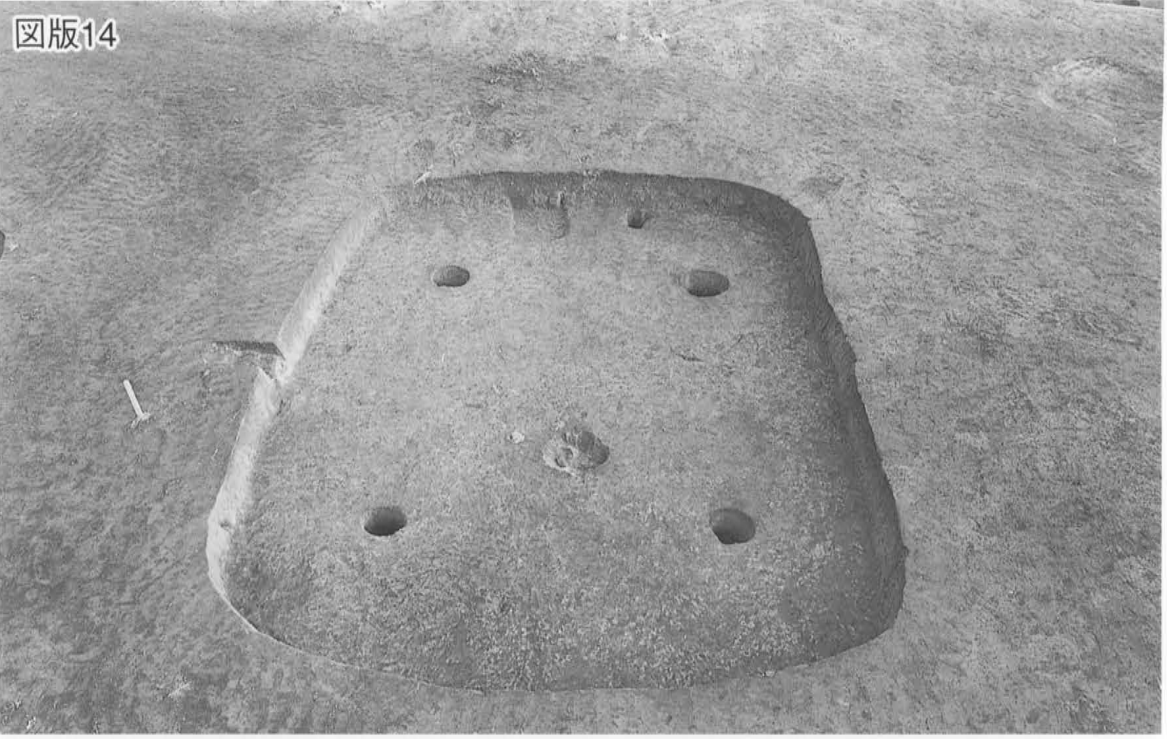




024号竪穴住居跡遺物出土状況

025号竪穴住居跡
全景



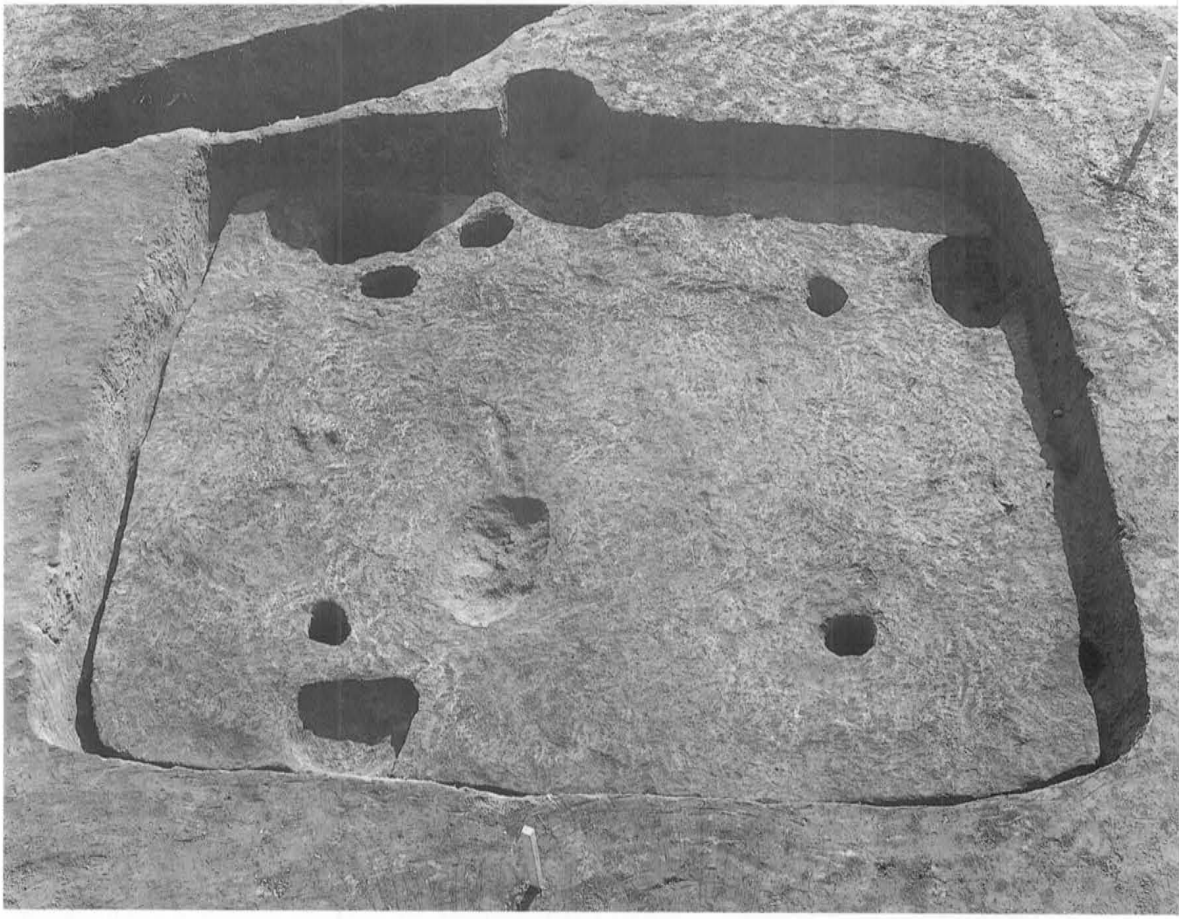


026号竪穴住居跡
全景

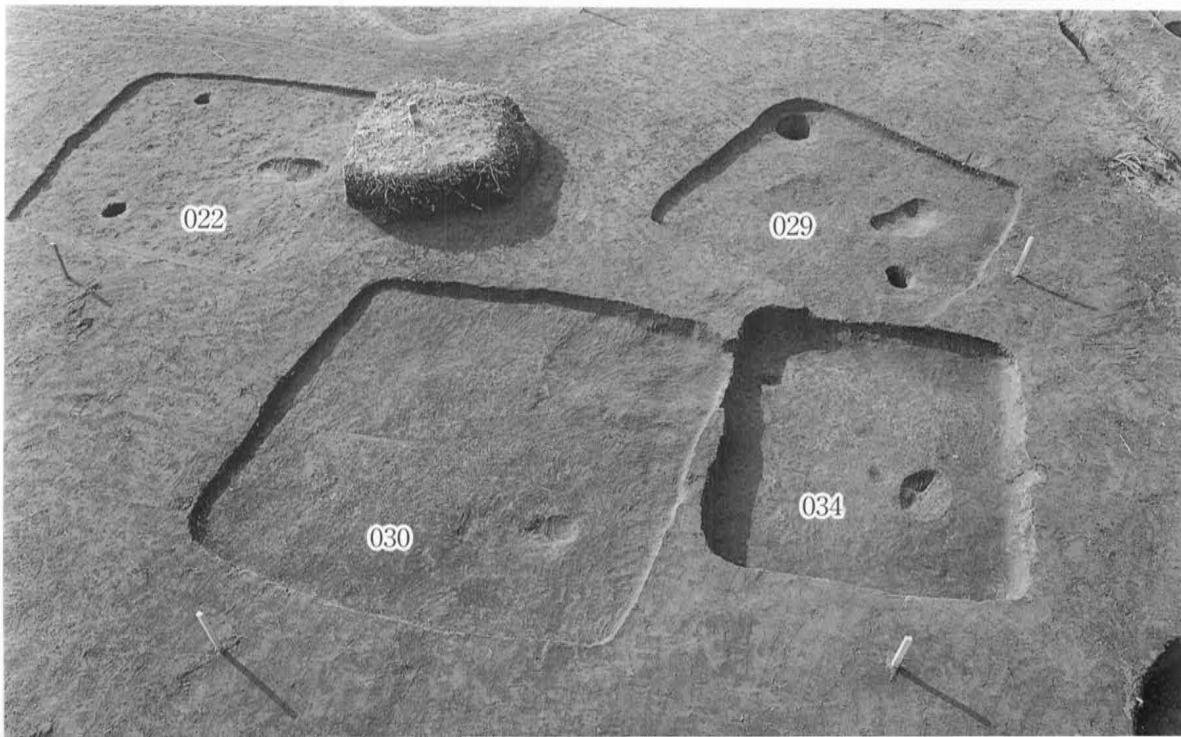
027号竪穴住居跡
全景

028号竪穴住居跡遺物出土状況

028号竪穴住居跡遺物出土状況



028号竪穴住居跡
全景



022・029・030
034号竪穴住居跡
全景

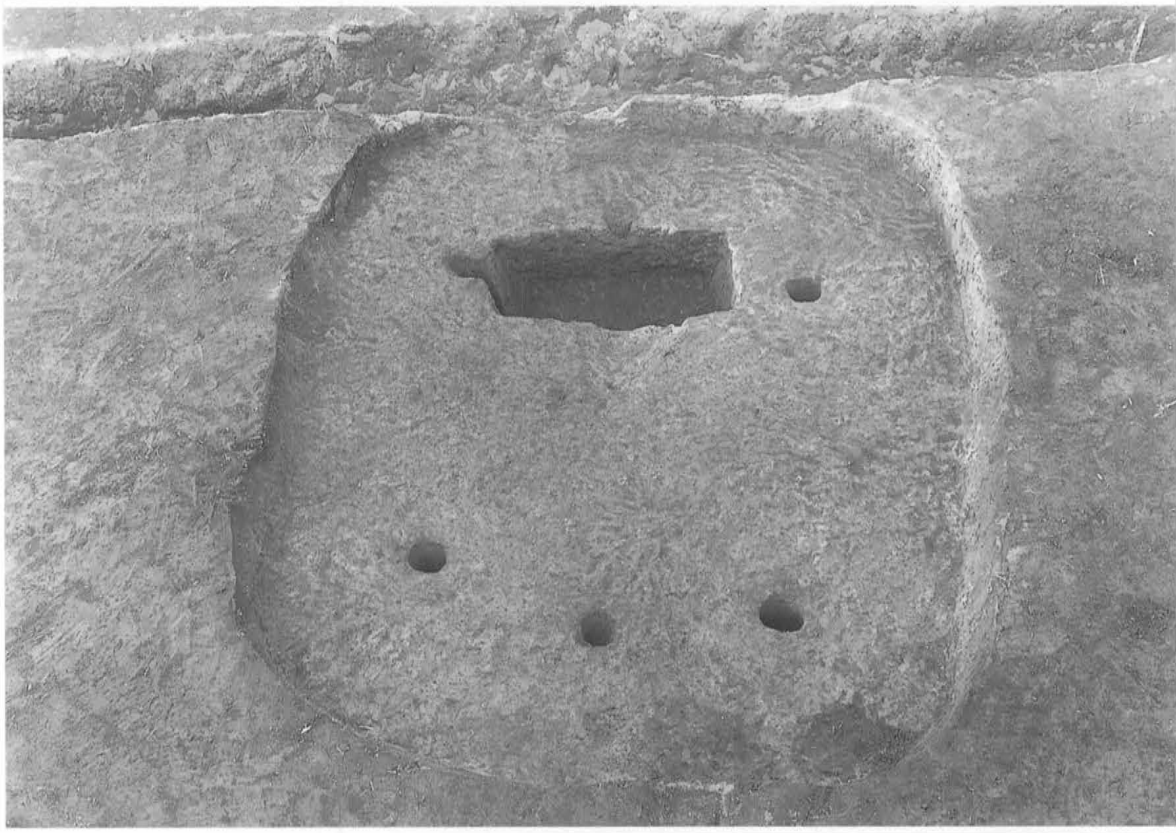
031号竪穴住居跡
全景

031号竪穴住居跡遺物出土状況

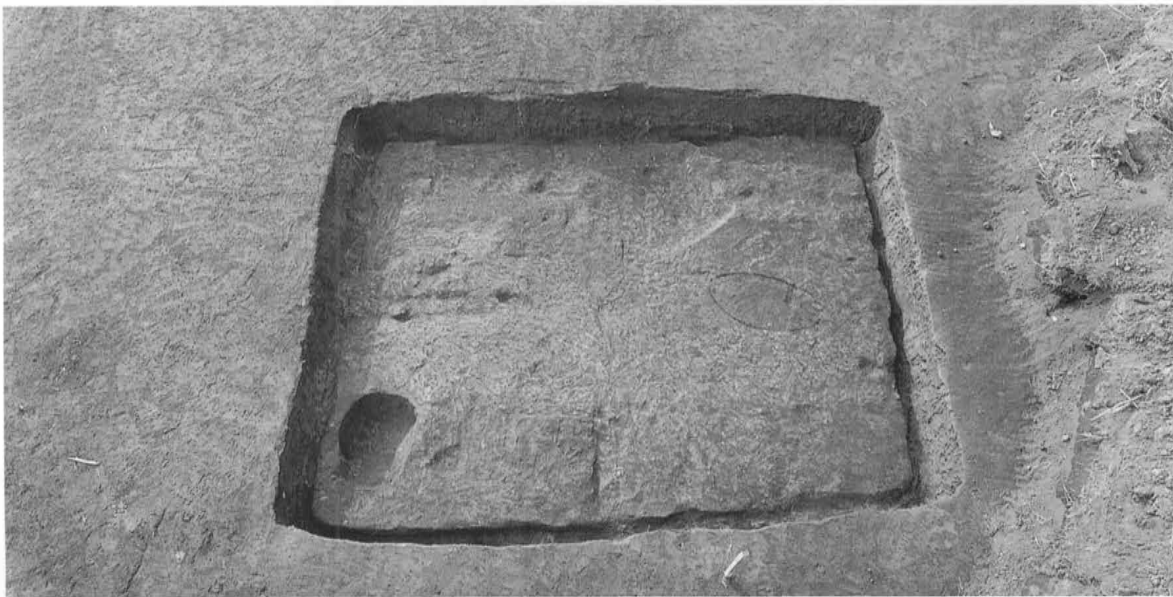
032号竪穴住居跡遺物出土状況

032号竪穴住居跡
全景

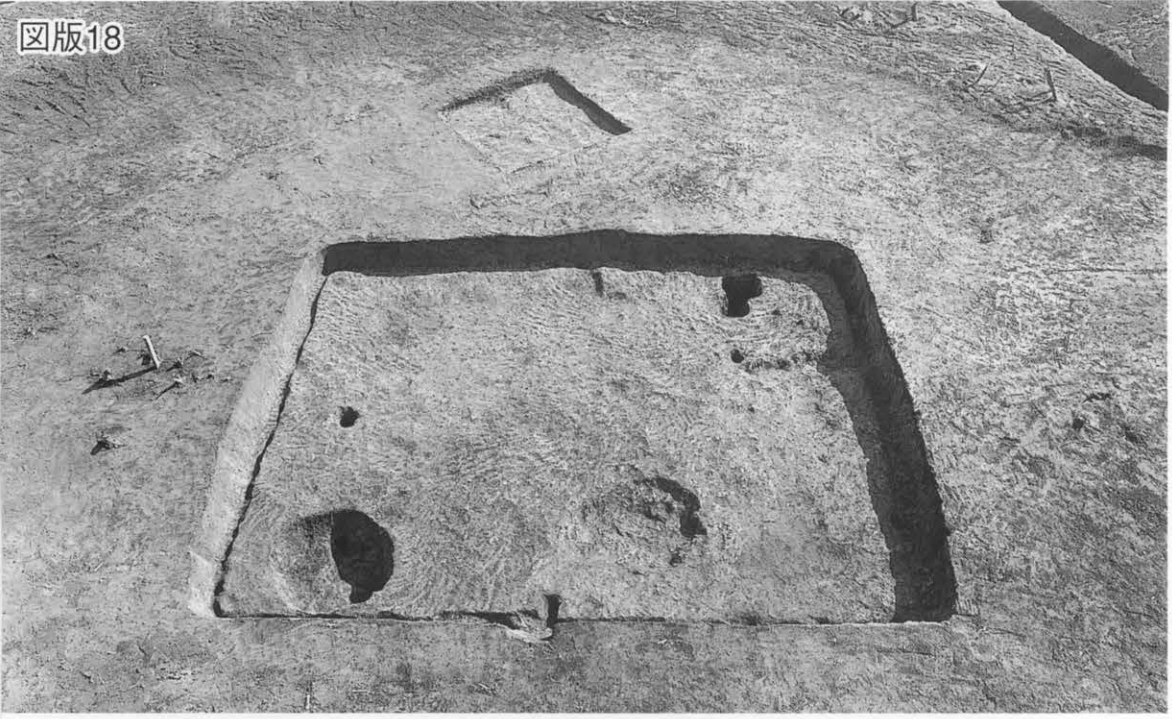
033号竪穴住居跡
全景



035号竪穴住居跡
全景



036号竪穴住居跡
全景



039号竪穴住居跡
全景

039号竪穴住居跡遺物出土状況

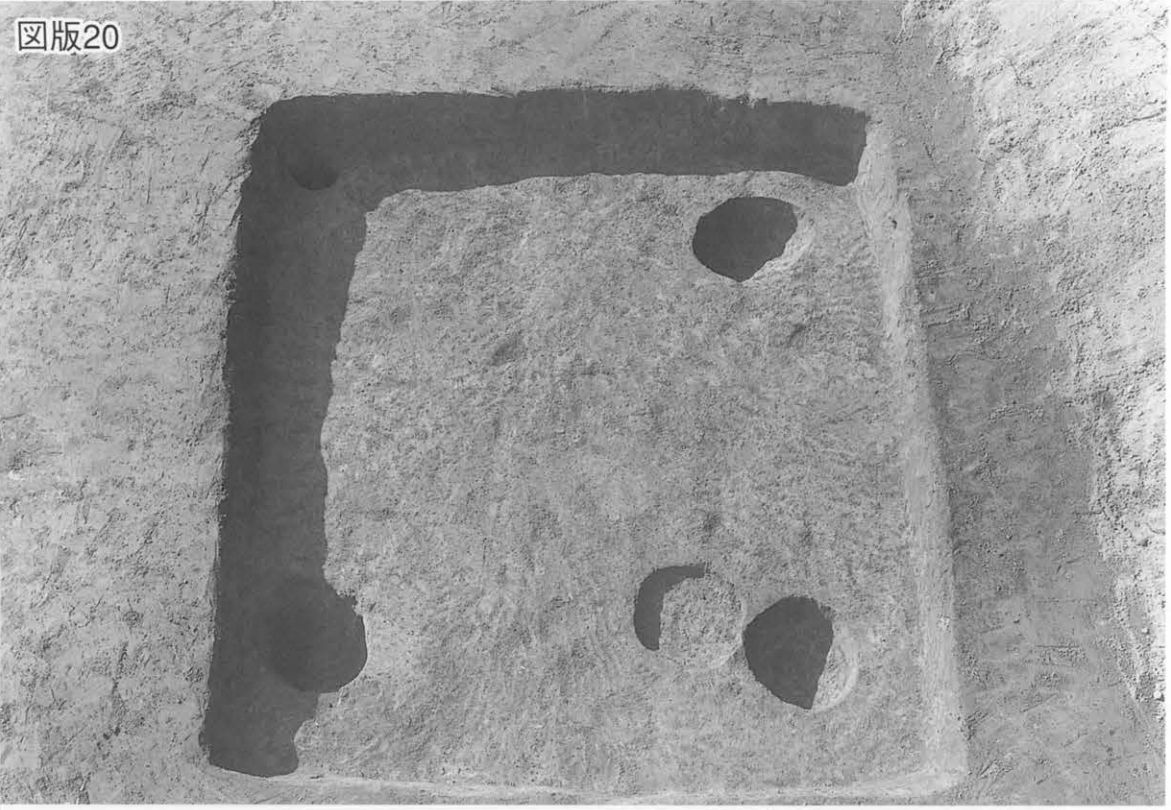
039号竪穴住居跡遺物出土状況

040号竪穴住居跡
全景

040号竪穴住居跡遺物出土状況

040号竪穴住居跡遺物出土状況

図版20



043号竪穴住居跡
全景

043号竪穴住居跡遺物出土状況

044号竪穴住居跡遺物出土状況

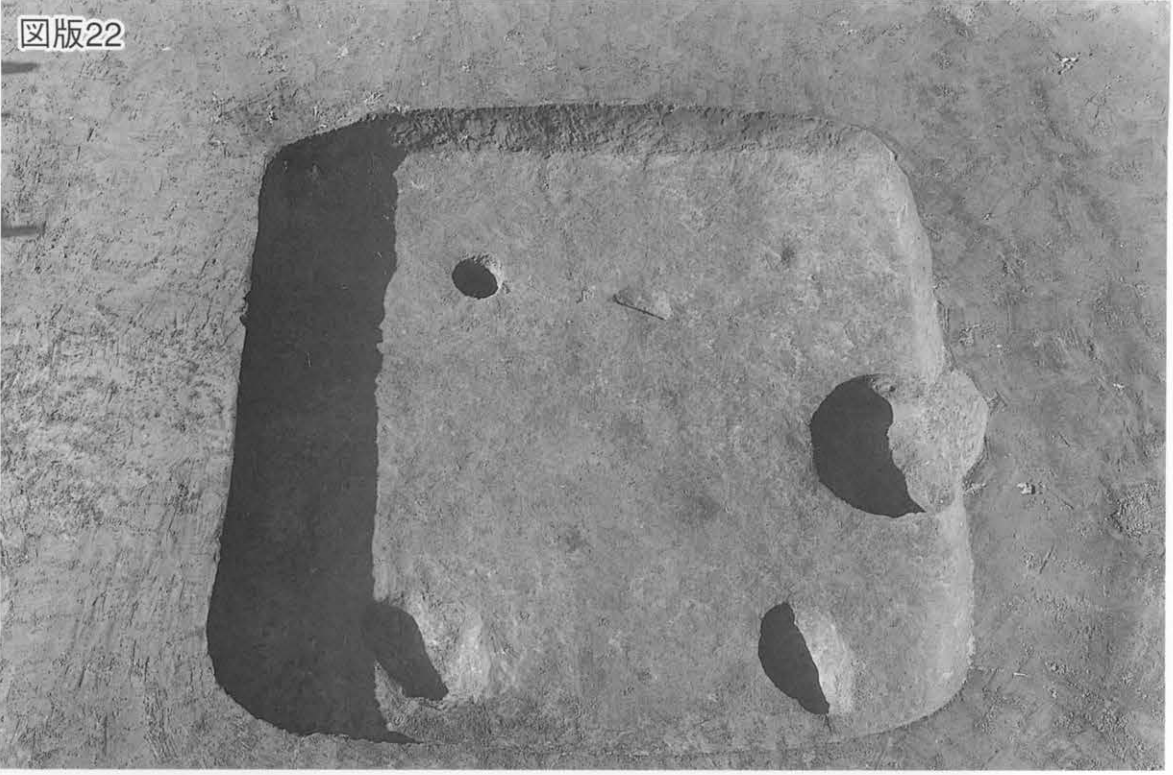
044号竪穴住居跡
全景

045号竪穴住居跡
全景

045号竪穴住居跡遺物出土状況

045号竪穴住居跡遺物出土状況

図版22



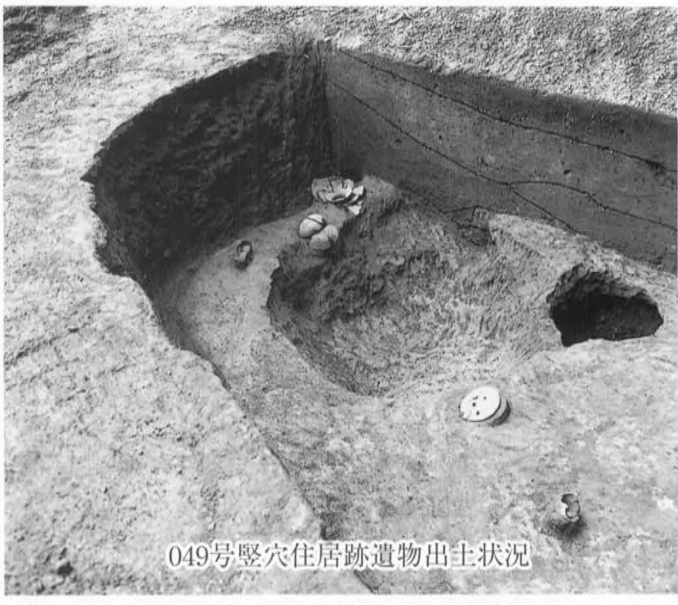
046号竪穴住居跡
全景

046号竪穴住居跡遺物出土状況

047号竪穴住居跡
全景

048号竪穴住居跡
全景

048号竪穴住居跡遺物出土状況



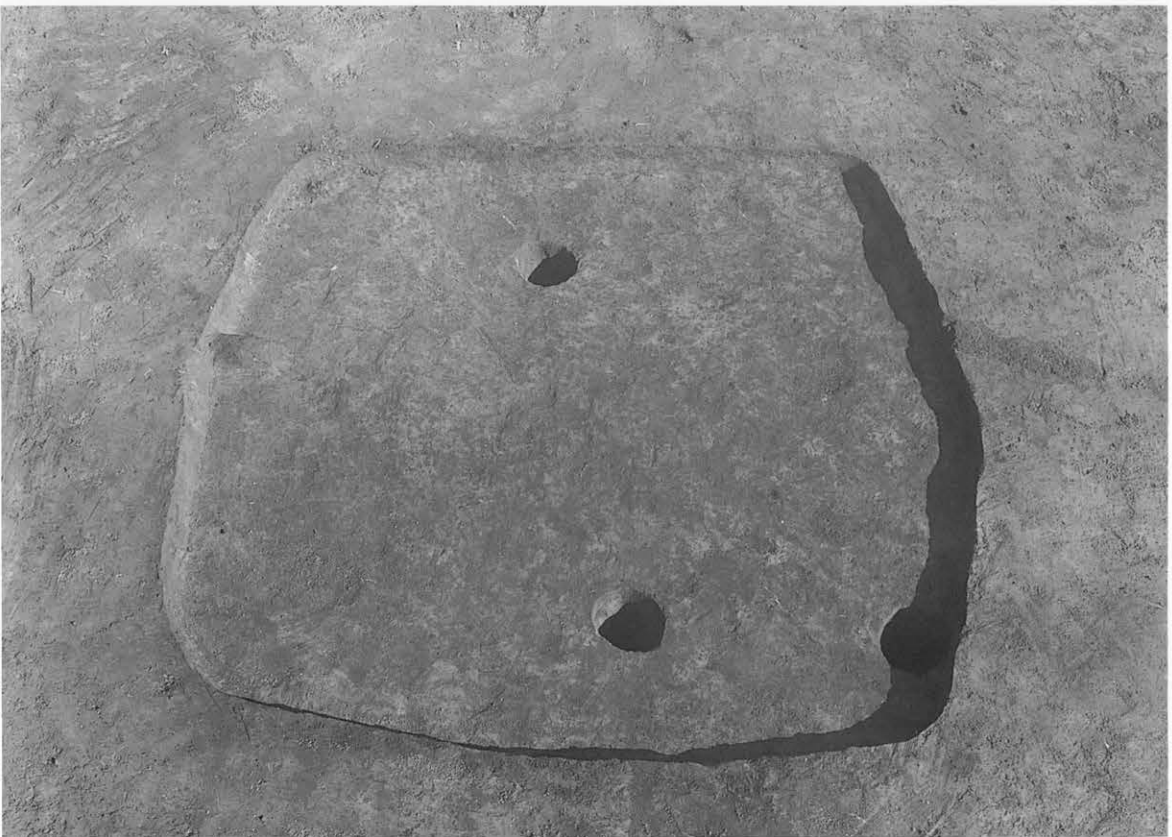
049号竪穴住居跡遺物出土状況

049号竪穴住居跡
全景

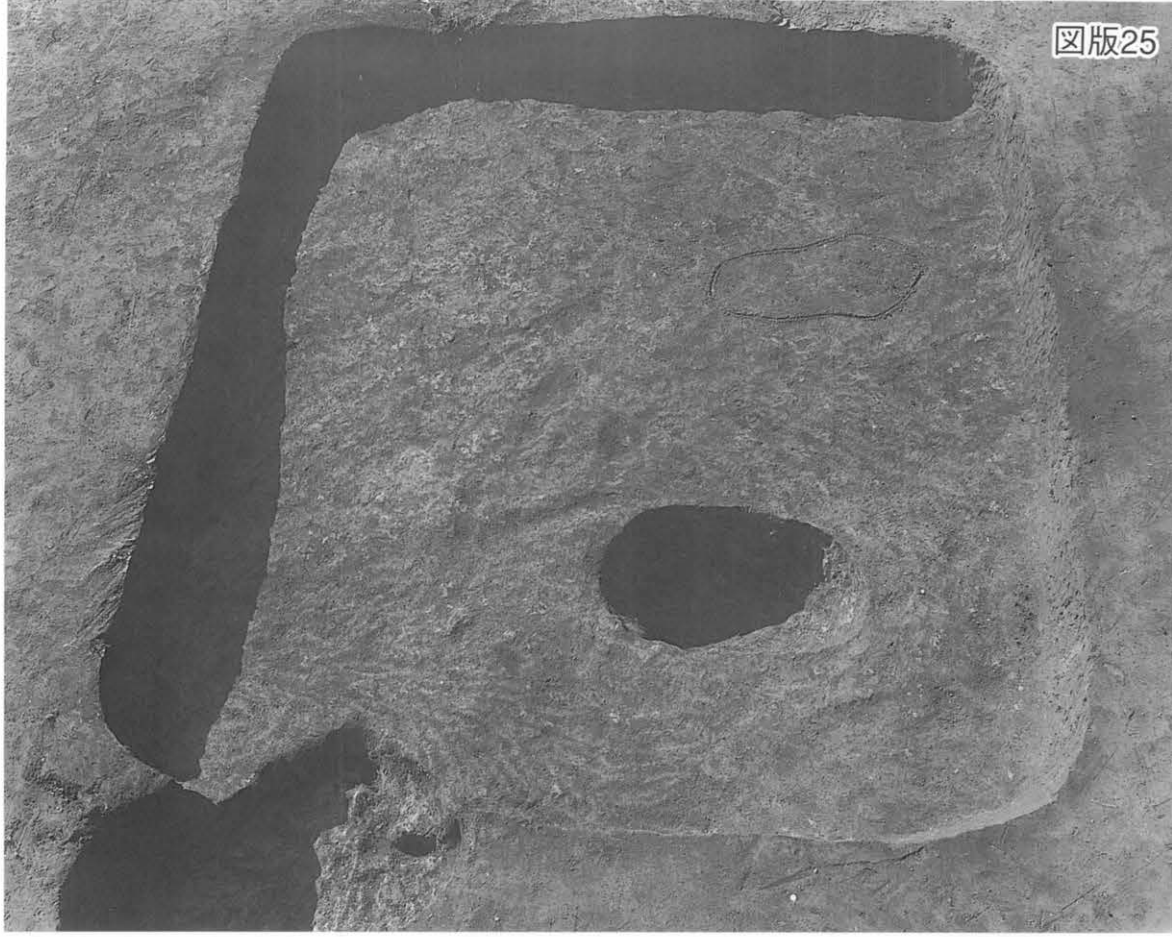
図版24

050号竪穴住居跡
全景

050号竪穴住居跡遺物出土状況



052号竪穴住居跡
全景



053号竪穴住居跡
全景

054号竪穴住居跡
全景

054号竪穴住居跡遺物出土状況

055号竪穴住居跡
全景

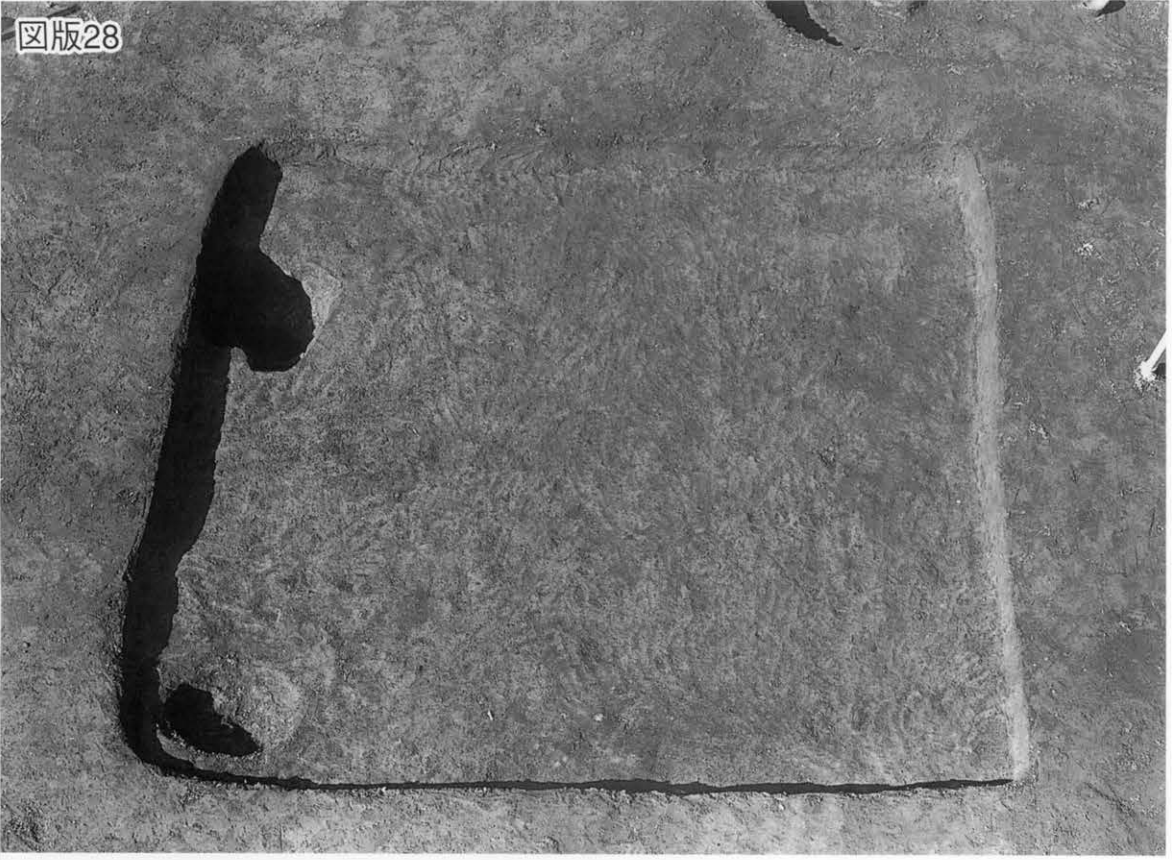
055号竪穴住居跡遺物出土状況

056号竪穴住居跡
全景

057・058号
竪穴住居跡全景

058号竪穴住居跡遺物出土状況

059号竪穴住居跡
全景

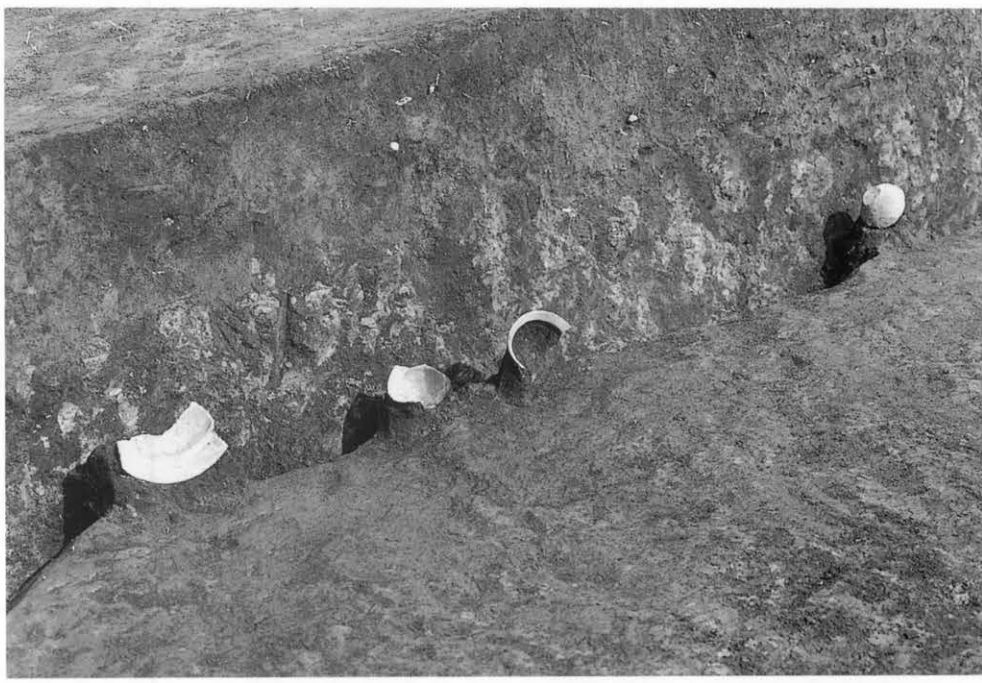


061号竪穴住居跡
全景

062号竪穴住居跡遺物出土状況

062号竪穴住居跡
全景

064号竪穴住居跡
全景



065号竪穴住居跡遺物出土状況

065号竪穴住居跡
全景

図版30

066・068号
竪穴住居跡全景

066号竪穴住居跡遺物出土状況

068号竪穴住居跡遺物出土状況

067号竪穴住居跡
全景

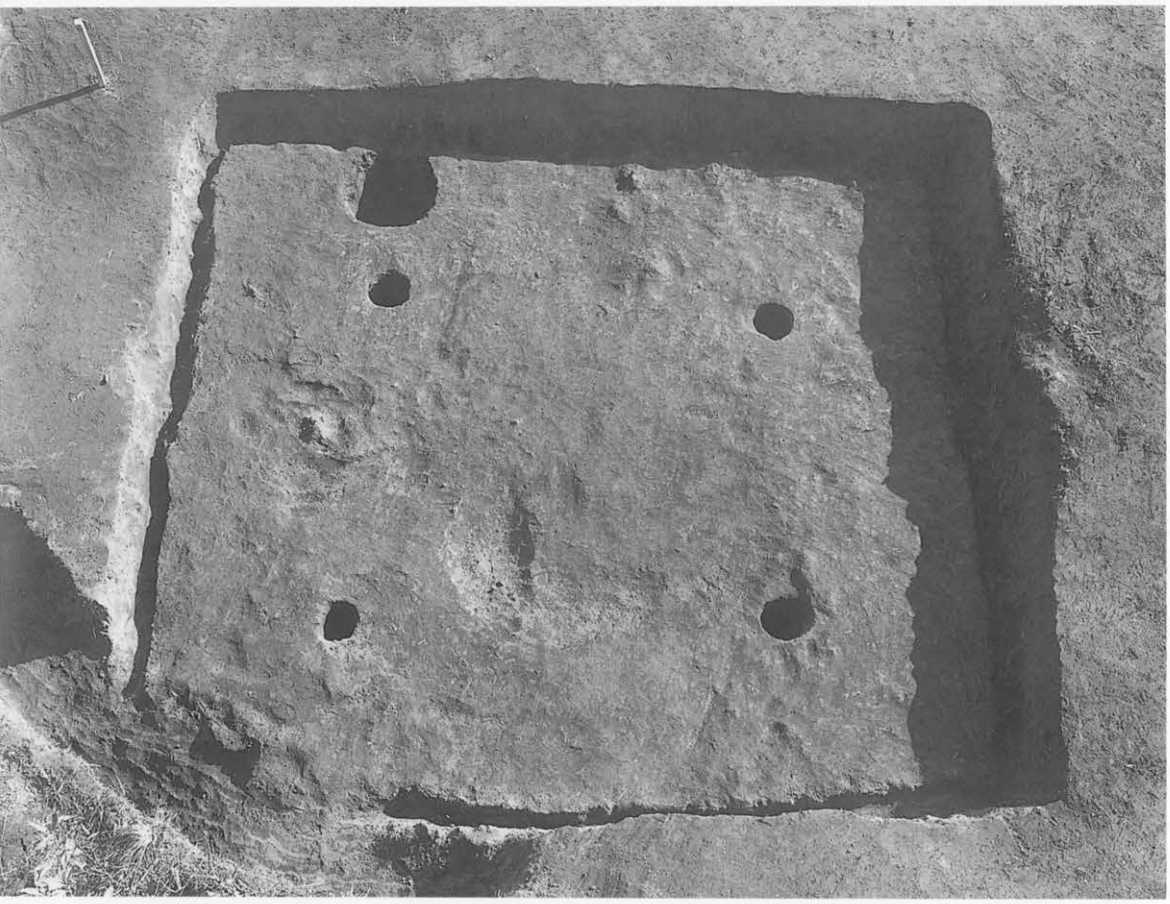
069号竪穴住居跡
全景

070号竪穴住居跡
全景

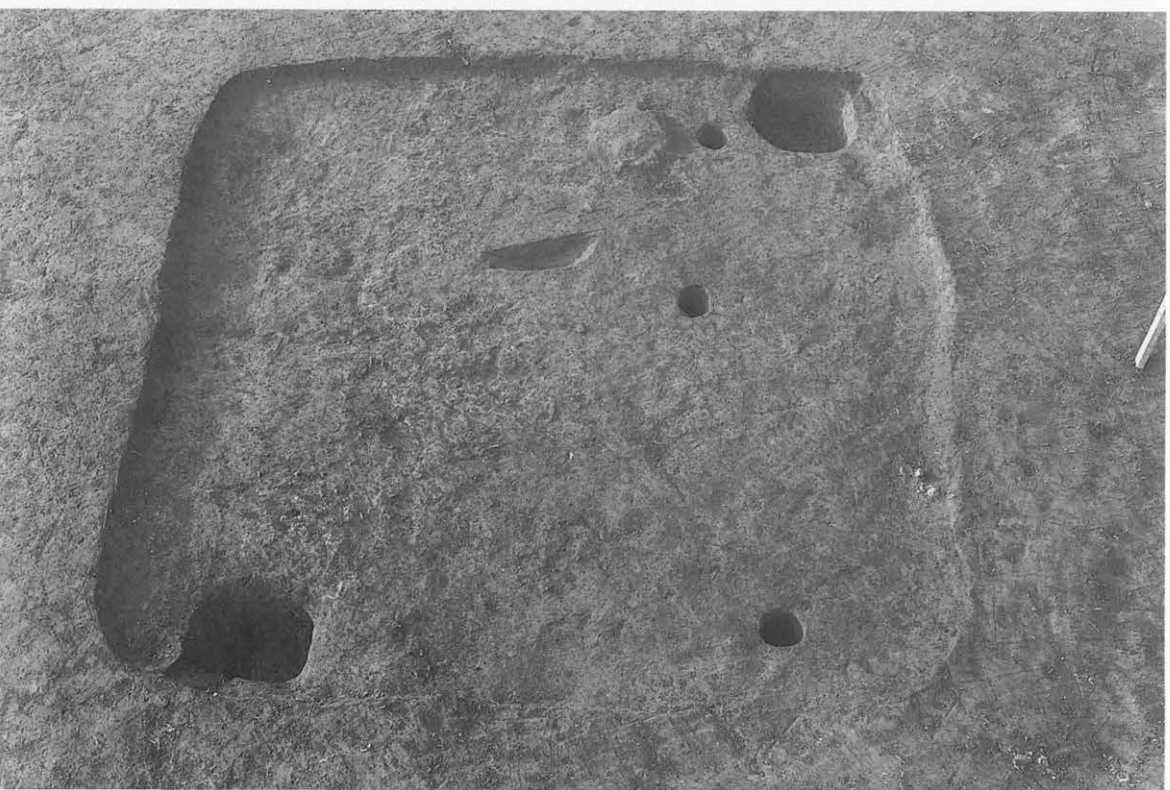
071号竪穴住居跡遺物出土状況

071号竪穴住居跡遺物出土状況

072号竪穴住居跡遺物出土状況



071号竪穴住居跡
全景



072号竪穴住居跡
全景

076号竪穴住居跡
全景

076号竪穴住居跡遺物出土状況

077号竪穴住居跡遺物出土状況

077号竪穴住居跡
全景

087号竪穴住居跡
全景

086号竪穴住居跡全景

088号竪穴住居跡全景

088号竪穴住居跡遺物出土状況

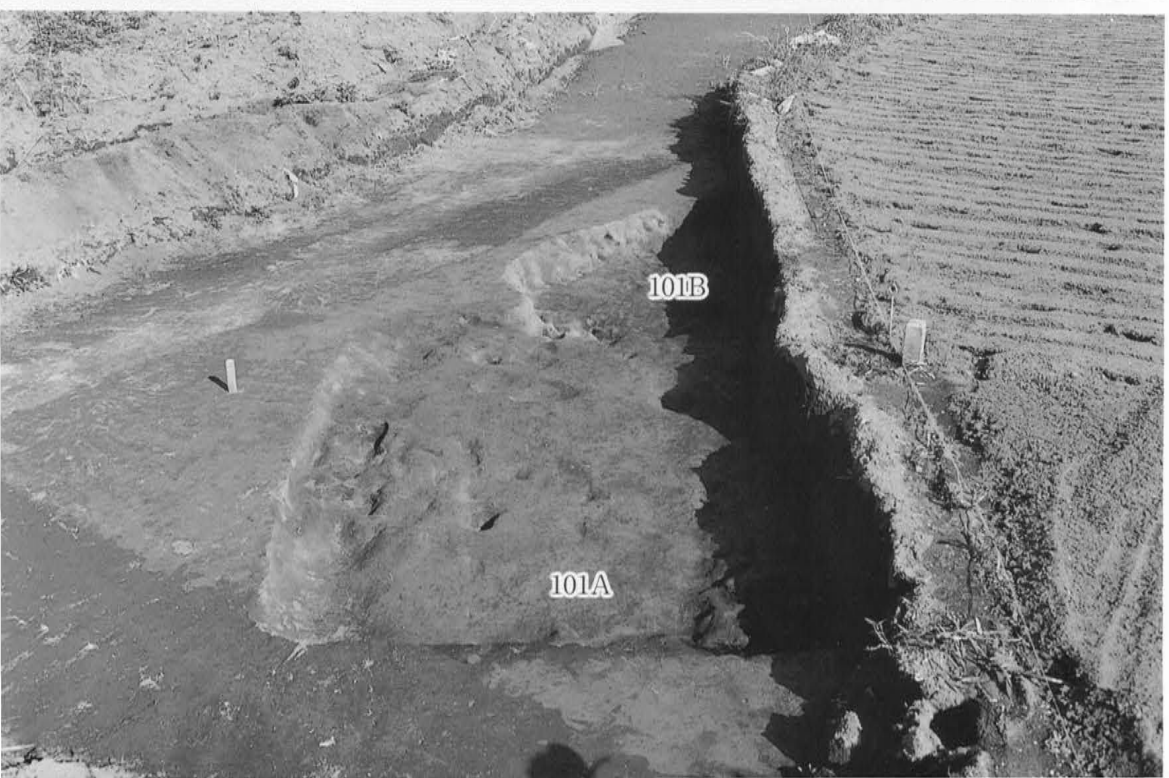
089号竪穴住居跡
全景

091号竪穴住居跡
全景

091号竪穴住居跡遺物出土状況

092号竪穴住居跡
全景

093号竪穴住居跡
全景



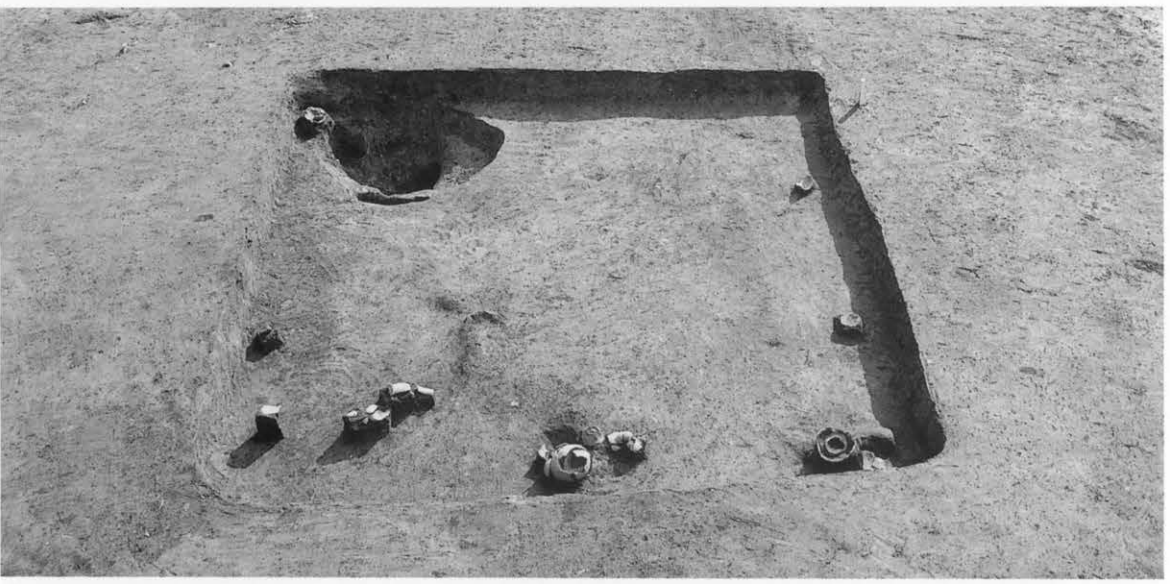
101A・101B号
竪穴住居跡全景

103号竪穴住居跡
全景

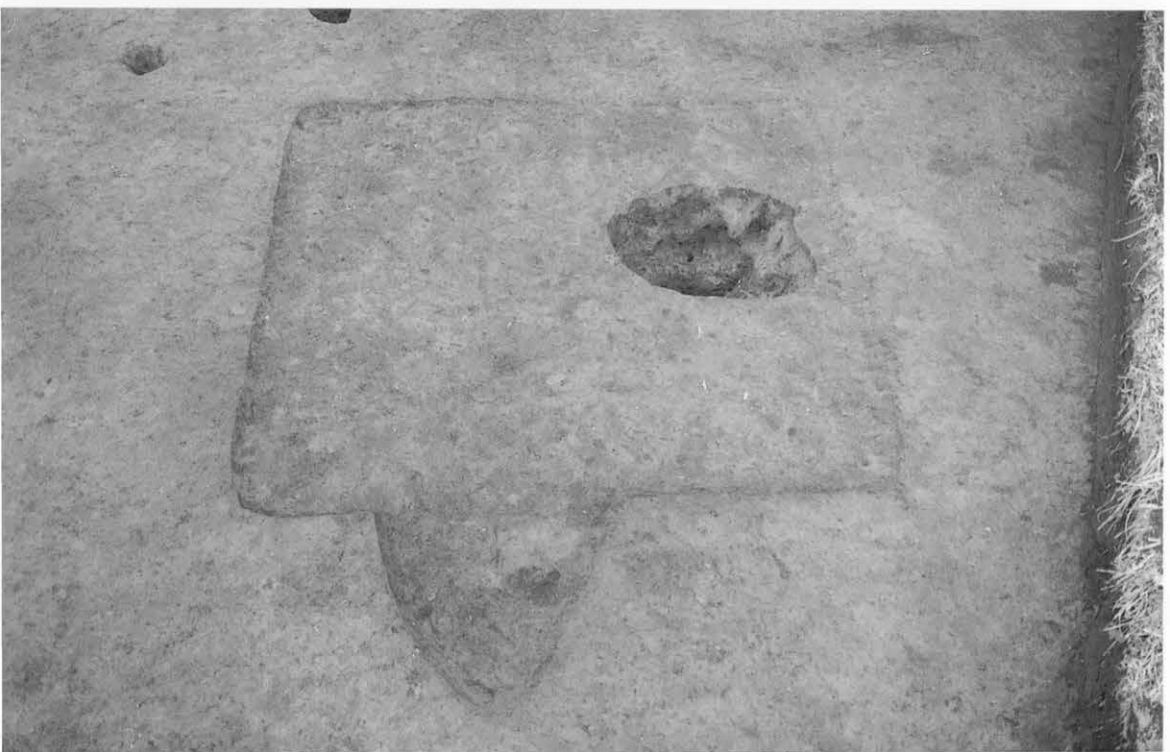
104号竪穴住居跡
全景

104号竪穴住居跡
遺物出土状況

105号竪穴住居跡
全景

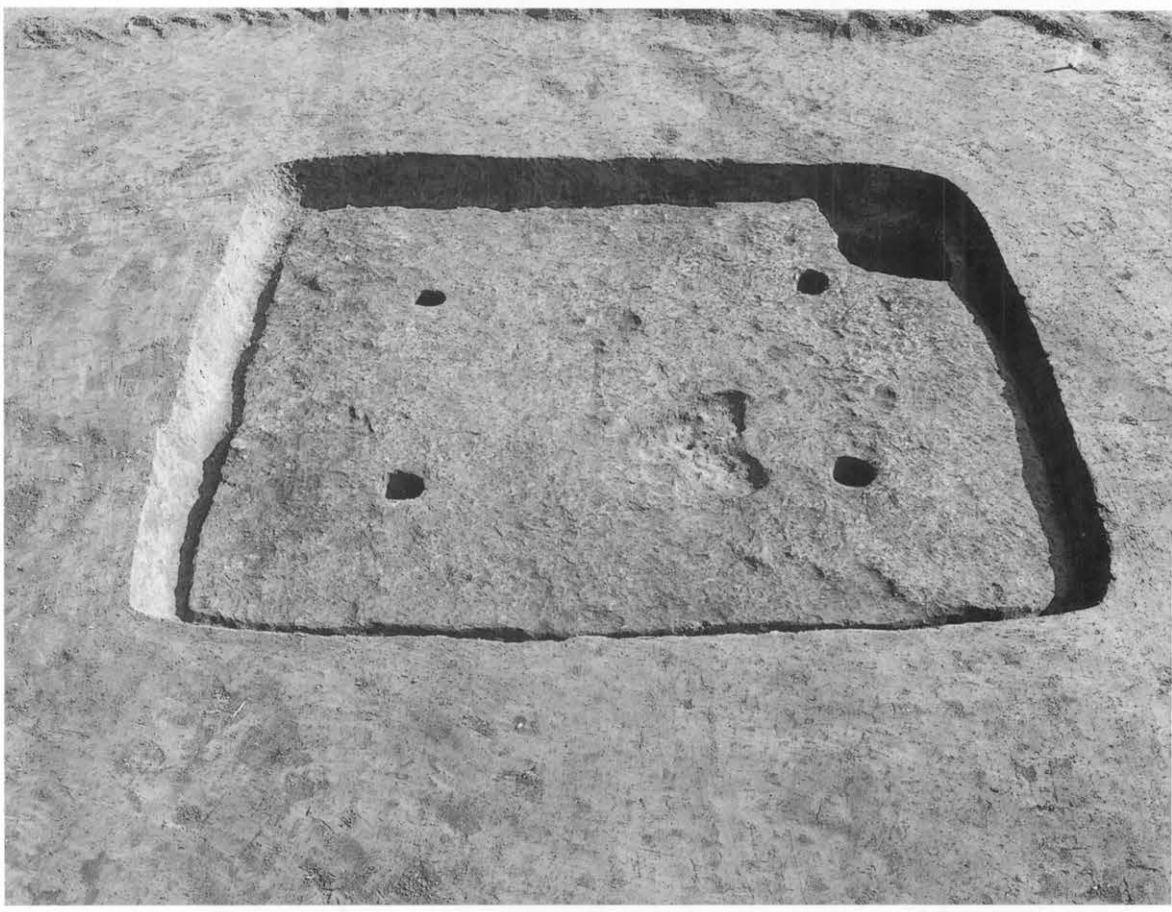


105号竪穴住居跡
遺物出土状況



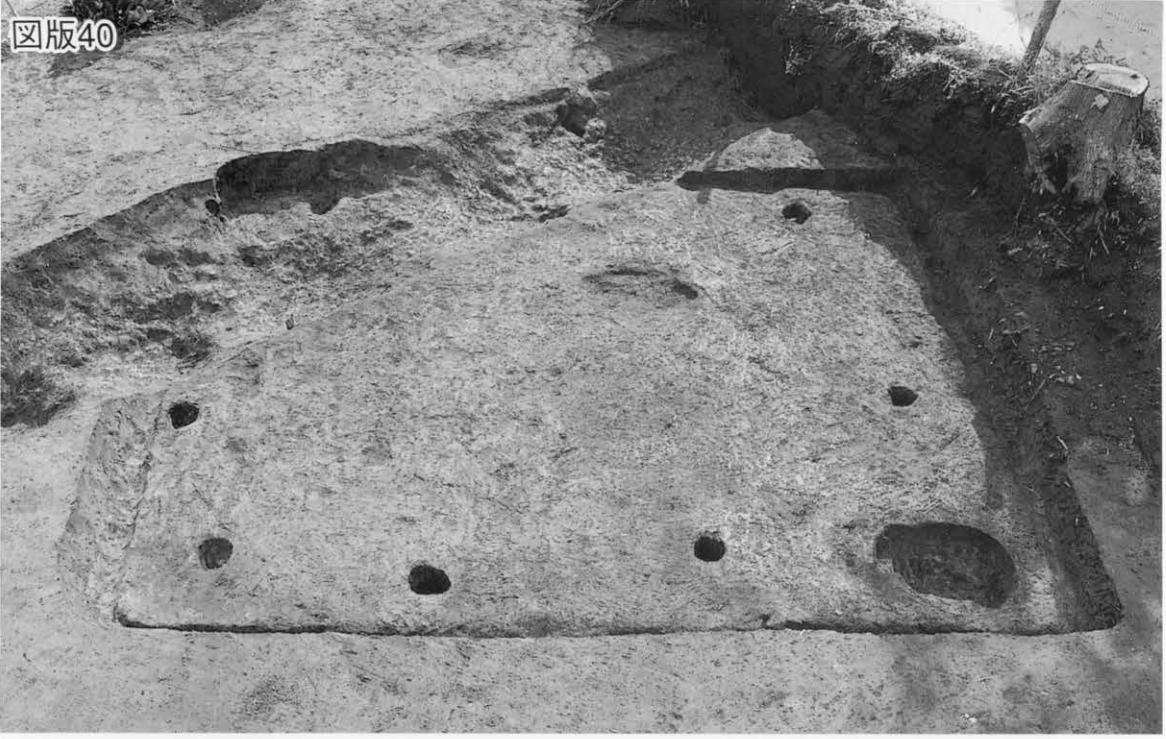
106号竪穴住居跡
全景

108号竪穴住居跡
全景



109号竪穴住居跡
全景

109号竪穴住居跡遺物出土状況



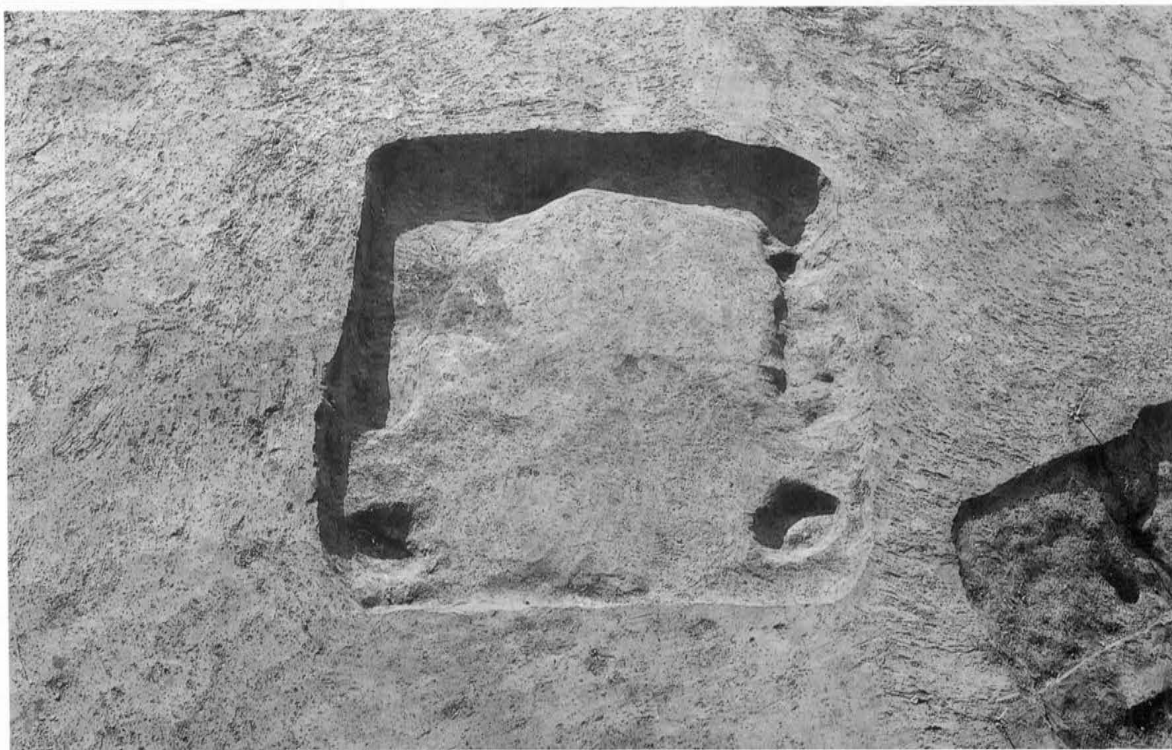
110号竪穴住居跡
全景

112号竪穴住居跡
全景

112号竪穴住居跡遺物出土状況

119号竪穴住居跡
全景

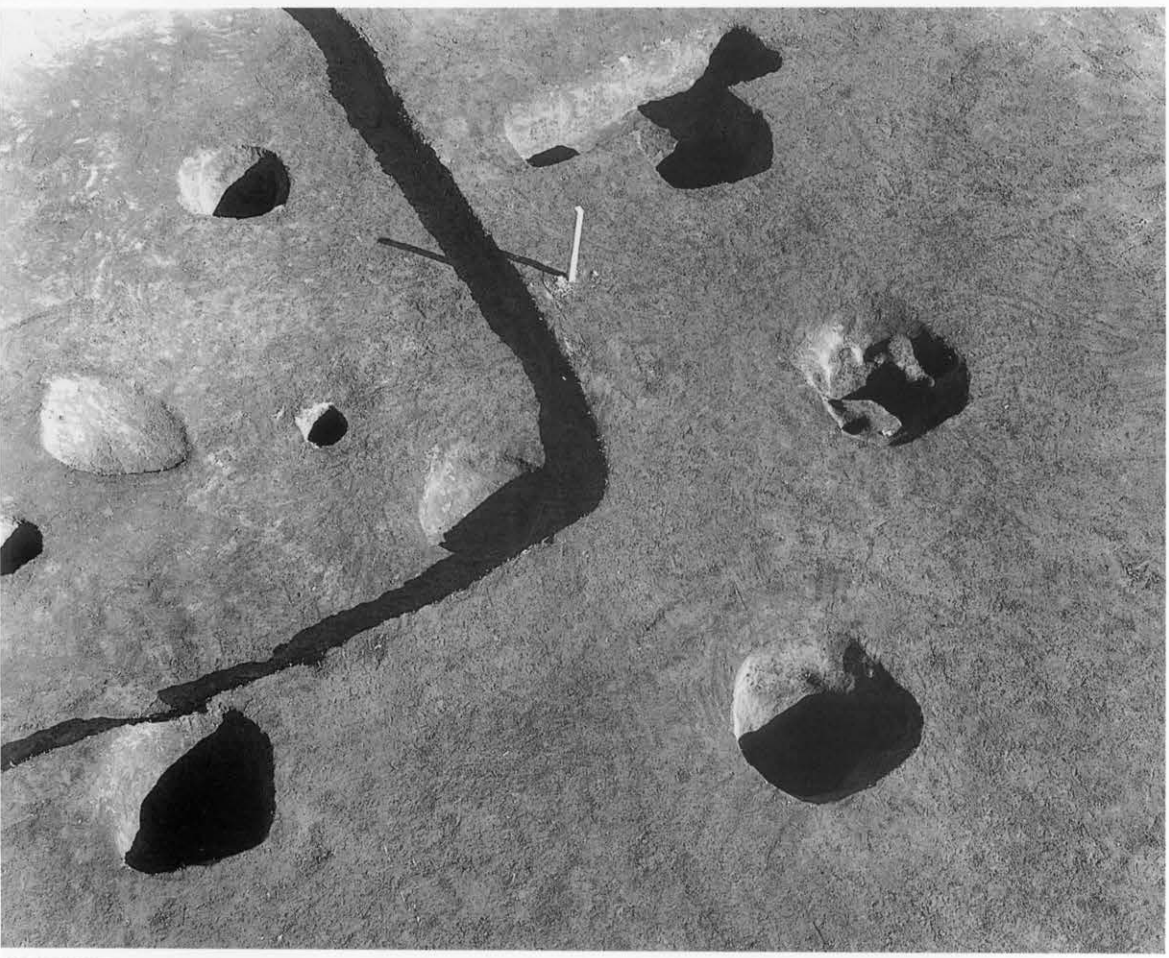
120号竪穴住居跡
全景



121号竪穴住居跡
全景

図版42

123号竪穴住居跡
全景

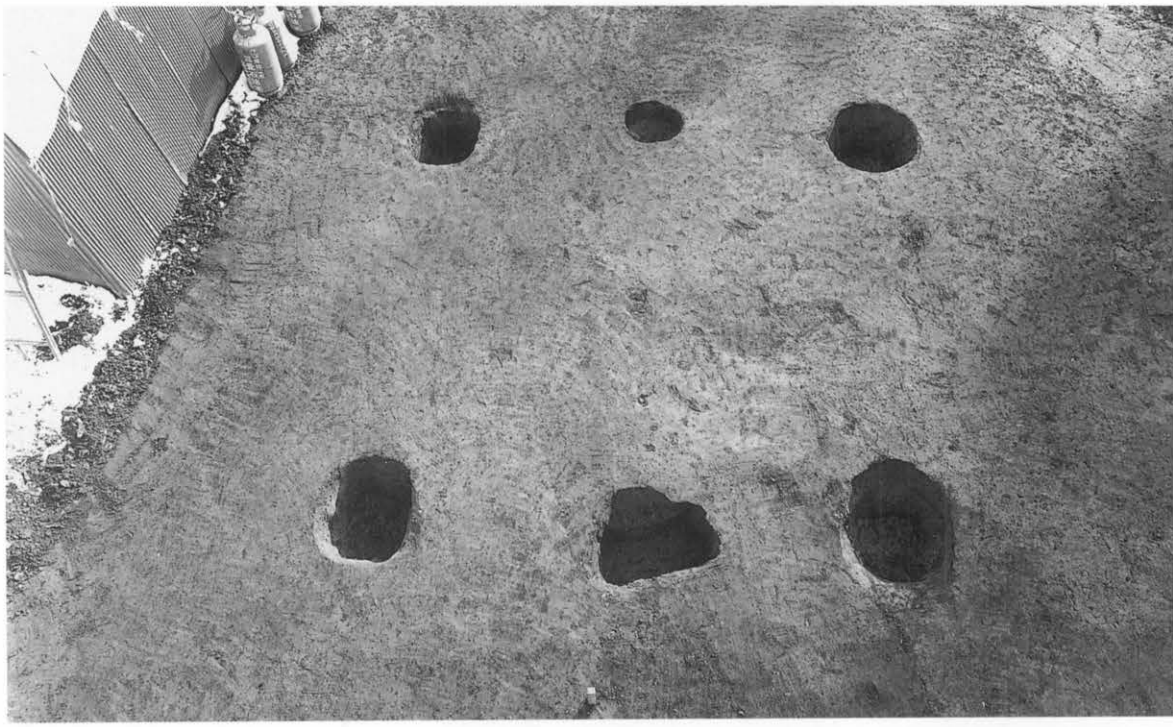


041号建物跡全景

041号建物跡遺物出土状況

051号建物跡全景

075号建物跡全景



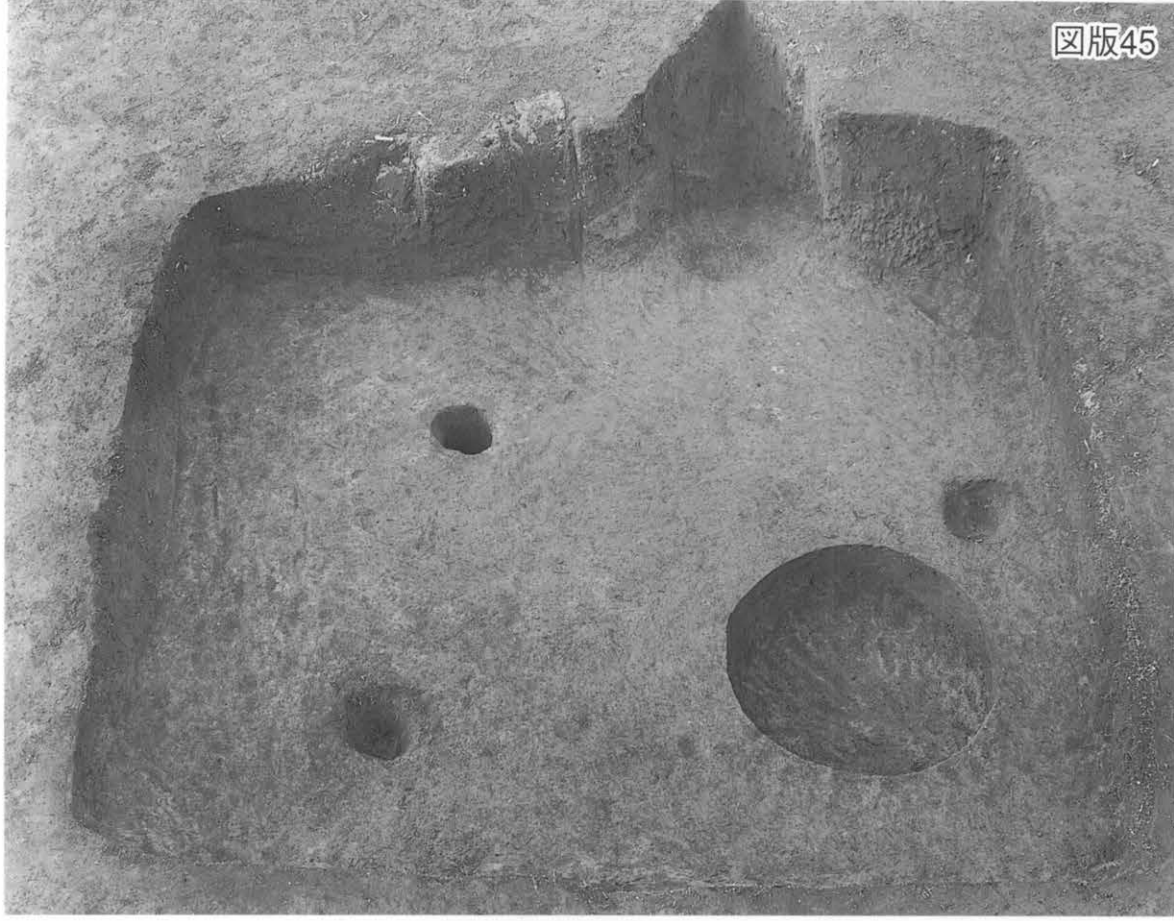
080号建物跡全景

図版44

122号土坑全景

122号土坑遺物出土状況

073号竪穴住居跡
全景

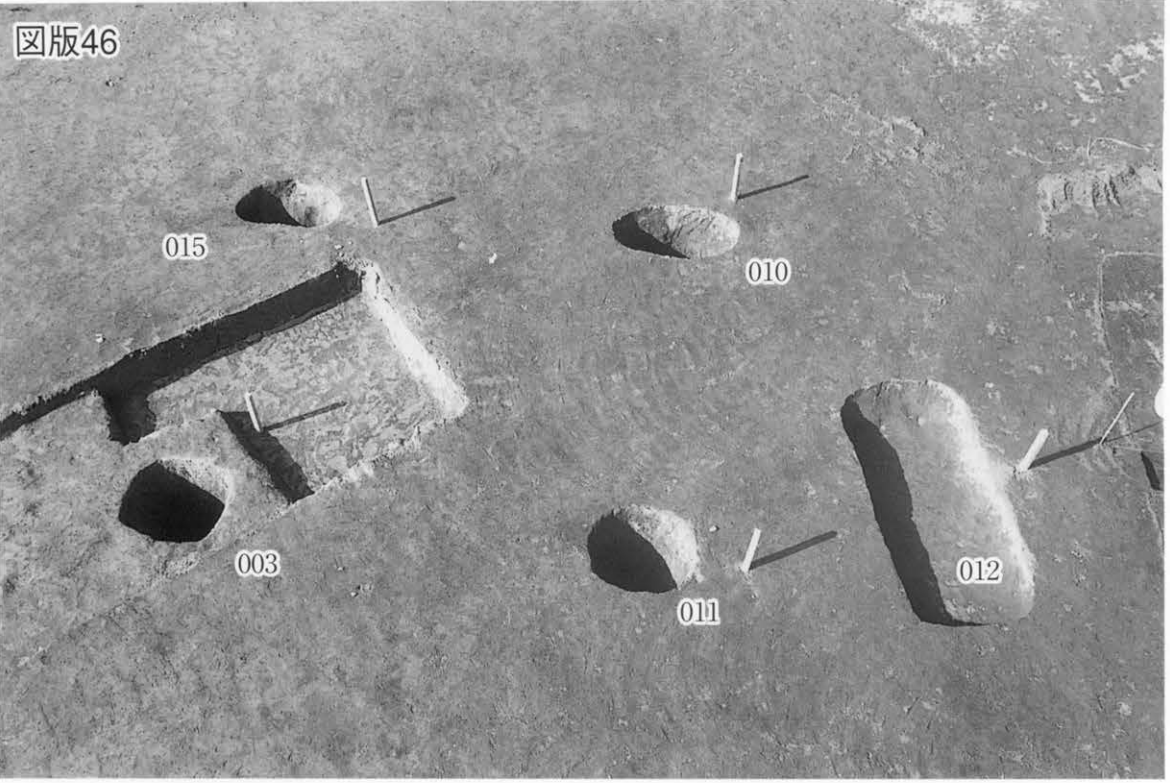


074号竪穴住居跡
全景

074号竪穴住居跡遺物出土状況

074号竪穴住居跡
カマド内遺物出土状況

図版46

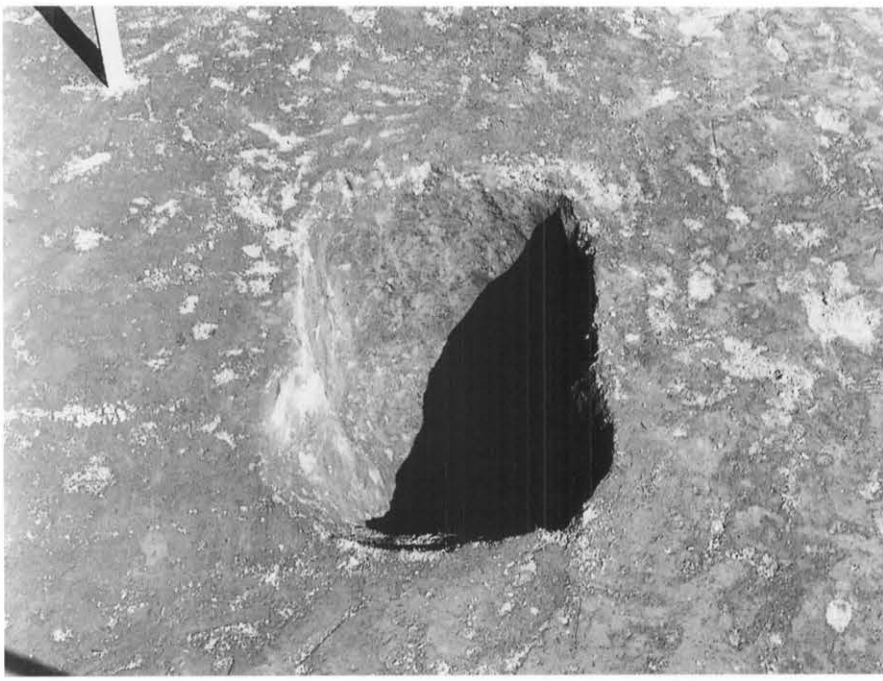


003・010・011・
015号建物跡・
012号土坑全景

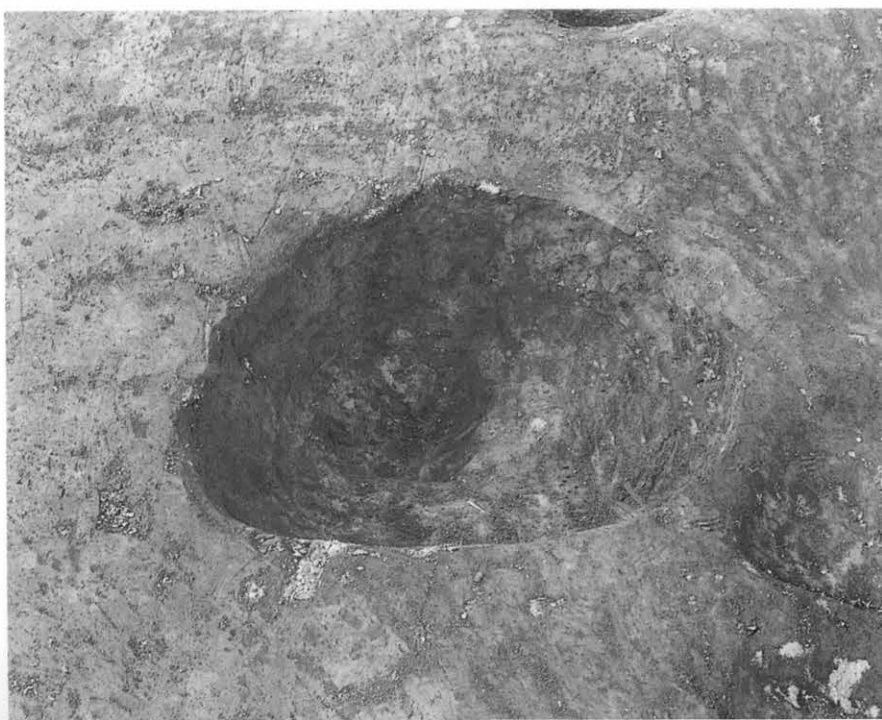
063号土坑全景

082号土坑全景

083号土坑全景

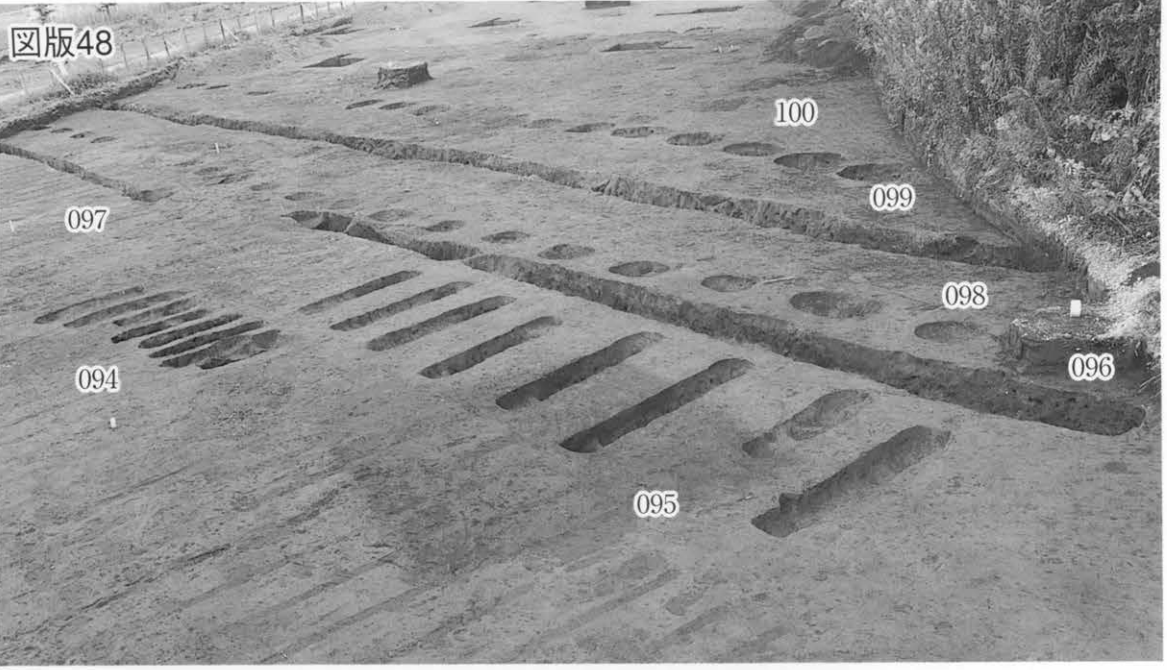


084号土坑全景

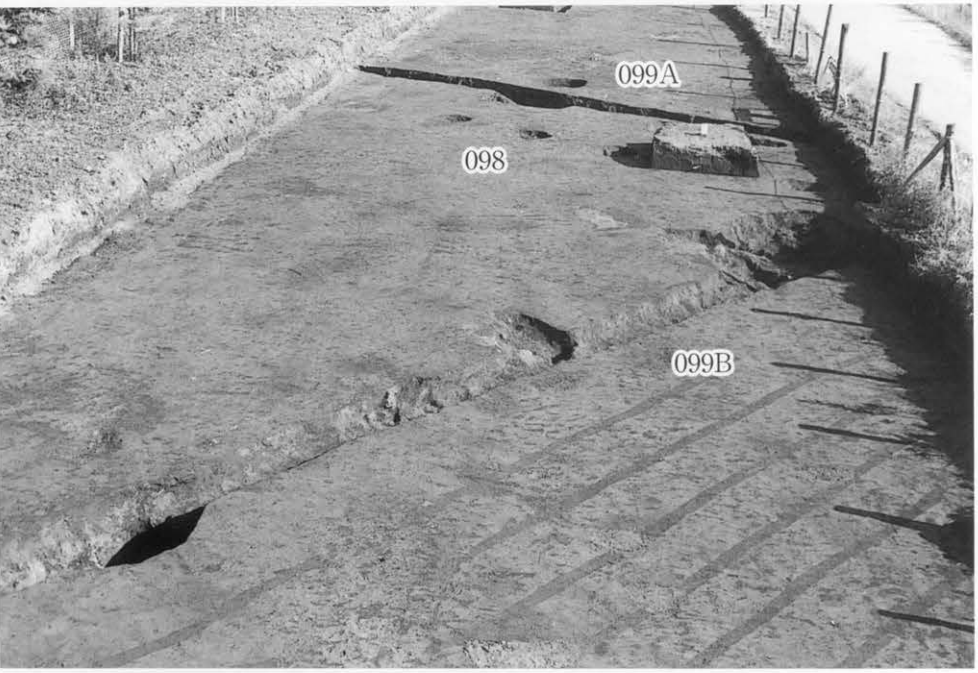


085号土坑全景

図版48



094・095・098・
100号土坑列及び
096・097・099号
溝状遺構跡全景



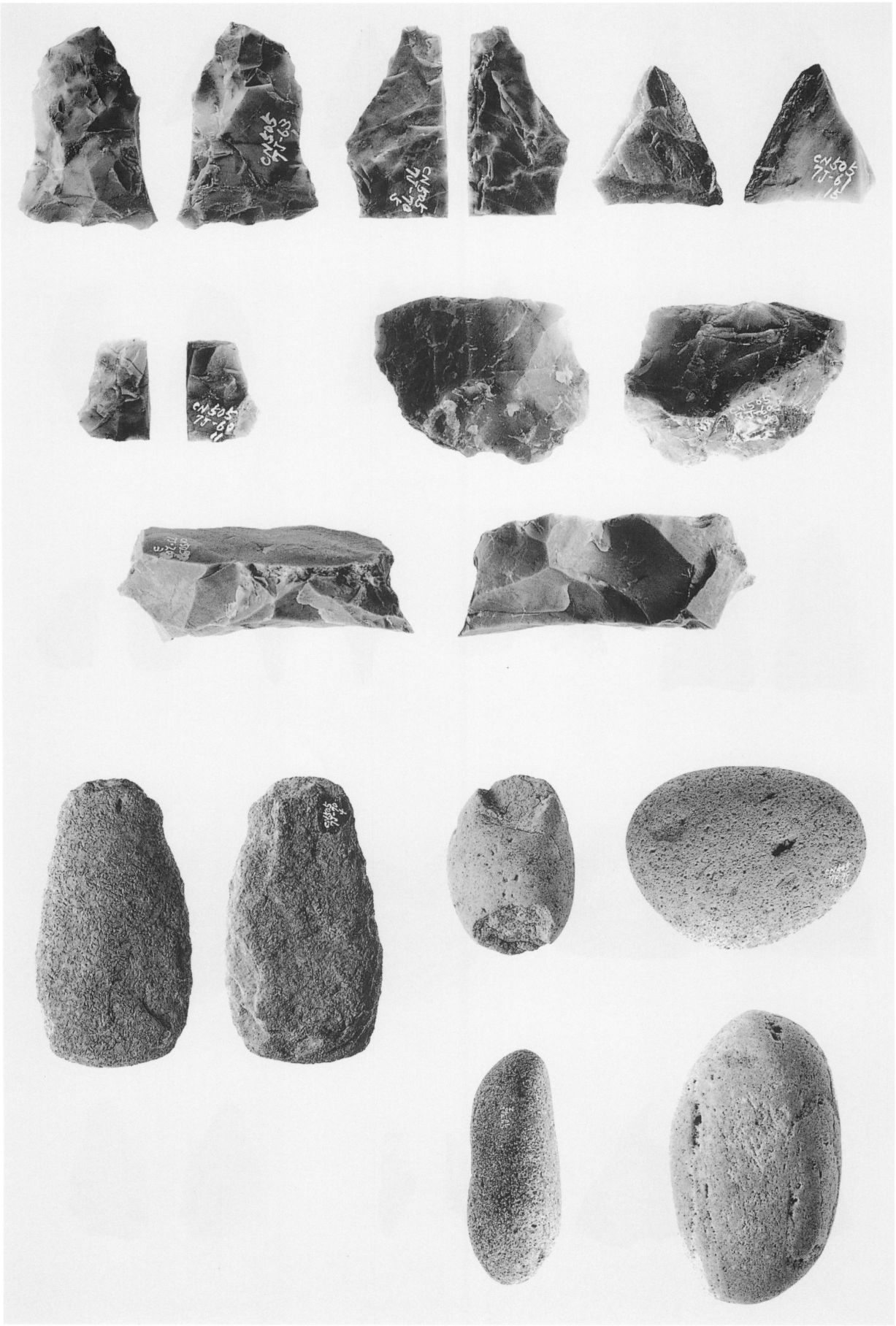
098号土坑列及び
099A・099B号溝状遺構跡全景

107号溝状遺構全景

111B号溝状遺構全景

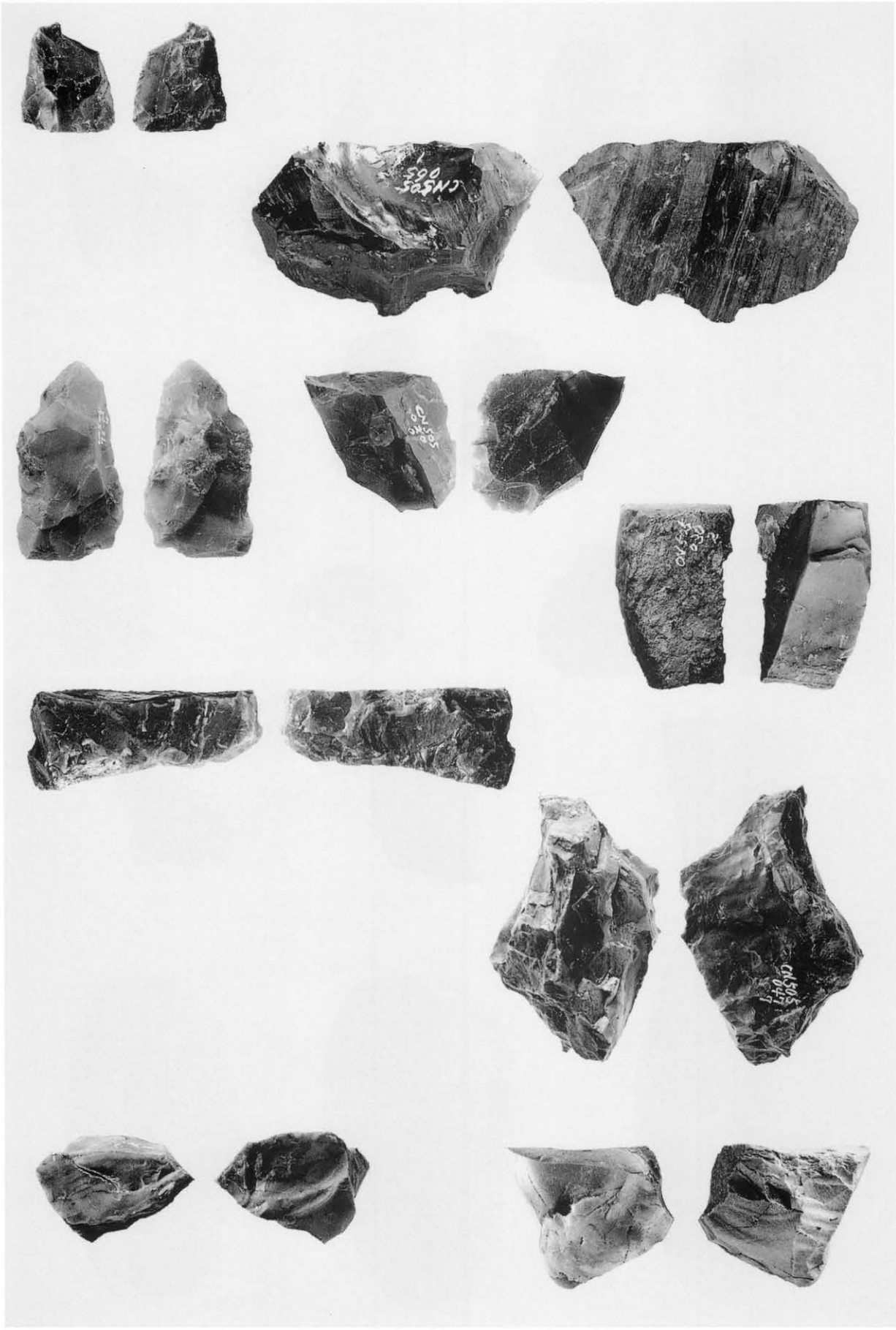
旧石器時代出土遺物

石鏃製作跡出土遺物（1）

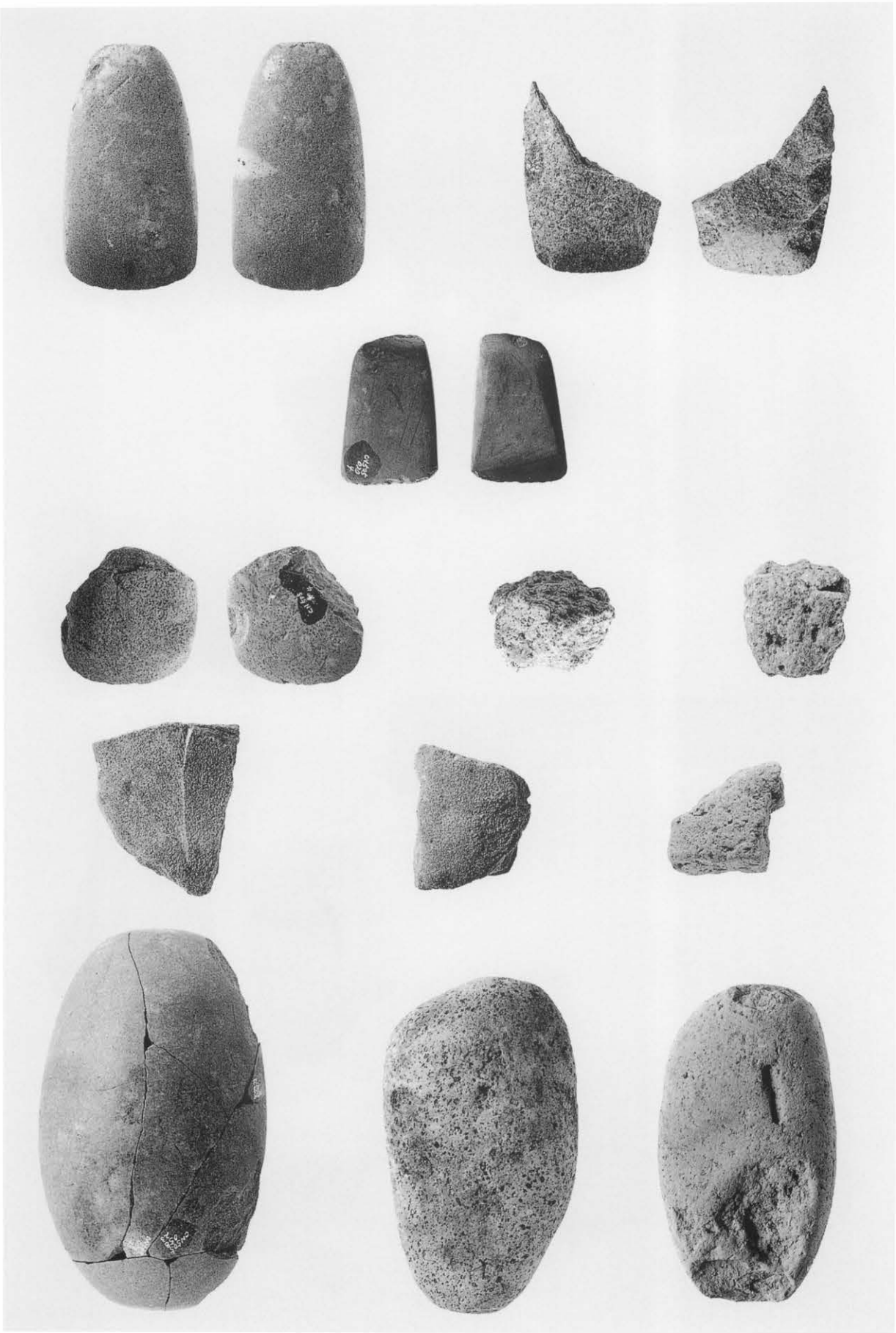


石鏃製作跡出土遺物（２）

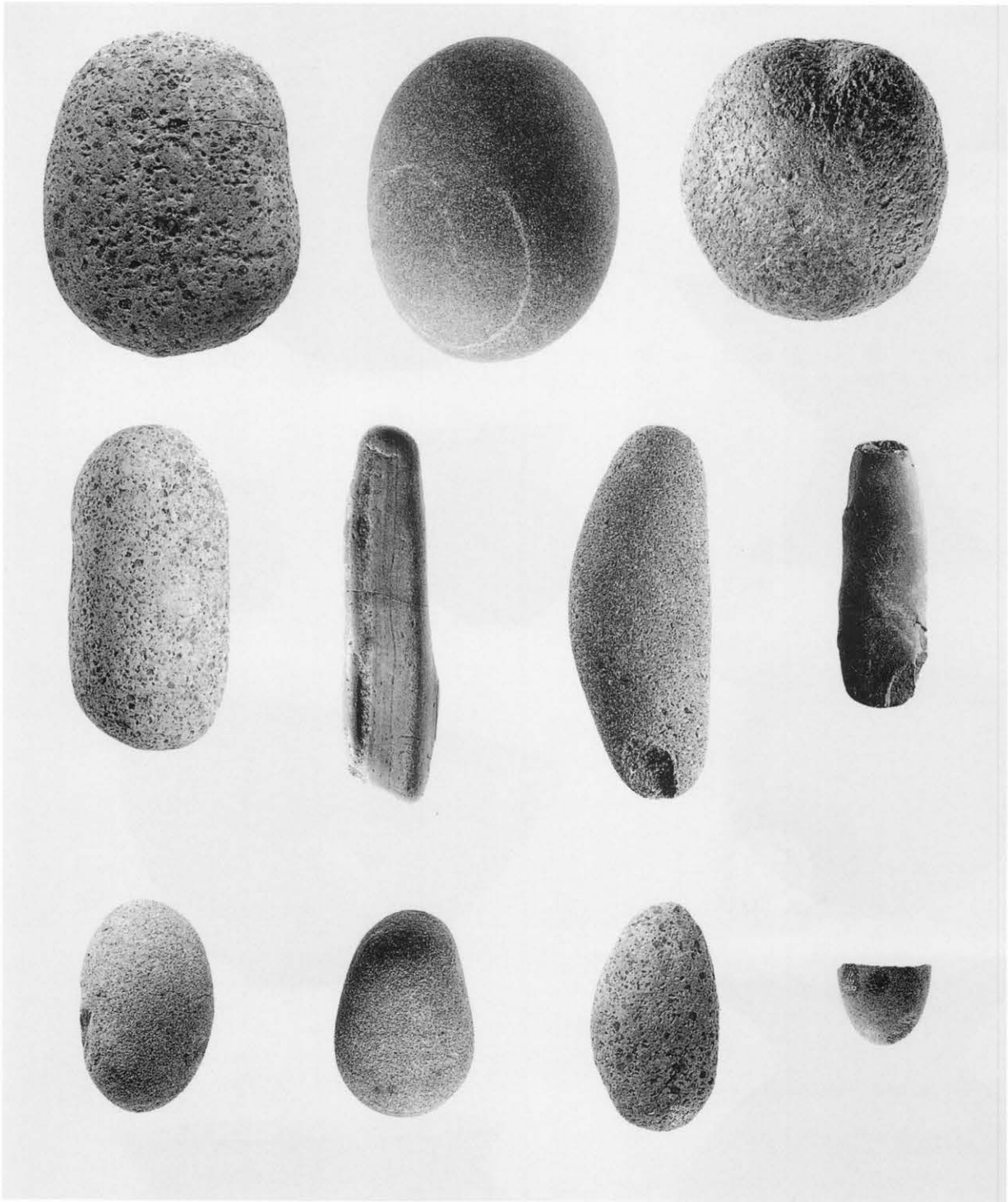
グリッド出土遺物（1）



グリッド出土遺物（2）



グリッド出土遺物（3）



グリッド出土遺物（4）

図版56

002-1

002-2

002-1

002-3

002-4

004-2

005-7

005-8

005-14

005-19

007-3

007-9

007-6

007-10

007-11

007-12

008-3

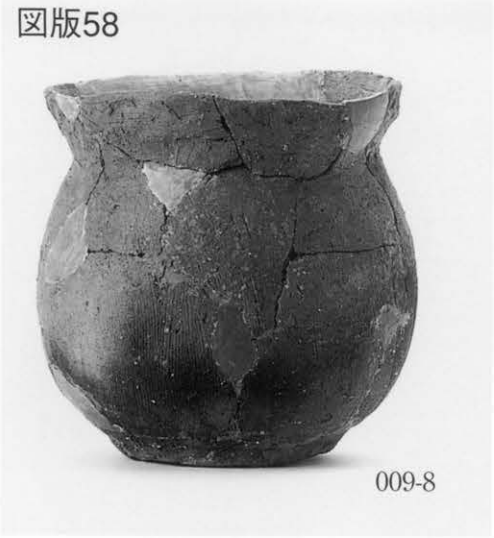
008-4

008-5

009-1

009-7

図版58



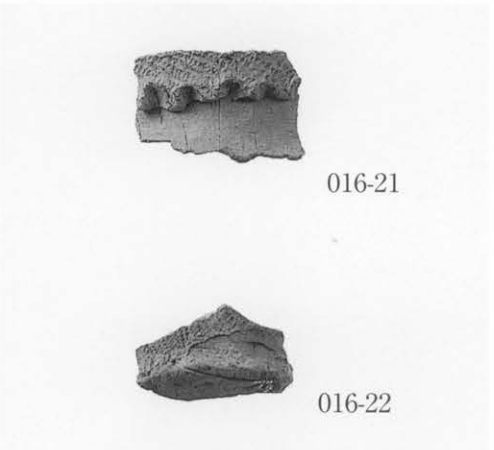
009-8

009-10

016-4

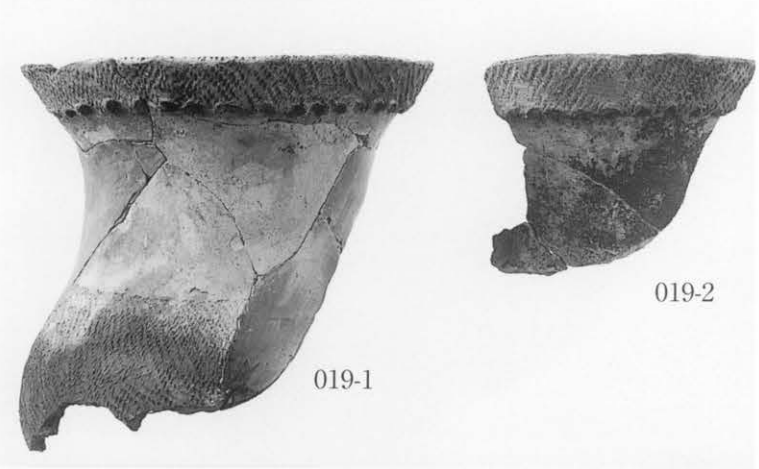
016-7

018-7



016-21

016-22



019-1

019-2

019-3

019-9

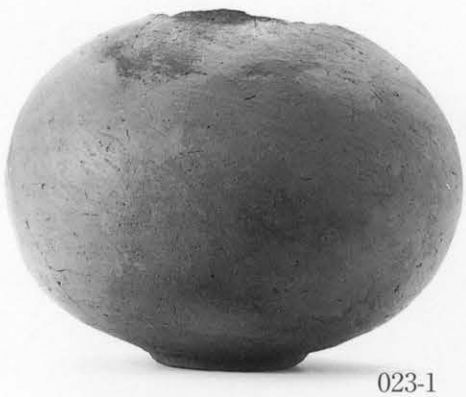
019-14

021-1

020-3

020-1

021-9



023-1

023-4

023-5

図版60

023-6

023-7

024-3

024-7

024-5

024-12

024-8

026-2

026-3

026-8

026-11

026-13

026-18

026-19

026-26

図版62

026-25

026-27

026-28

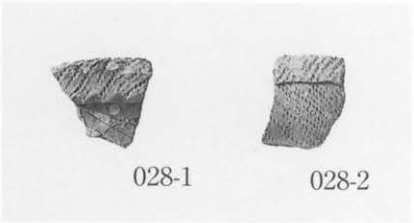
026-35

027-1

027-2

027-4

027-6


028-1
028-2

028-7

028-8

028-6

028-12

028-18

031-3

032-1

032-5

032-7

032-2

032-8

034-2

034-3

034-4

035-2 035-4

035-1 035-3

035-7

035-5 035-6

図版64

036-8

039-2

039-1

039-3

039-4

039-8

039-6

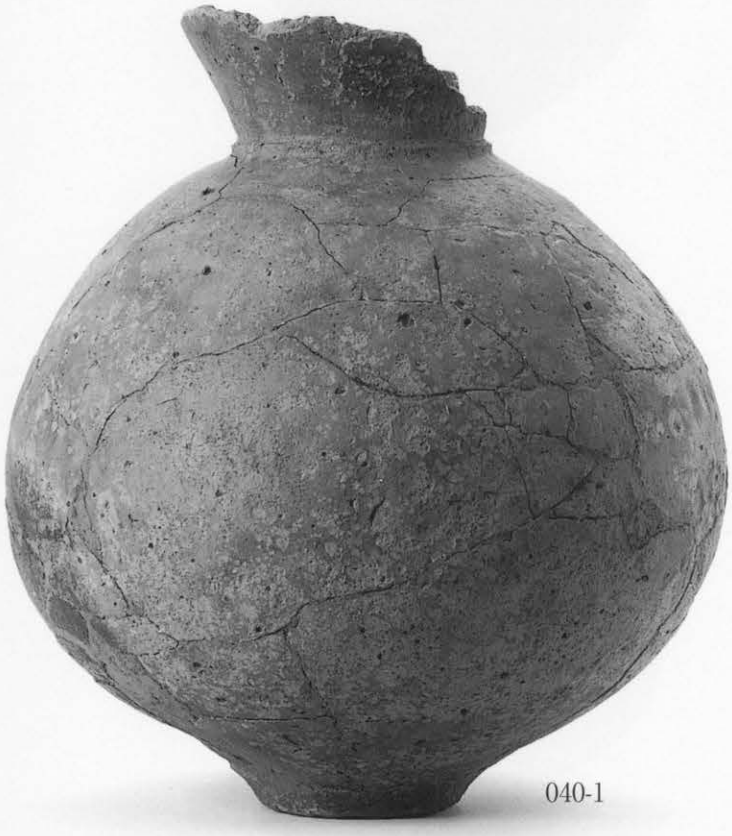
039-10

039-13

039-12

039-15

039-11



040-1

040-4

040-7

040-8

040-9

040-10

図版66

040-12

040-11

040-18

040-15

040-17

042-1

043-1

042-3

043-2

044-1

044-2

044-4

044-5

図版68

045-2

045-6

045-7

045-9

045-11

045-12

045-13

045-14

045-17

045-18

045-15

045-20

045-21

045-22

045-26

045-27

046-5

046-7

046-2

図版70

046-9

046-10

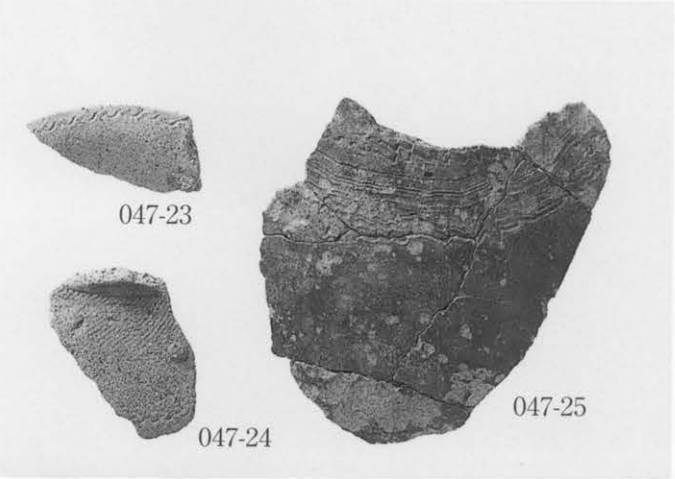
046-11

047-8

047-9

047-10

047-22


047-23
047-24
047-25

048-1

048-2

049-5

049-8

050-1

050-6

050-7

050-11

050-14

050-15

054-8

050-17

053-10

054-13

図版72

055-3

055-7

056-3

055-9

055-14

058-9

058-3

062-15

062-16

065-1

066-4

065-3

066-5

066-6

066-7

066-8

066-9

068-3

066-11

071-1

071-6

076-3

076-4

図版74

076-9

076-10

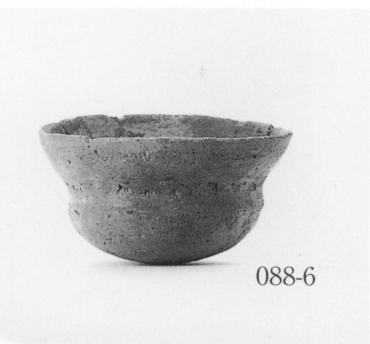
077-1

088-1

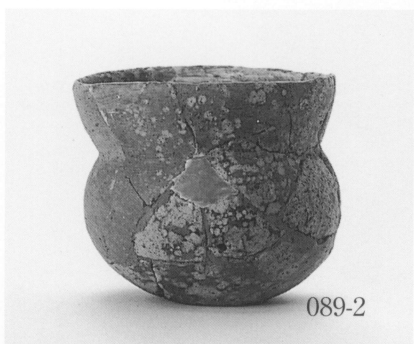
088-3

088-4

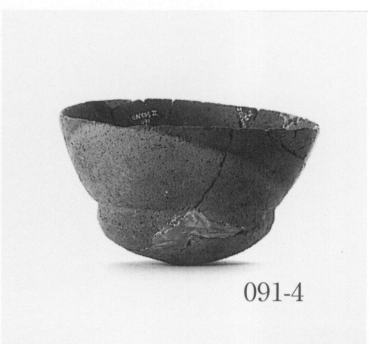
088-5



088-6



089-2



091-4

091-10

093-1

091-12

101A-2

104-1

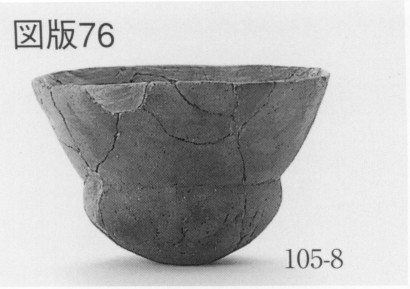
101B-1

105-1

104-6

104-8

図版76

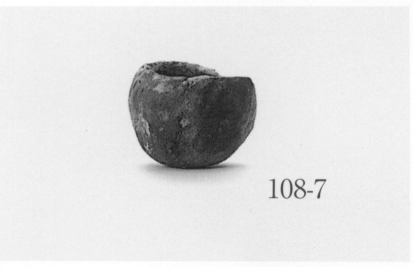

105-8

105-9

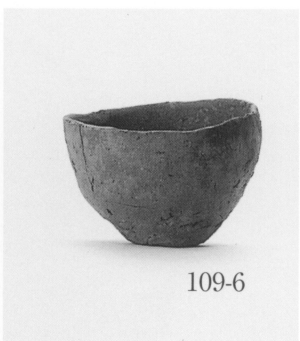
108-1

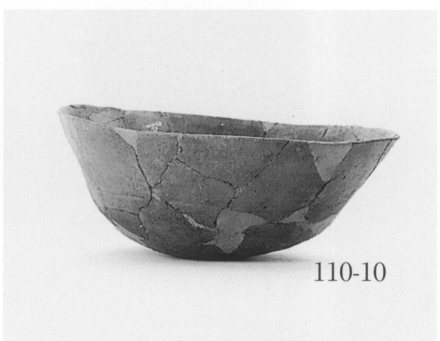
108-5

108-8


108-7

119-4


109-6


110-10

112-2

119-7

112-3

123-1

123-17

123-20

123-18

113-1

グリッド等-2

041-3

073-4

074-1

074-2

074-6

074-3

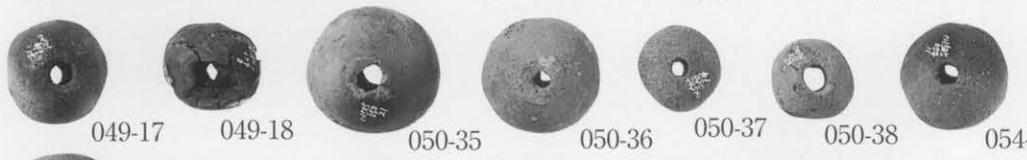
074-5

図版78

016-24 018-28 026-38 028-19 028-20 036-10 グリット等-19

039-17 039-18 039-19 039-20 039-21 039-22 039-23

039-24 039-25 039-26 039-27 039-28 047-30 047-31


049-17 049-18 050-35 050-36 050-37 050-38 054-17

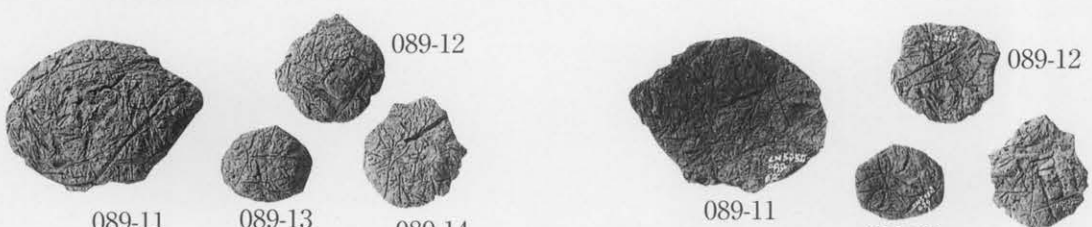
055-16 058-14 068-4 068-5 068-6 068-7 068-8

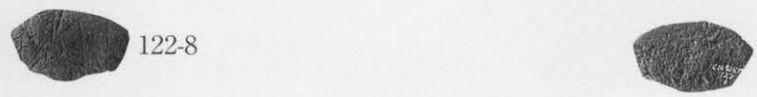
068-9 092-6 104-11 110-12 119-11 121-4 122-12

122-10 122-11 123-27 123-25 123-26 グリッド等-17 グリッド等-18

016-25 018-27 089-9 103-3

050-33 050-34 040-20 119-9 119-10 グリッド等-15


089-11 089-13 089-14 089-12 089-11 089-13 089-14 089-12


122-8 122-8

016-26

016-26

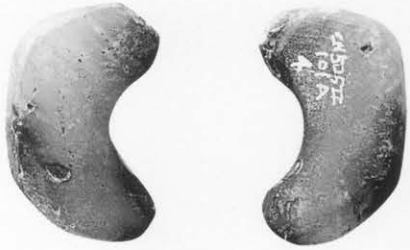
058-16

058-14

093-5

122-9

018-29



101A-5

047-32

039-30

047-33

123-28

報告書抄録

ふりがな	ちばにゅーたうんまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XV
副書名	印西市向新田遺跡
巻次	XV
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第423集
編著者名	金丸　誠　落合章雄
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地2　TEL043-422-8811
発行年月日	西暦　2002年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
むかいしんでんいせき 向新田遺跡	いんざいしむかいしんでん 印西市向新田1,286-2 ほか	12231	CN505 CN505 Ⅰ CN505 Ⅱ	35度 47分 45秒	140度 6分 50秒	19830601～ 19830620 19831101～ 19840331 19930901～ 19940117 19930920～ 19940120	10,200 6,210 2,860	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
向新田遺跡	包蔵地	旧石器	遺物集中地点1か所	ナイフ形石器，剥片	
	包蔵地	縄文	陥し穴　1基	石鏃，打製石斧，磨製石斧，	
			石鏃製作跡　1か所	磨石，敲石，石皿，剥片	
	集落跡	古墳	竪穴住居　83軒	弥生土器，土師器	
			建物跡　5棟	石製垂飾品，金属製品	
			土坑　2基		
	集落跡	奈良	竪穴住居　2軒	土師器，須恵器，金属製品	
	包蔵地	中・近世	土坑　6基		
			土坑列　5条		
			溝　14条		

千葉県文化財センター調査報告第423集

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XV

－印西市向新田遺跡－

平成14年３月25日発行

編　集　　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　　都市基盤整備公団千葉地域支社
千葉ニュータウン事業本部
千葉県印西市戸神501

財団法人　千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2

印　刷　　株式会社　弘　　文　　社
千葉県市川市市川南2-7-2